2022 年度

講 義 要 綱 *(Syllabus)*

〈こども教育学科〉

神 戸 常 盤 大 学

KOBE TOKIWA UNIVERSITY

こども教育学科

目　　次

1. 基盤教育分野科目 …… 1

2. 1年次開設科目 …… 153

3. 2年次開設科目 …… 195

4. 3年次開設科目 …… 321

5. 4年次開設科目 …… 447

索　　引

【基盤教育分野】

まなぶる▶ときわびとⅠ 1
まなぶる▶ときわびとⅡ 5
大学道場miniゼミA 8
大学道場miniゼミB 11
情報基礎 14
情報メディア演習 17
健康スポーツ科学Ⅰ 20
健康スポーツ科学Ⅱ 23
健康スポーツ科学Ⅲ 26
アカデミックライティング 29
コミュニケーション論 32
英語コミュニケーションⅠ 35
英語コミュニケーションⅡ 38
英語Aa(Communicative English Basic) 41
英語Ab(Communicative English Intermediate) 47
手話コミュニケーション 53
多文化コミュニケーション 56
いのちと共生 59
人類と地球環境 62
暮らしの中の数学 64
基礎統計学 66
暮らしの中の物理学 69
人体のふしぎ 71
現代社会と生命科学 74
安全学 77
人類と農学 79
プログラミング入門 82
日本国憲法 85
哲学と倫理 88
生命と倫理 91
芸術文化論 93
文学 96
日本通史 99
国際社会論 102
現代社会学 105
経済学 107
組織マネジメント論 110
心理臨床学 113
人間関係論 116
教育と人間 119
災害とまちづくり 122
国際理解 124
科学技術論 126
地域との協働A 129
コミュニティデザイン 132
ライフデザイン 135
英語B(Presentation) 138
英語C(Cultural Studies) 144
地域との協働B 147
英語D(Academic English) 150

【1年次】

保育原理 153
教育原理 156
社会福祉 159
基礎音楽Ⅰ 162
基礎音楽Ⅱ 165
基礎図画工作Ⅰ 168
基礎図画工作Ⅱ 171
基礎体育 174
基礎研究演習Ⅰ 178
保育者論 182
子ども家庭福祉 185
発達心理学 188
保育内容総論 191

【2年次】

基礎音楽Ⅲ 195
インターンシップA 198
基礎研究演習Ⅱ 202
教職論 206
教育行政学 209
教育の思想と歴史 212
社会的養護Ⅰ 215
子どもの保健 218
子どもの健康と安全 221
子どもの理解と援助 224
幼児理解 227
保育の計画と評価 230
保育内容(健康) 233
保育内容(言葉) 236
保育内容(環境) 239
保育内容(人間関係) 242
保育内容(造形表現) 245
保育内容(音楽表現) 248
社会的養護Ⅱ 251
乳児保育Ⅰ 254
乳児保育Ⅱ 257
障害児の理解と支援Ⅰ 260
障害児の理解と支援Ⅱ 263
特別活動の指導法 266
子どもと言葉 269
子どもと造形表現 272
子どもと身体表現 275
国語 279
社会 282
算数 285
生活 289
理科 292
家庭 295
小学校英語 299
教科指導法(生活) 302
教科指導法(音楽) 305
教科指導法(図画工作) 307
野外あそび実践 310
カウンセリングの技法 313
障害者福祉特論 316
保育・教育課題研究Ⅰ 319

【3年次】

教育心理学 321
子どもの食と栄養Ⅰ 324
子どもの食と栄養Ⅱ 327
保育の心理学 330
子ども家庭支援の心理学 333
教育相談 336
子ども家庭支援論 340
教育課程総論 343
保育指導法 346
特別支援教育 350
教育方法・技術論 353
道徳教育の理論と実践 356
総合的な学習の時間の指導法 359
子どもと音楽表現 362
小学校音楽 365
小学校図画工作 368
小学校体育 371
教科指導法(国語) 374
教科指導法(社会) 377
教科指導法(算数) 380
教科指導法(理科) 383
教科指導法(家庭) 386
教科指導法(体育) 390
教科指導法(外国語) 394
保育実習指導Ⅰ 397
保育実習Ⅰ(保育所) 402
保育実習Ⅰ(社会福祉施設) 405
教育実習指導 408
教育実習(幼稚園) 412
教育実習(小学校) 415
玩具と文化 418
子どもの歯と健康 423
子どもの障害と医療 426
施設運営・防災と危機管理 428
リトミックⅠ 431
教科指導法特論Ⅰ 434
保育・教育課題研究Ⅱ 437
保育・教育課題研究Ⅲ 440
卒業研究Ⅰ 443
卒業研究Ⅱ 445

【4年次】

子育て支援 447
生徒・進路指導論 450
子どもと健康 454
子どもと人間関係 457
子どもと環境 460
保育実習指導Ⅱ 464
保育実習Ⅱ 467
保育実習指導Ⅲ 470
保育実習Ⅲ 474
教育実習(幼稚園) 477
介護等体験 480
インターンシップB 483
生き物と自然の力 486
子どもの表現文化 489
多文化理解教育論 492
子どものリスクとレジリエンス 495
リトミックⅡ 499
保育・教育メソッド 502
ピアノ実践奏法 505
教育と情報 508
教科指導法特論Ⅱ 511
教科指導法特論Ⅲ 514
保育実践演習 517
教職実践演習(幼稚園・小学校) 520
卒業研究Ⅲ 523
卒業研究Ⅳ 525

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
まなぶる▶ときわびとⅠ （F11000）	演習	2	60	1	前期	医療検査学科 必修 診療放射線学科 必修 口腔保健学科 必修 看護学科 必修 こども教育学科 必修	こども教育学科 保育士必修	光成研一郎
科目担当者	光成研一郎、近藤みづき、大城亜水、京極重智、小﨑遼介、溝越祐志、佐野太亮、島袋梢、中田康夫、尾﨑優子、江口実希、原希代、紀ノ岡浩美、松岡真菜、坂井利衣、南利明、伊藤彰、桂千広、市川尚、北川薫、長谷川大輔、室﨑友輔、浅枝麻夢可、伴仲謙欣、川野亜希、田中達也							

授業の概要	この授業では、そもそも「学ぶ」とはどういうことかを仲間と共に考え、実践し、また卒業後も学び続ける力を身につけてもらうことをねらいとしています。この授業では、一貫してグループで活動することを基本としています。その学習方法を Team Based Learning といいます。これからどのような活動をしていくにしても、またどのような職業に就くとしても、他者との関わりなくして生きていくことはありえません。仲間と共に考え、実践することは、どの社会においても必須の力となります。自分だけの世界に閉じこもることなく、心を開き、楽しく仲間と学び合える授業にしてください。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（レ）課題解決型学習(外部協定　有　・　(無)　) （レ）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	この授業について知ろう ・授業の概要や進め方についてグループを作ろう ・共に学ぶ仲間をつくる	【事前】シラバスの熟読（15 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（45 分）
第 2 回	この授業について知ろう ・授業の概要や進め方についてグループを作ろう ・共に学ぶ仲間をつくる	【事前】シラバスの熟読（15 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（45 分）
第 3 回	チームの絆を深めよう① テーマ：第一印象	【事前】必要としない 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（60 分）
第 4 回	チームの絆を深めよう① テーマ：第一印象	【事前】必要としない 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（60 分）
第 5 回	チームの絆を深めよう② テーマ：私のコミュニケーション	【事前】必要としない 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（60 分）
第 6 回	チームの絆を深めよう② テーマ：私のコミュニケーション	【事前】必要としない 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（60 分）
第 7 回	チームの絆を深めよう③ テーマ：社会に出て求められる能力とは？　そのために自分がすべきことは？	【事前】必要としない 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（60 分）
第 8 回	チームの絆を深めよう③ テーマ：社会に出て求められる能力とは？　そのために自分がすべきことは？	【事前】必要としない 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（60 分）
第 9 回	ロジカルコミュニケーション①テーマ：リーディング ・話し合い学修（Learning Through Discussion）の実践	【事前】LTD に備えて、テキストを読む（30 分） 【事後】ショートレポートを manaba 上に記述（30 分）
第 10 回	ロジカルコミュニケーション①テーマ：リーディング ・話し合い学修（Learning Through Discussion）の実践	【事前】LTD に備えて、テキストを読む（30 分） 【事後】ショートレポートを manaba 上に記述（30 分）
第 11 回	ロジカルコミュニケーション② テーマ：ライティングⅠ ・資料を正確に読み、自分の考えをまとめる	【事前】必要としない 【事後】ショートレポートを manaba 上に記述（60 分）

第 12 回	ロジカルコミュニケーション② テーマ：ライティングⅠ ・資料を正確に読み、自分の考えをまとめる	【事前】必要としない 【事後】ショートレポートを manaba 上に記述（60 分）
第 13 回	ロジカルコミュニケーション③ テーマ：ライティングⅡ ・レポートの書き方をまなぶ	【事前】必要としない 【事後】ショートレポートを manaba 上に記述（60 分）
第 14 回	ロジカルコミュニケーション③ テーマ：ライティングⅡ ・レポートの書き方をまなぶ	【事前】必要としない 【事後】ショートレポートを manaba 上に記述（60 分）
第 15 回	ロジカルコミュニケーション④ テーマ：ロジカルシンキング	【事前】反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述（30 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（30 分）
第 16 回	ロジカルコミュニケーション④ テーマ：ロジカルシンキング	【事前】反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述（30 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（30 分）
第 17 回	ロジカルコミュニケーション⑤ テーマ：クリティカルシンキング	【事前】反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述（30 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（30 分）
第 18 回	ロジカルコミュニケーション⑤ テーマ：クリティカルシンキング	【事前】反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述（30 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（30 分）
第 19 回	ロジカルコミュニケーション⑥ テーマ：テキストシンキング	【事前】必要としない 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（60 分）
第 20 回	ロジカルコミュニケーション⑥ テーマ：テキストシンキング	【事前】必要としない 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（60 分）
第 21 回	ロジカルコミュニケーション⑦ テーマ：ビジュアルシンキング	【事前】反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述（30 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（30 分）
第 22 回	ロジカルコミュニケーション⑦ テーマ：ビジュアルシンキング	【事前】反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述（30 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（30 分）
第 23 回	ロジカルコミュニケーション⑧ テーマ：アカデミックディベート	【事前】反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述（30 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（30 分）
第 24 回	ロジカルコミュニケーション⑧ テーマ：アカデミックディベート	【事前】反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述（30 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（30 分）
第 25 回	ロジカルコミュニケーション⑨ テーマ：プレゼンテーションⅠ　・プレゼンテーションの準備	【事前】反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述（30 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（30 分）
第 26 回	ロジカルコミュニケーション⑨ テーマ：プレゼンテーションⅠ　・プレゼンテーションの準備	【事前】反転学修用動画を視聴し、ショートレポートを manaba 上に記述（30 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（30 分）
第 27 回	ロジカルコミュニケーション⑩ テーマ：プレゼンテーションⅡ　・プレゼンテーションの実践	【事前】プレゼンテーション準備（60 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（30 分）
第 28 回	ロジカルコミュニケーション⑩ テーマ：プレゼンテーションⅡ　・プレゼンテーションの実践	【事前】プレゼンテーション準備（60 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（30 分）
第 29 回	まとめテーマ：リフレクション ・凝縮ポートフォリオの作成 ・プレゼントカードの作成および交換	【事前】必要としない 【事後】自己評価シートの作成（30 分）
第 30 回	まとめテーマ：リフレクション ・凝縮ポートフォリオの作成 ・プレゼントカードの作成および交換	【事前】必要としない 【事後】自己評価シートの作成（30 分）

学修の到達目標	
到達目標１	課題について、他者と協力して取り組むことができる。
到達目標２	根拠に基づき、論理的に考えることができる。
到達目標３	他者に対して自らの考えを伝えることができる。
到達目標４	自らの学びに対して、適切に振り返ることができる。
到達目標５	学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	別の意見や批判的な意見を取り入れながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の意義を具体的に示しながらグループ活動全体のパフォーマンスが向上していることを全員が実感できるようにその役割を果たすことができる。
	優	別の意見や批判的な意見に耳を傾けながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の必要性を他者に説明しつつそれを果たすことができる。
	良	グループの中で自ら役割を見出し、それを果たすことができる。
	可	自分に与えられた役割を果たすことができる。
	不可	自分に与えられた役割を果たすことができない。
到達目標２	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
到達目標３	秀	他者に対して自らの考えや取り組みが他とどのように違うのかを示しつつ、それが相手にとってどのような意味があるのかも含めて、客観的に分かりやすく伝えることができる。
	優	他者に対して自らの考えや取り組みが他とどのように違うのかを示しつつ、それらを客観的に分かりやすく伝えることができる。
	良	他者に対して自らの考えや取り組みを、相手が理解しやすいように整理して伝えることができる。
	可	他者に対して自らの考えや取り組みをそのまま伝えている。
	不可	他者に対して自らの考えや取り組みを伝えない。
到達目標４	秀	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明するとともに、課題の克服や成長に関する具体的な指針を学びの成果から示すことができる。
	優	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明することができる（学びを自らの成長と結びつけて振り返る）。
	良	自分が何を学んだのかとともに、その学びが自分にとってどのような意味があったのかを振り返って説明することができる（学びを総体的に振り返る）。
	可	自分が何を学んだのか説明することができる。
	不可	自分が何を学んだのか説明することができない。
到達目標５	秀	与えられた課題にとどまらず、それを超えて主体的に学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。
	優	与えられた課題に対して、主体的に学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。
	良	与えられた課題に対して、学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。
	可	与えられた課題に対して、学び、考え、実行することができている。
	不可	与えられた課題に対して、学び、考え、実行することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	20	20	20	0	20	20	100
到達目標１	0	0	0	0	0	20	20
到達目標２	20	0	0	0	0	0	20
到達目標３	0	0	20	0	0	0	20
到達目標４	0	0	0	0	20	0	20
到達目標５	0	20	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を実施する。（再試験は実施しない）
提出物	manaba 上で提出する。事前・事後課題について、指示通りに取り組み、期限内に提出されたかどうかを評価する。
成果発表（口頭・実技）	成果発表、プレゼンテーションを評価する。
作品	
ポートフォリオ	授業で取り組むワークシートや振り返りシートが正しくファイリングされ、適切に振り返りができているかどうかを評価する。もちろん正当な理由なく、ワークシートや振り返りシートが欠落していることは減点の対象となる。最終的に凝縮ポートフォリオを作成した上で総合的に評価する。
その他	グループ活動において積極的に発言することや、主体的・能動的に取り組んだことについては、加点の評価対象となる。評価は、学生の相互評価と教員による評価で行う。

履修に必要な知識・技能など
この授業では、一貫してグループで活動することを基本としています。まだ見知らぬ人と一緒に半期共に活動をしていくわけですが、特段不安に思うことなく気を楽にして授業に臨んでほしいと思います。 ただし、学ぶことには常に一生懸命であってほしいため、こちらが提示する課題についてはすべて真剣に取り組むようにしてください。

教科書・ISBN
適宜、教材・資料等は配布する。

参考書
使用しない。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
まなぶる▶ときわびとⅡ （F11010）	演習	1	30	1	後期	医療検査学科 必修 診療放射線学科 必修 口腔保健学科 必修 看護学科 必修 こども教育学科 必修	こども教育学科 保育士必修	光成研一郎
科目担当者	光成研一郎、近藤みづき、大城亜水、京極重智、川井綾、内橋一恵、小﨑遼介、今西麻樹子、澤村暢、溝越祐志、佐野太亮、中田康夫、中村由果理、伊藤彰、桂千広、市川尚、北川薫、長谷川大輔、室﨑友輔、浅枝麻夢可、伴仲謙欣、川野亜希、田中達也							

授業の概要	「まなぶる▶ときわびとⅠ」に引き続き、「まなぶる▶ときわびとⅡ」でも、一貫してグループで活動することを基本とし、Team Based Learning の形式で授業を実施します。「まなぶる▶ときわびとⅡ」では、「まなぶる▶ときわびとⅠ」での学びをさらに発展させて、計画的学修および教えあい、学びあいに取り組みます。 個人の力だけではなく、チームの力を伸ばすことを意識した課題に取り組みます。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （レ）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	この授業について知ろう ・授業の概要や進め方についてグループを作ろう ・共に学ぶ仲間をつくる。	【事前】シラバスの熟読（15 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（45 分）
第 2 回	この授業について知ろう ・授業の概要や進め方についてグループを作ろう ・共に学ぶ仲間をつくる。	【事前】シラバスの熟読（15 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（45 分）
第 3 回	チームの絆を深めようテーマ：チームビルディング	【事前】必要としない 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（60 分）
第 4 回	チームの絆を深めようテーマ：チームビルディング	【事前】必要としない 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（60 分）
第 5 回	計画的学修と教え合い① アセスメントテスト（プレ大テスト）学修計画表の作成	【事前】必要としない 【事後】学修計画表の見直し（60 分）
第 6 回	計画的学修と教え合い① アセスメントテスト（プレ大テスト）学修計画表の作成	【事前】必要としない 【事後】学修計画表の見直し（60 分）
第 7 回	計画的学修と教え合い② プレ小テストⅠ 協働学修（学び合い）ポスト小テストⅠ	【事前】プレテスト準備（30 分） 【事後】単元の復習（30 分）
第 8 回	計画的学修と教え合い② プレ小テストⅠ 協働学修（学び合い）ポスト小テストⅠ	【事前】プレテスト準備（30 分） 【事後】単元の復習（30 分）
第 9 回	計画的学修と教え合い③ プレ小テストⅡ 協働学修（学び合い）ポスト小テストⅡ	【事前】プレテスト準備（30 分） 【事後】単元の復習（30 分）
第 10 回	計画的学修と教え合い③ プレ小テストⅡ 協働学修（学び合い）ポスト小テストⅡ	【事前】プレテスト準備（30 分） 【事後】単元の復習（30 分）
第 11 回	計画的学修と教え合い④ プレ小テストⅢ 協働学修（学び合い）ポスト小テストⅢ	【事前】プレテスト準備（30 分） 【事後】単元の復習（30 分）
第 12 回	計画的学修と教え合い④ プレ小テストⅢ 協働学修（学び合い）ポスト小テストⅢ	【事前】プレテスト準備（30 分） 【事後】単元の復習（30 分）
第 13 回	計画的学修と教え合い⑤ プレ小テストⅣ 協働学修(学び合い)アセスメントテスト(ポスト大テスト)	【事前】最終テスト対策（30 分） 【事後】単元の復習（30 分）

第 14 回	計画的学修と教え合い⑤ プレ小テストⅣ 協働学修(学び合い)アセスメントテスト(ポスト大テスト)	【事前】最終テスト対策（30 分） 【事後】単元の復習（30 分）
第 15 回	振り返りシートの作成（個人・グループ）	【事前】必要としない 【事後】定期試験の準備（60 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	課題について、他者と協力して取り組むことができる。
到達目標 2	根拠に基づいて、論理的に考えることができる。
到達目標 3	学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを見出すことができる。
到達目標 4	自らの学びに対して、適切に振り返ることができる。
到達目標 5	学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	別の意見や批判的な意見を取り入れながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の意義を具体的に示しながらグループ活動全体のパフォーマンスが向上していることを全員が実感できるようにその役割を果たすことができる。
	優	別の意見や批判的な意見に耳を傾けながら、グループの中で自ら役割を見出し、役割の必要性を他者に説明しつつそれを果たすことができる。
	良	グループの中で自ら役割を見出し、それを果たすことができる。
	可	自分に与えられた役割を果たすことができる。
	不可	自分に与えられた役割を果たすことができない。
到達目標 2	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
到達目標 3	秀	自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと悦びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを見出すことができない。
到達目標 4	秀	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明するとともに、課題の克服や成長に関する具体的な指針を学びの成果から示すことができる。
	優	学びの成果を自らの課題や今後の成長とあわせて説明することができる（学びを自らの成長と結びつけて振り返る)。
	良	自分が何を学んだのかとともに、その学びが自分にとってどのような意味があったのかを振り返って説明することができる（学びを総体的に振り返る)。
	可	自分が何を学んだのか説明することができる。
	不可	自分が何を学んだのか説明することができない。

到達目標５	秀	与えられた課題にとどまらず、それを超えて主体的に学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。
	優	与えられた課題に対して、主体的に学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。
	良	与えられた課題に対して、学び、考え、実行する姿勢とその努力を継続することができる。
	可	与えられた課題に対して、学び、考え、実行することができている。
	不可	与えられた課題に対して、学び、考え、実行することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	30	20	10	0	15	25	100
到達目標１	0	0	0	0	0	25	25
到達目標２	30	0	0	0	0	0	30
到達目標３	0	0	10	0	0	0	10
到達目標４	0	0	0	0	15	0	15
到達目標５	0	20	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を実施する。（再試験は実施しない）
提出物	学修計画表を作成するとともに、manaba 上で課題を提出する、事前・事後課題について、指示通りに取り組み、期限内に提出されたかどうかを評価する。
成果発表（口頭・実技）	SPI の個人成績を反映する。
ポートフォリオ	チーム内での教え合いの工夫・戦略・成果、授業の振り返りなどの記述等を評価する。もちろん正当な理由なく、振り返りシート等が欠落していることは減点の材料となる。最終的に凝縮ポートフォリオを作成した上で総合的に評価する。
その他	ワークの中で積極的に発言することや、主体的・能動的に取り組んだことについては、加点の評価対象となる。

履修に必要な知識・技能など
【準備物】スマートフォン・ルーズリーフ（A4 サイズ）

教科書・ISBN
9784065265000　これが本当の SPI3 テストセンターだ！【最新版】SPI ノートの会

参考書
使用しない

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
大学道場 mini ゼミA（F11020）	演習	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	尾﨑雅子
科目担当者	尾﨑雅子、林伸英、新谷路子、大澤佳代、栃倉匡文、布引治、高久圭二、山﨑麻由美、今井方丈、福田昌代、八木孝和、高橋由希子、庄司靖枝、魚崎須美、黒野利佐子、島内敦子、立垣祐子、中田尚美、橋本好市、中西利恵							

授業の概要	「大学道場 mini ゼミ」は、大学の教員が日夜研鑽を積んでいる研究活動やその他の活動の一端を学生の皆さんと共有し、実際に体験してもらうことをねらいとしています。すなわち、皆さんと教員が同じ方向を向いての活動となります。 この授業科目では、「科目担当者」（上記）の数だけ異なったテーマを用意しています。学生の皆さんは、その中から特に興味・関心をもつゼミを一つ選び、受講していただくことになります。各ゼミでは、基本的に 5 ～ 10 名程度の少人数制をとり、教員と学生とが互いに顔が見える近い関係の中で授業を行います。各担当教員のテーマを下に記載しますがゼミでどのようなことを行うか、どのように授業を進めるかということについては、別途配布する「大学道場 mini ゼミパンフレット」を参照してください。なおゼミの受講は、履修登録とは別に事前の希望申請を必要とします。その手続きについても、別途配布する「大学道場 mini ゼミパンフレット」に示しています。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	基盤教育・大学道場 mini ゼミイントロダクション （担当者：尾﨑雅子）	【事前】シラバスを熟読し、本授業の概要を理解する（120 分） 【事後】自分が参加するゼミの内容について調べてみる（120 分）
第 2 回 ～ 第 8 回	第 2 ～ 8 回は事前に選択したゼミに参加し、学習を進める。 担当教員のゼミのテーマは以下の通り 八木孝和「あなたの人生１００年を設計してみよう」 中田尚美「サブカルチャー・スタディーズ」 立垣祐子「思春期のメンタルヘルスとセルフケア」 山﨑麻由美「翻訳のいろは」 高橋由希子「災害医療教育」 大澤佳代「常在細菌の基本（微生物学）」 橋本好市「「生きる」と「生活」の違いって何？じゃあ、生活を支えるって何？～福祉的視点から考えてみよう～ 福田昌代「口の機能と全身の健康との関係性」 中西利恵「〇〇と SDGs を考えよう　～ SDGs の思想､原理等に焦点をおいて～」 今井方丈「パソコンで画像処理！」 高久圭二「放射線とどう付き合うか」 林　伸英「医療職でのワンステップアップを目指す道筋を探ろう」 新谷路子「かたりから入る解剖学　－まず描いてみようー 黒野利佐子「戦争と紛争とグローバライゼーション･グローバルヘルス」 島内敦子「ピアサポートによる性教育」 庄司靖枝「子どもウォッチングー子どもの行動を探求するー 魚崎須美「フロレンス・ナイチンゲールの生涯と看護思想」 布引　治「世界の今を考える」 栃倉匡史「動物から人に感染する動物由来感染症について考える」	【事前】各ゼミの教員と相談し、各自必要な事前学習をゼミの前に行うこと（各 120 分） 【事後】各ゼミの教員と相談し、各自必要な事後学習をゼミの前に行うこと（各 120 分）

学修の到達目標	
到達目標１	「学び」本来の悦びや愉しさを知ることができる。
到達目標２	これまで気づくことのなかった新たな気づきや発見（≒教養）を得ることができる。
到達目標３	集団の中で協調性をもちながら議論をする過程で、互いに考えを深めることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、理解しようとする努力がみられるだけでなく、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せ、実際に主体的に学びを進めており、その学びの質が特に優れている。
	優	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、理解しようとする努力がみられるだけでなく、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せ、実際に主体的に学びを進めている。
	良	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、理解しようとする努力がみられるだけでなく、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せている。
	可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、理解しようとする努力がみられる。
	不可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、理解しようとする努力がみられない。
到達目標２	秀	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自発的に深く考え、突き詰めていくことができる。その結果得られた事項に対して、次なる課題を見出し自主的に探究することができる。
	優	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自発的に深く考え、突き詰めていくことができる。
	良	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、一定程度自発的に深く考え、突き詰めていくことができる。
	可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、教員や他の学生に促されれば、ある程度自ら考え、突き詰めていくことができる。
	不可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自ら考えることができない。
到達目標３	秀	ゼミでの取り組みにおいて、他者の立場に身を置いてその人の価値観を尊重し、十分に理解しようとする態度が見られる。また自らの考えを押し付けることなく、意見交換の場に積極的に参加することができる。
	優	ゼミでの取り組みにおいて、他者の立場に身を置いてその人の価値観を尊重し、理解しようとする態度が見られる。また自らの考えを押し付けることなく、意見交換の場に参加することができる。
	良	ゼミでの取り組みにおいて、他者の立場に身を置いて相手の意見を聴くことができる。また自らの考えも示すことができる。
	可	ゼミでの取り組みにおいて、他者の立場を意識することは少ない。また促されれば自らの意見を示すことができる。
	不可	ゼミでの取り組みにおいて、意見交換ができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	0	0	0	0	60	100
到達目標１	20	0	0	0	0	20	40
到達目標２	20	0	0	0	0	20	40
到達目標３	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験（課題は担当教員によって異なる）
その他	ゼミによって異なる（「提出物」、「成果発表」、「作品」、「ポートフォリオ」を含む）

履修に必要な知識・技能など
“ゼミ”がいったいどういうものなのか、想像がつかない方が大半かと思いますが、事前に必要な知識・技能はありません。幅広く教養を得る機会になりますので、自分が所属する学科以外の先生方のゼミを選択してみましょう。 安心してゼミに臨んでください。是非、一緒になったゼミの仲間と互いに協力・協調しながら学んでください。 詳細は別途配布する「大学道場 mini ゼミパンフレット」を参照してください。テーマは変更になる場合があります。 本科目では追再試験（レポート試験）を行いません。担当教員の指示どおり、期限までにレポートを提出してください。

教科書・ISBN
各ゼミ担当教員の指示による

参考書
各ゼミ担当教員の指示による

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
大学道場 mini ゼミ B（F11030）	演習	1	15	1	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	尾﨑雅子
科目担当者	尾﨑雅子、松元英里子、鈴木高史、畠栄、坊垣美也子、高久圭二、松田正文、山城圭介、上原弘美、吉田幸恵、岩越美恵、十九百君子、藤原桜、山口有美、伊東愛、笹井隆邦							

授業の概要	「大学道場 mini ゼミ」は、大学の教員が日夜研鑽を積んでいる研究活動やその他の活動の一端を学生の皆さんと共有し、実際に体験してもらうことをねらいとしています。すなわち、皆さんと教員が同じ方向を向いての活動となります。 この授業科目では、「科目担当者」（上記）の数だけ異なったテーマを用意しています。学生の皆さんは、その中から特に興味・関心をもつゼミを一つ選び、受講していただくことになります。各ゼミでは、基本的に 4 ～ 20 名程度の少人数制をとり、教員と学生とが互いに顔が見える近い関係の中で授業を行います。各担当教員のテーマを下に記載しますがゼミでどのようなことを行うか、どのように授業を進めるかということについては、別途配布する「大学道場 mini ゼミパンフレット」を参照してください。なおゼミの受講は、履修登録とは別に事前の希望申請を必要とします。その手続きについても、別途配布する「大学道場 mini ゼミパンフレット」に示しています。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	基盤教育・大学道場 mini ゼミイントロダクション (担当者：尾崎雅子)	【事前】シラバスを熟読し、本授業の概要を理解する（120 分） 【事後】自分が参加するゼミの内容について調べてみる（120 分）
第 2 回 ～ 第 8 回	第 2 回～ 8 回は事前に選択したゼミに参加し､授業を進める。 担当教員とゼミのテーマは以下の通り 畠　榮「細胞診断学に関する論文を読み内容を理解する」 鈴木高史「｢遺伝子組換え」について考える」 岩越恵美「共に生きる」 松田正文「汚れた血液をきれいに」 高久圭二「核アレルギーを根絶できるか」 坊垣美也子「細胞のしくみ・はたらきを学ぶ・識る、伝える」 笹井隆邦「自然の中で遊ぼう」 吉田幸恵「口に興味を持とう」 山城圭介「低栄養になるとどうなるの？」 伊東　愛「安全・安心・健やかに。住み慣れた地域での生活を考えてみよう　～高齢者に関わる社会的な問題・課題を題材に～」 松元英理子「今、話題のニュースを理解するために必要な生命科学を、皆で学び、人に伝える」 山口有美「少子高齢社会を経済学の視点で考えてみよう」 藤原　桜「ココロとカラダの調和を促すケア」 上原弘美「口腔と全身の関係」 十九百君子「触れること・触れられること　～人間の皮膚感覚とこころとの関係～	【事前】各ゼミの教員と相談し、各自必要な事前学習をゼミの前に行うこと（各 120 分） 【事後】各ゼミの教員と相談し、各自必要な事後学習をゼミの前に行うこと（各 120 分）

学修の到達目標	
到達目標１	「学び」本来の悦びや愉しさを知ることができる。
到達目標２	これまで気づくことのなかった新たな気づきや発見（≒教養）を得ることができる。
到達目標３	集団の中で協調性をもちながら議論をする過程で、互いに考えを深めることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、理解しようとする努力がみられるだけでなく、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せ、実際に主体的に学びを進めており、その学びの質が特に優れている。
	優	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、理解しようとする努力がみられるだけでなく、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せ、実際に主体的に学びを進めている。
	良	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、理解しようとする努力がみられるだけでなく、さらにそのテーマ、課題等について学ぶ意欲を見せている。
	可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、理解しようとする努力がみられる。
	不可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、理解しようとする努力がみられない。
到達目標２	秀	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自発的に深く考え、突き詰めていくことができる。その結果得られた事項に対して、次なる課題を見出し自主的に探究することができる。
	優	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自発的に深く考え、突き詰めていくことができる。
	良	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、一定程度自発的に深く考え、突き詰めていくことができる。
	可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、教員や他の学生に促されれば、ある程度自ら考え、突き詰めていくことができる。
	不可	ゼミで取り組むテーマ、課題等について、自ら考えることができない。
到達目標３	秀	ゼミでの取り組みにおいて、他者の立場に身を置いてその人の価値観を尊重し、十分に理解しようとする態度が見られる。また自らの考えを押し付けることなく、意見交換の場に積極的に参加することができる。
	優	ゼミでの取り組みにおいて、他者の立場に身を置いてその人の価値観を尊重し、理解しようとする態度が見られる。また自らの考えを押し付けることなく、意見交換の場に参加することができる。
	良	ゼミでの取り組みにおいて、他者の立場に身を置いて相手の意見を聴くことができる。また自らの考えも示すことができる。
	可	ゼミでの取り組みにおいて、他者の立場を意識することは少ない。また促されれば自らの意見を示すことができる。
	不可	ゼミでの取り組みにおいて、意見交換ができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	0	0	0	0	60	100
到達目標１	20	0	0	0	0	20	40
到達目標２	20	0	0	0	0	20	40
到達目標３	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験（課題は担当教員によって異なる）
その他	ゼミによって異なる（「提出物」、「成果発表」、「作品」、「ポートフォリオ」を含む）

履修に必要な知識・技能など
“ゼミ”がいったいどういうものなのか、想像がつかない方が大半かと思いますが、事前に必要な知識・技能はありません。 安心してゼミに臨んでください。是非、一緒になったゼミの仲間と互いに協力・協調しながら学んでください。 詳細は別途配布する「大学道場 mini ゼミパンフレット」を参照してください。テーマは変更になる場合があります。 本科目では追再試験（レポート試験）を行いません。担当教員の指示どおり、期限までにレポートを提出してください。

教科書・ISBN
各ゼミ担当教員の指示による

参考書
各ゼミ担当教員の指示による

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
情報基礎 （F12000）	演習	1	30	1	前期	医療検査学科 必修 診療放射線学科 必修 口腔保健学科 必修 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	看護学科 養教免必修 こども教育学科 保育士選択必修 こども教育学科 幼教免必修 こども教育学科 小教免必修	中田康夫
科目担当者	中田康夫、大森雅人、佐野太亮、市川尚、室﨑友輔、大城亜水、伴仲謙欣							

授業の概要	昨今、Society5.0 等の喫緊のデータ・デジタル化社会や持続可能社会（SDGs 等）に向け、文系・理系を問わず、数理・データサイエンス・AI に関する知識及び技術について体系的な教育が必要となっています。 そこで本演習は、数理・データサイエンス・AI に関する知識及び技術に関する基礎（入門）的な学修と、大学生活や就職活動において必要となるコンピューターやインターネットスキルの 1 つである Windows や Microsoft Office のアプリケーションの基本的な操作方法を学修します。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （レ）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	導入、学内での ICT の利活用①（ポータル、manaba、プリンタ等の使い方）	【事前】シラバスに目を通し、授業の流れ、学修の到達目標等を把握（30 分） 【事後】本単元の学修内容の復習（30 分）
第 2 回	学内での ICT の利活用②（gmail、googledive、onedrive、office365、google アンケート、伝助 etc）	【事前】gmail、googledive、onedrive、office365 等について予習（30 分） 【事後】本単元の復習（30 分）
第 3 回	データ・AI を扱うときの留意事項	【事前】メールの活用術（manaba の使い方、ビジネスメールの書き方･送り方）について予習（30 分） 【事後】本単元の復習と活用（30 分）
第 4 回	データ保護の留意事項	【事前】デジタル社会におけるデータ保護に関して予習（30 分） 【事後】本単元の復習（30 分）
第 5 回	社会におけるデータ・AI の利活用①（実例紹介）	【事前】社会におけるデータ・AI の利活用について予習（30 分） 【事後】本単元の復習（30 分）
第 6 回	文書作成ソフトの操作①（チラシの作成）	【事前】キーボード入力への習熟（30 分） 【事後】授業内で出されたレポート課題に取り組む（30 分）
第 7 回	文書作成ソフトの操作②（ポスターの作成）	【事前】前回課題の遂行とソフトへの習熟（30 分） 【事後】授業内で出されたレポート課題に取り組む（30 分）
第 8 回	プレゼンテーションソフトの操作	【事前】プレゼンテーションソフトに関して予習（30 分） 【事後】授業内で出されたレポート課題に取り組む（30 分）
第 9 回	社会におけるデータ・AI の利活用②（データ・AI 活用領域の広がりや、技術概要の解説概要の解説）	【事前】データ・AI 活用領域の広がりや技術概要について予習（30 分） 【事後】本単元の復習（30 分）

第 10 回	データドリブン（駆動）型社会について	【事前】データドリブン（駆動）型社会に関する予習（30 分） 【事後】本単元の復習（30 分）
第 11 回	データを読む	【事前】「表計算ソフト」に関して予習（30 分） 【事後】授業内で出されたレポート課題に取り組む（30 分）
第 12 回	データを扱う際の留意事項	【事前】データを扱う際の留意事項に関する予習（30 分） 【事後】授業内で出されたレポート課題に取り組む（30 分）
第 13 回	データを扱う	【事前】データの取り扱いに関して予習（30 分） 【事後】授業内で出されたレポート課題に取り組む（30 分）
第 14 回	データを説明する	【事前】データの説明方法に関して予習（30 分） 【事後】授業内で出されたレポート課題に取り組む（30 分）
第 15 回	まとめ・学修の到達目標の確認	【事前】第 1 回～第 14 回までの学修内容のリフレクション（30 分） 【事後】今後の自己の課題の明確化（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	パソコン活用に関する基礎的なスキルを用いて、授業内で与えられた課題を達成することができる。
到達目標 2	データドリブン（駆動）型社会について基本事項を理解したうえで、データを収集・分析・説明するための基礎的な知識とスキルについて説明できる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	基礎的なスキルのみならず、能動的・主体的な学修によりスキルを向上させようとしている。
	優	基礎的なスキルを十分なレベルで修得している。
	良	基礎的なスキルを修得しているが、十分なレベルには達していない。
	可	必要最低限のスキルを修得している。
	不可	必要最低限のスキルを修得していない。
到達目標 2	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に説明することができ、なおかつ、根拠の限界も認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に説明することができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に説明することができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に説明することができる。
	不可	根拠に基づき論理的に明することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	70	0	0	30	0	0	100
到達目標 1	0	0	0	30	0	0	30
到達目標 2	70	0	0	0	0	0	70

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	15 回の学修を踏まえ、レポート課題の提出を課す。
作品	学修課題の達成状況で評価する。

履修に必要な知識・技能など
USB メモリを必ず持参すること（演習内で作成したファイルを保管するため)。 基本的なキーボード操作ができることを前提とする。本授業では、そうした操作スキルを活用しての応用的な内容で授業を行う。各授業は、相互に関連した内容で構成されているので、欠席や遅刻があると学習成果が著しく低下するので注意してほしい。

教科書・ISBN
使用しません。

参考書
適宜紹介します。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
情報メディア演習 （F12010）	演習	1	30	1	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 必修 口腔保健学科 必修 看護学科 必修 こども教育学科 選択	看護学科 養教免必修 こども教育学科 保育士選択必修 こども教育学科 幼教免必修 こども教育学科 小教免必修	大森雅人
科目担当者	大森雅人、中田康夫、伊藤彰、室﨑友輔、大城亜水、伴仲謙欣							

授業の概要	昨今、Society5.0 等の喫緊のデータ・デジタル化社会や持続可能社会（SDGs 等）に向け、文系・理系を問わず、数理・データサイエンス・AI に関する知識及び技術について体系的な教育が必要となっています。 そこで本演習は、数理・データサイエンス・AI に関する知識及び技術に関する応用的な学修と、大学生活や就職活動、社会人として必要となるプレゼンテーションに関する技法を学修します。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（レ）課題解決型学習(外部協定　有　・　㊙　) （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	導入、プレゼンのためハードに関するスキル・テクニック①（動画配信）	【事前】プレゼンのためハードに関するスキル・テクニック（動画配信）に関して予習（30 分） 【事後】本単元の復習（30 分）
第 2 回	プレゼンのためハードに関するスキル・テクニック②（遠隔会議）	【事前】プレゼンのためハードに関するスキル・テクニック（遠隔会議）に関して予習（30 分） 【事後】本単元の復習（30 分）
第 3 回	ICT・データサイエンスに役に立つソフトの活用	【事前】ICT・データサイエンスに役に立つソフトの活用に関して予習（30 分） 【事後】本単元の復習（30 分）
第 4 回	デジタル社会で起きている変化	【事前】デジタル社会で起きている変化に関して予習（30 分） 【事後】本単元の復習（30 分）
第 5 回	デジタル社会で活用されているデータ	【事前】デジタル社会で活用されているデータに関して予習（30 分） 【事後】本単元の復習（30 分）
第 6 回	第 1 回プレゼンテーションに向けた準備①(グループワーク：企画・立案／スライド作成)	【事前】「情報基礎」で学修したパワーポイントの操作方法の復習（30 分） 【事後】課題の遂行（30 分）
第 7 回	第 1 回プレゼンテーションに向けた準備②(グループワーク：スライド作成／予行演習)	【事前】課題の遂行（30 分） 【事後】課題の遂行（30 分）
第 8 回	第 1 回プレゼンテーション本番	【事前】課題の遂行（30 分） 【事後】自分たちの発表に対する個人のリフレクション（30 分）
第 9 回	データ・AI 利活用のための技術	【事前】データ・AI 利活用のための技術に関して予習（30 分） 【事後】本単元の復習（30 分）
第 10 回	データ・AI 利活用の現場	【事前】データ･AI 利活用の現場に関して予習(30 分) 【事後】本単元の復習（30 分）

第 11 回	データ・AI 利活用の最新動向	【事前】データ・AI 利活用の最新動向に関して予習（30 分） 【事後】本単元の復習（30 分）
第 12 回	データ・AI の活用領域（さまざまな領域でデータ・AI が活用されていることを知る） 第 2 回プレゼンテーション準備①（グループワーク：企画・立案／スライド作成）	【事前】第 1 回プレゼンテーション後のリフレクション内容の確認 【事後】課題の遂行（30 分）
第 13 回	第 2 回プレゼンテーションに向けた準備②(グループワーク:スライド作成／予行演習)	【事前】課題の遂行（30 分） 【事後】課題の遂行（30 分）
第 14 回	第 2 回プレゼンテーション本番	【事前】課題の遂行（30 分） 【事後】自分たちの発表に対する個人のリフレクション（30 分）
第 15 回	まとめ・学修の到達目標の確認	【事前】第 1 回～第 14 回までの学修内容のリフレクション（30 分） 【事後】今後の自己の課題の明確化（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	資料を分析・整理し、プレゼンテーションができる。
到達目標 2	データ・AI 利活用のために必要な知識や技術について説明できる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は実社会で通じるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果は解の導きに有効である。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。
到達目標 2	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に説明することができ、なおかつ、根拠の限界も認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に説明することができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に説明することができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に説明することができる。
	不可	根拠に基づき論理的に説明することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	20	40	0	0	0	100
到達目標 1	0	0	40	0	0	0	40
到達目標 2	40	20	0	0	0	0	60

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	15 回の授業後に、レポート課題を課す。
提出物	学修内容ごとに提出物を課す。学修内容に則した具体的な記述が必要となる。
成果発表（口頭・実技）	PowerPoint を活用して発表する機会を 2 回設ける。その際には、効果的な発表になるように、必ず何らかの役割を果たすようにすること。

履修に必要な知識・技能など
PC 操作に関するスキルを、すでに修得していることを前提とする。本授業では、そうした操作スキルを活用しての応用的な内容で授業を行う。各授業は、相互に関連した内容で構成されているので、欠席や遅刻があると学習成果が著しく低下するので注意してほしい。

教科書・ISBN
使用しません。

参考書
適宜紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
健康スポーツ科学Ⅰ （F12020）	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 必修 看護学科 必修 こども教育学科 選択	看護学科 養教免必修 こども教育学科 保育士必修 こども教育学科 幼教免必修 こども教育学科 小教免必修	近藤みづき
科目担当者	近藤みづき、岩越美恵、吉田幸恵、八木孝和、松本大祐							

授業の概要	この講義の目標は、健康について幅広い分野から考究するものです。普段当たり前にある健康を 医学、生理学、保健学、口腔保健学、栄養学、体育学等の分野から解き明かしていきます。各自のライフ・スタイルを見直し、変革のきっかけになることを期待します。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	歯科医師、大学での教育・臨床経験を 20 年以上を有している。専門は歯科矯正学（歯並び）・口腔生理学

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション　（担当者：近藤）	【事前】シラバスを熟読する（100 分） 【事後】ふりかえりシートの提出（125 分）
第 2 回	睡眠のメカニズムについて　（担当者：岩越）	【事前】自分の睡眠状況についてまとめておく（100 分） 【事後】ふりかえりシートの提出（125 分）
第 3 回	口の健康について　（担当者：八木）	【事前】自身の口腔内に対する習慣や考え方、全身との関係性についての知識についてまとめておく（100 分） 【事後】ふりかえりシートの提出（125 分）
第 4 回	栄養について　（担当者：吉田）	【事前】自身の栄養状態についてまとめておく（100 分） 【事後】ふりかえりシートの提出（125 分）
第 5 回	運動と体力について　（担当者：近藤）	【事前】今までの体力テストの結果等を用いて、自身の体力についてまとめておく（100 分） 【事後】ふりかえりシートの提出（125 分）
第 6 回	運動と筋肉について　（担当者：松本）	【事前】筋肉について調べておく（100 分） 【事後】ふりかえりシートの提出（125 分）
第 7 回	運動とストレスについて　（担当者：松本）	【事前】自身がストレスを受けやすい状況をまとめておく（100 分） 【事後】ふりかえりシートの提出（125 分）
第 8 回	学修の到達目標の確認　（担当者：近藤）	【事前】第 1 回～第 7 回の学修内容をまとめておく（100 分） 【事後】ふりかえりシートの提出（125 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	授業で取り扱う健康や運動に関する基本的な知識が修得できる。
到達目標 2	授業で取り扱う健康や運動に関する知識を、自分の生活に即して考え、生活改善の行動に移すことができる。
到達目標 3	授業で学んだ健康や運動に関する知識について、自ら振り返り、その内容をまとめることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	授業内で提示する健康に関する基本的な知識を満足のいく水準を超えて、周囲の知識と併せて理解を深め、健康について自ら考えることができる。
	優	授業内で提示する健康に関する基本的な知識を満足のいく水準まで超えて、周囲の知識と併せて理解を深めることができている。
	良	授業内で提示する健康に関する基本的な知識を満足のいく水準まで修得していることが認められる。
	可	授業内で提示する健康に関する基本的な知識を満足のいく水準まで到達していないが、その努力の過程は認められる。
	不可	授業内で提示する健康に関する基本的な知識を満足のいく水準まで修得しておらず、努力の過程も認められない。
到達目標 2	秀	授業で学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えた上で自身の健康の増進のために行動でき、他者にも良い影響を及ぼすことができる。
	優	授業で学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えた上で自身の健康の増進のために行動できる。
	良	授業で学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができ、行動に移す計画を立てることができる。
	可	授業で学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができる。
	不可	授業で学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができず、その努力の過程も認められない。
到達目標 3	秀	授業で学んだ健康に関する知識について、自ら振り返り、その内容を満足できる水準までまとめることができ、さらに自らの考えを反省的に述べることができる。
	優	授業で学んだ健康に関する知識について、自ら振り返り、その内容を満足できる水準までまとめることができ、さらに自らの考えを反省的に述べるようとする努力が認められる。
	良	授業で学んだ健康に関する知識について、自ら振り返り、その内容を満足できる水準を超えてまとめることができる。
	可	授業で学んだ健康に関する知識について、自ら振り返り、その内容を満足できる水準までまとめることができる。
	不可	授業で学んだ健康に関する知識について、自ら振り返り、その内容を満足できる水準までまとめることができていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	60	0	0	0	0	100
到達目標 1	20	30	0	0	0	0	50
到達目標 2	20	15	0	0	0	0	35
到達目標 3	0	15	0	0	0	0	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を実施する。
提出物	毎回のふりかえりシート

履修に必要な知識・技能など
・遠隔授業で進めるので、提出期限までに確実に提出すること。 ・専門職業人を目指す学生として、自身の健康に関して高い意欲と関心をもって受講して下さい。

教科書・ISBN
使用しません。

参考書
担当教員より適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
健康スポーツ科学Ⅱ （F12030）	演習	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 こども教育学科 選択	—	近藤みづき
科目担当者	近藤みづき、柳敏晴							

授業の概要	生涯に亘り健康を保持増進し、クオリティ・オブ・ライフを追求するためには、健康に関する知識の修得だけでなく、身体活動を実践し継続する力が求められる。本授業では、各自の体力を把握し、それぞれのスポーツ種目での活動量を歩数計で、運動強度を心拍数などで測定することにより、運動中の生理的反応を学習する。そして、自主的に健康管理を行い、積極的に身体活動を継続して行う実践能力や、チームで行う活動を通し、協力や協働の意義と愉しさを知る。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション・グループ分け　（担当者：近藤・柳）	【事前】シラバスを読み､授業の概要を理解する｡(60分) 【事後】授業の実施内容を把握し、準備をしておく（65 分）
第 2 回	体力テスト実施　（担当者：近藤・柳）	【事前】体力測定の実施方法を調べ、実施できるようにする（100 分） 【事後】体力テストの結果を踏まえ、自己分析する。（125 分）
第 3 回	運動生理学実習①心拍数から運動強度を把握する 第 1 グループ：バスケットボール　（担当者：柳） 第 2 グループ：テニス①基本技術　（担当者：近藤）	【事前】手首等から脈拍の取り方を練習しておく（100 分） 【事後】ふりかえり用紙を提出（125 分）
第 4 回	運動生理学実習②歩数を計測することで、活動量を把握する 第 1 グループ：ソフトボール　（担当者：柳） 第 2 グループ：テニス②サーブ、ラリー　（担当者：近藤）	【事前】スマートフォンに歩数計のアプリをダウンロードし、使いこなせるようにしておく（100 分） 【事後】ふりかえり用紙を提出（125 分）
第 5 回	運動生理学実習③運動強度や活動量を比較する 第 1 グループ：インディアカ　（担当者：柳） 第 2 グループ：テニス③ゲーム　（担当者：近藤）	【事前】第 3 回～第 4 回の心拍数や活動量の記録をまとめる（100 分） 【事後】今までの学びを踏まえた、レポート課題を提出する（175 分）
第 6 回	運動生理学実習①心拍数から運動強度を把握する 第 1 グループ：バスケットボール　（担当者：柳） 第 2 グループ：テニス①基本技術　（担当者：近藤）	【事前】手首または頸動脈を用いた心拍数の取り方を練習しておく（100 分） 【事後】ふりかえり用紙を提出（125 分）
第 7 回	運動生理学実習②歩数を計測することで、活動量を把握する 第 1 グループ：ソフトボール　（担当者：柳） 第 2 グループ：テニス②サーブ、ラリー　（担当者：近藤）	【事前】スマートフォンに歩数計のアプリをダウンロードし、使えこなせるようにしておく（100 分） 【事後】ふりかえり用紙を提出（125 分）
第 8 回	運動生理学実習③心拍数や活動量を比較する 第 1 グループ：インディアカと学修の到達目標の確認　（担当者：柳） 第 2 グループ：テニス③ゲームと学修の到達目標の確認　（担当者：近藤）	【事前】第 6 回～第 7 回までの心拍数や活量量の記録をまとめる（100 分） 【事後】今までの学びを踏まえ、レポート課題を提出する（175 分）

学修の到達目標	
到達目標１	各種スポーツの実践を通して身体活動量や運動強度などの身体の変化を理解することができる。
到達目標２	各種スポーツの実践と健康を自らの生活に結び付けて考えることができる。
到達目標３	各種スポーツのルールやマナーを遵守し、仲間と協調・協働して動くことができる。
到達目標４	健康の保持増進に向けて、ある程度自発的に心身や生活態度などの自己管理ができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	授業で扱うスポーツ実践を通して自身の体に起きる変化に対する理解が、満足できる水準まで到達していて、他者に説明することができ、さらに周囲に良い影響や結果をもたらすことができる。
	優	授業で扱うスポーツ実践を通して自身の体に起きる変化に対する理解が、満足できる水準まで到達していて、他者に説明することができる。
	良	授業で扱うスポーツ実践を通して自身の体に起きる変化に対する理解が、満足できる水準まで到達していることが認められる。
	可	授業で扱うスポーツ実践を通して自身の体に起きる変化に対する理解が、満足できる水準まで達していないが、努力の過程は認められる。
	不可	授業で扱うスポーツ実践を通して自身の体に起きる変化に対する理解が、満足できる水準まで達しておらず、その努力の過程も認められない。
到達目標２	秀	実践を通して学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができ、自身の健康の増進のために行動でき、他者にも良い影響を及ぼすことができる。
	優	実践を通して学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができ、自身の健康の増進のために行動できる。
	良	実践を通して学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができ、若干であるが自身の健康の増進のために行動できる。
	可	実践を通して学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができる。
	不可	実践を通して学んだ健康に関する知識を、自らの生活に即して考えることができない。
到達目標３	秀	自らが高い意志をもって、自発的に周囲と協調・協働でき、それによりチーム内のモチベーションが上がり、結果としてチームを課題達成に導くことができる。
	優	自らが高い意志をもって、自発的に周囲と協調・協働でき、それによりチーム内のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働できる。
	可	協調・協働への興味は薄いが、他者に促されれば協調・協働に作業することが認められる。
	不可	周囲と協調・協働する意志が認められない。
到達目標４	秀	健康の保持増進に向けて、自発的な心身や生活態度などの自己管理が可能である。さらに、その自己管理の必要性を他者と広く共有するために行動することができる。
	優	健康の保持増進に向けて、自発的な心身や生活態度などの自己管理が可能である。
	良	健康の保持増進に向けて、ある程度自発的に心身や生活態度などの自己管理が可能である。
	可	健康の保持増進に向けて、他者の助言や指導のもと、心身や生活態度などの自己管理が可能である。
	不可	健康の保持増進に向けて、心身や生活態度などの自己管理ができていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	40	30	0	0	30	100
到達目標１	0	30	15	0	0	0	45
到達目標２	0	10	0	0	0	10	20
到達目標３	0	00	10	0	0	10	20
到達目標４	0	0	5	0	0	10	15
到達目標５	0	0	0	0	0	0	0

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
提出物	学修のふりかえりシート・レポート課題
成果発表 （口頭・実技）	実技・試合結果
その他	授業への主体性、活動量

履修に必要な知識・技能など
運動に適した服装と靴（室内用・屋外用）の準備を準備すること。アクセサリー等の着用は認めない。 雨天の場合は、授業場所、内容を変更することがある。 この科目は履修制限があり、希望者が多い場合は抽選する。

教科書・ISBN
使用しない。

参考書
必要に応じて、随時配布する。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
健康スポーツ科学Ⅲ （F12040）	実技	1	30	1	後期	医療検査学科 選択必修 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	こども教育学科 保育士必修 こども教育学科 幼教免必修 こども教育学科 小教免必修	近藤みづき
科目担当者	近藤みづき、柳本太三							

授業の概要	健康の保持増進に運動が不可欠であるにもかかわらず、利便性の進んだ現代社会において、私たちは慢性的な運動不足に陥りがちである。 授業では、実際に身体を動かすことで運動、スポーツの楽しさや爽快感を体感する。また、運動・スポーツの実践を通し、コミュニケーション能力を高めるとともに、基本的な技能や知識を修得し、ルール・マナーを尊守する態度を育成する。また、新しい動きかたを修得する過程を通じて、生涯にわたって主体的に運動・スポーツに取り組むことの重要性を理解する。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーションとグループ分け （担当者：近藤・柳本）	【事前】シラバスを熟読し授業概要を理解しておく（30 分） 【事後】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30 分)
第 2 回	第 1 グループ：テニス①ラケッティング　（担当者：近藤） 第 2 グループ：バスケットボール①ボール慣れ、基本技能（シュート・ドリブル・パス)(担当者：柳本)	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30 分) 【事後】ふりかえりシート提出（30 分）
第 3 回	第 1 グループ：テニス②基本のストローク （担当者：近藤） 第 2 グループ：バスケットボール②ゲームを中心とした攻防（オフェンスの基本の動き）（担当者：柳本）	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30 分) 【事後】ふりかえりシート提出（30 分）
第 4 回	第 1 グループ：テニス③クロスラリー　（担当者：近藤） 第 2 グループ：バスケットボール③ゲームを中心とした攻防（ディフェンスの基本の動き)(担当者：柳本)	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30 分) 【事後】ふりかえりシート提出（30 分）
第 5 回	第 1 グループ：テニス④サービスレシーブ （担当者：近藤） 第 2 グループ：バスケットボール④作戦を工夫したゲーム（担当者：柳本）	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30 分) 【事後】ふりかえりシート提出（30 分）
第 6 回	第 1 グループ：テニス⑤ダブルスゲームの進め方（担当者：近藤） 第 2 グループ：バレーボール①ボール慣れ、基本技能（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス）（担当者：柳本）	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30 分) 【事後】ふりかえりシート提出（30 分）
第 7 回	第 1 グループ：テニス⑥ダブルスゲーム　（担当者：近藤） 第 2 グループ：バレーボール②基本技能（サーブ・レシーブ）とミニゲーム　（担当者：柳本）	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30 分) 【事後】ふりかえりシート提出（30 分）
第 8 回	第 1 グループ：テニス⑦戦術を含んだダブルスゲーム（担当者：近藤） 第 2 グループ：バレーボール③ゲーム　（担当者：柳本）	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30 分) 【事後】レポート課題を提出する（30 分）
第 9 回	第 1 グループ：バスケットボール①ボール慣れ、基本技能（シュート、ドリブル、パス)(担当者：柳本) 第 2 グループ：テニス①ラケッティング　（担当者：近藤）	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30 分) 【事後】ふりかえりシート提出（30 分）

第 10 回	第 1 グループ：バスケットボール②ゲームを中心とした攻防（オフェンスの基本の動き）（担当者：柳本） 第 2 グループ：テニス②基本のストローク （担当者：近藤）	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30 分) 【事後】ふりかえりシート提出（30 分）
第 11 回	第 1 グループ：バスケットボール③ゲームを中心とした攻防（ディフェンスの基本の動き)(担当者：柳本） 第 2 グループ：テニス③クロスラリー （担当者：近藤）	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30 分) 【事後】ふりかえりシート提出（30 分）
第 12 回	第 1 グループ：バスケットボール④作戦を工夫したゲーム（担当者：柳本） 第 2 グループ：テニス④サービスレシーブ （担当者：近藤）	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30 分) 【事後】ふりかえりシート提出（30 分）
第 13 回	第 1 グループ：バレーボール①ボール慣れと基本技能（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス）（担当者：柳本） 第 2 グループ：テニス⑤ダブルスゲームの進め方（担当者：近藤）	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30 分) 【事後】ふりかえりシート提出（30 分）
第 14 回	第 1 グループ：バレーボール②基本技能（サーブ・レシーブ）とミニゲーム （担当者：柳本） 第 2 グループ：テニス⑥ダブルスゲーム （担当者：近藤）	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30 分) 【事後】ふりかえりシート提出（30 分）
第 15 回	第 1 グループ：バレーボール③ゲーム （担当者：柳本） 第 2 グループ：テニス⑦戦術を含んだダブルスゲーム（担当者：近藤）	【事前】自己の健康管理に注意し、授業に向けて体調を整える。(30 分) 【事後】レポート課題を提出する（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	各種運動やスポーツの基本的な技能の修得を通じて運動やスポーツを楽しむことができる。
到達目標 2	各種運動やスポーツの基本的な知識（特性、ルール、マナー等）の修得を通じて運動やスポーツを楽しむことができる。
到達目標 3	各種の運動やスポーツを通じて他者とコミュニケーションをとり、協力して課題を達成することができる。
到達目標 4	健康の保持増進に対して自己の心身や生活態度などを管理することができる。
到達目標 5	運動やスポーツに主体的に取り組むことができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	授業で扱うスポーツに関する基本的な技能が、満足できる水準を超えており、何ら心身の束縛も障害もなく、情況に応じて自分の身体を自在に動かすことができる。
	優	授業で扱うスポーツに関する基本的な技能が、満足できる水準を超えており、情況に応じて自分の身体を動かすことができる。
	良	授業で扱うスポーツに関する基本的な技能が､満足できる水準まで到達していることが認められる。
	可	授業で扱うスポーツに関する基本的な技能が、満足できる水準まで到達していないが、その努力の過程は認められる。
	不可	授業で扱うスポーツに関する基本的な技能が、満足できる水準まで到達しておらず、その努力の過程も認められない。
到達目標 2	秀	授業で扱うスポーツに関する基本的な知識が、満足できる水準まで到達していて、行動に移すことができ、さらに周囲に良い影響や結果をもたらすことができる。
	優	授業で扱うスポーツに関する基本的な知識が、満足できる水準まで到達していて、さらに行動に移すことができる。
	良	授業で扱うスポーツに関する基本的な知識が､満足できる水準まで到達していることが認められる。
	可	授業で扱うスポーツに関する基本的な知識が、満足できる水準まで到達していないが、努力の過程は認められる。
	不可	授業で扱うスポーツに関する基本的な知識が、満足できる水準まで到達しておらず、その努力の過程も認められない。

到達目標３	秀	自らが高い意志をもって、自発的に周囲と協調・協働でき、それによりチーム内のモチベーションが上がり、結果としてチームを課題達成に導くことができる。
	優	自らが高い意志をもって、自発的に周囲と協調・協働でき、それによりチーム内のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働できる。
	可	協調・協働への興味は薄いが、他者に促されれば協調・協働に作業することが認められる。
	不可	周囲と協調・協働する意志が認められない。
到達目標４	秀	健康の保持増進に向けて、自発的な心身や生活態度などの自己管理が可能である。さらに、その自己管理の必要性を他者と広く共有するために行動することができる。
	優	健康の保持増進に向けて、自発的な心身や生活態度などの自己管理が可能である。
	良	健康の保持増進に向けて、ある程度自発的に心身や生活態度などの自己管理が可能である。
	可	健康の保持増進に向けて、他者の助言や指導のもと、心身や生活態度などの自己管理が可能である。
	不可	健康の保持増進に向けて、心身や生活態度などの自己管理ができていない。
到達目標５	秀	運動への関心や自ら運動する意欲が高く、積極的に授業に参加している。それにより周囲にも良い影響を与え、良い結果をもたらすことができる。
	優	運動への関心や自ら運動する意欲が高く、積極的に授業に参加している。それにより周囲にも良い影響を与えている。
	良	運動への関心や自ら運動する意欲が認められ、ある程度積極的に授業への参加が認められる。
	可	他者の助言や指導のもと授業へ積極的な参加が認められる。
	不可	他者の助言や指導があっても授業へ積極的な参加が認められない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	35	35	0	0	30	100
到達目標１	0	10	25	0	0	0	35
到達目標２	0	15	0	0	0	0	15
到達目標３	0	10	10	0	0	0	20
到達目標４	0	0	0	0	0	10	10
到達目標５	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
提出物	レポート課題やふりかえりシート
成果発表（口頭・実技）	実技・試合結果
その他	主体性、活動量

履修に必要な知識・技能など
学校指定のポロシャツ着用すること。 運動に適した服装と靴（室内用・屋外用）の準備をし、長い髪は結び、アクセサリー等の着用は認めない。 雨天の場合は、授業場所、内容を変更することがある。 本科目は履修制限があり、希望者が多い場合は抽選する。但し必修や資格必修になっている学科は抽選の対象外とする。

教科書・ISBN
使用しない。

参考書
適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
アカデミックライティング（F12050）	演習	1	30	1	後期	医療検査学科 必修 診療放射線学科 必修 口腔保健学科 必修 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	山下敦子
科目担当者	山下敦子、牛頭哲宏、神田大輔							

授業の概要	この授業では、大学における学修や研究に必要となる論理的な思考力、論理的な表現力の基礎、基本を習得することを目標とする。ときわコンピテンシーでは「知性」の分野に相当する。知識を関連させ、多面的・多角的に吟味し、表現する力は、医療、教育の専門的職業人には必須の力である。 第１段階では、「言語技術」の基礎を学び、表現の「論理」について学ぶ。 第２段階では、「パラグラフライティング」の基礎を学び、論理的に書くことを習得する。 第３段階では、「縮約文」の基礎を学び、読解力と文章表現力の総合的な力を鍛える。 毎回、課題が出題される。各回の授業、各段階の内容は、それぞれ次の授業や段階の内容と関連している。復習や課題に取り組むことによって、「言葉の力」が積み上がり、定着していくので、主体的に学修することを期待している。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（　）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	・オリエンテーション「アカデミックに表現するとは」（担当者：神田、山下、牛頭） ・言語技術(1) 接続表現、転換、補足	【事前】シラバス内容の熟読（30 分） 【事後】学びの確認（30 分）
第 2 回	言語技術(2) 論証ー演繹と推測ー（担当者：神田）	【事前】既習事項の確認（30 分） 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する（30 分）
第 3 回	言語技術(3)　隠れた前提（担当者：神田）	【事前】既習事項の確認（30 分） 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出（30 分）
第 4 回	言語技術(4) 代替仮説（担当者：神田）	【事前】既習事項の確認（30 分） 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する（30 分）
第 5 回	言語技術(5) 論証の批判（担当者：神田）	【事前】既習事項の確認（30 分） 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する（30 分）
第 6 回	パラグラフライティング(1) パラグラフのルール（担当者：山下、神田）	【事前】既習事項の確認（30 分） 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する（30 分）
第 7 回	パラグラフライティング(2) トピックセンテンスの書き方（担当者：山下、神田）	【事前】既習事項の確認（30 分） 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する（30 分）
第 8 回	パラグラフライティング(3)コンクルーディングセンテンスの書き方（担当者：山下、神田）	【事前】既習事項の確認（30 分） 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する（30 分）

第 9 回	パラグラフライティング(4) 分析、説明を書く （担当者：山下、神田）	【事前】既習事項の確認（30 分） 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する（30 分）
第 10 回	パラグラフライティング(5) 論理的に書く （担当者：山下、神田）	【事前】既習事項の確認（30 分） 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する（30 分）
第 11 回	縮約文(1) 基礎　（担当者：牛頭、神田）	【事前】既習事項の確認（30 分） 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する（30 分）
第 12 回	縮約文(2) 応用　（担当者：牛頭、神田）	【事前】既習事項の確認（30 分） 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する（30 分）
第 13 回	縮約文(3) フィードバック　（担当者：牛頭、神田）	【事前】既習事項の確認（30 分） 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する（30 分）
第 14 回	縮約文(4) 実践　（担当者：牛頭、神田）	【事前】既習事項の確認（30 分） 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する（30 分）
第 15 回	縮約文(5) 実践のフィードバック まとめ、学びの振り返り（ポートフォリオ） （担当者：牛頭、山下、神田）	【事前】既習事項の確認（30 分） 【事後】学びの確認、課題について manaba に提出する（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	言語技術における「論理」について理解し、表現に活かすことができる。
到達目標 2	パラグラフライティングについて理解し、論理的に書くことができる。
到達目標 3	縮約文について理解し、言語技術やパラグラフのルールを意識して、読解、表現することができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	論理について的確に理解し、目的や場に応じて適切に表現することができている。
	優	論理について理解し、目的や場に応じて適切に表現することができている。
	良	論理について理解し、表現に活用することができている。
	可	論理について知識としての理解はあるが、表現に活用することが不十分である。
	不可	論理について理解しておらず、表現に活用することができない。
到達目標 2	秀	パラグラフライティングについて的確に理解し、目的意識や相手意識をもって、論理的に表現することが十分にできている。
	優	パラグラフライティングについて的確に理解し、目的意識や相手意識をもって、論理的に表現することができている。
	良	パラグラフライティングについて的確に理解し、論理的に表現することができている。
	可	パラグラフライティングについて的確に理解しているが、表現に活用することが不十分である。
	不可	パラグラフライティングについて理解しておらず、表現に活用することができない。
到達目標 3	秀	縮約文について的確に理解し、論理的に読解したり文章表現したりすることが十分にできている。
	優	縮約文について的確に理解し、論理的に読解したり文章表現したりすることができている。
	良	縮約文について理解し、読解や文章表現に活かすことができている。
	可	縮約文について理解しているが、読解や文章表現に活用することが不十分である。
	不可	縮約文について理解しておらず、読解や文章表現に活用することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	30	0	0	10	0	100
到達目標 1	20	10	0	0	0	0	30
到達目標 2	20	10	0	0	0	0	30
到達目標 3	20	10	0	0	10	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	授業を通して学んだ言語技術、表現方法等の知識・技能について筆記試験を行う。
提出物	毎回、課題を出題する。manaba で提出をすること。
ポートフォリオ	授業で記述したものについて自己評価や添削されたものについて振り返り、自己の思考力、表現力について到達度や今後の課題を知り、日常的な実践に生かしていく。

履修に必要な知識・技能など
全 15 回の授業はそれぞれ内容が積み上がっていくものであるから、復習や課題の提出を主体的に行うこと。また、習得した知識・技能を日常のレポート等に積極的に活用することを期待している。継続することによって言葉の力は高まっていくため、日常的に言葉に敏感になり、文章やニュースに触れることを意識的に取り組んでほしい。

教科書・ISBN
必要に応じて資料を配布する。

参考書
適時、紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
コミュニケーション論（F12055）	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 必修 口腔保健学科 必修 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	谷口英明
科目担当者	谷口英明							

授業の概要	コロナ禍で人と接することが制限されるなか、Facebook, Twitter, LINE, など SNS（Social Networking Service）が発達した現代では簡単に多数の人たちとコミュニケーションを取ることができ、最近では生活に欠かせないものになっています。しかし、便利な反面、情報の正確性や真実性が担保されない。悪意のない発信でも思わぬ誤解や被害を招くことがあるなどのデメリットもあります。本科目ではコミュニケーションの原点となる対人コミュニケーションをテーマとします。特に聴く力､傾聴力に重点を置き､話し方､表現力の向上を目指すための授業を行います。誰でも人前に出たら緊張します。あがり症も訓練しだいで克服できます。今よりも高いコミュニケーション能力を身につけて、しっかりと自分の思いを他者に伝えることができるようになることが目標です。高い倫理観と人の心に寄り添い行動できる豊かな人間性を身につけましょう。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	科目オリエンテーション 意義・概要	【事前】シラバスを熟読しておく（120 分） 【事後】授業内容の復習（120 分）
第 2 回	自己紹介（各自 1 分）改めて仲間のことを知ろう・傾聴力を養おう	【事前】1 分程度の自己紹介を考える（120 分） 【事後】授業内容の復習（120 分）
第 3 回	自己表現の方法 信頼される話し方・あがり症を修正・自己 PR の方法	【事前】これまでの授業内容の復習（120 分） 【事後】リフレクションをマナバ上に提出（120 分）
第 4 回	自己 PR（各自 1 分） 前回の話し方講義・自己 PR の方法を意識して発表	【事前】1 分間の自己 PR を考える（120 分） 【事後】授業内容の復習（120 分）
第 5 回	傾聴力アップの方法 聴く力は質問力を活用することで向上	【事前】これまでの授業内容の復習（120 分） 【事後】リフレクションをマナバ上に提出（120 分）
第 6 回	課題テーマスピーチ（各自 1 分）	【事前】与えられたテーマに対するスピーチを考える（120 分） 【事後】授業内容の復習（120 分）
第 7 回	課題テーマディスカッション・グループディスカッション	【事前】与えられたテーマに対して考察しておく（120 分） 【事後】授業内容の復習（120 分）
第 8 回	映像鑑賞・阪神淡路大震災について考えるグループディスカッション 授業のまとめ	【事前】与えられたテーマに対して考察しておく（120 分） 【事後】これまですべての授業内容の復習（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	円滑な人間関係に対する知識や行動を理解でき、高い倫理観と人に寄り添える豊かな人間性を身につける。
到達目標 2	より良い人間関係構築の大きな助けになる優れた傾聴力を身につけることができる。
到達目標 3	相手に自分の考えを的確に伝える表現力を身につけることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	円滑な人間関係に対する知識や行動を理解でき、高い倫理観と人に寄り添える豊かな人間性を身につけ、あらゆる人や場面に対して秀逸なレベルで接することができる。
	優	円滑な人間関係に対する知識や行動を理解でき、高い倫理観と人に寄り添える豊かな人間性を身につけ、十分なレベルで接することができる。
	良	円滑な人間関係に対する知識や行動を理解でき、高い倫理観と人に寄り添える人間性を身につけ、一定のレベルで接することができる。
	可	円滑な人間関係に対する知識や行動を理解できる。
	不可	円滑な人間関係に対する知識や行動を理解できていない。
到達目標 2	秀	より良い人間関係構築の大きな助けになる優れた傾聴力を身につけ、内容を十分理解したうえで相手の立場に身を置いて、共感的に話を聴くことができる。
	優	より良い人間関係構築の大きな助けになる優れた傾聴力を身につけ、共感的に話を聴くことができる。
	良	より良い人間関係構築の大きな助けになる傾聴力を身につけている。
	可	より良い人間関係構築の助けになる最低限の傾聴力を身につけている。
	不可	人間関係構築の助けになる傾聴力を身につけることができない。
到達目標 3	秀	相手に自分の考えを的確に伝える表現力を身につけている。しかも言語的、非言語的表現どちらも十分な能力を持っていて、あらゆる人にとって理解しやすい。
	優	相手に自分の考えを的確に伝える表現力を身につけている。しかも言語的、非言語的表現どちらも十分な能力を持っている。
	良	相手に自分の考えを的確に伝える表現力を身につけている。。
	可	相手に自分の考えを伝える最低限の表現力を身につけている。
	不可	相手に自分の考えを伝える表現力を身につけることができていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	20	20	0	0	0	100
到達目標 1	30	0	0	0	0	0	30
到達目標 2	20	10	10	0	0	0	40
到達目標 3	10	10	10	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を実施する。与えられた様々なテーマについて学修の総括を期限までに提出する。
提出物	第 3 回、第 5 回授業後のレポートを提出。学修の成果を評価する。
成果発表（口頭・実技）	第 2 回、4 回、6 回、7 回での表現力や傾聴力を評価する。

履修に必要な知識・技能など
コロナ禍で通常の大学生活が制限されるなか、今後の学生生活を有意義に過ごすため対人コミュニケーションについて学び、理解してほしい。この科目では授業での取り組み方が大切です。無断欠席など、コミュニケーションの基本を守れない学生は単位を修得できません。堅苦しい授業ではありません、気軽に楽しく臨んでください。

教科書・ISBN
使用しない。

参考書
適宜、示唆。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
英語コミュニケーションⅠ （F12060）	演習	1	30	1	前期	こども教育学科 選択	こども教育学科 保育士選択 こども教育学科 幼教免必修 こども教育学科 小教免必修	千石真理
科目担当者	千石真理							

授業の概要	The purpose of this course is to provide students with basic English communication skills. This course is also focused on acquiring four skills through integrated methods and understanding diverse cultures and nations in order to participate actively in international communities.
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第１回	Introduction - course schedule and class topics Unit 1: 自己紹介　つながる音に慣れる（1）［名詞］	【事前】Preparation for Unit 1 of the textbook through reading and studying new words（30min.） 【事後】Review and complete questions of Unit 1（30min.）
第２回	Review and Quiz of Unit 1 Unit 2: 家族・ペット　つながる音に慣れる（2）［名詞］	【事前】Prepare for Unit 2（30min.） 【事後】Review and complete questions of Unit 2（30min.）
第３回	Review and Quiz of Unit 2 Unit3: 趣味　つながる音に慣れる（3）［主語＋動詞＋～］	【事前】Prepare for Unit 3（30min.） 【事後】Review and complete questions of Unit 3（30min.）
第４回	Review and Quiz of Unit 3 Unit4: 大学生活　消える音に慣れる（1）［人称代名詞］ Unit5: 食べ物　消える音に慣れる（2）［疑問詞］	【事前】Prepare for Unit 4 and 5（30min.） 【事後】Review and complete questions of Unit 4 and 5（30min.）
第５回	Review and Quiz of Unit 4 and 5 Unit6: コンサート　消える音に慣れる（3）［How ＋ 形容詞／副詞～？］ Unit7: 道案内　変化する音に慣れる（1）［助動詞　can, may,must］	【事前】Prepare for Unit 6 and 7（30min.） 【事後】Review and complete questions of Unit 6 and 7（30min.）
第６回	Review and Quiz of Unit 6 and 7 Unit8: 日本文化紹介　変化する音に慣れる（2）［助動詞 would,could,should］ Unit9: ジェスチャー　変化する音に慣れる（3）［前置詞］	【事前】Prepare for Unit 8 and 9（30min.） 【事後】Review and complete questions of Unit 8 and 9（30min.）
第７回	Review and Quiz of Unit　8 and 9 Unit10: 観光案内　変化する音に慣れる（4）［過去形､現在形､未来形］ Unit11: 航空券を Net で　Get カタカナの音に慣れる　［現在進行形］	【事前】Prepare for Unit 10 and 11（30min.） 【事後】Review and complete questions of Unit 10 and 11（30min.）
第８回	Review and Quiz of Unit 10 and 11 Unit12: E メールを送る　数字の聞き取り　［Review 1］	【事前】Prepare for Unit12（30min.） 【事後】Review and complete questions of Unit 12（30min.）

第 9 回	Review and Quiz of Unit12 Unit13: 機内で　日本語にない音　(1)［時・天候などを表す It］ Unit14: 空港で　日本語にない音　(2)［接続詞］	【事前】Prepare for Unit 13 and 14（30min.） 【事後】Review and complete questions of Unit 13 and 14（30min.）
第 10 回	Review and Quiz of Unit13 and 14 Unit15: ホテル　まぎらわしい音の区別（1）［不定詞］ Unit16: レストランで　まぎらわしい音の区別（2）［形容詞］	【事前】Prepare for Unit 15 and 16（30min.） 【事後】Review and complete questions of Unit 15 and 16（30min.）
第 11 回	Review and Quiz of Unit15 and 16 Unit17: ショッピング　まぎらわしい音の区別（3）［頻度を表す副詞］ Unit18: ベースボール　まぎらわしい音の区別（4）［比較級］	【事前】Prepare for Unit 17 and 18（30min.） 【事後】Review and complete questions of Unit 17 and 18（30min.）
第 12 回	Review and Quiz of Unit17 and 18 Unit19: ミュージカル鑑賞　語頭と語尾で違って聞こえる音［現在完了］ Unit20: 旅行案内　つづりと発音（1）［受動態 1］	【事前】Prepare for Unit 19 and 20（30min.） 【事後】Review and complete questions of Unit 19 and 20（30min.）
第 13 回	Review and Quiz of Unit19 and 20 Unit21: トラブルシューティング　つづりと発音（2）［受動態 2］ Unit22: 体調不良　ポーズ（pause）のとり方　［分詞］	【事前】Prepare for Unit 21 and 22（30min.） 【事後】Review and complete questions of Unit 21 and 22（30min.）
第 14 回	Review and Quiz of Unit21 and 22 Unit23: 電話での申し込み　イントネーション　［動名詞］	【事前】Prepare for Unit 23（30min.） 【事後】Review and complete questions of Unit 23（30min.）
第 15 回	Review and Quiz of Unit23 Unit24: さよならアメリカ！　センスグループ　［Review2］	【事前】Prepare for Unit 24（30min.） 【事後】Review and complete questions of Unit 24（30min.）

学修の到達目標	
到達目標 1	1. Students will increase proficiency in listening.
到達目標 2	2. Students will increase proficiency in speaking.
到達目標 3	3. Students will increase proficiency in reading.
到達目標 4	4. Students will increase proficiency in writing.
到達目標 5	5. Students will understand cultural diversities.

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	Can understand correctly
	優	Makes some mistakes in understanding but needs no help from others
	良	Makes some mistakes in understanding and sometimes needs help from others
	可	Makes some mistakes in understanding and often needs help from others
	不可	Cannot understand at all
到達目標 2	秀	Always communicates with correct grammar vocabulary and pronunciation
	優	Always communicates with appropriate grammar vocabulary and pronunciation
	良	Often communicates with appropriate grammar vocabulary and pronunciation
	可	Sometimes communicates with appropriate grammar vocabulary and pronunciation
	不可	Rarely attempts to speak during classroom activities

到達目標３	秀	Recognizes implications and inferences of the text
	優	Tries to understand implications and inferences of the text
	良	Identifies relations among ideas and understands the text as a whole
	可	Comprehends basic words and recognizes relations among parts of the text
	不可	Disregards or does not understand informational text features
到達目標４	秀	Writes with complex sentence structures with virtually no grammatical and/or spelling errors
	優	Writes with complex sentence structures but makes some grammatical and/or spelling errors
	良	Writes with simple sentence structures with virtually no grammatical and/or spelling errors
	可	Writes with simple sentence structure and makes many grammatical and/or spelling errors
	不可	Writes without sentence structure and does not have grammatical competence
到達目標５	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	30	5	0	0	25	100
到達目標１	10	10	0	0	0	5	25
到達目標２	0	0	5	0	0	5	10
到達目標３	10	5	0	0	0	5	20
到達目標４	15	10	0	0	0	5	30
到達目標５	5	5	0	0	0	5	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	Written test
提出物	Quizzes Submission of assignments
成果発表（口頭・実技）	Oral presentation
その他	Completion of assignments

履修に必要な知識・技能など
1. Class participation　2. Preparation and review　3. Completion of assignments

教科書・ISBN
ISBN9784523176244　Forerunner to Power-Up English 英語総合パワーアップ　＜入門編＞ －リスニングからリーディング－　　株式会社　南雲堂　NAN'UN-DO

参考書
Introduced as needed

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
英語コミュニケーションⅡ （F12070）	演習	1	30	1	後期	こども教育学科 選択	こども教育学科 保育士必修 こども教育学科 幼教免必修 こども教育学科 小教免必修	脇本聡美
科目担当者	脇本聡美							

授業の概要	The purpose of this course is to improve English proficiency through a variety of practical activities. The emphasis is also laid on motivating students to play an active role in international communities.
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	Orientation Self-introduction	【事前】Read the syllabus（30 min.） 【事後】Post self-introduction on manaba（30 min.）
第 2 回	Unit 1 The Challenges of Teaching English aid Coronavirus Decide the topic of the presentation	【事前】Unit 1 Before You Watch（30 min.） 【事後】Make a comment on classmates' self-introduction / Watch the news of Unit 1（30 min.）
第 3 回	Unit 1 The Challenges of Teaching English amid Coronavirus Understand the News Survival English 1	【事前】Unit 1 Understand the News（30 min.） 【事後】Watch the news of Unit 1 / Review Survival English 1（30 min.）
第 4 回	Unit 1 Review the Key Expressions Unit 3 A Bitter Taste for Healthy Fish Presentation：The city I'd like to visit（2 students）	【事前】Unit 1 Review the Key Expressions / Unit 3 Before You Watch（30 min.） 【事後】Watch the news of Unit 3（30 min）
第 5 回	Unit 3 A Bitter Taste for Healthy Fish Understand the News Presentation：The city I'd like to visit（2 students）	【事前】Unit 3 Understand the News（30 min.） 【事後】Preparing for quiz（30 min.）
第 6 回	Quiz（Unit 1 & 3） Unit 3 Review the Key Expressions Survival English 2 Presentation：The city I'd like to visit（2 students）	【事前】Unit 3 Review the Key Expressions（30 min.） 【事後】Review Survival English 2（30 min.）
第 7 回	Review the quiz Unit 5 Toilet Designs Aims to Flush Away Issues Group Work Presentation：The city I'd like to visit（2 students）	【事前】Unit 5 Before You Watch（30 min.） 【事後】Watch the news of Unit 5（30 min.）
第 8 回	Unit 5 Toilet Designs Aim to Flush Away Issues Understanding the News Presentation：The city I'd like to visit（2 students）	【事前】Unit 5 Understand the News（30 min.） 【事後】Watch the news of Unit 5（30 min.）
第 9 回	Unit 9 Clay Artist in Touch with Tradition Group Work Presentation：The city I'd like to visit（2 students）	【事前】Unit 5 Review the Key Expression/ Unit 9 Before You Watch（30 min.） 【事後】Watch the news of Unit 9（30 min.）
第 10 回	Unit 9 Clay Artist in Touch with Tradition Understanding the News Presentation：The city I'd like to visit（2 students）	【事前】Unit 9 Understand the News（30 min.） 【事後】Preparing for quiz（30 min.）

第 11 回	Quiz（Unit 5 & 9） Unit 9 Review the Key Expressions Survival English 3 Presentation：The city I'd like to visit（2 students）	【事前】Unit 9 Review the Key Expressions（30 min.） 【事後】Review Survival English 3（30 min.）
第 12 回	Review the quiz Unit 12 A Runway to a New Start Christmas songs and craft Presentation：The city I'd like to visit（2 students）	【事前】Unit 12 Before You Watch（30 min.） 【事後】Watch the news of Unit 12（30 min.）
第 13 回	Unit 12 A Runway to a New Start Group Work Understand the News Presentation：The city I'd like to visit（2 students）	【事前】Unit 12 Understand the News（30 min.） 【事後】Watch the news of Unit 12（30 min.）
第 14 回	Unit 12 Review the Key Expressions Unit 13 Teaching about Black Lives Matter Presentation：The city I'd like to visit（2 students）	【事前】Unit 12 Review the Key Expressions / Unit 13 Before You Watch（30 min.） 【事後】Watch the news of Unit 13（30 min.）
第 15 回	Unit 13 Teaching about Black Lives Matter Understand the News 3 Review Discussion Questions（Group Work） Preparing for the exam Presentation：The city I'd like to visit（2 students）/ Review	【事前】Unit 13 Understand the News 3（30 min.） 【事後】Preparing for exam（90 min.）

学修の到達目標	
到達目標 1	(Listening) Students can understand the main points of clear standard speech on familiar matters and understand the main point of radio or TV programs on current affairs or topics of personal interest when the delivery is relatively slow and clear.
到達目標 2	(Reading) Students can understand texts that consist mainly of high frequency everyday English.
到達目標 3	(Speaking) Students can deal with most situations likely to arise while traveling in an area where English is spoken and connect phrases in a simple way in order to describe experiences and events, their dreams hopes and ambitions.
到達目標 4	(Writing) Students can write simple connected text on topics which are familiar or of personal interest.

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	Students can fully understand the main points of clear standard speech on familiar matters and understand the main point of radio or TV programs on current affairs or topics of personal interest when the delivery is relatively slow and clear.
	優	Students can understand the main points of clear standard speech on familiar matters and understand the main point of radio or TV programs on current affairs or topics of personal interest when the delivery is relatively slow and clear.
	良	Students can mostly understand the main points of clear standard speech on familiar matters and understand the main point of radio or TV programs on current affairs or topics of personal interest when the delivery is relatively slow and clear.
	可	Students can barely understand the main points of clear standard speech on familiar matters and understand the main point of radio or TV programs on current affairs or topics of personal interest when the delivery is relatively slow and clear.
	不可	Students cannot understand the main points of clear standard speech on familiar matters and understand the main point of radio or TV programs on current affairs or topics of personal interest when the delivery is relatively slow and clear.
到達目標 2	秀	Students can fully understand texts that consist mainly of high frequency everyday English.
	優	Students can understand texts that consist mainly of high frequency everyday English.
	良	Students can mostly understand texts that consist mainly of high frequency everyday English.
	可	Students can barely understand texts that consist mainly of high frequency everyday English.
	不可	Students cannot understand texts that consist mainly of high frequency everyday English.

到達目標３	秀	Students can fully deal with most situations likely to arise while traveling in an area where English is spoken and connect phrases in a simple way in order to describe experiences and events, their dreams hopes and ambitions.
	優	Students can deal with most situations likely to arise while traveling in an area where English is spoken and connect phrases in a simple way in order to describe experiences and events, their dreams hopes and ambitions.
	良	Students can mostly deal with most situations likely to arise while traveling in an area where English is spoken and connect phrases in a simple way in order to describe experiences and events, their dreams hopes and ambitions.
	可	Students can barely deal with most situations likely to arise while traveling in an area where English is spoken and connect phrases in a simple way in order to describe experiences and events, their dreams hopes and ambitions.
	不可	Students cannot deal with most situations likely to arise while traveling in an area where English is spoken and connect phrases in a simple way in order to describe experiences and events, their dreams hopes and ambitions.
到達目標４	秀	Students can fully write simple connected text on topics which are familiar or of personal interest.
	優	Students can write simple connected text on topics which are familiar or of personal interest.
	良	Students can mostly write simple connected text on topics which are familiar or of personal interest.
	可	Students can barely write simple connected text on topics which are familiar or of personal interest.
	不可	Students cannot write simple connected text on topics which are familiar or of personal interest.

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	10	20	0	0	20	100
到達目標１	10	2	0	0	0	5	17
到達目標２	10	3	0	0	0	5	18
到達目標３	0	0	15	0	0	0	15
到達目標４	30	5	5	0	0	10	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	A Written Examination
提出物	Reading report
成果発表（口頭・実技）	Presentation
その他	Quiz

履修に必要な知識・技能など
1. Class participation　2. Preparation and review　3. Completion of assignments

教科書・ISBN
9784764741447　NHK Newsline 5 Tatsuroh Yamazaki & Stella M. Yamazaki 金星堂

参考書
Introduced as needed

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
英語Aa(Communicative English Basic)（F12080）	演習	1	30	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	小西千鶴
科目担当者	小西千鶴							

授業の概要	英国社会の日常を反映する短いエッセイを読み、そこから頻出語彙、フレーズ、言い回し、文法を学習し、日常会話に必要な英語表現を身に付ける演習を行う。また、英語圏における異文化への理解を深め、グローバル化に必要な対話上のマナーを学ぶ。英語の基礎をしっかり固め、基本的な英語を確実にマスターする。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション Unit 1 The Royal Family　英国王室	【事前】Unit 1 語彙の予習をする（30 分） 【事後】テキストの読解と文法「時制 現在形」を把握する（30 分）
第 2 回	Unit 2 The Beatles　ビートルズ	【事前】Unit 2 語彙の予習をする（30 分） 【事後】テキストの読解と文法「時制 過去形」を把握する（30 分）
第 3 回	Unit 3 Very Cold　極寒	【事前】Unit 3 語彙の予習をする（30 分） 【事後】テキストの読解と文法「進行形 be 動詞＋ing（現在分詞）」を把握する（30 分）
第 4 回	Unit 4 Euro Money　ユーロ通貨	【事前】Unit 4 語彙の予習をする（30 分） 【事後】テキストの読解と文法「助動詞」を把握する（30 分）
第 5 回	Unit 5 To Your Health　健康体	【事前】Unit 5 語彙の予習をする（30 分） 【事後】テキストの読解と文法「現在完了形・過去完了形・未来完了形」を把握する（30 分）
第 6 回	Unit 6 Recycling　リサイクル	【事前】Unit 6 語彙の予習をする（30 分） 【事後】テキストの読解と文法「冠詞：定冠詞・不定冠詞」と「代名詞：人称代名詞・指示代名詞」を把握する（30 分）
第 7 回	Unit 7 The UK　英国	【事前】Unit 7 語彙の予習をする（30 分） 【事後】テキストの読解と文法「名詞：可算名詞・不可算名詞」を把握する（30 分）
第 8 回	Unit 8 A Quiet Life　静かな生活	【事前】Unit 8 語彙の予習をする（30 分） 【事後】テキストの読解と文法「品詞：形容詞・副詞」を把握する（30 分）
第 9 回	Unit 9 My Company　私の会社	【事前】Unit 9 語彙の予習をする（30 分） 【事後】テキストの読解と文法「比較：同等比較・比較級・最上級」を把握する（30 分）
第 10 回	Unit 10 Advertising　広告	【事前】Unit 10 語彙の予習をする（30 分） 【事後】テキストの読解と文法「不定詞」と「動名詞」を把握する（30 分）

第 11 回	Unit 11 Business Trips　出張	【事前】Unit 11 語彙の予習をする（30 分） 【事後】テキストの読解と文法「前置詞」と「接続詞」を把握する（30 分）
第 12 回	Unit 12 Get It Cleaned　ホテルでの一日	【事前】Unit 12 語彙の予習をする（30 分） 【事後】テキストの読解と文法「使役動詞」と「知覚動詞」を把握する（30 分）
第 13 回	Unit 13 A Storm　冬の嵐	【事前】Unit 13 語彙の予習をする（30 分） 【事後】テキストの読解と文法「受動態」を把握する（30 分）
第 14 回	Unit 14 The Media　メディア	【事前】Unit 14 語彙の予習をする（30 分） 【事後】テキストの読解と文法「関係詞:関係代名詞・関係副詞」を把握する（30 分）
第 15 回	Unit 15 Sightseeing　イギリス観光スポット	【事前】unit 15 語彙の予習をする（30 分） 【事後】テキストの読解と文法「仮定法」を把握する（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	自分の意見を簡潔に英語で伝えられる。
到達目標 2	自分の意見を正確に書くことができる。
到達目標 3	英語でのコミュニケーションを楽しむ。
到達目標 4	英国の文化・歴史・習慣の違いを理解する。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	Speaks smoothly with confidence
	優	Speaks almost smoothly
	良	Speaks with little hesitation without disrupting the flow of conversation
	可	Speaks with some hesitation but it does not interfere with communication
	不可	Speaks very little or doesn’t speak at all
到達目標 2	秀	Uses different sentence structures depending on contexts and pronounces correctly
	優	Uses different sentence structures and pronounces properly only a few errors
	良	Uses different sentence structures and pronounces properly with some errors
	可	Uses different sentence structures and pronounces with many errors
	不可	Can’t use appropriate sentence structures and pronounces incorrectly
到達目標 3	秀	Communicates successfully and enjoys the interaction
	優	Communicates effectively and responds appropriately
	良	Communicates and responds acceptably
	可	Tries to communicate but sometimes unsuccessfully
	不可	Cannot communicate
到達目標 4	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	30	20	0	0	0	100
到達目標 1	0	10	10	0	0	0	20
到達目標 2	30	10	0	0	0	0	40
到達目標 3	0	10	10	0	0	0	20
到達目標 4	20	0	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験（リスニング含む）を行う。定期試験では、授業及びテキストから学んだ語句を用いて、状況に応じた自然な英会話の流れを意識した表現が求められる。
提出物	毎回の授業で筆記もしくは口頭による単語の小テストを行う。小テストでは、単語の意味のほか、つづり、発音、品詞、成句や用例など、実践的な情報を把握しているか、辞書の有益な使い方が求められる。
成果発表（口頭・実技）	授業中にグループもしくはペアワークで対話する機会を設ける。対話では、テキストに基づく表現を応用し、自身の体験あるいは予備知識の共有など、積極的な発言が求められる。

履修に必要な知識・技能など
各ユニットの重要表現など反復練習には積極的に取り組むこと。

教科書・ISBN
9784523178538 C082　English Indicator I Essential（ 総合英語インディケーター　初級） Terry O’Brien、三原京　他著　南雲堂

参考書
随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
英語Aa(Communicative English Basic) (F12080)	演習	1	30	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	CAROLK. DALLOS
科目担当者	CAROLK.DALLOS							

授業の概要	The purpose of this course is to provide students with basic English communication skills. This course is also focused on acquiring four skills through integrated methods and understanding diverse culture and nations in order to participate actively in international communities.
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	Syllabus and class rules explanation/Short presentation explained/Pronunciation exercise	【事前】Review syllabus 15 minutes. Think about your personal introduction 15 minutes. 【事後】Prepare personal introduction 20 minutes. Review pronunciation 10 minutes.
第 2 回	Unit 1A Hi There! Unit 1B Where do you work?	【事前】Preview 1A and 1B 15 minutes. Work on personal introduction 15 minutes. 【事後】Do homework for 1A and 1B 25 minutes. Preview 2A and 2B 5 minutes.
第 3 回	Unit 2A I never get up late. Unit 2B I do karaoke on Wednesday.	【事前】Review 1A and 1B 15 minutes. Preview 2A and 2B 15 minutes. 【事後】Do homework for 2A and 2B 25 minutes. Preview 3A and 3B 5 minutes.
第 4 回	Unit 3A Can you use a computer? Unit 3B I can play basketball.	【事前】Review 2A and 2B 15 minutes. Preview 3A and 3B 15 minutes. 【事後】Do homework for 3A and 3B 25 minutes. Preview Review 1and 4A 5 minutes.
第 5 回	Review 1. Unit 4A I like Italian food.	【事前】Review 3A and 3B 15 minutes. Preview Review 1 and 4A 15 minutes. 【事後】Do Review 1 and 4A homework 25 minutes. Preview 4B 5 minutes.
第 6 回	Unit 4B My perfect date likes music.	【事前】Review Review 1 and 4A 15 minutes. Preview 4B 15 minutes. 【事後】Do homework for 4B 25 minutes. Preview 5A 5 minutes.
第 7 回	Unit 5A Can I call you back later?	【事前】Review 4B 15 minutes. Preview 5A 15 minutes. 【事後】Do 5A homework 25 minutes. Preview 5B 5 minutes.
第 8 回	Unit 5B It's snowing.	【事前】Review 5A 15 minutes. Preview 5B 15 minutes. 【事後】Do homework for 5B 25 minutes. Preview 6A 5 minutes.

第 9 回	Unit 6A How do I get to the bank?	【事前】Review 5B 15 minutes. Preview 6A 15 minutes. 【事後】Do homework for 6A 25 minutes. Preview 6B 5 minutes.
第 10 回	Unit 6B Where can I buy a ticket?	【事前】Review 6A 15 minutes. Preview 6B 15 minutes. 【事後】Do homework for 6B 25 minutes. Preview Review 2 5 minutes.
第 11 回	Review 2, Picture Puzzle listening exercises and Quiz 1A- 6B explained	【事前】Review 6B 15 minutes. Preview Review 2 15 minutes. 【事後】Do homework for Review 2 25 minutes. Study for 1A - 6B Quiz 30 minutes.
第 12 回	Units 1A - 6B Quiz. Unit 7A Would you like to go to the movies?	【事前】Review Review 2 5 minutes. Study for 1A - 6B Quiz 20 minutes. Preview 7A 5 minutes. 【事後】Do homework for 7A 25 minutes. Preview 7B 5 minutes.
第 13 回	Unit 7B I'm babysitting on Thursday.	【事前】Review 7A 15 minutes. Preview 7B 15 minutes. 【事後】Do homework for 7B 25 minutes. Begin reviewing 1A-7B for final exam 15 minutes.
第 14 回	Music listening exercises	【事前】Review 1A-7B for final exam 30 minutes. 【事後】Review 1A-7B and song vocabulary for final exam 30 minutes.
第 15 回	Review for final exam. Look at and discuss teacher's photos.	【事前】Review 1A-7B and song vocabulary for final exam 30 minutes. 【事後】Review 1A-7B and song vocabulary for final exam 30 minutes.

学修の到達目標	
到達目標 1	1. Students will speak fluently.
到達目標 2	2. Students will listen and respond accurately.
到達目標 3	3. Students will interact with each other in English.
到達目標 4	4. Students will write simple sentence structures.
到達目標 5	5. Students will understand cultural diversities.

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	Speaks smoothly with confidence
	優	Speaks almost smoothly
	良	Speaks with little hesitation without disrupting the flow of conversation
	可	Speaks with some hesitation but it does not interfere with communication
	不可	Speaks very little or doesn't speak at all
到達目標 2	秀	Could listen and understand correctly and provided appropriate responses
	優	Made only a few mistakes in listening and understanding and could follow with no help from others and provided somewhat correct responses
	良	Made some mistakes in listening and understanding, but could follow with help from others and provided somewhat unclear responses
	可	Made significant mistakes in listening and understanding and could barely follow with help from others and only provided unclear responses
	不可	Could not listen and understand and provided no answers at all

到達目標３	秀	Communicates successfully and enjoys the interaction
	優	Communicates effectively and responds appropriately
	良	Communicates and responds acceptably
	可	Tries to communicate but sometimes unsuccessfully
	不可	Cannot communicate
到達目標４	秀	Can write simple sentence structures with no mistakes
	優	Can write simple sentence structures with a few mistakes
	良	Can write simple sentence structures, but with some mistakes
	可	Tries to write simple sentence structures, but has many mistakes
	不可	Cannot write simple sentence structures
到達目標５	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple world views
	優	Demonstrates a deep understanding of multiple world views
	良	Demonstrates a deep understanding of multiple world views
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	30	10	0	0	20	100
到達目標１	0	5	10	0	0	0	15
到達目標２	20	5	0	0	0	10	35
到達目標３	0	5	0	0	0	0	5
到達目標４	20	10	0	0	0	5	35
到達目標５	0	5	0	0	0	5	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	Writing and listening
提出物	Completion of homework
成果発表（口頭・実技）	Oral introduction
その他	Quiz

履修に必要な知識・技能など
1. Class participation. 2. Preparation and review. 3. Completion of assignments.

教科書・ISBN
9780230447080　Get Real!

参考書
Additional material may be suggested if necessary.

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
英語Ab(Communicative English Intermediate)（F12090）	演習	1	30	1	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	小西千鶴
科目担当者	小西千鶴							

授業の概要	This course continues the development of students' English language and communication skills begun in English Aa. Students will practice speaking effectively in class and listen various topics related to campus life and daily life. Upon completion of this course, students will be able to understand others' ideas better and confident in using English in everyday situations.
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	Chapter 1　Self-introduction / Chapter 2　Fam-ily	【事前】Chapter 1, 2 語彙の予習をする（30 分） 【事後】自己紹介を英語で練習する（30 分）
第 2 回	Chapter 3　Campus Life / Chapter 4　Hobbies	【事前】Chapter 3,4 語彙の予習をする（30 分） 【事後】余暇の過ごし方を英語で話す練習をする（30 分）
第 3 回	Chapter 5　Subjects at University Chapter 6　Club Activities	【事前】Chapter 5,6 語彙の予習をする（30 分） 【事後】学生生活について英語で話す練習をする（30 分）
第 4 回	Chapter 7　Pets / Chapter 8　Traveling	【事前】Chapter 7,8 語彙の予習をする（30 分） 【事後】旅行計画を立て、英語で話す練習をする（30 分）
第 5 回	Chapter 9　Music / Chapter 10　Sports	【事前】Chapter 9,10 語彙の予習をする（30 分） 【事後】好きな音楽とスポーツについて英語で話す練習をする（30 分）
第 6 回	Chapter 11　Part-time Job / Chapter 12　Watching TV	【事前】Chapter 11,12 語彙の予習をする（30 分） 【事後】アルバイトについて英語で話す練習をする（30 分）
第 7 回	Chapter 13　Cooking / Chapter 14　Flowers	【事前】Chapter 13,14 語彙の予習をする（30 分） 【事後】得意な料理について英語で話す練習をする（30 分）
第 8 回	Chapter 15　Movies / Chapter 16　Eating Out	【事前】Chapter 15,16 語彙の予習をする（30 分） 【事後】好きな映画作品について英語で話す練習をする（30 分）
第 9 回	Chapter 17　Shopping	【事前】Chapter 17 語彙の予習をする（30 分） 【事後】お気に入りのお店を英語で宣伝する練習をする（30 分）
第 10 回	Chapter 18　Language	【事前】Chapter 18 語彙の予習をする（30 分） 【事後】英語言語を習得する最適な方法を英語で発表する練習をする（30 分）

第 11 回	Chapter 19　Fashion and Clothes	【事前】Chapter 19 語彙の予習をする（30 分） 【事後】最新のファッションとその傾向について英語で発表する練習をする（30 分）
第 12 回	Chapter 20　Art	【事前】Chapter 20 語彙の予習をする（30 分） 【事後】海外あるいは国内の有名な芸術作品について英語で発表する練習をする（30 分）
第 13 回	Chapter 21　Job Hunting	【事前】Chapter 21 語彙の予習をする（30 分） 【事後】将来に就きたい職業について英語で発表する練習をする（30 分）
第 14 回	Chapter 22　Culture	【事前】Chapter 22 語彙の予習をする（30 分） 【事後】グローバリゼーションについての個人的な見解を英語で発表する練習をする（30 分）
第 15 回	Chapter 23　A Person to Respect	【事前】Chapter 23 語彙の予習をする（30 分） 【事後】尊敬する人物について英語で発表する練習をする（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	Students will improve speaking skills.
到達目標 2	Students will improve writing skills.
到達目標 3	Students will enjoy communicating in English.
到達目標 4	Students will understand cultural diversities.

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	Speaks smoothly with confidence
	優	Speaks almost smoothly
	良	Speaks with little hesitation without disrupting the flow of conversation
	可	Speaks with some hesitation but it does not interfere with communication
	不可	Speaks very little or doesn’t speak at all
到達目標 2	秀	Uses different sentence structures depending on contexts and pronounces correctly
	優	Uses different sentence structures and pronounces properly only a few errors
	良	Uses different sentence structures and pronounces properly with some errors
	可	Uses different sentence structures and pronounces with many errors
	不可	Can’t use appropriate sentence structures and pronounces incorrectly
到達目標 3	秀	Communicates successfully and enjoys the interaction
	優	Communicates effectively and responds appropriately
	良	Communicates and responds acceptably
	可	Tries to communicate but sometimes unsuccessfully
	不可	Cannot communicate
到達目標 4	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	30	20	0	0	0	100
到達目標 1	0	10	10	0	0	0	20
到達目標 2	30	10	0	0	0	0	40
到達目標 3	0	10	10	0	0	0	20
到達目標 4	20	0	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験（リスニング含む）を行う。定期試験では、授業及びテキストから学んだ語句を用いて、状況に応じた自然な英会話の流れを意識した表現が求められる。
提出物	毎回の授業で筆記もしくは口頭による単語の小テストを行う。小テストでは、単語の意味のほか、つづり、発音、品詞、成句や用例など、実践的な情報を把握しているか、辞書の有益な使い方が求められる。
成果発表（口頭・実技）	授業中にグループもしくはペアワークで対話する機会を設ける。対話では、テキストに基づく表現を応用し、自身の体験あるいは予備知識の共有など、積極的な発言が求められる。

履修に必要な知識・技能など
各ユニットの重要表現など反復練習には積極的に取り組むこと。

教科書・ISBN
9784384334074 C1082　　CD 付　リッスン・アンド・スピーク 身近な話題で発信しよう（宇野誠一 著）三修社

参考書
随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
英語Ab(Communicative English Intermediate)（F12090）	演習	1	30	1	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	CAROLK. DALLOS
科目担当者	CAROLK.DALLOS							

授業の概要	This course will provide students with a variety of activities to help them acquire practical skills in communication. Learning communication manners in multiple cultures is also focused.
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	Syllabus and Class Rules Explanation/Personal Introductions/ Pronunciation Exercise	【事前】Review syllabus 5 minutes. Think about your personal introduction 25 minutes. 【事後】Reflect on your personal introduction 15 minutes. Review pronunciation 15 minutes.
第 2 回	Following Directions	【事前】Review place pronouns 15 minutes. Practice pronunciation 15 minutes. 【事後】Review new direction vocabulary 30 minutes.
第 3 回	More work on Following Directions	【事前】Review direction vocabulary 30 minutes. 【事後】Prepare for following directions quiz by reviewing all class work 30 minutes.
第 4 回	Following Directions Quiz and Introduction to Numbers	【事前】Review directions vocabulary for quiz 30 minutes. 【事後】Review introduction to numbers 30 minutes.
第 5 回	Numbers	【事前】Review numbers vocabulary 30 minutes. 【事後】Do numbers homework 25 minutes. Review new numbers vocabulary 5 minutes.
第 6 回	More Work on Numbers	【事前】Review numbers vocabulary 30 minutes. 【事後】Review new numbers vocabulary 30 minutes.
第 7 回	Additional Work on Numbers	【事前】Review numbers vocabulary 30 minutes. 【事後】Review new numbers vocabulary 15 minutes. Review all numbers vocabulary for quiz 15 minutes.
第 8 回	Numbers Quiz and Introduction to Family	【事前】Prepare for numbers quiz 30 minutes. 【事後】Reflect on numbers quiz 5 minutes. Reflect on family introduction 25 minutes.
第 9 回	Family	【事前】Review family introduction 30 minutes. 【事後】Do family homework and review new vocabulary 30 minutes.
第 10 回	More Work on Family	【事前】Review family vocabulary 30 minutes. 【事後】Do family homework and review new vocabulary 30 minutes.

第 11 回	Additional Work on Family and Short Presentation Explanation	【事前】Review family vocabulary 30 minutes. 【事後】Do family homework 10 minutes. Review all family vocabulary for quiz 15 minutes. Start working on short presentation 5 minutes.
第 12 回	Family Quiz. Picture puzzle exercise.	【事前】Review family vocabulary for quiz 30 minutes. 【事後】Reflect on both family quiz and picture puzzle exercise 5 minutes. Finish preparing short presentation 25 minutes.
第 13 回	Short Presentations	【事前】Final preparation for short presentation 30 minutes. 【事後】Reflect on your and your classmates' presentations 30 minutes.
第 14 回	Look and Discuss Teacher's Photos or Teacher's Show and Tell	【事前】Review directions, numbers and family vocabulary 30 minutes. 【事後】Reflect on teacher's presentation 5 minutes. Continue to review class vocabulary 25 minutes.
第 15 回	Review for Final Exam	【事前】Review class vocabulary 30 minutes. 【事後】Prepare for final exam 30 minutes.

学修の到達目標	
到達目標 1	Students will speak fluently.
到達目標 2	Students will listen and understand accurately.
到達目標 3	Students will interact with each other in English.
到達目標 4	Students will understand cultural diversities.

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	Speaks smoothly with confidence
	優	Speaks almost smoothly
	良	Speaks with little hesitation without disrupting the flow of conversation
	可	Speaks with some hesitation but it does not interfere with communication
	不可	Speaks very little or dosen't speak at all
到達目標 2	秀	Could listen and understand correctly and provided appropriate responses
	優	Made only a few mistakes in listening and understanding and could follow with no help from others and provided somewhat correct responses
	良	Made some mistakes in listening and understanding, but could follow with help from others and provided somewhat unclear responses
	可	Made significant mistakes in listening and understanding and could barely follow with help from others and only provided unclear responses
	不可	Could not listen and understand and provided no answers at all
到達目標 3	秀	Communicates successfully and enjoys the interaction
	優	Communicates effectively and responds appropriately
	良	Communicates and responds acceptably
	可	Tries to communicate but sometimes unsuccessfully
	不可	Cannot communicate

到達目標４	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	30	10	0	0	20	100
到達目標１	0	0	10	0	0	0	10
到達目標２	30	20	0	0	0	15	65
到達目標３	0	10	0	0	0	0	10
到達目標４	10	0	0	0	0	5	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	Writing and listening
提出物	Homework
成果発表（口頭・実技）	Short presentation
その他	Quizzes

履修に必要な知識・技能など
1. Class participation　2. Preparation and review　3. Completion of assignments

教科書・ISBN
Materials will be provided by the instructor.

参考書
Additional material may be suggested if necessary.

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
手話コミュニケーション （F12130）	演習	1	30	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	浅野京子
科目担当者	浅野京子							

授業の概要	聴覚の障害は、健聴者（耳の聞こえる人）には理解しにくい障害です。手話を学ぶとともに聴覚障害者への援助や配慮を学習していきます。手話は、毎回、演習します。（定員 30 名まで）。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習（外部協定　有　・　無　） （ ）反転授業　（レ）その他 （グループで手話をしたり、お互いに発表したりします。）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	聴覚の障害とは	【事前】シラバスを読んで内容を理解する（30 分） 【事後】本日の講義と手話の実技（30 分）
第 2 回	様々な聴覚障害について	【事前】聴覚障害について調べる（30 分） 【事後】本日の講義と手話の実技（30 分）
第 3 回	聴覚障害者のコミュニケーション手段	【事前】該当なし 【事後】本日の講義と手話の実技（40 分）
第 4 回	「手話」について	【事前】該当なし 【事後】本日の講義と手話の実技（40 分）
第 5 回	聴覚障害者についてのグループ討議	【事前】グループ討議に向けて自分の意見をまとめておく（60 分） 【事後】本日の講義と手話の実技（30 分）
第 6 回	聴覚障害者と社会①聴覚障害者の昔	【事前】聴覚障害者の今と昔の違いを調べる（30 分） 【事後】本日の講義と手話の実技（30 分）
第 7 回	聴覚障害者と社会②聴覚障害者と学校教育	【事前】聴覚障害者の学校教育について調べる（30 分） 【事後】本日の講義と手話の実技（30 分）
第 8 回	聴覚障害者と社会③ろう教育について	【事前】ろう教育について調べる（30 分） 【事後】本日の講義と手話の実技（30 分）
第 9 回	聴覚障害者と社会④手話の発展と広がり	【事前】該当なし 【事後】本日の講義と手話の実技（40 分）
第 10 回	聴覚障害者の社会生活についてグループ討議	【事前】グループ討議の準備（60 分） 【事後】本日の講義と手話の実技（30 分）
第 11 回	聴覚障害者と情報保障について	【事前】該当なし 【事後】本日の講義と手話の実技（40 分）
第 12 回	生活場面での配慮（病院など）	【事前】聴覚障害者への配慮について考える（30 分） 【事後】本日の講義と手話の実技（30 分）
第 13 回	手話と手話通訳	【事前】次回の発表の準備（60 分） 【事後】本日の講義と手話の実技（30 分）
第 14 回	手話による発表（個々による）	【事前】発表の準備（30 分） 【事後】本日の講義と手話の実技（30 分）
第 15 回	まとめ	【事前】該当なし 【事後】15 回の講義と実技の振り返り（80 分）

学修の到達目標	
到達目標１	聴覚障害者に対する理解ができる。
到達目標２	手話を中心とする聴覚障害者の人たちのとコミュニケーション方法を習得する。
到達目標３	職業人・市民として聴覚障がいの人たちへの配慮ができるようになる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	聴覚障害に関して授業で習った以上に自ら学習して理解を深めている。
	優	聴覚障害に関して授業で学んだことはすべて理解している。
	良	聴覚障害に関してかなり理解している。
	可	聴覚障害に関して必要最低限理解している。
	不可	聴覚障害に関して全く理解していない
到達目標２	秀	手話を用いてコミュニケーションがスムーズにできる。
	優	手話を用いてコミュニケーションがかなりできる。
	良	手話を用いてコミュニケーションがまずまずできる。
	可	手話を用いてコミュニケーションが少ししかできない。
	不可	手話を用いてコミュニケーションが全くできない。
到達目標３	秀	クラス・グループ討論に協調・協働し、グループの活性を高め、内容も優秀であった。
	優	クラス・グループ討論に協調・協働し、グループの活性を高めていた。
	良	クラス・グループ討論に協調・協働し、グループの活動ができた。
	可	クラス・グループ討論に協調・協働することは少なく、グループのモチベ―ションを下げていた。
	不可	クラス・グループ討論に協調・協働せず、グループが全体として機能しなかった。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	0	50	0	0	10	100
到達目標１	40	0	0	0	0	0	40
到達目標２	0	0	50	0	0	0	50
到達目標３	0	0	0	0	0	10	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	学期末筆記試験（手話や聴覚障害者に関すること）
成果発表（口頭・実技）	手話による個別発表
その他	授業・グループ討論での発言内容等

履修に必要な知識・技能など
手話は聴覚障害者、特に「ろうあ者」にとっての「第１言語（母語）」です。生活していく上でなくてはならない大切なことばです。真摯な気持ちで学んでください。覚えた手話を忘れないように、しっかりと復習して授業に臨んでください。

教科書・ISBN
特定の教科書はありません。随時プリントを配布します。

参考書
随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
多文化コミュニケーション（F12135）	演習	1	30	1	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	内橋一恵
科目担当者	内橋一恵							

授業の概要	日本の少子高齢化とそれに伴う外国人労働者の増加、さらにグローバリゼーションの拡大と深化にしたがって、日常生活や医療・教育現場においても外国にルーツを持つ人との出会いや協働の場面が増えている。 本学が位置する神戸市は国際都市としての歴史が長く、特に長田区は多文化共生のまちとして知られている。 本授業では、同じ漢字文化圏であり、地域にゆかりの深い中国・韓国・ベトナム、そして日本の文化と言語を学ぶことで、多様性の時代のコミュニケーションの素地を作ることを目的とする。 また、本授業では中国・韓国・ベトナムの文化や言語を紹介するが、その中でそれぞれ定住者としての視点も取り入れることで、多文化共生に資する感性を養うものである。 なお、受講者数や新型コロナウイルス感染拡大の状況により、シラバスは多少の変更を加える可能性があります。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（レ）その他（語学）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	ガイダンス：グローバリゼーションと日本の多文化化	【事前】シラバスを熟読しておく（30 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（30 分）
第 2 回	漢字文化圏について	【事前】中国・韓国・ベトナムの場所を確認する（30 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（30 分）
第 3 回	中国：中国・中国語概要	【事前】配布資料に目を通しておく（30 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（30 分）
第 4 回	中国：中国語（ゲストスピーカー）	【事前】配布資料に目を通しておく（30 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（30 分）
第 5 回	中国：華僑について（ゲストスピーカー）	【事前】配布資料に目を通しておく（30 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（30 分）
第 6 回	韓国：韓国・韓国語概要	【事前】配布資料に目を通しておく（30 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（30 分）
第 7 回	韓国：韓国語（ゲストスピーカー）	【事前】配布資料に目を通しておく（30 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（30 分）
第 8 回	韓国：在日コリアンについて（ゲストスピーカー）	【事前】配布資料に目を通しておく（30 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（30 分）
第 9 回	ベトナム：ベトナム・ベトナム語概要	【事前】配布資料に目を通しておく（30 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（30 分）
第 10 回	ベトナム：ベトナム語（ゲストスピーカー）	【事前】配布資料に目を通しておく（30 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（30 分）
第 11 回	ベトナム：日本で暮らすベトナム人（ゲストスピーカー）	【事前】配布資料に目を通しておく（30 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（30 分）

第 12 回	やさしい日本語：やさしい日本語概要と考え方	【事前】配布資料に目を通しておく（30 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（30 分）
第 13 回	やさしい日本語：やさしい日本語実践	【事前】配布資料に目を通しておく（30 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（30 分）
第 14 回	これまでの言語のまとめ	【事前】配布資料に目を通しておく（30 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（30 分）
第 15 回	多文化共生とこれからの日本社会	【事前】配布資料に目を通しておく（30 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	紹介する各国の社会・文化・言語、日本との関わりの基本的な知識を理解する
到達目標 2	多文化や多様性を身近なものとして理解し、想像力を養う

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	紹介する各国の社会･文化･言語、日本との関わりの基本的な知識を十分修得し、深く理解している。
	優	紹介する各国の社会・文化・言語、日本との関わりの基本的な知識を十分修得している。
	良	紹介する各国の社会・文化・言語、日本との関わりの基本的な知識を修得している。
	可	紹介する各国の社会・文化・言語、日本との関わりの基本的な知識をある程度修得している。
	不可	紹介する各国の社会・文化・言語、日本との関わりの基本的な知識を修得していない。
到達目標 2	秀	多文化や多様性を身近なものとして十分深く理解しており、それに基づいた想像力を現実世界にいかすことができる。
	優	多文化や多様性を身近なものとして十分理解しており、それに基づいた想像力を現実世界にいかすことができる。
	良	多文化や多様性を身近なものとして理解しており、それに基づいた想像力がある。
	可	多文化や多様性を身近なものとしてある程度理解しており、それに基づいた想像力もある程度ある。
	不可	多文化や多様性を身近なものとして理解することができず、それに基づいた想像力もない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	60	0	0	0	0	100
到達目標 1	0	60	0	0	0	0	60
到達目標 2	40	0	0	0	0	0	40

※評価項目で示す評価割合は､授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	15 回目の授業の後にレポート試験を課す。授業で学んだ知識をもとに、自らの意見がどのくらい論理的に提示できるかが試される。
提出物	授業内容の理解を深めるため、毎回 manaba にその日の学びや質問等の記入を課す。

履修に必要な知識・技能など
授業で学んだ基本知識をもとに、多文化教育や多文化共生社会を自分の身近に迫った問題としてとらえられるように、日常生活においても情報収集を行うこと。

教科書・ISBN
使用しません

参考書
随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
いのちと共生 （F12140）	講義	1	15	1	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	長尾厚子
科目担当者	長尾厚子、濵田道夫、塩谷英之、中田康夫、溝越祐志、江上芳子、千石真理							

授業の概要	保健科学部と教育学部を持つ本学のキャリア教育の共通テーマである「いのち」について、あらゆる方面からとらえ、さらにヒトが健康（幸せ）に生涯発達し続けるためには、自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について考える必要がある。それぞれの専門分野からとらえる「いのち」についての講義に学び、その学びをとおしていのちと共生（ヒトの健康）について考える。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（　）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	医療専門職としての実務経験を有した教員による授業となるため、それぞれの専門分野を生かした実践的教育となる。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	いのちの共生と持続可能な社会　（担当者：濵田）	【事前】シラバス内容の熟読（30 分） 【事後】授業内容の振り返り（110 分）
第 2 回	人と熊と森と―いのちと共生のために知るべきこと （担当者：千石）	【事前】授業のテーマについて調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り（120 分）
第 3 回	細胞と個体による自他の識別　（担当者：溝越）	【事前】授業のテーマについて調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り（120 分）
第 4 回	人の健康と生活習慣　（担当者：塩谷）	【事前】授業のテーマについて調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り（120 分）
第 5 回	母子の独立性と共生　（担当者：江上）	【事前】授業のテーマについて調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り（120 分）
第 6 回	共生社会の意味とその実現に向けて　（担当：中田）	【事前】授業のテーマについて調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り（120 分）
第 7 回	トータルヒューマンケアにおける心と体といのち （担当者：長尾）	【事前】授業のテーマについて調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り（120 分）
第 8 回	命の共生（ヒトの健康）について考える　（担当者：長尾）	【事前】授業のテーマについて調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り（210 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識を修得することができる。
到達目標 2	「いのちと共生」に関する知識の広がりから、各専門職の自覚に繋げて考えることができる。
到達目標 3	「いのち」に関する様々な見解からヒトが健康（幸せ）に生涯発達し続けるための「いのち」と共生について探究することができる。
到達目標 4	自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生についての情報から「いのち」について理解を深めることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	授業内で、それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識の習得について、満足できる水準を超えて、周辺の知識と合わせて理解を深め、自分の考えを述べることができる。
	優	授業内で、それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識の習得について、満足できる水準を超えて、周辺の知識と合わせて理解を深めることができている。
	良	授業内で、それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識が満足できる水準まで修得できていることが認められる。
	可	授業内で、それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識が満足できる水準まで到達していないが、努力の過程は認められる。
	不可	授業内で、それぞれの専門からとらえる「いのち」についての知識が満足できる水準まで到達しておらず、その努力の過程も認められない。
到達目標２	秀	授業で学んだ「いのちと共生」に関する知識の広がりから、各自の目指す専門職としての自覚につなげて考えを深め、自分の意見として述べることができる。
	優	授業で学んだ「いのちと共生」に関する知識の広がりから、各自の目指す専門職としての自覚につなげて考えを深めることができる。
	良	授業で学んだ「いのちと共生」に関する知識の広がりから、各自の目指す専門職としての自覚につなげて考えることができる。
	可	授業で学んだ「いのちと共生」に関する知識の広がりから、各自の目指す専門職としての自覚につなげて考えようとする努力の過程が認められる。
	不可	授業で学んだ「いのちと共生」に関する知識の広がりから、各自の目指す専門職としての自覚につなげて考えようとする努力の過程が認められない。
到達目標３	秀	授業で学んだ中からヒトが健康（幸せ）に生涯発達し続けるための「いのち」との共生について考えを深め、自己の見解を述べることができる。
	優	授業で学んだ中からヒトが健康（幸せ）に生涯発達し続けるための「いのち」との共生について考えを深めることができる。
	良	授業で学んだ中からヒトが健康（幸せ）に生涯発達し続けるための「いのち」との共生について考えることができる。
	可	授業で学んだ中からヒトが健康（幸せ）に生涯発達し続けるための「いのち」との共生について考えようとする努力の過程が認められる。
	不可	授業で学んだ中からヒトが健康（幸せ）に生涯発達し続けるための「いのち」との共生について考えようとする努力の過程が認められない。
到達目標４	秀	授業で学んだ中から自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について、さらに情報をくわえ、「いのち」について理解を深めることにより自分の見解を述べることができる。
	優	授業で学んだ中から自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について、さらに情報をくわえ、「いのち」について理解を深めることができる。
	良	授業で学んだ中から自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について、さらに情報をくわえ、「いのち」について考えることができる。
	可	授業で学んだ中から自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について、さらに情報をくわえ、「いのち」について考えようとする努力の過程が認められる。
	不可	授業で学んだ中から自然界を含めたあらゆる「いのち」との共生について、さらに情報をくわえることもなく、「いのち」について考えようとする努力の過程が認められない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	80	20	0	0	0	0	100
到達目標１	20	5	0	0	0	0	25
到達目標２	20	5	0	0	0	0	25
到達目標３	20	5	0	0	0	0	25
到達目標４	20	5	0	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート
提出物	毎回の授業後に学びや感想を提出する。毎回の授業の内容から得た知識や、さらに自ら調べた内容も加味し「いのちと共生」に関する自分の見解を述べることが評価の対象となる。

履修に必要な知識・技能など
毎回担当者が変わり、担当者の専門とする内容から「いのちと共生」に関するテーマが展開されるため、履修者は全回出席が前提となる。さらに、テーマに関する内容を自分なりに予習をしておくことが学修を深めることに繋がる。

教科書・ISBN
使用しません。

参考書
随時紹介します。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
人類と地球環境 （F12150）	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	笹井隆邦
科目担当者	笹井隆邦							

授業の概要	現在、地球を取り巻く環境が深刻な状況になってきている。例えば地球温暖化、森林破壊、砂漠化などである。それらについて、現状、原因、影響、対策等を紹介し、環境問題について理解を深めたい。 また、自然に親しむため、可能な限り身近な生物を持ってきて実際に触れてもらいたい。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	ガイダンス・生物を分類してみよう（私たちも地球に生きる生物の一員である）	【事前】シラバスを熟読する (120 分) 【事後】どんな生物がいるか調べてみよう (120 分)
第 2 回	共生（あなたは 100 兆個の微生物と共生している）	【事前】共生について調べる (120 分) 【事後】manaba 小テスト（120 分)
第 3 回	地球温暖化よる生態系への影響（地球の温暖化により多くの生物に影響が及んでいる）	【事前】温暖化について調べる (120 分) 【事後】manaba 小テスト (120 分)
第 4 回	森林の減少と砂漠化（毎年兵庫県の面積の 6 倍の森林が消失している）	【事前】森林とは何か、砂漠化について調べる (120 分) 【事後】manaba 小テスト (120 分)
第 5 回	酸性雨（トマトジュースくらいの酸性の雨が降っている）	【事前】酸性雨について調べる (120 分) 【事後】manaba 小テスト (120 分)
第 6 回	里山・里海（里山ってどんなイメージ？）	【事前】里山について調べる (120 分) 【事後】manaba 小テスト (120 分)
第 7 回	外来生物（外来生物とは何か、私たちの生活にどのような影響があるのか）	【事前】外来生物について調べる (120 分) 【事後】manaba 小テスト (120 分)
第 8 回	発光生物（光る生物は何のために光っているのだろう？）	【事前】発光生物について調べる (120 分) 【事後】ゲンジボタルの生活史を調べる (120 分)

学修の到達目標	
到達目標 1	生物相互の関係に興味を持ち、何らかの形で学修を継続している。
到達目標 2	様々な環境問題に興味を持ち、何らかの形で学修を継続している。
到達目標 3	環境問題を改善するために何らかの形で学修を継続し行動している。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	生物相互の関係に興味を持ち、何らかの形で学修を継続している。
	優	生物相互の関係に興味を持ち、何らかの形で学修を継続している。
	良	生物相互の関係に興味を持ち、何らかの形で学修をしたことがある。
	可	生物相互の関係についての知見のみにとどまっている。
	不可	生物相互の関係についての知見が不十分である。
到達目標 2	秀	様々な環境問題に興味を持ち、何らかの形で学修を継続ている。
	優	様々な環境問題に興味を持ち、何らかの形で学修を継続している。
	良	様々な環境問題に興味を持ち、何らかの形で学修をしたことがある。
	可	様々な環境問題についての知見のみにとどまっている。
	不可	様々な環境問題についての知見が不十分である。
到達目標 3	秀	環境問題を改善するために何らかの形で学修を継続し行動している。
	優	環境問題を改善するために何らかの形で学修を継続している。
	良	環境問題を改善するために、何らかの形で学修をしたことがある。
	可	環境問題を改善するための知見のみにとどまっている。
	不可	環境問題を改善するための知見が不十分である。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	30	70	0	0	0	0	100
到達目標 1	10	35	0	0	0	0	45
到達目標 2	10	35	0	0	0	0	45
到達目標 3	10	0	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を実施する。
提出物	基礎知識の復習を目的とした manaba 小テスト

履修に必要な知識・技能など
“ 自然 ” に興味を持つ

教科書・ISBN
使用しません。

参考書
随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
暮らしの中の数学（F12160）	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	髙松邦彦
科目担当者	髙松邦彦							

授業の概要	数学は、科学的な思考全般の基本であり、近年、理系・文系を問わず、数理・データサイエンスを学ぶことが求められている。この授業は、以下の２つのコースを提供している。どちらかというと数学が苦手だった学生のための「ベーシックコース（Basic Course, BC)」と、どちらかというと数学が好きだった学生のための「アドバンスコース（Advanced Course, AC)」である。試験については、両コース同一の問題となる。 「ベーシックコース」では、数学的な可視化法や思考法を理解することを目的とする。対象は、高校で数Ⅰしか受講していない学生を想定している。数Ⅱ以上を受講していない学生は、統計学などでは、シグマ記号（Σ）を使うことがあるので、この授業を受講してほしい。 「アドバンスコース」では、様々な学問を十分理解するために、その背景にある、理系学部の初年次で学ぶ「数学」の概略を理解することを目的とする。内容が難しいので、覚悟を持って受講すること。 BC と AC を両方受講してもよい（ただし、単位は１科目分しか出ません)。この授業は、理研・文系問わず受講することができる。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（　）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （レ）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第１回	【BC】導入【AC】導入	【事前】教科書の予習（120 分） 【事後】一枚まとめと宿題（120 分）
第２回	【BC】暗算【AC】微分積分学とはなにか	【事前】教科書の予習（120 分） 【事後】一枚まとめと宿題（120 分）
第３回	【BC】自然数とシグマ（Σ）記号【AC】解析学とは	【事前】教科書の予習（120 分） 【事後】一枚まとめと宿題（120 分）
第４回	【BC】位相幾何学【AC】線形代数とは	【事前】教科書の予習（120 分） 【事後】一枚まとめと宿題（120 分）
第５回	【BC】非ユークリッド幾何【AC】幾何学とは	【事前】教科書の予習（120 分） 【事後】一枚まとめと宿題（120 分）
第６回	【BC】グラフ理論【AC】濃度とは	【事前】教科書の予習（120 分） 【事後】一枚まとめと宿題（120 分）
第７回	【BC】可視化とは【AC】数理統計学とは	【事前】教科書の予習（120 分） 【事後】一枚まとめと宿題（120 分）
第８回	【BC】まとめ【AC】まとめ	【事前】教科書の予習（120 分） 【事後】一枚まとめと宿題（120 分）

学修の到達目標	
到達目標１	数理データサイエンスの入門的なことを理解できる
到達目標２	数学について理解できる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	数理データサイエンスの入門的なことを理解できるのみならず、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができ、他者から評価されている。
	優	数理データサイエンスの入門的なことを理解できるのみならず、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	数理データサイエンスの入門的なことを理解できるのみならず、他者へ説明することができる。
	可	数理データサイエンスの入門的なことを理解できる。
	不可	数理データサイエンスの入門的なことを理解できない。
到達目標 2	秀	数学について理解できるのみならず、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができ、他者から評価されている。
	優	数学について理解できるのみならず、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	数学について理解できるのみならず、他者へ説明することができる。
	可	数学について理解できる。
	不可	数学について理解できない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	60	0	0	0	0	100
到達目標 1	20	30	0	0	0	0	50
到達目標 2	20	30	0	0	0	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を最終に行う。
提出物	授業毎に、A4 用紙 1 枚に授業のまとめを提出してもらい、理解しているかどうかを評価する。授業の最後に、15 回分のまとめを提出してもらい、理解しているかどうかを評価する。

履修に必要な知識・技能など
予習と復習を欠かさないこと。

教科書・ISBN
暮らしの中の数学（ベーシックコース編） 暮らしの中の数学（アドバンスコース編） 川純一監修 神戸常盤大学数理データサイエンス教育研究会編

参考書
適時紹介していきます。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
基礎統計学 （F12170）	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 必修 診療放射線学科 必修 口腔保健学科 必修 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	中田康夫
科目担当者	中田康夫、髙松邦彦							

授業の概要	近代統計学は、ライフサイエンス分野をはじめ、経済分野など様々な数理・データサイエンスで利用されている。最近の、エビデンスベースの研究においては、得られた実験データを、適切な方法で統計処理しなければならない。そのために、高校までに習得した確率・統計をもとに、数理・データサイエンスにおける基本的な部分である統計学の基本的な概念を理解する。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （レ）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	導入　（担当者：中田、高松）	【事前】教科書の P.10 ～ P.30 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した P.10 ～ P.30 について、一枚まとめを行う（120 分）
第 2 回	Σを使った表現方　（担当者：中田、高松）	【事前】教科書 P.31 ～ P.60 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した P.31 ～ P.60 について、一枚まとめを行う（120 分）
第 3 回	度数分布とヒストグラム　（担当者：中田、高松）	【事前】教科書 P.61 ～ P.90 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した P.61 ～ P.90 について、一枚まとめを行う（120 分）
第 4 回	様々な統計量　その 1（平均・分散・標準偏差） （担当者：中田、高松）	【事前】教科書の P.91 ～ P.120 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した P.91 ～ P.120 について、一枚まとめをおこなう（120 分）
第 5 回	様々な統計量その 2（CV・相関係数） （担当者：中田、高松）	【事前】教科書 P.121 ～ P.150 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した P.121 ～ P.150 について、一枚まとめをおこなう（120 分）
第 6 回	離散的と連続的の違いとは　（担当者：中田、高松）	【事前】教科書 P.151 ～ 180 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した P.151 ～ P.180 について、一枚まとめを行う（120 分）
第 7 回	確率と確率密度関数　（担当者：中田、高松）	【事前】教科書 P.181 ～ 210 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した P.181 ～ 210 について、一枚まとめを行う（120 分）
第 8 回	まとめ　（担当者：中田、高松）	【事前】これまでのまとめを読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明したすべての内容のまとめを行う（120 分）

学修の到達目標	
到達目標１	統計量とは何かを理解し、いくつかの統計量について求めることができる。
到達目標２	離散的な統計と、連続量の統計の違いを理解する。
到達目標３	数理・データサイエンスの基礎としての統計学を理解すること。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	統計量について理解できているのみならず、授業で習う統計量を自分で求めることができ、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができ、他者から評価されている。
	優	統計量について理解できているのみならず、授業で習う統計量を自分で求めることができ、かつ、他者へ説明することができ、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	統計量について理解できているのみならず、授業で習う統計量を求められ、他者へ説明することができる。
	可	統計量を理解できる。
	不可	統計量を理解できない。
到達目標２	秀	離散的と連続的な統計の違いについて理解でき、他者へ説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる、加えて他者から評価されている。
	優	離散的と連続的な統計の違いについて理解でき、他者へ説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	離散的と連続的な統計の違いについて理解でき、他者へ説明することができる。
	可	離散的と連続的な統計の違いについて理解できる。
	不可	離散的と連続的な統計の違いについて理解できない。
到達目標３	秀	数理・データサイエンスの基礎としての統計学を理解でき、他者へ説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる、加えて他者から評価されている。
	優	数理・データサイエンスの基礎としての統計学を理解でき、他者へ説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	数理・データサイエンスの基礎としての統計学を理解でき、他者へ説明することができる。
	可	数理・データサイエンスの基礎としての統計学を理解できる。
	不可	数理・データサイエンスの基礎としての統計学を理解できない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	60	0	0	0	0	100
到達目標１	20	30	0	0	0	0	50
到達目標２	10	15	0	0	0	0	25
到達目標３	10	15	0	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を、最終に行う。
提出物	授業毎に、A4 用紙 1 枚に授業のまとめを提出してもらい、理解しているかどうかを評価する。授業の最後に、8 回分のまとめを提出してもらい、理解しているかどうかを評価する。

履修に必要な知識・技能など
統計量とは何かを理解し、平均や標準偏差など授業で習った統計量を算出できるようになること。離散的な統計と、連続量の統計の違いを理解すること。確率の定義及び、確率密度関数がどのようなものかを理解すること。 予習と復習を欠かさないこと。

教科書・ISBN
統計学　～記述統計学篇～　川純一監修 神戸常盤大学数理データサイエンス教育研究会編

参考書
適時お示しします

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
暮らしの中の物理学 （F12180）	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 自由 口腔保健学科 自由 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	髙久圭二
科目担当者	髙久圭二							

授業の概要	日常生活は、物理現象の連続である。かつてペストの流行で大学が閉鎖された時に、ニュートンはリンゴが木から落ちたのを見て、万有引力に気づいたように、疑問を持つ能力によって、物理法則は発見されてきた。不思議な物理現象を体験すれば、疑問を持ち、それを物理法則で説明できれば、暮らしの中の物理も理解できる。この授業では、力学、電磁気、熱と気体、音、光、放射線について体験してもらいながら説明し、日常生活に潜む物理現象を見つけ出すとともに、その不思議について考えてもらう。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（　）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	大きさ、時間、重さの単位、次元:原子核から宇宙の謎まで、現代物理学を知ろう。	【事前】単位､次元に関する内容の読解（120 分相当） 【事後】学習内容の振り返り（120 分相当）
第 2 回	放射線：霧箱を作って、放射線を観察してみよう。エアカウンターを用いて、自然環境放射線を調べよう。	【事前】放射線に関する内容の読解（120 分相当） 【事後】学習内容の振り返り（120 分相当）
第 3 回	光：分光器を作って、光を分離してみよう。マイケルソン干渉計で光の性質を調べよう。	【事前】光に関する内容の読解（120 分相当） 【事後】学習内容の振り返り（120 分相当）
第 4 回	電磁気：ハミルトンの回転子を作って、なぜ回るかを考えてみよう。マイスナー効果を観察してみよう。	【事前】電磁気に関する内容の読解（120 分相当） 【事後】学習内容の振り返り（120 分相当）
第 5 回	音：ドップラー効果や共鳴現象を体験して、なぜそうなるかを考えてみよう。	【事前】音に関する内容の読解（120 分相当） 【事後】学習内容の振り返り（120 分相当）
第 6 回	熱と気体：気体の状態方程式を体験して、現象を理解してみよう。	【事前】熱と気体に関する内容の読解（120 分相当） 【事後】学習内容の振り返り（120 分相当）
第 7 回	力学：フーコーの振り子で、地球の自転を実感し、重力加速度を測定しよう。	【事前】力学に関する内容の読解（120 分相当） 【事後】学習内容の振り返り（120 分相当）
第 8 回	各自一番興味を持ったテーマを選んで、工夫をして再実験をし、学んだことをまとめてみよう。核と環境について検討しよう。	【事前】総括に関する内容の読解（120 分相当） 【事後】学習内容の振り返り（120 分相当）

学修の到達目標	
到達目標 1	暮らしの中に現れる物理現象を理解し、それを利用できる。学んだことをまとめることができる。現代社会や日常生活に関わる物理学に関する知識を身につけている
到達目標 2	根拠に基づき、論理的に考えることができる
到達目標 3	学んだことを理解しやすい形にまとめることができる

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	学んだ知識を満足できる水準を超えて理解し、身につけている。
	優	学んだ知識を十分満足できる水準まで理解し、身につけている。
	良	学んだ知識を理解し、身につけている。
	可	やや努力を要する面もあるが、最小限の知識は理解し、身につけている。
	不可	知識を全く身につけていない。得ようとする姿勢も見られない。
到達目標２	秀	学んだ知識に基づき、論理的に思考でき、満足できる水準を超えている。
	優	学んだ知識に基づき、論理的に思考でき、満足できる水準に達している。
	良	学んだ知識に基づき、論理的に思考することができる。
	可	学んだ知識に基づき、論理的に思考しようとする努力が認められる。
	不可	学んだ知識に基づき、論理的に思考することができない。
到達目標３	秀	学んだこと十分にまとめることができ、他者が参考にできるレベルにある。
	優	学んだことを十分にまとめることができる。
	良	学んだことをまとめることができる。
	可	学んだことを不十分ではあるが、まとめることができる。
	不可	学んだことをまとめることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	60	0	0	0	0	100
到達目標１	20	20	0	0	0	0	40
到達目標２	20	20	0	0	0	0	40
到達目標３	0	20	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験
提出物	レポート

履修に必要な知識・技能など
暮らしの中に現れる物理現象に興味・関心を持つ。自律的に授業に参加する態度。

教科書・ISBN
適宜、教材・資料等は配布する

参考書
使用しない

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
人体のふしぎ（F12200）	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	岩越美恵
科目担当者	岩越美恵、塩谷英之、新谷路子、杉山育代、田村周二、山城圭介							

授業の概要	人体の構造と機能に関する解剖学や生理学といった学問への体系導入前に、人体のしくみとはたらきの合目的な「からだの不思議」を知る。授業は、コンピューターグラフィック（CG）を利用した視覚教材等を用いて、生命活動を営む神秘に触れる。また、不思議を自ら探り、情報収集して見識を広げ、グループでもまとめて知識を共有する。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（レ）その他（自分で興味を持って情報収集）
教員の実務経験	

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション“ 脳 “ ひらめきと記憶の正体（担当者：岩越）	【事前】シラバスを読んでおく。人のからだや健康に関する新しい知見についてインターネット以外に新聞や科学誌や興味の湧く本などを見つけておく。(100 分) 【事後】授業の内容を振り返りながら、課題作成と提出（125 分）
第 2 回	驚きのパワー!“ 脂肪と筋肉 ” が命を守る　（担当者：塩谷）	【事前】テーマに関して興味のある記事を探して事前学習（100 分） 【事後】授業の内容を振り返りながら、課題作成と提出（125 分）
第 3 回	尿からわかる体のあれこれ　（担当者：新谷）	【事前】manaba に公開した資料を熟読して、テーマに関する事前学修（125 分） 【事後】授業の内容を振り返りながら、課題作成と提出（125 分）
第 4 回	万病から守る！『免疫力』を司る腸　（担当者：杉山）	【事前】manaba に公開した資料を熟読して、テーマに関する事前学修（125 分） 【事後】授業の振り返りながら、課題作成と提出（100 分）
第 5 回	体のしなやかなポンプとホース〜心臓・血管〜（担当者：田村）	【事前】manaba に公開した資料を熟読して、テーマに関する事前学修（100 分） 【事後】授業の内容を振り返りながら、課題作成と提出（125 分）
第 6 回	口腔のふしぎ　（担当者：山城）	【事前】manaba に公開した資料を熟読して、テーマに関する事前学修（100 分） 【事後】授業の内容を振り返りながら、課題作成と提出（125 分）
第 7 回	骨が出す！最高の若返り物質　（担当者：安藤） 8 回目の授業の説明　（担当者：岩越）	【事前】テーマに関して興味のある記事を探して事前学習（100 分） 【事後】授業の内容を振り返りながら、課題作成と提出（125 分）

第 8 回	7つのテーマ別グループ発表　（担当者：科目担当者全員）	【事前】事前に出された課題に関するグループワーク（180 分） 【事後】全班の発表を聴いて、興味を持ったことを調べる。(65 分)

学修の到達目標	
到達目標 1	学ぶことが、愉しいことであることを知り、自ら興味を持って積極的に学修することができる。
到達目標 2	情報を収集しそれらを情報を整理・分析し、他者に伝えるためにまとめることができる。
到達目標 3	仲間と共に、学んだことを出し合い、それらをまとめることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学習へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと悦びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができない。
到達目標 2	秀	情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析・活用できない。
到達目標 3	秀	かなり自発的に仲間に貢献できる。それにより仲間のモチベーションを高めることもできる。また自分の公権力を社会に還元することもできる。
	優	かなり自発的に仲間に貢献できる。それにより仲間のモチベーションを高めることもできる。
	良	ある程度自発的に仲間に貢献できる。
	可	他者から指示されれば、仲間に対して何らかの貢献はできる。
	不可	貢献への積極性がなく、周囲のモチベーションを下げてしまう。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	15	70	15	0	0	0	100
到達目標 1	0	35	5	0	0	0	40
到達目標 2	15	0	5	0	0	0	20
到達目標 3	0	35	5	0	0	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	学期末に筆記定期テストを施行する。
提出物	毎回の授業のテーマについて、各自が興味を持ったことに関して情報収集し整理してまとめる。 授業の内容についての小テスト。（グループで学びを確認できる）
成果発表（口頭・実技）	最後の授業で、与えられたテーマについて、各グループメンバーが集めた興味ある情報を他の班の人に伝えるために班でまとめて発表する。

履修に必要な知識・技能など
・真理探究、人間探究への好奇心 ・個性ある学びを仲間のために活かしあう社会性

教科書・ISBN
使用しません

参考書
NHK スペシャル 人体 神秘の巨大ネットワーク　DVD

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
現代社会と生命科学 （F12210）	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	松元英理子
科目担当者	松元英理子							

授業の概要	21 世紀は生命科学の時代と言われ、生命現象の謎が次々と解明され、新しい技術が開発されています。そしてそれらの技術は科学者だけのものではなく、社会と深く関わりを持ち、私たちの生活にも大きな影響を与えています。私たちは、生命科学の技術を享受するかどうか、一人一人が判断を迫られる時代に生きているのです。この科目では、現在話題となっている生命科学のニュースを取り上げ、まずそれらを理解するための生命科学の基礎知識を学び、次に正しい知識を基に自分自身に関わりのある問題として考え、議論することを目的とします。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	ガイダンス、生命科学のニュース 生命科学の基礎の基礎：ヒト～細胞～遺伝子	【事前】シラバスを読む（15 分） 【事後】manaba 小テスト（生命科学の基礎）（100 分）
第 2 回	テーマ①　消費者直結型遺伝子検査 ～ネットで気軽に遺伝子検査？ 遺伝子と疾患のかかわり、遺伝子でわかること	【事前】インターネット上の消費者直結型遺伝子検査のサイトを閲覧する（100 分） 【事後】manaba 小テスト（遺伝子と疾患、遺伝子検査）（100 分）
第 3 回	テーマ②　新型出生前遺伝子診断 ～お母さんの血液で出生前診断？ 遺伝子と染色体、染色体異常	【事前】新型出生前遺伝子診断（NIPT）に関するニュースを調べる（100 分） 【事後】manaba 小テスト（染色体異常、出生前診断）（100 分）
第 4 回	テーマ③　遺伝子組換え食品・ゲノム編集食品 ～あなたは食べる？ 遺伝子を書き換える技術	【事前】遺伝子組換え食品・ゲノム編集食品に関するニュースを調べる（100 分） 【事後】manaba 小テスト（遺伝子組換え・ゲノム編集）（100 分）
第 5 回	テーマ④　新型コロナウイルスの検査 免疫のしくみ、色々な検査法	【事前】新型コロナウイルスの検査に関するニュースを調べる（100 分） 【事後】manaba 小テスト（ウイルスの検査）（100 分）
第 6 回	グループワーク①（manaba プロジェクト機能）：manaba チームスレッドにグループ討議に必要な情報を収集し、討議の準備を行う。	【事前】与えられたテーマについて、グループでの討議に必要な情報を収集して manaba に投稿する（150 分） 【事後】チームメンバーが投稿した情報を読み、質問する。（50 分）
第 7 回	グループワーク②（manaba プロジェクト機能）：チーム内でテーマに対する各々の考えを共有する	【事前】テーマに対する自身の考えを簡潔にまとめ、manaba に投稿する（150 分） 【事後】チームメンバーが投稿した意見に対してコメントを投稿する（50 分）
第 8 回	グループワーク③（manaba プロジェクト機能）：チームスレッド上での討議を通して自己と他者の意見を対比させ、自己の考えを更に深める。	【事前】プロジェクトのチームスレッドにコメントする（100 分） 【事後】定期試験に向けた学修（385 分）

学修の到達目標	
到達目標１	1）現在、話題となっている生命科学のニュースおよびその問題点について ①ニュースを理解するための基礎的な生命科学の知識を理解し身につける。
到達目標２	②論理的・批判的に考察できる。
到達目標３	③グループワークを通して自己と他者の考えを対比させ・まとめ・表現できる。
到達目標４	2）グループワークに貢献できる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	必要な知識を満足できる水準を超えて理解し身につけている。さらに自主的な学修で知識を拡げることができる。
	優	必要な知識を充分満足できる水準にまで理解し身につけている。
	良	必要な知識を理解し身につけている。
	可	やや努力を要する面もあるが、必要最低限の知識は理解し身につけてはいる。
	不可	必要な知識を理解し身につけることができていない。
到達目標２	秀	学んだ知識に基づき、独自の視点をもって論理的かつ批判的に思考することができる。
	優	学んだ知識に基づき、論理的かつ批判的に思考することができ、満足できる水準に達している。
	良	学んだ知識に基づき、論理的又は批判的に思考することができる。
	可	学んだ知識に基づき、論理的又批判的に思考しようとする努力が認められる。
	不可	学んだ知識に基づき、論理的・批判的に思考することができない。
到達目標３	秀	自己と他者の意見を対比させ・まとめ・独自の視点をもってわかりやすく表現できる。
	優	自己と他者の意見を対比させ・まとめ・表現でき、満足できる水準に達している。
	良	自己と他者の意見を対比させ・まとめ・表現できる。
	可	自己と他者の意見を対比させることはできるが、それをまとめ・表現することは努力を要する。
	不可	自己と他者の意見を対比させて思考することができない。
到達目標４	秀	自発的にグループワークに貢献し、グループワークを円滑に進め、リーダーシップを発揮できる。
	優	自発的にグループワークに貢献し、グループワークを円滑に進めることができる。
	良	自発的にグループワークに貢献できる。
	可	他者から指示されれば、グループワークに貢献することができる。
	不可	グループワークに貢献することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 （口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	40	0	0	0	10	100
到達目標１	20	30	0	0	0	0	50
到達目標２	20	10	0	0	0	3	33
到達目標３	10	0	0	0	0	2	12
到達目標４	0	0	0	0	0	5	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験を実施します。
提出物	基礎知識の復習を主な目的とした manaba 小テスト。講義資料やノートなどを見ながら答えてください。
その他	manaba 上のグループワーク（討議への積極的な参加、事前の情報収集、投稿コメントなど）

履修に必要な知識・技能など
1）生命科学の基礎は、高等学校の「生物基礎」の復習レベルから始めますが、高等学校で生物学を十分に学んでこなかった方は、新しい知識を取り込む意欲をもって臨んでください。 2）メディアに取り上げられる生命科学のニュースに興味を持ってください。

教科書・ISBN
使用しません。

参考書
随時紹介します。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
安全学 （F12220）	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	伴仲謙欣
科目担当者	伴仲謙欣、馬場栄二、金千秋、西岡伸紀、柴山慶太、本田英理、菊地隆之							

授業の概要	現代社会に生きる私たちは、「いつでも」「どこでも」災害や事故等により、「安全」を脅かされる可能性を有しています。そのため、天災（地震、パンデミック、台風、大雨、洪水、津波、火山爆発･･･）ばかりでなく、人災（事件、事故等）にも備えることが求められます。将来、”いのち”を支える専門職を目指すためには、幅広い視点から「安全」について学び、その実践的な教養を身に付けておくことが大切でしょう。本講義は、地域の講師陣によるオムニバス形式で展開し、様々な分野、立場から多角的に「安全」を考えます。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	この講義の進め方／「安全」についての基礎理解 （担当者：伴仲）	【事前】シラバスの熟読と災害・事件・事故に関する新聞記事の閲覧（120 分） 【事後】本時のまとめ ※要提出（120 分）
第 2 回	1.17 から考えるいのちと安全：阪神・淡路大震災は、大きな課題と教訓を残した。コミュニティでのいのちと安全を専門家から学びます。（担当者：金）	【事前】災害・事件・事故に関する新聞記事の閲覧（120 分） 【事後】本時のまとめ ※要提出（120 分）
第 3 回	人間から考える安全：学校における安全教育を通し、環境整備（教材、養成、研修、体制等）について、教育の専門家より学びます。（担当者：西岡）	【事前】災害・事件・事故に関する新聞記事の閲覧（120 分） 【事後】本時のまとめ ※要提出（120 分）
第 4 回	地域・歴史から考える安全：私達は、いつでも、どこでも、誰でも災害に遭う可能性がある。災害からの安全を、専門家より学びます。（担当者：馬場）	【事前】災害・事件・事故に関する新聞記事の閲覧（120 分） 【事後】本時のまとめ ※要提出（120 分）
第 5 回	企業の視点から考える安全：企業の組織やシステム（マネジメント・保守管理・安全活動）上の安全を学びます。 （担当者：菊地）	【事前】災害・事件・事故に関する新聞記事の閲覧（120 分） 【事後】本時のまとめ ※要提出（120 分）
第 6 回	社会制度（法律）から考える安全:私達が、社会制度（保険･裁判・刑法・試験）により守られている安全を、専門家より学びます。（担当者：柴山）	【事前】災害・事件・事故に関する新聞記事の閲覧（120 分） 【事後】本時のまとめ ※要提出（120 分）
第 7 回	社会から考える安全：社会には無数の危険がある。生きる上で必要な情報についての危機管理と安全について、専門家より学びます。（担当者：本田）	【事前】災害・事件・事故に関する新聞記事の閲覧（120 分） 【事後】本時のまとめ ※要提出（120 分）
第 8 回	まとめと発展：これまで学んできた内容の振り返り （担当者：伴仲）	【事前】 【事後】定期試験の準備（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	幅広い視点から「安全」を捉えて“自分事”に結びつけた上で、主体的に行動するための判断基準や筋道を論理的に導き出すことができる。
到達目標 2	「安全」に関する幅広い学びを自ら深めることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	幅広い視点から「安全」を捉えて“ 自分事 ” に結びつけた上で、主体的に行動するための判断基準や筋道を論理的に導き出すことができ、その内容がとりわけ秀でている。
	優	幅広い視点から「安全」を捉えて“ 自分事 ” に結びつけた上で、主体的に行動するための判断基準や筋道を論理的に導き出すことができ、その内容が秀でている。
	良	幅広い視点から「安全」を捉えて“ 自分事 ” に結びつけた上で、主体的に行動するための判断基準や筋道を論理的に導き出すことができる。
	可	幅広い視点から「安全」を捉えて“ 自分事 ” に結びつけることができる。
	不可	幅広い視点から「安全」を捉えて“ 自分事 ” に結びつけることができない。
到達目標 2	秀	「安全」に関する幅広い学びを自ら深めることができ、その内容がとりわけ秀でている。
	優	「安全」に関する幅広い学びを自ら深めることができ、その内容が秀でている。
	良	「安全」に関する幅広い学びを自ら深めることができる。
	可	「安全」に関する学びを自ら深めることができる。
	不可	「安全」に関する学びを自ら深めることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	40	0	0	0	10	100
到達目標 1	50	0	0	0	0	0	50
到達目標 2	0	40	0	0	0	10	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	定期試験としてレポート試験を実施する。
提出物	時間外学修（事後学修）として、毎時、講義のまとめの提出を求める。
その他	アクティブラーナー（主体的学修者）としての姿勢を評価する。

履修に必要な知識・技能など
・大学生としての自覚と学問に対する興味・関心を持って、地域の講師陣に対して積極的かつ真摯に学ぶ姿勢で臨んでください。 ・毎回、授業外の課題として講義のまとめの提出を求めますが、成績評価上、この記載内容を重視しますのでしっかりと取り組んでください。 ・（特に）授業テーマに関連する新聞記事を読む習慣を身につけてください。

教科書・ISBN

参考書
必要が生じた場合、適宜紹介する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
人類と農学 （F12230）	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	大菅誠司
科目担当者	大菅誠司							

授業の概要	私たち人類は外部から栄養をとらなければなりません。そのためには植物（作物、野菜、草花、バイオなど）のことを知っておく必要があります。それらを利用・応用しているのが農業です。私たちの身の周りの植物について、一緒に楽しく見ていきましょう。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション。農学とはどのような領域の学問か、全体像を理解する。	【事前】シラバスの熟読。他大学の農学部のホームページを見て、どういう研究が行われているか調べる。(120 分) 【事後】本日の講義内容をノートにまとめる。自分の考えも述べる。(120 分)
第 2 回	農業はいつから始まったか、人類と農業とのかかわり、現在の日本の農業について概観する。植物について分類・組織構造等基本的な説明。	【事前】農業の歴史、現在の農業について予習。植物の基本構造を調べる。(120 分) 【事後】本日の講義内容をノートにまとめる。自分が考えたことも述べる。(120 分)
第 3 回	作物について、どのような作物があるか、その栽培や利用についての説明。	【事前】作物の種類・利用について予習。(120 分) 【事後】本日の講義内容をノートにまとめる。印象に残った作物についての感想、調べたことの記述。(120 分)
第 4 回	花卉について。花の種類・栽培、繁殖方法について。	【事前】花の園芸的分類について調べる。増殖方法、栽培法について予習。(120 分) 【事後】本日の講義内容をノートにまとめる。今までに栽培したことのある花をあげ、作ったときの感想を述べる。(120 分)
第 5 回	野菜について。野菜の種類・栽培について。珍しい野菜の食べ方について。	【事前】野菜の種類（分類）について予習。よく食べる野菜について原産地を調べる。(120 分) 【事後】本日の講義内容をノートにまとめる。今までに目にした珍しい野菜（食べ方も含め）があれば記述してください。(120 分)
第 6 回	植物バイオについて。植物組織培養とは。ラン類等への利用について。品種登録について。	【事前】農業における植物バイオについて予習。どのように利用されているかなど。(120 分) 【事後】本日の講義内容をノートにまとめる。バイオでどのようなことができたら良いと思いますか。(120 分)
第 7 回	今までの補足。これまでの講義内容について自分なりに考えたことの学生による発表。	【事前】PowerPoint による発表の準備。(120 分) 【事後】自分以外の発表についての感想・意見をまとめる。(120 分)

第 8 回	これまでの講義内容について自分なりに考えたことの学生による発表。 まとめ。	【事前】PowerPoint による発表の準備。(120 分) 【事後】自分以外の発表についての感想・意見をまとめる。 講義全体を振り返り、感想などを記述する。(120 分)

学修の到達目標	
到達目標 1	農学に関する基本的知識や人間と農業のかかわりあいを理解し、それらを説明することができる。
到達目標 2	植物の分類、構造、成長特性を理解し、それらを説明することができる。
到達目標 3	作物、野菜についてその分類や栽培方法を理解し、それらを説明することができる。
到達目標 4	花卉についてその分類や繁殖・栽培方法を理解し、そして、植物バイオについてその方法や利用を理解し、それらを説明することができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	農学に関する基本的知識や人間と農業のかかわりあいを理解でき、それらを他者に説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる。加えて他者から評価されている。
	優	農学に関する基本的知識や人間と農業のかかわりあいを理解でき、それらを他者に説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	農学に関する基本的知識や人間と農業のかかわりあいを理解でき、それらを他者に説明することができる。
	可	農学に関する基本的知識や人間と農業のかかわりあいを理解できる。
	不可	農学に関する基本的知識や人間と農業のかかわりあいを理解できない。
到達目標 2	秀	植物の分類、構造、成長特性を理解でき、それらを他者に説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる。加えて他者から評価されている。
	優	植物の分類、構造、成長特性を理解でき、それらを他者に説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	植物の分類、構造、成長特性を理解でき、それらを他者に説明することができる。
	可	植物の分類、構造、成長特性を理解できる。
	不可	植物の分類、構造、成長特性を理解できない。
到達目標 3	秀	作物、野菜についてその分類や栽培方法を理解でき、それらを他者に説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる。加えて他者から評価されている。
	優	作物、野菜についてその分類や栽培方法を理解でき、それらを他者に説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	作物、野菜についてその分類や栽培方法を理解でき、それらを他者に説明することができる。
	可	作物、野菜についてその分類や栽培方法を理解できる。
	不可	作物、野菜についてその分類や栽培方法を理解できない。
到達目標 4	秀	花卉についてその分類や繁殖・栽培方法を理解でき、かつ、植物バイオについてその方法や利用を理解でき、それらを他者に説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる。加えて他者から評価されている。
	優	花卉についてその分類や繁殖・栽培方法を理解でき、かつ、植物バイオについてその方法や利用を理解でき、それらを他者に説明でき、さらに他者が理解する手助けをすることができる。
	良	花卉についてその分類や繁殖・栽培方法を理解でき、かつ、植物バイオについてその方法や利用を理解でき、それらを他者に説明することができる。
	可	花卉についてその分類や繁殖・栽培方法を理解でき、かつ、植物バイオについてその方法や利用を理解できる。
	不可	花卉についてその分類や繁殖・栽培方法を理解できない。植物バイオについてその方法や利用を理解できない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	20	20	0	0	0	100
到達目標１	15	5	5	0	0	0	25
到達目標２	15	5	5	0	0	0	25
到達目標３	15	5	5	0	0	0	25
到達目標４	15	5	5	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	定期試験では、授業で学んだことがよく理解できているかを見る。試験では、単に覚えたではなく、自分たちの問題としてとらえられているか判断する。
提出物	毎回授業で植物に関する小テストを行い、理解度を評価する。 最後の授業で、予習、復習、授業内容などのレポートを提出し、理解度を評価する。（従って、毎回まとめておくことが必要）
成果発表（口頭・実技）	最後の授業で、農業・植物・環境について自分なりのまとめをパワーポイントで発表する。全員による質疑応答の時間も設ける。（履修者人数により発表時間・日程を変更することがある）発表内容により、講義の理解度を評価する。

履修に必要な知識・技能など
植物、農業、食品、環境などに興味を持っていれば理解が深まる。予習・復習は必ずやること。不必要な私語は慎むこと。

教科書・ISBN
必要性が出てきたときに随時紹介する。

参考書
必要性が出てきたときに随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
プログラミング入門 （F12240）	演習	1	15	1	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	関雅幸
科目担当者	関雅幸							

授業の概要	「プログラミング」技術の基礎を習得する。 プログラミングとはプログラミング言語を使って、コンピュータに行わせたい仕事の手順を記述することである。今後、人工知能が著しく進化して、仕事のやり方が変わることが予測される社会において、コンピュータに何をやらせるかを考えることができる思考を持つことが重要となる。この授業では、Scratch というプログラミングツールを用いてプログラムを作成してもらう。前半は基本的な事柄の説明を聞き、演習を行ってもらう。後半はグループに分かれてオリジナルプログラムを作成してもらう。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	Scratch を使う準備、Scratch の基本	【事前】シラバスの内容の熟読（20 分） 【事後】疑問点を確認し、再考する（150 分）
第 2 回	プログラムの流れを知る	【事前】メッセージの送受信の方法等を教科書で確認する（60 分） 【事後】第 2 回の中でうまくできないところを再考する（140 分）
第 3 回	変数・配列について	【事前】変数や配列の使い方を教科書で確認する（60 分） 【事後】第 3 回の中でうまくできないところを再考する（140 分）
第 4 回	構造化プログラミングについて	【事前】処理の構造等を教科書で確認する（60 分） 【事後】第 4 回の中でうまくできないところを再考する（140 分）
第 5 回	オリジナルプログラムに挑戦Ⅰ：概要を決め、コードを書く	【事前】どんなものを作るか考える（150 分） 【事後】終わらない部分を作る（140 分）
第 6 回	オリジナルプログラムに挑戦Ⅱ：問題点の抽出、改善	【事前】問題点を考える（110 分） 【事後】不十分な点がないか考える、終わらない部分を作る（140 分）
第 7 回	オリジナルプログラムに挑戦Ⅲ：テストそして改善	【事前】テストする項目を考える（110 分） 【事後】さらなる工夫ができないか考える（140 分）
第 8 回	プログラムのチェック・まとめ	【事前】確認すべき事柄を考える（110 分） 【事後】プログラムの説明・使い方の文章を考える（140 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	コンピュータに行わせたいことを論理的に考えることができるようになる。
到達目標 2	様々な考えや知識を総合して課題の解決策をデザインすることができるようになる。
到達目標 3	誰かの役に立つことに悦びを感じ、具体的に行動することができるようになる。
到達目標 4	授業で学び、感じたことをまとめることができるようになる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	コンピュータに行わせたいことをコンピュータが実行できる手順に置き換えることができ、満足できる水準を超えている。
	優	コンピュータに行わせたいことをコンピュータが実行できる手順に置き換えることができ、満足できる水準に達している。
	良	コンピュータに行わせたいことをコンピュータが実行できる手順に置き換えることができる。
	可	コンピュータに行わせたいことをコンピュータが実行できる手順に置き換えようとする努力が認められる。
	不可	コンピュータに行わせたいことをコンピュータが実行できる手順に置き換えることができない。
到達目標 2	秀	様々な知識や考えを統合して課題解決策をデザインすることができ、満足できるレベルを超えている。
	優	様々な知識や考えを統合して課題解決策をデザインすることができ、十分満足できるレベルである。
	良	ある程度様々な知識や考えを統合して課題解決策をデザインすることができる。
	可	様々な知識や考えを統合して課題解決策をデザインしようとする努力が認められる。
	不可	課題解決策をデザインすることができない。
到達目標 3	秀	かなり自発的に周囲に貢献できる。
	優	充分に自発的に周囲に貢献できる。
	良	ある程度自発的に周囲に貢献できる。
	可	周囲に何らかの貢献をしようとする努力が認められる。
	不可	貢献への積極性がない。
到達目標 4	秀	学んだこと・感じたことを十分にまとめることができ、他者が参考にできるレベルにある。
	優	学んだこと・感じたことを十分にまとめることができる。
	良	学んだこと・感じたことをまとめることができる。
	可	学んだこと・感じたことを不十分ではあるが、まとめることができる。
	不可	学んだこと・感じたことをまとめることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	30	30	0	40	0	0	100
到達目標 1	0	0	0	40	0	0	40
到達目標 2	15	0	0	0	0	0	15
到達目標 3	15	0	0	0	0	0	15
到達目標 4	0	30	0	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験
提出物	1 枚まとめ
作品	プログラム

履修に必要な知識・技能など
コンピュータに関する基本的な知識があり、コンピュータに行わせたい課題に対して興味・関心がある。

教科書・ISBN
9784822286170　『Scratch で学ぶ　プログラミングとアルゴリズムの基本 改訂第 2 版』　中植正剛他 著　日経 BP 社

参考書
『楽しく学ぶ　アルゴリズムとプログラミングの図鑑』森巧尚、まつむらまきお（イラスト）著 マイナビ出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
日本国憲法 （F12250）	講義	2	30	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	看護学科 養教免必修 こども教育学科 保育士選択必修 こども教育学科 幼教免必修 こども教育学科 小教免必修	柴山慶太
科目担当者	柴山慶太							

授業の概要	憲法の役割を考察した上で、日本国憲法の人権規定の部分を中心に概説する。 公共の福祉の意義、精神的自由と経済的自由の違い、違憲審査基準を学習した後、判例を分析しながら各人権規定を確認していく。統治、平和主義、憲法改正などについても触れる予定である。 基本は講義形式となる。とはいえ、講義の中ではできるだけ皆で考える機会を作り、対話形式の授業にしたいと考えている。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	【オリエンテーション、憲法とは何か】提示された判例を元に、共通点を考える。社会契約論についても触れる。	【事前】シラバスの通読（120 分） 【事後】指定範囲の教科書通読（120 分）
第 2 回	【公共の福祉】 人権制約の必要性とその根拠について、具体例を元に考える。	【事前】指定範囲の教科書通読（120 分） 【事後】指定範囲の教科書通読（120 分）
第 3 回	【憲法の構造】個人の尊厳を中心とする人権規定と、これを支える統治機構について概観する。	【事前】指定範囲の教科書通読（120 分） 【事後】指定範囲の教科書通読（120 分）
第 4 回	【精神的自由概要】精神的自由と呼ばれる人権にはどういうものがあるか、概観する。	【事前】指定範囲の教科書通読（120 分） 【事後】指定範囲の教科書通読（120 分）
第 5 回	【経済的自由概要】経済的自由と呼ばれる人権にはどういうものがあるか、概観する。	【事前】指定範囲の教科書通読（120 分） 【事後】指定範囲の教科書通読（120 分）
第 6 回	【二重の基準】精神的自由と経済的自由で、なぜ違憲審査基準を異にすべきであるのか考える。	【事前】指定範囲の教科書通読（120 分） 【事後】指定範囲の教科書通読（120 分）
第 7 回	【精神的自由各論】 19 条、21 条について、判例を元に検討する。	【事前】指定範囲の教科書通読（120 分） 【事後】指定範囲の教科書通読（120 分）
第 8 回	【経済的自由各論】 22 条、29 条について、判例を元に検討する。	【事前】指定範囲の教科書通読（120 分） 【事後】指定範囲の教科書通読（120 分）
第 9 回	【平等権】 14 条の平等の意味、違憲審査基準を考える。	【事前】指定範囲の教科書通読（120 分） 【事後】指定範囲の教科書通読（120 分）
第 10 回	【その他の人権】 生存権など、その他の人権について概観する。	【事前】指定範囲の教科書通読（120 分） 【事後】指定範囲の教科書通読（120 分）
第 11 回	【これまでの復習】（小テストも予定）	【事前】指定範囲の教科書通読（120 分） 【事後】指定範囲の教科書通読（120 分）
第 12 回	【司法権の役割、憲法訴訟のルール】司法権の役割を知り、なぜ合憲限定解釈などのルールがあるのかを考える。	【事前】指定範囲の教科書通読（120 分） 【事後】指定範囲の教科書通読（120 分）
第 13 回	【統治（立法権、行政権）】国会、内閣の役割と権力分立構造を見る。なぜ代表民主制が必要か検討する。	【事前】指定範囲の教科書通読（120 分） 【事後】指定範囲の教科書通読（120 分）
第 14 回	【平和主義】 平和主義について、政府見解・判例分析などを通じて検討する。	【事前】指定範囲の教科書通読（120 分） 【事後】指定範囲の教科書通読（120 分）

第 15 回	【憲法改正、まとめ】政府の憲法改正案について、これまでの知識を使って、その是非を議論する。	【事前】指定範囲の教科書通読（120 分） 【事後】指定範囲の教科書通読（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	憲法の役割について理解する。 憲法が保障する権利、自由がどういうものであるかを理解する。
到達目標 2	憲法の各規定を、実際の生活でどう活用できるかを考えることができるようになる。 憲法の各規程を適用して、違憲か合憲かの判断を自分なりにできるようになる。
到達目標 3	憲法改正について、その内容の是非を判断できるようになる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	憲法の役割について十分に理解し、説明することができる。 憲法が保障する権利、自由がどういうものであるか、十分に理解し、説明することができる。
	優	憲法の役割について十分に理解している。 憲法が保障する権利、自由がどういうものであるか、十分に理解している。
	良	憲法の役割について理解している。 憲法が保障する権利、自由がどういうものであるか、理解している。
	可	憲法がどういうものかということを凡そ理解している。 憲法が保障する権利、自由がどういうものであるか、凡そ理解している。
	不可	憲法の役割を理解できていない。 憲法が保障する権利、自由がどういうものであるか、理解できていない。
到達目標 2	秀	理解した知識を利用して、憲法の各規程を実際の生活でどう活用できるか、自分で考えることができる。 その上で、違憲か合憲かの判断を論理的にできるようになる。
	優	憲法の各規程を実際の生活でどう活用できるか、自分で考えることができる。 その上で、違憲か合憲かの判断をできるようになる。
	良	憲法の各規程を実際の生活でどう活用できるか、ヒントを与えられれば自分で考えることができる。 その上で、違憲か合憲かの判断を誘導されればできるようになる。
	可	憲法の各規程を実際の生活でどう活用できるか、誘導されれば考えることができる。 その上で、違憲か合憲かの判断を誘導されながら考えることができる。
	不可	憲法の各規程を実際の生活でどう活用できるか、考えることができない。 違憲か合憲かの判断を全くできない。
到達目標 3	秀	これまで理解した知識を利用して、憲法改正について、その内容の是非を、自分なりの考えをもって論理的に判断できるようになる。
	優	憲法改正について、その内容の是非を、自分なりの考えをもって論理的に判断できるようになる。
	良	憲法改正について、その内容の是非を、自分なりの考えをもって判断できるようになる。
	可	憲法改正について、その内容の是非を考えることができるようになる。
	不可	憲法改正について、その内容の是非を、考えられない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 （口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	95	5	0	0	0	0	100
到達目標 1	40	5	0	0	0	0	45
到達目標 2	50	0	0	0	0	0	50
到達目標 3	5	0	0	0	0	0	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験を行う。授業で学んだ基本的知識、教科書等から得た知識などを活用し、設問に論理的に回答できているか、反対意見に対する配慮がされているか、最終的に自分の考えを説得的に述べられているかを確認する。
提出物	節目で小テストを行う。ここでは基本的な知識が修得できているか、回答は論理的になされているか、を確認する。

履修に必要な知識・技能など
前知識なしで理解できるように平易に解説をするつもりであるが、論理は基礎から積みあがっていくものであるため、復習（授業で終わった部分について教科書を読む）を中心に学習していただきたい。 教科書などについては、1 回目の授業で説明するので事前準備は不要。

教科書・ISBN
—

参考書
『憲法』芦部信義 岩波書店 （授業で使います。現在、第 7 版ですが、第 3 版以降なら旧版でも構いません。（ 7 版→ ISBN-13:978-4000613224）） また、憲法の条文を用意（インターネットの e － Gov サイトや図書館の六法など）して、授業に持ってきてください。 『プレップ憲法』戸松秀典 弘文堂（憲法についての興味を深める役に立ちますが、授業では使いません。）

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
哲学と倫理（F12260）	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	中野康次郎
科目担当者	中野康次郎							

授業の概要	「人は哲学を学ぶことはできない……ただ哲学することを学びうるだけである。」（カント） 哲学すること、それは先人たちが考えてきたこと（＝知識）を頭のなかに詰め込む作業ではない。倫理もまた同様である（倫理学＝実践哲学）。授業で取り扱う予定の様々な問題の検討を通じて、自分の頭で考えること、すなわち哲学することを、受講者の皆さんと共に学んでいきたい。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	「哲学」とは	【事前】シラバス内容の熟読（10 分） 【事後】授業中に配布した資料の熟読（120 分）
第 2 回	「愛」に理由はあるか	【事前】第 2 回のテーマに関する資料の熟読(120 分) 【事後】授業中に配布した資料の熟読（120 分）
第 3 回	「美」は事実か趣味か	【事前】第 3 回のテーマに関する資料の熟読(120 分) 【事後】授業中に配布した資料の熟読（120 分）
第 4 回	万引きが「悪い」行為なのはなぜか	【事前】第 4 回のテーマに関する資料の熟読(120 分) 【事後】授業中に配布した資料の熟読（120 分）
第 5 回	嘘をつくことはいつも悪いことか	【事前】第 5 回のテーマに関する資料の熟読(120 分) 【事後】授業中に配布した資料の熟読（120 分）
第 6 回	動機と結果のどちらを重視すべきか	【事前】第 6 回のテーマに関する資料の熟読(120 分) 【事後】授業中に配布した資料の熟読（120 分）
第 7 回	どんな考え方でも尊重しなければいけないのか	【事前】第 7 回のテーマに関する資料の熟読(120 分) 【事後】授業中に配布した資料の熟読（120 分）
第 8 回	まとめ	【事前】第 8 回のテーマに関する資料の熟読(120 分) 【事後】授業中に配布した資料の熟読（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	様々なテーマについて、問題点を論理的に考察する事が出来る。
到達目標 2	自分とは異なる立場の考え方を理解し、自分の考え方を批判的に反省することが出来る。
到達目標 3	自分の考えを、立場が異なる相手に対しても、説得力のある仕方で論理的に表現できる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	与えられた資料を十分論理的に読解することができる。さらに授業中の補足説明を聞いて、問題点を整理して考察することができる。
	優	与えられた資料を論理的に読解することができる。さらに授業中の補足説明を聞いて、問題点を考察することができる。
	良	与えられた資料をある程度は論理的に読解することができる。さらに授業中の補足説明を聞いて、何が問題になっているのかを理解することができる。
	可	与えられた資料をある程度は論理的に読解することができる。
	不可	論理的に考えることができない。
到達目標２	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
到達目標３	秀	自分の考えを論理的に表現することができ、また他者を納得させるようその表現方法の工夫が十分に認められる。
	優	自分の考えを論理的に表現することができ、また他者を納得させるようその表現方法の工夫が認められる。
	良	自分の考えを論理的に表現することができる。
	可	自分の考えを論理的に表現しようとする努力が認められる。
	不可	自分の考えを論理的に表現しようとする努力が認められない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	40	0	0	0	0	100
到達目標１	15	10	0	0	0	0	25
到達目標２	30	20	0	0	0	0	50
到達目標３	15	10	0	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	定期試験は筆記試験を実施します。授業で学んだ様々な考え方などを活用しながら、期末試験のテーマ（未定）についての資料を読み込み、問題点を整理し、説得力のある仕方で自分の考えを書くことが求められます。
提出物	毎回の授業で、与えられたテーマについて自分の考えを書いて提出してもらいます。これは期末試験へ向けてのトレーニングでもあります。この課題（毎回自分の考えを書くこと）の目的は、問題点を整理し、自分とは異なる考え方も十分理解した上で、論理的に自分の考えを文章にまとめる力をつけていくことです。このことを踏まえた上で、毎回の授業に真剣に参加しているかどうかが評価のポイントとなります。

履修に必要な知識・技能など
この講義は、これまで考えたことが無いであろう様々な問題を受講者に考えてもらうことを目的としています。それゆえ特別な予備知識は要求しませんが、「考える」ことは要求します。 考えたり文章を書いたりする事が苦手な方にとっては、この講義はかなりの「苦行」になると思われます。そのことを踏まえた上で受講して下さい。

教科書・ISBN
資料を授業中に配布します。

参考書
必要に応じ、適宜授業中に紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
生命と倫理（F12270）	講義	1	15	1	後期	医療検査学科 必修 診療放射線学科 必修 口腔保健学科 必修 看護学科 必修 こども教育学科 選択必修	—	塩谷英之
科目担当者	塩谷英之							

授業の概要	近年の生命科学と医療技術の目覚ましい発展により、「いのちのサポーター」である医療従事者や教育者に倫理的決断を求められる状況が現実のものとなってきた。生殖補助医療や新薬治験などの先進医療から障害者、高齢者支援さらには社会保障など日常的な社会活動にまで深く関わる生命倫理的配慮の重要性について学ぶ。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（　）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	医学と倫理…いのちの尊厳、死生観、科学と宗教	【事前】テーマについて調べる（100 分） 【事後】講義資料のまとめ（120 分）
第 2 回	生命倫理学入門…定義、研究対象、方法	【事前】テーマについて調べる（100 分） 【事後】講義資料のまとめ（120 分）
第 3 回	性と倫理…性的少数者（LGBTQ）の現状と課題、生殖補助医療	【事前】テーマについて調べる（100 分） 【事後】講義資料のまとめ（120 分）
第 4 回	障害者と高齢者	【事前】テーマについて調べる（100 分） 【事後】講義資料のまとめ（120 分）
第 5 回	東洋医学（代替医療）と西洋医学　東洋医学：漢方薬（薬物療法)、鍼灸、薬膳、按摩、気功	【事前】テーマについて調べる（100 分） 【事後】講義資料のまとめ（120 分）
第 6 回	健康保険・医療制度とその倫理	【事前】テーマについて調べる（100 分） 【事後】講義資料のまとめ（120 分）
第 7 回	薬害と新薬治験…サリドマイド禍､エイズ禍､臨床試験(治験)	【事前】テーマについて調べる（100 分） 【事後】講義資料のまとめ（120 分）
第 8 回	公害と災害…企業と行政の責任、環境破壊、石綿禍、天災、人災、労働災害	【事前】前（々）日の新聞を通覧（100 分） 【事後】講義資料のまとめ（160 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	倫理的に問題のある種々の事態を速やかに感知し､自分のとるべき適切な対応を決定できるようになること。
到達目標 2	複雑な物事の倫理判断ができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	高い倫理観の下に何らかの是正策を構想・提言する。
	優	問題の内容や原因を調べて自分の考えを確立する。
	良	問題に対する自分の立ち位置を決めることができる。
	可	問題の存在には気付くが、何をすべきか自分の考えがまとまらない。
	不可	問題の存在に気付かない。
到達目標 2	秀	日常的な社会活動の中に多くの倫理的課題の存在を感じる。
	優	複雑な物事の倫理判断ができる。
	良	単純な物事の倫理判断ができる。
	可	物事の適否は大体分かるが、倫理的配慮ができない。
	不可	物事の状況判断が全くできない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	60	0	0	0	0	100
到達目標 1	20	30	0	0	0	0	50
到達目標 2	20	30	0	0	0	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	総合レポート
提出物	各回課題に対するレポート

履修に必要な知識・技能など
毎回の授業後にレポート課題を課す。毎回の授業の内容から得た知識や、さらに自ら調べた内容や、グループワークから得られた他人の意見を参考に自分の見解を述べることが評価の対象となる。

教科書・ISBN
使用しない。

参考書
『医療倫理学の方法：原則・手順・ナラティブ』宮坂道夫著　医学書院

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
芸術文化論（F12280）	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	谷口英明
科目担当者	谷口英明							

授業の概要	最近、グローバリゼーション（globalization）という言葉をよく耳にします。これは、さまざまなものが国家間を超えて行き来することを意味しています。これに象徴されるように、世界は急速に身近なものになりつつあります。コロナ禍以前では、日本への外国人観光客が増え、また在留外国人も増加傾向でした。コロナ終息後、私たちは外国の方々と触れ合う機会がますます増えていくことが予想されます。そのような中で私たち日本人に求められるのは、改めて「日本とはどういう国か？」と問い直されることです。あなたは一体この国のことをどのくらい外国の方に話すことができますか？「日本の伝統文化とは何か？」「古来日本人が感じる美とは何か？」こういった問いに答えることができてはじめて“ 教養がある ”と言えるのでしょう。このような教養は、特に海外の人たちの中で話す際には重要です。そこで神戸常盤大学は、普段聴くことのできないその分野の第一線で活躍されている方をお招きし、オムニバス形式で皆さんへ「スペシャルプレゼントセミナー」として提供することにしました。素晴らしい方々のお話を聞いたり、実際に自分で体験したりすることで、教養を身につけてほしいと思います。なお、8 回の授業のうちいくつかについては公開講座の形をとりますので、学外の方も受講することがあります。その点、ご了解ください。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	「坐禅」～禅の文化を感じる～ ※坐禅体験料 500 円が必要です。担当者：冨士荘貴【明泉寺住職】	【事前】シラバスを読んでおくこと。坐禅について考察しておくこと。(120 分) ＊大学の実習や演習において受講料等が発生する場合があります。 第 1 回の坐禅については体験料 500 円が必要です、ご承知おきください 【事後】リフレクションをマナバ上に提出（120 分）
第 2 回～第 7 回	神戸常盤大学の教員たちが、大学生の時に聞きたかった人生についてのヒントを惜しみなく伝授していただく講座です。やりたいことをやっているとき、人は幸せです。本当に好きなことをやれば、それが仕事になり、必要な人間関係も自然と引き寄せて、幸せに、そして楽しく生きていくことができます。「やりたいこと。仕事。人生。」とはなんだろう？大学生時代 に誰もが考えることだと思いますが、学生生活を送る中で答えにたどり着ける人は、本当にわずかな割合なのかもしれません。君たちらしい、君たちだけの人生の創り方を聴きに来ませんか　（担当者：未定 ）	【事前】講師について下調べをしておくこと(120 分) 【事後】リフレクションをマナバ上に提出（120 分）
第 8 回	まとめ　（担当者：谷口）	【事前】これまでの授業内容の振り返り（120 分） 【事後】リフレクションをマナバ上に提出（120 分）

学修の到達目標	
到達目標１	授業で学び得たことを踏まえ、日本の芸術文化に関する知識・理解を十分に修得できる。
到達目標２	日本の芸術文化について関心を持って様々考えることができる。
到達目標３	日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直すことができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	授業で学び得たことを踏まえ、日本の芸術文化に関する知識・理解を十分に修得しているだけでなく、自ら探究する中で日本の芸術文化について理解を深め、その内容が秀逸である。
	優	授業で学び得たことを踏まえ、日本の芸術文化に関する知識・理解を十分に修得しているだけでなく、自ら探究する中で日本の芸術文化について理解を深めようとしている。
	良	授業で学び得たことを踏まえ、日本の芸術文化に関する知識・理解を十分に修得している。
	可	授業で学び得たことを踏まえ、日本の芸術文化に関する知識・理解を修得しようと努力している。
	不可	授業で学び得たことを踏まえ、日本の芸術文化に関する知識・理解を得ようという努力が見られない。
到達目標２	秀	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化について関心を持って様々考えることができ また授業で学んだことを超えて幅広く日本の芸術文化に対して認識を持ち、その認識が秀逸 である。
	優	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化について関心を持って様々考えることができ、また授業で学んだことを超えて幅広く日本の芸術文化に対して認識を持つようになっている。
	良	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化について関心を持って様々考えることができている。
	可	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化について関心を持って様々考えようとする姿勢が見て取れる。
	不可	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化について関心を持って様々考えようとする姿勢が見られない。
到達目標３	秀	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直すことができており、さらに今後の自らの可能な関わりについて深く考えることができている。
	優	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直すことができており、さらに今後の自らの可能な関わりについて若干ながら考えることができている。
	良	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直すことができている。
	可	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直す努力の過程が見て取れる。
	不可	授業で学んだことを受けて、日本の芸術文化に対する自らの認識について振り返り、見つめ直す努力の過程が見られない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	40	0	0	0	0	100
到達目標１	20	15	0	0	0	0	35
到達目標２	20	15	0	0	0	0	35
到達目標３	20	10	0	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	8 回の授業の後にレポート試験を課します。8 回の授業を通して学んだ事を踏まえ、自らの考えを述べてもらいます。
提出物	毎回の授業後、リフレクションをマナバ上に提出してもらいます。

履修に必要な知識・技能など
各界における秀逸な方をゲストスピーカーとしてお招きします。真摯な態度で受講することはもちろん、先入観や固定観念を持たずに、真っ白で素直な心（気持ち）で講師の一挙手一投足に注目する姿勢を求めます。

教科書・ISBN
なし

参考書
なし

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
文学 （F12290）	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	藪葉子
科目担当者	藪葉子							

授業の概要	日本の古典文学作品を通して、人間の生や死に対する考え方・感じ方に触れる。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　） （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	『土佐日記』の死に関する場面に注目する。親のわが子の死に対する感情に触れる。	【事前】『土佐日記』の該当場面についての基礎知識を持つ。（120 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述。（120 分）
第 2 回	『紫式部日記』の子どもの誕生に関する場面に注目する。 一条天皇の皇子誕生の場面に触れる。	【事前】『紫式部日記』の該当場面についての基礎知識を持つ。（120 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述。（120 分）
第 3 回	『源氏物語』の生死に関する場面に注目する①。登場人物の死の場面に触れる。	【事前】『源氏物語』の該当場面についての基礎知識を持つ。（120 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述。（120 分）
第 4 回	『源氏物語』の生死に関する場面に注目する②。登場人物の誕生の場面に触れる。	【事前】『源氏物語』の該当場面についての基礎知識を持つ。（120 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述。（120 分）
第 5 回	『讃岐典侍日記』の死に関する場面に注目する①。 病身の堀河天皇の看護の場面に触れる。	【事前】『讃岐典侍日記』についての基礎知識を持つ。（120 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述。（120 分）
第 6 回	『讃岐典侍日記』の死に関する場面に注目する② 堀河天皇の崩御の場面に触れる。	【事前】『讃岐典侍日記』についての基礎知識を持つ。（120 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述。（120 分）
第 7 回	『徒然草』の死に関する章段に注目する。作者の死に対する考え方に触れる。	【事前】『徒然草』の該当場面についての基礎知識 を持つ。（120 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述。（120 分）
第 8 回	人の生死に関してのディスカッションと意見の提出。	【事前】人の生死についての考えを深めておく。（120 分） 【事後】意見の提出。（120 分）

学修の到達目標	
到達目標１	文学作品に関する知識を修得する。
到達目標２	文学作品を自らの生活に引き付けて考え、思考をまとめることができるようになる。
到達目標３	文学作品の内容について他者と議論し、共に理解を深めることができるようになる。
到達目標４	文学作品を語句や表現に注意して読み、作品を深く理解できるようになる。
到達目標５	文学作品の内容について、他者に対して的確に表現し、自分の考えを深めることができるようになる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	文学作品に関する知識について、自身でも積極的に調べ高い知識を修得できている。
	優	文学作品に関する知識について、自身でも積極的に調べ標準的な知識を修得できている。
	良	文学作品に関する知識について、自身でも調べ基礎的な知識を修得できている。
	可	文学作品に関する知識について、授業内容を理解している。
	不可	文学作品に関する知識について、授業内容を理解していない。
到達目標２	秀	文学作品を自らの生活に引き付けて積極的に考え、論理的に思考をまとめることができている。
	優	文学作品を自らの生活に引き付けて積極的に考え、思考をまとめることができている。
	良	文学作品を自らの生活に引き付けて考え、自分の意見を持つことができている。
	可	文学作品を自らの生活に引き付けて考えている。
	不可	文学作品を自らの生活に引き付けて考えられていない。
到達目標３	秀	文学作品の内容について他者と積極的に議論し、共に理解を深めることができている。
	優	文学作品の内容について他者と積極的に議論し、自分の理解を深めることができている。
	良	文学作品の内容について他者と論理的な議論ができている。
	可	文学作品の内容について他者と議論ができている。
	不可	文学作品の内容について他者と議論ができていない。
到達目標４	秀	文学作品を語句や表現に注意して読み、作品を深く理解できている。
	優	文学作品を語句や表現に注意して読み、作品を理解できている。
	良	文学作品を注意深く読めている。
	可	文学作品の内容を理解できている。
	不可	文学作品の内容を理解できていない。
到達目標５	秀	文学作品の内容について、他者に対して的確に表現し、自分の考えを深めることができている。
	優	文学作品の内容について、他者に対して的確に表現することができている。
	良	文学作品の内容について、他者に対して表現することができている。
	可	文学作品の内容について、自分の意見を持つことができている。
	不可	文学作品の内容について、自分の意見を持つことができていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	25	0	0	25	0	100
到達目標１	10	5	0	0	5	0	20
到達目標２	10	5	0	0	5	0	20
到達目標３	10	5	0	0	5	0	20
到達目標４	10	5	0	0	5	0	20
到達目標５	10	5	0	0	5	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を行う。 授業内容の理解とともに、自身の考えを持ち、それを文章で表現することが求められる。
提出物	課題を何度か設ける。
ポートフォリオ	各自が取り組みを自ら振り返り評価する振り返り票を、それぞれの学びの成果としてポー トフォリオに蓄積していく。

履修に必要な知識・技能など
積極的に文学作品に関わり、そこから学ぶ意識を持つことが求められる。

教科書・ISBN
使用しない。

参考書
適宜紹介する。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
日本通史 （F12300）	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	片山正彦
科目担当者	片山正彦							

授業の概要	皆さんが歴史を身近に感じることができる機会は、城郭や寺社・史跡を訪れたり、歴史博物館を訪れて古文書や刀・甲冑などをみたりする際ではないだろうか。当たり前と思われている歴史のできごとも、人が知らないようなおもしろいエピソードも、その根拠は古文書（「史料」）に基づいている。 表面的な歴史にとらわれず、古文書（「史料」）に立ち帰って研究（勉強）すれば、歴史を学ぶ面白さもわかってくるだろう。 中世（鎌倉・室町時代）から近世（安土桃山・江戸時代）に至るまでの社会・経済・文化の中心は、畿内近国（おおむね現在の近畿地方）である。本講義では、畿内近国の中近世の日本史を古文書（「史料」）に基づいて学ぶことによって、現在の日本の社会・経済・文化とどのようなつながりがあるのか、それを踏まえて今後どのように反映させていくのか、受講者自身が主体的に考えられるような授業を目指す。また、大学の所在する兵庫県や京阪神の歴史など、地域に関連した授業内容にしたい。
アクティブ・ラーニングの要素	（　）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（　）グループワーク　（　）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	・オリエンテーション	【事前】シラバスの内容の熟読（90 分） 【事後】授業内容に関わるアンケート記入（90 分）
第 2 回	・秀吉の出自に関する諸説について	【事前】配布レジュメの熟読（120 分） 【事後】講義内容についてのレポート提出（120 分）
第 3 回	・おんな城主井伊直虎とその周囲	【事前】配布レジュメの熟読（120 分） 【事後】講義内容についてのレポート提出（120 分）
第 4 回	・筒井順慶と洞ヶ峠の「日和見」伝承	【事前】配布レジュメの熟読（120 分） 【事後】講義内容についてのレポート提出（120 分）
第 5 回	・『摂津名所図会』にみる須磨寺	【事前】配布レジュメの熟読（120 分） 【事後】講義内容についてのレポート提出（120 分）
第 6 回	・フィールドワーク―須磨寺の歴史を学ぶ― ＊感染症の状況・訪問先の都合などにより、フィールドワークの中止もしくは日程の変更をする場合があります。これにあわせて、授業計画・授業内容を変更する場合があります。	【事前】フィールドワーク先の事前学習（90 分） 【事後】フィールドワークについてのレポート提出（90 分）
第 7 回	・丹波篠山の基礎をつくった篠山藩主松平康重	【事前】配布レジュメの熟読（120 分） 【事後】講義内容についてのレポート提出（120 分）
第 8 回	・西国街道郡山宿と京街道枚方宿～地域の特徴を踏まえた「観光資源」の活用法～	【事前】配布レジュメの熟読（120 分） 【事後】講義内容についてのレポート提出（120 分）

学修の到達目標	
到達目標１	畿内近国の中近世の日本史に関する基本的知識を修得する。
到達目標２	畿内近国の中近世の日本史に関する専門的知識を修得する。
到達目標３	畿内近国の中近世の日本史に関して、根拠に基づき論理的に考えることができるようになる。
到達目標４	畿内近国の中近世の日本史に関して、その通説に対し批判的に思考することができるようになる。
到達目標５	畿内近国の中近世の日本史に関して、自身の想いや考えを表現し、説得力のある見解を他者に伝えることができるようになる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	授業内で提示した基本的知識の修得について満足できる水準を超え、周辺の知識と併せて理解を深め、さらに歴史のあるべき姿について自ら考えることができる。
	優	授業内で提示した基本的知識の修得について満足できる水準を超え、周辺の知識と併せて理解を深めることができている。
	良	授業内で提示した基本的知識を満足できる水準まで修得していることが認められる。
	可	授業内で提示した基本的知識の修得が満足できる水準まで到達していないが、その努力の過程は認められる。
	不可	授業内で提示した基本的知識の修得が満足できる水準まで修得しておらず、その努力の過程も認められない。
到達目標２	秀	授業内で提示した専門的知識の修得について満足できる水準を超え、周辺の知識と併せて理解を深め、さらに歴史のあるべき姿について自ら考えることができる。
	優	授業内で提示した専門的知識の修得について満足できる水準を超え、周辺の知識と併せて理解を深めることができている。
	良	授業内で提示した専門的知識を満足できる水準まで修得していることが認められる。
	可	授業内で提示した専門的知識の修得が満足できる水準まで到達していないが、その努力の過程は認められる。
	不可	授業内で提示した専門的知識の修得が満足できる水準まで修得しておらず、その努力の過程も認められない。
到達目標３	秀	授業内で提示した歴史に関する事象について、満足できる水準を超えて根拠に基づき論理的に考えることができたと認められ、さらに読解で得た知識や考えを他者と共有し、そこで自らの考えを述べることができる。
	優	授業内で提示した歴史に関する事象について、満足できる水準を超えて根拠に基づき論理的に考えることができたと認められ、さらに読解で得た知識や考えを他者と共有することができる。
	良	授業内で提示した歴史に関する事象について、満足できる水準を超えて根拠に基づき論理的に考えることができたと認められる。
	可	授業内で提示した歴史に関する事象について、満足できる水準まで根拠に基づき論理的に考えることができたと認められる。
	不可	授業内で提示した歴史に関する事象について、満足できる水準まで根拠に基づき論理的に考えることができたと認められない。
到達目標４	秀	歴史の通説に対し、満足できる水準を超えて批判的に思考することができたと認められ、さらにその考えを他者と共有し、そこで自らの考えを述べることができる。
	優	歴史の通説に対し、満足できる水準を超えて批判的に思考することができたと認められ、さらにその考えを他者と共有することができる。
	良	歴史の通説に対し、満足できる水準を超えて批判的に思考することができたと認められる。
	可	歴史の通説に対し、満足できる水準まで批判的に思考することができたと認められる。
	不可	歴史の通説に対し、満足できる水準まで批判的に思考することができたと認められない。
到達目標５	秀	満足できる水準を超えて歴史に関する自身の想いや考えを表現し、説得力のある見解を他者に伝えることができたと認められる。
	優	満足できる水準を超えて歴史に関する自身の想いや考えを表現し、他者に伝えることができたと認められる。
	良	満足できる水準を超えて歴史に関する自身の想いや考えを表現することができたと認められる。
	可	満足できる水準まで歴史に関する自身の想いや考えを表現することができたと認められる。
	不可	満足できる水準まで歴史に関する自身の想いや考えを表現し、他者に伝えることができたと認められない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	50	0	0	0	0	100
到達目標１	10	10	0	0	0	0	20
到達目標２	10	10	0	0	0	0	20
到達目標３	10	10	0	0	0	0	20
到達目標４	10	10	0	0	0	0	20
到達目標５	10	10	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	期末に定期試験を実施し、各評価項目に基づいて、その習熟度をはかる。
提出物	講義内容についてのレポート提出を課す。そこでは、授業で学んだ基本的知識、テキストから得た知識や考え方などを活用しながら、独自性のある考え・主張を展開することが求められる。

履修に必要な知識・技能など
・畿内近国の中近世の日本史に関する基本的・専門的知識の習得、歴史を論理的に捉え、かつ批判的で独創的な思考を持って、それを他者に伝える技能。 ・現在の日本の社会・経済・文化・自身の住んでいる地域とどのようなつながりがあるのか、それを踏まえて今後どのように反映させていくのか、受講者自身が主体的に考えられるようになる技能。 ＊毎回配布するレジュメに基づいて講義を進めていくので、その読解の作業を継続して行うことのできる真摯な態度を持つことが求められる。

教科書・ISBN
特定の教科書は使用しません。毎回レジュメを配布します。

参考書
『真実の戦国時代』渡邊大門編 柏書房、2015 年 『井伊一族のすべて』歴史と文化の研究所編 洋泉社、2017 年 『豊臣政権の東国政策と徳川氏』片山正彦 思文閣出版、2017 年 『近世地域史文化史の研究』渡邊忠司監修 名著出版、2018 年 『考証　明智光秀』渡邊大門編 東京堂出版、2020 年 ＊ただし、必ずしも購入する必要はありません。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
国際社会論（F12310）	講義	1	15	1	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	濵田道夫
科目担当者	濵田道夫、内橋一恵							

授業の概要	東西冷戦の終結とともに、1990 年代からグローバル化が急速に進展した。授業ではグローバル化が国際社会や地域社会にもたらした変化を概観するとともに、身近になった多文化社会をどう生きるかについて考える。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（　）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	グローバル化と国際社会　（担当者：濵田）	【事前】シラバスを読み授業の方向を把握する。あらかじめテキストに目を通す（120 分相当） 【事後】授業内容を復習し、グローバル化の歴史と現在について理解を深める（120 分相当）
第 2 回	グローバル化と人口移動　（担当者：濵田）	【事前】配布プリントを読み不明な点をチェックする（120 分相当） 【事後】授業内容を復習し､移民や人口移動の政治的･経済的背景について理解を深める（120 分相当）
第 3 回	格差社会とは何か　（担当者：濵田）	【事前】配布プリントを読み不明な点をチェックする（120 分相当） 【事後】授業内容を復習し、国際的に広がる格差社会の実態、中間層の縮小化とポピュリズムの台頭について理解を深める（120 分相当）
第 4 回	国際 NGO の役割　（担当者：濵田）	【事前】配布プリントを読み不明な点をチェックする（120 分相当） 【事後】授業内容を復習し、格差問題や人道支援などで近年ますます重要性を帯びてきた国際 NGO の活動について理解を深める（120 分相当）
第 5 回	グローバル化と地域社会　（担当者：内橋）	【事前】配布プリントを読み不明な点をチェックする（120 分相当） 【事後】グローバル化と地域社会のつながりを理解（120 分相当）
第 6 回	多文化共生の歴史　（担当者：内橋）	【事前】配布プリントを読み不明な点をチェックする（120 分相当） 【事後】社会が多文化共生を目指すまでの流れを理解（120 分相当）
第 7 回	文化と言語　（担当者：内橋）	【事前】配布プリントを読み不明な点をチェックする（120 分相当） 【事後】文化と言語の可変性を理解する（120 分相当）

第 8 回	アイデンティティと教育　（担当者：内橋）	【事前】配布プリントを読み不明な点をチェックする（120 分相当） 【事後】グローバル化する世界、地域、個人の関わりについて理解する（120 分相当）

学修の到達目標	
到達目標 1	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識を修得することができる。
到達目標 2	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識をもとに、論理的に考えることができる。
到達目標 3	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識をもとに、自らの考えを他者に説得的に伝えることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	授業で学んだ国際社会･多文化社会に関する基本的知識を十分修得し、系統的に深く理解している。
	優	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識を十分修得している。
	良	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識を修得している。
	可	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識をある程度修得している。
	不可	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識を修得していない。
到達目標 2	秀	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識・概念をもとに、十分論理的に考えることができる。さらに新たな視点を示すなど豊かな構想力をもつ。
	優	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識・概念をもとに、十分論理的に考えることができる。
	良	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識・概念をもとに、論理的に考えることができる。
	可	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識・概念をもとに、ある程度論理的に考えることができる。
	不可	授業で学んだ国際社会・多文化社会に関する基本的知識・概念をもとに、論理的に考えることができない。
到達目標 3	秀	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に十分説得的に伝えることができ、さらに書き言葉、話し言葉などで表現豊かである。
	優	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に十分説得的に伝えることができる。
	良	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に説得的に伝えることができる。
	可	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者にある程度説得的に伝えることができる。
	不可	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に説得的に伝えることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	100	0	0	0	0	0	100
到達目標 1	40	0	0	0	0	0	40
到達目標 2	40	0	0	0	0	0	40
到達目標 3	20	0	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は､授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポートの提出を課す。授業で学んだ基礎知識や基本的概念をもとに、自らの意見をどれくらい論理的にまた系統的に提示できるかが試される。

履修に必要な知識・技能など
国際社会や多文化社会を理解するための入門的な授業です。授業で学ぶ基本的知識をもとに、現在進行中のグローバル化を身近な問題としてとらえたい。

教科書・ISBN
使用しない。講義内容に沿ったプリント・資料をあらかじめ配布する。

参考書
講義の際に適宜紹介する。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
現代社会学 （F12320）	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	伴仲謙欣
科目担当者	伴仲謙欣							

授業の概要	普段の何気ない日常を、クリティカル(批評的)に覗いてみると全く違った景色が見える･･･という“気づき”を経験しましょう。この科目は、「現代・社会学」であると同時に「現代社会・学」です。本講義では、時事問題を取り上げ、社会学的（クリティカル）な視点から社会の出来事を自分の頭で読み解く姿勢を身につけます。そのための教材として新聞を推奨します。新聞は社会を知るためにとても有効なメディアです。講義を通して新聞を読む習慣も身につけてほしいと思います。 授業の内容は、各自計２回の発表を行います。同じテーマを選んだ者同士でグループを作り、メンバー同士で協力して準備を進めますが、発表は個人単位とします。発表の方法は、音声データと資料ファイルの提出により manaba を介して行います（※詳細は授業計画表を参照)。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第１回	オリエンテーション（授業概要など）	【事前】・シラバスの熟読 ・関心のある新聞記事を読む（計 120 分） 【事後】関心のある新聞記事を読む（120 分）
第２回	【第１クール】① 発表テーマ選定・チームづくり・発表準備	【事前】関心のある新聞記事を読む（120 分） 【事後】・関心のある新聞記事を読む ・発表準備（計 120 分）
第３回	【第１クール】② 発表準備	【事前】・関心のある新聞記事を読む ・発表準備（計 120 分） 【事後】・関心のある新聞記事を読む ・発表準備（計 120 分）
第４回	【第１クール】③ 発表	【事前】・関心のある新聞記事を読む ・発表準備（計 120 分） 【事後】・発表のまとめと振り返り（120 分）
第５回	【第２クール】① 発表テーマ選定・チームづくり・発表準備	【事前】関心のある新聞記事を読む（120 分） 【事後】・関心のある新聞記事を読む（120 分） ・発表準備
第６回	【第２クール】② 発表準備	【事前】・関心のある新聞記事を読む ・発表準備（計 120 分） 【事後】・関心のある新聞記事を読む ・発表準備（計 120 分）
第７回	【第２クール】③ 発表	【事前】・関心のある新聞記事を読む ・発表準備（計 120 分） 【事後】・発表のまとめと振り返り（120 分）
第８回	まとめ（総括と振り返り）	【事前】・関心のある新聞記事を読む ・定期試験の準備（計 90 分） 【事後】定期試験の準備（90 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	現代社会における時事的話題について理解し、批評的、あるいは批判的な視点をもった独自の考えを論理的に説明することができる。
到達目標 2	他者との協働学修を通して、自らの学びを高めることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	現代社会における時事的話題について理解し、批評的、あるいは批判的な視点をもった独自の考えを論理的に説明することができ、その内容が秀でている。
	優	現代社会における時事的話題について理解し、批評的、あるいは批判的な視点をもった独自の考えを論理的に説明することができる。
	良	現代社会における時事的話題について理解し、説明することができる。
	可	現代社会における時事的話題について理解しようとしている。
	不可	現代社会における時事的話題について理解することができない。
到達目標 2	秀	他者との協働学修を通して、自らの学びを高めることができ、その成果が特に秀でている。
	優	他者との協働学修を通して、自らの学びを高めることができ、その成果が秀でている。
	良	他者との協働学修を通して、自らの学びを高めることができる。
	可	他者との協働学修を通して、自らの学びを高めようとしている。
	不可	他者との協働学修を通して、自らの学びを高めることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	50	0	0	0	0	100
到達目標 1	50	0	0	0	0	0	50
到達目標 2	0	50	0	0	0	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	定期試験としてレポート試験を実施する。
提出物	成果物（発表用データや、発表を視聴したまとめ）を評価する。

履修に必要な知識・技能など
・本講義はグループワークを行いますので、他の履修者の迷惑にならないように講義への主体的な参加姿勢や、能動的なグループ活動が求められます。 ・履修の最低条件として、日常的に新聞を読んでください（新聞名、内容は特に指定しない）。 ・受け売りの知識のひけらかしではなく、自らの頭で“考える”態度が必要です。 ※授業形態や内容の順序性等は、履修人数等の諸条件により変更する場合があります。

教科書・ISBN

参考書
新聞。その他、必要が生じた際には適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
経済学 （F12330）	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	濵田道夫
科目担当者	濵田道夫							

授業の概要	1990 年代以降に急速化する経済のグローバル化は私たちの生活のさまざまな場面に影響を与えている。授業ではこのグローバル化がもたらした格差問題、気候危機などをとりあげ、資料にもとづいてわかりやすく解説するとともに、経済成長の歴史とそのあり方について考える。経済学の入門的な授業であり、履修者の身近な生活体験・実感からの意見なども授業に反映できればと思う。 あらかじめ配布するテキスト（プリント・資料）に沿って講義する。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（　）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　） （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	資本主義経済とは何か	【事前】シラバスの内容を把握し、講義の流れや学習のポイントを確認する。またテキスト（配布プリント）を読み、不明な点をチェックする（120 分相当） 【事後】授業内容を復習し、商品、市場など資本主義の基礎概念について理解を深める（120 分相当）
第 2 回	経済のグローバル化（1）：1990 年代以降	【事前】テキスト（配布プリント）を読み、不明な点をチェックする（120 分相当） 【事後】授業内容を復習し、グローバル化の歴史と現在について理解を深める（120 分相当）
第 3 回	経済のグローバル化（2）：格差と貧困	【事前】テキスト（配布プリント）を読み、不明な点をチェックする（120 分相当） 【事後】授業内容を復習し、グローバル化がもたらす格差について理解を深める（120 分相当）
第 4 回	経済成長とその限界	【事前】テキスト（配布プリント）を読み、不明な点をチェックする（120 分相当） 【事後】授業内容を復習し、経済成長とは何か、その歴史と限界について理解を深める（120 分相当）
第 5 回	経済成長と環境問題	【事前】テキスト（配布プリント）を読み、不明な点をチェックする（120 分相当） 【事後】授業内容を復習し、経済成長と地球温暖化との関係について理解を深める（120 分相当）
第 6 回	人口と経済：人口減少社会	【事前】テキスト（配布プリント）を読み、不明な点をチェックする（120 分相当） 【事後】授業内容を復習し、少子高齢化が経済におよぼす影響について理解を深める（120 分相当）

第 7 回	持続可能な経済社会とは	【事前】テキスト（配布プリント）を読み、不明な点をチェックする（120 分相当） 【事後】授業内容の復習。国連の提唱する SDGs（持続可能な開発目標）などを参考に、いまなぜ経済成長至上主義への反省が必要なのかについて理解を深める（120 分相当）
第 8 回	講義のまとめ：豊かさとは何か	【事前】テキスト（配布プリント）を読み、不明な点をチェックする（120 分相当） 【事後】授業内容を復習し、グローバル化のもとでの経済成長のあり方と「豊かさ」の意味について理解を深める（120 分相当）

学修の到達目標	
到達目標 1	経済学の基本的知識・概念にもとづいて、グローバル化の歴史と現在を系統的に把握できる。
到達目標 2	経済成長が社会にもたらしたさまざまな問題について理解することができる。
到達目標 3	論理的に叙述し、説明することができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念を十分修得し、さらに系統的に深く理解している。
	優	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念を十分修得している。
	良	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念を修得している。
	可	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念をある程度修得している。
	不可	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念を修得していない。
到達目標 2	秀	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念にもとづき、経済成長について十分論理的に考えることができる。さらに新たな視点を示すなど豊かな構想力をもつ。
	優	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念にもとづき、経済成長につて十分論理的に考えることができる。
	良	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念にもとづき、経済成長について論理的に考えることができる。
	可	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念にもとづき、経済成長についてある程度論理的に考えることができる。
	不可	授業で学んだ経済学に関する基本的知識・概念にもとづき、経済成長について論理的に考えることができない。
到達目標 3	秀	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に十分説得的に伝えることができる。さらに書き言葉、話し言葉などで表現豊かである。
	優	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に十分説得的に伝えることができる。
	良	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に説得的に伝えることができる。
	可	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者にある程度説得的に伝えることができる。
	不可	授業で学んだ知識・概念をもとに、自らの考えを他者に説得的に伝えることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	100	0	0	0	0	0	100
到達目標 1	40	0	0	0	0	0	40
到達目標 2	40	0	0	0	0	0	40
到達目標 3	20	0	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポートの提出を課す。授業で学んだ基礎知識や基本的概念をもとに、自らの意見がどれくらい論理的にまた系統的に提示できるのかが試される。
提出物	授業内容の理解を深めるため、毎回の講義終了後に受講票（質問・コメント）の提出を求める。

履修に必要な知識・技能など
経済学の入門的な授業です。授業で学ぶ基本的知識をもとに、経済成長、格差、気候危機、人口減少、持続可能性など社会のあり方や変化について考える機会となればよいと思う。

教科書・ISBN
講義内容に沿ったテキスト「経済学入門」（自家製プリント）をあらかじめ配布する。

参考書
比較的平易な参考書を適宜紹介する。たとえば、橘木俊詔『新しい幸福論』、暉峻淑子『豊かさとは何か』（ともに岩波新書）など

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
組織マネジメント論（F12233）	講義	1	15	1	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	－	山下紗矢佳
科目担当者	山下紗矢佳							

授業の概要	企業経営や組織の運営において「マネジメント」の概念は重要である。 この授業では「マネジメント」を２つの側面からアプローチをしていく。一つは学術的アプローチである。アカデミックな理論に基づきマネジメントを理解することにつとめる。もう一つは実践的アプローチである。現実の企業経営・組織運営の場では、様々な柔軟な対応をせまられる場が多い。学術的な理解では説明のできない行動をとることがある。以上のように、理論と実践の融合から「マネジメント」について考察していくこととする。 また組織を構成する「ヒト」に着目し、ヒトづくりの重要性とともに、ヒトづくりが組織に与える影響等について考察をする。 なお、授業では多くの事例を検証するとともに、地域に密接に結びつく事例を多く取り上げていく。地域の経済・雇用といった側面についても理解を深められるように授業をおこなっていく。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（　）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第１回	ガイダンス	【事前】指定された参考文献や資料などを読み、分からない専門用語などを調べておく（120 分） 【事後】授業中に説明した内容について整理し分からない部分などを再度復習する（120 分）
第２回	戦略、組織設計	【事前】指定された参考文献や資料などを読み、分からない専門用語などを調べておく（120 分） 【事後】授業中に説明した内容について整理し分からない部分などを再度復習する（120 分）
第３回	組織構造の基本	【事前】指定された参考文献や資料などを読み、分からない専門用語などを調べておく（120 分） 【事後】授業中に説明した内容について整理し分からない部分などを再度復習する（120 分）
第４回	外部環境と内部環境	【事前】指定された参考文献や資料などを読み、分からない専門用語などを調べておく（120 分） 【事後】授業中に説明した内容について整理し分からない部分などを再度復習する（120 分）
第５回	組織の規模、組織文化	【事前】指定された参考文献や資料などを読み、分からない専門用語などを調べておく（120 分） 【事後】授業中に説明した内容について整理し分からない部分などを再度復習する（120 分）

第 6 回	組織とヒト	【事前】指定された参考文献や資料などを読み、分からないよう専門用語などを調べておく（120 分） 【事後】授業中に説明した内容について整理し分からない部分などを再度復習する（120 分）
第 7 回	事例検証	【事前】指定された参考文献や資料などを読み、分からないよう専門用語などを調べておく（120 分） 【事後】授業中に説明した内容について整理し分からない部分などを再度復習する（120 分）
第 8 回	まとめ	【事前】これまでの授業を振り返り理解する。（120 分） 【事後】まとめの内容を確認し、自身の理解度をチェックする。間違っているものなどがあれば再度復習をする。（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	現代企業に求められる「組織づくり」「ヒトづくり」について経営学の視点から考察できるようになる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	現代企業に求められる「組織づくり」「ヒトづくり」について経営学の視点から、自分の言葉で考察でき、他者に説明することができ、他者が理解できるようになる。また自身の視点で課題を見つけ出し、課題解決に結びつける言動ができるようになる。
	優	現代企業に求められる「組織づくり」について経営学の視点から、自分の言葉で考察でき、他者に説明することができ、他者が理解できるようになる。
	良	現代企業に求められる「組織づくり」について経営学の視点から、自分の言葉で考察でき、他者に説明することができる。
	可	現代企業に求められる「組織づくり」について経営学の視点から、理解できるようになる。
	不可	現代企業に求められる「組織づくり」について経営学の視点から、理解できない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	50	0	0	0	0	100
到達目標 1	50	50	0	0	0	0	100

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	定期試験：50%
提出物	授業中に毎回実施するレポート：50%

履修に必要な知識・技能など
学生からの意見を求めることもあるので、積極的な授業参加を期待する。 新聞、ウェブサイトをはじめとする報道や雑誌・書籍を通して社会・経済と医療・歯科医療や保健・福祉に関わる情報に関心を持つことが望まれる。

教科書・ISBN

参考書
佐竹隆幸（2014）『「人」財経営のすすめ』神戸新聞総合出版センター. その他、適宜お示しします。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
心理臨床学 （F12340）	講義	1	15	1	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 必修 こども教育学科 選択必修	—	永島聡
科目担当者	永島聡							

授業の概要	医療、教育、保育、福祉等の現場における専門職を目指す学生にとって必要な心理臨床学の基本に関して、受講者とともに学修する。特にフロイト、エリクソン、フランクルの理論と技法をベースに進行する。さらに具体的にいくつかの現代心理臨床的トピックを取り上げ、受講者の理解を深めていく。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（　）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習（外部協定　有　・　無　） （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	臨床心理士 / 公認心理師としてのカウンセリングや心理検査の実務経験を踏まえ、具体例を用いつつ、心理学的理論を伝える。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	「『こころ』って何なのか ?」私たちは本当にこころを持っているのか ?	【事前】心理学的な文献を 1 つ以上読んでおく（120 分） 【事後】内容と感想を 400 字程度にまとめる（120 分）
第 2 回	「『私』とは何か ?」アイデンティティについて。エリクソンの理論より。	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 400 字程度にまとめる（120 分）
第 3 回	「青年期の課題とは ?」青年期におけるアイデンティティ確立とサブカルチャー・カウンターカルチャーの役割。	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 400 字程度にまとめる（120 分）
第 4 回	「人間は本能的欲求を満たしたいのか ? 力が欲しいのか ?」人生の意味とは何か。フランクルの思想より。	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 400 字程度にまとめる（120 分）
第 5 回	「コミュニケーションの障害について」ASD を中心に考える。	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 400 字程度にまとめる（120 分）
第 6 回	「LD とは ?ADHD とは ? 障害とは何なのか ? 個性とは ? 能力とは ?」発達障害について考える。	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 400 字程度にまとめる（120 分）
第 7 回	「LGBT/SOGI とは ?」セクシュアリティの多様性について考える。	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 400 字程度にまとめる（120 分）
第 8 回	「結局、人間のこころとは何なのか ?」授業全体についてのまとめ。	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 400 字程度にまとめる（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	対人援助職としての専門性の基本を身につける
到達目標 2	多面的な思考ができるようになる
到達目標 3	受容性・共感性を理解する
到達目標 4	表現力を豊かにする

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	自らの専門領域についての知識・技術論を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	自らの専門領域についての知識・技術論を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識・技術論を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識・技術論を身につけている。
	不可	自らの専門領域についての知識・技術論を身につけていない。
到達目標２	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
到達目標３	秀	他者の立場に身を置いてその人の価値観を十分理解した上で、相手が感じているであろうことを様々に思い巡らせながら共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。相手から話題を奪ってしまうことはない。また、共感しているつもりになるリスクを常に意識している。
	優	他者の立場に身を置いてその人の価値観を理解した上で共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	良	他者の立場に身を置いて話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	可	他者に大きな関心はないが、会話のキャッチボールはできる。
	不可	他者と会話のキャッチボールをすることができない。
到達目標４	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	80	20	0	0	0	0	100
到達目標１	20	5	0	0	0	0	25
到達目標２	20	5	0	0	0	0	25
到達目標３	20	5	0	0	0	0	25
到達目標４	20	5	0	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を期末に manaba にて実施。ある具体的な事例等をこちらから設定する。それについて授業内容を踏まえた上で、心理学的な解釈や対人援助職として望ましい対応のあり方等を、小論文形式で回答する。内容を変更する可能性がある。80 点。
提出物	毎回授業後に、その日理解したことや自ら感じたこと等を文章で記述し提出する。内容を変更する可能性がある。20 点。

履修に必要な知識・技能など
・映画、音楽、文学等に興味を持ち続ける。 ・社会情勢に興味を持ち続ける。 ・一般常識的な知識の量を増やそうとし続ける。

教科書・ISBN
使用しない。

参考書
随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
人間関係論 （F12350）	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 必修 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	永島聡
科目担当者	永島聡							

授業の概要	人間関係を保つには、まず相手を知らなければならないであろうし、そのためには自分自身を知らなければならないだろう。しかしそもそも相手を知る、自分を知るとはどのようなことなのか？この授業においては、心理学的な他者理解および自己理解について、主にクライアント中心療法や精神分析の観点から、受講者とともに考えてゆく。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（　）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	臨床心理士 / 公認心理師としてのカウンセリングや心理検査の実務経験を踏まえ、具体例を用いつつ、心理学的理論を伝える。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	「こころって何なのか?」私たちは本当にこころを持っているのか？	【事前】心理学の文献を 1 つ以上読んでおく（120 分） 【事後】内容と感想を 400 字程度にまとめる（120 分）
第 2 回	「こころの構造はどうなっているのか?」意識と無意識について。	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 400 字程度にまとめる（120 分）
第 3 回	「自分のこころを表現してみる」芸術作品の意味について。	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 400 字程度にまとめる
第 4 回	「他者のこころを支えるには?」非指示的であることの大切さについて。	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 400 字程度にまとめる（120 分）
第 5 回	「他者のこころを支えるには？」傾聴することの大切さについて。	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 400 字程度にまとめる（120 分）
第 6 回	「受容することと共感すること」他者を尊重し受け入れることについて。	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 400 字程度にまとめる（120 分）
第 7 回	「受容することと共感すること」他者を共感するとはどのようなことなのか？	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 400 字程度にまとめる（120 分）
第 8 回	「結局、自己や他者を理解できたのか？そもそも理解できるのか?」授業全体のまとめ。	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	対人援助職としての専門性の基本を身につける
到達目標 2	多面的な思考ができるようになる
到達目標 3	受容性・共感性を理解する
到達目標 4	表現力を豊かにする

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	自らの専門領域についての知識・技術論を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	自らの専門領域についての知識・技術論を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識・技術論を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識・技術論を身につけている。
	不可	自らの専門領域についての知識・技術論を身につけていない。
到達目標２	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
到達目標３	秀	他者の立場に身を置いてその人の価値観を十分理解した上で、相手が感じているであろうことを様々に思い巡らせながら共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。相手から話題を奪ってしまうことはない。また、共感しているつもりになるリスクを常に意識している。
	優	他者の立場に身を置いてその人の価値観を理解した上で共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	良	他者の立場に身を置いて話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	可	他者に大きな関心はないが、会話のキャッチボールはできる。
	不可	他者と会話のキャッチボールをすることができない。
到達目標４	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	80	20	0	0	0	0	100
到達目標１	20	5	0	0	0	0	25
到達目標２	20	5	0	0	0	0	25
到達目標３	20	5	0	0	0	0	25
到達目標４	20	5	0	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を期末に manaba にて実施。ある具体的な事例等をこちらから設定する。それについて授業内容を踏まえた上で、心理学的な解釈や対人援助職として望ましい対応のあり方等を、小論文形式で回答する。内容を変更する可能性がある。80 点。
提出物	毎回授業後に、その日理解したことや自ら感じたこと等を文章で記述し提出する。内容を変更する可能性がある。20 点。

履修に必要な知識・技能など
・映画、音楽、文学等に興味を持ち続ける。 ・社会情勢に興味を持ち続ける。 ・一般常識的な知識の量を増やそうとし続ける。

教科書・ISBN
使用しない。

参考書
随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教育と人間 （F12360）	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	光成研一郎
科目担当者	光成研一郎、関本雅子、伴仲謙欣、足立了平							

授業の概要	教育活動には人間存在の中に潜在的に隠れているものを引き出し、発展させるという目的がある。 同様に医療活動にも患者の中に存在するものを引き出し、心身ともに健康な状態に導いていくという目的がある。それゆえに医療の現場で実践を行う上で、教育の理論と方法について学ぶ意義は大きい。 本講義では「いのちの大切さを伝える」という具体的事例を通して、教育に関する基礎知識や教育方法について学ぶ。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習（外部協定　有　・　無　） （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション　－生と死について－（担当者：光成）	【事前】シラバスの熟読（60 分） 【事後】レポート作成（120 分）
第 2 回	阪神・淡路大震災の教訓 （担当者：光成、ゲストスピーカー）	【事前】阪神・淡路大震災について調べておく（120 分） 【事後】レポート作成（120 分）
第 3 回	災害といのち（担当者：足立）	【事前】災害について調べておく（120 分） 【事後】レポート作成（120 分）
第 4 回	終末医療とホスピスケア（担当者：関本）	【事前】終末医療について調べておく（120 分） 【事後】レポート作成（120 分）
第 5 回	いのちの大切さをこどもたちに伝えるために― 教育内容の検討　グループワーク―（担当者：光成・伴仲）	【事前】教育内容の検討（120 分） 【事後】教育内容の振り返り（120 分）
第 6 回	いのちの大切さをこどもたちに伝えるために― 教育方法の検討　グループワーク―（担当者：光成・伴仲）	【事前】教育方法の検討（120 分） 【事後】教育方法の振り返り（120 分）
第 7 回	いのちの大切さをこどもたちに伝えるために― 教育実践の検討　グループワーク―（担当者：光成・伴仲）	【事前】教育方法の検討（120 分） 【事後】教育方法の振り返り（120 分）
第 8 回	いのちの大切さをこどもたちに伝えるために― 発表と評価―（担当者：光成・伴仲）	【事前】発表準備（120 分） 【事後】これまでの学修内容を振り返る（60 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	教育に関する理論や方法を修得し、それらについて説明することができる。
到達目標 2	教育学的見地から「いのち」について議論することができる。
到達目標 3	教育学的見地から「いのち」について理解し、「いのち」の大切さを伝えることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	教育に関する理論や方法を修得し、わかりやすく説明することができる。
	優	教育に関する理論や方法を修得し、説明することができる。
	良	教育に関する理論や方法を修得し、伝えることができる。
	可	教育に関する理論や方法を修得している。
	不可	教育に関する理論や方法を修得していない。
到達目標 2	秀	授業で学んだ教育に関する知識を踏まえ、教育をめぐる諸課題について他者と議論することができ、さらに「いのち」について他者と議論し、自分と異なる意見にも耳を傾け、共に理解を深め、その内容について共に提案することができる。
	優	授業で学んだ教育に関する知識を踏まえ、教育をめぐる諸課題について他者と議論することができ、さらに「いのち」について他者と議論し、自分と異なる意見にも耳を傾け、共に理解を深めることができる。
	良	授業で学んだ教育に関する知識を踏まえ、教育をめぐる諸課題について他者と議論することができ、さらに「いのち」について他者と議論することができる。
	可	授業で学んだ教育に関する知識を踏まえ、教育をめぐる諸課題について他者と議論することができる。
	不可	授業で学んだ教育に関する知識を踏まえ、教育をめぐる諸課題について他者と議論することができない。
到達目標 3	秀	教育学的見地から「いのち」について理解し、「いのち」の大切さについて表現し、他者が理解できるようにわかりやすく伝えることができる。
	優	教育学的見地から「いのち」について理解し、「いのち」の大切さについて表現し、他者が理解できるように伝えることができる。
	良	教育学的見地から「いのち」について理解し、「いのち」の大切さについて表現することができる。
	可	教育学的見地から「いのち」について理解している。
	不可	教育学的見地から「いのち」について理解していない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	20	20	0	0	20	100
到達目標 1	40	20	0	0	0	0	60
到達目標 2	0	0	0	0	0	20	20
到達目標 3	0	0	20	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を実施する。（再試験は実施しない）
提出物	第 1 回～第 4 回のレポート（各 5 × 4）
成果発表（口頭・実技）	成果発表において、「いのち」について理解し、「いのち」の大切さについて表現し、他者に伝えることができているかを評価する。
その他	ピア評価および教員評価に基づいて、他者と適切に議論できていたかどうか、傾聴力と対話力の評価を行う。

履修に必要な知識・技能など
ほぼ毎時間、課題を出すので、学修に対して意欲的な学生が受講するようにしてください。また授業の後半は学科混合のグループワークが主となるので、学科や専門性を越えて、他者と協力し、自分の役割や責任を全うできる態度が求められます。

教科書・ISBN
使用しない。適宜紹介する。

参考書
使用しない。適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
災害とまちづくり （F13020）	講義	1	15	1	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	室﨑友輔
科目担当者	室﨑友輔、森永速男							

授業の概要	近年、地震や豪雨などの自然災害が頻発している中、南海トラフ地震発生の切迫性が高まってきている。私たち人間は、自然現象を止めることはできない。しかし防災・減災という視点から、それらによる被害（生命や財産へのダメージ）を少なくすることは可能である。この授業では、阪神・淡路大震災や東日本大震災などから得た教訓から、災害を受け入れる（「知る」・「理解する」・「考える」姿勢）を学び、日々の暮らしのなかで、私たち一人ひとりが高く意識しなければならない「防災」や「減災」、そして「まちづくり」について、様々な角度から学修する。
アクティブ・ラーニングの要素	（　）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第１回	ガイダンス、阪神・淡路大震災の被害について	【事前】災害とは何かを調べる（100 分） 【事後】本日の授業の整理（120 分）
第２回	東日本大震災の被害、豪雨災害被害について	【事前】過去の災害を調べる（100 分） 【事後】本日の授業の整理（120 分）
第３回	災害の応急対応期、復旧・復興期を知る	【事前】災害からの復旧・復興について調べる（100 分） 【事後】本日の授業の整理（120 分）
第４回	長田の復興を考える①	【事前】長田の復興について調べる（100 分） 【事後】本日の授業の整理（120 分）
第５回	長田の復興を考える②（フィールドワーク）	【事前】長田の復興について考える（100 分） 【事後】本日の授業の整理（120 分）
第６回	災害に強いまちづくりを考える ①	【事前】災害に強いまちづくりとは何かを調べる（100 分） 【事後】本日の授業の整理（120 分）
第７回	災害に強いまちづくりを考える②（ グループワーク）	【事前】災害に強いまちづくりとは何かを考える（100 分） 【事後】本日の授業の整理（120 分）
第８回	災害に強いまちづくりを考える③ （発表）	【事前】発表の準備（100 分） 【事後】授業内容を振り返り、総括する（120 分）

学修の到達目標	
到達目標１	災害を知り、災害を理解している。
到達目標２	災害を考えることができる。
到達目標３	日常的に減災について具体的な取り組みを考えることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	災害について、必要な知識を満足できる水準を超えて理解し身につけている。
	優	災害について、必要な知識を十分満足できる水準まで理解している。
	良	災害について、必要な知識を満足できる水準まで理解している。
	可	災害について、必要最低限の知識は理解している。
	不可	災害について、必要最低限の知識を理解していない。
到達目標２	秀	災害時における問題点や課題について、満足できる水準を超えて理解し具体的に考えることができる。
	優	災害時における問題点や課題について、十分満足できる水準まで理解し具体的に考えることができる。
	良	災害時における問題点や課題について、満足できる水準まで理解し具体的に考えることができる。
	可	災害時における問題点や課題について、必要最低限理解し考えることができる。
	不可	災害時における問題点や課題について、理解することができない。
到達目標３	秀	防災・減災の意味を理解し、満足できる水準を超えて具体的な取組みを考えることができる。
	優	防災・減災の意味を理解し、十分満足できる水準まで具体的な取組みを考えることができる。
	良	防災・減災の意味を理解し、満足できる水準まで具体的な取組みを考えることができる。
	可	防災・減災の意味を理解し、必要最低限の具体的な取組みを考えることができる。
	不可	防災・減災の意味を理解することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	30	45	25	0	0	0	100
到達目標１	5	15	5	0	0	0	25
到達目標２	10	15	10	0	0	0	35
到達目標３	15	15	10	0	0	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	防災まちづくりについてレポート試験を実施する
提出物	授業中または授業後に提出課題を課すことがある
成果発表（口頭・実技）	グループでプレゼンテーションを行う機会を設ける

履修に必要な知識・技能など
“自ら”災害・防災・減災を「知る・理解する・考える」という態度。グループワークでは、お互いの意見を尊重し合い、協力しあう姿勢をもって望むこと。

教科書・ISBN
使用しません

参考書
随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
国際理解 （F12364）	講義	1	15	1	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	鈴木高史
科目担当者	鈴木高史、脇本聡美、島袋梢、黒野利佐子、藤原桜、紀ノ岡浩美、金千秋、桂千広、中野順子、伴仲謙欣、水村容子							

授業の概要	異なる文化的背景や価値観を持つ人々と共生する受容力は、国際社会においても、地域社会においても必要不可欠な資質と考えられる。そのような資質を身につけるために、この授業では様々な立場で異文化体験をしたゲストスピーカーの講演を聴き、多文化共生について理解を深める。本科目の目的はマイノリティの視座から多（他）文化を理解することである。 キーワード：受容・共生
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第１回	オリエンテーション　（担当者：鈴木）	【事前】シラバスを読む（60 分） 【事後】リアクションシート（60 分）
第２回	海外での異文化体験と異文化理解① ～海外に行った日本人の立場から～ （担当者：ゲストスピーカー、国際交流センター員）	【事前】ウガンダの生活文化、ウガンダと日本との関わりについて下調べ（60 分） 【事後】リアクションシート（60 分）
第３回	海外での異文化体験と異文化理解② ～海外に行った日本人の立場から～　（担当者：紀ノ岡）	【事前】カナダの生活文化、カナダと日本の関わりについて下調べ（60 分） 【事後】リアクションシート（60 分）
第４回	他者と意見を共有する① ～マイノリティとしての日本人について考える～　（担当者：国際交流センター員）	【事前】レポート作成（240 分） テーマ：異文化理解とは～マイノリティとしての日本人の視点から～ 【事後】レポート作成（240 分） テーマ：他者の考えに触れ異文化理解についての考え方がどのように変容したか①
第５回	日本での異文化体験と異文化理解① ～日本に来た外国人の立場から～ （担当者：金、ゲストスピーカー、国際交流センター員）	【事前】韓国の生活文化、日本と韓国の関わりについて下調べ（60 分） 【事後】リアクションシート（60 分）
第６回	日本での異文化体験と異文化理解② ～日本に来た外国人の立場から～ （担当者：ゲストスピーカー、国際交流センター員）	【事前】チリの生活文化、日本とチリの関わりについて下調べ（60 分） 【事後】リアクションシート（60 分）
第７回	他者と意見を共有する② ～マイノリティとしての外国人について考える～ （担当者：国際交流センター員）	【事前】レポート作成（240 分） テーマ：異文化理解とは～マイノリティとしての外国人の視点から～ 【事後】レポート作成（240 分） テーマ：他者の考えに触れ異文化理解についての考え方がどのように変容したか②
第８回	ここまでの学びを今後につなげるための発展 （担当者：ゲストスピーカー、脇本）	【事前】 【事後】定期試験の準備（240 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	多文化共生のための異文化理解について、自分の考えを述べることができる
到達目標 2	多文化共生のために、異文化の多様性への理解を示すことができる

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	他者の意見を踏まえて自分の考えを述べており、その内容にひときわの説得性がある。
	優	他者の意見を踏まえて自分の考えを述べており、その内容に説得性がある。
	良	他者の意見を踏まえて自分の考えを述べている。
	可	他者の意見を踏まえることなく自分の考えを述べている。
	不可	自分の考えを述べることができない。
到達目標 2	秀	異文化の多様性への理解が一通り示されており、その中にひときわの独自性が見いだせる。
	優	異文化の多様性への理解が一通り示されており、その中に独自性が見いだせる。
	良	異文化の多様性への理解が一通り示されている。
	可	異文化の多様性への理解が部分的に示されている。
	不可	異文化の多様性への理解を示すことができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	40	0	0	0	0	100
到達目標 1	0	40	0	0	0	0	40
到達目標 2	60	0	0	0	0	0	60

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験
提出物	レポート

履修に必要な知識・技能など
海外に行くことに興味のある人、また、異なる文化を理解することで成長したいと思っている人に履修してもらいたい科目です。

教科書・ISBN
適宜、教材・資料等は配布する。

参考書

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
科学技術論 （F12366）	講義	1	15	1	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択必修	—	鈴木高史
科目担当者	鈴木高史、濵田道夫、髙久圭二							

授業の概要	我々は日進月歩の科学文明の真っただ中にいるが、科学とは何であろうか？また、科学（技術）は今後どのように進歩していくのであろうか。「これから」を知るためには、「これまで」を理解することが不可欠である。そこで本授業ではまずアリストテレス的自然観から科学革命、産業革命に至る科学史を俯瞰する。次に演繹法と帰納法、反証可能性、パラダイムシフトなどの科学哲学の理解を進める。また科学と国家・地域の関係を考察する。さらに現代科学の主要トピックスを様々な観点から光と影の両面から理解する。これらを通して、受講者が科学についての理解を深め、今後の科学（技術）が発展する方向などを自ら考える力を身につけることを本授業の目的とする。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第１回	イントロダクション、科学の歴史紹介　（担当者：鈴木）	【事前】科学史における主要な出来事として思いつくものを各自で３つ選択し、それらがいつ頃の出来事であったかを調べる（120 分相当） 【事後】授業内容（科学の歴史紹介）の復習（120 分相当）
第２回	科学史概説・科学革命　（担当者：濵田）	【事前】授業内容に示した「科学革命」（17 世紀）の項目について各自で調べる（120 分相当） 【事後】授業内容（科学史概説・科学革命）の復習（120 分相当）
第３回	科学哲学（学問の方法・科学と宗教の違い）　（担当者：濵田）	【事前】授業内容に示した「科学哲学」について、ヨーロッパ近代における合理主義の形成、自然と人間との分離を軸に各自で調べる（120 分相当） 【事後】授業内容（科学哲学（学問の方法・科学と宗教の違い））（120 分相当）
第４回	社会の中の科学　（担当者：濵田）	【事前】授業内容に示した科学と社会との関係について、人類の進歩、社会の発展とは何かを念頭に置きながら各自で調べる（120 分相当） 【事後】授業内容（社会の中の科学）の復習（120 分相当）
第５回	現代科学の主要トピックス（工学的観点から）：産業革命からオートメーションへ、交通や通信の発達から経済活動へ、資源の枯渇から公害と地球温暖化問題　（担当者：髙久）	【事前】授業内容に示した「産業革命からオートメーションへ、交通や通信の発達から経済活動へ、資源の枯渇から公害と地球温暖化問題」の項目について各自で調べる（120 分相当） 【事後】授業内容（現代科学の主要トピックス（工学的観点から））の復習（120 分相当）

第 6 回	現代科学の主要トピックス（情報学的観点から）：ロボット技術から AI へ、情報革命から情報戦争へ、コンピューターウィルスからハッカーへ　（担当者：　）	【事前】授業内容に示した「ロボット技術から AI へ、情報革命から情報戦争へ、コンピューターウィルスからハッカーへ」の項目について各自で調べる（120 分相当） 【事後】授業内容（現代科学の主要トピックス（情報学的観点から））の復習（120 分相当）
第 7 回	現代科学の主要トピックス（物理学的観点から）：核開発、放射線、核兵器と科学者の社会的責任、マルサスの人口論とローマレポート、核のゴミなど科学技術と未来の人類への責任　（担当者：髙久）	【事前】授業内容に示した「核開発、放射線、核兵器と科学者の社会的責任、マルサスの人口論とローマレポート、核のゴミなど科学技術と未来の人類への責任」の項目について各自で調べる（120 分相当） 【事後】授業内容（現代科学の主要トピックス（物理学的観点から））の復習（120 分相当）
第 8 回	現代科学の主要トピックス（生物学的・医学的観点から）：遺伝子組換え作物、遺伝子治療　（担当者：鈴木）	【事前】授業内容に示した「遺伝子組換え作物、遺伝子治療」の項目について各自で調べる（120 分相当） 【事後】授業内容（現代科学の主要トピックス（生物学的･医学的観点から））の復習（120 分相当）

学修の到達目標	
到達目標 1	科学の歴史的背景、科学に関連する思想・哲学について理解する。
到達目標 2	様々な資料を自ら探索し､科学の功罪･今後の科学（技術）が発展する方向などを自分で考えることができる。
到達目標 3	論理的に正しく、また理解しやすい文章を書くことができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	科学の歴史的背景と科学に関連する思想・哲学について、いずれも非常に高いレベルで理解できている。
	優	科学の歴史的背景と科学に関連する思想・哲学についていずれも高いレベルで理解できている。
	良	科学の歴史的背景と科学に関連する思想・哲学についていずれも理解できている。
	可	科学の歴史的背景、もしくは科学に関連する思想・哲学のいずれかについて理解できている。
	不可	科学の歴史的背景、科学に関連する思想・哲学のいずれも理解できていない。
到達目標 2	秀	様々な資料を自ら探索することができ、科学の功罪・今後の科学（技術）が発展する方向などを主体的且つ独創的に考えることができている。
	優	様々な資料を自ら探索することができ、科学の功罪・今後の科学（技術）が発展する方向などを主体的に考えることができている。
	良	様々な資料を自ら探索することができ、科学の功罪・今後の科学（技術）が発展する方向などを一定程度主体的に考えることができている。
	可	様々な資料を自ら探索することはできるが、科学の功罪・今後の科学（技術）が発展する方向などを主体的に考えることはできていない。
	不可	様々な資料を自ら探索すること、科学の功罪・今後の科学（技術）が発展する方向などを主体的に考えること、いずれもできていない。
到達目標 3	秀	論理的に正しく、また理解しやすい文章を書く能力を高いレベルで身につけている。
	優	論理的に正しく、また理解しやすい文章を書く能力を身につけている。
	良	論理的に正しく、また理解しやすい文章を書く能力を一定程度、身につけている。
	可	論理的に正しく書く能力、もしくは理解しやすい文章を書く能力のいずれかを身につけている。
	不可	論理的に正しく書く能力、理解しやすい文章を書く能力のいずれも身につけていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	100	0	0	0	0	0	100
到達目標 1	40	0	0	0	0	0	40
到達目標 2	40	0	0	0	0	0	40
到達目標 3	20	0	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を行う。

履修に必要な知識・技能など
この授業では難しい数式は基本的に使いません。人間社会における「科学」に興味があれば受講可能です。シラバスの内容は変更になる場合があります。

教科書・ISBN
適宜、教材・資料等は配布する。

参考書
遺伝子医療革命　フランシス・S・コリンズ著　矢野真知子訳　NHK 出版 誤解だらけの遺伝子組み換え作物　小島正美著　エネルギーフォーラム 科学史年表 増補版　小山慶太著　中央公論社 科学とはなにか：新しい科学論、いま必要な三つの視点　佐倉 統著　講談社（ブルーバックス）

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
地域との協働A（F13000）	演習	1	30	1	通年	医療検査学科 選択 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	大城亜水
科目担当者	大城亜水、尾﨑優子、紀ノ岡浩美、伴仲謙欣							

授業の概要	この科目は、「1 人ひとりが地域社会の一員として、どのように生活し、さまざまな課題にどう向き合い、協力し合ってどう解決し、より暮らしやすく活力のあるまちづくりに取り組むか」をテーマとします。具体的には、初回のガイダンス時に説明する内容を基に社会・地域活動について、座学と実際の体験を通して学びます。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	ガイダンス（授業説明）（担当者：大城、伴仲）	【事前】シラバスに目を通し、授業の流れ、学修の到達目標等を把握する（90 分） 【事後】今後の授業に向けての抱負について、自分が可能だと思う役割を明確にする（90 分）
第 2 回	大学生の社会・地域活動①（「サービスラーニング（仮）」について考える）（担当者：紀ノ岡、尾﨑）	【事前】事後学修（第 1 回）の要約を指定場所に提出（90 分） 【事後】授業中に出された課題に取り組む（90 分）
第 3 回	大学生の社会･地域活動②（「神戸常盤大学と地域活動（仮）」をテーマにこれまで本学が取り組んできた活動内容などを紹介）（担当者：大城、伴仲）	【事前】事後学修（第 2 回）の要約を指定場所に提出（90 分） 【事後】授業中に出された課題に取り組む（90 分）
第 4 回 〜 第 13 回	神戸常盤大生の社会・地域活動実践 （社会・地域活動のニーズ調査、社会・地域活動体験など）（担当者：大城、伴仲）	【事前】希望する活動のアポ取りを行い、日時･場所、活動内容等を指定場所に報告 【事後】活動報告書を指定場所に提出
第 14 回	神戸常盤大生の社会・地域活動まとめ （社会・地域活動体験のふり返り）（担当者：大城、伴仲）	【事前】各自の活動体験がサービスラーニングとどのようにつながるかについて見解を述べ、指定場所に提出（90 分） 【事後】ふりかえり（第 14 回）を指定場所に提出（90 分）
第 15 回	学修の到達目標の確認 （学修のふり返りと共有）（担当者：大城、伴仲）	【事前】今まで行った授業・活動内容をふり返っておく（90 分） 【事後】最終試験課題のレポートに向けて、事前学修の内容をまとめる（90 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	各活動を通して、自分に課せられた役割を全うし、他者に貢献する。
到達目標 2	与えられた課題や報連相を滞ることなく遂行している。
到達目標 3	ただ与えられた指示に従うだけでなく、自己の経験をふり返りながら課題の本質を見極めるようになる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使して、短時間で正確な課題の遂行ができる。またそれゆえその実行を踏まえた次の新たな創造的作業に移っていきやすい。
	優	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等をバランス良く駆使して、自力で十分適切な課題の遂行ができる。
	良	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切な課題の遂行ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、与えられた課題を一定レベルにおいて実行することができる。
	不可	与えられた場面において何をしていいのかわからない。
到達目標 2	秀	対人援助職に就くために学修する者としての責任感のもと、心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。さらにその自己管理の必要性を他者と広く共有するために行動することができる。
	優	対人援助職に就くために学修する者としての責任感のもと、心身や生活態度等の自発的な自己管理が可能である。
	良	ある程度自発的に、心身や生活態度等の自己管理が可能である。
	可	他者からの助言や指導のもと、心身や生活態度等の自己管理が可能である。
	不可	心身や生活態度等の自己管理ができない。
到達目標 3	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、さらなる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省し次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	40	0	0	0	20	100
到達目標 1	0	0	0	0	0	20	20
到達目標 2	0	40	0	0	0	0	40
到達目標 3	40	0	0	0	0	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を実施する。
提出物	予習、授業後のまとめや小レポート、実践活動報告等を評価対象とする。
その他	正課内におけるグループワークや課題について、正課内の学修内容の範囲に留まらず、自発的に課題を発見し、掘り下げて研究するなど主体的・能動的に取り組んでいたかどうかを評価する。

履修に必要な知識・技能など
履修上の注意として、以下の点に十分留意しながら受講するようにして下さい。 ①本科目は通年科目である。 ②必ず 2 つの活動（2 回ないし 2 日）に参加すること。（※実践活動は、活動時の社会情勢や準備状況等により大幅に変更となる可能性あり） ③本科目の特質上、時間割外での活動（土日含む）がある。

教科書・ISBN
使用しません。

参考書
随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
コミュニティデザイン（F13030）	演習	1	30	1	後期	医療検査学科 選択 診療放射線学科 選択 口腔保健学科 選択 看護学科 選択必修 教育学部 選択	—	室﨑友輔
科目担当者	室﨑友輔、西修、藤岡健							

授業の概要	“ シャッター通り ” 化した商店街、少子高齢化の影響などで活力を失いつつある地域組織、隣人とも挨拶をしないマンションコミュニティ、現代の地域は、これまでになかった多くの課題を抱えている。 そんな今、人と人との繋がりをデザインし、地域の課題を解決していける人材が求められている。本授業では、具体的な事例からコミュニティデザインの基本を学ぶとともに、課題を通してデザインシンキングの方法を学修する。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習（外部協定　有　・　無　） （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーションコミュニティデザインとは？ （担当者：室崎）	【事前】シラバスの確認（30 分） 【事後】コミュニティデザインに関する知識の整理（30 分）
第 2 回	コミュニティデザインの事例～デザイン都市・神戸①～ （担当者：藤岡、室崎） フィールドワークの実践・リサーチシートの作成	【事前】デザイン都市・神戸について下調べ（30 分） 【事後】感想文の作成・提出（30 分）
第 3 回	コミュニティデザインの事例～デザイン都市・神戸②～ （担当者：藤岡、室崎） フィールドワークの実践・リサーチシートの作成	【事前】デザイン都市・神戸について下調べ（30 分） 【事後】感想文の作成・提出（30 分）
第 4 回	コミュニティデザインの実践 1 グループワーク① （発表準備）　（担当者：室崎）	【事前】コミュニティデザインに関する知識の再確認（30 分） 【事後】中間発表の準備（30 分）
第 5 回	コミュニティデザインの実践 1 グループワーク② （発表準備）　（担当者：室崎）	【事前】コミュニティデザインに関する知識の再確認（30 分） 【事後】中間発表の準備（30 分）
第 6 回	コミュニティデザインの事例～デザイン都市・神戸③～ （担当者：西、室崎） フィールドワークの実践・リサーチシートの作成	【事前】デザイン都市・神戸について下調べ（30 分） 【事後】感想文の作成・提出（30 分）
第 7 回	コミュニティデザインの事例～デザイン都市・神戸④～ （担当者：西、室崎） フィールドワークの実践・リサーチシートの作成	【事前】デザイン都市・神戸について下調べ（30 分） 【事後】感想文の作成・提出（30 分）
第 8 回	コミュニティデザインの実践 1 グループワーク① （発表準備）　（担当者：室崎）	【事前】コミュニティデザインに関する知識の再確認（30 分） 【事後】中間発表の準備（30 分）
第 9 回	コミュニティデザインの実践 1 グループワーク② （発表準備）　（担当者：室崎）	【事前】コミュニティデザインに関する知識の再確認（30 分） 【事後】中間発表の準備（30 分）
第 10 回	コミュニティデザインの実践 2 グループワーク・中間発表① （担当者：室崎）	【事前】中間発表の準備（30 分） 【事後】アイデアシートの作成（30 分）

第 11 回	コミュニティデザインの実践 2 グループワーク・中間発表② （担当者：室崎）	【事前】中間発表の準備（30 分） 【事後】アイデアシートの作成（30 分）
第 12 回	コミュニティデザインの実践 3 グループワーク（改善）① （担当者：室崎）	【事前】プレゼンの準備（30 分） 【事後】プレゼンの準備（30 分）
第 13 回	コミュニティデザインの実践 3 グループワーク（改善）② （担当者：室崎）	【事前】プレゼンの準備（30 分） 【事後】プレゼンの準備（30 分）
第 14 回	コミュニティデザインの実践 4- ① 成果発表・レポート課題発表　（担当者：室崎） （担当者：室崎、中田、高松）	【事前】プレゼンの準備・確認（30 分） 【事後】レポートの作成・提出（30 分）
第 15 回	コミュニティデザインの実践 4- ② 成果発表・レポート課題発表　（担当者：室崎）	【事前】プレゼンの準備・確認（30 分） 【事後】レポートの作成・提出（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
到達目標 2	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
到達目標 3	物事を十分に多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
到達目標 4	自発的に物事に専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。
到達目標 5	自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができ、解決策をデザインすることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。
到達目標 2	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界もわかっている。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
到達目標 3	秀	物事を十分に多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分に多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。
到達目標 4	秀	自発的に物事に専心し､夢中になって突き詰めていくことができる。そしてさらなる探究心が生じ、それを実行に移していくことができる。
	優	自発的に物事に専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。
	良	ある程度自発的に物事を突き詰めていくことができる。
	可	他者から促されれば、物事をある程度突き詰めていくことができる。
	不可	物事を自ら突き詰めていくことができない。

到達目標５	秀	自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができ、十分高いレベルの解決策をデザインすることができる。さらにその解決策を発信することで他者と共有し、より高めることができる。
	優	自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができ、十分高いレベルの解決策をデザインすることができる。
	良	ある程度自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができる。
	可	他者から促されることで、様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができる。
	不可	他者から促されても、様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	30	30	0	0	0	100
到達目標１	5	5	5	0	0	0	15
到達目標２	5	5	5	0	0	0	15
到達目標３	5	5	5	0	0	0	15
到達目標４	10	5	5	0	0	0	20
到達目標５	10	5	5	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	定期試験はレポート試験とする。課題に対するリサーチ結果と課題解決方法および授業全体の振り返りをレポート。
提出物	事例紹介（2 回）の感想文を課す。話を聞いて感じたこと、気づいたことを記載する。グループワークの進行に合わせて、フィールドワークシート・リサーチシート・アイデアシートの作成を課す。
成果発表（口頭・実技）	ワークショップを通じて考えた内容をプレゼンする機会を設ける。

履修に必要な知識・技能など
ワークショップでは、お互いの意見を尊重し合い、協力しあう姿勢をもって望むこと。

教科書・ISBN
使用しません

参考書
適宜紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
ライフデザイン （F13040）	演習	1	30	2	後期	医療検査学科 選択 診療放射線学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	室﨑友輔
科目担当者	室﨑友輔、森永速男							

授業の概要	人口減少、高齢化、地方の過疎化など、日本は今まさに様々な課題に直面しています。私たちの社会を取り巻く複雑化した課題を解決する手法として、デザインシンキングによる創造的な解決方法を産み出す力が求められています。本授業では演習（グループワーク）を通じて、デザイン思考による課題の解決方法を産み出す手法を実践的に学びます。授業で考えた社会教育プログラムをイベントで実施することを最終目標とします。
アクティブ・ラーニングの要素	（　）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション課題発表、防災ゲーム体験	【事前】シラバスの確認（30 分） 【事後】課題の整理・復習（30 分）
第 2 回	デザインシンキングとは？リサーチ方法、事例紹介、防災ゲーム体験	【事前】防災ゲームのリサーチ（30 分） 【事後】講義内容の整理・復習（30 分）
第 3 回	課外授業防災体験ミュージアムの視察	【事前】防災体験ミュージアムの事前リサーチ（30 分） 【事後】視察感想文の提出（30 分）
第 4 回	＜ STEP1 ＞テーマ決定グループ分け、グループワーク	【事前】テーマの検討（30 分） 【事後】グループワークの復習（30 分）
第 5 回	＜ STEP2 ＞リサーチ・企画 1 グループワーク	【事前】テーマに関するリサーチ（30 分） 【事後】グループワークの整理・復習（30 分）
第 6 回	＜ STEP2 ＞リサーチ・企画 2 グループワーク、グループ発表	【事前】グループの進捗に合わせたリサーチ（30 分） 【事後】グループワークの整理・復習（30 分）
第 7 回	＜ STEP3 ＞プロトタイピング 1 グループワーク	【事前】プロトタイピングに向けた準備（30 分） 【事後】グループワークの整理・復習（30 分）
第 8 回	＜ STEP3 ＞プロトタイピング 2 グループワーク、グループ発表	【事前】プロトタイピングに向けた準備（30 分） 【事後】グループワークの整理・復習（30 分）
第 9 回	＜ STEP4 ＞ブラッシュアップグループワーク、グループ発表	【事前】ブラッシュアップにむけたリサーチ（30 分） 【事後】グループワークの整理・復習（30 分）
第 10 回	＜ STEP5 ＞アウトプット 1 グループワーク（エスキス）	【事前】アウトプットに向けた準備（30 分） 【事後】グループワークの整理・復習（30 分）
第 11 回	＜ STEP5 ＞アウトプット 2 グループワーク（本制作）	【事前】アウトプットの準備・制作（30 分） 【事後】グループワークの整理・復習（30 分）
第 12 回	＜ STEP5 ＞アウトプット 3 グループワーク、最終発表	【事前】アウトプットの準備・制作（30 分） 【事後】プログラム実施に向けた整理（30 分）
第 13 回	下記イベントでプログラムを実施 （神戸常盤大学としてブース出展） 「イザ！美かえる大キャラバン！」 日時：2023 年 1 月 29 日（日）10 時～ 16 時（予定） 場所：JICA 関西 / 人と防災未来センター	【事前】プログラム実施に向けた準備・制作（30 分） 【事後】感想文の提出（30 分）

第 14 回	下記イベントでプログラムを実施 （神戸常盤大学としてブース出展） 「イザ！美かえる大キャラバン！」 日時：2023 年 1 月 29 日（日）10 時～ 16 時（予定） 場所：JICA 関西 / 人と防災未来センター	【事前】プログラム実施に向けた準備・制作（30 分） 【事後】感想文の提出（30 分）
第 15 回	下記イベントでプログラムを実施 （神戸常盤大学としてブース出展） 「イザ！美かえる大キャラバン！」 日時：2023 年 1 月 29 日（日）10 時～ 16 時（予定） 場所：JICA 関西 / 人と防災未来センター	【事前】プログラム実施に向けた準備・制作（30 分） 【事後】感想文の提出（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
到達目標 2	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
到達目標 3	自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
到達目標 4	自発的に物事に専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。
到達目標 5	自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができ、十分高いレベルの解決策をデザインすることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。その結果は社会に発信し還元できるレベルである。
	優	自発的に情報を収集・整理・分析・活用でき、その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。
到達目標 2	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。なおかつ、根拠の限界も分かっている。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。
到達目標 3	秀	自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。さらに新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと悦びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができない。
到達目標 4	秀	自発的に物事に専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。そしてさらなる探究心が生じ、それを実行に移していくことができる。
	優	自発的に物事に専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。
	良	ある程度自発的に物事を突き詰めていくことができる。
	可	他者から促されれば、物事をある程度突き詰めていくことができる。
	不可	物事を自ら突き詰めていくことができない。

到達目標５	秀	自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができ、十分高いレベルの解決策をデザインすることができる。さらにその解決策を発信することで他者と共有し、より高めることができる。
	優	自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができ、十分高いレベルの解決策をデザインすることができる。
	良	ある程度自発的に様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができる。
	可	他者から促されることで、様々な知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができる。
	不可	課題解決策をデザインすることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	20	10	30	20	0	20	100
到達目標１	5	5	5	0	0	0	15
到達目標２	5	0	5	0	0	0	10
到達目標３	0	0	5	5	0	5	15
到達目標４	0	0	5	5	0	5	15
到達目標５	5	0	5	10	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	授業の最後にレポートを課す。イベントでプログラムを実施して感じたことや授業全体の振り返りをレポートとしてまとめる。
提出物	課外授業後、感想文を課す。施設を見学して感じたこと、気づいたことなどを記述する。
成果発表（口頭・実技）	グループでプレゼンテーションを行う機会を数回設ける。また、毎グループワーク後にはグループ毎に簡単な進捗発表を行う。最終回はイベントで成果発表（プログラムの実施）を行う。
作品	グループワークを通じて、プログラムを企画・制作する。プログラムを企画・制作する過程も含めて評価する。
その他	イベントでプログラム実施を行う。プログラム実施時の姿勢、対応能力などを評価する。

履修に必要な知識・技能など
最終回（第 13 ～ 15 回｜ 1 月 29 日（日））は、やむを得ない理由がない限り、全員出席すること。グループワークでは、お互いの意見を尊重し合い、協力しあう姿勢をもって望むこと。

教科書・ISBN
使用しません

参考書
随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
英語Ｂ（Presentation）（F12100）	演習	1	30	2	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	CAROLK. DALLOS
科目担当者	CAROLK.DALLOS							

授業の概要	The purpose of the course is to acquire basic presentation skills: accurate English in writing and speaking, good presentation design（Introduction, Body, and Conclusion）, understanding diversity of cultures, and good manners while making presentations and listening to others' presentations.
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	Class orientation. Learn the key points of an English presentation. Personal introductions. Show and Tell explained.	【事前】Review the syllabus 15 minutes. Think about your personal introduction 15 minutes. 【事後】Review the key points 15 minutes. Think about your show and tell 15 minutes.
第 2 回	Learn the basic composition of an English presentation（Introduction, Body and Conclusion）	【事前】Review the key points 15 minutes. Think about your show and tell 15 minutes. 【事後】Review the basic composition of a presentation 15 minutes. Start writing outline for show and tell 15 minutes.
第 3 回	Finish writing an English outline for show and tell.	【事前】Work on outline for show and tell considering the basic composition 30 minutes. 【事後】Practice for show and tell presentation 30 minutes.
第 4 回	Present show and tell. Class and teacher evaluations.	【事前】Practice for your show and tell 30 minutes. 【事後】Reflect on your show and tell 30 minutes.
第 5 回	Learn how to use effective visual materials.	【事前】Consider how to improve the basic composition in your show and tell 30 minutes. 【事後】Prepare presentation focusing on using visual materials 30 minutes.
第 6 回	Present visual materials presentation. Teacher and class evaluations.	【事前】Finish up your visual materials presentation 30 minutes. 【事後】Reflect on your visual materials presentation 30 minutes.
第 7 回	Learn effective non-verbal gestures（posture, gestures, voice, eye contact, etc.）.	【事前】Consider how to improve the visual materials in your presentation 30 minutes. 【事後】Prepare presentation focusing on non-verbal gestures 30 minutes.
第 8 回	Present non-verbal gestures presentation. Teacher and class evaluations.	【事前】Finish up your non-verbal gestures presentation 30 minutes. 【事後】Reflect on your non-verbal gestures presentation 30 minutes.

第 9 回	Learn about doing a story message presentation.	【事前】Consider how to improve your non-verbal gestures in your presentation 30 minutes. 【事後】Prepare story message presentation 30 minutes.
第 10 回	Present story message presentation. Teacher and class evaluations.	【事前】Finish your story message presentation 30 minutes. 【事後】Reflect on your story message presentation 30 minutes.
第 11 回	Learn how to research a theme.	【事前】Consider how to improve your story message presentation 30 minutes. 【事後】Start researching the theme 30 minutes.
第 12 回	Learn about doing a theme presentation.	【事前】Continue researching the theme 30 minutes. 【事後】Prepare theme presentation 30 minutes.
第 13 回	Present theme presentation. Teacher and student evaluations.	【事前】Finish up your theme presentation 30 minutes. 【事後】Reflect on your theme presentation 30 minutes.
第 14 回	Choose your best or favorite presentation, improve and make it longer it considering all presentation skills.	【事前】Consider how to improve your theme presentation 30 minutes. 【事後】Continue improving your final presentation 30 minutes.
第 15 回	Present your improved presentation. Teacher and class evaluations. Final exam explained.	【事前】Finish your final presentation 30 minutes. 【事後】Reflect on your final presentation 15 minutes. Review for final exam 15 minutes.

学修の到達目標	
到達目標 1	Students accurately acquire presentation composition skills and non-verbal gestures.
到達目標 2	Students acquire the knowledge and skills necessary to design effective presentations.
到達目標 3	Students develop a deep understanding of multicultural world view.
到達目標 4	Students will interact well as a team in English.

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	様々な英文構造を理解し的確に使うことができる。正確に発音できる。
	優	様々な英文構造を理解しほぼ的確に使うことができる。発音もほぼ正確である。
	良	様々な英文構造を理解しているが、時々不適切な表現を使う。発音も時々不正確である。
	可	適切な英文の構造をある程度理解している。発音はしばしば不正確である。
	不可	適切な英文の構造を理解できず、発音も不正確である。
到達目標 2	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的にプレゼンを構成することができる。
	優	客観的な根拠に基づき概ね論理的にプレゼンを構成するができる。
	良	概ね論理的にプレゼンを構成するが、時々客観的根拠を提示できない場合がある。
	可	根拠は薄いが、ある程度論理的にプレゼンを構成することができる。
	不可	英語のプレゼンの構成に関して、根拠に基づき論理的に考えることができない。
到達目標 3	秀	文化・習慣の多様性や国際問題について深い理解力と洞察力を持っている。
	優	文化・習慣の多様性や国際問題について、分析し評価することができる。
	良	文化・習慣の多様性や様々な国際問題を認識している。
	可	文化・習慣の多様性や国際問題があることに気づいている。
	不可	文化・習慣の多様性や国際問題について、全く理解しない。

到達目標４	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、その実績が社会に還元される場合もある。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	協調・協働への興味は薄いが、他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協調・協働的に作業することはできる。
	不可	協調・協働する意志がなく、周囲のモチベーションを下げてしまう。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	20	30	0	0	10	100
到達目標１	15	10	10	0	0	0	35
到達目標２	15	5	10	0	0	0	30
到達目標３	10	5	5	0	0	0	20
到達目標４	0	0	5	0	0	10	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	Written test
提出物	Submission of assignments
成果発表（口頭・実技）	Presentations in English will be evaluated.
その他	Participation in class will be evaluated.

履修に必要な知識・技能など
1. Class participation. 2. Preparation and review. 3. Completion of assignments.

教科書・ISBN
Materials will be provided by the instructor.

参考書
Additional material may be suggested if necessary.

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
英語 B（Presentation）（F12100）	演習	1	30	2	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	小西千鶴
科目担当者	小西千鶴							

授業の概要	英語でのプレゼンテーションの構造や技法を基本から学び、習得することを目指す。仕事や研究等でプレゼンをする時に必要な技法やマナーを身につける。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション　英語のプレゼンテーションの重要なポイントを学ぶ	【事前】シラバスを読む（30 分） 【事後】本日のまとめをする（30 分）
第 2 回	英語のプレゼンテーションの構成（Introduction Body Conclusion）を学ぶ。	【事前】前回の復習（30 分） 【事後】プレゼン原稿を作る（30 分）
第 3 回	第 1 回プレゼンテーション準備	【事前】配布資料の予習をする（30 分） 【事後】プレゼン原稿を仕上げる（30 分）
第 4 回	リサーチ及び原稿作成短いプレゼンテーションを行うフィードバック	【事前】プレゼンの練習をする（30 分） 【事後】プレゼン原稿を修正する（30 分）
第 5 回	第 2 回プレゼンテーション準備効果的な非言語的要素を学ぶ（姿勢・仕草・声）	【事前】前回の復習（30 分） 【事後】学んだことの練習を行う（30 分）
第 6 回	リサーチ及び原稿作成効果的な視覚資料について学ぶテーマのリサーチ方法を学ぶ（Evidence）	【事前】配布資料の予習をする（30 分） 【事後】視覚資料の作成練習（30 分）
第 7 回	プレゼンテーションを行うフィードバック	【事前】配布資料を使ってリサーチを行ってみる（30 分） 【事後】課題の Evidence をリサーチする（30 分）
第 8 回	第 3 回プレゼンテーション準備報告型のプレゼンテーションについて学ぶ	【事前】第 4 回、第 5 回で学んだことの再確認を行う（30 分） 【事後】報告型のプレゼンについてまとめる（30 分）
第 9 回	報告型プレゼンテーションの準備	【事前】プレゼンのテーマを決めておく（30 分） 【事後】原稿・視覚資料を準備する（30 分）
第 10 回	報告型プレゼンテーションフィードバックと修正	【事前】プレゼンの練習をする（30 分） 【事後】プレゼンの修正箇所をまとめる（30 分）
第 11 回	chairperson と audience として必要な表現・マナーを学ぶ	【事前】前回の復習（30 分） 【事後】学んだことのまとめを行う（30 分）
第 12 回	第 4 回プレゼンテーション準備提案型プレゼンテーションについて学ぶ	【事前】これまでのプレゼンについての振り返りをする（30 分） 【事後】提案型のプレゼンについてまとめる（30 分）
第 13 回	提案型プレゼンテーションの準備	【事前】プレゼンのテーマを決める（30 分） 【事後】原稿・視覚資料を作成する（30 分）
第 14 回	提案型プレゼンテーションフィードバックと修正	【事前】プレゼン練習（30 分） 【事後】プレゼンの修正箇所をまとめる（30 分）

第 15 回	プレゼンテーション総復習フィードバックと評価	【事前】プレゼンの練習をする（30 分） 【事後】授業の振り返りを行う（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	プレゼンの基本的な技法（適切な英文作成と口頭発表）を身につける
到達目標 2	プレゼンの基本構造を知る。
到達目標 3	文化・習慣の多様性や国際問題について理解できる。
到達目標 4	グループでプレゼンの準備（原稿、スライド作成など）ができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	様々な英文構造を理解し的確に使うことができる。正確に発音できる。
	優	様々な英文構造を理解しほぼ的確に使うことができる。発音もほぼ正確である。
	良	様々な英文構造を理解しているが、時々不適切な表現を使う。発音も時々不正確である。
	可	適切な英文の構造をある程度理解している。発音はしばしば不正確である。
	不可	適切な英文の構造が理解できない。
到達目標 2	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的にプレゼンを構成することができる。
	優	客観的な根拠に基づき概ね論理的にプレゼンを構成するができる。
	良	概ね論理的にプレゼンを構成するが、時々客観的根拠を提示できない場合がある。
	可	根拠は薄いが、ある程度論理的にプレゼンを構成することができる。
	不可	英語のプレゼンの構成に関して、根拠に基づき論理的に考えることができない。
到達目標 3	秀	文化・習慣の多様性や国際問題について深い理解力と洞察力を持っている。
	優	文化・習慣の多様性や国際問題について、分析し評価することができる。
	良	文化・習慣の多様性や様々な国際問題を認識している。
	可	文化・習慣の多様性や国際問題があることに気づいている。
	不可	文化・習慣の多様性や国際問題について、全く理解しない。
到達目標 4	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、その実績が社会に還元される場合もある。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	協調・協働への興味は薄いが、他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協調・協働的に作業することはできる。
	不可	協調・協働する意志がなく、周囲のモチベーションを下げてしまう。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	20	30	0	0	10	100
到達目標 1	15	10	10	0	0	0	35
到達目標 2	15	5	10	0	0	0	30
到達目標 3	10	5	5	0	0	0	20
到達目標 4	0	0	5	0	0	10	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	定期試験（筆記）では授業内容が把握できているかどうかが問われる。
提出物	授業中のレポートや課題の提出を個人、またはグループ（ペア）で提出する。
成果発表（口頭・実技）	英語でのプレゼンテーションを評価する。
その他	与えられた課題に対する取り組みを授業中に評価する。

履修に必要な知識・技能など
積極的に課題に取り組むこと。

教科書・ISBN
使用しない

参考書
随時紹介する

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
英語C（Cultural Studies）（F12110）	演習	1	30	2	後期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	小西千鶴
科目担当者	小西千鶴							

授業の概要	海外から見た日本はどんな国なのだろうか。日本のさまざまな文化的側面を中心に、そこで用いられている英語表現を学習する。日本のポップカルチャーからおもてなし文化、マナーや社会問題まで、それら見聞を深めるとともに、学習した表現を応用しながら等身大の日本社会を海外に紹介できる英語を身に付ける。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション Unit 1 Japanese Cultural Invasion 世界に広がる日本のポップカルチャー	【事前】日本の「ポップカルチャー」を調べる（30 分） 【事後】海外に紹介したいマンガあるいはアニメを英語で紹介する練習をする。（30 分）
第 2 回	Unit 2 Emoji: From Japan to the World 日本発祥の絵文字はいまや世界共通語	【事前】「絵文字」の予備知識を備える（30 分） 【事後】絵文字をどのように利用しているのか英語で話せる練習をする。（30 分）
第 3 回	Unit 3 Tokyo 2020: Chance for a New Beginning 2020 年東京オリンピックへの期待と課題	【事前】「東京オリンピック」の予備知識を備える（30 分） 【事後】オリンピックの開催場所について推奨したい国を英語で話せる練習をする。（30 分）
第 4 回	Unit 4 Pet Obsession 日本人のペット依存	【事前】「ペット依存」の意味を考える（30 分） 【事後】ペットを飼いたいか否か、自分の意見をまとめ英語で発表できる練習をする。（30 分）
第 5 回	Unit 5 Silver Japan 超高齢化社会ニッポンと若者の将来への影響	【事前】「高齢化社会」の予備知識を備える（30 分） 【事後】高齢化社会はどのような生活を若い世代にもたらすのだろうか、自分の意見を英語でまとめる。（30 分）
第 6 回	Unit 6 Changing Gender Roles 日本社会における男女の立場や役割の変化	【事前】「ジェンダー問題」の予備知識を備える（30 分） 【事後】どの職業においても男性か女性のどちらか一方だけが望ましいという考えに賛同するか否か、自分の意見を英語でまとめる。（30 分）
第 7 回	Unit 7 Maternity Harassment マタハラ：妊婦が受ける冷遇と批判の実情	【事前】「マタハラ」とは何か考える（30 分） 【事後】日本社会は女性の労働力がもっと必要だと思いますか。自分の意見を英語でまとめる。（30 分）
第 8 回	Unit 8 Digital Youth: The Connected Generation ネット世代の若者考察	【事前】「ネット世代」の予備知識を備える（30 分） 【事後】スマホ依存に対して、どのような意見を持っていますか。自分の意見を英語でまとめる。（30 分）

第 9 回	Unit 9 Japan's Peaceful Poor 格差の広がる日本社会の現状	【事前】「格差」とは何か、予備知識を備える（30 分） 【事後】日本の貧困と海外の貧困との違いは何だと考えますか。自分の意見を英語でまとめる。（30 分）
第 10 回	Unit 10 The Idol-Making Machine 日本独自の「アイドル」の作られ方	【事前】「アイドル」の英語（idle）の意味を調べておく（30 分） 【事後】日本のアイドルの作られ方について、どのように思いますか。自分の意見を英語でまとめる。（30 分）
第 11 回	Unit 11 Japanese Hospitability: Second to None 世界に誇る日本の顧客サービス	【事前】「おもてなし」英語の語源を考える（30 分） 【事後】日本のおもてなしを誇りに思いますか。良い点、悪い点の双方を列挙して、自分の意見を英語でまとめる。（30 分）
第 12 回	Unit 12 Shrinking Cities: Returning the Countryside to Nature 過疎化による地方自治の崩壊	【事前】「過疎化」の予備知識を備える（30 分） 【事後】大都市あるいは地方の村、どちらで働きたいですか。自分の意見を英語でまとめる。（30 分）
第 13 回	Unit 13 Student Power: The New Youth Movement 学生が持つ社会への影響力とその可能性：18 歳選挙権の意義	【事前】「選挙権」の持つ意味を考える（30 分） 【事後】日本の社会がどのようであればよいと思いますか。自分の意見を英語でまとめる。（30 分）
第 14 回	Unit 14 Japan in Space: Leaping to New Frontiers 日本の宇宙開発：実績と将来への展望	【事前】「宇宙開発」の予備知識を備える（30 分） 【事後】日本の宇宙探索への貢献を支持しますか。自分の意見を英語でまとめる。（30 分）
第 15 回	Review	【事前】これまでのトピックを見返して、それぞれのテーマにおける語彙が習得できているかどうか確認をする。（30 分） 【事後】トピックを 1 つ選んで、英語 200 字ほどのエッセイを作成する。（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	日本の文化を簡潔な英語で紹介できる。
到達目標 2	海外から親しまれている日本の文化を理解する。
到達目標 3	トピックに応じて自分の意見を持つ。
到達目標 4	日本語の表現と英語の表現の違いを楽しむ。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	ある特定の日本文化について、歴史的背景や現在の状況をスムーズに英語で伝えることができる。
	優	ある特定の日本文化について、現在の状況を適切な英語で表現できる。
	良	ある特定の日本文化について、現在の状況を基本的な英語で紹介できる。
	可	ある特定の日本文化について、その特徴をまとめ英語でアウトラインを作成することができる。
	不可	ある特定の日本文化について、その特徴をまとめることができない。
到達目標 2	秀	海外で紹介されている日本文化について、短い動画が理解できる。
	優	海外で紹介されている日本文化について、短い記事が理解できる。
	良	海外で紹介されている日本の話題についての簡潔な英語表現を理解できる。
	可	海外で紹介されている日本の話題について、基本的な語彙が理解できる。
	不可	海外で紹介されている日本文化・話題について全く理解できない。

到達目標３	秀	授業で取り上げるトピックを探求し自発的に発表することができる。
	優	授業で取り上げるトピックを調べて他者と共有することができる。
	良	授業で取り上げるトピックを他者とともに探求することができる。
	可	授業で取り上げるトピックにおいて自発的に学習する。
	不可	授業で取り上げるトピックにおいて自分の意見を肯定的にも否定的にも持たない。
到達目標４	秀	日本語のパラグラフを英語のパラグラフ構造に置き換えることができる。
	優	日本語を直訳した文章を英語の表現に置き換えることができる。
	良	日本語を直訳したフレーズを英語のフレーズに置き換えることができる。
	可	日本語を直訳した語彙を頻出する英語の語彙に置き換えることができる。
	不可	日本語と英語の表現の違いを理解することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	30	20	0	0	0	100
到達目標１	30	10	10	0	0	0	50
到達目標２	0	10	10	0	0	0	20
到達目標３	10	10	0	0	0	0	20
到達目標４	10	0	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験を行う。定期試験では、授業で取り上げたテーマにおける読解と新たに習得した英単語の意味の理解が求められる。
提出物	毎月一回授業で筆記もしくは口頭による小テスト（リスニングを含む）を行う。小テストでは、英単語のスペルや意味において正確な理解が求められる。リスニングにおいては、全体的な要点の把握が求められる。
成果発表（口頭・実技）	授業中にグループもしくはペアワークで対話する機会を設ける。対話では、一人の意見に迎合するのではなく、自らの考えを率直に述べる積極的な態度が求められる。必要に応じてプレゼンテーションを行う。

履修に必要な知識・技能など
テーマに応じて自身の体験あるいは予備知識の共有など、積極的に取り組むこと。

教科書・ISBN
9784863123120　Portraits of Japan; Voicing Opinions on an Changing Society. Paul Stapleton/Atsuko Uemura（Cengage Learning, 2017）

参考書
随時紹介する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
地域との協働 B（F13010）	演習	1	30	2	通年	医療検査学科 選択 診療放射線学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	澁谷雪子
科目担当者	澁谷雪子、京極重智、伊藤彰、中村美紀							

授業の概要	学生が主体となり、地域（主に小豆島）活性化のために、地域の方々と協力して活動を行う。その活動を通し学生同士で助け合い、支えあうチームビルディングの力を育成する。また地域の方々と協力し、一定の目的に向けて何かを成し遂げる社会性と実践力を養う。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（レ）課題解決型学習(外部協定　有　・　㊟　) （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	グループワーク①：目標を考える 合宿（集団生活）において必要なことを考える。全体、個の目標を考える。（担当者：科目担当者全員）	【事前】合宿において必要なこと、目標を考える。(30 分) 【事後】意見をまとめ、資料とする。(30 分)
第 2 回	グループワーク②：リーダーとしての行動について考える 合宿（集団生活）においてどのように行動すべきかを考える。地域、他者への対応について考える。（担当者：科目担当者全員）	【事前】リーダーとしての行動、他者への対応について考える。(30 分) 【事後】意見をまとめ、資料とする。(30 分)
第 3 回	グループワーク③：計画（1） 参加者募集に向け計画を立て、資料を作成する。（担当者：科目担当者全員）	【事前】合宿の内容、目的について確認をする。(30 分) 【事後】参加者募集の資料を作成する。(30 分)
第 4 回	グループワーク④：計画（2） 詳細な計画を立てる。合宿中の各場面での行動、判断について話しあう。班分け、しおり作成を進める。（担当者：科目担当者全員）	【事前】集団生活、合宿における注意事項について考える。(30 分) 【事後】意見をまとめ、資料とする。(30 分)
第 5 回	グループワーク⑤：計画（3） 合宿に向けての準備、最終確認をする。合宿オリエンテーションの内容、進め方について考える。（担当者：科目担当者全員）	【事前】合宿で必要な事項を再度考える。(30 分) 【事後】合宿のしおりを作成する。(30 分)
第 6 回	合宿① 日程、活動、役割の最終確認　（担当者：科目担当者全員）	【事前】各自で合宿に向けて最終確認をする。(30 分) 【事後】変更事項等の確認をする。(30 分)
第 7 回	合宿② 施設実習に向けての準備　（担当者：科目担当者全員）	【事前】各自、実習に向けて必要な事項を考える。(30 分) 【事後】各自、最終確認をする。(30 分)
第 8 回	合宿③ 施設での実習（病院、こどもセンター、保育園）（担当者：科目担当者全員）	【事前】各施設、専門の職業について調べる。(30 分) 【事後】実習記録を作成する。(30 分)
第 9 回	合宿④ 施設での実習（病院、こどもセンター、保育園）（担当者：科目担当者全員）	【事前】各施設、専門の職業について調べる。(30 分) 【事後】実習記録を作成する（30 分）
第 10 回	合宿⑤ 施設での実習（病院、こどもセンター、保育園）（担当者：科目担当者全員）	【事前】各施設、専門の職業について調べる。(30 分) 【事後】実習記録を作成する。(30 分)

第 11 回	合宿⑥ 施設での実習（病院、こどもセンター、保育園） （担当者：科目担当者全員）	【事前】各施設、専門の職業について調べる。(30 分) 【事後】実習記録を作成する。(30 分)
第 12 回	合宿⑦ 地域貢献活動 （担当者：科目担当者全員）	【事前】各自､地域貢献活動での役割について考える。(30 分) 【事後】活動記録を作成する。(30 分)
第 13 回	合宿⑧ 地域貢献活動 （担当者：科目担当者全員）	【事前】各自､地域貢献活動での役割について考える。(30 分) 【事後】活動記録を作成する。(30 分)
第 14 回	振り返り、発表会準備 合宿の目標設定、その目標の到達度、活動報告についてまとめる。 （担当者：科目担当者全員）	【事前】合宿の計画、活動報告をまとめる。(30 分) 【事後】発表会の資料を作成する。(30 分)
第 15 回	発表会 活動報告も含め、この授業で学んだこと、その学びをどのように役立てていくかについて発表する。 （担当者：科目担当者全員）	【事前】発表会の準備をする。(30 分) 【事後】まとめを行う。他者の評価を行う。(30 分)

学修の到達目標	
到達目標 1	自分の考え、想いを論理的にまとめ、他者へ伝えることができる
到達目標 2	必要なことを自ら考え、判断し、他者とともに行動することができる
到達目標 3	自分のやるべきことを自ら考え、他者とともに取り組むことができる
到達目標 4	対話の場面において、他者の考え・想いを聴き、他者の気持ちを考えた行動・対話をすることができる
到達目標 5	全ての場面において、他者の立場となり考え、協力し目標達成に向けて行動することができる

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	自分の考え、想いを論理的にまとめ、他者へ伝えることができる
	優	自分の考え、想いを表現でき、他者へ伝えることができる
	良	自分の考え、想いを表現することができる
	可	自分の想いを表現することができる
	不可	自分の考えを表現することができない
到達目標 2	秀	必要なことを自ら考え、判断し、他者とともに行動することができる
	優	必要なことを自ら考え、判断し、行動することができる
	良	必要なことを他者の協力のもと考え、判断し、行動することができる
	可	必要なことを他者の協力のもと考えることができる。
	不可	必要なことを考えることができない。
到達目標 3	秀	自分のやるべきことを自ら考え、他者とともに取り組むことができる
	優	自分のやるべきことを自ら考え、取り組むことができる
	良	自分のやるべきことを他者の協力のもと考え、取り組むことができる
	可	自分のやるべきことを他者の協力のもと考えることができる
	不可	自分のやるべきことを考えることができない。
到達目標 4	秀	他者の考え・想いを聴き、他者の立場となり考え、他者の気持ちを考えた行動・対話をすることができる
	優	他者の考え・想を聴き、他者の立場となり考え、行動・対話をすることができる
	良	他者の考え・想を聴き、他者の立場となり考えることができる
	可	他者の考え・想を聴きくことができる
	不可	他者の考え・想を聴きくことができない

到達目標５	秀	他者の立場となり考え、積極的に協力し目標達成に向けて行動することができる
	優	他者の立場となり考え、協力し目標達成に向けて行動することができる
	良	積極的に協力し目標達成に向けて行動することができる
	可	協力し目標達成に向けて行動することができる
	不可	目標達成に向けて行動することができない

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	15	10	50	0	0	25	100
到達目標１	10	5	10	0	0	5	30
到達目標２	0	0	10	0	0	5	15
到達目標３	5	5	10	0	0	5	25
到達目標４	0	0	10	0	0	5	15
到達目標５	0	0	10	0	0	5	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験
提出物	第１～13回（準備、合宿）：manabaにおいて準備、合宿に用いる資料、まとめの資料を提出。 第７～８回（振り返り）：報告書、発表資料提出
成果発表（口頭・実技）	合宿オリエンテーション、発表会
その他	他者から評価、自分自身の評価毎回、manabaにおいてアンケート（自分自身の評価、他者からの評価）を実施する。

履修に必要な知識・技能など
地域の方々、先輩、同級生、教職員との関わりから、何かを学ぼうとする姿勢を持って履修すること。 再試験は実施しない。

教科書・ISBN
定めず、必要時は資料配布

参考書
定めず、必要時は資料配布

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
英語D（Academic English）（F12120）	演習	1	30	3	前期	医療検査学科 選択必修 診療放射線学科 選択 看護学科 選択必修 こども教育学科 選択	—	CAROLK. DALLOS
科目担当者	CAROLK.DALLOS							

授業の概要	Students will acquire basic academic reading and writing skills for future graduate school or professional work. Through reading a variety of news articles on current issues students will better understand cultural diversities.
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	Syllabus and class rules explained. Personal introduction explained. Class orientation. News article.	【事前】Review syllabus 5 minutes. Think about your personal introduction 25 minutes. 【事後】Reflect on your personal introduction 5 minutes. Read first article 25 minutes.
第 2 回	Read news article together. Go over the vocabulary. Discuss and answer questions about it. Writing assignment. Second news article.	【事前】Reread news article 30 minutes. 【事後】Paragraph writing assignment 15 minutes. Read second news article 15 minutes.
第 3 回	Read second news article together. Go over the vocabulary. Discuss and answer questions about it. Writing assignment. Bring in a news article explained. Third news article.	【事前】Review second news article 15 minutes. Check writing assignment 15 minutes. 【事後】Paragraph writing assignment 15 minutes. Search for a news article 15 minutes. Read third news article 15 minutes.
第 4 回	Read news article together. Go over the vocabulary. Discuss and answer questions about it. Writing assignment. Fourth news article.	【事前】Review third news article 15 minutes. Check writing assignment 15 minutes. 【事後】Paragraph writing assignment 15 minutes. Read fourth news article 15 minutes.
第 5 回	Read news article together. Go over the vocabulary. Discuss and answer questions about it. Writing assignment. Fifth news article.	【事前】Review fourth news article 15 minutes. Check writing assignment 15 minutes. 【事後】Paragraph writing assignment 15 minutes. Read fifth news article 15 minutes.
第 6 回	Read news article together. Go over the vocabulary. Discuss and answer questions about it. Writing assignment. Sixth news article.	【事前】Review fifth news article 15 minutes. Check writing assignment 15 minutes. 【事後】Paragraph writing assignment 15 minutes. Read sixth news article 15 minutes.
第 7 回	Read news article together. Go over the vocabulary. Discuss and answer questions about it. Writing assignment. Seventh news article. Quiz explained.	【事前】Review sixth news article 15 minutes. Check writing assignment 15 minutes. 【事後】Paragraph writing assignment 15 minutes. Read seventh news article 15 minutes. Study vocabulary for quiz 15 minutes.
第 8 回	Quiz. Read news article together. Go over the vocabulary. Discuss and answer questions about it. Writing assignment. Eighth news article.	【事前】Review seventh news article 15 minutes. Check writing assignment 15 minutes. Review vocabulary for quiz 15 minutes. 【事後】Paragraph writing assignment 15 minutes. Read eighth news article 15 minutes.

第 9 回	Read news article together. Go over the vocabulary. Discuss and answer questions about it. Writing assignment. Ninth news article.	【事前】Review eighth news article 15 minutes. Check writing assignment 15 minutes. 【事後】Paragraph writing assignment 15 minutes. Read ninth news article 15 minutes.
第 10 回	Read news article together. Go over the vocabulary. Discuss and answer questions about it. Writing assignment. Tenth news article.	【事前】Review ninth news article 15 minutes. Check writing assignment 15 minutes. 【事後】Paragraph writing assignment 15 minutes. Read tenth news article 15 minutes.
第 11 回	Read news article together. Go over the vocabulary. Discuss and answer questions about it. Writing assignment. Eleventh news article.	【事前】Review tenth news article 15 minutes. Check writing assignment 15 minutes. 【事後】Paragraph writing assignment 15 minutes. Read eleventh news article 15 minutes.
第 12 回	Read news article together. Go over the vocabulary. Discuss and answer questions about it. Writing assignment. Listen to news clip.	【事前】Review eleventh news article 15 minutes. Check writing assignment 15 minutes. 【事後】Paragraph writing assignment 15 minutes. Listen again to news clip 15 minutes.
第 13 回	Listen to news clip together. Go over the vocabulary. Discuss and answer questions about it. Writing assignment. Second news clip.	【事前】Listen to news clip 15 minutes. Check writing assignment 15 minutes. 【事後】Paragraph writing assignment 15 minutes. Listen to second news clip 15 minutes.
第 14 回	Listen to second news clip together. Go over the vocabulary. Discuss and answer questions about it. Writing assignment. Third news clip.	【事前】Listen to second news clip 15 minutes. Check writing assignment 15 minutes. 【事後】Paragraph writing assignment 15 minutes. Listen to third news clip 15 minutes.
第 15 回	Listen to third news clip together. Go over the vocabulary. Discuss and answer questions about it. Final exam explained.	【事前】Listen to third news clip 15 minutes. Check writing assignment 15 minutes. 【事後】Study vocabulary and review writing assignments for final exam 30 minutes.

学修の到達目標	
到達目標 1	Students will acquire reading skills.
到達目標 2	Students will acquire paragraph writing skills.
到達目標 3	Students will understand cultural diversities.

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	Recognizes implications and inferences of the text
	優	Tries to understand implications and inferences of the text
	良	Identifies relations among ideas and understands the text as a whole
	可	Comprehends basic words and recognizes relations among parts of the text
	不可	Disregards or does not understand informational text features
到達目標 2	秀	Writes with complex sentence structures with virtually no grammatical and/or spelling errors
	優	Writes with complex sentence structures but makes some grammatical and/or spelling errors
	良	Writes with simple sentence structures with virtually no grammatical and/or spelling errors
	可	Writes with simple sentence structure and makes many grammatical and/or spelling errors
	不可	Writes without sentence structure and does not have grammatical competence

到達目標３	秀	Demonstrates a deep understanding of multiple worldviews
	優	Analyzes and evaluates cultural diversity and global issues
	良	Acknowledges cultural diversity and different perspectives of global issues
	可	Shows awareness of cultural diversity and of global issues
	不可	Has no awareness of cultural diversity nor of global issues

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	40	0	0	0	20	100
到達目標１	20	15	0	0	0	10	45
到達目標２	20	20	0	0	0	10	50
到達目標３	0	5	0	0	0	0	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	Reading and writing
提出物	Writing assignments and news article（s）
その他	Quiz

履修に必要な知識・技能など
1. Class participation. 2. Preparation and review. 3. Completion of assignments.

教科書・ISBN
Materials will be provided by the instructor.

参考書
Additional material may be suggested if necessary.

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育原理 （E32000）	講義	2	30	1	前期	必修	保育士必修	中田尚美
科目担当者	中田尚美							

授業の概要	保育の理念、役割、制度、歴史、実践について全般的な理解を深める。保育の目標、方法、計画、評価について学ぶとともに、諸外国および日本における保育の現状と課題について理解を深め、より広い視野で俯瞰的に保育について考える。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　） （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション保育の理念と概念	【事前】シラバスを確認して、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】保育の理念と概念についてまとめる（120 分）
第 2 回	保育の意義と目的	【事前】テキストに目を通して、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】保育の意義と目的についてまとめる（120 分）
第 3 回	子どもの最善の利益と保育	【事前】テキストに目を通して、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】子どもの最善の利益と保育についてまとめる（120 分）
第 4 回	子ども家庭福祉と保育	【事前】テキストに目を通して、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】子ども家庭福祉と保育についてまとめる（120 分）
第 5 回	保育所の社会的役割と責任	【事前】児童福祉法を確認して、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】保育所の社会的役割についてまとめる（120 分）
第 6 回	子ども家庭福祉の法体系における保育の位置づけと関係法令	【事前】児童福祉法を確認して、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】学修内容の整理（120 分）
第 7 回	子ども・子育て支援新制度と保育の実施体系	【事前】子育て支援法を確認して、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】子ども・子育て支援新制度についてまとめる（120 分）
第 8 回	保育所保育指針 における基本原則、保育の目標	【事前】保育指針に目を通して、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】保育の基本原則、目標についてまとめる（120 分）
第 9 回	保育における養護	【事前】テキストに目を通して、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】保育における養護についてまとめる（120 分）

第 10 回	保育の内容、環境と方法	【事前】テキストに目を通して、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】保育の内容、環境と方法についてまとめる（120 分）
第 11 回	子ども理解に基づく保育の過程とその循環	【事前】保育指針に目を通して、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】保育の過程とその循環についてまとめる（120 分）
第 12 回	諸外国及び日本の保育の思想と歴史	【事前】テキストに目を通して、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】諸外国及び日本の保育の思想と歴史についてまとめる（120 分）
第 13 回	乳幼児の遊びと絵本（ゲストスピーカー講演）	【事前】テキストに目を通して、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】学修内容についてまとめる（120 分）
第 14 回	日本の保育の現状と課題	【事前】テキストに目を通して、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】日本の保育の現状と課題についてまとめる（120 分）
第 15 回	諸外国の保育の現状と課題	【事前】テキストに目を通して、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】諸外国の保育の現状と課題についてまとめる（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	保育・幼児教育の専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。かつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
到達目標 2	授業で学んだ基本的知識に基づき、十分論理的に考えることができ、さらに新たな視点を示すことができる。
到達目標 3	保育実践の社会的意義や課題について深く考えぬくことができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	保育・幼児教育の専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。かつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	保育・幼児教育の専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていてプロフェッショナリズムも伴っている。
	良	保育・幼児教育の専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については、十分なレベルに達している。
	可	保育・幼児教育の専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	保育・幼児教育の専門領域についての知識・技術を身につけていない。
到達目標 2	秀	授業で学んだ基本的知識に基づき、十分論理的に考えることができ、さらに新たな視点を示すことができる。
	優	授業で学んだ基本的知識に基づき、十分論理的に考えることができる。
	良	授業で学んだ基本的知識に基づき、論理的に考えることができる。
	可	授業で学んだ基本的知識に基づき、ある程度論理的に考えることができる。
	不可	授業で学んだ基本的知識に基づき、論理的に考えることができない。

到達目標３	秀	保育実践の社会的意義や課題について深く考えぬくことができる。
	優	保育実践の社会的意義や課題について十分に考えることができる。
	良	保育実践の社会的意義や課題について考えることができる。
	可	保育実践の社会的意義や課題についてある程度考えることができる。
	不可	保育実践の社会的意義や課題について考えることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	40	0	10	0	0	100
到達目標１	30	20	0	10	0	0	60
到達目標２	10	10	0	0	0	0	20
到達目標３	10	10	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	授業後に筆記試験を行う。
提出物	授業時に意見、質問票の提出を求める。
作品	「絵本カード」を作成する。

履修に必要な知識・技能など
積極的に受講すること。

教科書・ISBN
9784263084333　『アクティベート保育学１　保育原理』汐見利幸・無藤隆・大豆生田啓友編 ミネルヴァ書房 『最新保育資料集 2021』ミネルヴァ書房

参考書
幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教育原理 （E32010）	講義	2	30	1	後期	必修	保育士必修 幼教免必修 小教免必修	光成研一郎
科目担当者	光成研一郎							

授業の概要	従来の教育観が大きく揺らぎ、信頼を失いつつある一方で、今日ほど教育の必要性が叫ばれている時代もない。それゆえに今教育を理論的、批判的に問い直さなければならない。この教育原理においては、教育の基本原理とは何か、教育の理念、歴史、思想はどのように構築されるのかなどについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みの変遷についても理解する。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （レ）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	教育の語義と概念	【事前】シラバスの熟読（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 2 回	教育の必要性と可能性	【事前】配布プリントへの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 3 回	教育の理念・目的	【事前】配布プリントへの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 4 回	教育の歴史・思想	【事前】配布プリントへの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 5 回	教育の基礎的概念と諸理論	【事前】配布プリントへの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 6 回	近代教育制度の成立と展開	【事前】配布プリントへの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 7 回	教育を成り立たせる要素	【事前】配布プリントへの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 8 回	家庭教育の特質と機能（中間テスト実施）	【事前】配布プリントへの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 9 回	現代家庭教育の抱える課題	【事前】配布プリントへの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 10 回	学校教育の特質と機能	【事前】配布プリントへの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 11 回	現代学校教育の抱える課題	【事前】配布プリントへの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 12 回	社会教育と生涯学習	【事前】配布プリントへの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 13 回	生涯学習時代における学びのあり方	【事前】配布プリントへの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 14 回	インストラクショナルデザイン（教育目標と指導と評価の一体化）	【事前】配布プリントへの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 15 回	幼稚園教育要領と小学校の学習指導要領について補足とまとめ	【事前】配布プリントへの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）

学修の到達目標	
到達目標１	教育の基本的概念を身につけるとともに、教育の思想、歴史についても理解する。
到達目標２	教育の現代的課題について理解するために、家庭・学校・社会の教育的役割および連携の重要性について理解する。
到達目標３	生涯学習時代における学びの在り方について理解する。
到達目標４	上記した到達目標について、理解するとともにそれらについて論理的、時には批判的に思考することができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	教育の基本的概念・歴史・思想について深く（理論的・原理的）理解している。
	優	教育の基本的概念・歴史・思想について十分に理解している。
	良	教育の基本的概念・歴史・思想について理解している。
	可	教育の基本的概念・歴史・思想について最低限度理解している。
	不可	教育の基本的概念・歴史・思想について理解していない。
到達目標２	秀	家庭・学校・社会の教育的役割および連携の重要性について深く理解している。
	優	家庭・学校・社会の教育的役割および連携の重要性について十分に理解している。
	良	家庭・学校・社会の教育的役割および連携の重要性について理解している。
	可	家庭・学校・社会の教育的役割および連携の重要性について最低限度理解している。
	不可	家庭・学校・社会の教育的役割および連携の重要性について理解していない。
到達目標３	秀	生涯学習時代における学びの在り方について深く理解し、自らも実践できている。
	優	生涯学習時代における学びの在り方について深く理解している。
	良	生涯学習時代における学びの在り方について十分に理解している。
	可	生涯学習時代における学びの在り方について最低限度理解している。
	不可	生涯学習時代における学びの在り方について理解していない。
到達目標４	秀	上記３つの到達目標について論理的・批判的観点から深く思考することができる。
	優	上記３つの到達目標について論理的・批判的観点から十分に思考することができる。
	良	上記３つの到達目標について論理的・批判的観点から思考することができる。
	可	上記３つの到達目標について論理的もしくは批判的観点から思考することができる。
	不可	上記３つの到達目標について論理的、批判的観点から思考することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	20	0	0	0	40	100
到達目標１	20	5	0	0	0	20	45
到達目標２	5	5	0	0	0	5	15
到達目標３	5	5	0	0	0	5	15
到達目標４	10	5	0	0	0	10	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験を実施する。再試験は実施しない。
提出物	授業ごとの課題について評価する。
その他	中間試験を実施する。

履修に必要な知識・技能など
知識の修得が問われる科目なので、ほぼ毎回課される課題の提出を怠らないこと。再試験は実施しない。

教科書・ISBN
9784812219089 『教育のイデア』改訂版　西本望・光成研一郎編　昭和堂

参考書
小学校学習指導要領、幼稚園教育要領他

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
社会福祉 （E32020）	講義	2	30	1	前期	必修	保育士必修	橋本好市
科目担当者	橋本好市							

授業の概要	現代社会における社会福祉の意義について、自らの生活に即した視点でとらえ直すことからの理解を大切にしたい。 社会全体の幸福と個人の幸福に関するマクロ・ミクロの視野から、理念や制度について法体系を踏まえつつ、各領域の具体的な制度について理解を促す。 社会福祉の究極目標は「すべて国民の幸せの達成」である。 しかし、幸せの価値観は多様であり、共通理解が難しい。自らの幸せを軸に据えながら、社会や児童の幸せについて福祉的観点からの深い洞察ができるように専門知識を醸成する。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	社会福祉法人等における役員、保育園・施設でのアドヴァイザーや顧問、保育士キャリアアップ研修講師、保育行政審議会委員等を歴任している。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	現代社会における社会福祉の意義・理念・概念・枠組み	【事前】社会福祉の意味を吟味しておく（60 分） 【事後】生存権の条文等を整理しておく（60 分）
第 2 回	社会福祉の歴史的変遷から対象を捉える	【事前】社会福祉の対象を考えておく（120 分） 【事後】社会福祉の定義等を理解しなおす（120 分）
第 3 回	社会福祉サービスの概要と専門職	【事前】社会福祉の範囲と専門職を想定しておく（120 分） 【事後】講義時にみた法律・資料等を整理する（120 分）
第 4 回	社会福祉専門職の専門性と倫理	【事前】専門職に必要な要件を考えておく（120 分） 【事後】各倫理綱領を吟味し整理しておく（120 分）
第 5 回	社会福祉の法体系・制度	【事前】社会福祉関係法規名を調べておく（120 分） 【事後】法の体系に基づく社会福祉関係法規の構造を整理しておく（120 分）
第 6 回	保育士と社会福祉の関係性～社会福祉法制度上から見た保育士の立ち位置	【事前】保育士を規定する法体系を想定しておく（120 分） 【事後】保育士の法的根拠を整理しておく（120 分）
第 7 回	社会福祉と保育士の関連性からみた相談支援	【事前】児童福祉の職域を確認しておく（120 分） 【事後】保育士の職域を整理しておく（120 分）
第 8 回	児童福祉施設設備運営基準に基づく福祉専門職としての保育士	【事前】児童福祉施設類型を確認しておく（120 分） 【事後】児童福祉施設の定義から保育士の役割を整理しておく（120 分）
第 9 回	社会保障としての社会保険制度	【事前】社会的セーフティネットの意義を調べておく（120 分） 【事後】相互扶助・公的扶助に基づく制度を整理しておく（120 分）
第 10 回	社会保障としての生活困窮者支援	【事前】生活困窮者について具体的に確認しておく（120 分） 【事後】生存権に基づく生活困窮者支援を整理しておく（120 分）

第 11 回	生活保護の原理原則	【事前】公的扶助と生活保護の関係について調べておく（120 分） 【事後】生保の対象と原理原則等を整理しておく（120 分）
第 12 回	生活保護制度の扶助類型・具体的扶助内容	【事前】扶助類型・扶助金額等条文を確認しておく（120 分） 【事後】扶助類型等を整理し内容を確認しておく（120 分）
第 13 回	保育士としての権利擁護と苦情解決等の利用者保護	【事前】保育士倫理を踏まえ人権と権利について確認する（120 分） 【事後】法制度上を踏まえた権利擁護を整理する（120 分）
第 14 回	人口動態と少子高齢社会の課題を踏まえた保育サービス	【事前】生存権からみた保育士の役割等を確認しておく（150 分） 【事後】倫理綱領・法的根拠から保育士の役割を整理する（150 分）
第 15 回	社会福祉の今後の動向～補足とまとめ・理解度の確認	【事前】社会福祉の法体系・範囲・対象等を復習しておく（150 分） 【事後】社会福祉にみる保育士の存在意義をまとめておく（150 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	現代社会における社会福祉の意義・理念・歴史的変遷・対象に関する知識を習得し、子ども家庭支援をはじめ社会福祉の各領域についての法制度・実施体系等について理解を得る。
到達目標 2	保育士として、社会福祉における相談支援、利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
到達目標 3	現代社会における社会福祉の動向と課題について理解する。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	社会福祉の意義・理念・歴史的変遷・対象に関する知識、社会福祉各領域の法制度・実施体系等について、十分なレベルで理解できている。
	優	社会福祉の意義・理念・歴史的変遷・対象に関する知識、社会福祉各領域の法制度・実施体系等について、一定のレベルで理解できている。
	良	社会福祉の意義・理念・歴史的変遷・対象に関する知識、社会福祉各領域の法制度・実施体系等について、最低限のレベルで理解できている。
	可	社会福祉の意義・理念・歴史的変遷・対象に関する知識、社会福祉各領域の法制度・実施体系等について、知識としてはもっている。
	不可	社会福祉の意義・理念・歴史的変遷・対象に関する知識、社会福祉各領域の法制度・実施体系等について、知識をもっていない。
到達目標 2	秀	保育士として、社会福祉における相談支援、利用者の保護に関わる仕組みについて、十分なレベルで理解できている。
	優	保育士として、社会福祉における相談支援、利用者の保護に関わる仕組みについて、一定のレベルで理解できている。
	良	保育士として、社会福祉における相談支援、利用者の保護に関わる仕組みについて、最低限のレベルで理解できている。
	可	保育士として、社会福祉における相談支援、利用者の保護に関わる仕組みについて、基礎的知識としてはもっている。
	不可	保育士として、社会福祉における相談支援、利用者の保護に関わる仕組みについて、知識をもっていない。

到達目標３	秀	現代社会における社会福祉の動向と課題について、十分なレベルで理解できている。
	優	現代社会における社会福祉の動向と課題について、一定のレベルで理解できている。
	良	現代社会における社会福祉の動向と課題について、最低限のレベルで理解できている。
	可	現代社会における社会福祉の動向と課題について、基礎的知識としてはもっている。
	不可	現代社会における社会福祉の動向と課題について、知識をもっていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	80	20	0	0	0	0	100
到達目標１	50	10	0	0	0	0	60
到達目標２	20	5	0	0	0	0	25
到達目標３	10	5	0	0	0	0	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験を実施。 なお、再試験は実施しない。
提出物	習熟度確認のため中間レポートを実施する。
その他	当然のことであるが、講義への出席は当然のことであるため、出席回数等を評価対象とはしない。 欠席多者は、専門的知識の量に違いが生じ、レポート内容や試験結果に表出し、評価に反映されることを自覚してほしい。

履修に必要な知識・技能など
子どもに関わる上で、基礎となる講義である。子ども関連の法制について基礎的な理解を促し、社会との関わりの中でとらえていく。 したがって、子ども・障害・貧困・病気・年金・保険等のキーワードで社会の事象について興味関心を持って講義へ臨むこと。

教科書・ISBN
9784860155421　『保育福祉小六法』 9784860154592　『保育と社会福祉』

参考書
・『図解で学ぶ保育　社会福祉』直島正樹・原田旬哉 編 萌文書林 ・『図解で学ぶ保育　子ども家庭福祉』直島正樹・原田旬哉 編 萌文書林 ・『保育実践に求められる子ども家庭支援』橋本好市・直島正樹 編 ミネルヴァ書房 ・『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』橋本好市・直島正樹・堀智晴 編 ミネルヴァ書房 ・その他、レジュメを配布、その都度適宜書籍を紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
基礎音楽Ⅰ（E32100）	演習	1	30	1	前期	必修	—	瀬川和子
科目担当者	瀬川和子、戸川晃子、藤内恭子、榊原契保、山﨑祥代							

授業の概要	幼児教育および小学校における音楽指導上、必要となる技能を学ぶ。 基礎的な音楽理論や楽典を理解し、読譜の力を身につける。鍵盤楽器の基礎的な奏法を習得し、各自のレベ ルにあった楽曲に取り組むことで、童謡・唱歌の伴奏等への応用力をつけるための導入編
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	進度調査基礎の楽典（音符と休符） 演奏に適した姿勢と指の形　（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】音符と休符の理解（30 分）
第 2 回	バイエル　基礎の楽典（発想記号と速度記号） （担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】発想記号と速度記号の理解（30 分）
第 3 回	バイエル　基礎の楽典（音階・主要三和音） （担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】音階・主要三和音の理解（30 分）
第 4 回	バイエル他各自の進度に応じた楽曲　童謡・唱歌の伴奏 ハ長調の主要三和音の習得　（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】ハ長調の音階と主要三和音の練習（30 分）
第 5 回	バイエル他各自の進度に応じた楽曲 ハ長調の主要三和音による伴奏付け　（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】ハ長調の音階と主要三和音の理解（30 分）
第 6 回	バイエル他各自の進度に応じた楽曲　童謡・唱歌の伴奏 ト長調の主要三和音の習得　（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】ト長調の音階と主要三和音の練習（30 分）
第 7 回	バイエル他各自の進度に応じた楽曲 ト長調の主要三和音による伴奏付け　（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】ト長調の音階と主要三和音の理解（30 分）
第 8 回	バイエル他各自の進度に応じた楽曲 ハ長調・ト長調音階と終止形理解の確認　（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】ハ長調･ト長調の音階と終止形の理解（30 分）
第 9 回	バイエル他各自の進度に応じた楽曲　童謡・唱歌の伴奏 ニ長調の主要三和音の習得　（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】ニ長調の音階と主要三和音の練習（30 分）
第 10 回	バイエル他各自の進度に応じた楽曲 二長調の主要三和音による伴奏付け　（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】ニ長調の音階と主要三和音の理解（30 分）
第 11 回	バイエル他各自の進度に応じた楽曲　童謡・唱歌の伴奏 イ長調の主要三和音の習得　（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】イ長調の音階と主要三和音の練習（30 分）
第 12 回	バイエル他各自の進度に応じた楽曲 イ長調の主要三和音による伴奏付け　（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】イ長調の音階と主要三和音の理解（30 分）
第 13 回	バイエル他各自の進度に応じた楽曲　童謡・唱歌の伴奏 ヘ長調の主要三和音の習得　（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】ヘ長調の音階と主要三和音の練習（30 分）
第 14 回	バイエル他各自の進度に応じた楽曲のまとめ ヘ長調の主要三和音による伴奏付け　（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】ヘ長調の音階と主要三和音の理解（30 分）
第 15 回	音楽理論の理解の確認とまとめ　（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】音楽理論の理解（30 分）

学修の到達目標	
到達目標１	音楽に関する基礎的な音楽理論・楽典等の理解
到達目標２	各調性および各調の主要三和音の理解
到達目標３	童謡・唱歌の歌唱と伴奏技術の習得
到達目標４	※別途配布する進度別目標を目指すこと

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	音楽に関する基礎的な音楽理論・楽典等の理解が充分であり、それを楽曲の演奏上活用でき、豊かな表現となっている。
	優	音楽に関する基礎的な音楽理論・楽典等の理解が充分であり、楽譜の読み方に活用できる。
	良	音楽に関する基礎的な音楽理論・楽典等の理解が充分であり、指摘があれば各楽曲の表現上に活用できる。
	可	音楽に関する基礎的な音楽理論・楽典等の理解が充分である。
	不可	音楽に関する基礎的な音楽理論・楽典等の理解が不充分である。
到達目標２	秀	各調性および各調の主要三和音を充分理解し、具体的に伴奏時に活用できる。
	優	各調性および各調の主要三和音の理解 ができており、楽曲中の楽譜で確認できる。
	良	各調性および各調の主要三和音を理論上は理解できている。
	可	ハ長調の主要三和音が理解ができている。
	不可	各調の関係、主要和音の理解ができない状態で演奏している。
到達目標３	秀	伴奏･歌唱について楽譜通り演奏するだけでなく、教育的効果を理解した上で豊かな表現ができる。
	優	伴奏・歌唱について楽典・楽語を理解し、楽譜通りの演奏表現ができる。
	良	伴奏・歌唱について楽典・楽語を理解し、正確な読譜ができている。
	可	楽典・楽語の理解ができている。
	不可	楽典・楽語の理解ができず、正確な読譜ができていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	10	40	0	10	0	100
到達目標１	10	5	10	0	5	0	30
到達目標２	15	5	15	0	0	0	35
到達目標３	15	0	15	0	5	0	35

※評価項目で示す評価割合は､授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	実技試験を行う。授業を通して学んだ音楽理論・楽典、あるいは表現方法を活用して演奏発表することが求められる。
提出物	音楽理論・楽典に関する課題
成果発表（口頭・実技）	演奏実技演奏発表の機会に相互評価する。
ポートフォリオ	毎回の授業について振り返り、到達度の記録と「今回の授業で学んだこと」､「習得したことと課題」などについて記述する。

履修に必要な知識・技能など
前回授業の復習および予習として授業回の課題練習をして、積極的に授業に取り組むこと。

教科書・ISBN
9784111010103　『標準バイエル教則本』全音出版社 9784805481004　『こどものうた 200』小林美実 編 チャイルド本社 9784276820692　『やさしい弾き歌い 75』植田光子 編著 音楽之友社 9784773214017　『最もわかりやすい楽典入門』橋内良枝・坪野春枝 共著 kmp

参考書
随時紹介する。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
基礎音楽Ⅱ（E32110）	演習	1	30	1	後期	必修	—	瀬川和子
科目担当者	瀬川和子、戸川晃子、藤内恭子、榊原契保、山﨑祥代							

授業の概要	「基礎音楽Ⅰ」の学習を踏まえ、幼児教育および小学校における音楽指導で必要となる技能を学ぶ。基礎的な音楽理論や楽典を理解し、読譜の力を身につけるとともに、鍵盤楽器の基礎的な奏法を習得し、各自のレベルにあった楽曲に取り組むことで、童謡・唱歌の伴奏等への応用力をつけるための基礎編
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習（外部協定　有　・　無　） （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	各自の進度に応じた課題移調と伴奏付け童謡・唱歌の弾き歌い（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】移調の理解（30 分）
第 2 回	各自の進度に応じた課題　ホ長調の主要三和音の習得（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】ホ長調の終止形の練習（30 分）
第 3 回	各自の進度に応じた課題　ホ長調の主要三和音による伴奏付け（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】ホ長調の音階と終止形の練習（30 分）
第 4 回	マーチの速度の理解　イ短調の主要和音の習得（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】イ短調の音階と終止形の理解（30 分）
第 5 回	駆け足の速度の理解　（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】駆け足速度の理解と練習（30 分）
第 6 回	スキップのリズムと速度の理解　（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】スキップリズムと速度の理解と練習（30 分）
第 7 回	ギャロップのリズムと速度の理解　（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】ギャロップリズムと速度の理解と練習（30 分）
第 8 回	マーチ・スキップ・ギャロップのリズムと速度の確認（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】各リズムと速度の理解（30 分）
第 9 回	各自の進度に応じた課題　童謡・唱歌の弾き歌い（物語）（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習 【事後】物語曲の練習
第 10 回	各自の進度に応じた課題　童謡・唱歌の弾き歌い（春）（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】春の曲の練習（30 分）
第 11 回	各自の進度に応じた課題　童謡・唱歌の弾き歌い（夏）（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】夏の曲の練習（30 分）
第 12 回	各自の進度に応じた課題　童謡・唱歌の弾き歌い（秋）（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】秋の曲の練習（30 分）
第 13 回	各自の進度に応じた課題　童謡・唱歌の弾き歌い（冬）（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】冬の曲の練習（30 分）
第 14 回	各自の進度に応じた課題　童謡・唱歌の弾き歌い（動物）（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】動物の曲の練習（30 分）
第 15 回	童謡・唱歌の弾き歌いのまとめ　（担当者：全員）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】童謡・唱歌の練習（30 分）

学修の到達目標	
到達目標１	音楽に関する基礎的な知識の理解
到達目標２	保育者・教員として、こどもの気持ちや動きに合わせて表現できるピアノ演奏 技術の習得 各調性および各調の主要三和音、終止形の理解
到達目標３	童謡・唱歌の歌唱と伴奏技術の習得

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	伴奏・歌唱について楽典・楽語を理解し楽譜通り演奏するだけでなく、教育的効果を理解した上で豊かな表現ができる。
	優	伴奏・歌唱について楽典・楽語を理解し、楽譜通りの演奏表現ができる。
	良	伴奏・歌唱について楽典・楽語を理解し、正確な読譜ができている。
	可	楽典・楽語の理解ができている。
	不可	楽典・楽語の理解ができず、正確な読譜ができていない。
到達目標２	秀	楽曲の調性、主要三和音と終止形の関係をよく理解し、それをこどもの気持ちや動きに合わせた表現に充分活用できる。
	優	楽曲の調性、主要三和音と終止形の関係を理解し、それをこどもの気持ちや動きに合わせた表現に活用できる。
	良	楽曲の調性、主要三和音と終止形の関係を理解し、演奏できる。
	可	楽曲の調性、主要三和音と終止形の関係を理解している。
	不可	楽曲の調性、主要三和音と終止形の関係の理解が不充分である。
到達目標３	秀	童謡・唱歌の歌唱を余裕を持って伴奏しながら表情豊かに演奏できる表現技術を習得できている。
	優	童謡・唱歌の歌唱を、幼児や児童に合わせて伴奏しながら演奏できる技術を習得できている。
	良	童謡・唱歌の歌唱を伴奏しながら演奏できる技術を習得できている。
	可	童謡・唱歌の歌唱、伴奏それぞれの技術習得はできているが、歌と伴奏のバランスに気をつけることが難しい。
	不可	童謡・唱歌の歌唱、伴奏ともに技術の習得が不充分である。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 （口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	15	40	0	5	0	100
到達目標１	10	5	10	0	5	0	30
到達目標２	15	5	15	0	0	0	35
到達目標３	15	5	15	0	0	0	35

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	実技試験を行う。授業を通して学んだ音楽理論・楽典、あるいは表現方法を活用して演奏発表することが求められる。
提出物	音楽理論・楽典に関する課題
成果発表 （口頭・実技）	演奏実技演奏発表の機会に相互評価する。
ポートフォリオ	毎回の授業について振り返り、到達度の記録と「今回の授業で学んだこと」、「習得したことと課題」等について記述する。

履修に必要な知識・技能など
毎回の授業の復習、および予習として授業回の課題練習をして積極的に授業に取り組むこと。

教科書・ISBN
9784111010103 『標準バイエル教則本』全音出版社 9784805481004 『こどものうた 200』小林美実 編 チャイルド本社 9784276820692 『やさしい弾き歌い 75』植田光子 編著 音楽之友社 9784773214017 『最もわかりやすい楽典入門』橋内良枝・坪野春枝共著 kmp 9784111020102 『ブルグミュラー 25 の練習曲』全音出版社

参考書
随時紹介する。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
基礎図画工作Ⅰ（E32130）	演習	1	30	1	前期	必修	—	藤本由佳利
科目担当者	藤本由佳利、池田千福							

授業の概要	「芸術は答えを用いないで人間を教育する唯一の手段である。」これはバーナード・ショーの言葉である。子どもにとっての造形表現は、知性と感情の調和と発育に必要であり、人格形成に欠くことのできないものである。本授業では、創造のための表現材料の特性を会得し、基礎的な造形表現の技術を教授する。また、自然やもの、文化財などに親しむ経験を重ね、造形表現と言語表現を結びつける活動の展開を考えながら、子どもの生活環境を整えることについて概説する。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション授業の目標と計画について（担当者：藤本）	【事前】シラバスを熟読して次回の授業の予習をしておく。(30 分) 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 2 回	デッサン①素直に見る（担当者：藤本、池田）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認(30 分) 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 3 回	デッサン②素直に見る（担当者：藤本、池田）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認(30 分) 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 4 回	デッサン③かたちを捉える（担当者：藤本、池田）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認(30 分) 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 5 回	デッサン④かたちを捉える（担当者：藤本、池田）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認(30 分) 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 6 回	デッサン⑤立体を捉える（担当者：藤本、池田）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認(30 分) 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 7 回	デッサン⑥立体を捉える（担当者：藤本、池田）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認(30 分) 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 8 回	デッサン⑦動きを捉える（担当者：藤本、池田）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認(30 分) 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 9 回	ドローイング①　線を楽しむ（担当者：藤本、池田）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認(30 分) 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 10 回	ドローイング②　線で遊ぶ（担当者：藤本、池田）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認(30 分) 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）

第 11 回	コラージュによる画面構成①かたちで遊ぶ （担当者：藤本、池田）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 12 回	コラージュによる画面構成②かたちで遊ぶ （担当者：藤本、池田）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 13 回	クロッキー①プロポーションを捉える （担当者：藤本、池田）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 14 回	クロッキー②動きを捉える　（担当者：藤本、池田）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 15 回	鑑賞と学修の到達目標の確認　（担当者：藤本、池田）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】パーソナルポートフォリオの作成と半期の学習内容の振り返り（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	固定観念を打ち破り、素直にものを観察する目と、想像力・描画力を養い、保育・教育に必要な技術を習得する。制作を通して、自らを表現することができる。（感性）
到達目標 2	課題に向かって試行錯誤しながら取り組む姿勢を育む。ものの本質について考え抜くことができる。（知性）
到達目標 3	自ら作り出す喜びを味わうとともに豊かな情操を養う。集中して制作し、自らを客観視する力を育む。（感性・知性・市民性）

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	図画工作への関心や意欲が高く、自分の内面を他者に伝える表現が豊かにできる。
	優	図画工作への関心や意欲が高く、自分の内面を他者に伝える表現ができる。
	良	図画工作への関心や意欲が高く、自分の内面を他者に伝わるよう表現する。
	可	自分の内面を他者に伝わる表現をしようと努力する。
	不可	自分の内面を他者に伝えようとする努力が認められない。
到達目標 2	秀	課題に向かって、徹底的に追求しようとし、真摯に取り組む努力が見られる。
	優	課題に向かって、徹底的に追求しようとし、取り組む努力が見られる。
	良	課題に向かって、徹底的に取り組む努力が見られる。
	可	課題に向かって、取り組む努力が見られる。
	不可	課題に向かって、取り組む努力が見られない。
到達目標 3	秀	自らを統制しながら、自在にまた粘り強く制作に取り組むことができる。
	優	自らを統制しながら、集中して粘り強く制作に取り組むことができる。
	良	自らを統制しながら、制作に取り組むことができる。
	可	自らを統制しながら、制作へ取り組もうとしている。
	不可	自らを統制することができず、制作への取り組みが認められない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	0	45	45	10	0	100
到達目標 1	0	0	15	15	0	0	30
到達目標 2	0	0	15	15	5	0	35
到達目標 3	0	0	15	15	5	0	35

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
成果発表（口頭・実技）	制作への取り組みを重視する。
作品	制作過程を重視しながら作品を評価する。
ポートフォリオ	パーソナルポートフォリオへの取り組みを評価する。

履修に必要な知識・技能など
1）毎回の制作について、パーソナルポートフォリオに記載し、自らの軌跡を明らかにすることによって自己肯定感を高める。 2）身の周りの自然や人工物の美しさを、感じ取ること。展覧会、映画、コンサート、演劇等を積極的に鑑賞する。

教科書・ISBN
使用しません

参考書
随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
基礎図画工作Ⅱ（E32140）	演習	1	30	1	後期	必修	—	藤本由佳利
科目担当者	藤本由佳利、池田千福							

授業の概要	「芸術は答えを用いないで人間を教育する唯一の手段である。」これはバーナード・ショーの言葉である。子どもにとっての造形表現は、知性と感情の調和と発育に必要であり、人格形成に欠くことのできないものである。本授業では、創造のための表現材料の特性を会得し、基礎的な造形表現の技術を教授する。また、自然やもの、文化財などに親しむ経験を重ね、造形表現と言語表現を結びつける活動の展開を考えながら、子どもの生活環境を整えることについて概説する。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	水彩画①Ⅰ－1無彩色を使わずに描画する　（担当者：藤本）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 2 回	水彩画②Ⅰ－2無彩色を使わずに描画する　（担当者：藤本）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 3 回	水彩画③Ⅱ－1混色に慣れる　（担当者：藤本）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 4 回	水彩画④静物写生Ⅱ－2混色に慣れる　（担当者：藤本）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 5 回	水彩画⑤Ⅲ無彩色も使って描く　（担当者：藤本）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 6 回	水彩画⑥Ⅳ－1無彩色も使って描く　（担当者：藤本）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 7 回	水彩画⑦Ⅳ－2無彩色も使って描く　（担当者：藤本）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 8 回	木版画①下絵デザイン・ラフスケッチ　（担当者：池田）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 9 回	木版画②ラフスケッチに彩色・トレース　（担当者：池田）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 10 回	木版画③彫り版木の扱いなど　（担当者：池田）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）

第 11 回	木版画④彫り　彫刻刀の使いかた　（担当者：池田）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 12 回	木版画⑤彫り　彫り進む　（担当者：池田）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 13 回	木版画⑥刷り　1 版 1 色刷り　（担当者：池田）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 14 回	木版画⑦刷り 1 版または 2 版多色刷り、手彩色など（担当者：池田）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】パーソナルポートフォリオの作成（30 分）
第 15 回	パフォーマンスアート・グラフィティーアートと学修の到達目標の確認　（担当者：藤本、池田） * 注:第 1 回から 14 回までは受講者が半分に分かれ、藤本（第 1 回～ 7 回）と池田（第 8 回～ 14 回）を交互に受講する。	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】パーソナルポートフォリオの作成と学習内容の確認（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	固定観念を打ち破り、素直にものを観察する目と、豊かな色彩感覚及びデザイン力を養い、保育・教育に必要な技術を習得する。制作を通して、自らを表現する力を養う。（感性）
到達目標 2	課題に向かって試行錯誤し、追求する姿勢を育む。ものの本質について考え抜くことができる。（知性）
到達目標 3	自ら作り出す喜びを味わうとともに豊かな情操を養う。集中して制作し、自らを客観視する力を育む。（感性・知性・市民性）

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	図画工作への関心や意欲が高く、自分の内面を他者に伝える表現が豊かにできる。
	優	図画工作への関心や意欲が高く、自分の内面を他者に伝える表現ができる。
	良	図画工作への関心や意欲が高く、自分の内面を他者に伝わるよう表現する。
	可	自分の内面を他者に伝わる表現をしようと努力する。
	不可	自分の内面を他者に伝えようとする努力が認められない。
到達目標 2	秀	答えのない課題について、徹底的に追求しようとし、真摯に取り組む努力が見られる。
	優	答えのない課題について、徹底的に追求しようとし、取り組む努力が見られる。
	良	答えのない課題について、徹底的に取り組む努力が見られる。
	可	答えのない課題について、取り組む努力が見られる。
	不可	答えのない課題について、取り組む努力が見られない。
到達目標 3	秀	自らを統制しながら、自在にまた粘り強く制作に取り組むことができる。
	優	自らを統制しながら、集中して粘り強く制作に取り組むことができる。
	良	自らを統制しながら、制作に取り組むことができる。
	可	自らを統制しながら、制作へ取り組もうとしている姿がみとめられる。
	不可	自らを統制することができず、制作への取り組みが認められない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	0	45	45	10	0	100
到達目標 1	0	0	15	15	0	0	30
到達目標 2	0	0	15	15	5	0	35
到達目標 3	0	0	15	15	5	0	35

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
成果発表（口頭・実技）	制作への取り組みを重視する。
作品	制作した作品を評価する
ポートフォリオ	パーソナルポートフォリオへの取り組みを評価する。

履修に必要な知識・技能など
1）毎回の制作について、パーソナルポートフォリオに記載し、自らの軌跡を明らかにすることによって自己肯定感を高める。 2）身の周りの自然や人工物のよさや面白さ、美しさに気付く。展覧会、映画、コンサート、演劇等を積極的に鑑賞する。

教科書・ISBN
使用しません

参考書
随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
基礎体育 （E32150）	演習	1	30	1	前期	必修	—	近藤みづき
科目担当者	近藤みづき、三木伸吾							

授業の概要	幼児期から児童期は、様々な運動パターンとそのバリエーションを経験することによって、動きを調整する能力を最も容易に高めることができる敏感期であると言われている。幼児期、児童期に獲得した動きかたは、子どもが生涯にわたって身につける動きかたの基礎となる。本演習では子どもの運動発達をふまえた上で、幼児期、児童期における各運動領域の内容や多様な運動の意義を理解し、それらの考え方や基本的な技能を身につける。そして、実践で身につけたこれらの内容を他者に伝え、学習を効果的に進めていく指導方法や支援方法を学ぶ。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	中学校体育教師としての指導経験を有しており、その経験を生かして指導方法を伝授する。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション　（担当者：近藤・三木）	【事前】シラバスを熟読し、次回の授業の概要を理解する。(20 分) 【事後】授業での学びをふりかえりシートに記入する。(40 分)
第 2 回	体つくり運動（体ほぐしの運動）　（担当者：近藤） 走・跳の運動遊び①かけっこ　（担当者：三木）	【事前】体ほぐしの運動やかけっこのルールや用具の扱い方、安全に対する注意点等を調べ、理解しておく。(20 分) 【事後】授業での学びをふりかえりシートに記入する。(40 分)
第 3 回	多様な動きを作る運動遊び①移動・バランスをとる運動遊び　（担当者：近藤） 走・跳の運動遊び②折り返し走　（担当者：三木）	【事前】多様な動きを作る運動遊びや走・跳の運動遊びのルールや用具の扱い方、安全に対する注意点等を調べ、理解しておく。(20 分) 【事後】授業での学びをふりかえりシートに記入する。(40 分)
第 4 回	多様な動きを作る運動遊び②力試し・用具を操作する運動遊び　（担当者：近藤） 走・跳の運動遊び③障害走・跳び遊び　（担当者：三木）	【事前】用具を操作する運動遊びや障害走・跳び遊びのルールや用具の扱い方、安全に対する注意点等を調べ、理解しておく。(20 分) 【事後】授業での学びをふりかえりシートに記入する。(40 分)
第 5 回	ゲーム①鬼ごっこ　（担当者：近藤） 器械・器具を使った運動遊び①マット　（担当者：三木）	【事前】鬼ごっこやマットを使った運動遊びのルールや用具の扱い方、安全に対する注意点等を調べ、理解しておく。(20 分) 【事後】授業での学びをふりかえりシートに記入する。(40 分)
第 6 回	ゲーム②ボール投げゲーム　（担当者：近藤） 器械・器具を使った運動遊び②鉄棒　（担当者：三木）	【事前】ボール投げゲームや鉄棒を使った運動遊びのルールや用具の扱い方、安全に対する注意点等を調べ、理解しておく。(20 分) 【事後】授業での学びをふりかえりシートに記入する。(40 分)

第 7 回	ゲーム③ボールゲーム　（担当者：近藤） 器械・器具を使った運動遊び③跳び箱　（担当者：三木）	【事前】ボールゲームや跳び箱を使った運動遊びのルールや用具の扱い方、安全に対する注意点等を調べ、理解しておく。(20 分) 【事後】授業での学びをふりかえりシートに記入する。(40 分)
第 8 回	グループディスカッションによる学修のまとめと発表① 第 2 回から第 7 回　（担当者：近藤・三木）	【事前】グループディスカッションの準備として第 2 回～第 7 回までの学びを振り返り、まとめておく。(30 分) 【事後】後半の授業内容を確認し、グループディスカッションで得られた知見を活かす手立てを考える。(30 分)
第 9 回	体つくり運動（体ほぐしの運動）　（担当者：近藤） 走・跳の運動遊び①かけっこ　（担当者：三木）	【事前】体ほぐしの運動やかけっこのルールや用具の扱い方、安全に対する注意点等を調べ、理解しておく。(20 分) 【事後】授業での学びをふりかえりシートに記入する。(40 分)
第 10 回	多様な動きを作る運動遊び①移動・バランスをとる運動遊び　（担当者：近藤） 走・跳の運動遊び②折り返し走　（担当者：三木）	【事前】多様な動きを作る運動遊びや走・跳の運動遊びのルールや用具の扱い方、安全に対する注意点等を調べ、理解しておく。(20 分) 【事後】授業での学びをふりかえりシートに記入する。(40 分)
第 11 回	多様な動きを作る運動遊び②力試し・用具を操作する運動遊び　（担当者：近藤） 走・跳の運動遊び③障害走・跳び遊び　（担当者：三木）	【事前】用具を操作する運動遊びや障害走・跳び遊びのルールや用具の扱い方、安全に対する注意点等を調べ、理解しておく。(20 分) 【事後】授業での学びをふりかえりシートに記入する。(40 分)
第 12 回	ゲーム①鬼ごっこ　（担当者：近藤） 器械・器具を使った運動遊び①マット　（担当者：三木）	【事前】鬼ごっこルールやマットを使った運動遊びのルールや用具の扱い方、安全に対する注意点等を調べ、理解しておく。(20 分) 【事後】授業での学びをふりかえりシートに記入する。(40 分)
第 13 回	ゲーム②ボール投げゲーム　（担当者：近藤） 器械・器具を使った運動遊び②鉄棒　（担当者：三木）	【事前】ボール投げゲームや鉄棒を使った運動遊びのルールや用具の扱い方、安全に対する注意点等を調べ、理解しておく。(20 分) 【事後】授業での学びをふりかえりシートに記入する。(40 分)
第 14 回	ゲーム③ボールゲーム　（担当者：近藤） 器械・器具を使った運動遊び②跳び箱　（担当者：三木）	【事前】ボールゲームや跳び箱を使った運動遊びのルールや用具の扱い方、安全に対する注意点等を調べ、理解しておく。(20 分) 【事後】授業での学びをふりかえりシートに記入する。(40 分)
第 15 回	グループディスカッションによる学修のまとめと発表② 第 9 回から第 14 回　（担当者：近藤・三木）	【事前】グループディスカッションの準備として第 9 回～第 14 回までの学びを振り返り、まとめておく。(30 分) 【事後】グループディスカッションで得られた知見を指導者になるためにどのようにいかすかを考える。(30 分)

学修の到達目標	
到達目標１	各運動領域の内容や多様な動き、運動遊びの基本的な知識を理解することができる。
到達目標２	各運動領域の内容や多様な動き、運動遊びの基本的な技能を身につけることができる。
到達目標３	各運動領域の内容や多様な動き、運動遊びを実施した際の自分の動きの感じを捉え、言語等で表現できる。
到達目標４	運動への高い関心や意欲をもち、主体的に授業に取り組むことができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	授業で扱う運動に関する基本的な知識や内容が、満足できる水準まで到達していて、行動に移すことができ、さらに周囲に良い影響や結果をもたらすことができる。
	優	授業で扱う運動に関する基本的な知識や内容が、満足できる水準まで到達していて、さらに行動に移すことができる。
	良	授業で扱う運動に関する基本的な知識や内容が、満足できる水準まで到達していることが認められる。
	可	授業で扱う運動に関する基本的な知識や内容が、満足できる水準まで達していないが、努力の過程は認められる。
	不可	授業で扱う運動に関する基本的な知識や内容が、満足できる水準まで達しておらず、その努力の過程も認められない。
到達目標２	秀	授業で扱う運動に関する基本的な技能が、満足できる水準を超えており、何ら心身の束縛も障害もなく、情況に応じて自分の身体を自在に動かすことができる。
	優	授業で扱う運動に関する基本的な技能が、満足できる水準を超えており、情況に応じて自分の身体を動かすことができる。
	良	授業で扱う運動に関する基本的な技能が、満足できる水準まで達していることが認められる。
	可	授業で扱う運動に関する基本的な技能が、満足できる水準まで達していないが、その努力の過程は認められる。
	不可	授業で扱う運動に関する基本的な技能が、満足できる水準まで達しておらず、その努力の過程も認められない。
到達目標３	秀	授業で扱う運動を実施した際の自分の動きの感じを的確に捉えることができ、満足のいく水準を超えて言語等で表現できていることが認められ、他者に伝えることができる。
	優	授業で扱う運動を実施した際の自分の動きの感じを的確に捉えることができ、満足のいく水準まで言語等で表現できていることが認められる。
	良	授業で扱う運動を実施した際の自分の動きの感じを捉えることができ、言語等で表現できていることが認められる。
	可	授業で扱う運動を実施した際の自分の動きの感じを捉えることができるが、言語等で表現できておらず、その努力の過程も認められない。
	不可	授業で扱う運動を実施した際の自分の動きの感じを捉えることができず、その努力の過程も認められない。
到達目標４	秀	運動への関心や自ら運動する意欲が高く、積極的に授業に参加している。それにより周囲にも良い影響を与え、良い結果をもたらすことができる。
	優	運動への関心や自ら運動する意欲が高く、積極的に授業に参加している。それにより周囲にも良い影響を与えることができる。
	良	運動への関心や自ら運動する意欲が認められ、ある程度積極的に授業への参加が認められる。
	可	他者の助言や指導のもと授業へ積極的な参加が認められる。
	不可	他者の助言や指導があっても授業へ積極的な参加が認められない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	40	30	0	0	30	100
到達目標 1	0	30	0	0	0	0	30
到達目標 2	0	0	20	0	0	5	25
到達目標 3	0	10	10	0	0	5	25
到達目標 4	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
提出物	レポート課題（2 回） 授業後の振り返りシート
成果発表（口頭・実技）	実技 ポスター発表
その他	授業への意欲や主体性

履修に必要な知識・技能など
1）実際の指導場面を想定して受講すること。 2）体調管理をすること。 3）長い髪は結び、アクセサリー等の着用はしない。 4）運動に適した服装と体育館シューズを用意すること。

教科書・ISBN
教科書：使用しない。

参考書
適宜配布する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
基礎研究演習Ⅰ（E32300）	演習	2	60	1	通年	必修	—	山下敦子
科目担当者	山下敦子、多田琴子、牛頭哲宏、橋本好市、松尾寛子、笹井隆邦、大城亜水、柳原利佳子							

授業の概要	保育・教育の現場では豊かな人間性、高い倫理観、専門的な知識・技能、社会の変化に対応できる実践的教育力が求められている。この授業では、教育専門職に就くスタートにあたり、「自ら課題を持ち、学び、解決する」力の育成を図り、大学における学修や研究に必要な基礎力を養う。また、自己の適性や資質を分析し、将来の職業選択に関する基礎を培う。 具体的には次の3つの柱で授業を進める。 ⑴ 大学における学修や研究に必要な学び方、レポート、プレゼン等の表現方法について習得する。 ⑵ 保育園、幼稚園、施設、小学校等の見学を行い、職務内容の把握と自己の適性について分析する。 ⑶ 子育て総合支援施設KIT等における体験実習を行い、実践的な保育・教育力の基礎を培う。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （レ）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション〈合同〉～将来の職業に向けた大学の学びについて～　（担当者：山下、笹井、柳原、大城）	【事前】シラバス内容の確認（30分） 【事後】「教科書第Ⅲ部」の復習（30分）
第2回	教育専門職に就くための目標設定〈コース別〉　（担当者：山下、笹井、柳原、大城）	【事前】教育専門職について知識の整理（30分） 【事後】学びの確認（30分）
第3回	教育専門職に向けた研究とその方法①〈ゼミ別〉～保育者・教育者の適性や資質を考える～　（担当者：山下、笹井、柳原、大城）	【事前】入学前課題の図書について再度読解（30分） 【事後】「教科書第Ⅰ部0章､1章､2章」の復習(30分)
第4回	教育専門職に向けた研究とその方法②〈ゼミ別〉～保育者・教育者になるための道筋を知る～　（担当者：山下、笹井、柳原、大城）	【事前】「教科書第Ⅰ部2章、3章」の予習（30分） 【事後】将来の進路について目標を立てる（30分）
第5回	教育専門職に向けた研究とその方法③〈ゼミ別〉～保育・教育課題について考える～(担当者：山下、笹井、柳原、大城)	【事前】「教科書第Ⅰ部4章、5章」の予習（30分） 【事後】学びの確認（30分）
第6回	教育専門職に向けた研究とその方法④〈ゼミ別〉～文献講読とその方法～　（担当者：山下、笹井、柳原、大城）	【事前】「教科書第Ⅰ部6章、7章」の予習（30分） 【事後】図書館等の活用（30分）
第7回	教育専門職に向けた研究とその方法⑤〈ゼミ別〉～教育課題についてグループディスカッション～　（担当者：山下、笹井、柳原、大城）	【事前】「教科書第Ⅰ部8章、9章」の予習（30分） 【事後】ディスカッションの内容をまとめる（30分）
第8回	教育専門職に向けた研究とその方法⑥〈ゼミ別〉～教育課題について整理する～　（担当者：山下、笹井、柳原、大城）	【事前】「教科書第Ⅰ部10章」の予習（30分） 【事後】教育課題について自己の考えを整理する（30分）
第9回	観察実習の事前指導1〈コース別〉保育者養成コース:保育所、幼保連携型認定こども園 教員養成コース：小学校　（担当者：松尾、山下）	【事前】実習目標の設定（30分） 【事後】実習準備（30分）
第10回	観察実習の事前指導2〈合同〉幼稚園の観察実習について　（担当者：多田）	【事前】実習目標の設定（30分） 【事後】実習準備（30分）
第11回	観察実習の事前指導3〈合同〉児童福祉施設の観察実習について　（担当者：橋本）	【事前】実習目標の設定（30分） 【事後】実習準備（30分）

第 12 回	観察実習　保育者養成コース：保育所、幼保連携型認定こども園 教員養成コース：小学校 （担当者：松尾、山下、笹井、柳原、大城）	【事前】実習目標、留意点の確認（30 分） 【事後】観察記録、レポートの作成（30 分）
第 13 回	観察実習　保育者養成コース：保育所、幼保連携型認定こども園 教員養成コース：小学校 （担当者：松尾、山下、笹井、柳原、大城）	【事前】実習目標、留意点の確認（30 分） 【事後】観察記録、レポートの作成（30 分）
第 14 回	観察実習　両コースとも：幼稚園、幼保連携型認定こども園 （担当者：多田、山下、笹井、柳原、大城）	【事前】実習目標、留意点の確認（30 分） 【事後】観察記録、レポートの作成（30 分）
第 15 回	観察実習　両コースとも：幼稚園、幼保連携型認定こども園 （担当者：多田、山下、笹井、柳原、大城）	【事前】実習目標、留意点の確認（30 分） 【事後】観察記録、レポートの作成（30 分）
第 16 回	観察実習　両コースとも：児童福祉施設 （担当者：橋本、山下、笹井、柳原、大城）	【事前】実習目標、留意点の確認（30 分） 【事後】観察記録、レポートの作成（30 分）
第 17 回	観察実習　両コースとも：児童福祉施設 （担当者：橋本、山下、笹井、柳原、大城）	【事前】実習目標、留意点の確認（30 分） 【事後】観察記録、レポートの作成（30 分）
第 18 回	観察実習の事後指導①〈コース別〉保育者養成コース：保育所、幼保連携型認定こども園 教員養成コース：小学校　（担当者：松尾、山下）	【事前】観察記録の振り返り（30 分） 【事後】自己の課題と目標を整理（30 分）
第 19 回	観察実習の事後指導②〈合同〉幼稚園、幼保連携型認定こども園 、児童福祉施設　（担当者：多田・橋本）	【事前】観察記録の振り返り（30 分） 【事後】自己の課題と目標を整理（30 分）
第 20 回	自己・他者理解、研究的態度の理解と実践①〈合同〉～学びの中間振り返りと履修カルテの作成～　（担当者：柳原）	【事前】学びの整理（30 分） 【事後】履修カルテの作成（30 分）
第 21 回	自己・他者理解、研究的態度の理解と実践②〈コース別〉～子育て総合支援施設 KIT の意義と目的について～ （担当者：山下、笹井、柳原、大城）	【事前】大学 WEB にて KIT について予習（30 分） 【事後】学びの確認（30 分）
第 22 回	自己・他者理解、研究的態度の理解と実践③〈ゼミ別〉～子育て総合支援施設 KIT 実習の準備～ （担当者：山下、笹井、柳原、大城）	【事前】KIT 実習における自己の目標設定（30 分） 【事後】KIT 実習について準備（30 分）
第 23 回	自己・他者理解、研究的態度の理解と実践④〈ゼミ別〉～子育て総合支援施設 KIT 実習　こども理解～ （担当者：山下、笹井、柳原、大城）	【事前】KIT 実習の留意点確認（30 分） 【事後】振り返りレポートの作成（30 分）
第 24 回	自己・他者理解、研究的態度の理解と実践⑤〈ゼミ別〉～子育て総合支援施設 KIT 実習　保護者理解～ （担当者：山下、笹井、柳原、大城）	【事前】KIT 実習の留意点確認（30 分） 【事後】振り返りレポートの作成（30 分）
第 25 回	自己・他者理解、研究的態度の理解と実践⑥〈ゼミ別〉～子育て総合支援施設 KIT 実習　地域理解～ （担当者：山下、笹井、柳原、大城）	【事前】KIT 実習の留意点確認（30 分） 【事後】振り返りレポートの作成（30 分）
第 26 回	自己・他者理解、研究的態度の理解と実践⑦〈ゼミ別〉～子育て総合支援施設 KIT 実習　自己理解～ （担当者：山下、笹井、柳原、大城）	【事前】KIT 実習の留意点確認（30 分） 【事後】振り返りレポートの作成と提出（30 分）
第 27 回	自己・他者理解、研究的態度の理解と実践⑧〈ゼミ別〉～実習のまとめと自己の課題、実習報告の準備～ （担当者：山下、笹井、柳原、大城）	【事前】「教科書第Ⅱ部」の予習（30 分） 【事後】プレゼンの準備（30 分）
第 28 回	自己・他者理解、研究的態度の理解と実践⑨〈ゼミ別〉～実習報告（プレゼン）とディスカッション～ （担当者：山下、笹井、柳原、大城）	【事前】「教科書第Ⅱ部」の予習（30 分） 【事後】学びの確認（30 分）
第 29 回	自己・他者理解、研究的態度の理解と実践⑩〈ゼミ別〉～自己の適性を把握し分析する～ （担当者：山下、笹井、柳原、大城）	【事前】ポートフォリオの整理（30 分） 【事後】自己の進路について分析（30 分）
第 30 回	自己・他者理解、研究的態度の理解と実践⑪〈ゼミ別〉～学びの振り返りと今後の目標設定～ （担当者：山下、笹井、柳原、大城）	【事前】自己の資質の把握（30 分） 【事後】自己の進路について分析（30 分）

学修の到達目標	
到達目標１	大学における基礎的な学修・研究スキルを身につけ、保育・教育の現代的課題について知識を関連づけたり、多面的・多角的に思考したりすることができる。（知性）
到達目標２	保育・教育現場について知識の習得や体験をすることによって、教育専門職に必要な資質・能力を分析し、自己研鑽することができる。（専門性）

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	基礎的な学修・研究スキルを十分に身につけ、保育・教育の現代的課題を発見したり、知識を関連づけて多面的・多角的な思考を適切に行うことができる。
	優	基礎的な学修・研究スキルを身につけ、保育・教育の現代的課題について知識を関連づけて多面的・多角的な思考を行うことができる。
	良	基礎的な学修・研究スキルを身につけ、保育・教育の現代的課題について知識を用いながら思考することができる。
	可	基礎的な学修・研究スキルを身につけ、保育・教育の現代的課題について思考することができる。
	不可	基礎的な学修・研究スキルを身につけておらず、保育・教育の現代的課題について知識を用いながら思考することができない。
到達目標２	秀	保育・教育現場についての知識の習得や体験を十分に行い、教育専門職に必要な資質・能力を的確に分析し、自己の職業について必要な資質・能力を伸ばすことができている。
	優	保育・教育現場についての知識の習得や体験を行い、教育専門職に必要な資質・能力を分析し、自己の職業について必要な資質・能力を伸ばすことができている。
	良	保育・教育現場についての知識の習得や体験を行い、教育専門職に必要な資質・能力について理解し、自己の適性を把握することができている。
	可	保育・教育現場についての知識の習得や体験を行い、教育専門職に必要な資質・能力について理解している。
	不可	保育・教育現場についての知識の習得や体験ができておらず、教育専門職に必要な資質・能力についての理解をしていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	30	30	0	20	20	100
到達目標１	0	15	15	0	10	10	50
到達目標２	0	15	15	0	10	10	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	実施しない。
提出物	授業において指示した課題について適切に取り組み、提出している点を評価する。
成果発表（口頭・実技）	授業内に行う発表やプレゼンテーションについて評価する。
ポートフォリオ	授業において取り組むワークシートや自己評価票をはじめ、自己の研究テーマに沿った資料を学修の成果としてポートフォリオに蓄積していく。そのポートフォリオに対して、内容の充実度や実行性について評価する。
その他	授業内における発言やグループディスカッション、グループでの協働作業について、主体的・能動的に取り組んでいたかどうかを評価する。

履修に必要な知識・技能など
1）本演習では、保育・教育現場に赴き、実際にこどもと触れ合う機会が多い。保育者、教育者の一員であることを自覚し、責任ある態度、真剣な態度で受講すること。 2）事前指導の欠席者については、見学実習の参加を認めない。 3）保育者、教育者になるために必要な知識の修得に励むこと。

教科書・ISBN
9784790717492　『大学生学びのハンドブック』世界思想社編集部

参考書
適時紹介します。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育者論 （E33010）	講義	2	30	1	後期	選択	保育士必修	中田尚美
科目担当者	中田尚美							

授業の概要	保育者の役割、倫理、専門性、連携・協働、キャリア形成等について学び、各人が保育職についての理解を深めることを目指す。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　） （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション	【事前】シラバスを読了し、次回の授業の予習をしておく（60 分） 【事後】授業資料の見直し（120 分）
第 2 回	保育者の役割と職務内容	【事前】テキストの該当箇所を読み、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】保育者の役割と職務内容についてまとめる（120 分）
第 3 回	保育者の倫理	【事前】テキストの該当箇所を読み、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】保育者の倫理についてまとめる（120 分）
第 4 回	保育士の制度的位置づけ（1） ―定義、資格・要件―	【事前】児童福祉法を確認して、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】保育士の制度的位置づけについてまとめる（120 分）
第 5 回	保育士の制度的位置づけ（2） ―欠格事由、信用失墜行為等―	【事前】児童福祉法を確認して、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】保育士の制度的位置づけについてまとめる（120 分）
第 6 回	保育士の資質と能力	【事前】テキストの該当箇所を読み、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】保育士の資質と能力についてまとめる（120 分）
第 7 回	養護及び教育の一体的展開	【事前】テキストの該当箇所を読み、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】養護及び教育についてまとめる（120 分）
第 8 回	家庭との連携と保護者に対する支援	【事前】テキストの該当箇所を読み、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】家庭との連携と保護者支援についてまとめる（120 分）
第 9 回	計画に基づく保育の実践と省察・評価	【事前】テキストの該当箇所を読み、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】保育の実践と省察・評価についてまとめる（120 分）

第 10 回	保育の質の向上	【事前】テキストの該当箇所を読み、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】保育の質の向上についてまとめる（120 分）
第 11 回	保育における職員間の連携・協働	【事前】テキストの該当箇所を読み、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】職員間の連携・協働 についてまとめる（120 分）
第 12 回	シュタイナー幼児教育について理解を深める ーゲストスピーカー講演	【事前】シュタイナー幼児教育について調べる（180 分） 【事後】講演の内容についてまとめる（120 分）
第 13 回	地域における自治体や関係機関との連携・協働	【事前】テキストの該当箇所を読み、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】自治体や関係機関との連携・協働 についてまとめる（120 分）
第 14 回	資質向上に関する組織的取り組み及び組織とリーダーシップ	【事前】テキストの該当箇所を読み、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】組織とリーダーシップについてまとめる（120 分）
第 15 回	保育者の専門性向上とキャリア形成の意義	【事前】テキストの該当箇所を読み、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】専門性向上とキャリア形成の意義についてまとめる（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	保育職の意義と職務内容、その職務の特質と役割について十分理解し、他者に説明することができる。
到達目標 2	目指す保育者像に向けて、保育職としての倫理観形成を能動的に探究し、他者にわかるように語ることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	保育職の意義と職務内容、その職務の特質と役割について十分理解し、他者に説明することができる。
	優	保育職の意義と職務内容、その職務の特質と役割について十分理解している。
	良	保育職の意義と職務内容、その職務の特質と役割について理解している。
	可	保育職の意義と職務内容、その職務の特質と役割について理解しようとしている。
	不可	保育職の意義と職務内容、その職務の特質と役割についての理解が不十分である。
到達目標 2	秀	目指す保育者像に向けて、保育職としての倫理観形成を能動的に探究し、他者にわかるように語ることができる。
	優	目指す保育者像に向けて、保育職としての倫理観形成を能動的に探究し、他者に語ることができる。
	良	目指す保育者像に向けて、保育職としての倫理観形成を能動的に探究する態度がある。
	可	目指す保育者像に向けて、保育職としての倫理観形成を探究しようとしている。
	不可	目指す保育者像に向けて、保育職としての倫理観形成を探究する態度が見られない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	30	0	20	0	0	100
到達目標 1	40	10	0	20	0	0	70
到達目標 2	10	20	0	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	授業終了後にレポート試験を実施する。
提出物	授業時に意見、質問票の提出を求める。
作品	絵本カードを作成する。

履修に必要な知識・技能など
事前に必要な知識・技能は特にないが、授業に積極的に取り組むこと。

教科書・ISBN
9784623084340 『保育者論（アクティベート保育学 2)』 汐見稔幸 編　ミネルヴァ書房

参考書
幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
子ども家庭福祉（E33040）	講義	2	30	1	後期	選択	保育士必修	橋本好市
科目担当者	橋本好市							

授業の概要	少子超高齢社会にある日本の現在において、生活上の課題・問題を抱える家庭と子どもへの社会的課題が山積している。 社会全体で子どもを育てるという認識のもと、未来の財産である子どものより良い発達と成長のために、子ども家庭福祉の法制度及び実践的取り組みがある。 子ども家庭福祉の理念・制度・実践について、法体系をからその制度等について学んでいく。 保育士は児童福祉法に定められた専門職であり、国家資格保有者としてふさわしい知識・技術の共通基盤の習得を期待する。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	社会福祉法人等における役員、保育園・施設でのアドヴァイザーや顧問、保育士キャリアアップ研修講師、保育行政審議会委員等を歴任している。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	子ども家庭福祉の現状と枠組み	【事前】生存権と児童福祉法（第 1 条から）関係性を確認しておく（120 分） 【事後】講義時にみた条文・データ等を整理しておく（120 分）
第 2 回	子ども家庭福祉の歴史変遷と理念（概念）	【事前】児童福祉の成り立ちを確認しておく（120 分） 【事後】児童福祉の歴史的変遷を整理しておく（120 分）
第 3 回	子どもの人権・権利の法的体系と解釈～児童の権利に関する条約から人権擁護を考える	【事前】民法・児童福祉法等から子どもの定義を確認しておく（120 分） 【事後】講義時にみた条文から子どもの定義について整理し法体系化しておく（120 分）
第 4 回	子どもの人権・権利の法的体系と解釈～民法・児童福祉法から	【事前】児童の権利に関する条約と児童福祉法の体系を確認しておく（120 分） 【事後】本条約及び本法の法体系から子ども権利を整理しておく（120 分）
第 5 回	子ども家庭福祉制度と実施関係機関～関連機関との協働	【事前】児童福祉法 6 条に明記されている条文内容を確認しておく（120 分） 【事後】児童福祉各種事業と社会福祉法を関連付けしておく（120 分）
第 6 回	子ども家庭福祉制度にみる専門職	【事前】児童福祉関係職種を確認しておく（120 分） 【事後】各職種の法的根拠を整理しておく（120 分）
第 7 回	子ども子育て支援制度から捉える児童福祉サービス	【事前】子育て支援法の目的を確認しておく（120 分） 【事後】児童福祉法との法的関係性を整理しておく（120 分）
第 8 回	児童福祉施設類型と定義	【事前】児童福祉施設の定義を児童福祉法から確認しておく（120 分） 【事後】児童福祉施設類型と特性を整理しておく（120 分）

第 9 回	児童福祉施設の設置（設備）運営基準	【事前】各児童福祉施設に働く職種を確認しておく（120 分） 【事後】各施設設備の運営基準に基づく専門職を整理しておく（120 分）
第 10 回	要保護児童に対する法的支援	【事前】要保護児童と要支援児童の定義を確認しておく（120 分） 【事後】要保護児童と要支援児童の定義び要保護児童対応制度を整理しておく（120 分）
第 11 回	児童虐待防止、被虐待児童に関する福祉施策	【事前】児童虐待類型・根拠法規を確認しておく（120 分） 【事後】児童虐待に関するデータ・虐待の定義から虐待に及ぶ理由を整理しておく（120 分）
第 12 回	児童虐待防止等に関する福祉支援サービス～障害・DV・貧困等	【事前】児童相談所等の役割を確認しておく（120 分） 【事後】児童虐待防止等に関わる被虐待児対応と子ども家庭福祉制度を整理しておく（120 分）
第 13 回	児童虐待としつけとの相違を保育士の視点から考える	【事前】しつけと虐待の相違を検討しておく（120 分） 【事後】しつけ・懲戒・体罰・虐待の範囲・異なりと親権・親権喪失等の法根拠を整理しておく（120 分）
第 14 回	子育て支援としての経済的支援	【事前】保護者に経済的支援について確認しておく（120 分） 【事後】児童手当等の経済支援類型を整理し一覧化しておく（120 分）
第 15 回	児童福祉専門職者としての保育士～課題と展望	【事前】子ども家庭福祉に関する法体系・範囲・対象等を復習しておく（120 分） 【事後】保育士が認知すべき子ども家庭福祉法制度を整理する（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	子ども家庭福祉の意義、歴史的変遷の理解を基に、その基本的理念・子どもの人権擁護・子育て支援法制度・施策に関する事項の理解ができる。
到達目標 2	現代社会における子ども家庭福祉関連の事象に興味・関心を持ち、保育者として自分の見解を確立し、課題と展望を語ることができるようになる。
到達目標 3	物事を客観的・多面的に検討し、実証的・批評的判断に基づきその内容を統合し結論づける能力を身につけ、部分の総和は決して全体ではないことを認識できる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	子ども家庭福祉の意義、歴史的変遷の理解を基に、その基本的理念・子どもの人権擁護・子育て支援法制度・施策に関する事項について、十分なレベルで理解できている。
	優	子ども家庭福祉の意義、歴史的変遷の理解を基に、その基本的理念・子どもの人権擁護・子育て支援法制度・施策に関する事項について、一定のレベルで理解できている。
	良	子ども家庭福祉の意義、歴史的変遷の理解を基に、その基本的理念・子どもの人権擁護・子育て支援法制度・施策に関する事項について、最低限のレベルで理解できている。
	可	子ども家庭福祉の意義、歴史的変遷の理解を基に、その基本的理念・子どもの人権擁護・子育て支援法制度・施策に関する事項について、知識としてはもっている。
	不可	子ども家庭福祉の意義、歴史的変遷の理解を基に、その基本的理念・子どもの人権擁護・子育て支援法制度・施策に関する事項について、知識をもっていない。

到達目標２	秀	保育者として自分の見解を確立し、課題と展望について、客観的・法的根拠に基づき十分論理的に考えることができるレベルである。
	優	保育者として自分の見解を確立し、課題と展望について、客観的・法的根拠に基づき論理的に考えることができる一定のレベルである。
	良	保育者として自分の見解を確立し、課題と展望について、客観的・法的根拠に基づき論理的に考えることができる最低限のレベルである。
	可	保育者として自分の見解を確立し、課題と展望について、考えることができる知識はもっている。
	不可	保育者として自分の見解を確立し、課題と展望について、考えることができる知識をもっていない。
到達目標３	秀	物事を客観的・多面的に検討し、実証的・批評的判断に基づきその内容を統合し結論づけることができる十分なレベルで理解できている。
	優	物事を客観的・多面的に検討し、実証的・批評的判断に基づきその内容を統合し結論づけることができる一定のレベルで理解できている。
	良	物事を客観的・多面的に検討し、実証的・批評的判断に基づきその内容を統合し結論づけることができる最低限のレベルで理解できている。
	可	学んだ内容を統合し結論づけることができるための知識はもっている。
	不可	学んだ内容を統合し結論づけることができるための知識をもっていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	80	20	0	0	0	0	100
到達目標１	50	10	0	0	0	0	60
到達目標２	20	5	0	0	0	0	25
到達目標３	10	5	0	0	0	0	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験を実施。 なお、再試験は実施しない。
提出物	習熟度確認のため中間レポートを実施する。
その他	当然のことであるが、講義への出席は当然のことであるため、出席回数等を評価対象とはしない。 欠席多者は、専門的知識の量に違いが生じ、レポート内容や試験結果に表出し、評価に反映されることを自覚してほしい。

履修に必要な知識・技能など

子どもに関わる基礎となる講義である。子ども関連法制度の理解を促し、社会との関わりの中でとらえていく。したがって、子ども・障害・貧困・病気・年金・保険等のキーワードで社会の事象について興味関心を持ち講義へ臨んでほしい。

教科書・ISBN

9784860155421　『保育福祉小六法』（前期科目「社会福祉」で使用したもの）
9784893473462　『図解で学ぶ保育　子ども家庭福祉』

参考書

・『保育と社会福祉』橋本好市・宮田徹 編 みらい出版
・『図解で学ぶ保育　社会福祉』直島正樹・原田旬哉 編 萌文書林
・『保育実践に求められる家庭支援』橋本好市・直島正樹 編 ミネルヴァ書房
・『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』橋本好市・直島正樹・堀智晴 編 ミネルヴァ書房
・その他、レジュメを配布、その都度適宜書籍を紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
発達心理学（E33180）	講義	2	30	1	後期	選択	保育士選択	柳原利佳子
科目担当者	柳原利佳子							

授業の概要	保育士は乳幼児期の発達を理解することのみならず、18歳までの児童を対象とする施設保育士には思春期以降からの発達を理解しておくことも必要である。本講義では、児童期以前の発達に関する学びを踏まえ、青年期以降の発達に焦点を当てて心理学的側面から概説する。社会人となる前にこれまでの自身の心の軌跡を振り返りつつ、人間の生涯発達を理解することにより、教員・保育士として求められる自己を省察する観点を提供する。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（　）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	第 1 次性徴と第 2 次性徴	【事前】シラバス内容の熟読、第 1 次性徴と第 2 次性徴について調べておく（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（120 分）
第 2 回	思春期からの身体変化	【事前】思春期からの身体変化について調べるとともに，自らの思春期の頃を振り返っておく。(120 分) 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（120 分）
第 3 回	身体的側面からみた自己意識	【事前】自らの身体に対してどのようなイメージを抱いているのか振り返り，自分なりに整理しておく。(120 分) 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（120 分）
第 4 回	男性らしさ・女性らしさと性役割	【事前】社会からどのような性役割が期待されているかについて調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（120 分）
第 5 回	青年期の生活習慣の問題（小テスト 1：第 1 回～第 4 回まで）	【事前】第 1 回～第 4 回までの復習および小テスト対策、青年期の生活習慣の問題点を調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（120 分）
第 6 回	世代を超えた発達の影響	【事前】世代を超えた発達の影響について調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（120 分）
第 7 回	自己の統合　－現実自己と理想自己	【事前】自己評価について調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（120 分）

第 8 回	人格の発達	【事前】ユングのパーソナリティ理論について調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（120 分）
第 9 回	青年期以降の発達課題	【事前】青年期以降の発達課題について調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（120 分）
第 10 回	自我同一性の形成とモラトリアム（小テスト 2：第 5 回～第 9 回まで）	【事前】第 5 回～第 9 回までの復習および小テスト対策、自我同一性について調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（120 分）
第 11 回	自我同一性地位	【事前】自我同一性地位について調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（120 分）
第 12 回	配偶者選択	【事前】配偶者選択の制度や現代的傾向について調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（120 分）
第 13 回	生殖家族の継続と子どもをもつという選択	【事前】生殖家族の継続と子どもをもつという選択について調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（120 分）
第 14 回	人口減社会におけるライフスタイルの選択	【事前】人口減社会の問題点について調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（120 分）
第 15 回	学修の到達目標の確認（小テスト 3:第 10 回～第 14 回まで）	【事前】第 10 回～第 14 回までの復習および小テスト対策（120 分） 【事後】学びの確認と期末試験対策（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	自分がこれまで辿ってきた道筋を振り返り、思春期以降の発達を理解する。
到達目標 2	今後の人生の発達の危機やさまざまな年代の人々の心理について理解を深める。
到達目標 3	より適応的に生きるための視点を持ったライフプランを構築する。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	自分がこれまで辿ってきた道筋を振り返り、思春期以降の発達について，十分なレベルで理解している。
	優	自分がこれまで辿ってきた道筋を振り返り、思春期以降の発達について，一定のレベルで理解している。
	良	自分がこれまで辿ってきた道筋を振り返り、思春期以降の発達について，最低限のレベルで理解している。
	可	自分がこれまで辿ってきた道筋を振り返り、思春期以降の発達について，知識としてもっている。
	不可	自分がこれまで辿ってきた道筋を振り返り、思春期以降の発達について，知識としてもっていない。
到達目標 2	秀	今後の人生の発達の危機やさまざまな年代の人々の心理について，十分なレベルで理解を深めている。
	優	今後の人生の発達の危機やさまざまな年代の人々の心理について，一定のレベルで理解を深めている。
	良	今後の人生の発達の危機やさまざまな年代の人々の心理について，最低限のレベルで理解を深めている。
	可	今後の人生の発達の危機やさまざまな年代の人々の心理について，知識としてもっている。
	不可	今後の人生の発達の危機やさまざまな年代の人々の心理について，知識としてもっていない。

到達目標３	秀	より適応的に生きるための視点を持って，十分なレベルでライフプランを構築している。
	優	より適応的に生きるための視点を持って，一定のレベルでライフプランを構築している。
	良	より適応的に生きるための視点を持って，最低限のレベルでライフプランを構築している。
	可	より適応的に生きるための視点を持てないが，ライフプランを構築している。
	不可	ライフプランを構築していない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	23	77	0	0	0	0	100
到達目標１	0	52	0	0	0	0	52
到達目標２	0	25	0	0	0	0	25
到達目標３	23	0	0	0	0	0	23

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験において、より適応的に生きるための視点を持ったライフプランを構築することができていたかどうかを評価する。
提出物	授業内に行う意見・確認チェックや小テストにおいて，思春期以降の発達の知識とさまざまな年代の人々の心理を修得できていたかどうか，また，小レポートにおいて主体的に真摯に取り組んでいたかどうかを評価する。 ※小テストについて，欠席あるいは点数が50％に満たない場合には，自己申告があった場合に，最大50％分までの点数を加点する特別措置を行う。自己申告には，毎回の授業時間後の学修として提示している「1枚まとめ」を，試験範囲相当分の提出することを要する。

履修に必要な知識・技能など
自己分析、資料の読み取り等について真摯に取り組むこと。

教科書・ISBN
使用しません。毎回プリントを配布します。

参考書
適宜紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育内容総論（E33320）	演習	1	30	1	後期	選択	保育士必修 幼教免必修	中田尚美
科目担当者	中田尚美							

授業の概要	幼稚園教育・保育所保育は、園生活全体を通して総合的に指導するという考え方を理解し、保育・幼児教育の環境を構成し実践するために必要な知識を身に付ける。特に、具体的な乳幼児の姿と関連づけながら遊びの中でどのような経験をしているかについて学び、5 領域のねらい及び内容とのつながりを理解する。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	保育指針に基づく保育の全体構造と 保育内容の理解	【事前】シラバスを熟読しておく（10 分） 【事後】保育の全体構造についてまとめる（50 分）
第 2 回	保育内容の歴史的変遷とその社会的背景	【事前】テキストに目を通し、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】保育内容の歴史的変遷とその社会的背景についてまとめる（30 分）
第 3 回	子どもの発達や生活に即した保育内容	【事前】テキストに目を通し、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】発達や生活に即した保育内容についてまとめる（30 分）
第 4 回	養護及び教育の一体性	【事前】保育指針及びテキストに目を通し、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】養護及び教育の一体性についてまとめる（30 分）
第 5 回	子どもの主体性を尊重する保育	【事前】保育指針及びテキストに目を通し、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】子どもの主体性を尊重する保育についてまとめる（30 分）
第 6 回	環境を通して行う保育	【事前】保育指針及びテキストに目を通し、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】環境を通して行う保育についてまとめる（30 分）
第 7 回	生活や遊びによる総合的な保育	【事前】保育指針及びテキストに目を通し、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】生活や遊びによる総合的な保育についてまとめる（30 分）
第 8 回	個と集団の発達	【事前】保育指針及びテキストに目を通し、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】個と集団の発達についてまとめる（30 分）
第 9 回	家庭や地域、小学校との連携	【事前】保育指針及びテキストに目を通し、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】家庭や地域、小学校との連携についてまとめる（30 分）

第 10 回	長時間の保育	【事前】保育指針及びテキストに目を通し、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】長時間の保育についてまとめる（30 分）
第 11 回	特別な配慮を要する子どもの保育	【事前】保育指針及びテキストに目を通し、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】特別な配慮を要する子どもの保育についてまとめる（30 分）
第 12 回	多文化共生の保育	【事前】保育指針及びテキストに目を通し、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】多文化共生の保育についてまとめる（30 分）
第 13 回	行事に向けての長期指導計画、短期指導計画	【事前】テキストに目を通し、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】学修内容の振り返り（30 分）
第 14 回	模擬保育の指導案の作成	【事前】模擬保育の指導案の作成の準備（30 分） 【事後】模擬保育の指導案の作成（30 分）
第 15 回	模擬保育をグループで実施、まとめ	【事前】全授業内容の振り返り（30 分） 【事後】全授業内容の理解（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	保育の基本を踏まえた指導の考え方を十分理解し、子どもの発達の過程を見通すとともに実情に応じた指導計画を作成することができる
到達目標 2	対象に応じた保育指導案を立案することができるとともに、他者にわかりやすく説明することができる

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	保育の基本を踏まえた指導の考え方を十分理解し、子どもの発達の過程を見通すとともに実情に応じた指導計画を作成することができる
	優	保育の基本を踏まえた指導の考え方を理解し、子どもの発達の過程を見通すとともに実情に応じた指導計画を作成することができる
	良	保育の基本を踏まえた指導の考え方を理解し、子どもの発達の過程を見通した指導計画を作成することができる
	可	保育の基本を踏まえた指導の考え方を理解し、指導計画を作成することができる
	不可	保育の基本を踏まえた指導の考え方について理解できていない
到達目標 2	秀	対象に応じた保育指導案を立案することができるとともに、他者にわかりやすく説明することができる
	優	対象に応じた保育指導案を立案することができるとともに、それを説明することができる
	良	対象に応じた保育指導案を立案することができるとともに、それを説明しようとする
	可	対象に応じた保育指導案を立案することができる
	不可	対象に応じた保育指導案を立案することができない

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	40	10	0	0	0	100
到達目標 1	50	20	0	0	0	0	70
到達目標 2	0	20	10	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	授業終了後に筆記試験を実施する
提出物	日案、模擬保育案及び「保育内容 50 を極める」を作成、提出する
成果発表（口頭・実技）	模擬保育案をグループで実施する

履修に必要な知識・技能など
日頃から生活、遊び、伝承文化などの興味を持つ

教科書・ISBN
9784893473417　『改訂　保育内容総論　保育の構造と実践の探究』阿部和子他編　萌文書林 9784577814475　幼稚園教育要領解説 9784577814482　保育所保育指針解説 9784577814499　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

参考書

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

MEMO

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
基礎音楽Ⅲ（E32120）	演習	1	30	2	後期	必修	—	瀬川和子
科目担当者	①瀬川和子、戸川晃子、木嶋宏子、榊原契保、山﨑祥代 ②水澤節子、清水かをり							

授業の概要	声楽の集団授業とピアノの個人レッスンを行う。 ①ピアノ…童謡･唱歌の弾き歌いと伴奏付け、各自の進度に合った楽曲を通して豊かな表現力を磨く。 ②声楽…腹式呼吸や発声法の基礎を身に付け、正しい模範歌唱ができる力を養う。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション 各自の進度に応じた課題 リズム変奏① マーチ・駆け足 （担当者：瀬川、戸川、木嶋、榊原、山﨑）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】マーチ・駆け足の理解と練習（30 分）
第 2 回	リズム変奏②スキップ・ギャロップ　童謡・唱歌の弾き歌い（春）前奏・後奏・伴奏の付け方 （担当者：瀬川、戸川、木嶋、榊原、山﨑）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】スキップ・ギャロップの理解と練習（30 分）
第 3 回	①各自の進度に応じた課題　②コンコーネ No.1 （担当者：瀬川、戸川、木嶋、榊原、山﨑、水澤、清水）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】楽曲の練習、歌唱練習（30 分）
第 4 回	童謡・唱歌の弾き歌い（夏） 前奏･後奏･伴奏の付け方（ことりのうた） （担当者：瀬川、戸川、木嶋、榊原、山﨑）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】伴奏付けの練習（30 分）
第 5 回	①各自の進度に応じた課題　②コンコーネ No. 2 （担当者：瀬川、戸川、木嶋、榊原、山﨑、水澤、清水）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】楽曲の練習、歌唱練習（30 分）
第 6 回	童謡・唱歌の弾き歌い（秋） 前奏･後奏･伴奏の付け方（とんでったバナナ・アイアイ） （担当者：瀬川、戸川、木嶋、榊原、山﨑）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】伴奏付けの練習（30 分）
第 7 回	①各自の進度に応じた課題　②コンコーネ No. 3 （担当者：瀬川、戸川、木嶋、榊原、山﨑水澤、清水）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】楽曲の練習、歌唱練習（30 分）
第 8 回	童謡・唱歌の弾き歌い（冬） 前奏・後奏・伴奏の付け方 （担当者：瀬川、戸川、木嶋、榊原、山﨑）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】伴奏付けの理解（30 分）
第 9 回	①各自の進度に応じた課題　②コンコーネ No. 4 （担当者：瀬川、戸川、木嶋、榊原、山﨑水澤、清水）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】楽曲の練習、歌唱練習（30 分）
第 10 回	童謡・唱歌の弾き歌い（春・夏） 前奏・後奏・伴奏の付け方 （担当者：瀬川、戸川、木嶋、榊原、山﨑）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】伴奏付けの理解（30 分）
第 11 回	①各自の進度に応じた課題　②コンコーネ No. 5 （担当者：瀬川、戸川、木嶋、榊原、山﨑、水澤、清水）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】楽曲の練習、歌唱練習（30 分）
第 12 回	童謡・唱歌の弾き歌い（秋・冬） 前奏・後奏・伴奏の付け方 （担当者：瀬川、戸川、木嶋、榊原、山﨑）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】伴奏付けの理解（30 分）
第 13 回	①各自の進度に応じた課題　②演奏発表 （担当者：瀬川、戸川、木嶋、榊原、山﨑、水澤、清水）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】楽曲の練習、歌唱練習（30 分）
第 14 回	各自の進度に応じた課題演奏発表 （担当者：瀬川、戸川、木嶋、榊原、山﨑）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】伴奏付けの理解（30 分）
第 15 回	各自の進度に応じた課題　童謡・唱歌の弾き歌い確認と補足 （担当者：瀬川、戸川、木嶋、榊原、山﨑）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】伴奏付けの理解（30 分）

学修の到達目標	
到達目標１	①ピアノ…各自の進度に合った楽曲を通して音楽的な表現力を磨くことで幼児・児童に対応できる応用力を付ける。
到達目標２	②声　楽…保育者・教員として音楽指導に必要な歌唱に関する技術の習得を目標とする基礎編 「基礎音楽Ⅰ・Ⅱ」で習得した保育者・教員として音楽指導に必要な演奏技能（ 腹式呼吸・発声法、童謡・唱歌の弾き歌い、伴奏付け ）をさらに高める。 童謡・唱歌の弾き歌いと伴奏付けに必要な発声法・歌唱力の習得

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	楽曲について考え抜き、授業で学んだ技術・知識を工夫・活用して自らの思いや考えを表現することができており、幼児・児童に充分対応できる。
	優	楽曲について授業で学んだ技術・知識を工夫・活用して自らの思いや考えを表現することができており、幼児・児童に対応できる。
	良	楽曲について授業で学んだ技術・知識を工夫・活用して自らの思いや考えを表現し、幼児・児童に対応しようとしている。
	可	楽曲について授業で学んだ技術・知識を工夫・活用して、楽譜通りに表現し、、幼児・児童に対応しようとしている。
	不可	楽曲について授業で学んだ技術・知識を工夫・活用できず、幼児・児童に対応することが難しい。
到達目標２	秀	保育者・教員として音楽指導に必要な歌唱に関する技術を充分習得し、豊かな歌唱表現ができる。
	優	保育者・教員として音楽指導に必要な歌唱に関する技術を習得し、幼児・児童に伝わる歌唱表現ができる。
	良	保育者・教員として音楽指導に必要な歌唱に関する技術を習得できており、楽譜通りの歌唱表現ができる。
	可	保育者・教員として音楽指導に必要な歌唱に関する技術を習得できている。
	不可	保育者・教員として音楽指導に必要な歌唱に関する技術を習得できていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	10	20	0	10	0	100
到達目標１	30	5	10	0	5	0	50
到達目標２	30	5	10	0	5	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	実技試験を行う。 授業を通して学んだ音楽理論・楽典、あるいは表現方法を活用して演奏発表することが求められる。
提出物	楽典・音楽理論に関する課題
成果発表（口頭・実技）	演奏実技。 演奏発表の機会に相互評価する。
ポートフォリオ	毎回の授業について振り返り、到達度の記録と「今回の授業で学んだこと」、「習得したことと課題」などについて記述する。

履修に必要な知識・技能など
実技中心であるので、予習・復習が不可欠である。ピアノ及び弾き歌いの毎日の練習を習慣化すること。

教科書・ISBN	
9784111010103	『標準バイエル教則本』全音出版社
9784111020102	『ブルクミュラー 25 の練習曲』全音出版社
9784805481004	『こどものうた 200』小林美実編 チャイルド本社
9784276820692	『やさしい弾き歌い 75』植田光子編著 音楽之友社

参考書
声楽の指導曲やソナチネ・アルバムⅠなど随時紹介する。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
インターンシップA（E32200）	実習	1	30	2	通年	選択	小教免選択	山下敦子
科目担当者	山下敦子							

授業の概要	小学校における学習活動、生活の様子などを指導者の立場で体験することにより、教師として必要な資質・能力の基礎を身につける。具体的には、神戸市教育委員会が実施するスクールサポーターに登録し、毎週 1 回小学校で教育活動を行う。小学校教育における正しい認識をもち、次年度の教育実習に活きる力を培う。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	小学校教員、指導主事の経験をもつ科目担当者が、教育現場における必要な知識・技能、教育実践の振り返りの方法などを指導する。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	ガイダンス 1 小学校における基礎実習の目的	【事前】シラバス内容の確認（30 分） 【事後】実習の目標を立てる（30 分）
第 2 回	ガイダンス 2　神戸市スクールサポーターの登録について	【事前】目標の確認（30 分） 【事後】小学校の学習指導に関する基礎知識の復習（30 分）
第 3 回	ガイダンス 3　小学校における業務の理解	【事前】小学校における業務を整理（30 分） 【事後】小学校の学習指導に関する基礎知識の復習（30 分）
第 4 回	ガイダンス 4　実習における留意点、活動報告書の書き方	【事前】実習の準備（30 分） 【事後】小学校の学習指導に関する基礎知識の復習（30 分）
第 5 回	中間振り返り　グループディスカッションで課題共有	【事前】中間レポートの作成（30 分） 【事後】小学校の学習指導に関する基礎知識の復習（30 分）
第 6 回	9 月～ 1 月にかけて、毎週木曜日の午前中、神戸市内の小学校でスクールサポーターとして学習指導の補助、学習支援を行う。各回 3 時間× 11 回 〈活動方法〉 2 人ないし 3 人で一組になり、配当された小学校で実習を行う。 〈活動内容〉学級での学習の補助、特別支援学級における支援、配慮を要する児童への支援など実習先の小学校の指示に従う。また、授業時間はもとより休み時間にも児童と行動をともにすることにより、児童理解力等の教員に必要な資質・能力を培う。	【事前】活動に必要な事前準備（30 分） 【事後】活動の振り返りと改善、報告書の作成（30 分）
第 7 回	9 月～ 1 月にかけて、毎週木曜日の午前中、神戸市内の小学校でスクールサポーターとして学習指導の補助、学習支援を行う。各回 3 時間× 11 回 〈活動方法〉 2 人ないし 3 人で一組になり、配当された小学校で実習を行う。 〈活動内容〉学級での学習の補助、特別支援学級における支援、配慮を要する児童への支援など実習先の小学校の指示に従う。また、授業時間はもとより休み時間にも児童と行動をともにすることにより、児童理解力等の教員に必要な資質・能力を培う。	【事前】活動に必要な事前準備（30 分） 【事後】活動の振り返りと改善、報告書の作成（30 分）

第 8 回	9 月～ 1 月にかけて、毎週木曜日の午前中、神戸市内の小学校でスクールサポーターとして学習指導の補助、学習支援を行う。各回 3 時間× 11 回 〈活動方法〉 2 人ないし 3 人で一組になり、配当された小学校で実習を行う。 〈活動内容〉学級での学習の補助、特別支援学級における支援、配慮を要する児童への支援など実習先の小学校の指示に従う。また、授業時間はもとより休み時間にも児童と行動をともにすることにより、児童理解力等の教員に必要な資質・能力を培う。	【事前】活動に必要な事前準備（30 分） 【事後】活動の振り返りと改善、報告書の作成（30 分）
第 9 回	9 月～ 1 月にかけて、毎週木曜日の午前中、神戸市内の小学校でスクールサポーターとして学習指導の補助、学習支援を行う。各回 3 時間× 11 回 〈活動方法〉 2 人ないし 3 人で一組になり、配当された小学校で実習を行う。 〈活動内容〉学級での学習の補助、特別支援学級における支援、配慮を要する児童への支援など実習先の小学校の指示に従う。また、授業時間はもとより休み時間にも児童と行動をともにすることにより、児童理解力等の教員に必要な資質・能力を培う。	【事前】活動に必要な事前準備（30 分） 【事後】活動の振り返りと改善、報告書の作成（30 分）
第 10 回	9 月～ 1 月にかけて、毎週木曜日の午前中、神戸市内の小学校でスクールサポーターとして学習指導の補助、学習支援を行う。各回 3 時間× 11 回 〈活動方法〉 2 人ないし 3 人で一組になり、配当された小学校で実習を行う。 〈活動内容〉学級での学習の補助、特別支援学級における支援、配慮を要する児童への支援など実習先の小学校の指示に従う。また、授業時間はもとより休み時間にも児童と行動をともにすることにより、児童理解力等の教員に必要な資質・能力を培う。	【事前】活動に必要な事前準備（30 分） 【事後】活動の振り返りと改善、報告書の作成（30 分）
第 11 回	9 月～ 1 月にかけて、毎週木曜日の午前中、神戸市内の小学校でスクールサポーターとして学習指導の補助、学習支援を行う。各回 3 時間× 11 回 〈活動方法〉 2 人ないし 3 人で一組になり、配当された小学校で実習を行う。 〈活動内容〉学級での学習の補助、特別支援学級における支援、配慮を要する児童への支援など実習先の小学校の指示に従う。また、授業時間はもとより休み時間にも児童と行動をともにすることにより、児童理解力等の教員に必要な資質・能力を培う。	【事前】活動に必要な事前準備（30 分） 【事後】活動の振り返りと改善、報告書の作成（30 分）
第 12 回	9 月～ 1 月にかけて、毎週木曜日の午前中、神戸市内の小学校でスクールサポーターとして学習指導の補助、学習支援を行う。各回 3 時間× 11 回 〈活動方法〉 2 人ないし 3 人で一組になり、配当された小学校で実習を行う。 〈活動内容〉学級での学習の補助、特別支援学級における支援、配慮を要する児童への支援など実習先の小学校の指示に従う。また、授業時間はもとより休み時間にも児童と行動をともにすることにより、児童理解力等の教員に必要な資質・能力を培う。	【事前】活動に必要な事前準備（30 分） 【事後】活動の振り返りと改善、報告書の作成（30 分）
第 13 回	9 月～ 1 月にかけて、毎週木曜日の午前中、神戸市内の小学校でスクールサポーターとして学習指導の補助、学習支援を行う。各回 3 時間× 11 回 〈活動方法〉 2 人ないし 3 人で一組になり、配当された小学校で実習を行う。 〈活動内容〉学級での学習の補助、特別支援学級における支援、配慮を要する児童への支援など実習先の小学校の指示に従う。また、授業時間はもとより休み時間にも児童と行動をともにすることにより、児童理解力等の教員に必要な資質・能力を培う。	【事前】活動に必要な事前準備（30 分） 【事後】活動の振り返りと改善、報告書の作成（30 分）

第 14 回	9 月～ 1 月にかけて、毎週木曜日の午前中、神戸市内の小学校でスクールサポーターとして学習指導の補助、学習支援を行う。各回 3 時間× 11 回 〈活動方法〉 2 人ないし 3 人で一組になり、配当された小学校で実習を行う。 〈活動内容〉学級での学習の補助、特別支援学級における支援、配慮を要する児童への支援など実習先の小学校の指示に従う。また、授業時間はもとより休み時間にも児童と行動をともにすることにより、児童理解力等の教員に必要な資質・能力を培う。	【事前】活動に必要な事前準備（30 分） 【事後】活動の振り返りと改善、報告書の作成（30 分）
第 15 回	活動の振り返りと自己の目標設定	【事前】活動の振り返りとレポートの作成（30 分） 【事後】これからの目標設定と実践（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	小学校における教育活動の実際や児童の生活について理解することができる。
到達目標 2	小学校教員に必要な資質・能力について考察し、培うことができる。
到達目標 3	教員に必要な倫理観、責任感、情熱等をもち、教職員とコミュニケーションを円滑にとることによって「チーム学校」の一員として行動することができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	今までに習得した知識や指導技術を用いて教育活動や児童について積極的に理解している。かつ、そこから次なる課題を見出している。
	優	今までに習得した知識や指導技術を用いて教育活動や児童について積極的に理解している。
	良	今までに習得した知識や指導技術を用いて教育活動や児童について理解している。
	可	今までに習得した知識や指導技術を用いて教育活動や児童についての理解が弱い。
	不可	今までに習得した知識や指導技術を用いて教育活動や児童について理解できていない。
到達目標 2	秀	既習の知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使し、教育実践を行うことができる。また、失敗に対して修正能力が高く、創意工夫ができる。
	優	既習の知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、決断力等を駆使し、教育実践を行うことができる。また、失敗に対して修正能力が高く、創意工夫ができる。
	良	既習の知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、決断力等のうちいくつかを機能させつつ、教育実践を行うことができる。
	可	他者の指導・助言を受けながらその場に応じた教育実践を行うことができる。
	不可	教育実践を行うことができない。
到達目標 3	秀	自ら高いモチベーションをもって、自発的に周囲と協調・協働することができる。その結果、新しい取り組みや質の高い取り組みを行うことができる。
	優	自ら高いモチベーションをもって、自発的に周囲と協調・協働することができる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	他者にうながされることによって周囲と協調・協働することができる。
	不可	協調・協働することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	40	0	0	30	30	100
到達目標 1	0	10	0	0	10	10	30
到達目標 2	0	10	0	0	10	10	30
到達目標 3	0	20	0	0	10	10	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
提出物	毎回の授業でミニレポートや書類を作成し、提出する。実習期間中は毎回「活動状況報告書」を記入し、小学校に提出する。小学校の担当教諭や管理職より、適宜コメントを記入したものが返却されるので、それをもとに自己の活動について振り返りと改善を行う。第 15 回目の授業で振り返り（レポート）を提出し、評価を行う。
ポートフォリオ	実習期間中は毎回「活動状況報告書」を記入し、小学校に提出する。小学校の担当教諭、管理職より、適宜コメントを記入したものが返却されるので、それをもとに自己の活動について振り返りと改善を行う。第 15 回目の授業で振り返り（レポート）を提出し、評価を行う。
その他	活動場所への教員の巡回指導、受け入れ機関からの聞き取りを行い、実際の活動の様子について評価する。

履修に必要な知識・技能など
1）教育現場における実践であるため、教職員、児童に対して真摯な姿勢で取り組むこと。 2）教育現場にふさわしい服装、身だしなみ、言葉遣い、態度等で臨むこと。 3）原則として遅刻、欠席を認めない。やむを得ない場合は、事前に連絡を入れること。 4）ガイダンスを欠席したものにはスクールサポーターへの参加を認めない。

教科書・ISBN
使用しません。

参考書
適時、紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
基礎研究演習Ⅱ（E32310）	演習	2	60	2	通年	必修	—	中西利恵
科目担当者	中西利恵、多田琴子、牛頭哲宏、橋本好市、藤本由佳利、松尾寛子、近藤みづき、京極重智							

授業の概要	1年次開講科目・基礎研究演習Ⅰの上に、基礎的人間力と学力（表現力を含む）を積み上げるべく、理論と実践の融合を目指し演習を行う。 卒後の進路に応じた保育・教育に関する文献講読や実技により幅広い知識と技術を修得し、卒業研究に向けて各自のテーマを探る。また3年生で行う保育・教育実習へと繋げるために、進路選択を念頭においた実習を行う。志望する職種施設一箇所に複数日の観察実習を行い、保育・教育現場の日常の流れを体験することを通して職業イメージを醸成する。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第1回	オリエンテーション(本授業の目的理解･経験する内容把握･ポートフォリオ理解)／履修カルテ記入／実習希望施設確認（担当者：中西、京極）	【事前】シラバス内容の確認（30分） 【事後】授業目的・内容の理解（30分）
第2回	進路選択における自己課題析出①　保育・教育方法の基礎（担当者：中西、藤本、近藤、京極）	【事前】自己課題の析出（30分） 【事後】学習内容のふり返り（30分）
第3回	実習事前指導 (担当者：保育所：松尾、 児童福祉施設：橋本、幼稚園：多田、小学校：牛頭・京極)	【事前】実習施設先情報収集（30分） 【事後】実習に必要な書類や文具等の準備（30分）
第4回	進路選択における自己課題析出②　保育・教育方法の実践（担当者：中西、藤本、近藤、京極）	【事前】自己課題の析出（30分） 【事後】学習内容の確認（30分）
第5回	進路選択における自己課題析出③　保育・教育方法の実践（担当者：中西、藤本、近藤、京極）	【事前】自己課題の析出（30分） 【事後】学習内容の確認（30分）
第6回	進路選択における自己課題析出④　保育・教育方法の実践（担当者：中西、藤本、近藤、京極）	【事前】自己課題の析出（30分） 【事後】学習内容の確認（30分）
第7回	進路選択における自己課題析出⑤　保育・教育方法の実践（担当者：中西、藤本、近藤、京極）	【事前】自己課題の析出（30分） 【事後】学習内容の確認（30分）
第8回	進路選択における自己課題析出⑥　保育・教育方法の実践（担当者：中西、藤本、近藤、京極）	【事前】自己課題の析出（30分） 【事後】学習内容の確認（30分）
第9回	観察実習　子育て支援施設KITと他のいずれか1カ所（保育所・こども園・幼稚園・小学校・社会福祉施設）実習機関を選択して、14コマ以上の実習を行う　（担当者：全員）	【事前】実習目標設定（30分） 【事後】日誌作成（30分）
第10回	観察実習　子育て支援施設KITと他のいずれか1カ所（保育所・こども園・幼稚園・小学校・社会福祉施設）実習機関を選択して、14コマ以上の実習を行う　（担当者：全員）	【事前】実習目標設定（30分） 【事後】日誌作成（30分）
第11回	観察実習　子育て支援施設KITと他のいずれか1カ所（保育所・こども園・幼稚園・小学校・社会福祉施設）実習機関を選択して、14コマ以上の実習を行う　（担当者：全員）	【事前】実習目標設定（30分） 【事後】日誌作成（30分）
第12回	観察実習　子育て支援施設KITと他のいずれか1カ所（保育所・こども園・幼稚園・小学校・社会福祉施設）実習機関を選択して、14コマ以上の実習を行う　（担当者：全員）	【事前】実習目標設定（30分） 【事後】日誌作成（30分）

第 13 回	観察実習　子育て支援施設 KIT と他のいずれか 1 カ所（保育所・こども園・幼稚園・小学校・社会福祉施設）実習機関を選択して、14 コマ以上の実習を行う　（担当者：全員）	【事前】実習目標設定（30 分） 【事後】日誌作成（30 分）
第 14 回	観察実習　子育て支援施設 KIT と他のいずれか 1 カ所（保育所・こども園・幼稚園・小学校・社会福祉施設）実習機関を選択して、14 コマ以上の実習を行う　（担当者：全員）	【事前】実習目標設定（30 分） 【事後】日誌作成（30 分）
第 15 回	観察実習　子育て支援施設 KIT と他のいずれか 1 カ所（保育所・こども園・幼稚園・小学校・社会福祉施設）実習機関を選択して、14 コマ以上の実習を行う　（担当者：全員）	【事前】実習目標設定（30 分） 【事後】日誌作成（30 分）
第 16 回	観察実習　子育て支援施設 KIT と他のいずれか 1 カ所（保育所・こども園・幼稚園・小学校・社会福祉施設）実習機関を選択して、14 コマ以上の実習を行う　（担当者：全員）	【事前】実習目標設定（30 分） 【事後】日誌作成（30 分）
第 17 回	観察実習　子育て支援施設 KIT と他のいずれか 1 カ所（保育所・こども園・幼稚園・小学校・社会福祉施設）実習機関を選択して、14 コマ以上の実習を行う　（担当者：全員）	【事前】実習目標設定（30 分） 【事後】日誌作成（30 分）
第 18 回	観察実習　子育て支援施設 KIT と他のいずれか 1 カ所（保育所・こども園・幼稚園・小学校・社会福祉施設）実習機関を選択して、14 コマ以上の実習を行う　（担当者：全員）	【事前】実習目標設定（30 分） 【事後】日誌作成（30 分）
第 19 回	観察実習　子育て支援施設 KIT と他のいずれか 1 カ所（保育所・こども園・幼稚園・小学校・社会福祉施設）実習機関を選択して、14 コマ以上の実習を行う　（担当者：全員）	【事前】実習目標設定（30 分） 【事後】日誌作成（30 分）
第 20 回	観察実習　子育て支援施設 KIT と他のいずれか 1 カ所（保育所・こども園・幼稚園・小学校・社会福祉施設）実習機関を選択して、14 コマ以上の実習を行う　（担当者：全員）	【事前】実習目標設定（30 分） 【事後】日誌作成（30 分）
第 21 回	観察実習　子育て支援施設 KIT と他のいずれか 1 カ所（保育所・こども園・幼稚園・小学校・社会福祉施設）実習機関を選択して、14 コマ以上の実習を行う　（担当者：全員）	【事前】実習目標設定（30 分） 【事後】日誌作成（30 分）
第 22 回	観察実習　子育て支援施設 KIT と他のいずれか 1 カ所（保育所・こども園・幼稚園・小学校・社会福祉施設）実習機関を選択して、14 コマ以上の実習を行う　（担当者：全員）	【事前】実習目標設定（30 分） 【事後】日誌作成（30 分）
第 23 回	実習事後指導 （担当者：保育所：松尾、 児童福祉施設：橋本、幼稚園：多田、小学校：牛頭・京極）	【事前】日誌より実習自己評価（30 分） 【事後】自己課題の析出（30 分）
第 24 回	教育実習のイメージ形成（先輩の話を聞く） （担当者：全員）	【事前】自己課題の析出（30 分） 【事後】学びの確認（30 分）
第 25 回	教育実習の心構え　（担当者：全員）	【事前】学びの整理・自己課題明確化（30 分） 【事後】学びの確認（30 分）
第 26 回	保育・教育に関する理論と実践の融合① （担当者：中西、藤本、近藤、京極）	【事前】自己の学びの整理（30 分） 【事後】学びの確認（30 分）
第 27 回	保育・教育に関する理論と実践の融合② （担当者：中西、藤本、近藤、京極）	【事前】自己の学びの整理（30 分） 【事後】学びの確認（30 分）
第 28 回	保育・教育に関する理論と実践の融合③ （担当者：中西、藤本、近藤、京極）	【事前】自己の学びの整理（30 分） 【事後】学びの確認（30 分）
第 29 回	保育・教育に関する昨今の情報のまとめ （担当者：中西、藤本、近藤、京極）	【事前】保育・教育に関する情報（ニュース）の整理（30 分） 【事後】学びの確認（30 分）
第 30 回	専門的研究課題への探究・進路に向けて / 1 年間の振り返り（ポートフォリオ提出）（担当者：中西、藤本、近藤、京極）	【事前】専門的研究課題析出（30 分） 【事後】専門的研究課題再確認（30 分）

学修の到達目標	
到達目標１	実践への理解を深める等の課題への取り組み（グループワークも含む）を通して、自己とは異なる考え方等に気づく感性を養い、自己の思いや考え、表現方法を検討し、まとめ、表現することができる。
到達目標２	日頃から注目している保育・教育に関する今日的課題（ニュース）を収集し、その内容について分析し、論理的に考察する力を身につけ、それを他者にわかるように伝えることができる。
到達目標３	学びの成果としてのポートフォリオを通して、自己表現力・論理的思考力を意識し、授業資料やレポートの振り返り、ニュースのカテゴリー化等を専門的研究課題析出に活かすことができる。
到達目標４	観察実習・授業を通して、実習を受ける者としての心構えを身につけ、さらに学習者生活を能動的且つ計画的に進める意識を持って、心身の健康等総合的に自己を管理することができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	実践への理解を深める等の課題への取り組み（グループワークも含む）を通して、自己とは異なる考え方等に気づく感性を養い、自己の思いや考え、表現方法を検討し、まとめ、表現することが十分できる。
	優	実践への理解を深める等の課題への取り組み（グループワークも含む）を通して、自己とは異なる考え方等に気づく感性を養い、自己の思いや考え、表現方法を検討し、まとめ、表現することがほぼできる。
	良	実践への理解を深める等の課題への取り組み（グループワークも含む）を通して、自己とは異なる考え方等に気づく感性を養い、自己の思いや考え、表現方法を検討し、まとめ、表現することがある程度できる。
	可	実践への理解を深める等の課題への取り組み（グループワークも含む）を通して、自己とは異なる考え方等に気づく感性を養い、自己の思いや考え、表現方法を検討し、まとめ、表現することが最低限できる。
	不可	実践への理解を深める等の課題への取り組み（グループワークも含む）を通して、自己とは異なる考え方等に気づく感性を養い、自己の思いや考え、表現方法を検討し、まとめ、表現することができない。
到達目標２	秀	日頃から注目している保育・教育に関する今日的課題（ニュース）を収集し、その内容について分析し、論理的に考察する力を身につけ、それを他者にわかるように伝えることが十分できる。
	優	日頃から注目している保育・教育に関する今日的課題（ニュース）を収集し、その内容について分析し、論理的に考察する力を身につけ、それを他者にわかるように伝えることがほぼできる。
	良	日頃から注目している保育・教育に関する今日的課題（ニュース）を収集し、その内容について分析し、論理的に考察する力を身につけ、それを他者にわかるように伝えることがある程度できる。
	可	日頃から注目している保育・教育に関する今日的課題（ニュース）を収集し、その内容について分析し、論理的に考察する力を身につけ、それを他者にわかるように伝えることが最低限できる。
	不可	日頃から注目している保育・教育に関する今日的課題（ニュース）を収集し、その内容について分析し、論理的に考察する力を身につけ、それを他者にわかるように伝えることができない。
到達目標３	秀	学びの成果としてのポートフォリオを通して、自己表現力・論理的思考力を意識し、授業資料やレポートの振り返り、成果物（ニュース）のカテゴリー化等を専門的研究課題析出に活かすことが十分できる。
	優	学びの成果としてのポートフォリオを通して、自己表現力・論理的思考力を意識し、授業資料やレポートの振り返り、成果物（ニュース）のカテゴリー化等を専門的研究課題析出に活かすことがほぼできる。
	良	学びの成果としてのポートフォリオを通して、自己表現力・論理的思考力を意識し、授業資料やレポートの振り返り、成果物（ニュース）のカテゴリー化等を専門的研究課題析出に活かすことがある程度できる。
	可	学びの成果としてのポートフォリオを通して、自己表現力・論理的思考力を意識し、授業資料やレポートの振り返り、成果物（ニュース）のカテゴリー化等を専門的研究課題析出に活かすことが指定限できる。
	不可	学びの成果としてのポートフォリオを通して、自己表現力・論理的思考力を意識し、授業資料やレポートの振り返り、成果物（ニュース）のカテゴリー化等を専門的研究課題析出に活かすことができない。

到達目標４	秀	観察実習・授業を通して、実習を受ける者としての心構えを身につけ、さらに学習者生活を能動的且つ計画的に進める意識を持って、心身の健康等総合的に自己を管理することが十分できる。
	優	観察実習・授業を通して、実習を受ける者としての心構えを身につけ、さらに学習者生活を能動的且つ計画的に進める意識を持って、心身の健康等総合的に自己を管理することがほぼできる。
	良	観察実習・授業を通して、実習を受ける者としての心構えを身につけ、さらに学習者生活を能動的且つ計画的に進める意識を持って、心身の健康等総合的に自己を管理することがある程度できる。
	可	観察実習・授業を通して、実習を受ける者としての心構えを身につけ、さらに学習者生活を能動的且つ計画的に進める意識を持って、心身の健康等総合的に自己を管理することが最低限できる。
	不可	観察実習・授業を通して、実習を受ける者としての心構えを身につけ、さらに学習者生活を能動的且つ計画的に進める意識を持って、心身の健康等総合的に自己を管理することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	30	20	0	40	10	100
到達目標１	0	10	10	0	10	5	35
到達目標２	0	0	0	0	10	5	15
到達目標３	0	10	10	0	10	0	30
到達目標４	0	10	0	0	10	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
提出物	全ての提出物については、提出期限厳守のみ評価対象とする。 実習日誌は、内容が表層的・考察的・論理的であるか、またレイアウト等が読みやすく記述しているかも考慮する。 レポート課題の記述内容（表層的・考察的・論理的）と着目観点の具体性により判断する。
成果発表（口頭・実技）	グループワークによる課題への取り組み姿勢、指示された発表形式に則した内容構成の適切さ、他者にわかりやすい表現の工夫等を評価する。グループワークの場合、役割分担が適材適所で行われているか、協調性・協働力を発揮しているかについても評価の対象となる。
ポートフォリオ	着々とポートフォリオにニュースをファイルする。ニュースの件数については、オリエンテーション時に指示する。最終的にそれらを分類考察し、自身の学びを論理的に振り返り、明確な自己課題を析出できたか否かを評価する。 学びの成果物としてポートフォリオを完成させ、総合的なふり返りの達成度を評価する。
その他	保育・教職を目指す学生として能動的且つ計画的に課題や実習に取り組む意識を持って、心身の健康等総合的に自己を管理し、授業や実習に積極的に臨めたか否かを評価する。グループワークの際、新規なアイデアを出す、意見を調整するなど、貢献度や積極性を評価する。

履修に必要な知識・技能など
１）実習生としての態度、常識をもつ。 ２）課題としている「日頃から注目している保育･教育に関するニュース」を意識して収集し、保育･教育への関心を高める。 ３）子どもの前に立つ人となる意識をもって、積極的役割取得を行い、論理的思考と技術の向上に向けて努力する。

教科書・ISBN
使用しない。

参考書
必要に応じ、紹介・配布する。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教職論（E33000）	講義	2	30	2	前期	必修	幼教免必修 小教免必修	山下敦子
科目担当者	山下敦子、多田琴子							

授業の概要	教わる立場から教える立場に視点を移行し、現在の教育が抱える課題を明らかにするとともに、それを改善するために必要な力量の形成を図る。また、教育・保育という人間に固有の営みについて、とりわけ小学校教師・幼児教育者という存在に焦点を当て、その意義・役割等を様々な視点から考察し、各人が教職についての理解を深めることを目指す。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （レ）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	小学校教員、幼稚園教員の経験を持つ科目担当者が、教員に必要な資質、教職の現代的課題に対する取組、チームとしての連携について指導する。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション （担当者：山下）教職に就くとはどのようなことか？	【事前】シラバスの通読（120 分） 【事後】教育基本法の復習（120 分）
第 2 回	教育のめざすものとはなにか　（担当者：山下）	【事前】教育要領、指導要領の確認（120 分） 【事後】学習内容の確認（120 分）
第 3 回	今、求められる保育・教育者像　（担当者：山下）	【事前】求められる資質の確認（120 分） 【事後】学習内容の振り返りと自己の資質の把握（120 分）
第 4 回	教職の意義・役割と教員養成制度　（担当者：山下）	【事前】教職の意義等を予習（120 分） 【事後】教職の意義等の確認、自己の取り組みをまとめる（120 分）
第 5 回	教師の身分と服務　（担当者：山下）	【事前】教師の服務について予習（120 分） 【事後】教師の職務について確認（120 分）
第 6 回	教師の職務　（担当者：山下）	【事前】教師の職務について予習（120 分） 【事後】教師の職務について確認（120 分）
第 7 回	教職の現代的課題① （担当者：山下）ー地域・家庭との連携－	【事前】地域・保護者との連携について調べる（120 分） 【事後】地域・保護者との連携について意見をもつ（120 分）
第 8 回	教職の現代的課題② （担当者：山下）「子どもの安全を守る」	【事前】子どもの安全について調べる（120 分） 【事後】教師としての対応をまとめる（120 分）
第 9 回	教職の現代的課題③ （担当者：山下）「災害に備える、災害時の対応」	【事前】防災、災害時の対応について調べる（120 分） 【事後】防災、災害時の対応についてまとめる（120 分）
第 10 回	保育者・教師の日常生活とセルフマネジメント （担当者：山下）	【事前】セルフマネジメントについて調べる（120 分） 【事後】自己の強み弱みの把握（120 分）
第 11 回	保育者・教師のライフコースと成長　（担当者：山下）	【事前】成長する教師像をイメージする（120 分） 【事後】自己の目標設定と実践（120 分）
第 12 回	保育・教育を支える基盤「環境と文化を捉えたカリキュラムマネジメントについて　（担当者：多田）	【事前】カリキュラムマネジメントについて調べる（120 分） 【事後】カリキュラムマネジメントについてまとめる（120 分）

第 13 回	保幼小の連携① （担当者：多田）「幼児教育の視点から 」	【事前】保幼小の連携について調べる（120 分） 【事後】保幼小の連携について行動目標を設定する（120 分）
第 14 回	保幼小の連携② （担当者：山下）「義務教育の視点から」	【事前】保幼小の連携について調べる（120 分） 【事後】保幼小の連携について行動目標を設定する（120 分）
第 15 回	学びの確認、振り返り （担当者：山下）	【事前】これまでの学びの確認（120 分） 【事後】学習内容の自覚化と実践（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	教職の意義とその職務内容についての理解をする。また、教員の職務の特質や役割について理解することができる。
到達目標 2	教職の特質と使命や社会的地位等を理解し、自らの教師像を探究するための基礎的な知識と情報、教職としての倫理観を習得することができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	教職の意義と職務内容を十分理解し、その職務の特質や役割についても十分理解し、他者に語ることができる。
	優	教職の意義と職務内容、その職務の特質や役割についても十分理解している。
	良	教職の意義と職務内容、その職務の特質や役割についても理解している。
	可	教職の意義と職務内容、その職務の特質や役割について理解しようとしている。
	不可	教職の意義と職務内容、その職務の特質や役割についての理解が不十分である。
到達目標 2	秀	めざす教師像に向け、教職としての倫理観形成を能動的に探究し、態度として十分身についている。
	優	めざす教師像に向け、教職としての倫理観形成を能動的に探究し、態度として身についている。
	良	めざす教師像に向け、教職としての倫理観形成を能動的に探究する態度がある。
	可	めざす教師像に向け、教職としての倫理観形成を能動的に探究しようとする。
	不可	めざす教師像に向け、教職としての倫理観形成を能動的に探究する態度が見られない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	30	0	0	0	20	100
到達目標 1	25	15	0	0	0	10	50
到達目標 2	25	15	0	0	0	10	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を行う。教職としての専門性の理解、基礎的な知識と情報に基づく論理的思考、教職としての倫理観形成の探究、現代的課題の分析と解決策など、学習内容の理解と自己の行動目標の設定について評価する。
提出物	毎回の授業でミニレポートを作成する。教職としての専門的理解、具体的方策の提案、自己の行動目標等について評価する。
その他	基礎的な知識や情報を活用し、提示された現代的課題についてディスカッションする。その際の協調的、協働的行動について評価する。

履修に必要な知識・技能など
1）随時、提示する予習復習課題について情報収集したりまとめたりして授業に望むこと。 2）日常的に保育者・教育者として意識を高める努力を行うこと。日頃の教育に関するニュースや出来事などに興味・関心をもつこと。

教科書・ISBN
使用しません。

参考書
必要に応じて配布、紹介します。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教育行政学（E33020）	講義	2	30	2	後期	選択	幼教免必修 小教免必修	柴恭史
科目担当者	柴恭史							

授業の概要	教育について考える時、学校あるいは教室の中での取り組みに目が行きがちですが、そこには何らかの制度的根拠が存在しており、さらには、「ヒト・モノ・カネ」等の適切な条件整備がなければ、日々の教育実践は成り立たなくなります。 本授業では、そうした教育の「土台づくり」を行う教育行政の基本原理、組織、役割、課題、関連する法規・財政の基礎的な事項について、説明・考察を行います。 また、変化の激しい時代における教育政策の動向や、学校と地域の連携、学校における危機管理・防災といった現代的な課題についても検討します。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション―教育行政学を学ぶ意味―	【事前】教育・政治に関するニュースをチェックしておく（120 分） 【事後】授業資料の見直し（120 分）
第 2 回	教育行政の基本原理―「教育行政」の理念・特徴はどのようなものか？―	【事前】教育・政治に関するニュースをチェックしておく（120 分） 【事後】授業資料の見直し（120 分）
第 3 回	教育法規①―教育法規の基礎―	【事前】教育・政治に関するニュースをチェックしておく（120 分） 【事後】授業資料の見直し（120 分）
第 4 回	教育法規②―日本国憲法と教育基本法―	【事前】教育・政治に関するニュースをチェックしておく（120 分） 【事後】授業資料の見直し（120 分）
第 5 回	中央の教育行政組織―文部科学省とはどのような機関なのか？―	【事前】教育・政治に関するニュースをチェックしておく（120 分） 【事後】授業資料の見直し（120 分）
第 6 回	教育財政―教育とお金の問題について考える―	【事前】教育・政治に関するニュースをチェックしておく（120 分） 【事後】授業資料の見直し（120 分）
第 7 回	教育政策と教育行政―教育政策が出来上がるまで：事例分析―	【事前】教育・政治に関するニュースをチェックしておく（120 分） 【事後】授業資料の見直し（120 分）
第 8 回	地方の教育行政組織―教育委員会の役割と近年の改革動向―	【事前】教育・政治に関するニュースをチェックしておく（120 分） 【事後】授業資料の見直し（120 分）
第 9 回	教育課程行政と教科書行政―学校が教える内容はどのように決められているのか？―	【事前】教育・政治に関するニュースをチェックしておく（120 分） 【事後】授業資料の見直し（120 分）
第 10 回	教員人事行政―教員の養成・採用・研修―	【事前】教育・政治に関するニュースをチェックしておく（120 分） 【事後】授業資料の見直し（120 分）

第 11 回	私学行政―学校教育における「私学」の存在意義について考える―	【事前】教育・政治に関するニュースをチェックしておく（120 分） 【事後】授業資料の見直し（120 分）
第 12 回	学校と地域の連携①―地域コミュニティと学校統廃合―	【事前】教育・政治に関するニュースをチェックしておく（120 分） 【事後】授業資料の見直し（120 分）
第 13 回	学校と地域の連携②―コミュニティ・スクールと地域学校協働本部―	【事前】教育・政治に関するニュースをチェックしておく（120 分） 【事後】授業資料の見直し（120 分）
第 14 回	学校安全への対応―学校の安全管理と防災―	【事前】教育・政治に関するニュースをチェックしておく（120 分） 【事後】授業資料の見直し（120 分）
第 15 回	全体のまとめ（学修の到達目標の確認）	【事前】教育・政治に関するニュースをチェックしておく（120 分） 【事後】授業資料の見直し（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	日本の教育行政に関する基礎的な事項について、説明することができる。
到達目標 2	複雑化する学校教育の課題を認識し、それに対応する教育政策の動向について、自らの見解を述べることができる。
到達目標 3	自らの経験だけにとらわれず、授業の内容をもとに、教育問題について主体的に考えることができる。
到達目標 4	学校と地域の連携、学校における安全管理と防災の現状と課題について、身近な例をもとに説明することができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	日本の教育行政に関する基礎的な事項を高いレベルで説明ができ、さらに発展的な学習をする準備ができている。
	優	教育を専攻する者として十分満足できるレベルで、日本の教育行政に関する基礎的な事項を説明できる。
	良	教育を専攻する者として十分とまでは言えないが、おおよそ満足のいくレベルで、日本の教育行政に関する基礎的な事項を説明できる。
	可	教育を専攻する者として最低限必要な日本の教育行政に関する基礎的な事項を説明できる。
	不可	教育を専攻する者として最低限必要な日本の教育行政に関する基礎的な事項が説明できていない。
到達目標 2	秀	教育政策に対して、その背景や政策動向を十分に理解した上で、知識や考えを十分に統合して、賛成か反対かだけに留まらず、実現性にも考慮した改善案を自ら提示することができる。
	優	教育政策に対して、その背景や政策動向を十分に理解した上で、知識や考えを十分に統合して、賛成か反対かだけに留まらず、改善策についても示すことができる。
	良	教育政策に対して、その背景や政策動向をある程度理解した上で、知識や考えを統合して、賛成か反対かを理由付きで示すことができる。
	可	教育政策に対して、知識や考えをある程度統合して、賛成か反対かを示すことができる。
	不可	教育政策に関する自らの見解を示すことができない。
到達目標 3	秀	教育に関する問題について、客観的と思われる根拠が本当の意味で客観的かどうかを自ら考え直した上で、主体的に深く考えることができる。
	優	教育に関する問題について、客観的と思われる根拠に基づき、主体的に深く考えることができる。
	良	教育に関する問題について、客観的と思われる根拠に基づき、主体的に考えることができる。
	可	教育に関する問題について、多少根拠は薄くても、ある程度主体的に考えることができる。
	不可	教育に関する問題について、根拠に基づいて主体的に考えることができない。

到達目標４	秀	意見が分かれやすい教育に関する問題について、身近にある様々な立場の主張に耳を傾け、それらを十分に統合して自分なりの結論を出すことができる。
	優	教育に関する問題について、身近にある複数の立場の主張に耳を傾け、それらを統合して自分なりの結論を出すことができる。
	良	教育に関する問題について、身近にある１つの主張だけでなく、複数の立場の主張に耳を傾けようとする。
	可	教育に関する問題について、身近にある他者の主張をそのまま受け入れる前に、その根拠について考えることができる。
	不可	教育に関する問題について、身近にある他者の主張に疑問を持たず、そのまま受け入れてしまう。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	40	0	0	0	0	100
到達目標１	45	0	0	0	0	0	45
到達目標２	5	15	0	0	0	0	20
到達目標３	5	15	0	0	0	0	20
到達目標４	5	10	0	0	0	0	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	2 回目から 14 回目にかけては、ミニレポートを実施する。試験は 100 点満点で実施し、成績評価時には 60 点に換算する。
提出物	第 15 回目は、全体を通して関心を持った教育テーマについて期末レポートを作成・提出する。期末レポートは 100 点満点で実施し、成績評価時には 40 点に換算する。

履修に必要な知識・技能など
事前に必要な知識・技能は特にありませんが、教員からの発問やディスカッションなどに対して前向きに参加する姿勢を求めます。

教科書・ISBN
特定の教科書は使用しません。毎回の授業で資料を配布します。

参考書
より深い学習を希望する方には、以下の図書を推薦します。 『教育法規スタートアップ・ネクスト：Crossmedia Edition』高見茂・開沼太郎・宮村裕子（編）昭和堂、2018 年 『教育行政提要（平成版）』高見茂・服部憲児（編）協同出版、2017 年

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教育の思想と歴史（E33030）	講義	2	30	2	前期	選択	幼教免必修 小教免必修	京極重智
科目担当者	京極重智							

授業の概要	この授業では、ヨーロッパおよび日本における古代から近代にかけての教育思想と教育史について扱い、教育に関する思想的・歴史的な知識を広げる。さらに、それぞれの思想や歴史の背後にある社会的意義や課題を浮き彫りにすることで、教育に対する探究的な考察力を高める。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（　）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	イントロダクション―思想的・歴史的営みとしての教育	【事前】シラバスを熟読し、教育と思想について、自分の考えをまとめる（120 分） 【事後】思想的・歴史的営みとしての教育について、リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 2 回	古典古代における教育の思想と歴史（1）古典古代における教育	【事前】古典古代における教育について事前に調べる（120 分） 【事後】古典古代における教育について、リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 3 回	古典古代における教育の思想と歴史（2）ソクラテスとプラトン	【事前】ソクラテスとプラトンの教育思想について事前に調べる（120 分） 【事後】ソクラテスとプラトンの教育思想について、リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 4 回	古典古代における教育の思想と歴史（3）アリストテレス	【事前】アリストテレスの教育思想について事前に調べる（120 分） 【事後】アリストテレスの教育思想について、リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 5 回	中世ヨーロッパにおける教育の思想と歴史	【事前】中世ヨーロッパの教育について事前に調べる（120 分） 【事後】中世ヨーロッパにおける教育の思想と歴史について、リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 6 回	近代教育思想（1）コメニウス	【事前】コメニウスについて事前に調べる（120 分） 【事後】コメニウスの教育思想について、リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 7 回	近代教育思想（2）ロック	【事前】ロックについて事前に調べる（120 分） 【事後】ロックの教育思想について、リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 8 回	近代教育思想（3）ルソー	【事前】ルソーについて事前に調べる（120 分） 【事後】ルソーの教育思想について、リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 9 回	近代教育思想（4）ペスタロッチ	【事前】ペスタロッチについて事前に調べる（120 分） 【事後】ペスタロッチの教育思想について、リフレクションシートの作成・提出（120 分）

第 10 回	近代教育思想（5）フレーベル	【事前】フレーベルについて事前に調べる（120 分） 【事後】フレーベルの教育思想について、リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 11 回	近代教育思想（6）ヘルバルトとヘルバルト学派	【事前】ヘルバルトとヘルバルト学派について事前に調べる（120 分） 【事後】ヘルバルトとヘルバルト学派の教育思想について、リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 12 回	近代教育思想（7）新教育運動	【事前】新教育運動について事前に調べる（120 分） 【事後】新教育運動における教育思想について、リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 13 回	日本における教育の思想と歴史（1）古代から中世にかけて	【事前】古代から中世までの日本の教育について事前に調べる（120 分） 【事後】古代から中世までの日本の教育思想について、リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 14 回	日本における教育の思想と歴史（2）近世から現代にかけて	【事前】近世から現代までの日本の教育について事前に調べる（120 分） 【事後】近世から現代までの日本の教育思想について、リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 15 回	本授業のまとめと学修の到達目標の確認	【事前】全授業内容の振り返りをする（120 分） 【事後】定期試験に向けた準備をする（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	教育の思想と歴史について理解し、説明することができる。
到達目標 2	教育という営みの背後にある思想をとらえ、その社会的意義や課題について考えることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	教育の思想と歴史についてその背景も含めて理解し、分かりやすく説明することができる。
	優	教育の思想と歴史について十分に理解し、分かりやすく説明することができる。
	良	教育の思想と歴史について理解し、説明することができる。
	可	教育の思想と歴史について最低限理解し、説明することができる。
	不可	教育の思想と歴史について理解しておらず、説明することができない。
到達目標 2	秀	教育という営みの背後にある思想をとらえ、そこから教育実践の改善について説明することができる。
	優	教育という営みの背後にある思想をとらえ、それらを批判的に説明することができる。
	良	教育という営みの背後にある思想をとらえ、その社会的意義や課題について説明することができる。
	可	教育という営みの背後にある思想について説明することができる。
	不可	教育という営みの背後にある思想をとらえることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	40	0	0	0	0	100
到達目標 1	30	20	0	0	0	0	50
到達目標 2	30	20	0	0	0	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	教育の思想と歴史に関する総合的な理解を筆記試験により評価する。
提出物	授業終了後、授業内容を振り返ったリフレクションシートを manaba で提出すること。

履修に必要な知識・技能など
この科目を受講する学生は、歴史や思想、哲学について学ぶ意欲をもって講義にのぞんでください。

教科書・ISBN
使用しません。授業中にプリントを配布します。

参考書
『教育思想史』今井康雄編、有斐閣、2009 年。その他も随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
社会的養護Ⅰ（E33050）	講義	2	30	2	前期	選択	保育士必修	杉山宗尚
科目担当者	杉山宗尚							

授業の概要	この授業では、現代社会における社会的養護の意義や歴史的変遷、体系、子どもの権利擁護等について説明する。また、家庭養護や施設養護の種類、施設養護の実際を具体的に説明し、施設養護の内容を理解できるようにする。そして、この学びを通して、施設での実習に活かすことができる力を身に付けられることを目指す。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習（外部協定　有　・　無　） （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	児童養護施設職員としての経験から、社会的養護系施設における子どもの生活状況や職員による支援について、体験談等をふまえてわかりやすく教授していく。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション：子どもの育ちに与える影響について考える。	【事前】シラバスを熟読する。（120 分） 【事後】授業内容を振り返る。（120 分）
第 2 回	社会的養護とは何か：児童養護施設の実践から社会的養護とは何かを学ぶ。	【事前】テキスト p12 ～ 15 に目を通しておく。（120 分） 【事後】テキスト p12 ～ 15 を読み返すとともに授業内容を振り返る。（120 分）
第 3 回	子どもの権利：子どもの権利について、「児童の権利に関する条約」等をふまえて学ぶ。	【事前】テキスト p21 ～ 22、p24 ～ 25 に目を通しておく。（120 分） 【事後】テキスト p21 ～ 22、p24 ～ 25 とノートを読み返し、授業内容を振り返る。（120 分）
第 4 回	社会的養護の仕組みと実施機関：社会的養護における仕組みと児童相談所等の実施機関について学ぶ。	【事前】テキスト p40 ～ 45 に目を通しておく。（120 分） 【事後】テキスト p40 ～ 45 とノートを読み返し、授業内容を振り返る。（120 分）
第 5 回	社会的養護の法制度：児童福祉法をはじめとする社会的養護における法制度について学ぶ。	【事前】テキスト p46 ～ 55 に目を通しておく。（120 分） 【事後】テキスト p46 ～ 55 とノートを読み返し、授業内容を振り返る。（120 分）
第 6 回	施設養護①：児童養護施設について学ぶ。	【事前】テキスト p34 ～ 39、p68 ～ 69 に目を通しておく。（120 分） 【事後】テキスト p34 ～ 39、p68 ～ 69 とプリントを読み返し、授業内容を振り返る。（120 分）
第 7 回	施設養護②：乳児院、児童自立支援施設について学ぶ。	【事前】テキスト p66 ～ 67、70 ～ 71 に目を通しておく。（120 分） 【事後】テキスト p66 ～ 67、70 ～ 71 とプリントを読み返し、授業内容を振り返る。（120 分）
第 8 回	施設養護③：児童心理治療施設、母子生活支援施設、障害児施設、自立援助ホームについて学ぶ。	【事前】テキスト p72 ～ 73、84 ～ 85、88 ～ 91 に目を通しておく。（120 分） 【事後】テキスト p72 ～ 73、84 ～ 85、88 ～ 91 とプリントを読み返し、授業内容を振り返る。（120 分）

第 9 回	社会的養護の歴史：社会的養護の歴史において貢献した人物と施設概要について学ぶ。	【事前】テキスト p100 ～ 111 に目を通しておく。(120 分) 【事後】テキスト p100 ～ 111 とノートを読み返し、授業内容を振り返る。(120 分)
第 10 回	支援の実際：施設養護の流れをふまえ、実際の支援について学ぶ。	【事前】テキスト p124 ～ 127、132 ～ 141 に目を通しておく。(120 分) 【事後】テキスト p124 ～ 127、132 ～ 141 とプリントを読み返し､授業内容を振り返る。(120 分)
第 11 回	施設養護における現場実践：主に治療的支援が行われている施設現場での実践について学ぶ。	【事前】今までの学びを振り返っておく。(120 分) 【事後】授業内容を振り返る。(120 分)
第 12 回	家庭養護について①：里親制度やファミリーホームの概要について学ぶ。	【事前】テキスト p148 ～ 159 に目を通しておく。(120 分) 【事後】テキスト p148 ～ 159 とプリントを読み返し、授業内容を振り返る。(120 分)
第 13 回	家庭養護について②：里親の実践について学ぶ。	【事前】前回の授業内容を振り返っておく。(120 分) 【事後】今回の授業内容を振り返る。(120 分)
第 14 回	被措置児童等虐待について：被措置児童等虐待の概要と現状について学ぶ。	【事前】テキスト p170 ～ 171 に目を通しておく。(120 分) 【事後】テキスト p170 ～ 171 とノートを読み返す、授業内容を振り返る。(120 分)
第 15 回	施設運営管理について：措置費や苦情解決等について学ぶ。 授業全体の振り返り	【事前】テキスト p164 ～ 167、172 ～ 173 に目を通しておく。(120 分) 【事後】テキスト p164 ～ 167、172 ～ 173 とノートを読み返し、授業内容を振り返る。(120 分)

学修の到達目標	
到達目標 1	社会的養護の歴史的背景、子どもの権利について理解できる。
到達目標 2	社会的養護に関連する実施機関や法制度、社会的養護の仕組みについて理解できる。
到達目標 3	施設養護や家庭養護における役割や機能、保育者・養育者の援助・支援について理解できる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	社会的養護の歴史的背景、子どもの権利に関して、非常に十分なレベルで理解できている。
	優	社会的養護の歴史的背景、子どもの権利に関して、十分なレベルで理解できている。
	良	社会的養護の歴史的背景、子どもの権利に関して、理解できている。
	可	社会的養護の歴史的背景、子どもの権利に関して、やや理解できている。
	不可	社会的養護の歴史的背景、子どもの権利に関して、理解が不十分である。
到達目標 2	秀	社会的養護に関連する実施機関や法制度、社会的養護の仕組みについて、非常に十分なレベルで理解できている。
	優	社会的養護に関連する実施機関や法制度、社会的養護の仕組みについて、十分なレベルで理解できている。
	良	社会的養護に関連する実施機関や法制度、社会的養護の仕組みについて、理解できている。
	可	社会的養護に関連する実施機関や法制度、社会的養護の仕組みについて、やや理解できている。
	不可	社会的養護に関連する実施機関や法制度、社会的養護の仕組みについて、理解が不十分である。

到達目標３	秀	施設養護や家庭養護における役割や機能、保育者・養育者の援助・支援について、非常に十分なレベルで理解できている。
	優	施設養護や家庭養護における役割や機能、保育者・養育者の援助・支援について、十分なレベルで理解できている。
	良	施設養護や家庭養護における役割や機能、保育者・養育者の援助・支援について、理解できている。
	可	施設養護や家庭養護における役割や機能、保育者・養育者の援助・支援について、やや理解できている。
	不可	施設養護や家庭養護における役割や機能、保育者・養育者の援助・支援について、理解が不十分である。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	80	20	0	0	0	0	100
到達目標１	20	0	0	0	0	0	20
到達目標２	30	10	0	0	0	0	40
到達目標３	30	10	0	0	0	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験を実施し、各回のテーマ内容についての知識や思考力を問う問題により評価する。
提出物	授業内で課すレポートの提出状況と授業内容に沿った課題に対するその内容で評価する。

履修に必要な知識・技能など
社会的養護系施設での実習に大きく関わる授業のため、意欲的に受講してください。また、社会福祉、子ども家庭福祉、社会的養護Ⅱ等との関連が大きい科目です。しっかりと福祉の心を養ってください。

教科書・ISBN
9784893472793　『図解で学ぶ保育　社会的養護Ⅰ』原田旬哉・杉山宗尚 編著，萌文書林.

参考書
『明日の子供たち』有川浩 著，幻冬舎.

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
子どもの保健（E33130）	講義	2	30	2	前期	選択	保育士必修	唐木美喜子
科目担当者	唐木美喜子							

授業の概要	社会情勢が大きく変化する中、健康な身体と健全な心をもって成長する子どもを育てるため、保育者に求められる資質とは何か。子どもには身体と心の問題だけでなく、子どもをめぐる人や自然、社会、環境等の変遷を理解し、統合できる力を身につける必要性が求められる。その子どもを育てていく保育者を目指すために、本講義では子どもの保健に関する基礎的知識を学ぶと共に、子どもを多角的に見、生きる力を最大限に発揮できるよう支援するために必要な知識と技能を学ぶ。また、子どもの持つ力を育て上げることのできる保育士を目指すために必要な保健と安全教育を理解し、子どもに関わる保健全般について学ぶ。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（　）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	養護教諭として 38 年間の実務経験を持つ。小学校、高等学校、特別支援学校での体験を講義の中に事例として盛り込んでいる。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	子どもの健康と保健の意義（子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義の理解）	【事前】シラバスに目を通しておく。教科書 P2 ～ P20 まで読んでおく（120 分） 【事後】配布資料の空欄を完成させ、内容を復習する（120 分）
第 2 回	子どもの発育と発達（発育・発達の経過、発育・発達の評価）	【事前】発育・発達の経過を調べる。教科書 P21 ～ P32 まで読んでおく（120 分） 【事後】配布資料の空欄を完成させ、内容を復習する（120 分）
第 3 回	子どもの身体発育と保健（それぞれの時期における身体発育の特徴）	【事前】身体発育の特徴を調べる。教科書 P21 ～ P25 まで読んでおく（120 分） 【事後】資料の空欄を完成させ、内容を復習する（120 分）
第 4 回	子どもの発育・発達① （生理機能の発達（呼吸機能、循環機能））	【事前】今までに配布した資料に目を通し、疑問点を書きだしておく。教科書 P32 ～ P35 まで読んでおく（120 分） 【事後】1 ～ 4 の資料を読み返し、重要点をまとめる（120 分）
第 5 回	到達度確認テスト、子どもの発育・発達②（生理機能の発達（免疫・消化・排泄機能））	【事前】テストに備え、疑問を解決。教科書 P36 ～ P38 まで読んでおく（120 分） 【事後】配布資料の空欄を完成させ、内容を復習する（120 分）
第 6 回	子どもの発育・発達③（生理機能の発達（代謝、内分泌機能、睡眠））	【事前】教科書に目を通し、疑問点を書きだしておく。教科書 P33 ～ P37 まで読んでおく（120 分） 【事後】配布資料の空欄を完成させ、内容を復習する（120 分）
第 7 回	子どもの発育・発達④（運動機能・感覚機能・神経機能の発達）	【事前】教科書に目を通し、疑問点を書きだしておく。教科書 P25 ～ P32 まで読んでおく（120 分） 【事後】配布資料の空欄を完成させ、内容を復習する（120 分）

第 8 回	子どもの発育・発達⑤（精神機能の発達、行動発達、虐待防止）	【事前】虐待防止法について調べる。教科書に目を通し、疑問点を書きだしておく。教科書 P152 ～ P169 まで読んでおく（120 分） 【事後】配布資料の空欄を完成させ、内容を復習する（120 分）
第 9 回	子どもの健康状態の把握と主な疾病の特徴（健康状態のみかた、発育の評価とその診断基準、小児の病気の特徴）	【事前】子どもの疾病について調べる。教科書に目を通し、疑問点を書きだしておく。教科書 P39 ～ P55 まで読んでおく（120 分） 【事後】第 5 回から 9 回までの配布資料を整理する（120 分）
第 10 回	到達度確認テスト、子どもの病気の予防と適切な対応①（子どもに多い感染症、先天異常）	【事前】感染症の予防について調べる。教科書に目を通し、疑問点を書きだしておく。教科書 P106 ～ P109 まで読んでおく（120 分） 【事後】配布資料の空欄を完成させ、内容を復習する（120 分）
第 11 回	子どもの病気の予防と適切な対応② （アレルギー性疾患）	【事前】アナフィラキシ―の対応について調べる。教科書に目を通し、疑問点を書きだしておく。教科書 P87 ～ P97 まで読んでおく（120 分） 【事後】配布資料の空欄を完成させ、内容を復習する（120 分）
第 12 回	子どもの病気の予防と適切な対応③（消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患）	【事前】教科書に目を通し、疑問点を書きだしておく。教科書 P87 ～ P97 まで読んでおく（120 分） 【事後】配布資料の空欄を完成させ、内容を復習する（120 分）
第 13 回	子どもの病気の予防と適切な対応④（悪性腫瘍、神経系疾患、泌尿器・生殖器の疾患）	【事前】教科書に目を通し、疑問点を書きだしておく。教科書 P118 ～ P129 まで読んでおく（120 分） 【事後】配布資料の空欄を完成させ、内容を復習する（120 分）
第 14 回	子どもの病気の予防と適切な対応⑤（整形外科疾患、その他の疾患）	【事前】教科書に目を通し、疑問点を書きだしておく。教科書 P118 ～ P129 まで読んでおく（120 分） 【事後】配布資料の空欄を完成させ、内容を復習する（120 分）
第 15 回	子どもの心身の健康状態とその把握、保護者との情報共有とその方法、補足とまとめ	【事前】教科書に目を通し、疑問点を書きだしておく。教科書 P87 ～ P90 まで読んでおく（120 分） 【事後】全資料の点検とまとめをしておく（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	こどもの発育・発達、健康についての基礎的知識を得、子どもの保健の意義・目的を理解している。
到達目標 2	こどもの疾病の特徴を知り、予防や適切な対応方法・援助について十分理解し、子どもの保育・教育に携わる者に必要な専門知識と技能を身につけている。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	十分にこどもの発育・発達、健康についての基礎知識を得、子どもの保健の意義・目的を理解している。また、こどもに関わる社会全体に興味関心を抱き、何らかの形で学修を継続し、その成果を発信している。
	優	こどもの発育・発達、健康についての基礎知識を得、子どもの保健の意義・目的を理解している。また、こどもに関わる社会全体に興味関心を抱き、何らかの形で学修を継続している。
	良	こどもの発育・発達、健康についての基礎知識を得、子どもの保健の意義・目的を理解している。また、こどもに関わる社会全体に興味関心を抱き、何らかの形で学修したことがある。
	可	こどもの保育・教育に携わる者に必要な自らの専門領域についての知見のみにとどまっている。
	不可	こどもの保育・教育に携わる者に必要な自らの専門領域についての知見が不十分である。

到達目標２	秀	子どもの疾病の特徴を的確に捉え、予防や適切な対応方法･援助について十分理解している。また、子どもの保育・教育に携わる者に必要な専門知識と技能をしっかり身に着けている。
	優	子どもの疾病の特徴を捉え、予防や適切な対応方法・援助について十分理解している。また、子どもの保育・教育に携わる者に必要な専門知識と技能をしっかり身に着けている。
	良	子どもの疾病の特徴を知り、予防や適切な対応方法・援助について理解している。また、子どもの保育・教育に携わる者に必要な専門知識と技能を身に着けている。
	可	子どもの疾病の特徴を知り、予防や適切な対応方法・援助について理解している。
	不可	子どもの疾病の特徴を知り、予防や適切な対応方法・援助について理解が不十分である。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	20	0	0	10	10	100
到達目標１	30	15	0	0	5	5	55
到達目標２	30	5	0	0	5	5	45
到達目標３	0	0	0	0	0	0	0
到達目標４	0	0	0	0	0	0	0
到達目標５	0	0	0	0	0	0	0

※評価項目で示す評価割合は､授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	持ち込みなしの筆記試験を行う。試験範囲は前期の講義内容すべて。ただし、対面での試験が難しい場合は、レポート試験に変更することもある。
提出物	講義の第５回目と第 10 回目の開始直後に到達度確認テストを行う。長期休暇中に取り組んでくるよう指示された課題を、指示されたとおりに取り組み、提出されたかどうかを評価する。
ポートフォリオ	各自が授業で取り組む資料をそれぞれの学びの成果としてポートフォリオに蓄積していく。ポートフォリオ評価では、教員がその蓄積された学びの成果を公平な観点から評価する。正当な理由なく、資料が欠落している場合は、減点の対象とする。
その他	授業内容について予め教科書を熟読して予習し、疑問個所を明確にして授業に臨み、授業終了後に資料の空欄を完成し復習したうえで、次の授業に生かせているかどうかを公平な観点から評価する。

履修に必要な知識・技能など
この授業では、自分の生活や、こどもの頃の自分を振り返り、自分を知る事からスタートです。授業の中で課題やレポートの提出を課すことがあります。全員提出していただきます。授業には多くのスライドと資料を用意していますので、頑張ってついてきてください。子どものことに常に関心を持って、一生懸命学び、積極的に授業に参加してほしいと思います。

教科書・ISBN
9784889242645　『保育者のためのわかりやすい子どもの保健』飯島一誠監修　総合医学社

参考書
随時紹介します

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
子どもの健康と安全（E33140）	演習	1	30	2	後期	選択	保育士必修	唐木美喜子
科目担当者	唐木美喜子							

授業の概要	「子どもの保健」の学修を前提に、子どもの発達段階における特徴・課題を理解した上で、演習を通して保育の場において実践できる適切な対応について、具体的に理解する。保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解し、関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止、安全対策・危機管理・災害対策、感染症対策、体調不良等の発達や状態に即した適切な対応について具体的に理解する。さらに、保育所等における子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動計画及び評価等について、具体的に理解する。
アクティブ・ラーニングの要素	（　）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	養護教諭として 38 年間の実務経験を持つ。小学校、高等学校、特別支援学校での体験を演習の中に事例として盛り込んでいる。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	保育環境の整備と保健（保健的環境の整備、安全管理）健康安全管理の実際（保育現場での衛生管理）災害への備えと危機管理	【事前】シラバスに目を通し、疑問点をまとめる。教科書の P76 ～ P86 を読んでおく（30 分） 【事後】配布資料の空欄を完成させ、保育現場での衛生管理についてまとめる（30 分）
第 2 回	子どもの精神保健①（生活環境・ライフサイクルからみた課題、乳幼児期の精神保健）	【事前】乳幼児期の特徴を調べ、ポイントを書きだす。子どもの保健の配布資料を読んでおく（30 分） 【事後】配布資料の空欄を完成させ、復習する（30 分）
第 3 回	子どもの精神保健②（学齢期の精神保健、思春期の精神保健）	【事前】学齢期以降の特徴を調べ、ポイントを書きだす。子どもの保健の配布資料を読んでおく（30 分） 【事後】配布資料の空欄を完成させ、課題をまとめる（30 分）
第 4 回	子どもの体調不良等に対する適切な対応（子どもの主な症状への対応と応急処置、薬の取り扱い）	【事前】子どもに多い、主な症状を書きだす。教科書の P87 ～ P105 を読んでおく（30 分） 【事後】演習 1 ～ 4 の配布資料を点検して、疑問点をまとめる。（30 分）
第 5 回	到達度確認テスト事故防止と安全教育（子どもに多い事故と安全対策）	【事前】テストに備え、疑問点を解決しておく。教科書の P76 ～ P86 を読んでおく（30 分） 【事後】保育現場での安全対策を箇条書きにする（30 分）
第 6 回	応急処置の実際（RISE、骨折固定、包帯の巻き方）子どもの事故と応急処置（具体的な応急処置）	【事前】包帯の巻き方のいろいろを調べる。教科書の P90 ～ P101 を読んでおく（30 分） 【事後】自分の膝、足首、手の指に包帯を巻いてみよう（30 分）
第 7 回	救急処置、救急蘇生法の実際 (心肺蘇生法、AED の使い方の実際)	【事前】心肺蘇生法の方法について確認しておく。教科書の P98 ～ P101 を読んでおく（30 分） 【事後】配布資料の空欄を完成させ、課題をまとめる（30 分）

第 8 回	感染症の予防と対策（感染症対策）感染症予防対策の実際（嘔吐物の処理方法の実際）	【事前】嘔吐物の処理方法について調べる。教科書の P106 ～ P109 を読んでおく（30 分） 【事後】配布資料の空欄を完成させ、課題をまとめる（30 分）
第 9 回	個別な配慮を必要とする子どもへの対応（アレルギー疾患、循環器疾患、腎疾患、てんかん、代謝性疾患、慢性疾患）	【事前】子どもの保健で学修した疾患について復習する。教科書の P118 ～ P137 を読んでおく（30 分） 【事後】エピペンの使い方について復習する（30 分）
第 10 回	到達度確認テスト　重症心身障害児への対応（痰吸引・気管切開・経管栄養・在宅酸素療法・導尿の実際）	【事前】テストに備え、疑問点を調べておく。教科書の P130 ～ P137 を読んでおく（30 分） 【事後】テストで間違ったところを確認する（30 分）
第 11 回	保育における保健的対応 （おむつ替え、沐浴の実際、3 歳未満児への対応）障害がある子どもへの対応 （身体障害、知的障害、発達障害等）	【事前】沐浴の方法の所を予習しておく。教科書の P110 ～ P118 を読んでおく（30 分） 【事後】配布資料の空欄を完成させ、課題をまとめる（30 分）
第 12 回	保育における健康、安全への取り組み（職員の連携と組織的取り組み）子どもの健康づくりへの取り組み（保健計画の作成）	【事前】保育園の月ごとの行事を書いておく。教科書の P138 ～ P146 を読んでおく（30 分） 【事後】保健計画を完成する（30 分）
第 13 回	母子に関する法律（母子保健対策と保育）児童虐待の防止に関する法律（虐待の分類、虐待を受けた子どもの対応）	【事前】虐待の分類を復習する。教科書の P147 ～ P165 を読んでおく（30 分） 【事後】子どもとの会話についてまとめる（30 分）
第 14 回	法律に関する事業の実際（母子保健福祉事業、乳幼児健康診査、相談事業）子育て支援のためのネットワーク（家庭・専門機関・地域との連携）	【事前】関連法規を調べる。教科書の P147 ～ P155 を読んでおく（30 分） 【事後】配布資料の空欄を完成させ、課題をまとめる（30 分）
第 15 回	保育所における保健的対応のまとめ（15 回の総復習）	【事前】全資料を順番にまとめて確認する。教科書のポイントを読んでおく（30 分） 【事後】配布問題用紙をすべて回答する（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	子どもの精神保健とその課題について理解することができる。
到達目標 2	子どもの成長・発達および健康状態の把握の方法を理解することができる。
到達目標 3	子どもの発達段階における特徴を理解した上で、子どもの生命の保持・情緒の安定が図れるよう安全の確保、安全管理・事故防止について理解することができ、子どもの保育・教育に携わる者に必要な専門知識と技能を身につけることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	子どもの精神保健とその課題について、十分理解している。また、自らの専門領域における知識・技術の両面とも幅広く身につけている。
	優	子どもの発育・発達、健康についての基礎的知識を有し、子どもの保健の意義・目的を理解している。また、子どもに関わる社会全体に興味関心を抱き、何らかの形で学修を継続している。
	良	子どもの発育・発達、健康についての基礎的知識を有し、子どもの保健の意義・目的を理解している。また、子どもに関わる社会全体に興味関心を抱き、何らかの形で学修したことがある。
	可	子どもの保育・教育に携わる者に必要な専門領域についての知見のみにとどまっている。
	不可	子どもの保育・教育に携わる者に必要な専門領域についての知見が不十分である。
到達目標 2	秀	子どもの成長・発達および健康状態の把握の方法を十分理解し、実践する力を身につけている。
	優	子どもの成長・発達および健康状態の把握の方法を十分理解している。
	良	子どもの成長・発達および健康状態の把握の方法を理解している。
	可	子どもの成長・発達および健康状態の把握の方法を最低限理解している。
	不可	子どもの成長・発達および健康状態の把握の方法を理解していない。

到達目標３	秀	子どもの発達段階における特徴を十分理解している。また、子ども生命の保持・情緒の安定が図れるよう安全管理・事故防止についても十分理解している。
	優	子どもの発達段階における特徴を理解している。また、子ども生命の保持・情緒の安定が図れるよう安全管理・事故防止についても理解している。
	良	子どもの発達段階における特徴を理解し、子どもへの安全管理・事故防止の意識を持っている。
	可	子どもの発達段階における特徴を理解し、子どもへの安全管理・事故防止について考えることができる。
	不可	子どもの発達段階における特徴を理解していない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	10	20	0	10	10	100
到達目標１	25	5	10	0	5	5	50
到達目標２	25	5	5	0	0	5	40
到達目標３	0	0	5	0	5	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	持ち込みなしの筆記試験を行う。試験範囲は後期の演習内容すべて。対面での試験が難しい状況ではレポート試験に変更する場合もある。
提出物	講義の第５回目と第 10 回目の開始直後に到達度確認テストを行う。長期休暇中に取り組んでくるよう指示された課題を、指示されたとおりに取り組み、提出されたかどうかを評価する。
成果発表（口頭・実技）	グループ発表の内容と発表に関するレポート等の提出物を評価する。グループ演習の状況を評価する。
ポートフォリオ	各自が演習で取り組む資料をそれぞれの学びの成果としてポートフォリオに蓄積していく。ポートフォリオ評価では、教員がその蓄積された学びの成果を公平な観点から評価する。正当な理由なく、資料が欠落している場合は、減点の対象とする。
その他	演習内容について予め教科書を熟読して予習し、疑問箇所を明確にして授業に臨み、授業終了後に資料の空欄を完成し復習したうえで、次の演習に生かせているかどうかを公平な観点から評価する。

履修に必要な知識・技能など

1）授業はグループ形式で行います。グループ発表の準備は、計画的に集まり、主体的・協同的に行うようにしてください。
2）保育者にふさわしい言動と身だしなみ、動きやすい服装など主体的な学習準備で臨むことを心がけてください。
3）保育者であることの自覚を常に持ち、保育現場で子どもと接する自分をイメージし、復習を重ねつつ技能を自分のものとして身につけ、学びを深めていってください。

教科書・ISBN

9784889242645　『保育者のためのわかりやすい子どもの保健』飯島一誠監修 総合医学社

参考書

『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』（平成 23 年３月、厚生労働省）　『2018 年改訂版保育所における感染症対策ガイドライン』（平成 30 年３月、厚生労働省）
『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』
（平成 28 年３月、内閣府・文部科学省・厚生労働省）

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
子どもの理解と援助（E33170）	演習	1	30	2	後期	選択	保育士必修	柳原利佳子
科目担当者	柳原利佳子							

授業の概要	保育における子どもの理解の意義と保育者の援助や態度の基本を概説する。子ども理解に関する基本的な知識を学んだ上で、具体的な発達援助について理解を深めることのできるような話題提供をする。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	保育における子ども理解の意義	【事前】シラバス内容の熟読、保育における子ども理解の意義について調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 2 回	子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり	【事前】子どもに対する共感的理解と子どもとの関わりについて調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 3 回	子どもの生活と遊び	【事前】子どもの生活と遊びについて調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 4 回	人的環境としての保育者と子どもの発達	【事前】人的環境としての保育者と子どもの発達について調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 5 回	子ども相互の関わりと関係づくり	【事前】子ども相互の関わりと関係づくりについて調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 6 回	集団における経験と育ち（小テスト 1：第 1 回～第 5 回まで）	【事前】第 1 回～第 5 回までの復習および小テスト対策、集団における経験と育ちについて調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 7 回	発達における葛藤やつまずき	【事前】発達における葛藤やつまずきについて調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 8 回	保育環境の理解とその構成・変化・移行	【事前】保育環境の理解とその構成・変化・移行について調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）

第 9 回	子どもを理解する方法	【事前】子どもを理解する方法について調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 10 回	職員間の対話（小テスト 2：第 6 回～第 10 回まで）	【事前】第 6 回～第 10 回までの復習および小テスト対策、職員間の対話について調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 11 回	保護者との情報共有	【事前】保護者との情報共有について調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 12 回	発達の課題に応じた援助と関わり	【事前】発達の課題に応じた援助と関わりについて調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 13 回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	【事前】特別な配慮を要する子どもの理解と援助について調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 14 回	発達の連続性と就学への支援	【事前】発達の連続性と就学への支援について調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 15 回	学修の到達目標の確認（小テスト 3:第 11 回～第 14 回まで）	【事前】第 11 回～第 14 回までの復習および小テスト対策（60 分） 【事後】学びの確認と期末試験対策（60 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	保育実践における子ども理解の意義と原理を理解する。
到達目標 2	子どもの体験や学びの過程における子ども理解のための具体的な方法と保育士の援助を理解する。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	保育実践における子ども理解の意義と原理について，十分なレベルで理解している。
	優	保育実践における子ども理解の意義と原理について，一定以上のレベルで理解している。
	良	保育実践における子ども理解の意義と原理について，最低限のレベルで理解している。
	可	保育実践における子ども理解の意義と原理について，知識としてはもっている。
	不可	保育実践における子ども理解の意義と原理について，十分なレベルで理解している。
到達目標 2	秀	子どもの体験や学びの過程における子ども理解のための具体的な方法と保育士の援助について，十分なレベルで理解している。
	優	子どもの体験や学びの過程における子ども理解のための具体的な方法と保育士の援助について，一定以上のレベルで理解している。
	良	子どもの体験や学びの過程における子ども理解のための具体的な方法と保育士の援助について，最低限のレベルで理解している。
	可	子どもの体験や学びの過程における子ども理解のための具体的な方法と保育士の援助について，知識としてはもっている。
	不可	子どもの体験や学びの過程における子ども理解のための具体的な方法と保育士の援助の知識をもっていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	26	60	14	0	0	0	100
到達目標 1	13	30	8	0	0	0	43
到達目標 2	13	30	6	0	0	0	57

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験において、子どもの発達や学びを把握することの意義と原理，および，子ども理解のための具体的な方法と保育士の援助や態度などの理解ができたかどうかを評価する。 保育実践における子ども理解の意義と原理を理解できる。
提出物	授業内に行う意見･確認チェックや小テストにおいて，子どもの発達や学びを把握することの意義と原理，および，子ども理解のための具体的な方法と保育士の援助や態度などの理解ができていたかどうかを評価する。 ※小テストについて，欠席あるいは点数が 50％に満たない場合には，自己申告があった場合に，最大 50％分までの点数を加点する特別措置を行う。自己申告には，毎回の授業時間後の学修として提示している「1 枚まとめ」を，試験範囲相当分の提出することを要する。
成果発表（口頭・実技）	授業内のグループワークにおいて，主体的に真摯に取り組んでいたかどうかを評価する。

履修に必要な知識・技能など
私語厳禁。積極的な授業参加を期待します。

教科書・ISBN
9784893473639　『子ども理解―個と集団の育ちを支える理論と方法』請川滋大 著 萌文書林

参考書
『なぜ？から探る　子ども 理解と援助（シリーズ知のゆりかご)』青木紀久代 編 みらい

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
幼児理解（E33200）	講義	2	30	2	前期	選択	保育士選択 幼教免必修	白山真知子
科目担当者	白山真知子							

授業の概要	幼児理解は、幼児教育のあらゆる営みの基本となるものです。一生の中で一番発達が変化する子ども時代を種々の側面から理解し、保育の様々な要素を学んでいきます。近年、保育や幼稚園現場では様々な困難な課題をもつ子どもの理解と対処に、より高い専門性と知識が必要とされてきている。子どもを取り巻く様々な問題に対する援助の側面も理解すると共に、保護者対応に必要な知識と援助法を学ぶ。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	保育や教育の場がなぜ“臨床の場”なのか、子どもを理解することが何故保育の始まりになるのか、その意義や意味について考える。	【事前】教科書 P14 ～ P22 を読んでおく。また保育臨床の始まりとは何かを、自分なりに考えてみる。(120 分) 【事後】子ども（幼児）を理解することの意味を再度自分なりに考え、Episode Ⅰについてのレポートを提出。(120 分)
第 2 回	「わたし」の誕生と生成。絵本や児童書にみる「わたし」の理解と「他者」。保育者が子どもの「わたし」をつくるとき。「体験」と「経験」の違い。	【事前】教科書 P23 ～ 48 を読んでおく。また教科書に出てくる「わたし」がテーマの絵本を読んでおく。その絵本の簡単な感想を持参する。(120 分) 【事後】「わたしをしる」を仕上げる（120 分）
第 3 回	カウンセリングマインドと保育臨床 ①　カウンセリングマインドの実際と様々な手法について、実技も通して知る	【事前】教科書 P49 ～ P62 を読んでおく（120 分） 【事後】保育や日常の場の中のカウンセリングマインドについて考えてみる。(120 分)
第 4 回	カウンセリングマインドと保育臨床 ②　子どもをりかいすることの意味と、保育や教育の場は“臨床の場”であるとはどういうことか、「科学の知」と「臨床の知」についても見ていく	【事前】教科書 P63 ～ P71 を読んでおく（120 分） 【事後】習ったことを復習しておく（120 分）
第 5 回	カウンセリングマインドと保育臨床 ③　臨床の知とは。保育臨床への発想　事例を通して	【事前】教科書 P72 ～ 85　教科書の事例を自分なりに考え、読み解く（120 分） 【事後】事例を考察し提出（120 分）
第 6 回	カウンセリングマインドと保育臨床 ④ 現場に活かすカウンセリング技法、ロールプレイ	【事前】以前に作った「わたしをしる」に再度目を通し、持参する。(120 分) 【事後】カウンセリング技法で話を聴くを実践してみる（120 分）
第 7 回	子どもを理解する ①　子ども理解とその方法・・行動等から読みとる。様々な理解の方法をしる	【事前】教科書 88 ～ 96 を読んでおく（120 分） 【事後】レポート課題について答える（120 分）
第 8 回	子どもを理解する ②　記録をとることの意味と記録の実際	【事前】教科書 P96 ～ P114 を読み、自分なりに記録の意味を考えてみる（120 分） 【事後】7 回目の事例を使って、記録を書いてみる(120 分)

第 9 回	子どもを理解する ③ 遊びの中の子ども理解と発達⇒何故子どもは遊ぶのか？遊びの大切さを知る	【事前】幼児期の発達を見ておく（120 分） 【事後】教科書 P116 ～ P127 を習ったことを踏まえて読んでおく（120 分）
第 10 回	子どもを理解する ④ 感覚統合障害様状態と現場で援助出来ること	【事前】感覚統合について調べておく（120 分） 【事後】習ったことを復習し、自分の遊びを感覚統合の立場からみてみる（120 分）
第 11 回	子どもの SOS を読み取る ① 不安や不登園などの集団状況からの発見と対処	【事前】教科書 P131 ～ P158 を読んでおく（120 分） 【事後】習ったことを復習し、自分が受け持った児の中に、該当の児がいた時、どうするかを考えて見る。(120 分)
第 12 回	子どもの SOS を読み取る ② 子ども虐待：メカニズムと早期発見とケアー	【事前】教科書 P163 ～ P184 を読んでおく（120 分） 【事後】プリントの新聞記事を読みレポート提出（120 分）
第 13 回	子どもの SOS を読み取る ③　子ども虐待とアタッチメント	【事前】愛着について見ておく（120 分） 【事後】習ったことを復習しておく（120 分）
第 14 回	描画にみる子どもの発達と心理	【事前】子どもの絵の発達を見ておく（120 分） 【事後】習った事を踏まえて、子どもの絵を見てみる（120 分）
第 15 回	保護者を支える。子育て不安とペアレントプログラム。子どもの理解者としての保育者・教師。まとめ	【事前】ペアトレについて調べる（120 分） 【事後】日常にペアレントプログラムで習った事を実践してみる（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	皆さんは幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解し、さらにその方法を具体的に理解する。 ・観察と記録の意義や目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる
到達目標 2	皆さんは幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解し、さらにその方法を具体的に理解する。 ・個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している
到達目標 3	皆さんは幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解し、さらにその方法を具体的に理解する。 ・幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解している
到達目標 4	皆さんは幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解し、さらにその方法を具体的に理解する。 ・保護者の心情と基礎的な対応心情と基礎的な対応の方法を理解している

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけている。また幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持っている。
	優	専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	専門領域についての知識・技術を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	専門領域についての知識・技術を身につけている。
	不可	専門領域についての知識・技術を身につけていない。
到達目標 2	秀	自発的に情報を収集・整理・分析・活用し、文章にまとめることが高い力でできる。
	優	自発的に情報を収集･整理･分析･活用し､文章にまとめることができ､その結果を他者と共有できる。
	良	ある程度自発的に情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	他者の助言があれば情報を収集・整理・分析できる。
	不可	情報を収集・整理・分析できない。

到達目標３	秀	自発的に物事に専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。そして、そこでの一定の結果に飽き足らず、さらなる探究心が生じ、それを実行に移すことができる。
	優	自発的に物事に専心し、夢中になって突き詰めていくことができる。
	良	ある程度自発的に物事を突き詰めていくことができる。
	可	他者から促されば、物事をある程度突き詰めていくことができる。
	不可	物事を自ら突き詰めていくことができない。
到達目標４	秀	自発的に様々な課題に対して専門知識や自らの考えを総合して、課題解決策をデザインすることが十分高いレベルで可能である。さらにその策を発信することで、他者との共有をより高めることができる。
	優	自発的に様々な課題に対して専門知識や自らの考えを総合して、課題解決策をデザインすることが十分高いレベルで可能である。
	良	ある程度自発的に様々な課題に対して専門知識や自らの考えを統合して、課題解決策をデザインすることができる。
	可	他者から促されることで、様々な課題に対して専門知識や自らの考えを総合して、課題解決策をある程度デザインすることができる。
	不可	課題解決策をデザインすることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	30	0	0	20	0	100
到達目標１	20	10	0	0	5	0	35
到達目標２	10	10	0	0	5	0	25
到達目標３	10	5	0	0	5	0	20
到達目標４	10	5	0	0	5	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験を試験期間中に実施。
提出物	次回までに取り組んでくるよう指示された課題を、指示されたとおりに取り組み、提出されたかどうかと内容を評価する。ポートフォリオ本科目に関する文書や記録、提出物、ノート、プリントなどの資料等と共に、その学びをより深めていると認められることを評価
ポートフォリオ	本科目に関する文書や記録、提出物、ノート、プリントなどの資料等と共に、その学びをより深めていると認められることを評価

履修に必要な知識・技能など
幼児に係る様々なことを学びます。事前に教科書の関連頁を読んで予習するだけでなく、幼児理解について多様な観点を持てるよう、発達心理学など近隣の分野の本も読んでおいてください。また、幼児関連の新聞記事やニュースにも目をとめて、読み聞きしておいてください。

教科書・ISBN
9784893470713　『子ども理解とカウンセリングマインド』青木久子・間藤侑・河邉貴子 萌文書林

参考書
『子ども理解と援助』高嶋景子・砂上史子・森上史朗 編 ミネルヴァ書房 随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育の計画と評価（E33300）	講義	2	30	2	後期	選択	保育士必修	多田琴子
科目担当者	多田琴子							

授業の概要	乳幼児期の保育課程についての基礎的基本的な理念について学び、その上に展開される具体的な保育課程の編成、指導計画の作成から実践に至るまでを理解する。 まず、保育という営みは、どのような計画に基づいて行っているのかについて、その意義や必要性を学ぶ。 また、見学実習園で見聞した保育目標に基づいた保育内容と自らが記述した保育記録とを照らし合わせ、子どもの発達の過程や特徴の理解を基にして、指導計画作成の方法やポイントについて理解する。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習（外部協定　有　・　無　） （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション・カリキュラムを考えるプロローグ	【事前】シラバスを通読し概要をつかむ（120 分） 【事後】教科書・プロローグをまとめる（120 分）
第 2 回	カリキュラムの基礎理論－教育・保育に大切なこと－第 1 章	【事前】教科書第 1 章を読解する（120 分） 【事後】教育・保育に大切なことを考えてみる（120 分）
第 3 回	保育における計画と評価の意義－よりよい保育を構想するために－ 2 章	【事前】よい保育について考察をする（120 分） 【事後】よい保育の基準を考察する（120 分）
第 4 回	保育所保育指針等を共に考える第 3 章	【事前】教科書第 3 章を読解する（120 分） 【事後】保育の過程と循環を確認する（120 分）
第 5 回	教育課程・全体的な計画の編成・作成第 4 章	【事前】3 法令比較をしておく（120 分） 【事後】教育課程・全体的な計画の必要性を再確認する（120 分）
第 6 回	指導計画の必要性・保育を柔軟に展開するポイント第 5．6 章	【事前】教科書第 5 章 . 6 章を読解する（120 分） 【事後】保育の目標と計画を再確認する（120 分）
第 7 回	諸外国の保育の特徴（グループワーク）発表	【事前】諸外国の保育の特徴を調べる（120 分） 【事後】諸外国の保育の特徴を確認をする（120 分）
第 8 回	全体的な計画と指導計画の関係性・全体的な計画の作成第 8．9．10 章	【事前】教科書第 8．9．10 章を読解する（120 分） 【事後】全体的な計画の必要性を理解をする（120 分）
第 9 回	指導計画作成上の留意事項・計画に基づく保育の柔軟な展開第 8．9．10 章	【事前】指導計画留意事項調べをする（120 分） 【事後】具体的指導計画構造図の作成をする（120 分）
第 10 回	具体的指導計画構造図作成（グループワーク）	【事前】具体的指導計画構造図の作成をする（120 分） 【事後】指導計画の作成をする（120 分）
第 11 回	指導計画作成（設定保育指導案の作成）（グループワーク）	【事前】指導計画の作成をする（120 分） 【事後】設定保育指導案・具体的指導計画構造図発表資料の作成をする（120 分）
第 12 回	保育計画の実際（2 歳児～ 3 歳児）（グループワーク）発表	【事前】2 歳児～ 3 歳児の具体的指導計画構造図作成をする（120 分） 【事後】グループ保育計画（指導案）の改善をする（120 分）

第 13 回	保育計画の実際（4 歳児～ 5 歳児）（グループワーク）発表	【事前】4 歳児～ 5 歳児の具体的指導計画図作成をする（120 分） 【事後】グループ保育計画（指導案）の改善をする（120 分）
第 14 回	カリキュラムマネージメントと保育の評価（記録及び省察・保育士及び保育所の自己評価・保育改善の取組・生活と発達を踏まえた保育所児童保育要録）第 7 章	【事前】配布物、ノート等をまとめる（120 分） 【事後】カリキュラムマネージメントについて学びの確認をする（120 分）
第 15 回	補足とまとめ、理解度の確認	【事前】配布物、ノート等をまとめる（120 分） 【事後】学びの確認をおこなう（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	保育課程、指導計画の意義と目的、その構造や編成について理解し、子どもの発達を踏まえ具体的な指導計画構造図を作成する。
到達目標 2	保育のねらいと内容の関係が分かり、対象にふさわしい設定保育指導案の立案する。
到達目標 3	保育記録・評価反省と計画の関係が分かり、計画の改善の意義と方法について理解し、説明する。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	保育課程、指導計画の意義と目的、その構造や編成について十分理解し、子どもの発達に応じた乳幼児期にふさわしい生活をおくることができる具体的な指導計画構造図を作成することができる。
	優	保育課程、指導計画の意義と目的、その構造や編成について理解し、子どもの発達に応じた乳幼児期にふさわしい生活をおくることができる具体的な指導計画構造図を作成することができる。
	良	保育課程、指導計画の意義と目的、その構造や編成について理解し、子どもの発達を踏まえ具体的な指導計画構造図を作成することができる。
	可	保育課程、指導計画の意義と目的、その構造や編成について理解し、指導計画構造図を作成できる。
	不可	保育課程、指導計画の意義と目的、その編成について理解できず、指導計画構造図を作成できない。
到達目標 2	秀	保育のねらいと内容の関係が十分分かり、対象にふさわしい設定保育指導案の立案ができるとともに、他者に分かりやすく説明することかができる。
	優	保育のねらいと内容の関係が分かり、対象にふさわしい設定保育指導案を立案し、それを説明できる。
	良	保育のねらいと内容の関係が分かり、対象にふさわしい設定保育指導案の立案ができる。
	可	保育のねらいと内容の関係が分かり、設定保育指導案の立案ができる。
	不可	保育のねらいと内容の関係が分からず、設定保育指導案の立案ができない。
到達目標 3	秀	保育記録・評価反省と計画の関係が分かり、計画の改善の意義と方法について十分理解するとともに、それを他者が分かるまで説明できる。
	優	保育記録・評価反省と計画の関係が分かり、計画の改善の意義と方法について理解するとともに、それを説明できる。
	良	保育記録・評価反省と計画の関係が分かり、計画の改善の意義と方法について理解し、説明しようとする。
	可	保育記録・評価反省と計画の関係、及び計画の改善の意義と方法について理解する。
	不可	保育記録・評価反省と計画の関係、及び計画の改善の意義と方法について、理解できていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	30	0	0	0	20	100
到達目標 1	50	10	0	0	0	0	60
到達目標 2	0	10	0	0	0	10	20
到達目標 3	0	10	0	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	・筆記試験を行う。・保育課程、指導計画の意義と目的、その構造や編成についての理解度で評価する。・子どもの発達に応じた乳幼児期にふさわしい生活としての様々な指導計画と方法の理解度で評価する。
提出物	・諸外国の保育の特徴を捉え、その構造や内容が適切にレポートされていることで評価する。・子どもの発達に応じた乳幼児期にふさわしい生活として構造が指導案から読み取れることで評価する。・レポート課題に対して、引用参考文献が適切であること、自分の意見が論理的に述べられていることを評価する。
その他	具体的指導計画図や設定保育指導案作成において、学習した内容や情報を活用し、グループ内でデザイン力や論理的思考力を発揮することを評価する。

履修に必要な知識・技能など
1）保育者は必ず指導案を書かなければならないことを理解し、分かろうとして学ぶ。 2）保育所及び幼稚園での実習で成果を出すために、この授業で指導計画を確実に学ぶ。 3）導計画（構造図と全日保育指導案）立案に向けて、様々な指導案の収集を行いファイリングしておく。 4）提出物の期限は厳守すること。

教科書・ISBN
9784860154783　新刊『知のゆりかご　教育・保育カリキュラム論』田中亨胤・三宅茂夫 編著 みらい

参考書
『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館　ISBN-13 : 9784577814475 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館　ISBN-13 : 9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館　ISBN-13 : 9784577814499 その他、適宜紹介・配布する。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育内容（健康） （E33340）	演習	2	30	2	前期	選択	保育士必修 幼教免必修	中西利恵
科目担当者	中西利恵							

授業の概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について理解する。そして、乳幼児の健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。さらに、遊びを通して育む心身の成長や発達の様相、健康な生活習慣の形成、安全指導等への理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。特に、遊びを通した指導の実際については模擬保育を実施し、教材研究や振り返りから、保育現場での実践力及び保育の構想力の向上をめざす。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（レ）その他（模擬保育）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	幼児教育の重要性と領域「健康」 保育内容 5 領域とねらいと内容	【事前】シラバス内容の確認（120 分） 【事後】ポートフォリオ（指定ファイル）の準備と要領等の指定部分の記述の把握（120 分）
第 2 回	乳幼児の心と体の健康 1 ～子どもの育ち・遊び・生活・食・安全と健康（0 歳児）～	【事前】要領等の指示部分の内容把握（120 分） 【事後】「乳幼児の心と体の健康を考えるノート」の整理・見直しと記録表の記述（120 分）
第 3 回	乳幼児の心と体の健康 2 ～子どもの育ち・遊び・生活・食・安全と健康（1 歳児）～	【事前】要領等の指示部分の内容把握（120 分） 【事後】「乳幼児の心と体の健康を考えるノート」の整理・見直しと記録表の記述（120 分）
第 4 回	乳幼児の心と体の健康 3 ～子どもの育ち・遊び・生活・食・安全と健康（2 歳児）～	【事前】要領等の指示部分の内容把握（120 分） 【事後】「乳幼児の心と体の健康を考えるノート」の整理・見直しと記録表の記述（120 分）
第 5 回	乳幼児の心と体の健康 4 ～子どもの育ち・遊び・生活・食・安全と健康（3 歳児）～	【事前】要領等の指示部分の内容把握（120 分） 【事後】「乳幼児の心と体の健康を考えるノート」の整理・見直しと記録表の記述（120 分）
第 6 回	乳幼児の心と体の健康 5 ～子どもの育ち・遊び・生活・食・安全と健康（4 歳児）～	【事前】要領等の指示部分の内容把握（120 分） 【事後】「乳幼児の心と体の健康を考えるノート」の整理・見直しと記録表の記述（120 分）
第 7 回	乳幼児の心と体の健康 6 ～子どもの育ち・遊び・生活・食・安全と健康（5･6 歳児）～	【事前】要領等の指示部分の内容把握（120 分） 【事後】「乳幼児の心と体の健康を考えるノート」の整理・見直しと記録表の記述（120 分）
第 8 回	健康な心と体を育む保育の実際（1） ～運動遊び教材研究～	【事前】乳幼児の心と体の健康を考えるノート」での学習内容を踏まえ模擬保育のテーマ検討（120 分） 【事後】模擬保育の計画・準備（120 分）
第 9 回	健康な心と体を育む保育の実際（2） ～運動遊び教材研究と指導計画作成～	【事前】模擬保育ワークシートの作成（120 分） 【事後】模擬保育ワークシートの完成（120 分）

第 10 回	健康な心と体を育む保育の実際（3） ～模擬保育の実践①～	【事前】模擬保育のワークシート作成と具体的展開準備（120 分） 【事後】模擬保育コメントシートとふり返りシートの作成（120 分）
第 11 回	健康な心と体を育む保育の実際（4） ～模擬保育の実践②～	【事前】模擬保育のワークシート見直しと具体的展開準備（120 分） 【事後】模擬保育コメントシートとふり返りシートの作成（120 分）
第 12 回	健康な心と体を育む保育の実際（5） ～模擬保育の実践③～	【事前】模擬保育のワークシート見直しと具体的展開準備（120 分） 【事後】模擬保育コメントシートとふり返りシートの作成（120 分）
第 13 回	模擬保育のふり返りと総合的な教材研究	【事前】ワークシート、コメントシート、ふり返りシートの整理（120 分） 【事後】配付資料の整理と記述内容の見直し（120 分）
第 14 回	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校での生活や学習とのつながり	【事前】要領等の指示部分の内容確認（120 分） 【事後】学習内容の振り返り（120 分）
第 15 回	領域「健康」をめぐる現代的課題	【事前】保育内容（健康）ポートフォリオの整理（120 分） 【事後】学習内容の総合的なふり返り（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	幼稚園教育要領・保育所保育し浸透に示された幼稚園教育・保育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解している。
到達目標 2	乳幼児の発達や学びの形態と過程を踏まえ、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法と技術を身に付けている。
到達目標 3	乳幼児の能動性を引き出す教材や保育構想に活かせる情報機器の活用法を理解している。
到達目標 4	具体的な指導計画を作成し、模擬保育とその振り返りを通して保育構想の向上に取り組むことができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を十分理解している。
	優	幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容をほぼ理解している。
	良	幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容をある程度理解している。
	可	幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を最低限理解している。
	不可	幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解していない。
到達目標 2	秀	乳幼児の発達や学びの形態と過程を踏まえ、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法と技術を十分身に付けている。
	優	乳幼児の発達や学びの形態と過程を踏まえ、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法と技術をほぼ身に付けている。
	良	乳幼児の発達や学びの形態と過程を踏まえ、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法と技術をある程度身に付けている。
	可	乳幼児の発達や学びの形態と過程を踏まえ、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法と技術を最低限身に付けている。
	不可	乳幼児の発達や学びの形態と過程を踏まえ、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法と技術を身に付けていない。

到達目標３	秀	乳幼児の能動性を引き出す教材や保育構想に活かせる情報機器の活用法を十分理解している。
	優	乳幼児の能動性を引き出す教材や保育構想に活かせる情報機器の活用法をほぼ理解している。
	良	乳幼児の能動性を引き出す教材や保育構想に活かせる情報機器の活用法をある程度理解している。
	可	乳幼児の能動性を引き出す教材や保育構想に活かせる情報機器の活用法を最低限理解している。
	不可	乳幼児の能動性を引き出す教材や保育構想に活かせる情報機器の活用法を理解していない。
到達目標４	秀	具体的な指導計画を作成し、模擬保育とその振り返りを通して保育構想の向上に適確に取り組むことができる。
	優	具体的な指導計画を作成し、模擬保育とその振り返りを通して保育構想の向上にほぼ適確に取り組むことができる。
	良	具体的な指導計画を作成し、模擬保育とその振り返りを通して保育構想の向上にある程度取り組むことができる。
	可	具体的な指導計画を作成し、模擬保育とその振り返りを通して保育構想の向上に最低限取り組むことができる。
	不可	具体的な指導計画を作成し、模擬保育とその振り返りを通して保育構想の向上に取り組むことができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	20	45	15	0	20	0	100
到達目標１	5	10	0	0	5	0	20
到達目標２	5	15	0	0	5	0	25
到達目標３	5	10	0	0	5	0	20
到達目標４	5	10	15	0	5	0	35

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	15 回の授業を受講した後に、授業の成果の確認としてレポート試験を実施する。
提出物	模擬保育の指導計画、実践後のふり返り（省察）について評価する。 その他、提出を指示した各種シートについて評価する。
成果発表（口頭・実技）	模擬保育等の実践において、積極的に役割取得をし、模擬保育やグループワークに臨み、課題に対する情報収集力（教材研究する力）、協調・協働して企画する力、実践する力について評価する。
ポートフォリオ	「乳幼児の心と体の健康を考えるノート」等、最終とりまとめ提出するポートフォリオについて評価する。

履修に必要な知識・技能など
1）子どもの心身の健康を担う自覚と基礎の学習により保育技術の向上につなげようとする意識をもつこと。 2）能動感や達成感の獲得につながる手遊びや、保育の導入に役立つ環境構成について、情報収集すること。 3）保育の計画を立て、実践し、評価し、改善しているプロセスに、主体的、積極的、協働的に取り組み、専門性の向上を図ること。

教科書・ISBN
9784577814475　『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 9784577814482　『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 9784577814499　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

参考書
その都度参考文献・資料等を配布する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育内容（言葉）（E33350）	演習	2	30	2	前期	選択	保育士必修 幼教免必修	多田琴子
科目担当者	多田琴子							

授業の概要	言葉の獲得に関する領域「言葉」は、子供自らが経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養うという側面から、ねらい内容が示されている。この授業では、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。 また、子供が言葉を獲得していく過程と、子供にとっての言葉の意義と機能を発達段階を捉えながら学習する。同時に、子どもの発達段階に即した「絵本」も調べ、グループで子どもの発達に即した絵本リストの作成を行う。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（レ）その他（模擬保育）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション・保育内容としての言葉	【事前】教科書第 1 章の大切な箇所に線を引いて読む（120 分） 【事後】学習の振り返りとシラバスの通読（120 分）
第 2 回	乳児保育における領域「言葉」（ITC 活用）	【事前】教育・保育要領、指針乳児保育領域の視点を通読（120 分） 【事後】学習の振り返りと 0 歳児にふさわしい絵本 5 選列挙（120 分）
第 3 回	1 歳以上 3 歳未満児の保育内容領域「言葉」のねらい（ITC 活用）	【事前】保育所保育指針解説の 1 歳以上 3 歳未満児の保育内容領域「言葉」のねらいを通読（120 分） 【事後】学習の振り返りと 1 歳児にふさわしい絵本 5 選列挙（120 分）
第 4 回	1 歳以上 3 歳未満児の保育内容領域「言葉」の内容（ITC 活用）	【事前】保育所保育指針解説の 1 歳以上 3 歳未満児の保育内容領域「言葉」の内容を通読（120 分） 【事後】学習の振り返りと 2 歳児にふさわしい絵本 5 選列挙（120 分）
第 5 回	1 歳以上 3 歳未満児の保育内容領域「言葉」の内容の取扱い（ITC 活用）	【事前】保育所保育指針解説の 1 歳以上 3 歳未満児の保育内容領域「言葉」の内容の取扱いを通読（120 分） 【事後】学習の振り返りと 3 歳児にふさわしい絵本 5 選列挙（120 分）
第 6 回	3 歳以上児の保育内容領域「言葉」のねらい（ITC 活用）	【事前】保育所保育指針解説の 3 歳以上児の保育内容領域「言葉」のねらいを通読（120 分） 【事後】学習の振り返りと 4 歳児にふさわしい絵本 5 選列挙（120 分）
第 7 回	3 歳以上児の保育内容領域「言葉」の内容（ITC 活用）	【事前】保育所保育指針解説の 3 歳以上児の保育内容領域「言葉」の内容を通読（120 分） 【事後】学習の振り返りと 5 歳児にふさわしい絵本 5 選列挙（120 分）

第 8 回	3 歳以上児の保育内容領域「言葉」の内容の取扱い（ITC 活用）	【事前】保育所保育指針解説の 3 歳以上児の保育内容領域「言葉」の内容の取扱いを通読（120 分） 【事後】学習の振り返りと 0 歳児～ 5 歳児にふさわしい絵本 5 選列挙（120 分）
第 9 回	乳幼児期の言葉の発達－言葉の萌芽期（ITC 活用 ）	【事前】教科書第 2 章の大切な箇所に線を引いて読む（120 分） 【事後】学習の振り返りとグループワーク 0 歳児にふさわしい絵本ベスト 5 選択し、あらすじをまとめる（120 分）
第 10 回	乳幼児期の言葉の発達－言葉の急増期（ITC 活用 ）	【事前】教科書第 3 章の大切な箇所に線を引いて読む（120 分） 【事後】学習の振り返りとグループワーク 1 歳児にふさわしい絵本ベスト 5 選択し、あらすじをまとめる（120 分）
第 11 回	乳幼児期の言葉の発達－文構造の複雑化（ITC 活用 ）	【事前】教科書第 4 章の大切な箇所に線を引いて読む（120 分） 【事後】学習の振り返りとグループワーク 2 歳児にふさわしい絵本ベスト 5 選択し、あらすじをまとめる（120 分）
第 12 回	乳幼児期の言葉の発達－会話の増大（ITC 活用 ）	【事前】教科書第 5 章の大切な箇所に線を引いて読む（120 分） 【事後】学習の振り返りとグループワーク 3 歳児にふさわしい絵本ベスト 5 選択し、あらすじをまとめる（120 分）
第 13 回	乳幼児期の言葉の発達－言葉の自覚化（ITC 活用 ）	【事前】教科書第 7.8 章の CASE から発達の概要をつかむ（120 分） 【事後】学習の振り返りとグループワーク 4 歳児にふさわしい絵本ベスト 5 選択し、あらすじをまとめる（120 分）
第 14 回	保育内容「言葉」指導計画と評価（ITC 活用）	【事前】教科書第 6 章の大切な箇所に線を引いて読む（120 分） 【事後】学習の振り返りとグループワーク 5 歳児にふさわしい絵本ベスト 5 選択し、あらすじをまとめる（120 分）
第 15 回	小学校との接続（ITC 活用）	【事前】事前配布物の大切な箇所に線を引いて読む（120 分） 【事後】学習の振り返りと 0 歳児～ 5 歳児にふさわしい絵本ベスト 50 選のファイル作成（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	子どもの言葉の発達に興味を持ち自発的に学修する。
到達目標 2	子どもの言葉の発達にふさわしい専門領域についての知識をを身につける努力をする。
到達目標 3	子どもの前に立つ保育者として、他者との協同を行う。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	子どもの言葉の発達に大変興味を持ち主体的に学修する。
	優	子どもの言葉の発達に大変興味を持ち自主的に学修する。
	良	子どもの言葉の発達に興味を持ち自発的に学修する。
	可	子どもの言葉の発達にある程度興味を持ち学習する。
	不可	子どもの言葉の発達に興味を持っていない。

到達目標２	秀	子どもの言葉の発達にふさわしい専門領域に深く関心を持ち、豊かな知識を身に付ける。
	優	子どもの言葉の発達にふさわしい専門領域に関心を持ち知識を付けるための継続的努力をする。
	良	子どもの言葉の発達にふさわしい専門領域についての知識をを身につける努力をする。
	可	子どもの言葉の発達にふさわしい専門領域についての知識にある程度関心をもつ。
	不可	子どもの言葉の発達にふさわしい専門領域についての知識に関心がない。
到達目標３	秀	子どもの前に立つ保育者として自覚し、責任をもって他者との協働する。
	優	子どもの前に立つ保育者として自覚し、他者との協同を積極的に行う。
	良	子どもの前に立つ保育者として自覚し、他者との協同を行う。
	可	子どもの前に立つ保育者として、他者との協同しようとする。
	不可	子どもの前に立つ保育者として、他者との協同しない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	30	0	0	0	20	100
到達目標１	40	10	0	0	0	0	50
到達目標２	10	10	0	0	0	10	30
到達目標３	0	10	0	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	定期試験中に実施する筆記試験
提出物	毎回 manaba で課題提出
その他	グループワーク（他者との協同・協働）

履修に必要な知識・技能など
授業箇所の教科書や指定の参考書を読んで授業に臨む。子どもの発達の時期にふさわしい絵本（保育所・幼稚園で必ず使用する児童文化財）を選択する豊かな感性をもつ。 授業内容の重要性を理解した能動的な受講態度をもつ。

教科書・ISBN
9784782305713　保育と言葉　嵯峨野書院　ISBN-13 : 978-4782305713 9784577814482　保育所保育指針解説　ISBN-13 : 978-4577814482 9784577814475　幼稚園教育要領解説　ISBN-13 : 978-4577814475

参考書
保育内容　保育指導法「言葉」- 乳幼児と育む豊かな言葉の世界 -　建帛社　2019

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育内容（環境）（E33360）	演習	2	30	2	前期	選択	保育士必修 幼教免必修	大森雅人
科目担当者	大森雅人							

授業の概要	幼稚園教育において育みたい３つの資質・能力（「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」）や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解した上で、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容についての理解を深める。その際は、幼児を取り巻く現代社会の状況や幼児と環境の関わり方といった背景となる専門領域とも関連させる。最終的には、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びの過程を踏まえ、領域「環境」のねらい達成につながるような指導場面を想定した保育の構想ができる力を身に付ける。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第１回	幼児教育の基本と領域「環境」保育内容の基本構造と領域「環境」のねらいと内容	【事前】シラバスを見て授業の概要を把握の上で、幼稚園教育要領解説書等の関連する箇所をあらかじめ確認する。(120 分) 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。(120 分)
第２回	子ども発達と領域「環境」子どもにふさわしい環境と環境構成	【事前】保育所保育指針解説書を用いて子どもの発達に関してあらかじめ学修しておく。(120 分) 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。(120 分)
第３回	領域「環境」のねらいと内容に関する理解の深化（1）園内における実践の理解	【事前】要領等で領域「環境」を中心として、5 領域全体の記述を予習しておく。(120 分) 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。(120 分)
第４回	領域「環境」のねらいと内容に関する理解の深化（2）園外における実践の理解	【事前】要領等で「好奇心」や「探究心」に関連する項目を探し出して、その概要をつかんでおく。(120 分) 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。(120 分)
第５回	子どもと「自然」との関わりの理解（1）関わりの特性の理解と指導計画の実際	【事前】領域「環境」の特に自然環境との関わりに関連する部分の概要を把握しておく。(120 分) 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。(120 分)
第６回	子どもと「自然」との関わりの理解（2）自然と関わる模擬保育の実践	【事前】要領等で、領域「環境」の「内容の取扱い」に関して自然環境との関わりが深い部分を予習しておく。(120 分) 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。(120 分)
第７回	子どもと「自然」との関わりの理解（3）実践内容の振り返りと考察	【事前】前回の体験を振り返って、体験時に思ったことや考えたことを整理しておく。(120 分) 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。(120 分)

第 8 回	子どもと「数量・図形・標識・文字」との関わりの理解（1）関わりの特性の理解	【事前】要領等で領域「環境」の「数量・図形・標識・文字」に関連する部分の概要を把握しておく。(120 分) 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。(120 分)
第 9 回	子どもと「数量・図形・標識・文字」との関わりの理解（2）実体験と振り返り	【事前】要領等で「数量・図形・標識・文字」に関連する部分の「内容の取扱い」を予習しておく。(120 分) 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。(120 分)
第 10 回	子どもと「生活に関係の深い情報や施設」との関わりの理解関わりの特性の理解	【事前】要領等において、領域「環境」の中で「生活に関係の深い情報や施設」に関連する部分の概要を把握しておく。(120 分) 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。(120 分)
第 11 回	子どもと「ものや道具」との関わりの理解（1）関わりの特性の理解と指導計画の立案	【事前】要領等で、領域「環境」の「ものや道具」との関わりに関連する部分の概要を把握しておく。(120 分) 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。(120 分)
第 12 回	子どもと「ものや道具」との関わりの理解（2)「ものや道具」と関わる模擬保育の実践	【事前】要領等で、「ものや道具」との関わりに関連する部分の「内容の取扱い」の概要を把握しておく。(120 分) 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。(120 分)
第 13 回	子どもと「ものや道具」との関わりの理解（3）実践内容の振り返りと考察	【事前】前回の体験を振り返って、体験時に思ったことや考えたことを整理しておく。(120 分) 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。(120 分)
第 14 回	領域「環境」における保育実践の姿を考える「共有」「連続」「可視化」	【事前】保育実践の場における情報共有の例を調べておく。(120 分) 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。(120 分)
第 15 回	子どもとさまざまなテクノロジーの関わりの理解テクノロジーの進化、ICT の活用	【事前】保育に関連するテクノロジー活用の例を調べておく。(120 分) 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。(120 分)

学修の到達目標	
到達目標 1	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解している。
到達目標 2	幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けている。
到達目標 3	幼児とテクノロジーの関わりなど、幼児を取り巻く環境の現代的な課題を理解し、それに対応した保育が構想できるようになる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	領域「環境」のねらい及び内容に関して実践に活かすのにあたって十分なレベルで理解できている。
	優	領域「環境」のねらい及び内容に関して実践に活かすにあたって一定のレベルで理解できている。
	良	領域「環境」のねらい及び内容に関して実践に活かすにあたって最低限のレベルで理解できている。
	可	領域「環境」のねらい及び内容に関して最低限の知識をもっている。
	不可	領域「環境」のねらい及び内容に関する知識が不十分である。

到達目標２	秀	幼児の発達や学びの過程の理解、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法について、両方とも十分なレベルで身につけている。
	優	幼児の発達や学びの過程の理解、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法について、一方は十分なレベルで、もう一方は一定のレベルで身につけている。
	良	幼児の発達や学びの過程の理解、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法について、一方は一定のレベルで、もう一方は最低限のレベルで身につけている。
	可	幼児の発達や学びの過程の理解、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法について、両方とも最低限のレベルでは身につけている。
	不可	幼児の発達や学びの過程の理解、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法のいずれも身につけていない。
到達目標３	秀	幼児を取り巻く環境の現代的な課題の理解、それに対応した保育の構想について、両方とも十分なレベルで身につけている。
	優	幼児を取り巻く環境の現代的な課題の理解、それに対応した保育の構想について、一方は十分なレベルで、もう一方は一定のレベルで身につけている。
	良	幼児を取り巻く環境の現代的な課題の理解、それに対応した保育の構想について、一方は一定のレベルで、もう一方は最低限のレベルで身につけている。
	可	幼児を取り巻く環境の現代的な課題の理解、それに対応した保育の構想について、両方とも最低限のレベルでは身につけている。
	不可	幼児を取り巻く環境の現代的な課題の理解、それに対応した保育の構想について、いずれも身につけていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	30	0	0	0	20	100
到達目標１	30	10	0	0	0	10	50
到達目標２	20	10	0	0	0	10	40
到達目標３	0	10	0	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	15 回の授業を受講した後に、授業の成果の確認として筆記試験を実施する。試験は記述式を中心として、授業の過程で学んだ知識が定着しているかを見る。
提出物	各回の演習後、その回で学んだ内容を振り返るために、manaba に事後レポートの提出を課すことがある。
その他	この授業では、模擬保育形式などで行う 3 回の「体験」がある。その際は、受講者が協働して取り組みながら、深く考えることで、授業の効果を向上させることが求められる。そうした視点から、「体験」での成果発表の内容等から共同学習への貢献度や取組内容を評価する。

履修に必要な知識・技能など
本授業では、協働学習も取り入れた内容で行うので、積極的な授業参加が必須となる。また、各授業は、相互に関連した内容で構成されているので、欠席や遅刻があると学習成果が著しく低下するので注意してほしい。

教科書・ISBN
使用しない

参考書
『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説書』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育内容（人間関係）（E33370）	演習	2	30	2	後期	選択	保育士必修 幼教免必修	中田尚美
科目担当者	中田尚美							

授業の概要	幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その際には映像資料なども活用する。その上で、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し実践する方法を身につける
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「人間関係」の全体像の理解	【事前】シラバスを確認し、次回の予習をしておく（120 分） 【事後】学修内容の確認（120 分）
第 2 回	保育者との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助の在り方	【事前】保育者との信頼関係について調べる（120 分） 【事後】園生活における安定感を形成する援助の在り方 についてまとめる（120 分）
第 3 回	自立心を育む援助	【事前】自立心について調べる（120 分） 【事後】自立心を育む援助についてまとめる（120 分）
第 4 回	友達との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気付く援助の在り方	【事前】友達との遊びについて調べる（120 分） 【事後】遊びにおける人間関係の育ちについてまとめる（120 分）
第 5 回	自他の気持ちの違いに気付き、自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方	【事前】自分の気持ちを調整する力について調べる（120 分） 【事後】気持ちを調整する力を育む援助の在り方についてまとめる（120 分）
第 6 回	きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助	【事前】きまりをめぐる様々な幼児の葛藤について調べる（120 分） 【事後】きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助 についてまとめる（120 分）
第 7 回	ルールのある遊びと援助	【事前】ルールのある遊びについて調べる（120 分） 【事後】ルールのある遊びと援助 についてまとめる（120 分）
第 8 回	個と集団の育ちを考える	【事前】個と集団の育ちについて調べる（120 分） 【事後】個と集団の育ちについてまとめる（120 分）
第 9 回	協同的な遊びの中で育ちあう長期的な保育の展開を考える	【事前】遊びと保育について調べる（120 分） 【事後】遊びと保育についてまとめる（120 分）
第 10 回	幼児にとって意味のある行事のねらいと活動内容を考える	【事前】行事について調べる（120 分） 【事後】行事についてまとめる（120 分）
第 11 回	保幼小の交流活動を考える	【事前】保幼小の交流活動について調べる（120 分） 【事後】保幼小連携についてまとめる（120 分）

第 12 回	小学校以降の生活や学習で生かされる力	【事前】テキストに目を通しておく（120 分） 【事後】小学校以降の生活や学習で生かされる力 についてまとめる（120 分）
第 13 回	地域の中の幼稚園・保育所	【事前】地域との関係について調べる（120 分） 【事後】地域の中の幼稚園・保育所についてまとめる（120 分）
第 14 回	多様な人、多様な子どもとの関わりの中で豊かに育つ子どもへ	【事前】テキストに目を通し、次回の予習をしておく（120 分） 【事後】多様な人、多様な子どもとの関わりの中で豊かに育つ子どもについてまとめる（120 分）
第 15 回	領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題	【事前】全授業内容の振り返り（120 分） 【事後】全授業内容の理解（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示された幼稚園教育・保育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する
到達目標 2	乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	領域「人間関係」についての知識を十分なレベルで持ち合わせており、他者にわかりやすく伝えることができる
	優	領域「人間関係」についての知識を十分なレベルで身に付けている
	良	領域「人間関係」についての知識を身に付けている
	可	領域「人間関係についての知識をある程度身につけている。
	不可	領域「人間関係」についての知識を身につけていない
到達目標 2	秀	授業で学んだ知識・概念をもとに、「人間関係」に関わる保育を具体的に構想し、実践する方法を十分に身に付けており、他者に豊かに表現することができる
	優	授業で学んだ知識・概念をもとに、「人間関係」に関わる保育を具体的に構想し、実践すする方法を身に付けており、表現することができる。
	良	授業で学んだ知識・概念をもとに、「人間関係」に関わる保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付けている
	可	授業で学んだ知識・概念をもとに、「人間関係」に関わる保育をある程度構想することができる。
	不可	授業で学んだ知識・概念をもとに、「人間関係」に関わる保育を具体的に構想することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	40	20	0	0	0	100
到達目標 1	40	20	0	0	0	0	60
到達目標 2	0	20	20	0	0	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	授業終了後レポート試験を実施する
提出物	授業時に意見、質問票の提出を求める
成果発表（口頭・実技）	グループデスカッションおよびグループ発表の機会を設ける

履修に必要な知識・技能など
提出物の期日を厳守する。

教科書・ISBN
9784893472571 『新訂　事例で学ぶ保育内容　領域人間関係』岩立京子編　萌文書林

参考書
幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育内容（造形表現） （E33380）	演習	2	30	2	後期	選択	保育士必修 幼教免必修	藤本由佳利
科目担当者	藤本由佳利							

授業の概要	保育内容の各領域を総合的に捉え、表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導法を概説する。身体の動きや五感、音やリズム、ものの色や形や質感など様々な表現方法・材料・用具を用いて表現活動の特徴や面白さを確認し、応用や発展を考え実践を重ね、総合的な表現活動を構想、計画、指導、実践する力を修得する。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	造形表現とは　領域「表現」のねらいおよび内容について	【事前】シラバスを熟読して次回の授業の予習（60 分） 【事後】授業のねらいと内容の理解（60 分）
第 2 回	子供の発達と領域「表現」と小学校図画工作科・生活科との学びの連続性について	【事前】教科書の読解（60 分） 【事後】授業ノートの作成（60 分）
第 3 回	幼児期の表現活動と、表現における評価の考え方について	【事前】教科書の読解（60 分） 【事後】授業ノートの作成（60 分）
第 4 回	文献等からの表現活動の実践例から　－表現活動の動向や課題を知り、保育構想の向上に取り組む－	【事前】教科書の読解（60 分） 【事後】授業ノートの作成（60 分）
第 5 回	五感を使った総合的な表現活動の体験　－活動の特徴や面白さ、留意点などの考察－	【事前】教科書の読解（60 分） 【事後】授業ノートの作成（60 分）
第 6 回	インクルーシブ保育における表現活動の可能性について－様々な素材を用いた具体的な事例から－	【事前】教科書の読解（60 分） 【事後】授業ノートの作成（60 分）
第 7 回	身体を用いた、総合的な表現活動の体験から	【事前】教科書の読解（60 分） 【事後】授業ノートの作成（60 分）
第 8 回	自然や自然物を用いた、総合的な表現活動の体験から	【事前】教科書の読解（60 分） 【事後】授業ノートの作成（60 分）
第 9 回	素材との関わりから　身近な素材に触れ、その特性を生かした造形表現の体験から	【事前】教科書の読解（60 分） 【事後】授業ノートの作成（60 分）
第 10 回	年齢による発達や環境などの要因から－表現活動や遊びを広げる言葉がけや教材の提示方法、教材研究について－	【事前】教科書の読解（60 分） 【事後】授業ノートの作成（60 分）
第 11 回	表現における情報機器および教材の活用法について	【事前】教科書の読解（60 分） 【事後】授業ノートの作成（60 分）
第 12 回	総合的な表現活動の実践　グループによる 指導案の作成	【事前】教科書の読解（60 分） 【事後】授業ノートの作成（60 分）
第 13 回	作成した指導案に沿った教材研究	【事前】教科書の読解（60 分） 【事後】授業ノートの作成（60 分）
第 14 回	模擬保育の実践と振り返り	【事前】教科書の読解（60 分） 【事後】授業ノートの作成（60 分）

第 15 回	学修の到達目標の確認	【事前】教科書の読解（60 分） 【事後】全体の振り返り（60 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	乳幼児期の心身の発達と造形表現のかかわりを理解する。（専門力）
到達目標 2	将来の保育者として、子どもの造形表現を五感を通して総合的に捉え、他者と協力しながら実践する力を身につける。（表現力、協調性・協働性）

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	授業で学んだ「造形表現」の知識の広がりから、自らの目指す専門職としての自覚につなげて考えを深め、自分の意見を述べることができる。
	優	授業で学んだ「造形表現」の知識の広がりから、自らの目指す専門職としての自覚につなげて考えを深めることができる。
	良	授業で学んだ「造形表現」の知識の広がりから、自らの目指す専門職としての自覚につなげて考えることができる。
	可	授業で学んだ「造形表現」の知識の広がりから、自らの目指す専門職としての自覚につなげて考えようとする努力の過程が認められる。
	不可	授業で学んだ「造形表現」の知識の広がりから、自らの目指す専門職としての自覚につなげて考えようとする努力の過程が認められない。
到達目標 2	秀	授業のあらゆる場面で、自らの役割を十分理解しながら、主体的に取り組み、他者からも評価されている。
	優	授業のあらゆる場面で、自らの役割を十分理解しながら、主体的に取り組むことができる。
	良	授業のあらゆる場面で、自らの役割を果たすことができる。
	可	授業のあらゆる場面で、自らの役割を果たそうとする努力が見られる。
	不可	授業のあらゆる場面で、自らの役割を果たそうとする努力が見られない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	30	30	30	10	0	0	100
到達目標 1	30	15	15	10	0	0	70
到達目標 2	0	15	15	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	学期末のレポート試験
提出物	グループワーク課題
成果発表（口頭・実技）	グループワーク課題の発表
作品	制作物

履修に必要な知識・技能など
1）保育者を目指すものとして、自覚や品性を持って授業に臨むこと。 2）身近なこどもや保育現場の活動に積極的に関わり、こどもの造形活動について理解を深める。 3）身の周りの自然や人工物の、よさや面白さ、美しさを感じ取る。

教科書・ISBN
9784893473110　『幼児造形の基礎』樋口一成編　萌文書林 （本書を前期の「子どもと造形表現」で購入した学生は、引き続き使用する。）

参考書
幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育内容（音楽表現）（E33390）	演習	2	30	2	前期	選択	保育士必修 幼教免必修	戸川晃子
科目担当者	戸川晃子、村上郁子							

授業の概要	子ども教育において育みたい３つの資質・能力を理解した上で、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されたねらい及び内容について表現と関連させて理解を深める。そして、幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。その際には、保育実践の場における ICT の効果的な活用についても学ぶ。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （レ）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	幼児教育の基本及び領域「表現」のねらい及び内容について（担当者：戸川、村上）	【事前】シラバス内容を熟読し､予習しておく（90 分） 【事後】領域「表現」の確認（90 分）
第 2 回	子どもの発達と領域「表現」（担当者：戸川、村上）	【事前】要領・指針の領域「表現」の熟読（90 分） 【事後】学びの確認（90 分）
第 3 回	領域「表現」のねらいと内容に関する理解（1）映像による園内における実践の理解（担当者：戸川、村上）	【事前】参考映像の調査（90 分） 【事後】学びの確認（90 分）
第 4 回	領域「表現」のねらいと内容に関する理解（2）映像による園外における実践の理解（担当者：戸川、村上）	【事前】参考映像の調査（90 分） 【事後】学びの確認（90 分）
第 5 回	音楽表現の基礎　周りの音を体で表現する（担当者：戸川、村上）	【事前】周りの音を意識する（90 分） 【事後】学びの確認（90 分）
第 6 回	音楽表現の発展　言葉を音楽にする（担当者：戸川、村上）	【事前】言葉を意識する（90 分） 【事後】学びの確認（90 分）
第 7 回	即興音楽と記譜法　指導計画の実際（担当者：戸川、村上）	【事前】楽典の復習（90 分） 【事後】学びの確認（90 分）
第 8 回	音楽表現遊びの模擬保育（1）音を体で表現する（担当者：戸川、村上）	【事前】発表準備（90 分） 【事後】振り返り票作成、提出（90 分）
第 9 回	リズムで表現する（1）リズム楽器を用いた指導計画（担当者：戸川、村上）	【事前】曲選び、記譜（90 分） 【事後】学びの確認（90 分）
第 10 回	リズムで表現する（2）リズム楽器を用いた実践（担当者：戸川、村上）	【事前】個人練習（90 分） 【事後】振り返り票の作成、提出（90 分）
第 11 回	音楽表現遊びの模擬保育（2）リズム楽器を用いた表現（担当者：戸川、村上）	【事前】発表準備（90 分） 【事後】振り返り票作成、提出（90 分）
第 12 回	音楽を表現する（1）メロディー楽器を用いた指導計画（担当者：戸川、村上）	【事前】曲選び、記譜（90 分） 【事後】学びの確認（90 分）
第 13 回	音楽を表現する（2）メロディー楽器を用いた実践（担当者：戸川、村上）	【事前】個人練習（90 分） 【事後】学びの確認（90 分）
第 14 回	音楽表現遊びの模擬保育（3）メロディー楽器を用いた表現（担当者：戸川、村上）	【事前】個人練習、グループ練習（90 分） 【事後】振り返り票作成、提出（90 分）

第 15 回	子どもと音楽表現の関わりの理解　（担当者：戸川、村上）	【事前】個人練習、グループ練習（90 分） 【事後】振り返り票作成、提出（90 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	領域「表現」のねらいや内容について理解する
到達目標 2	乳幼児期の発達と音楽リズム的表現の関係性について理解する
到達目標 3	リズム楽器の基礎技術を習得する
到達目標 4	グループ活動において自発的に役割を担い、周囲と協調・協働する

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	領域「表現」のねらいや内容について理解し、身近なものや楽曲を音楽で表現する楽しさを感じることができ、他者に非常に豊かに伝えられる。
	優	領域「表現」のねらいや内容について理解し、身近なものや楽曲を音楽で表現する楽しさを感じることができ、他者に豊かに伝えられる。
	良	領域「表現」のねらいや内容について理解し、身近なものや楽曲を音楽で表現する楽しさを感じることができ、他者に伝えられる。
	可	領域「表現」のねらいや内容について理解し、身近なものや楽曲を音楽で表現し、他者に伝えられる。
	不可	領域「表現」のねらいや内容について理解し、身近なものや楽曲を音楽で表現し、他者に伝える意志がない。
到達目標 2	秀	乳幼児期の発達と音楽リズム的表現の関係性について理解し、対象にふさわしい指導立案ができるとともに、他者にわかりやすく説明することができる。
	優	乳幼児期の発達と音楽リズム的表現の関係性について理解し、対象にふさわしい指導立案ができるとともに、他者に説明することができる。
	良	乳幼児期の発達と音楽リズム的表現の関係性について理解し、対象にふさわしい指導立案ができる。
	可	乳幼児期の発達と音楽リズム的表現の関係性について理解し、指導立案ができる。
	不可	乳幼児期の発達と音楽リズム的表現の関係性について理解し、指導立案ができない。
到達目標 3	秀	リズム楽器の基礎技術を身につける努力を怠らず、非常によく習得している。
	優	リズム楽器の基礎技術を身につける努力をし、よく習得している。
	良	リズム楽器の基礎技術を身につける努力をし、習得している。
	可	リズム楽器の基礎技術を身につける努力が足りず、あまり習得できていない。
	不可	リズム楽器の基礎技術を身につける努力を怠り、習得していない。
到達目標 4	秀	グループ活動において自発的に役割を担い、周囲と非常に協調・協働できる。
	優	グループ活動において自発的に役割を担い、周囲と協調・協働できる。
	良	グループ活動において役割を担い、周囲と非常に協調・協働できる。
	可	グループ活動において自発的に役割を担えるが、周囲と協調・協働する意志が薄い。
	不可	グループ活動において自発的に役割を担い、周囲と非常に協調・協働する意志がない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 （口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	10	50	0	0	0	100
到達目標 1	10	5	10	0	0	0	25
到達目標 2	15	5	10	0	0	0	30
到達目標 3	15	0	20	0	0	0	35
到達目標 4	0	0	10	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を行う。授業の内容を踏まえ、リズム楽器の特性を理解し、対象にふさわしい指導立案、及び表現ができているかを評価する。
提出物	授業の振り返り、編曲楽譜の提出により、理解度を評価する。
成果発表（口頭・実技）	課題に応じた表現を個人またはグループで発表する。発表までの参加態度等も評価する。また、求められる役割を積極的に取り組む姿勢を評価する。

履修に必要な知識・技能など
1）保育内容（表現）のねらいを理解すること 2）表現するための技能を身につける努力（練習）を行うこと

教科書・ISBN
使用しない

参考書
『こどもの歌 200』チャイルド本社 『やさしい弾き歌い 75』音楽之友社、 『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 適宜教材を配布

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
社会的養護Ⅱ（E33400）	演習	1	30	2	後期	選択	保育士必修	杉山宗尚
科目担当者	杉山宗尚							

授業の概要	社会的養護Ⅰで教授したことをふまえ、施設養護や家庭養護における子どもの生活の実際を説明し、子どもの心身の成長や発達を保障し、子どもの自立を支援するための方法について理解できるようにしていく。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （レ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	児童養護施設職員としての経験から、社会的養護系施設における子どもの生活状況や職員による支援について、体験談等をふまえてわかりやすく教授していく。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション子どもにとっての親の存在について考える。	【事前】シラバスを熟読する。(60 分) 【事後】授業内容を振り返る。(60 分)
第 2 回	こうのとりのゆりかごについて	【事前】テキスト p4 ～ 7 に目を通しておく。(60 分) 【事後】テキスト p4 ～ 7 と資料を読み返し、授業内容を振り返る。(60 分)
第 3 回	特別養子縁組について	【事前】テキスト p8 ～ 11 に目を通しておく。(60 分) 【事後】テキスト p8 ～ 11 を読み返し、授業内容を振り返る。(60 分)
第 4 回	アドミッションケア①：子どもの保護について	【事前】テキスト p18 ～ 23 に目を通しておく。(60 分) 【事後】テキスト p18 ～ 23 とプリントを読み返し、授業内容を振り返る。(60 分)
第 5 回	アドミッションケア②：子どもを受け入れるにあたって、自立支援計画	【事前】テキスト p24 ～ 27 に目を通しておく。(60 分) 【事後】テキスト p24 ～ 27 とプリントを読み返し、授業内容を振り返る。(60 分)
第 6 回	インケア：日常生活支援・治療的支援について	【事前】テキスト p34 ～ 43 に目を通しておく。(60 分) 【事後】テキスト p34 ～ 43 とプリントを読み返し、授業内容を振り返る。(60 分)
第 7 回	リービングケア：社会への巣立ち、生い立ちの理解	【事前】テキスト p62 ～ 69 に目を通しておく。(60 分) 【事後】テキスト p62 ～ 69 とプリントを読み返し、授業内容を振り返る。(60 分)
第 8 回	アフターケア：家庭復帰・社会へ自立した子どもへの支援	【事前】テキスト p76 ～ 83 に目を通しておく。(60 分) 【事後】テキスト p76 ～ 83 とプリントを読み返し、授業内容を振り返る。(60 分)
第 9 回	児童養護施設での支援について	【事前】インケア・リービングケア・アフターケアで学んだところを振り返っておく。(60 分) 【事後】今回の授業内容を振り返る。(60 分)
第 10 回	ソーシャルワーク①：ソーシャルワークとは、家庭支援	【事前】テキスト p90 ～ 99 に目を通しておく。(60 分) 【事後】テキスト p90 ～ 99 とプリントを読み返し、授業内容を振り返る。(60 分)

第 11 回	ソーシャルワーク②：里親支援	【事前】テキスト p100 ～ 103 に目を通しておく。（60 分） 【事後】テキスト p100 ～ 103 とプリントを読み返し、授業内容を振り返る。（60 分）
第 12 回	施設における支援実践から理解を深める	【事前】これまでの学びを振り返っておく。（60 分） 【事後】本日の授業内容を振り返る。（60 分）
第 13 回	記録と評価：ケアプラン（自立支援計画）の策定等	【事前】テキスト p114 ～ 119 に目を通しておく。（60 分） 【事後】テキスト p114 ～ 119 とプリントを読み返し、授業内容を振り返る。（60 分）
第 14 回	子どもや家庭・家族の理解に関するまとめ	【事前】これまでの授業を復習しておく。（60 分） 【事後】今回の授業内容を振り返る。（60 分）
第 15 回	社会的養護実践に関する課題と振り返り	【事前】テキスト p100 に目を通し、これまでの授業を復習しておく。（60 分） 【事後】資料を読み返し、授業内容を振り返る。（60 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	社会的養護における支援について説明できる。
到達目標 2	様々な環境におかれた子どもに関して、自らの意見を述べることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	社会的養護における支援について必要な知識を非常に十分なレベルで身につけ、申し分なく説明することができる。
	優	社会的養護における支援について必要な知識を非常に十分なレベルで身につけ、説明することができる。
	良	社会的養護における支援について必要な知識を十分なレベルで身につけ、説明することができる。
	可	社会的養護における支援について必要な知識を身につけ、説明することができる。
	不可	社会的養護における支援について必要な知識を身につけ、説明することが不十分である。
到達目標 2	秀	子どもがおかれている様々な環境･状況について、非常に十分なレベルで申し分なく多角的に捉え、考えることができる。
	優	子どもがおかれている様々な環境・状況について、非常に十分なレベルで多角的に捉え、考えることができる。
	良	子どもがおかれている様々な環境・状況について、十分なレベルで多角的に捉え、考えることができる。
	可	子どもがおかれている様々な環境・状況について、十分ではないが多角的に捉え、考えることができる。
	不可	子どもがおかれている様々な環境・状況について、多角的に捉え、考えることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	70	30	0	0	0	0	100
到達目標 1	70	0	0	0	0	0	70
到達目標 2	0	30	0	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は､授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	授業で学んだ社会的養護における支援の内容に関する問題により評価する。
提出物	授業内で課すレポートの提出状況と授業内容に沿った課題に対するその内容で評価する。

履修に必要な知識・技能など
社会的養護Ⅰと大きく関わる科目のため、しっかりと復習しておいてください。それ以外にも社会福祉、子ども家庭福祉等の福祉系科目についても同じです。

教科書・ISBN
9784893473479　『図解で学ぶ保育　社会的養護Ⅱ』杉山宗尚・原田旬哉 編著，萌文書林.

参考書
『演習・保育と社会的養護実践』橋本好市・原田旬哉編著，みらい.

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
乳児保育Ⅰ（E33410）	講義	2	30	2	前期	選択	保育士必修	松尾寛子
科目担当者	松尾寛子							

授業の概要	保育施設や乳児院で乳児を担当する保育者として、必要な乳児保育の理論や専門的知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解する。乳幼児一人一人の発達段階に応じた集団における個人を大切にする保育のあり方や、0･1･2 歳児の発達過程について理解を深め、乳児保育の意義･目的、歴史的変遷、乳児保育に関する基本的な考え方、展開される保育内容、運営体制、保護者との連携や、職員間の連携、関係機関との連携について学習をする。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	3 歳未満児の発育・発達をふまえた保育士等による援助や関わり	【事前】保育者としての視点で考える（120 分） 【事後】保育の反省点を洗い出す（120 分）
第 2 回	乳児保育の意義と目的、歴史的変遷、乳児保育の役割と機能 子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	【事前】テキスト第 1 章を読む（120 分） 【事後】テキスト第 1 章を読み、授業内容を復習する（120 分）
第 3 回	乳児保育における養護と教育① 0 歳前半	【事前】テキスト第 4 章第 1 節を読む（120 分） 【事後】テキスト第 4 章第 1 節を読み、授業内容を復習する（120 分）
第 4 回	乳児保育における養護と教育② 0 歳後半	【事前】テキスト第 4 章第 2 節を読む（120 分） 【事後】テキスト第 4 章第 2 節を読み、授業内容を復習する（120 分）
第 5 回	乳児保育における養護と教育③ 1 歳	【事前】テキスト第 4 章第 3 節を読む（120 分） 【事後】テキスト第 4 章第 3 節を読み、授業内容を復習する（120 分）
第 6 回	乳児保育における養護と教育④ 2 歳	【事前】テキスト第 4 章第 4 節を読む（120 分） 【事後】テキスト第 4 章第 4 節を読み、授業内容を復習する（120 分）
第 7 回	乳児の発達に対する小テスト	【事前】0.1.2 歳児の発達に関する振り返り（120 分） 【事後】自己採点をして 0.1.2 歳児の発達について理解できていない部分を復習する（120 分）
第 8 回	3 歳未満児の遊びと環境	【事前】テキスト第 8 章を読む（60 分） 教材を考える（60 分） 【事後】乳児が楽しめる教材を作成する（120 分）
第 9 回	3 歳未満児の児童文化と遊び	【事前】テキスト第 9 章を読む（120 分） 【事後】保育教材とともに遊びとしての児童文化にはどのようなものがあるかを調べる（120 分）
第 10 回	乳児の保育を考える、保育の計画・記録・評価について	【事前】テキスト第 7 章を読む（120 分） 【事後】指導計画の実践事例を考える（120 分）

第 11 回	乳児の保育を考える、指導計画の実際	【事前】遊びを通した乳児保育実践の実際について考える（120 分） 【事後】遊びを通した乳児保育実践の実際について振り返る（120 分）
第 12 回	乳児の発達・発育をふまえた保育における配慮	【事前】保育者の援助について振り返る（120 分） 【事後】保育者の視点で自らの保育を振り返る（120 分）
第 13 回	生活を支える保育者の役割、職員間、保護者、自治体、地域との連携・協働、子育て支援	【事前】指針や要領の該当箇所を確認（120 分） 【事後】指針や要領の該当箇所と授業内容の振り返り（120 分）
第 14 回	3 歳以上児に移行する時期の保育	【事前】テキスト第 11 章を読む（120 分） 【事後】テキスト第 11 章を読み、授業内容を復習する（120 分）
第 15 回	乳児保育における発達についての振り返り（小テスト）	【事前】学習した内容について振り返る（120 分） 【事後】小テストの採点をし不足する知識に対する振り返りを行う（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	乳児の発達の流れを知り、知識として定着させる。
到達目標 2	3 歳未満児の保育について教材研究をし、保育技術の向上をはかる。
到達目標 3	乳児に関わる保育者の職務内容を理解する。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	レポート等で乳児の発達について学んだ内容や自分の考えを豊かな方法で表現することができる。乳児の言語的・非言語的表現等の理解においても十分に理解ができている。
	優	レポート等で乳児の発達について学んだ内容や自分の考えを表現することができる。乳児の言語的・非言語的表現等の理解においても理解ができている。
	良	レポート等で乳児の発達について学んだ内容と自分の考えをおおむね表現することができる。乳児の言語的・非言語的表現等の理解においてもおおむね理解ができている。
	可	レポート等で乳児の発達について学んだ内容の半分程度表現することができる。乳児の言語的・非言語的表現等の理解においても半分程度理解ができている。
	不可	レポート等で乳児の発達について学んだ内容について一部しか表現することができない。乳児の言語的・非言語的表現等の理解においても一部しか理解できていない。
到達目標 2	秀	自ら高いモチベーションを持って 3 歳未満児に対して興味を持ち教材研究を自発的に行い、保育技術の向上をはかろうとする。
	優	3 歳未満児に対して教材研究を行い、保育技術の向上をはかろうとする。
	良	3 歳未満児に対して教材研究を行うことの必要性は理解し、保育技術の向上を図ろうと努力している。
	可	3 歳未満児に対して教材研究を行うことはわかっているが行動に移すことが難しい。保育技術を修得しようとしている。
	不可	3 歳未満児に対して教材研究を行うことの意味理解ができていない。保育技術を修得しようとする意欲を持とうとしない。
到達目標 3	秀	保育者としての視点を持ち、乳児に関わる保育者の職務内容を理解し、必要な知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	優	保育者としての視点には欠けるところはあるが、乳児に関わる保育者の職務内容を理解し、学生として十分な知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	良	保育者としての視点にはほど遠いが、乳児に関わる保育者の職務内容を理解し、学生として知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	可	学生として最低限の知識や技術を身につけようとしている。
	不可	保育者・学生として最低限の知識や技術を身につけようとしていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	10	10	10	10	10	100
到達目標１	40	0	0	0	5	5	50
到達目標２	0	0	5	5	0	0	10
到達目標３	10	10	5	5	5	5	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	学びの振り返りとしてレポート試験を行う。 乳児の発達や保育について、専門職業人としての視点を持って知識・技術の習得をしているかを評価する。
提出物	与えられた課題に対し、専門職業人の自覚を持って真摯に取り組み、期日を守って提出することができるかを確認する。
成果発表（口頭・実技）	専門職業人としての視点を持ち自覚を持って課題に取り組んでいるかを確認する。
作品	与えられた課題について保育現場で活用できるレベルで作成しているかを確認する。
ポートフォリオ	科目内での小テストや小レポート等で学びを俯瞰しそれを記述することができるかを確認する。
その他	専門職業人としての自覚を持った態度を確認する。

履修に必要な知識・技能など
３歳未満児への保育は、関わる大人自身が自己中心的なものの見方では成り立たない。今までの育ちの中では「守られる存在」だったが、保育者は「守る存在」としての自覚が必要である。学ぶ姿勢とともに、その態度の育ちを期待する。 また、自らの自覚不足は、周りにもいい影響を与えるとは思えないため、受講するに際し、保育者として自覚を持った態度で臨むことができる者のみの受講を望む。

教科書・ISBN
9784860155797　『新時代の保育双書乳児保育第４版』　大橋喜美子編　みらい 『保育所保育指針解説書』

参考書
幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育保育要領（原本）チャイルド本社

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
乳児保育Ⅱ（E33420）	演習	1	30	2	後期	選択	保育士必修	松尾寛子
科目担当者	松尾寛子							

授業の概要	乳児保育Ⅰで学習した 3 歳未満児の発達過程や保育内容の基礎的な知識をふまえて、より具体的に乳児保育の理論や専門的知識・技術の習得を図る。集団の中での乳児一人ひとりの発達過程に応じた保育のあり方や、乳児の特性である生活と遊びを、実践の場において自ら課題を見出しながら実践できるようにする。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	0 歳児前半の発育・発達をふまえた生活と援助の実際	【事前】テキスト第 4 章第 1 節を読み、援助の実際を考える（30 分） 【事後】テキスト第 4 章第 1 節を読み、授業内容を振り返る（30 分）
第 2 回	0 歳児後半の発育・発達をふまえた遊びと援助の実際	【事前】テキスト第 4 章第 2 節を読み、援助の実際を考える（30 分） 【事後】テキスト第 4 章第 2 節を読み、授業内容を振り返る（30 分）
第 3 回	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的関わり（赤ちゃん人形を使用して）	【事前】テキスト第 6 章を読む（30 分） 【事後】テキスト第 6 章を読み、授業内容を振り返る（30 分）
第 4 回	保育士等との関係の重要性（赤ちゃん人形を使用して）	【事前】テキスト第 6 章を読み、人との信頼関係を築くために大切なことを予習する（30 分） 【事後】テキスト第 6 章を読み、授業内容を振り返る（30 分）
第 5 回	子どもの生活や遊びを支える環境の構成	【事前】保育の教材を考える（30 分） 【事後】子どもを取り巻く遊び環境にはどのようなものがあるかを振り返る（30 分）
第 6 回	子ども同士の関わりとその援助の実際	【事前】保育の実際を考える（30 分） 【事後】子ども同士の関わりとその援助の実際にはどのようなものがあるかを振り返る（30 分）
第 7 回	子どもの一日の生活の流れと保育の環境	【事前】生活の中の遊びを中心とした保育にはどのようなものがあるかを考える（30 分） 【事後】生活の中の遊びを中心とした保育の指導案を作成する（30 分）
第 8 回	子どもの体験と学びの芽生え	【事前】教材を使用した保育の実際の準備をする（30 分） 【事後】準備した教材が適切であったかを振り返る（30 分）

第 9 回	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮	【事前】保育を行う上で必要な安全を図るための配慮にはどのようなものがあるかを考える（30 分） 【事後】保育を行う上で必要な安全を図るための配慮事項について再確認する（30 分）
第 10 回	集団での生活における配慮（保護者との連携）	【事前】集団での保育を行う際に必要な連携について考える（30 分） 【事後】集団で保育を行う際に必要な連携について再確認する（30 分）
第 11 回	環境の変化や移行に対する配慮（行事予定など）	【事前】子どもが経験する年間の行事などを予習する（30 分） 【事後】行事予定表などから子どもの環境の変化や移行に対する配慮事項を考える（30 分）
第 12 回	長期的な指導計画と短期的な指導計画	【事前】乳児が楽しめる遊びについて考える（30 分） 【事後】乳児が楽しめるおもちゃを作成する（30 分）
第 13 回	子どもの主体性の尊重と自己の育ち	【事前】発達過程を理解し、意欲的に制作できるための教材を考える（30 分） 【事後】子どもが主体的に活動できる環境を整えられていたかを振り返る（30 分）
第 14 回	個別的な指導計画と集団の指導計画	【事前】乳児に適した絵本を使用した保育を考える（30 分） 【事後】絵本を使用した保育を振り返る（30 分）
第 15 回	学修の到達目標の確認	【事前】今までの内容の振り返り（120 分） 【事後】乳児保育Ⅱの内容をすべて振り返る（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	乳児への発達理解を基礎として、乳児への関わり、乳児の生活や遊びの実際がわかる。
到達目標 2	3 歳未満児の保育について実習や保育現場で活用できる教材を作成し、その教材を使用して模擬保育ができる。
到達目標 3	3 歳未満児を保育する際の保育者の仕事内容を理解する

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	自らの思考や感情や行動を客観的に検証し、保育者としての知識や技術を身につけようとし、乳児への発達理解をし、乳児への関わり、乳児の生活や遊びの実際が理解できている。
	優	自らの思考や感情や行動を客観視し、さらなる知識や技術が必要であると感じ行動しようとする姿勢がある。乳児への発達理解をし、乳児への関わり、乳児の生活や遊びの実際が理解できている。
	良	自らの思考や感情や行動を客観視し、学生として求められるレベルで反省し行動しようとする姿勢がある。乳児への発達理解をし、乳児への関わり、乳児の生活や遊びの実際がおおむね理解できている。
	可	自らの思考や感情や行動について、他者からの指摘で客観視することができ、行動しようとする。乳児への発達理解をし、乳児への関わり、乳児の生活や遊びの実際があまり理解できていない。
	不可	自らの思考や感情や行動について、他者からの指摘を受けても客観視できず、行動を改められない。乳児への発達理解をし、乳児への関わり、乳児の生活や遊びの実際が理解できていない。
到達目標 2	秀	保育者としての視点を持って、実習や保育現場で活用できる教材を作成し積極的に活動に取り組もうとする姿勢がある。
	優	実習や保育現場で活用できる教材を作成し意欲的に活動に取り組もうとする姿勢は感じられる。
	良	与えられた課題のみ、学生としてのレベルでこなそうとする。
	可	与えられた課題についてはこなそうとするが、準備をせずに臨む。
	不可	与えられた課題について、こなしていない。

到達目標３	秀	保育者としての視点を持ち、3 歳未満児を保育する際の保育者の仕事内容を理解し必要な知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	優	保育者としての視点には欠けるところはあるが、3 歳未満児を保育する際の保育者の仕事内容を理解し学生として十分な知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	良	保育者としての視点にはほど遠いが、3 歳未満児を保育する際の保育者の仕事内容を理解し学生として知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	可	学生として最低限の知識や技術を身につけている。
	不可	保育者・学生として最低限の知識や技術を身につけていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	10	10	10	10	10	100
到達目標１	40	0	0	0	10	0	50
到達目標２	0	10	10	10	0	0	30
到達目標３	10	0	0	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	学びの振り返りとしてレポート試験を行う。 乳児の発達や保育について、専門職業人としての視点を持ち、保育現場で活用できる確かな知識・技術の習得ができているかを確認する。
提出物	与えられた課題に対し、真摯に取り組み、期日を守って提出することができるかを確認する。
成果発表（口頭・実技）	専門職業人としての視点を持ち自覚を持って模擬保育等に取り組んでいるかを確認する。
作品	与えられた課題について保育現場で活用できるレベルで作成しているかを確認する。
ポートフォリオ	科目内での提出物を通して学びを俯瞰しそれを記述することができるかを確認する。
その他	専門職業人としての自覚を持った態度を確認する。

履修に必要な知識・技能など
自らの自覚不足は、周りにもいい影響を与えるとは思えないため、受講するに際し、保育者として自覚を持った態度で臨むことができる者を望む。さらに、今までの育ちの中では「守られる存在」だったが、保育者は「守る存在」としての自覚が必要である。学ぶ姿勢とともに、その態度の育ちを期待する。

教科書・ISBN
9784860155797　乳児保育Ⅰで使用したテキスト

参考書
乳児保育Ⅰで使用した参考書

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
障害児の理解と支援Ⅰ（E33430）	演習	1	30	2	前期	選択	保育士必修	川島直子
科目担当者	川島直子							

授業の概要	わが国は、障害に対する理解と障害児を取り巻く環境の整備に向けて取り組んでいる。 本講座Ⅰでは、ソーシャルインクルージョンを目指すために、インクルーシブ保育・教育に携わる専門職に必要な知識及び実践的視点を養成する。 併せて、障害の特性を理解し、発達に課題のある子どもたちの“生きづらさ”に着目しつつ、個々に応じた適切な支援のあり方について学んでいく。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	障害児入所施設・児童発達支援センター施設長、社会福祉法人役員等を歴任。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション及び「インクルーシブ保育・教育の理論と実践」について学ぶ	【事前】「インクルージョンとは」について調べておく（30 分） 【事後】自身の障害児観についてまとめておく（30 分）
第 2 回	「障害の概念と捉え方」～「ICIDH」から障害の概念、障害の捉え方について学ぶ	【事前】「ICIDH」について調べておく（30 分） 【事後】「ICIDH」から障害の定義について整理しておく（30 分）
第 3 回	「障害の概念と捉え方」～「ICF」から障害の概念、障害の捉え方について学ぶ	【事前】「ICIDH」から「ICF」の変遷を調べておく（30 分） 【事後】「ICIDH」と「ICF」の概念の違いを整理しておく（30 分）
第 4 回	わが国の障害の定義について学ぶ～障害者基本法～	【事前】日本の障害福祉法体系を調べておく（30 分） 【事後】講義で見た条文から障害の定義をまとめておく（30 分）
第 5 回	身体障害の定義について学ぶ	【事前】身体障害の種類について調べておく（30 分） 【事後】身体障害者福祉法の条文から身体障害の定義をまとめておく（30 分）
第 6 回	知的障害・発達障害の概念について学ぶ	【事前】知的障害・発達障害とは何かを調べておく（30 分） 【事後】発達障害の類型と定義についてまとめておく（30 分）
第 7 回	精神障害者の概念について学ぶ	【事前】精神障害の種類は何かを調べておく（30 分） 【事後】精神障害の類型と定義についてまとめておく（30 分）
第 8 回	視覚・聴覚障害の特性と配慮について学ぶ	【事前】視覚・聴覚障害の特性を調べておく（30 分） 【事後】視覚・聴覚障害のある児童への配慮事項についてまとめておく（30 分）
第 9 回	肢体不自由の特性と配慮について学ぶ	【事前】肢体不自由の特性を調べておく（30 分） 【事後】肢体不自由のある児童への配慮事項についてまとめておく（30 分）

第 10 回	知的障害の特性と配慮について学ぶ	【事前】知的障害の特性を調べておく（30 分） 【事後】知的障害のある児童への配慮事項についてまとめておく（30 分）
第 11 回	発達障害・情緒障害の特性と配慮について学ぶ	【事前】発達障害・情緒障害の特性を調べておく（30 分） 【事後】発達障害・情緒障害のある児童への配慮事項についてまとめておく（30 分）
第 12 回	障害児の生活のしづらさと保護者のニーズを学ぶ	【事前】障害児に対する保育者の視点を調べておく（30 分） 【事後】障害児と保護者支援のあり方について整理しておく（30 分）
第 13 回	障害児の福祉に関する理念と動向について学ぶ	【事前】障害福祉に関する基本理念を調べておく（30 分） 【事後】ノーマライゼーション理念が及ぼした影響について整理しておく（30 分）
第 14 回	障害児保育・教育に関する理念と動向について学ぶ	【事前】サラマンカ宣言・障害者権利条約を一読しておく（30 分） 【事後】動向を踏まえて、インクルーシブ保育・教育現場に求められることを整理しておく（30 分）
第 15 回	インクルーシブ保育に関する制度・機関・連携について学ぶ	【事前】児童相談所をはじめ、障害児の利用できる施設等を調べておく（30 分） 【事後】インクルーシブ保育の実現に向けて、保育者としてすべきこと・できることをまとめておく（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	障害児保育の基盤となる理念と倫理・専門的知識を習得し、障害児保育の実践に反映することができる。
到達目標 2	障害児保育の専門的知識を踏まえ、個々の障害に応じた適切な支援及び環境構成等について習得し、障害児支援等に活かすことができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	障害児保育の基盤となる理念と倫理・専門的知識を習得し、障害児保育・支援の実践に反映することができる。
	優	障害児保育の基盤となる理念と倫理・専門的知識を習得しているものの、障害児保育・支援の実践に反映することに課題が残る。
	良	障害児保育の基盤となる理念と倫理・専門的知識を習得している。
	可	障害児保育の基盤となる理念と倫理・専門的知識の理解について課題が残る。
	不可	障害児保育の基盤となる理念と倫理・専門的知識を習得できていない。
到達目標 2	秀	障害児保育の専門的知識を踏まえ、個々の障害に応じた適切な支援及び環境構成等について習得し、障害児支援等に活かすことができる。
	優	障害児保育の専門的知識を踏まえ、個々の障害に応じた適切な支援及び環境構成等について習得しているものの、障害児支援等に活かすことに課題が残る。
	良	障害児保育の専門的知識を踏まえ、個々の障害に応じた適切な支援及び環境構成等について習得している。
	可	障害児保育の専門的知識を踏まえ、個々の障害に応じた適切な支援及び環境構成等の理解について課題が残る。
	不可	障害児保育の専門的知識及び個々の障害に応じた適切な支援及び環境構成等について理解できていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	70	30	0	0	0	0	100
到達目標 1	40	20	0	0	0	0	60
到達目標 2	30	10	0	0	0	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	定期試験としてレポート試験を実施する。 再試験は実施しない。
提出物	講義の振り返りとして中間レポートを実施する。
その他	出席率は加点の評価対象とはしない。

履修に必要な知識・技能など
障害のある子どもと保護者の思いをしっかり受け止めるためのスキルを養い身に付ける。また、授業内では、保育・教育現場の基礎力を試す「振り返り」等も必要に応じて取り入れることにより、保育・教育現場の課題を実践的に探る。さらに、障害児の特性等を深めるため視覚教材等を用いて、保育・教育・施設実習等に活かす。

教科書・ISBN
9784623070572　『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』

参考書
・『障害者福祉論』みらい出版 ・『保育福祉小六法』みらい出版 ・その他、講義中に適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
障害児の理解と支援Ⅱ（E33440）	演習	1	30	2	後期	選択	保育士必修	松尾寛子
科目担当者	松尾寛子							

授業の概要	障害児保育・教育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育・教育について理解する。個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。配慮を要する子どもに対する具体的な方法について理解し、その子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。配慮を要する子どもの保育・教育の現状と課題について理解する。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション、インクルーシブ保育・教育とは、合理的配慮、障害児保育の歴史的変遷等	【事前】シラバスの内容を確認して、次回の予習（30 分） 【事後】テキスト第 1 部第 1・2・3 章の確認（30 分）
第 2 回	知的能力障害の特徴	【事前】テキスト第 2 部 5 章(知的障害)の確認(30 分) 【事後】知的障害に関する課題の復習（30 分）
第 3 回	知的能力障害児・者への支援の具体的方法	【事前】テキスト第 2 部 5 章(知的障害)の確認(30 分) 【事後】知的障害に関する課題の復習（30 分）
第 4 回	発達障害の特徴と支援の具体的方法	【事前】テキスト第 2 部第 6 章（発達障害）の確認（30 分） 【事後】発達障害に関する課題の復習（30 分）
第 5 回	発達障害の特徴（自閉症スペクトラム児・者に対する障害理解）	【事前】テキスト第 2 部第 6 章（発達障害）の確認（30 分） 【事後】発達障害に関する課題の復習（30 分）
第 6 回	発達障害児・者に対する支援	【事前】テキスト第 2 部第 6 章（発達障害）の確認（30 分） 【事後】ふり返りシートの作成（30 分）
第 7 回	その他の障害について（肢体不自由児、視覚障害、聴覚障害、言語障害児、重症心身障害児、医療的ケア児等）具体的支援方法を理解する	【事前】テキスト第 2 部第 2･3･4･8 章の確認（30 分） 【事後】その他の障害に関する課題の復習（30 分）
第 8 回	その他の障害について（ADHD・LD 児）に対する具体的支援方法を理解する	【事前】テキスト第 2 部第 7 章の確認（30 分） 【事後】ADHD･LD 障害に関する課題の復習（30 分）
第 9 回	さまざまな障害について（発達障害、肢体不自由児、視覚障害、聴覚障害、言語障害児等）子ども同士の関わりと教材について	【事前】テキスト第 3 部（障害児保育の実際）の確認（30 分） 【事後】必要な支援に応じた教材を作成する（30 分）
第 10 回	家族への支援、子ども同士の学びあい、子どもの健康と安全、保育の方法	【事前】テキスト第 4 部(家族支援)部分の確認(30 分) 【事後】家族支援のあり方について課題の復習（30 分）
第 11 回	家族への支援、発達支援の技法① たったひとつのたからものから学ぶ	【事前】テキスト第 4 部(家族支援)部分の確認(30 分) 【事後】家族支援のあり方について課題の復習（30 分）
第 12 回	家族への支援、発達支援の技法② たったひとつのたからものから学んだことを振り返る	【事前】テキスト第 4 部(家族支援)部分の確認(30 分) 【事後】ふり返りシートの作成（30 分）

第 13 回	発達障害、肢体不自由児、視覚障害、聴覚障害、言語障害児等を対象とした絵本教材から学ぶ	【事前】障害のことを取り扱った絵本教材を準備する（30 分） 【事後】絵本教材に関する課題の復習（30 分）
第 14 回	発達支援の技法① 家庭との連携、自治体、児童発達支援センター、小学校）の連携・協働	【事前】テキスト第 5 部（関係機関との連携）部分の確認（30 分） 【事後】ロールプレイの振り返りシート記入（30 分）
第 15 回	発達を支援する（子どもの健康と安全について）	【事前】学んだことをまとめる（30 分） 【事後】障害に関する課題の復習（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	障害のある子どもを保育・教育するために必要な専門的な知識や技術を習得する。
到達目標 2	実践の場において自らの課題を見出すことができるようにする。
到達目標 3	一人ひとりを尊重するために必要な保育者・教育者としてのマインドを養う。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	保育者・教育者としての視点を持ち、障害のある子どもを保育・教育するために必要な知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	優	保育者・教育者としての視点には欠けるところはあるが、障害のある子どもを保育・教育するために学生として十分な知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	良	保育者・教育者としての視点にはほど遠いが、障害のある子どもを保育・教育するために学生として知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	可	障害のある子どもを保育・教育するために学生として最低限の知識や技術を身につけようとしている。
	不可	保育者や教育者・学生として最低限の知識や技術を身につけようとしていない。
到達目標 2	秀	自発的に物事に献身し専心し、保育者・教育者としての視点を持って、自らの課題を見出し物事を突き詰めていくことができる。さらなる探求心を持って、実行に移していくことができる。
	優	物事に献身し専心し、保育者・教育者としての視点を持って、自らの課題を見出し物事を突き詰めていくことができる。
	良	自らの課題を見出しある程度物事を突き詰めていくことができる
	可	他者から促されれば、自らの課題を見出し物事をある程度突き詰めていくことができる。
	不可	自らの課題を見出し物事を突き詰めていくことができない。
到達目標 3	秀	客観的な根拠に基づいて十分論理的に考えることができる。一人ひとりを尊重するために必要な保育者・教育者としてのマインドを養い新たな視点を示すなど豊かな構想力を持ちあわせている。また、根拠の限界もわかっており、自らの思考内容のみでは十分ではないことを認識している。
	優	授業で学んだ障害に関連する基本的知識・概念に基づき、一人ひとりを尊重するために必要な保育者・教育者としてのマインドを養い十分に論理的に考えることができる。
	良	授業で学んだ障害に関連する基本的知識・概念に基づき、一人ひとりを尊重するために必要な保育者・教育者としてのマインドを養い論理的に考えることができる。
	可	授業で学んだ障害に関連する基本的知識・概念に基づき、一人ひとりを尊重するために必要な保育者・教育者としてのマインドを養いある程度論理的に考えることができる。
	不可	授業で学んだ障害に関連する基本的知識・概念に基づき、論理的に思考することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	30	0	0	0	20	100
到達目標１	50	0	0	0	0	0	0
到達目標２	0	30	0	0	0	0	0
到達目標３	0	0	0	0	0	0	0
到達目標４	0	0	0	0	0	0	0
到達目標５	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を行う。障害児や障害児童について、保育者・教育者としての視点を持って知識・技術の習得をしようとする心がけがあるかを確認する。
提出物	与えられた課題に対し、真摯に取り組み、期日を守って提出することができるかを確認する。
その他	保育者・教育者としての視点を持ち、自覚を持って発表等に取り組んでいるかを確認する。

履修に必要な知識・技能など
自らの自覚不足は、周りにもいい影響を与えるとは思えないため、受講するに際し、保育者・教育者として自覚を持った態度で臨むことができる者を望む。

教科書・ISBN
9784771030367　『障害児保育』鶴宏史 編著　晃洋書房

参考書
障害児の理解と援助Ⅰで使用したテキスト 『特別支援保育に向けて』安藤忠　川原佐公 編著　建帛社 『障害児保育の理論と実践－インクルーシブ保育の実現に向けて－』堀智晴　橋本好市 編著　ミネルヴァ書房

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
特別活動の指導法（E33490）	講義	2	30	2	前期	選択	小教免必修	京極重智
科目担当者	京極重智							

授業の概要	この授業では、学校教育における特別活動の意義や目標、各教科等との関係について扱い、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な基礎的知識を広げる。さらに、学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事それぞれの特色について取り上げ、指導案作成と模擬授業を通じて特別活動の実践的指導力を養う。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	イントロダクションー特別活動とは何か	【事前】シラバスを熟読し、自身が児童生徒として経験した特別活動について振り返る（120 分） 【事後】イントロダクションについてのリフレクションシートの作成と提出（120 分）
第 2 回	特別活動の意義と目標	【事前】教科書の第 2 章、学習指導要領の第 1 章と第 2 章を読む（120 分） 【事後】特別活動の意義と目標について、リフレクションシートの作成と提出（120 分）
第 3 回	特別活動の歴史的変遷	【事前】教科書の第 1 章を読む（120 分） 【事後】特別活動の歴史的変遷について、リフレクションシートの作成と提出（120 分）
第 4 回	特別活動の内容とその指導①―学級活動の特質	【事前】教科書の第 8 章、および学習指導要領の第 3 章第 1 節を読む（120 分） 【事後】学級活動の特質について、リフレクションシートの作成と提出（120 分）
第 5 回	特別活動の内容とその指導②―児童会活動の特質	【事前】教科書の第 4 章、および学習指導要領の第 3 章第 2 節を読む（120 分） 【事後】児童会活動の特質について、リフレクションシートの作成と提出（120 分）
第 6 回	特別活動の内容とその指導③―クラブ活動の特質	【事前】別配布資料、および学習指導要領の第 3 章第 3 節を読む（120 分） 【事後】クラブ活動の特質について、リフレクションシートの作成と提出（120 分）
第 7 回	特別活動の内容とその指導④―学校行事の特質	【事前】教科書の第 5 章、および学習指導要領の第 3 章第 4 節を読む（120 分） 【事後】学校行事の特質について、リフレクションシートの作成と提出（120 分）
第 8 回	特別活動と道徳教育ならびに総合的な学習の時間	【事前】教科書の第 6 章、および学習指導要領の第 2 章第 2 節 4 項、第 4 章 1 節 6 項を読む（120 分） 【事後】特別活動と道徳教育ならびに総合的な学習の時間について、リフレクションシートの作成と提出（120 分）

第 9 回	特別活動の評価と改善活動	【事前】教科書の第 3 章、および学習指導要領の第 2 章第 2 節 4 項を読む（120 分） 【事後】特別活動の評価と改善活動について、リフレクションシートの作成と提出（120 分）
第 10 回	模擬授業①―グループ A の授業研究と模擬授業	【事前】模擬授業づくり（120 分） 【事後】模擬授業①について、リフレクションシートの作成と提出（120 分）
第 11 回	模擬授業②―グループ B の授業研究と模擬授業	【事前】模擬授業づくり（120 分） 【事後】模擬授業②について、リフレクションシートの作成と提出（120 分）
第 12 回	模擬授業③―グループ C の授業研究と模擬授業	【事前】模擬授業づくり（120 分） 【事後】模擬授業③について、リフレクションシートの作成と提出（120 分）
第 13 回	模擬授業④―グループ D の授業研究と模擬授業	【事前】模擬授業づくり（120 分） 【事後】模擬授業④について、リフレクションシートの作成と提出（120 分）
第 14 回	模擬授業の全体振り返り	【事前】各模擬授業の振り返り（120 分） 【事後】模擬授業全体について、リフレクションシートの作成と提出（120 分）
第 15 回	本授業のまとめと学修の到達目標の確認	【事前】全授業内容の振り返り（120 分） 【事後】定期試験に向けた準備（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	特別活動の特色を理解するとともに、意義・目標および内容について説明することができる。
到達目標 2	特別活動における実践的な指導のあり方について自分なりに工夫することができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	特別活動の特色・意義・目標および内容について課題を踏まえて説明することができる。
	優	特別活動の特色・意義・目標および内容について分かりやすく説明することができる。
	良	特別活動の特色・意義・目標および内容について説明することができる。
	可	特別活動の特色・意義・目標および内容について最低限の説明をすることができる。
	不可	特別活動の特色・意義・目標および内容について説明することができない。
到達目標 2	秀	特別活動における実践的な指導を子どもや学校の状況に即して工夫することができる。
	優	特別活動における実践的な指導を自分なりに工夫することができる。
	良	特別活動における実践的な指導ができる。
	可	特別活動における実践的な指導を最低限することができる。
	不可	特別活動における実践的な指導の方法が分からない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	70	0	30	0	0	0	100
到達目標 1	70	0	0	0	0	0	70
到達目標 2	0	0	30	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	特別活動に関する総合的な理解を筆記試験により評価する。成果発表模擬授業ならびに指導案を評価する。なお、模擬授業はグループで行う。
成果発表（口頭・実技）	模擬授業ならびに指導案を評価する。なお、模擬授業はグループで行う。

履修に必要な知識・技能など
教員採用試験を受けない学生も履修可能ですが、模擬授業には積極的に取り組むようにしてください。

教科書・ISBN
9784623081929　『新しい教職教育講座　教職教育編⑨　特別活動』中村豊・原清治（編著）ミネルヴァ書房　2018 年 9784491034690　『小学校学習指導要領解説　特別活動編』文部科学省 東洋館出版社

参考書
随時紹介します。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
子どもと言葉 （E33530）	演習	2	30	2	後期	選択	保育士必修 幼教免必修	多田琴子
科目担当者	多田琴子							

授業の概要	領域「言葉」の指導の基礎となる、乳幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身につける。 幼児自身が自分の思いや考えを他者に分かるように話し、また、他者の話をイメージして聞く楽しさを身に付けるために必要な専門的事項に関する知識を身につける。 乳幼児にとってのふさわしい「言葉環境」を積極的にグループワークを行うことで築いていく。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（レ）その他（模擬保育）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション･教科書第 1 章 指導法「言葉」と保育(ITC 活用)	【事前】教科書第 1 章の大切な箇所に線を引いて読む（120 分） 【事後】学習の振り返り（120 分）
第 2 回	教科書第 4 章 保育教材としての児童文化財 第 1 節 1 項(ITC 活用)	【事前】教科書第 4 章 第 1 節 1 項の大切な箇所に線を引いて読む（120 分） 【事後】学習の振り返りとして絵本の読み聞かせ練習（120 分）
第 3 回	教科書第 4 章 保育教材としての児童文化財 第 1 節 2 項 1)2)(ITC 活用)	【事前】教科書第 4 章 第 1 節 2 項 1）2）の大切な箇所に線を引いて読む（120 分） 【事後】学習の振り返りとして紙芝居練習（120 分）
第 4 回	教科書第 4 章 保育教材としての児童文化財 第 1 節 2 項 3)4)(ITC 活用)	【事前】教科書第 4 章 第 1 節 2 項 3）4）の大切な箇所に線を引いて読む（120 分） 【事後】学習の振り返りとしてペープサート練習（120 分）
第 5 回	教科書第 4 章 保育教材としての児童文化財 第 2 節 1 項～ 3 項（ITC 活用）	【事前】教科書第 4 章 保育教材としての児童文化財 第 2 節 1 項～ 3 項の大切な箇所に線を引いて読む（120 分） 【事後】学習の振り返りとスチロール人形作り（120 分）
第 6 回	教科書第 4 章 保育教材としての児童文化財 第 2 節 4 項～ 5 項（ITC 活用）	【事前】教科書第 4 章 保育教材としての児童文化財 第 2 節 4 項～ 5 項の大切な箇所に線を引いて読む（120 分） 【事後】学習の振り返りとして簡単劇台本作り（120 分）
第 7 回	児童文化財を活用した保育展開－グループ模擬保育計画立案(ITC 活用)	【事前】グループで模擬保育指導案立案をする（120 分） 【事後】グループで模擬保育指導案立案をする（120 分）
第 8 回	保育の中の言葉－子どもと楽しむ言葉遊びグループ実践(ITC 活用)	【事前】グループで模擬保育指導案立案をする（120 分） 【事後】グループで模擬保育指導案立案をする（120 分）

第 9 回	児童文化財を活用した保育展開－グループ模擬保育（人形劇）（ITC 活用）	【事前】グループで模擬保育の準備をする（120 分） 【事後】グループで模擬保育の振り返りを行う（120 分）
第 10 回	児童文化財を活用した保育展開－グループ模擬保育計画立案（ITC 活用）	【事前】グループで模擬保育指導案立案をする（120 分） 【事後】グループで模擬保育指導案立案をする（120 分）
第 11 回	児童文化財を活用した保育展開－グループ模擬保育（ペープサート）（ITC 活用）	【事前】グループで模擬保育の準備をする（120 分） 【事後】グループで模擬保育の振り返りを行う（120 分）
第 12 回	児童文化財を活用した保育展開－グループ模擬保育計画立案（ITC 活用）	【事前】グループで模擬保育指導案立案をする（120 分） 【事後】グループで模擬保育指導案立案をする（120 分）
第 13 回	児童文化財を活用した保育展開－グループ模擬保育（パネルシアター）（ITC 活用）	【事前】グループで模擬保育の準備をする（120 分） 【事後】グループで模擬保育の振り返りを行う（120 分）
第 14 回	児童文化財を活用した保育展開－グループ模擬保育計画立案（ITC 活用）	【事前】グループで模擬保育指導案立案をする（120 分） 【事後】グループで模擬保育指導案立案をする（120 分）
第 15 回	児童文化財を活用した保育展開－グループ模擬保育（お楽しみ会）（ITC 活用）	【事前】グループで模擬保育の準備をする（120 分） 【事後】グループで模擬保育の振り返りを行う（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	子どもが言葉を獲得する筋道を学び、子どもの心を揺さぶる言葉に対する知識や技術、環境構成や指導の視点を知り、模擬保育で発揮する。
到達目標 2	子どもの心を揺さぶる言葉に対する知識や技術、表現力を持ち、積極的に情報を入手し、それを活用する。
到達目標 3	積極的に役割取得をして模擬保育やグループワークに臨み、課題に対して具体的な想定を行い、行動に移す。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	保育者の視点で、子どもが言葉を獲得する筋道が分かり、心を揺さぶる言葉に対する知識や技術、環境構成や指導の視点が理解でき、模擬保育を通してそれらを総合的に発揮できる。
	優	子どもが言葉を獲得する筋道が分かり、子どもの心を揺さぶる言葉に対する知識や技術、環境構成や指導の視点に気付き、模擬保育を通してそれらを総合的に発揮できる。
	良	子どもが言葉を獲得する筋道を学び、子どもの心を揺さぶる言葉に対する知識や技術、環境構成や指導の視点を知り、模擬保育で発揮しようとする。
	可	子どもの心を揺さぶる言葉に対する知識や技術、環境構成や指導の視点を知り、模擬保育を行う。
	不可	子どもの心を揺さぶる言葉に対する知識や技術、環境構成や指導の視点が分からない。
到達目標 2	秀	保育者の視点で、子どもの心を揺さぶる言葉に対する知識や技術、表現力を持ち、積極的に情報を入手し、それを活用して、総合的に発揮できる。
	優	子どもの心を揺さぶる言葉に対する知識や技術、表現力を持ち、積極的に情報を入手し、それを活用して発揮できる。
	良	子どもの心を揺さぶる言葉に対する知識や技術、表現力を持ち、積極的に情報を入手し、それを活用しようとする。
	可	子どもの心を揺さぶる言葉に対する知識や技術、表現力の必要性が分かり、身に付けようとする。
	不可	子どもの心を揺さぶる言葉に対する知識や技術、表現力の必要性が分からない。

到達目標３	秀	積極的に役割取得をして模擬保育やグループワークに臨み、課題に対して他者が納得する具体的な想定を行い、行動に移すことができると同時に、その結果を客観的に考察し改善点を析出できる。
	優	積極的に役割取得をして模擬保育やグループワークに臨み、課題に対して具体的な想定を行い、行動に移すことができると同時に、その結果を客観的に考察できる。
	良	積極的に役割取得をして模擬保育やグループワークに臨み、課題に対して具体的な想定を行い、行動に移すことができる。
	可	模擬保育やグループワークでは、課題に対しての思いや考えを出し、行動に移すことができる。
	不可	客体で模擬保育やグループワークに参加し、主体的行動がとれない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	20	30	30	0	0	20	100
到達目標１	0	10	20	0	0	10	40
到達目標２	20	10	0	0	0	0	30
到達目標３	0	10	10	0	0	10	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	学びの確認のため、レポート試験を行う。
提出物	模擬保育指導案・児童文化財活用事例等の提出物内容でを評価する。
成果発表（口頭・実技）	グループごとに取り組んだ児童文化財の発表を行い、成果物の出来栄えと実技力を評価する。
その他	模擬保育において、積極的に役割取得をし、模擬保育やグループワークに臨み、課題に対しての具体的な行動を評価する。

履修に必要な知識・技能など

1）子どもの豊かな言葉や表現、想像する楽しさを広げるために必要な専門的知識を求め、保育技術の向上につなげる意識をもつ。
2）様々な児童文化財に興味関心を広げ、積極的に技術を習得すること。
3）模擬保育をグループで行う。模擬保育では、積極的に役割取得する。
（準備はグループ内で時間調整し、模擬保育指導案を作成し、授業外時間で、十分な話し合いとシミュレーションを行うこと。）

教科書・ISBN

9784767951195　『保育内容指導法「言葉」―乳幼児と育む豊かな言葉の世界』大橋喜美子・川北典子編著　建帛社

参考書

『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館
『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
子どもと造形表現（E33550）	演習	1	30	2	前期	選択	保育士必修 幼教免選択	藤本由佳利
科目担当者	藤本由佳利							

授業の概要	領域「表現」の指導に関する、こどもの表現の姿やその発達およびそれを促す要因、こどもの感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境構成などについて概説する。また、実践的な学びや、こどもの表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身につけるための演習を実施する。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	領域「表現」のねらい及び内容について－自らの表現の生成過程を分析的に捉え、内的な作用の重要性について理解する－	【事前】シラバスを熟読して、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】授業ノートの作成（30 分）
第 2 回	自然との関わりから 1 身近な自然やその素材の特性に触れイメージを豊かにする	【事前】教科書・配布資料の読解（30 分） 【事後】授業ノートの作成（30 分）
第 3 回	自然との関わりから 2 感じる、見る、楽しむことを通してイメージを豊かにする	【事前】教科書・配布資料の読解（30 分） 【事後】授業ノートの作成（30 分）
第 4 回	素材との関わりから 1 身近な素材（紙類）に触れ、特性を生かした造形表現の体験から幼児の造形表現に展開する可能性を探る。	【事前】教科書・配布資料の読解（30 分 【事後】授業ノートの作成（30 分）
第 5 回	素材との関わりから 2 身近な素材（パス類）に触れ、特性を生かした造形表現の体験から幼児の造形表現に展開する可能性を探る。	【事前】教科書・配布資料の読解（30 分） 【事後】授業ノートの作成（30 分）
第 6 回	素材との関わりから 3 身近な素材（絵の具類）に触れ、特性を生かした造形表現の体験から幼児の造形表現に展開する可能性を探る。	【事前】教科書・配布資料の読解（30 分） 【事後】授業ノートの作成（30 分）
第 7 回	素材との関わりから 4 幼児の表現に展開する可能性を探る－体験内容の振り返りと考察	【事前】教科書・配布資料の読解（30 分） 【事後】授業ノートの作成（30 分）
第 8 回	生活との関わりから多感覚性を生かして、身近な遊びや生活に心が動いたことなどをもとに、造形表現する。－香りや味わいのイメージを表す－	【事前】教科書・配布資料の読解（30 分） 【事後】授業ノートの作成（30 分）
第 9 回	他者との対話造形表現は、コミュニケーションとして成り立つことを体験しながら、その生成過程や、楽しさを生み出す要因について分析する。	【事前】教科書・配布資料の読解（30 分） 【事後】授業ノートの作成（30 分）
第 10 回	こどもの表現との対話こどもの表現行為と作品を見ることによって、こどもの造形表現を見出し、受け止め、共感するとともに、心身の発達や環境その他の背景を踏まえ、分析的に読み取る方法を学ぶ。	【事前】教科書・配布資料の読解（30 分） 【事後】授業ノートの作成（30 分）
第 11 回	文化との対話 1 古今東西の文化的な表現（アートカード等）をもとに鑑賞遊びを通じて親しむ	【事前】教科書・配布資料の読解（30 分） 【事後】授業ノートの作成（30 分）
第 12 回	文化との対話 2 パフォーミングアーツの体験（グループ）－指人形劇・構想－	【事前】教科書・配布資料の読解（30 分） 【事後】制作課題（30 分）
第 13 回	文化との対話 3 パフォーミングアーツの体験（グループ）－指人形劇・制作－	【事前】教科書・配布資料の読解（30 分） 【事後】制作課題（30 分）

第 14 回	文化との対話 4 パフォーミングアーツの体験（グループ）－指人形劇・発表－	【事前】教科書・配布資料の読解（30 分） 【事後】制作課題（30 分）
第 15 回	ICT の活用と総括 ICT を活用した表現活動を具体的に考え、発表する。学修の到達目標を確認する。	【事前】教科書・配布資料の読解（30 分） 【事後】15 回の授業の振り返り（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	子どもの造形表現の姿や、その発達を理解する。（専門力）
到達目標 2	グループワークを通して、保育者としての支援を理解し取り組むことができる。（協調性・協働性）
到達目標 3	造形表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、こどもの表現を支えるための感性を豊かにする。（表現力）

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	授業で学んだ「こどもと造形表現」の知識の広がりから、自らの目指す専門職としての自覚につなげて考えを深め、自分の意見を述べることができる。
	優	授業で学んだ「こどもと造形表現」の知識の広がりから、自らの目指す専門職としての自覚につなげて考えを深めることができる。
	良	授業で学んだ「こどもと造形表現」の知識の広がりから、自らの目指す専門職としての自覚につなげて考えることができる。
	可	授業で学んだ「こどもと造形表現」の知識の広がりから、自らの目指す専門職としての自覚につなげて考えようとする努力の過程が認められる。
	不可	授業で学んだ「こどもと造形表現」の知識の広がりから、自らの目指す専門職としての自覚につなげて考えようとする努力の過程が認められない。
到達目標 2	秀	授業のあらゆる場面で、自らの役割を十分理解しながら、主体的に取り組み、他者からも評価されている。
	優	授業のあらゆる場面で、自らの役割を十分理解しながら、主体的に取り組むことができる。
	良	授業のあらゆる場面で、自らの役割を果たすことができる。
	可	授業のあらゆる場面で、自らの役割を果たそうとする努力が見られる。
	不可	授業のあらゆる場面で、自らの役割を果たそうとする努力が見られない。
到達目標 3	秀	造形表現への関心や意欲が高く、自分の内面を他者に伝える表現が豊かにできる。
	優	造形表現への関心や意欲が高く、自分の内面を他者に伝える表現ができる。
	良	造形表現への関心や意欲が高く、自分の内面を他者に伝わるよう表現する。
	可	自分の内面を他者に伝わる表現をしようと努力する。
	不可	自分の内面を他者に伝えようとする努力が認められない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	30	30	10	30	0	0	100
到達目標 1	15	15	0	15	0	0	45
到達目標 2	0	0	10	0	0	0	10
到達目標 3	15	15	0	15	0	0	45

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	学期末のレポート試験
提出物	課題
成果発表（口頭・実技）	グループワーク課題の発表
作品	制作作品

履修に必要な知識・技能など
1）保育者を目指すものとして、自覚や品性を持って授業に臨むこと。 2）身近なこどもや保育現場の活動に積極的に関わり、こどもの造形活動について理解を深める。 3）身の周りの自然や人工物の、よさや面白さ、美しさを感じ取る。

教科書・ISBN
9784893473110　『幼児造形の基礎』樋口一成編　萌文書林

参考書
幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
子どもと身体表現 （E33560）	演習	1	30	2	後期	選択	保育士必修 幼教免選択	近藤みづき
科目担当者	近藤みづき							

授業の概要	領域「表現」の指導に関して身体表現の視点から、子どもの表現の姿やその発達、子どもの感性や創造性を豊かにする様々な身体表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識、技能、表現力を身に付ける。 豊かな感性は、身体の動きを感じる力に支えられるものであることを踏まえて、身体を動かしながら感じ、感じながら動く身体表現活動を体験し、子どもの表現を援助できる力を育む。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	領域「表現」のねらいと内容の理解	【事前】シラバスを読み、授業の概要を理解する。(30 分) 【事後】授業の進め方等をふりかえりシートに記入する。(30 分)
第 2 回	子どもの表現の理解	【事前】「表現」について概観を調べる。(30 分) 【事後】授業での学びをふりかえりシートに記入する。(30 分)
第 3 回	イメージや音に合わせた身体表現遊びの実践（1）模倣運動	【事前】「模倣運動」について概観を調べる。(30 分) 【事後】授業での学びをふりかえりシートに記入する。(30 分)
第 4 回	イメージや音に合わせた身体表現遊びの実践（2）リズム運動	【事前】「リズム運動」について概観を調べる。(30 分) 【事後】授業での学びをふりかえりシートに記入する。(30 分)
第 5 回	身体表現につながる様々な動きの体験（1）走る、跳ぶ、転がる	【事前】「身体表現につながる動き」について概観を調べる。(30 分) 【事後】授業での学びをふりかえりシートに記入する。(30 分)
第 6 回	身体表現につながる様々な動きの体験（2）捻る、回る、見る	【事前】「身体表現につながる動き」について概観を調べる。(30 分) 【事後】授業での学びをふりかえりシートに記入する。(30 分)
第 7 回	身体表現につながる様々な動きの体験（3）オノマトペ	【事前】「身体表現につながるオノマトペ」について概観を調べる。(30 分) 【事後】授業での学びをふりかえりシートに記入する。(30 分)
第 8 回	身近な素材を用いた身体表現遊びの理解と実践：新聞紙・箱	【事前】「身近な素材を使った身体表現」について調べる。(30 分) 【事後】授業での学びをふりかえりシートに記入する。(30 分)

第 9 回	身体表現遊びの創作（1）身体表現作品を鑑賞しイメージを膨らませる	【事前】創作の準備として、第 1 回から第 8 回までの授業をふりかえり、まとめておく。(30 分) 【事後】作品のテーマとなる絵本を選んでおく。(30 分)
第 10 回	身体表現遊びの創作（2）絵本・台本・小道具を検討する	【事前】創作する準備として、本や映像等によりイメージをふくらませておく。(20 分) 【事後】台本、小道具を完成させておく。(40 分)
第 11 回	身体表現遊びの創作（3）身体表現の内容を検討する	【事前】身体で表現する振りや動きを考えておく。(30 分) 【事後】表現する振りや動きを覚え、練習する。(30 分)
第 12 回	身体表現遊びの創作（4）中間発表（ICT を活用したふりかえり）	【事前】中間発表に備えて、音源、ナレーション、製作物を準備する。(30 分) 【事後】仲間の講評を踏まえて、自分たちの課題をみつけ改善策を提出する。(30 分)
第 13 回	身体表現遊びの創作（5）ふりかえりを踏まえた内容の検討	【事前】中間発表での課題を踏まえ、作品を修正する。(30 分) 【事後】自分の取り組みをふりかえりシートに記入する。(30 分)
第 14 回	身体表現遊びの創作（6）作品の発表（ICT を活用したふりかえり）	【事前】本発表に備えて、音源、ナレーション、製作物を準備する。(30 分) 【事後】自分達の発表について、ふりかえりシートに記入する。(30 分)
第 15 回	学修の到達目標の確認	【事前】第 1 回から第 14 回までの学びをふりかえり、まとめておく。(30 分) 【事後】保育者になるためにこれまでの授業で得られた知見を、どのようにいかすかを考える。(30 分)

学修の到達目標	
到達目標 1	「表現」やねらいについて理解できる。
到達目標 2	授業で扱う身体表現に関する基本的な知識や技能を身に付けることができる。
到達目標 3	仲間と協力、協働して身体表現作品を創作することができる。
到達目標 4	身体表現への高い関心や意欲をもち、主体的に授業に取り組むことができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	「表現」やねらいについて満足できる水準まで理解していることが認められると共に、周囲に説明できる。さらに、他の科目に応用することができる。
	優	「表現」やねらいについて満足できる水準まで理解していることが認められ、さらに周囲に説明することができる。
	良	「表現」やねらいについて満足できる水準まで理解していることが認められる。
	可	「表現」やねらいについて満足できる水準まで理解していないが、努力の過程は認められる。
	不可	「表現」やねらいについて理解しておらず、その努力の過程も認められない。

到達目標２	秀	授業で扱う身体表現に関する基本的な知識や技能が、満足できる水準まで到達していて、さらに周囲に良い影響や結果をもたらすことができる。
	優	授業で扱う身体表現に関する基本的な知識や技能が、満足できる水準まで到達していて、さらに周囲に良い影響をもたらすことができる。
	良	授業で扱う身体表現に関する基本的な知識や技能が、満足できる水準まで到達していることが認められる。
	可	授業で扱う身体表現に関する基本的な知識や技能が、満足できる水準まで達していないが、努力の過程は認められる。
	不可	授業で扱う身体表現に関する基本的な知識や技能が、満足できる水準まで達しておらず、その努力の過程も認められない。
到達目標３	秀	自らが高い意志をもって、自発的に周囲と協調・協働でき、それによりチームとして高いモチベーションをもち続けながら、身体表現作品を創ることができる。
	優	自らが高い意志をもって、自発的に周囲と協調・協働でき、それによりチームとして身体表現作品を創ることができる。
	良	自発的に周囲と協調・協働して身体表現作品を創ることができる。
	可	他者に促されれば協調・協働して身体表現作品を創ることができる。
	不可	周囲と協調・協働して身体表現作品を創ることができず、その努力の過程も認められない。
到達目標４	秀	身体表現への関心や自ら運動する意欲が高く、積極的に授業に参加している。それにより周囲にも良い影響を与え、良い結果をもたらすことができる。
	優	身体表現への関心や自ら運動する意欲が高く、積極的に授業に参加している。それにより周囲にも良い影響を与えることができる。
	良	身体表現への関心や自ら運動する意欲が認められ、ある程度積極的に授業への参加が認められる。
	可	他者の助言や指導のもと授業へ積極的な参加が認められる。
	不可	他者の助言や指導があっても授業へ積極的な参加が認められない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	30	15	0	35	0	20	100
到達目標１	30	5	0	0	0	0	35
到達目標２	0	10	0	15	0	0	25
到達目標３	0	0	0	20	0	10	30
到達目標４	0	0	0	0	0	10	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験
提出物	授業のふりかえりシート
作品	身体表現作品の発表
その他	授業に対する主体性

履修に必要な知識・技能など
保育者・教育者の立場を意識して受講すること。 運動できる服装と体育館シューズを用意すること。

教科書・ISBN

参考書
『幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説』 『保育所保育指針・保育所保育指針解説』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』他、適宜配布する。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
国語 （E33570）	講義	2	30	2	後期	選択	小教免必修	山下敦子
科目担当者	山下敦子							

授業の概要	昨今の教育現場は「言語力の育成」が急務である。本講義では、言葉による見方・考え方を働かせ、効果的な言語活動を設定した指導方法や理論について学ぶ。教育実践は理論と融合してこそ、効果的な実践が可能となるからである。理論を踏まえ、今、求められる国語科の指導方法や評価方法について基本的な知識、技能を習得し、インターンシップや次年度の教育実習等に活かしていくことを期待している。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（　）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （レ）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	小学校教員、指導主事の経験をもつ科目担当者が、国語科指導における基礎的な知識・技能について指導する。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	主体的・対話的で深い学びとは① － PISA 型読解力と国語－	【事前】シラバス内容の熟読（120 分） 【事後】学修内容の確認（120 分） － OECD PISA Test の設問に取り組む－
第 2 回	主体的・対話的で深い学びとは② － 21 世紀型スキルと国語－	【事前】課題に関する情報収集（120 分） －「21 世紀スキルについて」－ 【事後】学修内容の確認とまとめ（120 分） －ミニレポート作成－
第 3 回	国語科教育の不易と流行　－学習指導要領の変遷－	【事前】課題に関する情報収集（120 分） －平成 29 年度告示学習指導要領国語の趣旨と目標を確認－ 【事後】学修内容の確認とまとめ（120 分） －ミニレポート作成－
第 4 回	児童文学を読む －絵本の世界　児童を読書好きにする読書指導－	【事前】課題に関する情報収集（120 分） －児童書や絵本を探る－ 【事後】学修内容の確認とまとめ（120 分） －言語活動「読書郵便」の作成－
第 5 回	書写指導①－硬筆書写－	【事前】課題に関する情報収集（120 分） －ひらがな試書－ 【事後】学修内容の確認とまとめ（120 分） －ひらがな清書－
第 6 回	文学的文章の指導－気持ちを直接問わない発問作り－	【事前】課題に関する情報収集（120 分） －「もちもちの木」教材研究－ 【事後】学修内容の確認とまとめ（120 分） －ミニレポート作成－
第 7 回	説明的文章の指導－児童が自ら課題を持つ言語活動－	【事前】課題に関する情報収集（120 分） －「いろいろなふね」教材研究－ 【事後】学修内容の確認とまとめ（120 分） －ミニレポート作成－
第 8 回	国語科学習指導案の立案－指導目標と評価の一体化－	【事前】課題に関する情報収集（120 分） －小学校国語科学習指導案の分析－ 【事後】学修内容の確認とまとめ（120 分） －国語科学習指導案作成－

第 9 回	国語と特別支援教育の関連－インクルーシブ教育と指導の改善－	【事前】課題に関する情報収集（120 分） －児童の困り感を探る－ 【事後】学修内容の確認とまとめ（120 分） －ミニレポート作成作成－
第 10 回	書写指導②－毛筆書写の基礎基本－	【事前】課題に関する情報収集（120 分） －生活の中の毛筆書写について探る－ 【事後】学修内容の確認とまとめ（120 分） －推敲し自己の課題を整理－
第 11 回	「書くこと」領域の指導－書くことを厭わない子どもを育てる－	【事前】課題に関する情報収集（120 分） －自分の受けた作文指導を振り返る－ 【事後】学修内容の確認とまとめ（120 分） －言語活動「物語の作成」－
第 12 回	「話すこと・聞くこと」領域の指導－相手意識、目的意識の明確化－	【事前】課題に関する情報収集（120 分） －ディスカションで必要な技能について分析－ 【事後】学修内容の確認とまとめ（120 分） －教員に必要なファシリテート力についてまとめる－
第 13 回	我が国の言語文化に関する指導－伝統的な言語文化に親しむ言語活動－	【事前】課題に関する情報収集（120 分） －日常生活に生きる伝統的な言語文化を調べる－ 【事後】学修内容の確認とまとめ（120 分） －地域の伝統的な言語文化を調べる－
第 14 回	国語科指導と ICT 活用、メディアリテラシー教育	【事前】課題に関する情報収集（120 分） － GIGA スクール構想について調べる－ 【事後】学修内容の確認とまとめ（120 分） －ミニレポート作成－
第 15 回	今、求められる国語教育とは	【事前】全回の振り返り（120 分） 【事後】教育実践への活用とポートフォリオの完成（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	小学校国語科における指導法や理論について理解することができる。
到達目標 2	小学校国語科指導に必要な基礎的な指導技術や評価方法を身につけることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	小学校国語科の指導法や理論について実践や体験と重ねながら深く理解し、進んで幅広い知識を習得している。
	優	小学校国語科の指導法や理論について実践や体験と重ねながら理解している。
	良	小学校国語科の指導法や理論について理解している。
	可	小学校国語科の指導法や理論についての理解がやや浅い。
	不可	小学校国語科の指導法や理論について理解できていない。
到達目標 2	秀	小学校国語科指導に必要な指導技術や評価方法について深く理解、習得し、自らの実践に反映させている。
	優	小学校国語科指導に必要な指導技術や評価方法について深く理解、習得している。
	良	小学校国語科指導に必要な指導技術や評価方法について理解、習得している。
	可	小学校国語科指導に必要な指導技術や評価方法についての理解や習得がやや浅い。
	不可	小学校国語科指導に必要な指導技術や評価方法について理解や習得ができていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	40	0	0	10	0	100
到達目標 1	25	20	0	0	5	0	50
到達目標 2	25	20	0	0	5	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験を行う。学習指導要領の理解、国語科の指導方法論について知識・技能の定着を測る。
提出物	毎回の講義において、ミニレポートを書いたり言語活動を行ったりする。毎回、復習の課題（レポート）を出す。指導者の立場、児童の立場になって、講義の内容について考えを深めていくことが求められる。毎回のレポートは添削し、返却するので復習を怠りなくすること。ポートフォリオ提出物、予習したもの、講義の資料等についてポートフォリオを作成し、学びの確認を行っていく。国語の指導について常に意識を働かせて学修に活かすことが求められる。
ポートフォリオ	提出物、予習したもの、講義の資料等についてポートフォリオを作成し、学びの確認を行っていく。国語の指導について常に意識を働かせて学修に活かすことが求められる。

履修に必要な知識・技能など
(1) 日常生活の「ことば」の役割について意識を高め、教育関係以外のニュースなどにも関心をもつこと。 (2) 毎時間、予習課題、復習課題を提示する。国語科の指導はすべての教科の礎になることを念頭におき、入念に取り組むこと。 (3) 教員になるための資質向上の面からも、無断の欠席、遅刻は認めない。

教科書・ISBN
9784491034621　『小学校学習指導要領解説 国語編』文部科学省（平成 29 年度告示）東洋館出版社

参考書
「国語教科書定番教材の授業」山下敦子、二瓶弘行　共著（株）ERP ISBN 978-4907104580 「定番教材を用いた『言葉の力』を育てる国語科指導」　山下敦子　（株）ERP　ISBN 978-4907104375

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
社会 （E33580）	講義	2	30	2	後期	選択	小教免必修	増田進司
科目担当者	増田進司							

授業の概要	・指導要領の内容を調べ・まとめ・発表し・傾聴し・対話する中で理解する ・小学校社会科の「社会的な見方・考え方」について知見を深める ・小学校社会科の「ひと・もの・こと」などの社会科的な関係を読み解く手法や力の基礎を培う
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（レ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	・教育委員会にて考古学の発掘担当として遺跡調査に従事するとともに、奈良国立文化財研究所の長期研修（約二ヶ月）に派遣され最新の発掘知識に習得をするとともに、現場を経験する中で社会事象（遺跡・遺物）の事実から学ぶ社会的なものの見方・考え方の基礎を培った。 ・若年ではあったが、発掘現場を指揮監督することが求められる中で、対人関係やグループワーク・人間関係経営のノウハウを習得していった。 ・教育委員会職員から公立小学校教員に転職し、発掘体験からえた現場主義の観点を推し進め、小学校社会科の単元開発や研究授業に積極的に取り組んできた。その成果は、その都度、教育委員会の研修講座や研究会で公開するとともに、教員への啓蒙に努めた。 ・公立小学校校長の時には、神戸市小学校社会科部長・兵庫県小学校教育研究会社会科部会長・近畿小学校社会科教育研究協議会代表・全国小学校社会科教育研究協議会理事として、小学校社会科の教育研究に邁進し、第57回近畿小学校社会科研究協議会を中心となり開催した。 ・授業を支える良好な学級経営のあり方について研鑽に努め、各種研究会にて発表ならびに講演を行い、積み重ねた実践をもとに小学校教員退職後は教育委員会主催の学級経営講座を七年間継続して行ってきた。 ・実務経験をもとに、社会科の生きてはたらく社会科授業の授業力の基礎を培うことに力点を置く。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション:本講義のねらいの理解･共有。発表（ポスターセッション　PS）グループワーク（GW）のための班を作る。次回の予告	【事前】シラバスを読んでおく（120 分） 【事後】グループワークの確認（120 分）
第 2 回	指導要領における社会の目標とはどのような事か資料を読み取る。分担をする。個別解決・GW	【事前】指導要領の読解・発表準備（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 3 回	分担に従い、指導要領における社会の目標とはどのようなことか？ポスターセッションを通じて理解する。GW・PS	【事前】指導要領の読解・発表準備（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 4 回	指導要領における、3 年生の目標及び内容について、どのような事か資料を読み取る。分担をする。個別解決・GW	【事前】指導要領の読解・発表準備（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 5 回	分担に従い、指導要領における 3 年生の目標及び内容について、どのような事か？ポスターセッションを通じて理解する。GW・PS	【事前】指導要領の読解・発表準備（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 6 回	指導要領における、4 年生の目標及び内容について、どのような事か資料を読み取る。分担をする。個別解決・GW	【事前】指導要領の読解・発表準備（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 7 回	分担に従い、指導要領における 4 年生の目標及び内容について、どのような事か？ポスターセッションを通じて理解する。GW・PS	【事前】指導要領の読解・発表準備（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 8 回	指導要領における、5 年生の目標及び内容について、どのような事か資料を読み取る。分担をする。個別解決・GW	【事前】指導要領の読解・発表準備（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）

第 9 回	分担に従い、指導要領における 5 年生の目標及び内容について、どのような事か？ポスターセッションを通じて理解する。GW・PS	【事前】指導要領の読解・発表準備（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 10 回	指導要領における、6 年生の目標及び内容について、どのような事か資料を読み取る。分担をする。個別解決・G W	【事前】指導要領の読解・発表準備（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 11 回	分担に従い、指導要領における 6 年生の目標及び内容について、どのような事か？ポスターセッションを通じて理解する。GW・PS	【事前】指導要領の読解・発表準備（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 12 回	臨地での学修を実施する①　博物館施設・学習関連施設・学習対象などを訪問・臨研し指導要領の趣旨を活かした経験をする。	【事前】臨研施設について調べる（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 13 回	臨地での学修を実施する①　博物館施設・学習関連施設・学習対象などを訪問・臨研し指導要領の趣旨を活かした経験をする。	【事前】施設について調べる（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 14 回	ポスターセッション形式で、全員模擬授業の計画分担をし、模擬授業に向けての準備をする	【事前】希望の単元について教材研究する（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 15 回	ポスターセッション形式で全員模擬授業を行い交流し振りかえる	【事前】指導略案などを準備する（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	・指導要領社会科の内容を調べ・まとめ・発表し・傾聴し・対話する中でその内容を理解できている
到達目標 2	・小学校社会科の「社会的な見方・考え方」について知見を深められている
到達目標 3	・指導要領社会科をもとに、小学校社会科の「ひと・もの・こと」などの社会科的な関係を読み解く手法や授業展開力の基礎を培えている

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	指導要領社会科の内容を調べ・まとめ・発表し・傾聴し・対話する中でその内容を満足できる水準を大きく超えて習得し理解できている
	優	指導要領社会科の内容を調べ・まとめ・発表し・傾聴し・対話する中でその内容を満足できる水準を超えて習得し理解できている
	良	指導要領社会科の内容を調べ・まとめ・発表し・傾聴し・対話する中でその内容を満足できる水準まで習得し理解できている
	可	指導要領社会科の内容を調べ・まとめ・発表し・傾聴し・対話する中でその内容をほぼ習得し理解できている。
	不可	指導要領社会科の内容を調べ・まとめ・発表し・傾聴し・対話する中でその内容を習得できず理解できていない。
到達目標 2	秀	小学校社会科の「社会的な見方・考え方」について満足できる水準を大きく超えて知見を深められている
	優	小学校社会科の「社会的な見方・考え方」について満足できる水準を超えて知見を深められている
	良	小学校社会科の「社会的な見方・考え方」について満足できる水準まで知見を深められている
	可	小学校社会科の「社会的な見方・考え方」についてほぼ満足できる水準まで知見を深められている
	不可	小学校社会科の「社会的な見方・考え方」について知見を深められていない

到達目標３	秀	指導要領社会科をもとに、小学校社会科の「ひと・もの・こと」などの社会科的な関係を読み解く手法や授業展開力の基礎を十二分に満足できる程度に培えている
	優	指導要領社会科をもとに、小学校社会科の「ひと・もの・こと」などの社会科的な関係を読み解く手法や授業展開力の基礎を十分満足できる程度に培えている
	良	指導要領社会科をもとに、小学校社会科の「ひと・もの・こと」などの社会科的な関係を読み解く手法や授業展開力の基礎を満足できる程度に培えている
	可	指導要領社会科をもとに、小学校社会科の「ひと・もの・こと」などの社会科的な関係を読み解く手法や授業展開力の基礎をほぼ培えている
	不可	指導要領社会科をもとに、小学校社会科の「ひと・もの・こと」などの社会科的な関係を読み解く手法や授業展開力の基礎を培えることができてない

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	20	30	0	0	0	100
到達目標１	15	10	10	0	0	0	35
到達目標２	15	0	10	0	0	0	25
到達目標３	20	10	10	0	0	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	15 回の講義後に筆記試験を課す。本講座での学びをもとに、自らの論理を展開・記述できることが求められる。
提出物	PS でのレジュメや資料・課された小論文・模擬授業の指導構想など、稚拙な内容や未提出は減点される。
成果発表（口頭・実技）	PS の内容並びに平素のグループワークでの貢献度や参加意欲・態度。真摯に準備する姿勢や資料の読解力・パワーポイントの技術・内容の深さが評価対象となる。稚拙な内容や GW での非協力的な態度・討論・議論への怠惰な参加姿勢は減点される。

履修に必要な知識・技能など
社会動向に敏感な姿勢を意識することと指導要領を熟読理解し発表するので、教科書にとどまらず、広く文献に当たるなど真摯な学びの姿勢が求められる。

教科書・ISBN
9784536590099　『小学校指導要領解説 社会科編』　文部科学省　東洋館出版社

参考書
講義中に適宜配布する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
算数 （E33590）	講義	2	30	2	前期	選択	小教免必修	平田秀己
科目担当者	平田秀己							

授業の概要	算数科の目標、内容について教師という視点を大切に学んでいきます。具体的には、「その内容のポイントは何か。」「こどものつまずきはどこにあるのか。」「どう指導したらよいのか」という視点で授業を深めていきます。学生個々のこども時代の経験、学校現場でのこどもの様子、教師の工夫を織り交ぜていく中で、上記の関連ときわコンピテンシーを培っていきたいと考えます。 学生には主体的に考え、自分の考えを積極的に対話し、学びを深めていく姿勢で、楽しく学び合えることを期待します。 なお当該科目は、教育現場等において小学校教諭の実務経験を有した教員より、授業を通して教育職員に必要な諸能力や知識・技術等について学びます。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	教育現場・教育委員会において小学校教諭としての実務経験を活かし、授業を通して教育職員に必要な諸能力や知識・技術等の育成に努めたい。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	こどもと算数をつなぐとはどういうことか。算数科の目標。(改善点・強調点は何か。)	【事前】教科書 P1 ～ P20 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した教科書 P1 ～ P20 を確認するとともに、算数科の目標のキーワードを 3 つ見つけ一枚まとめを行う（120 分）
第 2 回	算数科の目標を詳しく見てみよう。「学校現場で算数を学ぶこどもたち」の姿とつないでいくと、個々の文言の意味が見えてくる。	【事前】教科書 P21 ～ P32 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した P21 ～ P32 の内容を確認確認するとともに、算数科の領域構成の見直しはなぜ行われたのだろうか。について一枚まとめを行う（120 分）
第 3 回	算数科の内容の構成はどうなっているのか。また、求められる資質･能力、「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」は何なのか。	【事前】教科書 P33 ～ P75 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した P33 ～ P75 の内容を確認するとともに、「島にかえるが 3 びきいます。ふねにのって 2 ひきやってきました。かえるはぜんぶでなんびきになりましたか。」を 1 年生の子供にどうやって理解させますか。について一枚まとめを行う（120 分）
第 4 回	第 1 学年教科書を素材に、「数と計算」「図形」を詳しく見よう。(こどもはどこにつまずくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。)	【事前】教科書 P76 ～ P89 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した P76 ～ P89 を確認するとともに、1 年生では球、円柱、直方体のことを「ぼうるかたち」「つつのかたち」「はこのかたち」と言ったりします。それぞれの立体の形を理解させるにはどうしますか。についてまとめを一枚行う
第 5 回	第 1 学年教科書を素材に、「測定」「データの活用」を詳しく見よう。(こどもはどこにつまずくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。)	【事前】教科書 P90 ～ P101 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した P90 ～ P101 を確認するとともに、九九の習熟を図る指導の工夫。について一枚にまとめる（120 分）

第 6 回	第 2 学年教科書を素材に、「数と計算」「図形」を詳しく見よう。（こどもはどこにつまずくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。）	【事前】教科書 P102 ～ P121 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した P102 ～ P121 を確認するとともに、1dL、1L、1mL の量感をどうやって養いますか。について一枚にまとめる（120 分）
第 7 回	第 2 学年教科書を素材に、「測定」「データの活用」を詳しく見よう。（こどもはどこにつまずくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。）	【事前】教科書 P122 ～ P133 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した P122 ～ P133 を確認するとともに、円の中心をどのように指導しますか。について一枚まとめを行う（120 分）
第 8 回	第 3 学年教科書を素材に、「数と計算」「図形」を詳しく見よう。（こどもはどこにつまずくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。）	【事前】教科書 P134 ～ P162 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した P134 ～ P162 を確認するとともに、身の回りのものの特徴に着目し，単位の関係を統合的に考察させるためにはどん工夫をしますか。配慮点も含めて考えてみましょう。について一枚まとめを行う（120 分）
第 9 回	第 3 学年教科書を素材に、「測定」「データの活用」を詳しく見よう。（こどもはどこにつまずくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。）	【事前】教科書 P163 ～ P178 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した P163 ～ P178 を確認するとともに、「153 ÷ 24 の筆算のしかたを考えましょう。」の問題で答えが立てられない子供へどのように助言しますか。について一枚まとめを行う（120 分）
第 10 回	第 4 学年教科書を素材に、「数と計算」「図形」を詳しく見よう。（こどもはどこにつまずくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。）	【事前】教科書 P179 ～ P213 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した P179 ～ P213 確認するとともに、○＋△＝○×△になる数字の組み合わせは何組あるのかな。について一枚まとめを行う（120 分）
第 11 回	第 4 学年教科書を素材に、「変化と関係」「データの活用」を詳しく見よう。（こどもはどこにつまずくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。）	【事前】教科書 P214 ～ P231 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した P214 ～ P231 を確認するとともに、問題　3/4 ＋ 1/6 の計算をしましょう。で共通分母の出し方が分からない子にどのような助言を行いますか。について一枚まとめを行う（120 分）
第 12 回	第 5 学年教科書を素材に、「数と計算」「図形」を詳しく見よう。（こどもはどこにつまずくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。）	【事前】教科書 P232 ～ P266 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した P232 ～ P266 を確認するとともに、割合は小学校の算数で子供にとって大変難しいと言われている内容です。子どもから割合の問題の解き方を尋ねられました。あなたは、どう教えますか。について一枚まとめを行う（120 分）
第 13 回	第 5 学年教科書を素材に、「変化と関係」「データの活用」を詳しく見よう。（こどもはどこにつまずくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。）	【事前】教科書 P261 ～ P283 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した P261 ～ P283 を確認するとともに、分数の割り算って、どうして逆数にしてかけるのですか？と子供から質問がありました。どう答えればよいでしょう。について一枚まとめを行う（120 分）
第 14 回	第 6 学年教科書を素材に、「数と計算」「図形」を詳しく見よう。（こどもはどこにつまずくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。）	【事前】教科書 P284 ～ P299 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した P284 ～ P299 を確認するとともに、「ある道路を舗装するのに A の機械では 15 日、B の機械では 10 日かかります。2 つの機械を同時に使うと、何日かかりますか」の問題の指導の仕方を考えよう。について一枚まとめを行う（120 分）

第 15 回	第 6 学年教科書を素材に、「変化と関係」「データの活用」を詳しく見よう。（こどもはどこにつまずくのか。そのこどもにどのような指導をするのか。）	【事前】教科書 P300 ～ P321 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した P300 ～ P321 を確認するとともに、定期テストのための復習についてまとめを行う（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	算数科の目標・内容が理解できる。
到達目標 2	教材の理解を深め、どのように指導すれば児童にわかりやすいかをデザインすることができる。
到達目標 3	学びを通して自分の意見を表現できる。
到達目標 4	学びを通して友達の考えを受け入れることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	算数科の目標及び内容について、学びをきっかけにして発展的に考えようとしている。
	優	算数科の目標及び内容について、十分に理解し活用できる。
	良	算数科の目標及び内容について、理解し活用できる。
	可	算数科の目標及び内容について、理解している。
	不可	算数科の目標及び内容についての、知識理解が不十分である。
到達目標 2	秀	こどものつまずきを考え、教材の特徴を見極め、最適の指導する方法をデザインすることができる。
	優	こどものつまずきを考え、教材の特徴を考え、指導する方法をデザインすることができる。
	良	こどものつまずきを考え、指導する方法をデザインすることができる。
	可	指導する方法をデザインすることができる。
	不可	指導する方法をデザインすることができない。
到達目標 3	秀	自分の考えを、相手に分かるように工夫し、筋道だって伝えることができる。
	優	自分の考えを、相手に分かるように、筋道だって伝えることができる。
	良	自分の考えを、相手に分かるように、伝えることができる。
	可	自分の考えを、伝えるようとしている。
	不可	自分の考えを、伝えることができない。
到達目標 4	秀	他者の意見を理解しようと意識して、適切な質問を織り交ぜて創造的な対話をすることができる。
	優	他者の意見を理解しようと意識して、質問を織り交ぜて創造的な対話をすることができる。
	良	他者の意見を理解しようと意識して、質問を織り交ぜて対話をすることができる。
	可	他者の意見を聞きながら、対話をしようとしている。
	不可	他者と会話のキャッチボールをすることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	20	20	0	0	0	100
到達目標 1	30	10	5	0	0	0	45
到達目標 2	15	5	5	0	0	0	25
到達目標 3	15	5	5	0	0	0	25
到達目標 4	0	0	5	0	0	0	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	・筆記試験を最終に行う。
提出物	・次回までの課題について、その解決に取り組み、提出されたかどうかを評価する。 ・提出された内容が適切なものか評価する。
成果発表 （口頭・実技）	・授業で行う発表（プレゼンテーション）やグループ討議の内容、参加意欲・態度などを評価する。

履修に必要な知識・技能など
必要な知識は指導要領解説にあります。必要な技能は表現力、対話力です。必要な態度は主体性と誠実に学ぼうとする姿勢です。

教科書・ISBN
9784536590105　『小学校学習指導要領解説　算数編』　文部科学省　日本文教出版

参考書
必要に応じて紹介します。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
生活（E33600）	講義	2	30	2	前期	選択	小教免選択	山田希代子
科目担当者	山田希代子							

授業の概要	「生活」は人間の日常的な営み・生存・生命という生物としての人間の状態や活動の広い意味をもっている。現代の子どもの生活の実態を把握し、課題をつかむ。そして、幼児期・児童期にふさわしい生活を探究し、子どもの豊かな生活や学びのあり方を考える。また、幼児教育と小学校教育の「結節点」としての生活科の役割や低学年教育の中核としての生活科のあり方について理解する。 なお当該科目は、教育現場等において小学校教諭の実務経験を有した教員より、授業を通して教育職員に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習（外部協定　有　・　無　） （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	公立小学校教員・教頭・校長、小学校教育研究会部長（生活・総合的な学習部） 実務経験を生かして教授する。あ

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	ガイダンス：「生活」の基本的な概念	【事前】シラバス内容の熟読（120 分） 【事後】学修内容・学習計画の確認（120 分）
第 2 回	保育・幼稚園教育・学校教育における生活の意義	【事前】課題に関する情報収集（120 分） 【事後】授業内容の確認とまとめ（120 分）
第 3 回	生活習慣と子ども	【事前】現代の子どもの生活習慣の課題の情報収集（120 分） 【事後】授業内容の確認とまとめ（120 分）
第 4 回	子どもと家族とのかかわり	【事前】現代の子どもの家族とのかかわりの課題の情報収集（120 分） 【事後】授業内容の確認とまとめ（120 分）
第 5 回	子どもと社会・地域とのかかわり	【事前】現代の子どもの社会・地域とのかかわりの課題の情報収集（120 分） 【事後】授業内容の確認とまとめ（120 分）
第 6 回	子どもと自然とのかかわり	【事前】現代の子どもの自然とのかかわりの課題の情報収集（120 分） 【事後】授業内容の確認とまとめ（120 分）
第 7 回	子どもと遊び	【事前】現代の子どもの遊びについての課題の情報収集（120 分） 【事後】授業内容の確認とまとめ（120 分）
第 8 回	遊びと学習と教師の役割	【事前】課題に関する情報収集（120 分） 【事後】授業内容の確認とまとめ（120 分）
第 9 回	保育・幼稚園教育と生活科との関連	【事前】課題に関する情報収集（120 分） 【事後】授業内容の確認とまとめ（120 分）
第 10 回	生活科の果たす役割と育てたい力	【事前】小学校学習指導要領　生活　目標・内容の確認（120 分） 【事後】授業内容の確認とまとめ（120 分）
第 11 回	身近な物を生かした遊び	【事前】身近な物を生かした遊びの情報収集（120 分） 【事後】授業内容の確認とまとめ（120 分）

第 12 回	自然環境を生かした遊び	【事前】自然環境を生かした遊びの課題発表準備（120 分） 【事後】授業内容の確認とまとめ（120 分）
第 13 回	社会環境を生かした遊び	【事前】社会環境を生かした遊びの課題発表準備（120 分） 【事後】授業内容の確認とまとめ（120 分）
第 14 回	生活科と保育・幼児教育、保幼小の連携のカリキュラム	【事前】幼稚園教育要領・小学校学習指導要領生活の確認（120 分） 【事後】授業内容の確認とまとめ（120 分）
第 15 回	幼児教育と小学校教育の連携のあり方、まとめと確認	【事前】保幼小連携に関する情報収集（120 分） 【事後】学修内容の振り返り（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	「生活」の概念を理解する。
到達目標 2	現代の子どもたちの生活習慣・環境とのかかわりの課題を把握し、改善策を考察する。
到達目標 3	「遊び」の意義を理解し、幼児期・児童期にふさわしい教育と連携のあり方を探る。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	生活についての基本的知識･技能を十分なレベルで教育に携わる視点で深く理解することができる。
	優	生活についての基本的知識・技能を両方とも十分なレベルで理解している。
	良	生活についての基本的知識・技能を理解し、一方は十分なレベルに達している。
	可	生活についての基本的知識・技能の概ねを理解している。
	不可	生活についての基本的な知識・技能を理解することができていない。
到達目標 2	秀	現代の子どもたちの生活習慣・環境とのかかわりの課題を把握し、多面的なアプローチでそれぞれを比較検討し、課題に対して最も適した改善策を考えることができる。
	優	現代の子どもたちの生活習慣・環境とのかかわりの課題を把握し、多様な方法で改善策を考え、それぞれを比較検討することができる。
	良	現代の子どもたちの生活習慣・環境とのかかわりの課題を把握し、多様な方法で改善策を考えることができる。
	可	現代の子どもたちの生活習慣・環境とのかかわりの課題を概ね把握し、改善策を考えることができる。
	不可	現代の子どもたちの生活習慣・環境とのかかわりの課題を把握できていない。
到達目標 3	秀	「遊び」の意義を理解し、就学前教育と小学校教育の学びの違いを理解し、両者の立場で教育と連携のあり方を探り、教職員同士、子ども同士、教育システムの視点であり方について探ることができている。
	優	「遊び」の意義を理解し、就学前教育と小学校教育の学びの違いを理解し、両者の立場で教育と連携のあり方を探ることができている。
	良	「遊び」の意義を理解し、就学前教育と小学校教育の学びの違いを理解し、一方の視点で教育と連携のあり方を探ることができている。
	可	「遊び」の意義を理解し､幼児期･児童期にふさわしい教育と連携のあり方を探ることができている。
	不可	「遊び」の意義を理解しているが、幼児期・児童期にふさわしい教育と連携のあり方について探ることができていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	10	20	30	0	0	100
到達目標 1	20	10	0	0	0	0	30
到達目標 2	10	0	20	0	0	0	30
到達目標 3	10	0	0	30	0	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を行う。
提出物	提出物の内容を評価する。
成果発表（口頭・実技）	プレゼンテーションを評価する。
作品	幼小連携案等、制作物を評価する。

履修に必要な知識・技能など
「生活」は「文化」といわれるほど、深く幅広い意味をもっている。「生活科」がなぜできたのか、その意義を考えて、教科として果たす役割と生活文化との関連について、また、生活科が果たす幼児教育とのつながりの意義について追究していくものである。この点を意識しながら学びを深めていくこと。

教科書・ISBN
なし。適宜資料を配布

参考書
『小学校学習指導要領解説　生活編』文部科学省　平成 29 年 7 月　東洋館出版社 『幼稚園教育要領』文部科学省　平成 29 年 3 月告示

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
理科 （E33610）	講義	2	30	2	後期	選択	小教免必修	笹井隆邦
科目担当者	笹井隆邦							

授業の概要	自然に触れ、様々な現象に興味を持って“なぜ？”を自ら解明していく。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　） （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	ガイダンス・生物の分類	【事前】今後の授業に向けてシラバスを読み、準備する（120 分） 【事後】授業内容の振り返り要点のチェック（120 分）
第 2 回	メダカの飼育と観察（5 年）	【事前】メダカについて調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り、要点のチェックを提出（120 分）
第 3 回	池の管理（池に入って体験）	【事前】池の管理方法について調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り、要点のチェックを提出（120 分）
第 4 回	身近な自然の観察（自然観察マップづくり）	【事前】ドングリの種類を調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り、要点のチェックを提出（120 分）
第 5 回	顕微鏡の使い方（5 年　水中の小さな生き物観察）	【事前】顕微鏡の使い方について調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り、要点のチェックを提出（120 分）
第 6 回	電気のはたらきと利用（4 年・6 年）	【事前】電気のはたらきについて調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り、要点のチェックを提出（120 分）
第 7 回	磁石・電磁石（3 年・5 年）	【事前】磁石・電磁石について調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り、要点のチェックを提出（120 分）
第 8 回	風やゴムのはたらき（3 年）	【事前】風邪やゴムのはたらきについて調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り、要点のチェックを提出（120 分）
第 9 回	ものの溶け方（5 年）	【事前】ものの溶け方について調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り、要点のチェックを提出（120 分）
第 10 回	月と星（4 年）	【事前】星座について調べる　ふたご座流星群について調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り、要点のチェックを提出ふたご座流星群の観測（120 分）
第 11 回	てことてんびん（6 年）	【事前】てことてんびんについて調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り、要点のチェックを提出（120 分）

第 12 回	金属・水・空気と温度（4 年）	【事前】温度について調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り、要点のチェックを提出（120 分）
第 13 回	学習指導案作りのための実験計画・準備	【事前】実験の計画（120 分） 【事後】要点のチェックを提出（120 分）
第 14 回	学習指導案作りのための実験	【事前】実験の準備（120 分） 【事後】要点のチェックを提出（120 分）
第 15 回	学習指導案作成	【事前】データをまとめる（120 分） 【事後】指導案作成（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	小学校理科についての知識・技術を高度なレベルで身につけている。
到達目標 2	自発的に学修することができ、それを基に新たな主体的学修へとつなげられる。
到達目標 3	実験等に自発的に取り組み、夢中になって突き詰めていくことができる。その結果からさらなる探求心が生じ、実行に移していくことができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	小学校理科についての知識・技術を高度なレベルで身につけている。
	優	小学校理科についての知識・技術を十分なレベルで身につけている。
	良	小学校理科についての知識・技術を少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	小学校理科についての知識・技術を身につけている。
	不可	小学校理科についての知識・技術を身につけていない。
到達目標 2	秀	自発的に学修することができ、それを基に新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	自発的に学修することができ、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、達成感を得ることができる。
	可	与えられれば学ぶことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに興味が持てない。
到達目標 3	秀	実験等に自発的に取り組み、夢中になって突き詰めていくことができる。その結果からさらなる探求心が生じ、実行に移していくことができる。
	優	実験等に自発的に取り組み、夢中になって突き詰めていくことができる。
	良	実験等にある程度自発的に取り組み、突き詰めていくことができる。
	可	促されれば、ある程度取り組み、突き詰めていくことができる。
	不可	物事に自ら突き詰めていくことができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	60	0	0	0	0	100
到達目標 1	20	15	0	0	0	0	35
到達目標 2	10	15	0	0	0	0	25
到達目標 3	10	30	0	0	0	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験
提出物	毎回の要点チェックを提出・自然観察マップの作成

履修に必要な知識・技能など
意欲を持って積極的に実験に取り組む

教科書・ISBN
使用しません

参考書
『新しい小学校理科・授業づくりと教材研究』星野昌治 編著　東洋館出版社 『小学校学習指導要領解説　理科編』文部科学省　東洋館出版社 『わくわく理科　3年～6年』 啓林館

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
家庭 （E33620）	講義	2	30	2	後期	選択	小教免選択	田中ヒサコ
科目担当者	田中ヒサコ							

授業の概要	今の子どもたちの暮らし方や社会的に課題となっていることを新聞記事やニュースを基に意識しながら、その課題を解決するために子どもたちにどのような学びをさせていけばよいかということを一貫して考えていきたいと思っています。そうして、授業を通して学生の皆さん一人一人が自分の家庭生活（一人暮らしや寮生活）を見つめて生活上の課題を発見し、その課題解決のために具体的な方策を考えて実践し、その結果改善できたことを報告し合って、仲間と共有しながら学び合う楽しさを実感してほしいと思います。 なお当該科目は、教育現場等において小学校教諭の実務経験を有した教員より、授業を通して教育職員に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。
アクティブ・ラーニングの要素	（　）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（レ）課題解決型学習(外部協定　有　・　㊟　) （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	小学校家庭科の役割を知ろう指導要領改訂から見る家庭科教育の変遷を通して役割を考えよう。	【事前】シラバスに目を通しておく（120 分） 【事後】授業内容の確認（120 分）
第 2 回	「家庭生活と家族」 家族と家庭生活の現状と課題を把握し、指導内容を知ろう。	【事前】ニュースや新聞記事を見る（120 分） 【事後】自分の家庭生活を見つめる（120 分）
第 3 回	「快適な衣服と住まい」① 衣生活の現状と課題を把握し衣服の働きや手入れの仕方を理解しよう。	【事前】家庭での洗濯観察（120 分） 【事後】家庭での洗濯実習（120 分）
第 4 回	「快適な衣服と住まい」② 生活に役立つ物の製作の指導と手縫いとミシン縫いの基礎を理解しよう。	【事前】ミシンが有れば試し縫い（120 分） 【事後】衣服の点検（120 分）
第 5 回	「快適な衣服と住まい」③小物を製作しながら、ミシン操作の基礎を身に付けよう。	【事前】裁縫用具の準備（120 分） 【事後】家庭でのミシン縫い実践（120 分）
第 6 回	「快適な衣服と住まい」④ ボタン付けと縫い取りで小物を製作しながら、手縫いの基礎を身に付けよう。	【事前】裁縫用具の準備（120 分） 【事後】日常での手縫い実践（120 分）
第 7 回	「快適な衣服と住まい」⑤ マスコット作りを通して、生活に役立つ物を製作する楽しさを味わおう。	【事前】裁縫用具の準備（120 分） 【事後】マスコットの仕上げ（120 分）
第 8 回	日常の食事と調理の基礎① 食生活の現状と課題を把握し、小学校で取り扱う内容を理解しよう。	【事前】食生活に関する記事の点検（120 分） 【事後】自分の食生活の課題把握（120 分）
第 9 回	日常の食事と調理の基礎② 学校現場で実際に行われている食育を体験し、5 大栄養素の働きを理解しよう。	【事前】1 週間の朝食をメモしておく（120 分） 【事後】食生活で実行できる改善策（120 分）
第 10 回	日常の食事と調理の基礎③ 卵と野菜の食品価値と調理方法を知ろう。	【事前】卵料理の調理方を調べる（120 分） 【事後】調理実習計画表の確認（120 分）
第 11 回	日常の食事と調理の基礎④ グループの仲間と協力して卵と野菜の調理実習をしよう。	【事前】エプロン・三角巾等の準備（120 分） 【事後】各自家庭で調理の実践（120 分）
第 12 回	快適な住まい方や着方　住まい方の工夫（採光・通風・換気等）と整理整とんの仕方を理解しよう。	【事前】部屋の明るさを意識する（120 分） 【事後】自分の部屋の整理整とん（120 分）
第 13 回	身近な消費生活と環境消費生活の現状と課題を把握し、自分の消費生活を振り返ろう。	【事前】消費者トラブル例の点検（120 分） 【事後】消費生活の改善（120 分）

第 14 回	実践報告会各自生活課題の中から具体的に改善策を考えて取り組んだことを報告しよう。	【事前】報告内容をまとめる（120 分） 【事後】友達の報告を参考に実践（120 分）
第 15 回	まとめ前期に学び得たことを振り返り、互いに共有する。	【事前】作成したポートフォリオを基に授業全体を振り返る（120 分） 【事後】全授業内容の確認（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	日々社会的なニュースに関心を寄せて、家庭生活、衣生活、食生活、住生活、消費生活において子どもたちの置かれている現状と課題を把握し、指導上の留意点を理解することができる。
到達目標 2	家庭・衣食住・消費生活において学生自身の生活を見つめて課題を認識し、具体的な課題解決策を考えて実践し、報告会でみんなが共有できるように伝えることができる。
到達目標 3	グループで協力してミシン実習や調理実習を行って実習の楽しさを味わいながら、児童の安全に配慮した指導のポイントをつかむことができる。
到達目標 4	他者の立場やその人の価値観を十分に理解した上で、相手の考えや思いを共感し、開くことができる。
到達目標 5	意欲的に周囲と強調することができ、周囲のモチベーションを上げ、結果として有意義な実践を可能とすることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	学びを通して自分の日常生活（家族・衣・食・住・消費生活）に適切に疑問を持ち、日ごろから客観的に検証し、さらなる望ましい日常生活の行動へとつなげることができる。
	優	学びを通して自分の日常生活（家族・衣・食・住・消費生活）を振り返り、課題を把握して改善しようと具体的に行動することができる。
	良	学びを通して自分の日常生活（家族・衣・食・住・消費生活）を振り返り、課題解決策を考えて実行することができる。
	可	学んだことと自分の日常生活を結び付けて課題を把握することはできるが、具体的な解決策を考え実行に移すことが難しい。
	不可	学んだことと自分の日常生活を結び付けて課題を認識することができず、改善できない。
到達目標 2	秀	意欲的に様々な知識や考えを総合して、課題解決策を具体的にデザインすることができる。解決策は本人にとっても他者にとっても十分高いレベルで実行可能なものである。さらにその策を発信することで他者と共有し、より高めることができる。
	優	意欲的に様々な知識や考えを総合して、課題解決策を具体的にデザインすることができる。解決策は本人にとっても他者にとっても十分実行可能なものである。解決策を発信することで他者と共有し、より高めることができる。
	良	学び得た知識や考えを統合して、課題解決策を具体的にデザインすることができる。解決策は本人にとっても他者にとっても実行可能なものである。
	可	学び得た知識や考えを統合して、課題解決策をデザインすることができる。
	不可	課題解決策をデザインすることができない。
到達目標 3	秀	自らの取り組みに対する思いや工夫点を示しつつ、それが生活改善にどのような意味があるのかも含めて、客観的に分かりやすく伝えることができる。
	優	自らの取り組みに対する思いや工夫点を示しつつ、それが生活改善にどのような意味があるのかも含めて、具体的に伝えることができる。
	良	自らの取り組みに対する思いや工夫点を、具体的に伝えることができる。
	可	自らの取り組みに対する思いや工夫点を、そのまま伝えている。
	不可	他者に対して自らの思いや取り組みを伝えることができない。

到達目標４	秀	他者の立場やその人の価値観を十分理解した上で、相手の考えや思いを共感的に聴くことができる。そうして、相手に分かりやすい言葉で会話することができる。
	優	他者の立場やその人の価値観を理解した上で共感的に聴くことができる。そうして、相手に分かりやすい言葉で会話することができる。
	良	他者の立場に立って話を聴くことができる。そうして、相手に分かりやすい言葉で会話することができる。
	可	他者の話を聞いて会話することができる。
	不可	他者の話は聞くが、会話することができない。
到達目標５	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がり、結果として有意義な実践が可能となる。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	協働･協調への意識は薄いが、他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協働･協調的に作業することはできる。
	不可	協働・協調する意思がなく、周囲のモチベーションを下げてしまう。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	20	20	20	20	20	0	100
到達目標１	20	20	0	0	10	0	50
到達目標２	0	0	0	10	10	0	20
到達目標３	0	0	10	0	0	0	10
到達目標４	0	0	10	0	0	0	10
到達目標５	0	0	0	10	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は､授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を行う。
提出物	次回までに取り組んでくるよう指示された課題に取り組み、提出されたかどうかを評価する。ポートフォリオとして蓄積する書類のファイリングが正しくなされているか評価する。
成果発表（口頭・実技）	9 回、13 回、特に 14 回の授業で行う発表（プレゼンテーション）を評価する。評価は、学生の相互評価と教員による 2 つの評価がある。
作品	実習時までに用意するよう指示されていた準備物が整っているか評価する。作品の製作過程と出来上がった作品（ミシン縫いで製作する小物、手縫いの基本練習を兼ねて製作する小物、生活に役立つことを考えて製作したマスコット）を見て、学びのねらいが達成できているかを評価する。
ポートフォリオ	各自が授業で取り組むワークシートと、取り組みを自ら評価する振り返り票を、それぞれの学びの成果として蓄積していく。ポートフォリオ評価では、教員がその蓄積された学びの成果を公平な観点から評価する。正当な理由なく、ワークシートや振り返り票が欠落していたり、他者が記入したワークシートのコピーを代用したりしている場合は、減点の対象となる。

履修に必要な知識・技能など
この授業では、一貫して家庭生活に関する今日的課題を意識しながら学んでいきます。そのために社会的なニュースに関心を持ち、情報が共有できるように心がけて欲しいと思っています。授業での学びと自分の日常生活を照らし合わせて課題を見つけ、課題解決の方策を各自で考えて実践し、14 回目に実践報告会を行います。また、調理実習や裁縫の実習時はグループで活動することを基本とします。安全に留意して楽しい実習ができることを心がけてください。

教科書・ISBN
9784487105908　『新しい家庭　5・6』　東京書籍

参考書
『小学校学習指導要領解説（家庭編）』　文部科学省　東洋館出版社

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
小学校英語（E33630）	講義	2	30	2	前期	選択	小教免必修	脇本聡美
科目担当者	脇本聡美							

授業の概要	1）小学校の「外国語活動」・「外国語」の授業実践に必要な英語力と知識を、授業場面を意識しながら身につける。 2）小・中学校の接続も踏まえながら、小学校における「外国語活動」・「外国語科」の授業を担当するために必要な英語に関する背景的な知識を身につける。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション / 英語の基礎的知識の確認	【事前】シラバスを読む（120 分） 【事後】英語の基礎的知識について復習（120 分）
第 2 回	英語音声の特徴について① / 英語絵本について	【事前】Listening Unit 1（120 分） 【事後】英語絵本のレポート作成（120 分）
第 3 回	英語の音声的特徴について② / Nursery rhymes について	【事前】Listening Unit 2（120 分） 【事後】英語の音声的特徴について復習（120 分）
第 4 回	子どもの第二言語習得について / 英語活動の授業映像を視聴	【事前】Listening Unit 3/ Small talk の原稿作成（120 分） 【事後】視聴した授業についてのレポート（120 分）
第 5 回	英語の文法・正書法の確認 / 英語絵本を使った英語学習について	【事前】Listening Unit 4 （120 分） 【事後】小テスト準備 （120 分）
第 6 回	小テスト / 英語絵本を使った活動をグループワークで作成（選本）	【事前】Listening Unit 5（120 分） 【事後】グループワークのまとめ / Small talk 原稿手直し、スライド作成（120 分）
第 7 回	異文化理解についてグループワーク	【事前】Listening Unit 6（120 分） 【事後】異文化理解についてのレポート （120 分）
第 8 回	英語絵本を使った活動をグループワークで作成①（ディスカッション）	【事前】Listening Unit 7（120 分） 【事後】Small talk（音声ファイル付き）を manaba に提出（120 分）
第 9 回	英語絵本を使った英語学習活動をグループワークで作成（ディスカッション）②	【事前】Listening Unit 8 （120 分） 【事後】クラスメートの Small talk を視聴し、コメントする / グループで模擬授業リハーサル（120 分）
第 10 回	英語絵本を使った英語活動の模擬授業①（グループ A・B）	【事前】Listening Unit 9（120 分） 【事後】グループで模擬授業リハーサル （120 分）
第 11 回	英語絵本を使った英語活動の模擬授業②	【事前】Listening Unit 10（120 分） 【事後】グループで模擬授業リハーサル （120 分）
第 12 回	英語絵本を使った英語活動の模擬授業③	【事前】Listening Unit 11（120 分） 【事後】模擬授業振り返り（120 分）

第 13 回	英語絵本を使った英語活動の模擬授業の振り返りとまとめ	【事前】Listening Unit 12（120 分） 【事後】Authentic 教材を使った英語活動についてレポート（120 分）
第 14 回	英語の基礎的知識の確認 / まとめ	【事前】Listening Unit 13（120 分） 【事後】英語絵本読み聞かせ練習（120 分）
第 15 回	英語絵本読み聞かせテスト	【事前】Listening Unit 14（120 分） 【事後】授業の振り返り / テスト準備（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	授業実践に必要な英語力（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）を身につける
到達目標 2	英語に関する基本的な事柄（音声・語彙・文構造・文法・正書法等）について理解する
到達目標 3	第二言語習得に関する基本的な事柄について理解する
到達目標 4	児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）について理解する
到達目標 5	異文化理解に関する事柄について理解する

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	授業実践に必要な英語力（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）を十分身につけている
	優	授業実践に必要な英語力（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）を身につけている
	良	授業実践に必要な英語力（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）をある程度身につけている
	可	授業実践に必要な英語力（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）を最低限身につけている
	不可	授業実践に必要な英語力（聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと）を身につけていない
到達目標 2	秀	英語に関する基本的な事柄（音声・語彙・文構造・文法・正書法等）について十分理解している
	優	英語に関する基本的な事柄（音声・語彙・文構造・文法・正書法等）について理解している
	良	英語に関する基本的な事柄（音声・語彙・文構造・文法・正書法等）についてある程度理解している
	可	英語に関する基本的な事柄（音声・語彙・文構造・文法・正書法等）について最低限理解している
	不可	英語に関する基本的な事柄（音声・語彙・文構造・文法・正書法等）について十分理解していない
到達目標 3	秀	第二言語習得に関する基本的な事柄について十分理解している
	優	第二言語習得に関する基本的な事柄について理解している
	良	第二言語習得に関する基本的な事柄についてある程度理解している
	可	第二言語習得に関する基本的な事柄について最低限理解している
	不可	第二言語習得に関する基本的な事柄について十分理解していない
到達目標 4	秀	児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）について十分理解している
	優	児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）について理解している
	良	児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）についてある程度理解している
	可	児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）について最低限理解している
	不可	児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）について理解していない
到達目標 5	秀	異文化理解に関する事柄について十分理解している
	優	異文化理解に関する事柄について理解している
	良	異文化理解に関する事柄についてある程度理解している
	可	異文化理解に関する事柄について最低限理解している
	不可	異文化理解に関する事柄について十分理解していない

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	30	20	0	0	10	100
到達目標１	10	10	4	0	0	5	29
到達目標２	15	5	3	0	0	0	23
到達目標３	5	0	3	0	0	5	13
到達目標４	5	5	10	0	0	0	20
到達目標５	5	10	0	0	0	0	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験を行う
提出物	レポート
成果発表（口頭・実技）	英語絵本を教材とした活動の発表と読み聞かせ
その他	小テスト

履修に必要な知識・技能など
小学校英語教育についての背景的理解を深め、授業実践のための英語力を身につけるために、主体的に学ぶ意欲と態度が求められる。

教科書・ISBN
9784777360147　Cubic Listening Surprise, Surprise. Timothy Kiggell Macmillan Languagehouse.

参考書
『アメリカの小学校ではこうやって英語を教えている―英語が話せない子どものための英語習得プログラム　ライミング編 』リーパーすみ子著 径書房 『小学校におけるプロジェクト型英語活動の実践と評価』東野裕子 高島英幸著 高陵社 『[小学校] 英語活動ネタのタネ』小泉清裕著 アルク 『はじめてのジョリーフォニックス ―ティーチャーズブック』ジョリーフォニックス社

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教科指導法（生活）（E33730）	講義	2	30	2	後期	選択	小教免必修	山田希代子
科目担当者	山田希代子							

授業の概要	生活科は、子どもの実態に即し地域の特色を踏まえた教材を開発し、指導計画を立てて保護者や地域の人々の理解と協力を得て進めていく教科である。全ての学びの基礎となる重要な役割を担っている教科でもある。その特性を理解し、指導するために必要な資質や技能を身につける。 なお当該科目は、教育現場等において小学校教諭の実務経験を有した教員より、授業を通して教育職員に必要な諸能力や知識・技能等について学ぶ。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	公立小学校教員・教頭・校長、小学校教育研究会部長（生活・総合的な学習部） 実務経験を生かして教授する。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	ガイダンスおよび生活科設立と改訂の趣旨	【事前】シラバス内容の熟読（120 分） 【事後】学修内容・学習計画の確認（120 分）
第 2 回	生活科の目標と特質	【事前】小学校学習指導要領解説　生活編　目標の予習（120 分） 【事後】授業内容の確認とまとめ（120 分）
第 3 回	生活科の内容構成と学習指導	【事前】学習指導要領　生活編　9 つの内容の情報収集（120 分） 【事後】授業内容の確認とまとめ（120 分）
第 4 回	地域教材の教材化体験	【事前】授業内容について情報収集（120 分） 【事後】授業内容の確認とまとめ（120 分）
第 5 回	指導計画作成上の留意点と評価のあり方	【事前】授業内容について情報収集（120 分） 【事後】授業内容の確認とまとめ（120 分）
第 6 回	年間指導計画作成の留意点及び単元計画作成の配慮事項	【事前】授業内容について情報収集（120 分） 【事後】配布資料の熟読（120 分）
第 7 回	生活科教科書で年間指導計画作成	【事前】授業内容について情報収集（120 分） 【事後】授業内容の確認とまとめ（120 分）
第 8 回	単元計画づくりと発表・相互評価	【事前】授業内容について情報収集（120 分） 【事後】授業内容の確認とまとめ（120 分）
第 9 回	「町探検」単元計画案づくりと発表・相互評価	【事前】「町探検」授業の情報収集（120 分） 【事後】次回までに指示された課題（120 分）
第 10 回	「町探検」学習指導案づくりと模擬授業準備	【事前】課題についての仕上げ（120 分） 【事後】模擬授業準備（120 分）
第 11 回	模擬授業「町探検」自己評価・相互評価模擬授業振り返り改善に向けたグループ討議	【事前】模擬授業準備（120 分） 【事後】模擬授業振り返り（120 分）
第 12 回	改善後模擬授業「町探検」グループでの振り返り	【事前】改善模擬授業準備（120 分） 【事後】次回までに指示された課題（120 分）
第 13 回	「うごくおもちゃ」教材づくりと指導案作成	【事前】教材づくりとプレゼンテーション準備（120 分） 【事後】学習内容の確認とまとめ（120 分）

第 14 回	「家族」教材づくりと指導案作成	【事前】「家族」授業の情報収集（120 分） 【事後】模擬授業準備（120 分）
第 15 回	模擬授業「家族」自己評価・相互評価、 「生活科」のまとめと確認	【事前】模擬授業準備（120 分） 【事後】授業全体のまとめと振り返り（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	生活科の特質・目標及び内容を理解する。
到達目標 2	授業づくりに必要な知識・技能・教材開発について理解し、授業設計をすることができる。
到達目標 3	模擬授業を通して、生活科指導の具体的な手立てを体験し、向上心をもって改善しようとしている。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	生活科の特質・目標及び内容を十分なレベルで理解し、授業に十分に活用することができる。
	優	生活科の特質・目標及び内容を十分なレベルで理解し、授業に活かすことができる。
	良	生活科の特質・目標及び内容を理解している。2 項目を十分なレベルで理解している。
	可	生活科の特質・目標及び内容の概ねを理解している。
	不可	生活科の特質・目標及び内容を理解していない。
到達目標 2	秀	授業づくりに必要な知識・技能・教材開発について十分理解し、子どもの思い・願いを中心とした展開の授業設計をすることができている。
	優	授業づくりに必要な知識･技能･教材開発のについて十分理解し､授業設計をすることができている。
	良	授業づくりに必要な知識・技能・教材開発の 2 項目について十分理解し、授業設計をすることができている。
	可	授業づくりに必要な知識･技能･教材開発にについて概ね理解し､授業設計をすることができている。
	不可	授業づくりに必要な知識・技能・教材開発にについて理解できていない。
到達目標 3	秀	模擬授業を通して、生活科指導の具体的な手立てを体験し、自分の課題に対し解決のための様々な方法を考えると同時に他者のよさも取り入れながら改善しようとしている。
	優	模擬授業を通して、生活科指導の具体的な手立てを体験し、自分の課題に対し、他者のよさを取り入れながら改善しようとしている。
	良	模擬授業を通して、生活科指導の具体的な手立てを体験し、自分の課題を見付け改善しようとしている。
	可	模擬授業を通して、生活科指導の具体的な手立てを体験し、向上心をもって改善しようとしている。
	不可	模擬授業を通して、生活科指導の具体的な手立てを体験しているが、自分の課題を見付け改善するまでには至っていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 （口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	30	10	20	30	0	10	100
到達目標 1	20	0	0	10	0	0	30
到達目標 2	10	10	0	20	0	0	40
到達目標 3	0	0	20	0	0	10	30

※評価項目で示す評価割合は､授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を行う。
提出物	指示された課題の内容を評価する。
成果発表（口頭・実技）	模擬授業等を評価する。自己評価・相互評価を加味する。
作品	年間指導計画案・単元計画案・学習指導案等の内容を評価する。
その他	グループワークでの協調性・協働性や学修の取組への意欲を評価する。

履修に必要な知識・技能など
資料や教材、授業ビデオ等を活用して生活科の根幹を分かりやすく解説し、学校現場での生活科学習活動に即した活動や体験を取り入れて授業を進める。子どもの立場に立って、発想豊かに、想像力を培っていく努力をすること。

教科書・ISBN
9784491034645　『小学校学習指導要領解説　生活編』文部科学省　平成 29 年 6 月告示　東洋館出版社

参考書
生活科教科書

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教科指導法（音楽）（E33760）	講義	2	30	2	後期	選択	小教免必修	瀬川和子
科目担当者	瀬川和子							

授業の概要	学校音楽科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された音楽科の学習内容についての背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	教科指導法音楽科の果たす役割について	【事前】シラバスを熟読して次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】授業内容の振り返り（120 分）
第 2 回	学習指導要領（音楽）の目標と内容	【事前】授業テーマについて調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り（120 分）
第 3 回	表現のための理論と基本技術の研究　低学年の歌唱共通教材と歌唱指導法の研究①	【事前】授業テーマについて調べる（120 分） 【事後】低学年授業内容の振り返り（120 分）
第 4 回	表現のための理論と基本技術の研究　中学年の歌唱共通教材と歌唱指導法の研究②	【事前】授業テーマについて調べる（120 分） 【事後】中学年授業内容の振り返り（120 分）
第 5 回	表現のための理論と基本技術の研究　高学年の歌唱共通教材と歌唱指導法の研究③	【事前】授業テーマについて調べる（120 分） 【事後】高学年授業内容の振り返り（120 分）
第 6 回	鑑賞共通教材の研究①　器楽合奏指導法の研究①リズム楽器の奏法　音楽作り①歌詞	【事前】授業テーマについて調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り（120 分）
第 7 回	鑑賞共通教材の研究②　器楽合奏指導法の研究②リコーダーの奏法　音楽作り②旋律	【事前】授業テーマについて調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り（120 分）
第 8 回	鑑賞共通教材の研究③　器楽合奏指導法の研究③指揮法音楽作り③発表	【事前】授業テーマについて調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り（120 分）
第 9 回	指導計画の作成①課題設定と授業展開の事例研究　ICT 機器の利用	【事前】授業テーマについて調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り（120 分）
第 10 回	指導計画の作成②指導案作成の実際	【事前】授業テーマについて調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り（120 分）
第 11 回	指導計画の作成③学ぶ意欲を高める評価方法	【事前】授業テーマについて調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り（120 分）
第 12 回	学生による模擬授業の実践①低学年と振り返り	【事前】授業テーマについて調べる（120 分） 【事後】低学年授業内容の振り返り（120 分）
第 13 回	学生による模擬授業の実践②中学年と振り返り	【事前】授業テーマについて調べる（120 分） 【事後】中学年授業内容の振り返り（120 分）
第 14 回	学生による模擬授業の実践③高学年と振り返り	【事前】授業テーマについて調べる（120 分） 【事後】高学年授業内容の振り返り（120 分）
第 15 回	学生による模擬授業の実践歌唱共通教材の確認	【事前】授業テーマについて調べる（120 分） 【事後】授業内容の振り返り（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	学習指導要領に示された音楽科の目標や内容を理解すること。
到達目標 2	基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけること。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	音楽について自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	音楽を自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	音楽をある程度自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出すことができる。
	可	音楽を学ぶ中で、愉しさと悦びを見出すことができる。
	不可	音楽を学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを見出すことができない。
到達目標 2	秀	音楽科の目標及び内容について、学びをきっかけにして授業方法を発展的に考えようとしている。
	優	音楽科の目標及び内容について、充分理解し授業方法に活用できる。
	良	音楽科の目標及び内容について、理解し授業方法に活用できる。
	可	音楽科の目標及び内容について、理解している。
	不可	音楽科の目標及び内容についての理解が不充分である。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	10	20	0	10	0	100
到達目標 1	30	5	10	0	5	0	50
到達目標 2	30	5	10	0	5	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験を行う。学習指導要領の理解と授業を通して学んだ知識・指導面の活用力を確認する。
提出物	作成した指導案
成果発表（口頭・実技）	指導上の今日的課題をグループ検討し、結果を分担して口頭発表する。
ポートフォリオ	・授業の資料、収集した資料などのファイル・各回の授業で学んだこと、習得したことと課題などについて振り返り記述する。

履修に必要な知識・技能など
1）学習指導要領に示された音楽科の目標や内容を理解すること。 2）基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけること。

教科書・ISBN
9784276821026　『最新　初等科音楽教育法　［改訂版］小学校教員養成課程用』音楽之友社

参考書
『小学校学習指導要領解説（音楽編）』文部科学省

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教科指導法（図画工作）（E33770）	講義	2	30	2	後期	選択	小教免必修	藤本由佳利
科目担当者	藤本由佳利							

授業の概要	小学校図画工作科を指導するにあたっては、「生きる力」を育むための 3 つの柱を理解したうえで、小学校学習指導要領に基づいた図画工作科の意義や目的・内容についての理解を深めなければならない。基本的な学習指導理論をふまえ、基礎知識・技術を身につけながら、授業作りの発想と実践力を培うことを目指す。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	小学校学習指導要領　図画工作の目標及び内容について	【事前】シラバスを熟読して次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】授業の目標と内容についての課題に対する確認（120 分）
第 2 回	表現及び鑑賞について　図画工作科指導のねらいと評価	【事前】小学校学習指導要領（図画工作）・配布資料の読解（120 分） 【事後】授業ノートの作成・提出（120 分）
第 3 回	絵や立体　第 1・2 学年の教材研究描画、紙版画など「感性や想像力を働かせる」	【事前】小学校学習指導要領（図画工作）・配布資料の読解（120 分） 【事後】授業ノート（指導案含む）の作成・提出（120 分）
第 4 回	絵や立体　第 1・2 学年の指導法の研究	【事前】小学校学習指導要領（図画工作）・配布資料の読解（120 分） 【事後】授業ノート（指導案含む）の作成・提出（120 分）
第 5 回	造形遊び　第 1・2 学年の教材研究　粘土など「対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉える」	【事前】小学校学習指導要領（図画工作）・配布資料の読解（120 分） 【事後】授業ノート（指導案含む）の作成・提出（120 分）
第 6 回	造形遊び　第 1・2 学年の指導法の研究	【事前】小学校学習指導要領（図画工作）・配布資料の読解（120 分） 【事後】授業ノート（指導案含む）の作成・提出（120 分）
第 7 回	材料・用具の使い方　第 3・4 学年の教材研究　水彩絵具、木切れ、板材、鋸、金槌、釘「自分のイメージを持ちながら意味や価値をつくりだすこと」	【事前】小学校学習指導要領（図画工作）・配布資料の読解（120 分） 【事後】授業ノートの作成・提出（120 分）
第 8 回	材料・用具の使い方　第 3・4 学年の指導法の研究	【事前】小学校学習指導要領（図画工作）・配布資料の読解（120 分） 【事後】授業ノート（指導案含む）の作成・提出（120 分）

第 9 回	版の表現　　第 3・4 学年の教材研究「表現及び鑑賞の活動を通して」	【事前】小学校学習指導要領（図画工作）・配布資料の読解（120 分） 【事後】授業ノート（指導案含む）の作成・提出（120 分）
第 10 回	版の表現　第 3・4 学年の指導法の研究	【事前】小学校学習指導要領（図画工作）・配布資料の読解（120 分） 【事後】授業ノート（指導案含む）の作成・提出（120 分）
第 11 回	工作　第 5・6 学年の教材研究　電動糸鋸など「造形的な見方・感じ方を深める」	【事前】小学校学習指導要領（図画工作）・配布資料の読解（120 分） 【事後】授業ノートの作成・提出（120 分）
第 12 回	工作　第 5・6 学年の指導法の研究	【事前】小学校学習指導要領（図画工作）・配布資料の読解（120 分） 【事後】授業ノート（指導案含む）の作成・提出（120 分）
第 13 回	鑑賞「生活の中の造形」第 5･6 学年の高学年の教材研究　「生活や社会の中の色や形などと豊かに関わる」	【事前】小学校学習指導要領（図画工作）・配布資料の読解（120 分） 【事後】授業ノート（指導案含む）の作成・提出（120 分）
第 14 回	鑑賞　第 5・6 学年の指導法の研究	【事前】小学校学習指導要領（図画工作）・配布資料の読解（120 分） 【事後】授業ノート（指導案含む）の作成・提出（120 分）
第 15 回	図画工作科指導計画と配慮事項、評価について 学修の到達目標の確認	【事前】小学校学習指導要領（図画工作）・配布資料の読解（120 分） 【事後】授業を振り返り学びを確認する（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	小学校学習指導要領に基づいて図画工作科の意義や目的・内容を理解できる。（専門力）
到達目標 2	教材研究・制作を楽しみながら、基本的能力を身に着けている。（表現力）
到達目標 3	グループで協力しながら、授業作りの発想と実践力を培っている。（協調性・協働性）

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	小学校学習指導要領に基づいて図画工作科の意義や目的・内容を充分に理解し、考えを深めることができる。
	優	小学校学習指導要領に基づいて図画工作科の意義や目的・内容を理解し、考えを深めることができる。
	良	小学校学習指導要領に基づいて図画工作科の意義や目的・内容を理解できる。
	可	小学校学習指導要領に基づいて図画工作科の意義や目的･内容を理解しようとする努力がみられる。
	不可	小学校学習指導要領に基づいて図画工作科の意義や目的・内容を理解しようとする努力がみられない。
到達目標 2	秀	教材研究・制作を楽しみながら、基本的能力を充分に身に着けて発展させることができる。
	優	教材研究・制作を楽しみながら、基本的能力を充分に身に着けている。
	良	教材研究・制作を楽しみながら、基本的能力を身に着けている。
	可	教材研究・制作に取り組み、基本的能力を身に着けようとしている。
	不可	教材研究・制作に取り組めず、基本的能力を身に着けることができない。

到達目標３	秀	グループで協力しながら他者の発言も傾聴し自分の考えも伝えながら、授業作りの発想と実践力を充分に培っている。
	優	グループで協力しながら他者の発言も傾聴し自分の考えも伝えながら、授業作りの発想と実践力を培っている。
	良	グループで協力しながら、授業作りの発想と実践力を培っている。
	可	グループで協力しながら、授業作りの発想と実践力を培おうとする努力が見られる。
	不可	グループで協力できず、授業作りの発想と実践力を培うことができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	30	30	40	0	0	0	100
到達目標１	30	15	20	0	0	0	65
到達目標２	0	15	20	0	0	0	35

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	学期末のレポート試験
提出物	課題、レポート
成果発表（口頭・実技）	グループワーク課題の発表

履修に必要な知識・技能など
1）小学校現場に積極的に関わり、小学生の造形活動について理解を深める。 2）小学校教諭を目指すものとして、自覚と品性を持って授業に臨むこと。 3）身近にある造形素材や用具に親しみ、小学校図画工作科授業に関わる教材研究をする。

教科書・ISBN
9784536590112　『小学校学習指導要領解説　図画工作』　文部科学省　日本文教出版

参考書
適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
野外あそび実践（E34020）	演習	1	30	2	後期	選択必修	—	清水勲夫
科目担当者	清水勲夫							

授業の概要	「あそび」とは、子どもの自己活動に対してつけられた名前であることを理解し、それは決して大人の考える望ましい目的への手段ではなく、子どもにとってやりたいこと自身であるという基本から出発し、今日の子どもたちのくらしの現状から、健全な心身の成長を促す「あそび」の意味や支援の方法について学ぶ。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	≪オリエンテーション≫　授業のねらいと計画 子どもとあそび　～心身の成長と発達課題～	【事前】シラバスによく目を通しておくこと 【事後】最終講までの予定を確認
第 2 回	あそびの発達と環境について （第 2 回、第 3 回は連続して実施）	【事前】子どものくらしと環境を身近リサーチ 【事後】体験した「あそび」の整理
第 3 回	あそびの実際と展開 一人あそびから平行、連合、集団あそびへ	【事前】なるべく動きやすい服装にて 【事後】体験した「あそび」の整理
第 4 回	安全管理と安全教育　リスクマネジメント （第 4 回、第 5 回は連続して実施）	【事前】子どものあそび、くらしの事故事例チェッ 【事後】体験した「あそび・演習」の整理
第 5 回	グループ編成、チームづくり、合宿ガイダンス （第 4 回、第 5 回は連続して実施）	【事前】宿泊実習参加者は必ず出席 【事後】体験した「あそび・演習」の整理
第 6 回	【宿泊実習】野外あそびの実際：自然のフィールドを使って自然観察、あそび体験学習、野外炊さんやクラフト等実施。 ＊レポート課題提示	【事前】持ち物、集合時間の確認、事前体調管理 【事後】体験した活動を記録して整理課題レポート作成
第 7 回	【宿泊実習】野外あそびの実際：自然のフィールドを使って自然観察、あそび体験学習、野外炊さんやクラフト等実施。 ＊レポート課題提示	【事前】持ち物、集合時間の確認、事前体調管理 【事後】体験した活動を記録して整理課題レポート作成
第 8 回	【宿泊実習】野外あそびの実際：自然のフィールドを使って自然観察、あそび体験学習、野外炊さんやクラフト等実施。 ＊レポート課題提示	【事前】持ち物、集合時間の確認、事前体調管理 【事後】体験した活動を記録して整理課題レポート作成
第 9 回	【宿泊実習】野外あそびの実際：自然のフィールドを使って自然観察、あそび体験学習、野外炊さんやクラフト等実施。 ＊レポート課題提示	【事前】持ち物、集合時間の確認、事前体調管理 【事後】体験した活動を記録して整理課題レポート作成
第 10 回	【宿泊実習】野外あそびの実際：自然のフィールドを使って自然観察、あそび体験学習、野外炊さんやクラフト等実施。 ＊レポート課題提示	【事前】持ち物、集合時間の確認、事前体調管理 【事後】体験した活動を記録して整理課題レポート作成
第 11 回	【宿泊実習】野外あそびの実際：自然のフィールドを使って自然観察、あそび体験学習、野外炊さんやクラフト等実施。 ＊レポート課題提示	【事前】持ち物、集合時間の確認、事前体調管理 【事後】体験した活動を記録して整理課題レポート作成
第 12 回	【宿泊実習】野外あそびの実際：自然のフィールドを使って自然観察、あそび体験学習、野外炊さんやクラフト等実施。 ＊レポート課題提示	【事前】持ち物、集合時間の確認、事前体調管理 【事後】体験した活動を記録して整理課題レポート作成

第 13 回	【宿泊実習】野外あそびの実際：自然のフィールドを使って自然観察、あそび体験学習、野外炊さんやクラフト等実施。 ＊レポート課題提示	【事前】持ち物、集合時間の確認、事前体調管理 【事後】体験した活動を記録して整理課題レポート作成
第 14 回	【宿泊実習】野外あそびの実際：自然のフィールドを使って自然観察、あそび体験学習、野外炊さんやクラフト等実施。 ＊レポート課題提示	【事前】持ち物、集合時間の確認、事前体調管理 【事後】体験した活動を記録して整理課題レポート作成
第 15 回	学習のふり返り　指導者支援者としてのこれから	【事前】これまでの資料、ノートのチェック 【事後】学びのポイントを今後に生かすために整理

学修の到達目標	
到達目標 1	子どもたちの心身の成長について、積極的な関心と明確な理念をもち、現場では子どもたちに寄り添い、温かく接することの出来る指導者としての人格、資質を目指す。今日の社会について考えることは、自らに対する厳しい視点もまた必要となる。 学習を通して人、社会、自然とのかかわり等、また環境問題等への関心や問題意識も深めてもらえたらと思う。
到達目標 2	状況判断と選択した行動の遂行から経験を活かし、創造力を持って取り組んでいる。
到達目標 3	意欲的に授業に参加し、周囲のメンバーとともに有意義な成果を得られている。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	課題に対する考え方や理念が明確で、実際指導の場面では安全に配慮し、柔軟に指導出来る
	優	野外、自然のゲレンデで、現場の個性や特徴を生かし、安全で楽しいプログラムが指導出来る
	良	知識、技能をさらに高め、深めたいという前向きな態度や意欲がある
	可	必要な知識、技能そして態度は十分とはいえないが、基本はほぼ身に着けている
	不可	興味、関心のレベルでの反応が主で、指導者を目指すという姿勢が見られない
到達目標 2	秀	状況判断と選択した行動の遂行からさらにその経験を生かし、次の行動に創造的に取り組める
	優	直観、判断力を駆使しながら、自力で一連の行動が取れ、仲間への説得力、影響力も見られる
	良	持っている知識やその場から得られる情報を統合し、自力で適切な判断や行動がほぼ出来ている
	可	他者からの助言や援助のもとに、その場で求められる判断、態度、行動がそれなりに取れる
	不可	観察力が弱く、適切な状況判断が出来ていない
到達目標 3	秀	高いモチベーションを周囲とも共有でき、影響や変化を与え、有意義な成果も得られている
	優	モチベーションがあり、周りにもその影響を与え、相互に連動させることが出来ている
	良	自発的に、また一過性でなく、周囲と協調、協働することがほぼ来ている
	可	マイペースで積極性はあまり見られないが仲間、一員として共に行動することは出来ている
	不可	協調、協働する意識、行動にやや欠け、他のメンバーへの協調や関心も一時的で低い

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 （口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	0	0	0	0	40	100
到達目標 1	40	0	0	0	0	5	45
到達目標 2	10	0	0	0	0	15	25
到達目標 3	10	0	0	0	0	20	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を実施する。学習全体を通して学んだこと気づいたこと、そして考えたこと等を中心に「あそびの支援者・仕掛人」としての思いや考え、方向性や手だて等について、今日社会への自分なりの問題提起も意識しながら作成する。これらを総合的に評価する。支援者としての子どもたちへの思い、熱い眼差しを期待したい。
その他	演習を伴った授業及び、宿泊実習のワークショップ等への参加態度により、評価する。特に宿泊実習では、集団生活態度、生活マナー等の基礎的教養の有無やそのレベルに要注意。自己管理に難のある人は、子どもたちへの支援者、指導者には基本的に不向きです。

履修に必要な知識・技能など
誰もが嫌いではない「あそび」を教育、育成の手法として扱います。ただ遊ぶのではなく、その意味や効果、また子どもたちにとっての意味や価値について考え、支援することのできる大人を目ざします。前向きな問題意識をもって臨んでください。

教科書・ISBN
使用しません。

参考書
参考文献は随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
カウンセリングの技法 （E34070）	演習	1	30	2	前期	選択必修	保育士選択必修 幼教免選択 小教免選択	柳原利佳子
科目担当者	柳原利佳子							

授業の概要	カウンセリングの諸理論を概説する。また、ピアヘルピングのスキルを通して、カウンセリングマインドを実践的に体得するための演習を実施する。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	構成的グループエンカウンター（SGE）とは	【事前】シラバス内容を熟読する、構成的グループエンカウンターについて調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 2 回	カウンセリングとは？	【事前】カウンセリングについて調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 3 回	カウンセリングを支える理論①（自己理論・精神分析理論）	【事前】自己理論・精神分析理論について調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 4 回	カウンセリングを支える理論②（行動理論･論理療法の理論）	【事前】行動理論・論理療法の理論について調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 5 回	ピアヘルピングのプロセス	【事前】ピアヘルピングのプロセスについて調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 6 回	ピアヘルピングの言語的技法（小テスト 1：第 1 回～第 5 回まで）	【事前】第 1 回～第 5 回までの復習および小テスト対策、ピアヘルピングの言語的技法について調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 7 回	ピアヘルピングの非言語的技法	【事前】ピアヘルピングの非言語的技法について調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 8 回	対話上の諸問題への対処法	【事前】対話上の諸問題への対処法について調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）

第 9 回	ピアヘルパーの心がまえ	【事前】ピアヘルパーの心がまえについて調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 10 回	ピアヘルパーの倫理綱領（小テスト 2：第 6 回～第 9 回まで）	【事前】第 6 回～第 9 回までの復習および小テスト対策、ピアヘルパーの倫理綱領について調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 11 回	活動領域上の問題への対処（学業・進路）	【事前】学業・進路の問題への対処について調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 12 回	活動領域上の問題への対処（友人・グループ）	【事前】友人・グループの問題への対処について調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 13 回	活動領域上の問題への対処（関係修復・心理）	【事前】関係修復・心理の問題への対処について調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 14 回	ピアヘルパー試験の傾向と対策（小テスト 3：第 10 回～第 13 回まで）	【事前】第 10 回～第 13 回までの復習および小テスト対策、ピアヘルパー資格について調べる（60 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（60 分）
第 15 回	学修の到達目標の確認	【事前】全範囲の総復習（60 分） 【事後】学びの確認と期末試験対策（60 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	ピアヘルピングやその基盤となっているカウンセリングの基礎的な知識を修得する。
到達目標 2	ピアヘルピングの基礎的な技法やそのポイントを修得する。
到達目標 3	青年期の課題とピアヘルパーの留意点について理解する。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	ピアヘルピングやその基盤となっているカウンセリングの基礎的な知識を、十分なレベルで修得している。
	優	ピアヘルピングやその基盤となっているカウンセリングの基礎的な知識を、一定以上のレベルで修得している。
	良	ピアヘルピングやその基盤となっているカウンセリングの基礎的な知識を、最低限のレベルで修得している。
	可	ピアヘルピングやその基盤となっているカウンセリングの基礎的な知識としてはもっている。
	不可	ピアヘルピングやその基盤となっているカウンセリングの基礎的な知識をもっていない。
到達目標 2	秀	ピアヘルピングの基礎的な技法やそのポイントを、十分なレベルで修得している。
	優	ピアヘルピングの基礎的な技法やそのポイントを、一定以上のレベルで修得している。
	良	ピアヘルピングの基礎的な技法やそのポイントを、最低限のレベルで修得している。
	可	ピアヘルピングの基礎的な技法やそのポイントを知識としてはもっている。
	不可	ピアヘルピングの基礎的な技法やそのポイントの知識をもっていない。

到達目標３	秀	青年期の課題を自分の経験とすり合わせて積極的に考え、ピアヘルパーの留意点について、十分なレベルで理解している。
	優	青年期の課題を自分の経験とすり合わせて考え、ピアヘルパーの留意点について、一定以上のレベルで理解している。
	良	青年期の課題とピアヘルパーの留意点について、最低限のレベルで理解している。
	可	青年期の課題とピアヘルパーの留意点について、知識としてはもっている。
	不可	青年期の課題とピアヘルパーの留意点の知識をもっていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	41	9	0	0	0	100
到達目標１	50	15	0	0	0	0	65
到達目標２	0	13	4	0	0	0	17
到達目標３	0	13	5	0	0	0	18

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験において、ピアヘルピングに必要な知識や技法を修得できていたかどうかを評価する。
提出物	授業内に行う意見・確認チェックや小テストにおいて、ピアヘルピングに必要な知識や技法を修得できていたかどうかを評価する。 ※小テストについて、欠席あるいは点数が50％に満たない場合には、自己申告があった場合に、最大50％分までの点数を加点する特別措置を行う。自己申告には、毎回の授業時間後の学修として提示している「1枚まとめ」を、試験範囲相当分の提出することを要する。
成果発表（口頭・実技）	授業内のピアヘルピングの演習に対して主体的に真摯に取り組んでいたかどうかを評価する。

履修に必要な知識・技能など
本科目はピアヘルパー資格取得に関わる主要必修科目である。ピアヘルピングに関する専門用語が多いので，その都度用語の整理をしておくこと。

教科書・ISBN
9784810013436　『ピアヘルパーハンドブック』日本教育カウンセラー協会編 図書文化

参考書
『ピアヘルパーワークブック』日本教育カウンセラー協会編 図書文化

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
障害者福祉特論（E34100）	講義	2	30	2	後期	選択必修	保育士選択必修	橋本好市
科目担当者	橋本好市							

授業の概要	本講座は、保育実習Ⅰ（障害福祉施設）に向けた学習及び準備の場として、障害福祉について専門的知識を深め、当該実習に活かしていくことを目的としている。そのため、当該実習を履修する予定の者は、本講座の履修することが望ましい。 児童期から成人・老年期に至る人生という視点から、障害児・者に対する支援について保育士に求められる専門性の向上を図る。 そのために、まず障害に関する正しい理解と捉え方を学ぶ。 また、障害福祉法制度に基づく障害福祉サービスについて理解を深めるとともに、地域生活支援における障害に対する偏見・差別の諸相について学ぶ。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	社会福祉法人等における役員、保育園・施設でのアドヴァイザーや顧問、保育士キャリアアップ研修講師、保育行政審議会委員等を歴任している。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	保育士に障害福祉の知識が必要な理由 「障害」について考える	【事前】社会福祉・子ども家庭福祉の復習をしておく（60 分） 【事後】障害に関する認識を整理し説明できるようにしておく（60 分）
第 2 回	障害者福祉の視点と変遷	【事前】社会福祉における障害福祉領域を確認しておく（120 分） 【事後】社会福祉の範囲と対象を整理しておく（120 分）
第 3 回	障害の概念・とらえ方（ICF、等）	【事前】障害とは何を検討しておく（120 分） 【事後】自身の障害観との相違を整理しておく（120 分）
第 4 回	障害者福祉の基本理念（ノーマライゼーション、 ソーシャル・インクルージョン、等）	【事前】社会福祉の各理念を整理しておく（120 分） 【事後】障害福祉の理念と変遷を整理しておく（120 分）
第 5 回	障害者の生活とニーズの理解（生活と実態、等）	【事前】ニーズとは何かを整理しておく（120 分） 【事後】生活実態とニーズに基づく支援について具体化しておく（120 分）
第 6 回	障害の特性理解（発達・知的・身体・精神障害等）	【事前】障害の類型を整理しておく（120 分） 【事後】障害特性に応じた支援・対応を整理しておく（120 分）
第 7 回	日本の障害者福祉の法体系および制度①（障害者権利条約から障害者基本法）	【事前】障害児福祉施設の類型を確認しておく（120 分） 【事後】障害福祉法体系と障害者権利条約との関係性を整理しておく（120 分）
第 8 回	日本の障害者福祉の法体系および制度②（各種障害福祉法の目的と内容）	【事前】各障害の定義を確認しておく（120 分） 【事後】各法規の目的と特性、対象を整理しておく（120 分）

第 9 回	障害者福祉のサービス体系（障害者総合支援法に基づくサービス体系：障害関係施設・事業）	【事前】障害児福祉サービスの種類を確認しておく（120 分） 【事後】人生を通した切れ目のない生活支援のために必要なサービスを計画しておく（120 分）
第 10 回	障害者福祉のサービス体系（障害者総合支援法に基づくサービス体系：障害関連事業）	【事前】障害福祉施設・事業を整理しておく（120 分） 【事後】人生を通した切れ目のない生活支援のために必要なサービスを整理しておく（120 分）
第 11 回	障害者に対する偏見・差別を考える	【事前】偏見と差別の違いを調べておく（120 分） 【事後】偏見と差別の定義を踏まえ、それぞれを解消していく取り組みを検討しておく（120 分）
第 12 回	障害者の社会参加（社会参加の具体例、社会参加を阻む要因、等）	【事前】社会参加の意味を調べておく（120 分） 【事後】社会参加の方法論について整理しておく（120 分）
第 13 回	障害者福祉を支える人々（各種専門職、等）	【事前】社会福祉専門職とその関連職種を整理しておく（120 分） 【事後】障害福祉に関わる保育士の役割を整理しておく（120 分）
第 14 回	障害者ソーシャルワークの実際（地域生活支援）	【事前】ソーシャルワークの定義を確認しておくしておく（150 分） 【事後】障害福祉に関わるソーシャルワークの意義を整理しておく（150 分）
第 15 回	講義のまとめ；保育実習Ⅰ（障害施設実習）のために	【事前】保育実習Ⅰ（障害施設実習）に求められる知識を整理しておく（150 分） 【事後】保育実習Ⅰ（障害施設実習）に向けた課題を明確にしておく（150 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	障害とは何か、について理解し、障害者の生活実態とそれを取り巻く社会情勢、地域生活支援、就労支援等について理解できる。
到達目標 2	障害者福祉制度の理念・サービス内容等について具体的に理解し、保育実習Ⅰ（障害福祉施設）に役立てることができる。
到達目標 3	保育実習Ⅰ（障害福祉施設）に求められる、障害者総合支援法をはじめとする障害者福祉関連の法制度、さらには専門職者の役割等について理解できる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	障害とは何か、について理解し、障害者の生活実態とそれを取り巻く社会情勢、地域生活支援、就労支援等について、十分なレベルで理解している。
	優	障害とは何か、について理解し、障害者の生活実態とそれを取り巻く社会情勢、地域生活支援、就労支援等について、一定のレベルで理解している。
	良	障害とは何か、について理解し、障害者の生活実態とそれを取り巻く社会情勢、地域生活支援、就労支援等について、最低限のレベルで理解している。
	可	障害者の生活実態とそれを取り巻く社会情勢、地域生活支援、就労支援等について、知識としてはもっている。
	不可	障害者の生活実態とそれを取り巻く社会情勢、地域生活支援、就労支援等について、知識をもっていない。

到達目標２	秀	障害者福祉制度の理念・サービス内容等について具体的に理解し、保育実習Ⅰに十分役立てることができるレベルで理解している。
	優	障害者福祉制度の理念・サービス内容等について具体的に理解し、保育実習Ⅰに一定程度役立てることができるレベルで理解している。
	良	障害者福祉制度の理念・サービス内容等について具体的に理解し、保育実習Ⅰに最低限役立てることができるレベルで理解している。
	可	障害者福祉制度の理念・サービス内容等について、知識としてはもっている。
	不可	障害者福祉制度の理念・サービス内容等について、知識をもっていない。
到達目標３	秀	保育実習Ⅰに求められる、障害者総合支援法をはじめとする障害者福祉関連の法制度、専門職者の役割等について、十分なレベルで理解している。
	優	保育実習Ⅰに求められる、障害者総合支援法をはじめとする障害者福祉関連の法制度、専門職者の役割等について、一定のレベルで理解している。
	良	保育実習Ⅰに求められる、障害者総合支援法をはじめとする障害者福祉関連の法制度、専門職者の役割等について、最低限のレベルで理解している。
	可	保育実習Ⅰに取り組むことができる程度の知識はもっている。
	不可	保育実習Ⅰに取り組むことができる程度の知識をもっていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	80	20	0	0	0	0	100
到達目標１	50	10	0	0	0	0	60
到達目標２	20	5	0	0	0	0	25
到達目標３	10	5	0	0	0	0	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を実施。 なお、再試験は実施しない。
提出物	習熟度確認のため中間レポートを実施する。 当然のことであるが、講義への出席は当然のことであるため、出席回数等を評価対象とはしない。 欠席多者は、専門的知識の量に違いが生じ、レポート内容や試験結果に表出し、評価に反映されることを自覚してほしい。

履修に必要な知識・技能など

保育実習Ⅰ（障害福祉施設）を履修する上で、基礎的知識を習得するために必要な講義である。保育士として児童から成人までの切れ目のない支援を理解し、社会との関わりの中で障害を捉えていく。

したがって、障害・子ども・成人・サービス・人生等のキーワードで社会の事象について興味関心を深めて講義に臨むこと。

教科書・ISBN

9784860155421　『保育福祉小六法』(一年次に使用したもの)
9784860155445　『障害者福祉論』

参考書

・『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』橋本好市・直島正樹・堀智晴 編　ミネルヴァ書房
・『保育実践に求められる子ども家庭支援』橋本好市・直島正樹 編　ミネルヴァ書房
・『本当に知りたいことがわかる！保育所・施設実習ハンドブック』橋本好市・直島正樹・小原敏郎・三浦主博 編　ミネルヴァ書房
・その他、レジュメを配布、その都度、適宜書籍を紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育・教育課題研究Ⅰ（E34200）	演習	1	30	2	後期	選択	—	脇本聡美
科目担当者	脇本聡美、大森雅人、橋本好市、中田尚美、山下敦子、笹井隆邦、大城亜水、京極重智							

授業の概要	保育・教育に携わる者に必要な知識・技能を修得することにより、教育現場における様々な課題を主体的に考え、実践することができる力の基礎を身につける。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション、英語の日常表現　（担当者：脇本）	【事前】シラバスの確認（30 分） 【事後】英語の日常表現の復習（30 分）
第 2 回	英語文章読解　（担当者：脇本）	【事前】英語基礎知識の確認（30 分） 【事後】英文読解の復習（30 分）
第 3 回	生活に生きる語彙・語句・文法の理解　（担当者：山下）	【事前】国語基礎知識の確認（30 分） 【事後】語彙・語句・文法の練習問題（30 分）
第 4 回	文学的文章読解（小説の読み方）　（担当者：山下）	【事前】小説の読解（30 分） 【事後】小説の読解の復習（30 分）
第 5 回	論説文的文章読解（論理的な文章の読み方）（担当者：山下）	【事前】論理的文章読解（30 分） 【事後】論理的文章読解の復習（30 分）
第 6 回	政治と保育・教育の関係を知る　（担当者：京極・大城）	【事前】政治と保育・教育についての下調べ（30 分） 【事後】保育・教育と関わる行政についての振返り（30 分）
第 7 回	経済と保育・教育の関係を知る　（担当者：京極・大城）	【事前】保育・教育と関わる経済についての下調べ（30 分） 【事後】保育・教育と関わる経済についての振返り（30 分）
第 8 回	保育・教育を支える福祉の法律を知る（担当者：橋本・山下）	【事前】保育・教育に関わる福祉の法律についての下調べ（30 分） 【事後】保育・教育に関わる福祉の法律についての振返り（30 分）
第 9 回	保育・教育を支える教育の法律を知る（担当者：橋本・山下）	【事前】保育・教育の法律についての下調べ（30 分） 【事後】保育・教育の法律についての振返り（30 分）
第 10 回	資料読解（資料の分析、比較、関連付け）（担当者：大森・京極）	【事前】特になし 【事後】資料読解の練習（60 分）
第 11 回	情報整理読解（情報を整理、分析し、内容を把握する）（担当者：大森・京極）	【事前】情報整理読解についての下調べ（30 分） 【事後】情報整理読解の練習（30 分）
第 12 回	数学的思考の基礎①（「数」を使って物事を具体的に考える）（担当者：笹井・大城）	【事前】特になし 【事後】数学の練習問題（60 分）
第 13 回	数学的思考の基礎②（「数」を使って物事を具体的に表現する）（担当者：笹井・大城）	【事前】数学の練習問題（30 分） 【事後】数学の練習問題（30 分）
第 14 回	保育士・教師における自己の適性把握①（SPI 等）（担当者：中田・京極）	【事前】特になし 【事後】採用試験問題（60 分）

第 15 回	保育士・教師における自己の適性把握②（SPI 等） （担当者：中田・京極）	【事前】採用試験問題（30 分） 【事後】採用試験問題（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	保育・教育についての知識・技能を修得する
到達目標 2	教育現場における様々な課題を主体的に考え、実践するための基礎力を身につける

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	保育・教育についての知識・技能を十分身につけている
	優	保育・教育についての知識・技能を修得している
	良	保育・教育についての知識・技能をある程度修得している
	可	保育・教育についての知識・技能を最低限修得している
	不可	保育・教育についての知識・技能を修得できていない
到達目標 2	秀	教育現場における様々な課題を主体的に考え、実践するための基礎力を十分身につけている
	優	教育現場における様々な課題を主体的に考え、実践するための基礎力を身につけている
	良	教育現場における様々な課題を主体的に考え、実践するための基礎力をある程度身につけている
	可	教育現場における様々な課題を主体的に考え、実践するための基礎力を最低限身につけている
	不可	教育現場における様々な課題を主体的に考え、実践するための基礎力が身についていない

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	40	0	0	0	60	100
到達目標 1	0	20	0	0	0	30	50
到達目標 2	0	20	0	0	0	30	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
提出物	課題の提出
その他	小テスト

履修に必要な知識・技能など
1）毎時間振り返りの小テストを行う 2）学習内容の定借度を測るための模擬試験を数回実施する。

教科書・ISBN
授業での配布物

参考書
必要に応じて紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教育心理学（E33100）	講義	2	30	3	前期	必修	保育士選択 幼教免必修 小教免必修	柳原利佳子
科目担当者	柳原利佳子							

授業の概要	教育心理学は教育や保育に携わろうとする者にとって欠かせない乳幼児・児童及び生徒理解の基礎となる学問である。教育心理学の４領域「発達」「学習」「人格」「測定・評価」の内容を中心に講義を行うことで、教育現場・保育現場において、教育者・保育者と子どもが相互に影響し合いながら学び育っていく過程にみられる心理活動の理解を促す。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（　）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第１回	教育心理学とは，発達の特徴	【事前】シラバス内容の熟読、教育心理学・発達の特徴について調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ１枚の用紙にまとめる（120 分）
第２回	遺伝と環境	【事前】遺伝と環境が人間の発達に及ぼす影響に関する理論について調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ１枚の用紙にまとめる（120 分）
第３回	発達と教育	【事前】発達と教育に関する理論について調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ１枚の用紙にまとめる（120 分）
第４回	思考の発達	【事前】思考の発達について調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ１枚の用紙にまとめる（120 分）
第５回	記憶のしくみ（小テスト１：第１回～第４回まで）	【事前】第１回～第４回までの復習および小テスト対策、記憶のしくみについて調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ１枚の用紙にまとめる（120 分）
第６回	学習理論	【事前】学習理論について調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ１枚の用紙にまとめる（120 分）
第７回	動機づけ	【事前】動機づけについて調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ１枚の用紙にまとめる（120 分）
第８回	パーソナリティの理論	【事前】パーソナリティの理論である類型論と特性論について調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ１枚の用紙にまとめる（120 分）
第９回	パーソナリティの測定	【事前】パーソナリティの測定方法について調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ１枚の用紙にまとめる（120 分）

第 10 回	学級集団と学級経営（小テスト 2：第 5 回～第 9 回まで）	【事前】第 5 回～第 9 回までの復習および小テスト対策、学級集団と学級経営について調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（120 分）
第 11 回	不適応行動	【事前】不適応行動について調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（120 分）
第 12 回	知能	【事前】知能の構造と測定について調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（120 分）
第 13 回	発達援助の理解	【事前】特別な支援が必要な子どもについて調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（120 分）
第 14 回	教育評価	【事前】教育評価の分類や方法について調べる（120 分） 【事後】学びの確認として授業内容を A4 サイズ 1 枚の用紙にまとめる（120 分）
第 15 回	学修の到達目標の確認（小テスト 3:第 10 回～第 14 回まで）	【事前】第 11 回～第 14 回までの復習および小テスト対策、全体の振り返りをしておく（120 分） 【事後】学びの確認と期末試験対策（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	乳幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。
到達目標 2	乳幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	乳幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴について，十分なレベルで理解している。
	優	乳幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴について，一定以上のレベルで理解している。
	良	乳幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴について，最低限のレベルで理解している。
	可	乳幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴について，一方しか理解していない。
	不可	乳幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴について，両方とも理解していない。
到達目標 2	秀	乳幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識と、発達を踏まえた学習を支える指導について，十分なレベルで理解している。
	優	乳幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識と、発達を踏まえた学習を支える指導について，一定以上のレベルで理解している。
	良	乳幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識と、発達を踏まえた学習を支える指導について，最低限のレベルで理解している。
	可	乳幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識と、発達を踏まえた学習を支える指導について，一方しか理解していない。
	不可	乳幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識と、発達を踏まえた学習を支える指導について，両方とも理解していない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	55	45	0	0	0	0	100
到達目標 1	35	25	0	0	0	0	60
到達目標 2	20	20	0	0	0	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験において，教育・保育現場において問題解決に活用できるような，幅広い教育心理学の専門用語や理論などの基礎的知識と心理学的な捉え方を修得できていたかどうかを評価する。
提出物	授業内に行う意見・確認チェックや小テストにおいて，教育・保育現場において問題解決に活用できるような，幅広い教育心理学の専門用語や理論などの基礎的知識と心理学的な捉え方を修得できていたかどうかを評価する。 ※小テストについて，欠席あるいは点数が 50％に満たない場合には，自己申告があった場合に，最大 50％分までの点数を加点する特別措置を行う。自己申告には，毎回の授業時間後の学修として提示している「1 枚まとめ」を，試験範囲相当分の提出することを要する。

履修に必要な知識・技能など
私語厳禁。積極的な授業参加を期待します。

教科書・ISBN
9784860154899　『教職に生かす教育心理学』石井正子・中村徳子編著 みらい

参考書
『教育心理学ルック・アラウンド　わかりたいあなたのための教育心理学』山崎史郎 編著 おうふう

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
子どもの食と栄養Ⅰ（E33110）	演習	1	30	3	前期	選択	保育士必修	進藤容子
科目担当者	進藤容子							

授業の概要	子どもの食と栄養は健全な発育だけでなく，生涯にわたる食生活の基礎となる点でも重要である。したがって保育者には，乳児期，幼児期，学童期の食の体験が心身の健康と発達を促すことをふまえて適切な食の援助を行うことが求められる。この授業は，「子どもの食」を養護と教育とを一体的に展開する保育として正しく理解し，実践的に応用できる力の修得を目標とする。授業では子どもの食の援助に不可欠な栄養と食品の基礎的知識を確認し，保育現場でみられる子どもの食の実際や課題を考えることを通し，必要な力の修得をめざす。また、保育所実習前であることを踏まえ、乳児期の食の援助について実習を通して習得をめざす
アクティブ・ラーニングの要素	（　）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（　）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	授業ガイダンス 授業のねらい，方法，ルールを共有する 子どもの最善の利益を保障する視点をもって「子どもの食と栄養」を学ぶ意味，保育者に必要な資質・技術・知識は何かを意識し，各自の課題を確認する	【事前】シラバスを見ておく 【事後】各自の課題（目標）を小レポートにまとめる
第 2 回	子どもの食の現状と課題 【演習】子どもにふさわしい食生活を意識し関心をもつ	【事前】教科書の関連個所を読んでおく 【事後】学習内容を小レポートにまとめる
第 3 回	食品成分と栄養素について整理する 【演習】これまでの知識を確認し食品・栄養のイメージをもてるようにする	【事前】教科書の関連個所を読んでおく 【事後】学習内容を小レポートにまとめる
第 4 回	からだのしくみと栄養 消化器の構造と働き、食欲のしくみを理解する	【事前】教科書の関連個所を読んでおく 【事後】学習内容を小レポートにまとめる
第 5 回	栄養素のはたらき（1） エネルギーになる栄養素を理解する	【事前】教科書の関連個所を読んでおく 【事後】学習内容を小レポートにまとめる
第 6 回	栄養素のはたらき（2） からだを作るもとになるになる栄養素を理解する	【事前】教科書の関連個所を読んでおく 【事後】学習内容を小レポートにまとめる
第 7 回	栄養素のはたらき（3） からだの調子を整える栄養素、その他の食品成分について理解する	【事前】教科書の関連個所を読んでおく 【事後】学習内容を小レポートにまとめる
第 8 回	何をどれだけ食べたらよいのか 一日の食事の考え方について、「食事摂取基準」「食品の分類」「食事バランスガイド」「食生活指針」を正しく参照できる	【事前】教科書の関連個所を読んでおく 【事後】学習内容を小レポートにまとめる
第 9 回	確認小テスト 食品成分や栄養に関する基礎知識の確認（持ち込みなし）	【事前】教科書、配布資料をみなおしておく 【事後】（小テスト結果の確認後に事後学修を行う）
第 10 回	バランスの良い食事を考えよう 小テスト振り返り 【演習】「3・1・2」弁当箱法で食事のバランスを理解しよう	【事前】配布資料を確認しておく 【事後】小テストで理解が不十分だったところを確認し、理解する。 学習内容を小レポートにまとめる
第 11 回	乳児の食生活（1） 離乳の概要を知る	【事前】教科書の関連個所を読んでおく 【事後】学習内容を小レポートにまとめる

第 12 回	乳児の食生活（2） 【演習】 離乳食を作る　離乳食の介助方法を考える	【事前】配布資料を見ておく 【事後】学習内容を小レポートにまとめる
第 13 回	乳児の食生活（3） 乳汁栄養の概要を知る	【事前】教科書の関連個所を読んでおく 【事後】学習内容を小レポートにまとめる
第 14 回	乳児の食生活（4） 【演習】 調乳する　授乳の方法，抱っこについて理解する	【事前】配布資料を見ておく 【事後】学習内容を小レポートにまとめる
第 15 回	まとめ 学修した知識や考えを実際の子どもの食の状況の中で活用できる	【事前】資料・ノートを整理し、ふり返りの準備をしておく 【事後】学習内容を小レポートにまとめる

学修の到達目標	
到達目標 1	栄養と食品に関する基礎的知識を身に付ける。
到達目標 2	乳児期の食の援助について、具体的な方法がわかる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	食生活の意義とあり方、子どもの食の支援に必要な食品や栄養の基礎的な知識について十分に理解しており、その理解に基づいて保育者という立場を踏まえ適切に柔軟に活用できる。
	優	食生活の意義とあり方、子どもの食の支援に必要な食品や栄養の基礎的な知識について理解しており、その理解に基づいて保育者という立場を踏まえ適切に活用できる。
	良	食生活の意義とあり方、子どもの食の支援に必要な食品や栄養の基礎的な知識についてある程度理解しており、活用できる。
	可	食品や栄養の基礎的な知識についてある程度理解している。
	不可	食品や栄養の基礎的な知識についてある程度理解できていない。
到達目標 2	秀	乳児の発達を踏まえたうえで、乳児の発達を促す食事援助の方法を十分に理解し、保育現場で生かせる技術を有している。
	優	乳児の発達を踏まえたうえで、乳児の発達を促す食事援助の方法を理解し、保育現場での活用がイメージできる。
	良	乳児の発達をある程度踏まえ、乳児の食事援助の方法を考えることができる。
	可	乳児の食事援助の方法がだいたいわかる。
	不可	乳児の食事援助の方法がわからない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	30	40	0	0	0	30	100
到達目標 1	20	10	0	0	0	20	50
到達目標 2	10	30	0	0	0	0	40
到達目標 3	0	0	0	0	0	5	5
到達目標 4	0	0	0	0	0	5	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	○試験レポート 食品と栄養の基礎知識を適切に応用し、保育現場での子どもの食の支援について考える。
提出物	○毎時、リフレクションシートやワークシートを提出。 その時間の学習を踏まえて作成すること。自分自身がこれまでに持っていた思いや考えを批判的にとらえなおす態度が重要です。
その他	○確認小テストを行う。 保育者として食の支援に必要となる食品成分や栄養に関する基礎知識の定着・修得度の把握のために実施します。 ○グループワークなどの演習活動を行う。 活動のねらいを的確にとらえて積極的に関わり、協働することが大切です。 ○調理実習を行う 活動の見通しをもって、各自が自分の役割を迅速にとらえながら協働することが大切です。

履修に必要な知識・技能など
1）事前・事後の学習に教科書を有効に活用し、使いこなせるようにする。学習に主体的に取り組む。 2）グループでの活動が多いため、遅刻・欠席があると学習効果が十分に得られないので注意する。 3）調理室を使用するときには上履きを準備する。調理実習をする際は、エプロン、三角巾、手拭を各自で準備する。

教科書・ISBN
9784901903592　新しい時代の保育者養成『子どもの食と栄養』 進藤容子編著、山本友江、豊原容子、塩田二三子、反保多美子、廣陽子 著 あいり出版、2012

参考書
「保育所保育指針解説書」厚生労働省，フレーベル館，2018 「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説」内閣府 文部科学省 厚生労働省，フレーベル館，2018 「保育所における食事の提供ガイドライン」厚生労働省，2012 「授乳・離乳の支援ガイド（2019 年改定版）実践の手引き」公益財団法人 母子衛生研究会，2020 「楽しく食べる子どもに〜保育所における食育に関する指針〜」厚生労働省，2004 「幼児期の保育と食育 - 保育園・幼稚園での食育の進め方」小川雄二，須賀瑞枝 著，芽ばえ社，2013 「「深い学び」が動き出す 食育の場をどうデザインするか 食育こそアクティブラーニング！ 20 の実践と理論」，平本福子，女子栄養大学出版部，2019

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
子どもの食と栄養Ⅱ（E33120）	演習	1	30	3	後期	選択	保育士必修	進藤容子
科目担当者	進藤容子							

授業の概要	子どもの食と栄養は健全な発育だけでなく、生涯にわたる食生活の基礎となる点でも重要である。したがって保育者には、乳児期、幼児期、学童期の食の体験が心身の健康と発達を促すことをふまえて適切な食の援助を行うことが求められる。この授業は、「子どもの食」を養護と教育とを一体的に展開する保育として正しく理解し、実践的に応用できる力の修得を目標とする。 授業では「子どもの食と栄養Ⅰ」に学修した栄養と食品の基礎的知識を踏まえ、食に関わる発達の理解、特別な配慮が必要な子どもの食の特徴の理解から、子ども、保護者への支援について考えられ、保育現場にいかすことができる、食育実践力の修得をめざす。
アクティブ・ラーニングの要素	（　）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	授業ガイダンス　授業のねらい，方法，ルールを共有する 前期の振り返り 食育（主体的な学習）の視点をもって保育を考える（1） 保育所実習での食育実践の共有	【事前】シラバスを見ておく 【事後】各自の課題（目標）を小レポートにまとめる
第 2 回	食の安全，食品表示・食品の扱い 食の安全な取扱いに必要な知識が分かり活用できる	【事前】教科書の関連個所を読んでおく 【事後】学習内容を小レポートにまとめる
第 3 回	子どもの発育・発達と食生活 歯の萌出、食べ方の発達、栄養状態の評価について理解する	【事前】教科書の関連個所を読んでおく 【事後】学習内容を小レポートにまとめる
第 4 回	食育の視点をもって保育を考える（2） 子どもの食の問題を、咀嚼・嗜好の発達から考える	【事前】配布資料・教科書の関連個所を読んでおく 【事後】学習内容を小レポートにまとめる
第 5 回	乳児の食事（1） 離乳の意義と進行について理解する	【事前】教科書の関連個所を読んでおく 【事後】学習内容を小レポートにまとめる
第 6 回	乳児の食事（2） 母乳の利点と留意点について理解する	【事前】教科書の関連個所を読んでおく 【事後】学習内容を小レポートにまとめる
第 7 回	乳児の食事（3） 冷凍母乳の扱い、人工栄養について理解する	【事前】教科書の関連個所を読んでおく 【事後】学習内容を小レポートにまとめる
第 8 回	確認小テスト 乳汁栄養・離乳、食の安全に関する基礎知識の確認（資料持ち込みあり）	【事前】教科書、資料を見直しておく 【事後】（小テストの振り返りの後に事後学修を行う）
第 9 回	幼児の食事（1） 【演習】幼児にふさわしい一日の食事を考える	【事前】幼児にふさわしい一日の食事を考えてくる 【事後】学習内容を小レポートにまとめる
第 10 回	幼児の食事（2） 【演習】前回の活動の振り返りから子どもの食事の特徴と欠食の問題を考える	【事前】特に指定しない 【事後】学習内容を小レポートにまとめる
第 11 回	特別な配慮が必要な子どもの食事（1） 先天性代謝異常症・感染症児の食の対応 障害児への食事支援	【事前】配布資料を見ておく 【事後】学習内容を小レポートにまとめる
第 12 回	特別な配慮が必要な子どもの食事（2） 食物アレルギー基礎知識の確認 【演習】代替食を考えるグループ活動	【事前】教科書の関連個所を読んでおく 課題について考えてくる 【事後】学習内容を小レポートにまとめる

第 13 回	特別な配慮が必要な子どもの食事（3） グループ活動からの振り返り、給食での食物アレルギー対応の事例から理解を深める	【事前】食物アレルギー対応について調べておく 【事後】学習内容を小レポートにまとめる
第 14 回	食育（主体的な学習）の視点をもって保育を考（3） グループ活動にむけ、食育の視点を確認し、食育事例から理解を深める	【事前】食育活動についてねらいや内容を考えておく 【事後】グループで食育活動について考えあい発表原稿を作成する
第 15 回	食育（主体的な学習）の視点をもって保育を考える（4） グループ発表	【事前】グループで発表原稿を完成させてくる 【事後】学習内容を小レポートにまとめる

学修の到達目標	
到達目標 1	栄養と食品に関する基礎的知識、食に関わる発達の特徴の知識を適切に活用できる。
到達目標 2	発達に応じた食の援助について、根拠をもって判断できる。
到達目標 3	状況、子どもの個性に合わせた食の支援が考えられる。
到達目標 4	食育の視点をもって保育を構想できる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	保育者の専門性をいかして、子どもの食と栄養の知識・理解・技術を食育に適切かつ柔軟に活用できる。
	優	保育者の専門性をいかして、子どもの食と栄養の知識・理解・技術を食育に活用できる。
	良	子どもの食と栄養の知識をある程度活用できる。
	可	子どもの食と栄養の知識を少し活用することができる。
	不可	子どもの食と栄養の知識を有していない。
到達目標 2	秀	乳児期・幼児期の食に関わる発達を十分に理解している。その理解に基づいて、様々な場面での具体的な食の支援を実施する判断力を有している。
	優	乳児期・幼児期の食に関わる発達を理解している。その理解に基づいて、具体的な食の支援を実施する判断力を有している。
	良	乳児期・幼児期の食に関わる発達を理解している。その理解に基づいて、具体的な食の支援をある程度考えられる。
	可	乳児期・幼児期の食に関わる発達をほぼ理解している。その理解に基づいて、食の支援をある程度考えられる。
	不可	乳児期・幼児期の食に関わる発達の理解が不十分で、食の支援を適切に考えられない。
到達目標 3	秀	食支援での特別な配慮について十分に理解している。その理解に基づいて、様々な場面での具体的な食の支援を実施する判断力を有している。
	優	食支援での特別な配慮について理解している。その理解に基づいて、具体的な食の支援を実施する判断力を有している。
	良	食支援での特別な配慮について理解している。その理解に基づいて、具体的な食の支援をある程度考えられる。
	可	食支援での特別な配慮についてほぼ理解している。その理解に基づいて、食の支援をある程度考えられる。
	不可	食支援での特別な配慮について理解が不十分で、食の支援を適切に考えられない。
到達目標 4	秀	食育のねらいについて十分に理解しており、対象者の理解に基づき、すでにもっている知識と技術を生かして、具体的で適切な食育の方法を構想することができる。
	優	食育のねらいについて理解しており、対象者の理解に基づき、具体的な食育の方法を構想することができる。
	良	食育のねらいをふまえて、対象者に合わせた食育の方法をある程度構想することができる。
	可	食育について、対象者に合わせた食育の方法をある程度構想することができる。
	不可	食育について、ねらいや方法についての理解が不十分である。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	35	5	0	0	20	100
到達目標 1	5	5	0	0	0	0	10
到達目標 2	0	10	0	0	0	20	30
到達目標 3	15	10	0	0	0	0	25
到達目標 4	20	10	5	0	0	0	35

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	○レポート試験 学習に基づいた各自の考えを整理します。
提出物	○毎時、小レポートを提出。 自分自身がこれまでに持っていた思いや考えを批判的にとらえなおす態度が重要です。
その他	○確認小テスト 乳汁栄養・離乳、食の安全に関する基礎知識の定着をねらい、習得状況を把握します。 （資料持ち込みあり）

履修に必要な知識・技能など
1）事前・事後の学習に教科書を有効に活用し、使いこなせるようにする。学習に主体的に取り組む。 2）グループでの活動が多いため、遅刻・欠席があると学習効果が十分に得られないので注意する。

教科書・ISBN
9784901903592　新しい時代の保育者養成『子どもの食と栄養』 進藤容子編著、山本友江、豊原容子、塩田二三子、反保多美子、廣陽子 著 あいり出版、2012

参考書
「保育所保育指針解説書」厚生労働省，フレーベル館，2018 「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説」内閣府 文部科学省 厚生労働省，フレーベル館，2018 「保育所における食事の提供ガイドライン」厚生労働省，2012 「授乳・離乳の支援ガイド（2019 年改定版）実践の手引き」公益財団法人 母子衛生研究会，2020 「楽しく食べる子どもに〜保育所における食育に関する指針〜」厚生労働省，2004 「幼児期の保育と食育 - 保育園・幼稚園での食育の進め方」小川雄二，須賀瑞枝 著，芽ばえ社，2013 「「深い学び」が動き出す 食育の場をどうデザインするか 食育こそアクティブラーニング！ 20 の実践と理論」，平本福子，女子栄養大学出版部，2019

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育の心理学（E33150）	講義	2	30	3	前期	選択	保育士必修	渡邊恵梨佳
科目担当者	渡邊恵梨佳							

授業の概要	保育者として実践にかかわる際に、子どもの発達理論の基礎と、発達をとらえる視点を身につけておく必要がある。そのため、この授業では特に乳幼児期の身体・運動、認知、言語発達の過程について、環境構成された保育場面で対人的な相互作用の中で行われることに着目しつつ説明をする。また、障害の有無によってどのような配慮や支援が必要となるかについて具体例を挙げて説明する。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　） （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション子ども観・保育観と発達	【事前】自身が考える子ども観・保育観を考える（120 分） 【事後】学びの確認をする（120 分）
第 2 回	子どもの発達と環境	【事前】子どもの発達と環境について調べる（120 分） 【事後】授業内で学んだ子どもの発達について確認する（120 分）
第 3 回	子どもの身体的機能と運動の発達	【事前】身体的機能について調べる（120 分） 【事後】子どもの身体機能について確認する（120 分）
第 4 回	子どもの情動や感情と社会性の発達	【事前】情動と感情について調べる（120 分） 【事後】自分の情動や感情について知る（120 分）
第 5 回	乳児期の知覚・認知発達	【事前】知覚・認知について調べる（120 分） 【事後】自分の知覚や認知の仕組みを知る（120 分）
第 6 回	乳児期の感覚運動発達	【事前】感覚運動について調べる（120 分） 【事後】授業内で行った感覚運動を再度まとめて確認する（120 分）
第 7 回	乳幼児期の言葉の獲得と発達	【事前】言語発達について調べる（120 分） 【事後】言語の始まりや発達の順序について確認する（120 分）
第 8 回	子どもの心理的な発達（心の理論）	【事前】心の理論について調べる（120 分） 【事後】幼児期の心のメカニズムを知る（120 分）
第 9 回	幼児期の認知発達（思考と行動）	【事前】子どもの思考と行動について調べる（120 分） 【事後】自分の思考や行動のつながりを知り、幼児期の認知発達を改めて確認する（120 分）
第 10 回	児童の自己中心性	【事前】自己中心性について調べる（120 分） 【事後】授業内での学びを確認する（120 分）
第 11 回	発達障害の理解と心理① ASD と療育	【事前】ASD について調べる（120 分） 【事後】ASD の特性を理解した上で関わり方について確認する（120 分）
第 12 回	発達障害の理解と心理② SLD と ADHD	【事前】SLD と ADHD について調べる（120 分） 【事後】SLD と ADHD の特性を理解した上で関わり方を確認する（120 分）

第 13 回	対人的なコミュニケーションを通した発達	【事前】子どものコミュニケーションについて調べる（120 分） 【事後】自分のコミュニケーションについて知り、子どもとのコミュニケーション法を知る（120 分）
第 14 回	子どもの特性に応じた学びの体験や環境の構成	【事前】学びの環境の構成について調べる（120 分） 【事後】どのような環境が学びに適しているか確認する（120 分）
第 15 回	子どもの発達課題と学びを支える保育者の役割や対応	【事前】子どもの発達課題について調べる（120 分） 【事後】子どもの発達も含め、すべての授業での学びの確認をする（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	子どもの発達に関して、遺伝と環境との相互作用として展開されるピアジェの発達理論について説明できる。
到達目標 2	年齢に応じた発達課題を理解し、人との相互的関わりや体験、環境に関する意義を理解できる。
到達目標 3	発達障害を踏まえた、子どもの発達に合わせた教育や保育、または支援について身につける。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	子どもの発達について十分なレベルで知識を身につけている。なおかつ、得た知識を実際の子どもたちをイメージして展開することができる。
	優	子どもの発達について十分なレベルで知識を身につけている。
	良	子どもの発達について基本的なレベルで知識を身につけている。
	可	子どもの発達についてある程度知識を身につけている。
	不可	子どもの発達についての知識を身につけていない。
到達目標 2	秀	人との相互的関わりに関して自発的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。その経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学修へとつなげられる。
	優	人との相互的関わりに関して自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	人との相互的関わりに関してある程度自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出すことができる。
	可	人との相互的関わりに関して他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと悦びを見出すことができる。
	不可	人との相互的関わりに関して学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができない。
到達目標 3	秀	子どもの発達に合わせた教育や保育についての理解を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	子どもの発達に合わせた教育や保育についての理解を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	子どもの発達に合わせた教育や保育についての理解を一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	子どもの発達に合わせた教育や保育についての理解をある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	子どもの発達に合わせた教育や保育についての理解をある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	70	30	0	0	0	0	100
到達目標 1	30	10	0	0	0	0	40
到達目標 2	20	10	0	0	0	0	30
到達目標 3	20	10	0	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験において、授業で扱った内容に沿って出題し専門的な知識や思考力を習得できたかどうかを評価する。
提出物	授業内で課す小レポートの提出状況と、レポート内容を含め主体的に真摯に取り組んでいたかどうかを総合的に評価する。

履修に必要な知識・技能など
保育者を目指すものとして、実習や就職先で出会う子どもや保護者、それぞれの家庭を想定して意欲的に授業に参加してほしい。また、子どもの発達や心理について関心をもち、日頃から様々な情報にアンテナを張って過ごし授業に臨むこと。 ※状況によっては、manaba を活用した授業を行う可能性もある。

教科書・ISBN
9784860154844　『保育の心理学』シリーズ・知のゆりかご　青木 紀久代 編　株式会社みらい

参考書
なし。適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
子ども家庭支援の心理学（E33160）	講義	2	30	3	後期	選択	保育士必修	渡邊恵梨佳
科目担当者	渡邊恵梨佳							

授業の概要	保育者として、子どもを理解するということや子ども一人ひとりを大切にする教育・保育を心掛けなければならない。また、人間の生涯発達について理解した上で保育者が多くかかわる乳幼児期の発達課題を理解しておくことが必要である。この授業では、人間の生涯発達に関する心理学の基礎知識を説明する。子どもや保護者、家庭と向き合う際に基本姿勢であるカウンセリングマインドを活かした実践的な教育・保育等について具体例を踏まえて説明する。また、今日の家族や家庭の意義や機能を考えながら、子育て家庭をめぐる現在の社会状況と課題について解説する。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション生涯発達とは何か	【事前】シラバス内容を熟読し、生涯発達についてイメージする（120 分） 【事後】自分の生涯発達について考え授業内容を確認する（120 分）
第 2 回	乳幼児期から学童期前期にかけての発達	【事前】エリクソンのライフサイクル論について調べる（120 分） 【事後】ライフサイクル論を用いて自分の経験を当てはめて考える（120 分）
第 3 回	学童期後期から青年期にかけての発達	【事前】自身の学童期・青年期を振り返りながら思春期について調べる（120 分） 【事後】学童期・青年期の特性や現状についてさらに情報を調べる（120 分）
第 4 回	成人期・老年期における発達	【事前】自身の両親・祖父母をイメージしながら成人期以降の特徴について調べる（120 分） 【事後】近年の成人期以降の問題や情勢についてさらに調べる（120 分）
第 5 回	子育てを取り巻く社会的状況（ライフコース・子育て）	【事前】ライフコースについて調べる（120 分） 【事後】現代社会のライフコースの在り方について具体的にイメージしてまとめる（120 分）
第 6 回	家族・家庭の意義と機能（多様な家庭形態の理解）	【事前】近年の多様な家族・家庭形態について調べる（120 分） 【事後】多様な家族・家庭形態について授業内容をまとめた上で、さらに知識を広げるよう調べる（120 分）
第 7 回	親子・家族関係の理解と心理的視点	【事前】自身の経験も踏まえて近年の親子・家族関係について調べる（120 分） 【事後】親子関係と心身のバランスについて考え調べる（120 分）
第 8 回	特別な配慮を必要とする家庭の理解	【事前】近年の特別な配慮を必要とする家庭について動向を調べる（120 分） 【事後】特別な配慮について様々なケースを調べて対応について調べる（120 分）

第 9 回	子育て家庭に関する現状と課題①（発達支援の必要な子どものいる家庭）	【事前】発達障害や障害受容について調べる（120 分） 【事後】障害受容や家族に寄り添うことについて自分なりに考え、受容までのプロセスで大事なことをまとめる（120 分）
第 10 回	子育て家庭に関する現状と課題②（多様な家庭の在り方）	【事前】近年の子育てに関する悩みについて調べる（120 分） 【事後】子育ての悩みを聞くうえで必要な姿勢を身につける（120 分）
第 11 回	乳幼児期の精神保健①（周産期や乳児の愛着形成の理解）	【事前】愛着について調べる（120 分） 【事後】愛着がなぜ大事であるのか、その後の人生にどう影響するのかをまとめる（120 分）
第 12 回	乳幼児期の精神保健②（乳幼児に見られる行動理解）	【事前】乳幼児期の行動特徴について調べる（120 分） 【事後】学びの確認をする（120 分）
第 13 回	幼児期の精神保健（幼児期に見られる行動理解）	【事前】幼児期の行動特徴について調べる（120 分） 【事後】行動特徴を調べた上で、どのような対応が望ましいかまとめる（120 分）
第 14 回	学童期以降の精神保健（精神疾患の理解）	【事前】精神疾患について調べる（120 分） 【事後】精神疾患の方との関わりで大切なことや、それぞれの疾患の特徴についてまとめる（120 分）
第 15 回	子どもの心の健康（子どもの生活環境や生育歴）	【事前】子どもの心に関する近年の話題について調べる（120 分） 【事後】心と健康について具体的にどのようなつながりを意味しているのかまとめる（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	生涯発達に関する心理学の基礎知識や発達課題等について理解できる。
到達目標 2	各発達時期の課題や移行を理解した上で、子どもの精神保健について理解できる。
到達目標 3	家族や家庭の意義や機能を理解した上で、子どもとその家庭を包括的にとらえる視点を身につける。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	生涯発達について十分なレベルで知識を身につけている。なおかつ、得た知識は将来を見据えて自らの人生や子どもたちの人生をイメージして活用できる。
	優	生涯発達について十分なレベルで知識を身につけている。なおかつ，得た知識を自らの人生等に当てはめて活用できる。
	良	生涯発達について十分なレベルで知識を身につけている。
	可	生涯発達について基本的な知識を身につけている。
	不可	生涯発達についての知識を身につけていない。
到達目標 2	秀	内発的動機づけのもと、子どもの発達や精神保健を理解することの意義についての考えがあり、学びを深め探究し続けることができる。
	優	子どもの発達や精神保健を理解することの意義についての考えがあり、継続的に考え、学びを深め探究し続けることができる。
	良	子どもの発達や精神保健を理解することの意義についての考えがあり、さらに学びを深め探究しようとしている。
	可	子どもの発達や精神保健を理解することの意義についての考えがある。
	不可	子どもの発達や精神保健を理解することの意義についての考えがない。

到達目標３	秀	目の前の子どもとその家庭についての理解を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	目の前の子どもとその家庭についての理解を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	目の前の子どもとその家庭についての理解を一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	目の前の子どもとその家庭についての理解をある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	目の前の子どもとその家庭についての理解をある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	70	30	0	0	0	0	100
到達目標１	30	10	0	0	0	0	40
到達目標２	20	10	0	0	0	0	30
到達目標３	20	10	0	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験において、授業で扱った内容に沿って出題し専門的な知識や思考力を習得できたかどうかを評価する。
提出物	授業内で課す小レポートの提出状況と、レポート内容を含め主体的に真摯に取り組んでいたかどうかを総合的に評価する。

履修に必要な知識・技能など
保育者を目指すものとして、実習や就職先で出会う子どもや保護者、それぞれの家庭を想定して意欲的に授業に参加してほしい。また、生涯発達や現代の家族や家庭について関心をもち、日頃から様々な情報にアンテナを張って過ごし授業に臨むこと。 ※状況によっては、manaba を活用した授業を行う可能性もあります。

教科書・ISBN
9784860154820　『シリーズ知のゆりかご　子ども家庭支援の心理学』　青木紀久代 編　　株式会社みらい

参考書
なし。適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教育相談 （E33210）	講義	2	30	3	前期	選択	保育士選択 幼教免必修 小教免必修	菱田準子
科目担当者	菱田準子							

授業の概要	児童生徒たちは学校内の人間関係の中で、自己理解を深めつつ社会性を育んでいる。そして教育相談とは、そんな彼ら彼女らの個性の伸長や人格の成長を支援するための教育活動である。この授業では、児童生徒の各発達段階における心性や教育的課題を適切に理解し、具体的支援に必要な基礎的知識（外部相談機関におけるものとは異なる、学校で行われるカウンセリングの独自性、その理論と技法等を含む）を習得することを目指す。 本授業は、教育相談のための知識や技法の習得にとどまるものではない。そもそも教育相談とは、何のためなのか。教育相談の「意味」とは何なのか。教員を目指す者が、単なる知識や技法を超えて、それらに疑問を持ち続け、悩み続ける哲学的素養を身につけていく端緒を開くことを、この授業を通して試みていく。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	「はじめに」 授業に関するオリエンテーション	【事前】受講への意志を強く持つ（120 分） 【事後】内容と感想を 150 字程度にまとめる（120 分）
第 2 回	「教育相談研究の経過」 我が国における教育相談の歴史（1950 ～ 1980 年代）	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 3 回	「クライアント中心療法の再検討」 ロジャーズ理論とその学校現場への導入について	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 4 回	「1990 年代以降の動向」 学校現場から生まれた教育相談理論	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 5 回	「教育相談の現状」スクールカウンセラー導入後における教師主体の教育相談のあり方	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 6 回	「教育相談に用いられる主な心理療法理論」クライエント中心療法、コラージュ等々	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 7 回	「ロゴセラピー理論の可能性」 教育相談を基礎づける思想的背景の必要性	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 8 回	「現在のスクールカウンセリングの動向」カウンセリングの理論と技法について	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 9 回	「発達障害」 LD、ADHD、ASD 等へのケアについて	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）

第 10 回	「最近の傾向」 LGBT/SOGI について、家族のあり方について等	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 11 回	「グループワークから学ぶ」 自己理解および他者理解のためのグループワーク	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 12 回	「事例から学ぶ①」 児童生徒からの何気ない相談	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 13 回	「事例から学ぶ②」 学校外の相談機関・医療機関との連携	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 14 回	「事例から学ぶ③」 保健室登校および別室登校と校内連携	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 15 回	「まとめ」 授業内容の総括および質疑応答等	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	自らの専門領域についての知識・技術論を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
到達目標 2	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
到達目標 3	他者の立場や気持ちを理解し、相手が感じているであろうことを様々に思い巡らせながら共感的に話を聴くことができる。そして相手にわかりやすい言葉で会話することができる。相手から話題を奪ってしまうことはない。また、共感しているつもりになるリスクを常に意識している。
到達目標 4	自分の内面をうまく伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
到達目標 5	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、その実績が社会に還元される場合もある。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	自らの専門領域についての知識・技術論を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	自らの専門領域についての知識・技術論を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識・技術論を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識・技術論を身につけている。
	不可	自らの専門領域についての知識・技術論を身につけていない。
到達目標 2	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。

到達目標３	秀	他者の立場に身を置いてその人の価値観を十分理解した上で、相手が感じているであろうことを様々に思い巡らせながら共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。相手から話題を奪ってしまうことはない。また、共感しているつもりになるリスクを常に意識している。
	優	他者の立場に身を置いてその人の価値観を理解した上で共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	良	他者の立場に身を置いて話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	可	他者に大きな関心はないが、会話のキャッチボールはできる。
	不可	他者と会話のキャッチボールをすることができない。
到達目標４	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。
到達目標５	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、その実績が社会に還元される場合もある。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	協調･協働への興味は薄いが、他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協調･協働的に作業することはできる。
	不可	協調・協働する意志がなく、周囲のモチベーションを下げてしまう。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	80	16	0	0	0	4	100
到達目標１	20	4	0	0	0	0	24
到達目標２	20	4	0	0	0	0	24
到達目標３	20	4	0	0	0	0	24
到達目標４	20	4	0	0	0	0	24
到達目標５	0	0	0	0	0	4	4

※評価項目で示す評価割合は､授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	論述筆記試験を期末に実施。ある具体的な事例等をこちらから設定する。それについて授業内容を踏まえた上で、心理学的な解釈や対人援助職として望ましい対応のあり方等を、小論文形式で回答する。試験についてのルーブリックは別途提示する。ノート・プリント持ち込み可。80 点。
提出物	毎回授業後に、その日理解したことや自ら感じたこと等を文章で記述し提出する。16 点。
その他	グループワーク等への参加度を受講者同士でピア評価する。4 点。

履修に必要な知識・技能など
1）社会情勢に興味を持ち続ける。 2）一般常識的な知識の量を増やそうとし続ける。

教科書・ISBN
使用しない。

参考書
随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
子ども家庭支援論（E33230）	講義	2	30	3	後期	選択	保育士必修	大城亜水
科目担当者	大城亜水							

授業の概要	現代のわが国は少子化や無縁社会の渦中にあり、親の育児不安・負担による子育て機能の低下が問題視され、改めて「家庭支援」のあり方が問われています。また、家庭支援は将来保育者になった時、子どもだけでなく多様な保護者（家族）とかかわり、そのニーズに合わせて柔軟に支援するために必要不可欠な知識でもあります。そこで、本授業は制度論を中心に以下の授業内容に沿って、子ども家庭支援の基礎的な枠組みを学修します。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（レ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	ガイダンス (子ども家庭支援とは何か)	【事前】シラバスに目を通し、授業の流れ、学修の到達目標を把握する。(120 分) 【事後】第 1 回の課題を manaba に提出（120 分）
第 2 回	「家族」支援から「家庭」支援、そして「子育て」支援へ（子ども家庭支援のあゆみ）	【事前】テキストの指定箇所を読み込み、次回の授業の予習をしておく。(120 分) 【事後】第 2 回の課題を manaba に提出（120 分）
第 3 回	子育て支援の意義と役割 (今日の子育て支援に求められているもの)	【事前】テキストの指定箇所を読み込み、次回の授業の予習をしておく。(120 分) 【事後】第 3 回の課題を manaba に提出（120 分）
第 4 回	子育て支援の技術とその形態 (子育て支援に有効な社会資源)	【事前】テキストの指定箇所を読み込み、次回の授業の予習をしておく。(120 分) 【事後】第 4 回の課題を manaba に提出（120 分）
第 5 回	子育て支援に関わる法・制度① (家庭、保護者 (家族)、子ども、など各々の有効な法制度)	【事前】テキストの指定箇所を読み込み、次回の授業の予習をしておく。(120 分) 【事後】第 5 回の課題を manaba に提出（120 分）
第 6 回	子育て支援に関わる法・制度② (わが国の子育て支援政策)	【事前】テキストの指定箇所を読み込み、次回の授業の予習をしておく。(120 分) 【事後】第 6 回の課題を manaba に提出（120 分）
第 7 回	ケース別子育て支援① (保育者による子育て支援)	【事前】テキストの指定箇所を読み込み、次回の授業の予習をしておく。(120 分) 【事後】第 7 回の課題を manaba に提出（120 分）
第 8 回	ケース別子育て支援② (保育所・幼稚園における子育て支援)	【事前】テキストの指定箇所を読み込み、次回の授業の予習をしておく。(120 分) 【事後】第 8 回の課題を manaba に提出（120 分）
第 9 回	ケース別子育て支援③ (地域における子育て支援)	【事前】テキストの指定箇所を読み込み、次回の授業の予習をしておく。(120 分) 【事後】第 9 回の課題を manaba に提出（120 分）
第 10 回	ケース別子育て支援④ (要保護児童およびその家庭への支援)	【事前】テキストの指定箇所を読み込み、次回の授業の予習をしておく。(120 分) 【事後】第 10 回の課題を manaba に提出（120 分）

第 11 回	ケース別子育て支援⑤ （障害をもつ子どもがいる家庭への支援）	【事前】テキストの指定箇所を読み込み、次回の授業の予習をしておく。（120 分） 【事後】第 11 回の課題を manaba に提出（120 分）
第 12 回	諸外国の子育て支援① （欧米と北欧を中心に）	【事前】テキストの指定箇所を読み込み、次回の授業の予習をしておく。（120 分） 【事後】第 12 回の課題を manaba に提出（120 分）
第 13 回	諸外国の子育て支援② （東アジアを中心に）	【事前】テキストの指定箇所を読み込み、次回の授業の予習をしておく。（120 分） 【事後】第 13 回の課題を manaba に提出（120 分）
第 14 回	ワークで学ぶ子育て支援 （広報誌から読み解く子育て支援）	【事前】テキストの指定箇所を読み込み、次回の授業の予習をしておく。（120 分） 【事後】第 14 回の課題を manaba に提出（120 分）
第 15 回	学修の到達目標の確認 （学修のふり返りと共有）	【事前】テキストの指定箇所を読み込み、次回の授業の予習をしておく。（120 分） 【事後】今まで行った授業内容をふり返る（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	「子ども家庭支援」が求められる背景やその意義と、わが国の支援体制の現状について理解できる。
到達目標 2	具体的に「子ども家庭支援」の背景、意義、支援体制の現状が各論（ 第 7 ～ 11 回 ）とどのように関わっているのかについて把握できる。
到達目標 3	将来保育者となる時、どのようなスタイルで子ども家庭支援を行うのか、自分自身の考えをまとめることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	子ども家庭支援の背景や意義、支援体制について十分なレベルで知識を身につけている。さらに、自発的にその知識を探究し、突き詰め、実践することができる。
	優	子ども家庭支援の背景や意義、支援体制について十分なレベルで知識を身につけている。さらに、自発的にその知識を探究し突き詰めることができる。
	良	子ども家庭支援の背景や意義、支援体制について十分なレベルで知識を身につけている。
	可	子ども家庭支援の背景や意義、支援体制についてある程度の知識を身につけている。
	不可	子ども家庭支援の背景や意義、支援体制についての知識を身につけていない。
到達目標 2	秀	保育所、地域、障害などケース別でみた場合に、子ども家庭支援がどのように関わるのか十分把握している。さらに本授業で得た知識を掘り下げ、積極的に実践することができる。
	優	保育所、地域、障害などケース別でみた場合に、子ども家庭支援がどのように関わるのか十分把握している。さらに本授業で得た知識を掘り下げることができる。
	良	保育所、地域、障害などケース別でみた場合に、子ども家庭支援がどのように関わるのか十分把握している。
	可	保育所、地域、障害などケース別でみた場合に、子ども家庭支援がどのように関わるのかある程度把握している。
	不可	保育所、地域、障害などケース別でみた場合に、子ども家庭支援がどのように関わるのか把握していない。
到達目標 3	秀	本授業を通して自らの専門領域で子ども家庭支援のあり方を考え、十分なレベルでまとめることができる。さらにその支援方法いついて積極的に他者に語ることができる。
	優	本授業を通して自らの専門領域で子ども家庭支援のあり方を考え、十分なレベルでまとめることができる。さらにその支援方法いついて促されれば他者に語ることができる。
	良	本授業を通して自らの専門領域で子ども家庭支援のあり方を考え、十分なレベルでまとめることができる。
	可	本授業を通して自らの専門領域で子ども家庭支援のあり方を考え、ある程度まとめることができる。
	不可	本授業を通して自らの専門領域で子ども家庭支援のあり方を考え、まとめることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	20	0	0	0	20	100
到達目標 1	15	10	0	0	0	0	25
到達目標 2	15	10	0	0	0	0	25
到達目標 3	30	0	0	0	0	20	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	15 回の学修を踏まえ、レポート試験を課す。
提出物	manaba に提出する課題を中心に評価する。
その他	正課内におけるグループワークや提出された課題について、正課内の学修内容の範囲に留まらず、自発的に課題を発見し、掘り下げて研究するなど主体的・能動的に取り組んでいたかどうかを評価する。

履修に必要な知識・技能など
私語は厳禁です。また、授業で生じた疑問等はそのまま放置せず、必ず消化させること。

教科書・ISBN
9784623087259　『保育実践に求められる子ども家庭支援』橋本好市・直島正樹 ミネルヴァ書房、2019 年。

参考書
適宜紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教育課程総論（E33310）	講義	2	30	3	前期	選択	幼教免必修 小教免必修	西本望
科目担当者	西本望							

授業の概要	人格の完成の実現を保障するために、教育課程や指導計画について意義や編成の方法について理解する。さらに各学校種の実情に応じた教育課程や指導計画の評価および省察と改善（カリキュラム・マネッジメント）を学ぶ。具体的には、歴史的変遷にともなう社会的背景や要請、編成の方策と類型、評価と省察および改善、近年の動向について理解する。さらに家庭教育や地域の教育との連携および各学校・園との教育課程の接続について知識や技術を身につける。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（レ）その他（形成的評価を用いた授業内レポート）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	教育課程とは	【事前】教科書を熟読し、次回の講義の予習をする（120 分） 【事後】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する（120 分）
第 2 回	教育課程の意義	【事前】教科書を熟読し、次回の講義の予習をする（120 分） 【事後】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する（120 分）
第 3 回	家庭・地域社会のもつ教育機能	【事前】教科書を熟読し、次回の講義の予習をする（120 分） 【事後】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する（120 分）
第 4 回	インフォーマルな教育課程とフォーマルな教育課程	【事前】教科書を熟読し、次回の講義の予習をする（120 分） 【事後】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する（120 分）
第 5 回	教育課程の歴史的経緯Ⅰ：カリキュラム成立以前の教育方法	【事前】教科書を熟読し、次回の講義の予習をする（120 分） 【事後】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する（120 分）
第 6 回	教育課程の歴史的経緯Ⅱ：カリキュラムの黎明期	【事前】教科書を熟読し、次回の講義の予習をする（120 分） 【事後】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する（120 分）
第 7 回	カリキュラム編成の観点と思想（スコープとシークエンス）	【事前】教科書を熟読し、次回の講義の予習をする（120 分） 【事後】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する（120 分）
第 8 回	教科カリキュラムと経験カリキュラム	【事前】教科書を熟読し、次回の講義の予習をする（120 分） 【事後】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する（120 分）

第 9 回	種々のカリキュラムと改善と方策（カリキュラム・マネッジメントを含む）	【事前】教科書を熟読し、次回の講義の予習をする（120 分） 【事後】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する（120 分）
第 10 回	教育課程編成の背景Ⅰ：こどもの成長・発達とターニングポイント：シークエンス、ヒドゥンカリキュラム	【事前】教科書を熟読し、次回の講義の予習をする（120 分） 【事後】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する（120 分）
第 11 回	教育課程編成の背景Ⅱ：法および学習指導要領との関連：文科省、学校、教師の役割	【事前】教科書を熟読し、次回の講義の予習をする（120 分） 【事後】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する（120 分）
第 12 回	評価の意義と解釈および改善（カリキュラム・マネッジメントを含む）	【事前】教科書を熟読し、次回の講義の予習をする（120 分） 【事後】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する（120 分）
第 13 回	教育課程・学習指導計画の編成と展開Ⅰ：長期指導計画の概念と行事の意味	【事前】教科書を熟読し、次回の講義の予習をする（120 分） 【事後】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する（120 分）
第 14 回	教育課程・学習指導計画の編成と展開Ⅱ：校種間の円滑な接続	【事前】教科書を熟読し、次回の講義の予習をする（120 分） 【事後】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する（120 分）
第 15 回	まとめ	【事前】教科書を熟読し、次回の講義の予習をする（120 分） 【事後】教科書、配付資料、ノートの記録を熟読する（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	教育課程や指導計画の役割や機能を把握するとともに、それまでの変遷やその時代の社会的背景や要請について理解している。
到達目標 2	教育課程の編成や指導計画を編成するときの観点や方法などについて理解している。
到達目標 3	編成の背景となる子どもの心身の成長・発達や社会的状況等について理解している。
到達目標 4	教育課程や指導計画を省察し、評価および省察と改善（カリキュラム・マネッジメント）についての意義や重要性を理解している。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	理解した知識・技術を応用することができる。
	優	ほぼ完璧に知識・技術を有している。
	良	おおむね知識・技術を有する。
	可	基本的な知識については有している。
	不可	不十分。基本的な知識が修得されていない。
到達目標 2	秀	理解した知識・技術を活用することができる。
	優	知識・技術をほぼ完璧に理解できている。
	良	知識・技術をおおむね理解できている。
	可	基本的な知識については理解している。
	不可	不十分。基本的な知識が修得されていない。

到達目標３	秀	探究した事柄を応用することができる。
	優	積極的に探究しようとする力ができている。
	良	おおむね根拠となるものを探究する力がある。
	可	指導すれば、探究しようとする行動を起こす。
	不可	不十分。基本的な知識が修得されていない。
到達目標４	秀	省察と改善をあらゆることに活用することができる。
	優	省察と改善が積極的に持続的できる。
	良	おおむね省察や改善をすることができる。
	可	指導助言をすると省察や改善をしようとする。
	不可	不十分。省察できない。改善の意欲もみられない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	0	0	0	0	50	100
到達目標１	15	0	0	0	0	15	30
到達目標２	15	0	0	0	0	15	30
到達目標３	10	0	0	0	0	10	20
到達目標４	10	0	0	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	定期試験期間中に筆記試験を実施する。知識・技術にかかわる理解度を問う。
その他	積極的な参加や授業内レポート（ 毎回提出 ）などの課題を総合して行う。知識を活用したり、さらにそれを技術として活用できたりすることを検証する。その他、必要に応じて課題を適宜指示する。

履修に必要な知識・技能など
教科書や配付資料を熟読するとともに、そこにかかわる必要な専門用語については理解して授業に臨むこと。既習の教職課程関連科目の講義演習内容等については、すでに理解済みであるとみなすので、本授業内容とともに復習をしておくこと。授業内レポート提出用の A4 判レポート用紙を持参してください（ 所定の用紙以外は不可とする）。

教科書・ISBN
9784812219089 『教育のイデア（改訂版）』 塩見剛一・成山文夫・西本望・光成研一郎 編著　昭和堂 2020

参考書
『幼稚園教育要領』、『小学校学習指導要領』 など各学校種指導要領、指導の手引 『幼児期と児童期の学びをつなぐ』兵庫県教育委員会 2017 [兵庫県教育委員会ホームページよりダウンロード]

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育指導法（E33330）	演習	1	30	3	前期	選択	保育士選択 幼教免必修	多田琴子
科目担当者	多田琴子							

授業の概要	幼稚園教育において育みたい資質・能力（知識及び技能の基礎、思考力・判断力・表現力の基礎、学びに向かう力・人間性等）や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解する。また、幼稚園教育要領に示された領域毎のねらい及び内容が、幼児の活動の中では総合的・複合的に包括されることを理解し、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びの過程を踏まえ、具体的指導場面を想定して保育を構想する力を身に付ける。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（レ）その他（模擬保育）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション一日の流れ、保育形態と保育指導の構造	【事前】シラバス通読をし、概要をつかむ（30 分） 【事後】学びの振り返りをおこなう（30 分）
第 2 回	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本と幼稚園教育において育みたい資質・能力の再確認と模擬保育グループ分け	【事前】幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本確認をおこなう（30 分） 【事後】就学前教育において育みたい資質・能力を再確認する（30 分）
第 3 回	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	【事前】幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を確認する（30 分） 【事後】幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を保育の計画と評価で作成した指導案への位置づけをおこなう（30 分）
第 4 回	幼児のおおむねの発達理解と指導計画及び評価	【事前】指導計画と幼児のおおむねの発達確認する（30 分） 【事後】保育の計画と評価で作成した指導計画の手直しをおこなう（30 分）
第 5 回	構造的指導計画立案 －学年別活動計画（3 歳児）－（グループワーク）	【事前】保育の計画と評価で作成した活動計画の確認をおこない模擬保育指導案立案をする（30 分） 【事後】模擬保育指導案立案をする（30 分）
第 6 回	構造的指導計画立案 －学年別活動計画（4 歳児）－（グループワーク）	【事前】保育の計画と評価で作成した活動計画の確認をおこない模擬保育指導案立案をする（30 分） 【事後】模擬保育指導案立案をする（30 分）
第 7 回	構造的指導計画立案 －学年別活動計画（5 歳児）－（グループワーク）	【事前】保育の計画と評価で作成した活動計画の確認をおこない模擬保育指導案立案をする（30 分） 【事後】模擬保育指導案立案をする（30 分）
第 8 回	模擬保育と振り返り －基本的生活習慣の定着－（グループワーク）	【事前】保育内容（健康）で作成した指導案の確認をおこない模擬保育指導案立案をする（30 分） 【事後】模擬保育実施後の反省と評価をまとめる（30 分）

第 9 回	模擬保育と振り返り －体を使った遊び・集団遊び－（グループワーク）	【事前】保育内容（健康）で作成した指導案の確認をおこない模擬保育指導案立案をする（30 分） 【事後】模擬保育実施後の反省と評価をまとめる（30 分）
第 10 回	模擬保育と振り返り －自然物を使った遊び－（グループワーク）	【事前】保育内容（環境）で作成した指導案の確認をおこない模擬保育指導案立案をする（30 分） 【事後】模擬保育実施後の反省と評価をまとめる（30 分）
第 11 回	模擬保育と振り返り －言葉を使った遊び－（グループワーク）	【事前】保育内容（言葉）で作成した指導案の確認をおこない模擬保育指導案立案をする（30 分） 【事後】模擬保育実施後の反省と評価をまとめる（30 分）
第 12 回	模擬保育と振り返り －音楽リズム遊び－（グループワーク）	【事前】保育内容（リズム表現）で作成した指導案の確認をこない模擬保育指導案立案をする（30 分） 【事後】模擬保育実施後の反省と評価をまとめる（30 分）
第 13 回	模擬保育と振り返り －描いたり作ったりする遊び－（グループワーク）	【事前】保育内容（造形表現）で作成した指導案の確認をおこない模擬保育指導案立案をする（30 分） 【事後】模擬保育実施後の反省と評価をまとめる（30 分）
第 14 回	模擬保育と振り返り－園行事を通した遊び－（グループワーク）	【事前】模擬保育指導案の立案をおこなう（30 分） 【事後】模擬保育実施後の反省と評価をまとめる（30 分）
第 15 回	モデル指導案発表（模擬保育・学年別指導計画・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿などそれまでの学びを結集した指導案のポスター発表）	【事前】学習のまとめ(配布物とノートの整理をする)（30 分） 【事後】学習のまとめをおこなう（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	乳幼児の発達を十分理解して指導案を作成し、対象に合った指導技術を展開する。
到達目標 2	保育対象の背景を具体的にイメージし、ねらいや内容や援助等を理解して保育指導案立案を行い、保育の意図を他者と積極的に共有する。
到達目標 3	学修成果として持っている知識を発揮し、保育の対象にあわせて対応しようと努力する。さらに、保育展開でつまずいた事柄の根拠を解明する。
到達目標 4	グループの一員としての自覚を持ち役割を自覚して行動する。また、自己意志で決断しその場に適した態度をとろうと努力する。
到達目標 5	自発的に周囲と協調・協働する。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	保育指導法において、乳幼児の発達を十分理解して指導案を作成し、対象に合った指導技術を展開すると共に、展開後の評価から課題が見いだせる。
	優	保育指導法において、乳幼児の発達を十分理解して指導案を作成し、対象に合った指導技術を展開すると共に、展開後の評価が的確に行える。
	良	保育指導法において、乳幼児の発達を十分理解して指導案を作成し、対象に合った指導技術を展開しようと努力できる。
	可	保育指導法において、乳幼児の発達を考えながら指導案を作成し、対象に合った指導技術を展開しようと努力できる。
	不可	保育指導法において、乳幼児の発達理解からの指導案作成ではなく、対象に合った指導技術を展開できない。

到達目標２	秀	保育対象の背景を具体的にイメージし、保育の構造を理解して、的確な保育指導案立案が行える。さらに、保育の意図を他者に分かりやすく発信し共有することができる。
	優	保育対象の背景を具体的にイメージし、保育の構造を理解して、ねらいや内容を設定し、保育指導案立案が行える。保育の意図を他者と積極的に共有できる。
	良	保育対象の背景を具体的にイメージし、ねらいや内容や援助等を理解して保育指導案立案が行える。保育の意図を他者と積極的に共有しようとする。
	可	保育対象の背景から、ねらいや内容や援助等を考えて保育指導案立案を行おうとする。保育の意図を他者から学ぼうとする。
	不可	保育対象の背景から、ねらいや内容や援助等を考えることができない。
到達目標３	秀	学修成果として持っている知識を発揮し、保育の対象にあわせて臨機応変に対応できる実践力が十分ある。さらに、変更した根拠となる事柄を正確に示し、解説することができる。
	優	学修成果として持っている知識を発揮し、保育の対象にあわせて臨機応変に対応できる実践力が十分ある。さらに、変更した根拠となる事柄を正確に把握している。
	良	学修成果として持っている知識を発揮し、保育の対象にあわせて対応しようと努力する。さらに、保育展開でつまずいた事柄の根拠を解明しようとする。
	可	学修成果として持っている知識を発揮し、保育の対象にあわせて対応しようと努力する。
	不可	学修成果として持っている知識と技術を出せない。
到達目標４	秀	グループの一員としての自覚を持ち責任を持って役割を担い遂行することができる。自己意志で決断しその場に適した態度を取ることができ、見返りを求めることはない。メリットは結果的に副産物として生ずるものであるとわかっている。
	優	グループの一員としての自覚を持ち責任を持って役割を担い遂行することができる。自己意志で決断しその場に適した態度を取ることができる。仮に役割を遂行できない場合も、そのことに自覚的であり得る。
	良	グループの一員としての自覚を持ち役割を自覚して行動することができる。また、自己意志で決断しその場に適した態度をとろうと努力できる。
	可	グループの一員としての自覚を持ち役割を自覚して行動する意思がある。責任が担えない場合は、別の役割をしようとする。
	不可	役割は担わず、メリットの享受をうける。
到達目標５	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、その実績が他者に還元される。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	協調・協働への興味は薄いが、他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協調・協働的に作業することはできる。
	不可	協調・協働する意志がなく、周囲のモチベーションを下げてしまう。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	30	30	40	0	0	0	100
到達目標１	30	10	15	0	0	0	55
到達目標２	0	10	0	0	0	0	10
到達目標３	0	0	15	0	0	0	15
到達目標４	0	5	5	0	0	0	10
到達目標５	0	5	5	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	・学びの振り返りとしてレポート試験を行う。 ・保育活動に必要な専門知識（保育対象の背景を具体的にイメージし、保育の構造を理解して、的確な保育指導案立案が行える）の理解度で評価する。
提出物	・模擬保育指導案、実践後の自己評価が妥当であるかを評価する。 ・発達を理解し、指導案が対象に対し、保育指導法として適切であるか評価する。 ・役割取得を遂行し自己評価に明記されているか評価する。 ・実績が他者に還元されるように推考されているか評価する。
その他	・推考した模擬保育指導案を実践で活かす技術力を評価する。 ・模擬保育において、広角な視野で実践がなされているか、多様な視点で実践の課題を見いだしているかを評価する。 ・役割取得において、メリットを求めず良いものを作り出そうとする行動を評価する。

履修に必要な知識・技能など
1）幼児の実態を詳しく想定し、実態にふさわしい活動を立案する必要があるので、これまでの実習日誌を読み直しておく。 2）「保育所保育指針」及び「幼稚園教育要領」は通読しておく。 3）模擬保育指導案作り、教材研究については、グループで事前協議を十分に行う。 4）模擬保育指導案は、事前に何度か科目担当者に提出し、事前検討を十分に行う。 5）積極的授業参加のこと。保育者にふさわしい言動と身だしなみ、学習準備で臨むこと。 6）模擬保育はグループワークであるため、計画的に集まり、主体的・協同的に行うこと。

教科書・ISBN
使用しない。

参考書
『保育所保育指針解説』厚生労働省　編 フレーベル館　ISBN-13 : 978-4577814482 『幼稚園教育要領解説』文部科学省　編 フレーベル館　ISBN-13 : 978-4577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館　ISBN-13 : 978-4577814499 その他、適宜紹介、配布する。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
特別支援教育 （E33450）	講義	1	15	3	前期	選択	幼教免必修 小教免必修	岩越美恵
科目担当者	岩越美恵							

授業の概要	2012 年の文部科学省の調査では、通常学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育支援を必要とする児童生徒の割合は約 6.5% と言われており、その他の特別な支援を必要としている子ども達の理解と支援方法を、他の教員、保護者、関連機関と連携しながら、いわゆる健常児たちへの合理的配慮も考えた、インクルーシブ教育ができるための知識や技術を習得し、さらに自分でそれらを磨いていける力をつける。 障害と社会との関係を自覚し、障害のある人たちの将来の自律・自立生活に向けて、教師として市民として何が必要であるかを考える。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（レ）その他（与えた課題に対する自主学習）
教員の実務経験	30 年以上、地域の児童発達支援センターに勤務した経験を活かし、各種学校との連携経験から特に学校においてこどもたちのためにより充実が必要なポイントを盛り込み、教育の最終目標である当事者の方たちの卒後の生活をイメージできるよう、ゲストスピーカーとして地域の当事者と支援者の方々をお迎えしている。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	障害とは何か。インクルーシブ教育の理念 （担当者：岩越）	【事前】シラバスに目を通しておく。声までの人生でであったり、関わった障害のある人について考えておく。(100 分) 【事後】講義の学びの振り返り、さらに自分で調べて理解を確実なものにする。また、興味をもったことについて自ら調べる（125 分）
第 2 回	肢体不自由児の理解と支援 （担当者：岩越）	【事前】与えられた課題を manaba に提出（100 分） 【事後】講義の学びの振り返り、さらに自分で調べて理解を確実なものにする。また、興味をもったことについて自ら調べる（125 分）
第 3 回	重症心身障害児、病弱児、視聴覚障害児の理解と支援 （担当者：岩越）	【事前】与えられた課題を manaba に提出（100 分） 【事後】講義の学びの振り返り、さらに自分で調べて理解を確実なものにする。また、興味をもったことについて自ら調べる（125 分）
第 4 回	知的障害児の理解と支援 （担当者：岩越）	【事前】与えられた課題を manaba に提出（100 分） 【事後】講義の学びの振り返り、さらに自分で調べて理解を確実なものにする。また、興味をもったことについて自ら調べる（125 分）
第 5 回	発達障害児の理解と支援①（総論と自閉症スペクトラム症） （担当者：岩越）	【事前】与えられた課題を manaba に提出（100 分） 【事後】講義の学びの振り返り、さらに自分で調べて理解を確実なものにする。また、興味をもったことについて自ら調べる（125 分）
第 6 回	発達障害児の理解と支援②（AD/HD と限局性学習障害） （担当者：岩越）	【事前】与えられた課題を manaba に提出（100 分） 【事後】講義の学びの振り返り、さらに自分で調べて理解を確実なものにする。また、興味をもったことについて自ら調べる（125 分）

第 7 回	教育の目指す姿：障害のある人の地域生活とその支援 （担当者：ゲストスピーカー ）	【事前】与えられた課題を manaba に提出（100 分） 【事後】講義の学びの振り返り、さらに自分で調べて理解を確実なものにする。また、興味をもったことについて自ら調べる（125 分）
第 8 回	学校・家庭・地域との連携（障害以外の要支援児対応を含む） （担当者：岩越）	【事前】与えられた課題を manaba に提出（100 分） 【事後】講義の学びの振り返り、さらに自分で調べて理解を確実なものにする。また、興味をもったことについて自ら調べる（125 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	(1) 障害とは何か、社会との関係すなわち自分たちとの関係を理解し、行動できる。
到達目標 2	(2) 特別の支援を必要とする幼児・児童の様々な障害特性及び心身の発達を理解している。 (3) 特別の支援を必要とする幼児・児童に対する教育課程や支援の方法を理解している。
到達目標 3	(4) 教育のゴールである障害のある人の自律・自立した地域生活についてイメージできる。そのために将来教員として、家庭や地域の関連機関との連携について考えることができる。 (5) 障害があっても無くても特別の教育的ニーズのある幼児・児童の学習上または生活上の困難とその対応について理解している。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	障害について、社会との関係において十分に理解し、自分の行動を変えることができている。
	優	障害について、社会との関係において十分に理解し、自分の考えを変えることができている
	良	障害について、社会との関係において理解し、自分たちと関係あることが理解できる。
	可	障害について、社会との関係において少しは理解している。
	不可	障害について、社会との関係があることをほとんど理解していない。
到達目標 2	秀	様々な障害とその支援について、職業意識と探究心を持ち、さらに自ら知識を増やし考えている。
	優	様々な障害とその支援について、専門領域における十分な知識と職業意識を身につけている。
	良	様々な障害とその支援について、専門領域における十分な知識を身につけている。
	可	様々な障害とその支援について、専門領域における必要最低限の知識を身につけている。
	不可	様々な障害とその支援について、専門領域における必要最低限の知識を身につけていない。
到達目標 3	秀	将来の自律・自立生活に向けて、学校と家庭、地域機関との連携について積極的に考えを進めている
	優	将来の自律・自立生活に向けて、学校と家庭、地域機関との連携について具体的に考えている。
	良	将来の自律・自立生活に向けて、学校と家庭、地域機関との連携について必要だと考えている。
	可	将来の自律･自立生活に向けて、学校と家庭、地域機関との連携について少しは必要と思っている。
	不可	将来の自律・自立生活に向けて、学校と家庭、地域機関との連携について必要性を感じていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 （口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	65	35	0	0	0	0	100
到達目標 1	5	10	0	0	0	0	15
到達目標 2	50	15	0	0	0	0	65
到達目標 3	10	10	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は､授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	定期試験期間中に実施する筆記試験
提出物	レポートや授業後の小テストなど

履修に必要な知識・技能など
現代社会における障害のある人たちの置かれている状況について、実生活や新聞記事などを通して興味関心を持つ。

教科書・ISBN
使用しません。

参考書
『そうだったのか！発達障害の世界―子どもの育ちを支えるヒント』 石川道子著　中央法規 その他、随時紹介します。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教育方法・技術論 （E33460）	講義	2	30	3	後期	必修	幼教免必修 小教免必修	光成研一郎
科目担当者	光成研一郎							

授業の概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質を伸長し、能力を育成するために、発達段階や個性に応じた様々な教育方法や技術が求められる。具体的には授業の目標・内容・指導・評価などに関する理論的知識に裏打ちされた実践力が必要となる。さらに現代において、教育方法及び技術を新しい視点で捉え、最新のマルチメディア機器や教材を活用する方法や技術を修得する必要が生じている。本講義においては、教育方法・技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につける。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （レ）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	教育方法の意味	【事前】シラバスの熟読（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 2 回	教育方法の歴史的展開	【事前】配布プリントの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 3 回	教育方法の類型	【事前】配布プリントの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 4 回	教育課程の歴史的展開	【事前】配布プリントの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 5 回	教育課程の類型	【事前】配布プリントの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 6 回	学習指導の原理と過程	【事前】配布プリントの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 7 回	生徒指導の原理と過程（中間テストを実施）	【事前】配布プリントの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 8 回	幼稚園教育要領、学習指導要領の変遷と新幼稚園教育要領、新学習指導要領の特色について	【事前】配布プリントの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 9 回	インストラクショナルデザイン（教育目標・教育指導・教育評価の一体化について）	【事前】配布プリントの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 10 回	インストラクショナルデザイン（目標に応じた多様な評価方法について）	【事前】配布プリントの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 11 回	教育及び保育の技術（視聴覚教育とメディア）	【事前】配布プリントの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 12 回	教育及び保育の技術（CAI と教育ソフト）	【事前】配布プリントの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 13 回	教育実践・保育実践（指導計画に基づく実践）	【事前】配布プリントの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）
第 14 回	実践後のリフレクション及び改善策について	【事前】配布プリントの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）

第 15 回	こどもたちの情報活用能力や情報モラルを育成するために 補足とまとめ	【事前】配布プリントの解答（120 分） 【事後】授業課題への回答（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	教育方法の概念・歴史・思想について理解している。
到達目標 2	授業や保育活動をデザインし、目標、指導、評価の一体化を図ることができる。
到達目標 3	教育における情報通信技術の活用の意義と理論を理解し、授業および保育活動等で実践することができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	教育方法の基本的な概念・歴史・思想について深く理解している。
	優	教育方法の基本的な概念・歴史・思想について十分理解している。
	良	教育方法の基本的な概念・歴史・思想について理解している。
	可	教育方法の基本的な概念・歴史・思想について最低限理解している。
	不可	教育方法の基本的な概念・歴史・思想について理解していない。
到達目標 2	秀	授業や保育活動をデザインし、目標・指導・評価の一体化を十分に図ることができる。
	優	授業や保育活動をデザインし、目標・指導・評価の一体化を図ることができる。
	良	授業や保育活動をデザインし、目標・指導・評価の一体化を最低限図ることができる。
	可	授業や保育活動をデザインすることができる。
	不可	授業や保育活動をデザインすることができない。
到達目標 3	秀	情報通信技術の意義と理論を深く理解し、効果的・効率的に授業及び保育活動で実践することができる。
	優	情報通信技術の意義と理論を深く理解し、効果的に授業及び保育活動で実践することができる。
	良	情報通信技術の意義と理論を理解し、実践することができる。
	可	情報通信技術の意義と理論を理解しており、ある程度実践することができる。
	不可	情報通信技術の意義と理論を理解していない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 （口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	10	20	0	0	30	100
到達目標 1	30	10	0	0	0	30	70
到達目標 2	5	0	10	0	0	0	15
到達目標 3	5	0	10	0	0	0	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験を実施する。再試験は実施しない。
提出物	授業ごとの課題の状況を評価する。
成果発表 （口頭・実技）	授業や保育活動をデザインし、目標、指導、評価の一体化を図ることができているかどうか評価するとともに、情報通信技術を活用した効果的・効率的な授業及び保育活動が実践できているかどうかを評価する。

履修に必要な知識・技能など
知識や技能の習得が求められる科目なので、課題やレポートの提出を怠らないこと。再試験は実施しない。

教科書・ISBN
9784812219089　『教育のイデア』改訂版　西本望・光成研一郎編　昭和堂

参考書
小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、生徒指導提要

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
道徳教育の理論と実践（E33470）	講義	2	30	3	後期	選択	小教免必修	京極重智
科目担当者	京極重智							

授業の概要	この授業では、道徳教育に関する原理や歴史といった理論的な内容と、道徳教育をおこなうための方法論や具体的なトピックといった実践的な内容を扱い、道徳教育についての総合的な知識を広げる。 さらに、指導案作成と模擬授業を通じて、道徳教育の実践的指導力を養う。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	イントロダクション	【事前】シラバスを熟読したうえで、道徳教育についての現時点での知識をまとめる（120 分） 【事後】イントロダクションについて、リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 2 回	「道徳」とは何か	【事前】「道徳」とは何か、自身の言葉でまとめる（120 分） 【事後】「道徳」の意味について、リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 3 回	道徳教育の歴史的変遷（1）江戸期から戦前まで	【事前】江戸期から戦前までの道徳教育について調べる（120 分） 【事後】江戸期から戦前までの道徳教育の変遷について、リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 4 回	道徳教育の歴史的変遷（2）戦後から現代まで	【事前】戦後から現代までの道徳教育について調べる（120 分） 【事後】戦後から現代までの道徳教育の変遷について、リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 5 回	「特別の教科　道徳」をめぐって	【事前】「特別の教科　道徳」について調べる（120 分） 【事後】「特別の教科　道徳」をめぐる背景について、リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 6 回	道徳性の発達理論	【事前】道徳性の発達理論について調べる（120 分） 【事後】道徳性の発達理論について、リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 7 回	道徳科の学習指導要領における要点の確認	【事前】道徳科の学習指導要領について調べる（120 分） 【事後】道徳科の学習指導要領における要点について、リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 8 回	道徳教育の評価について	【事前】道徳教育の評価について調べる（120 分） 【事後】道徳教育の評価について、リフレクションシートの作成・提出（120 分）

第 9 回	道徳科の学習指導案の作成について	【事前】道徳科の学習指導案について調べる（120 分） 【事後】道徳科の学習指導案のポイントについて、リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 10 回	模擬授業（1）―グループ A の授業研究と模擬授業	【事前】模擬授業づくり（120 分） 【事後】グループ A の模擬授業について、リフレクションシートの作成と提出（120 分）
第 11 回	模擬授業（2）―グループ B の授業研究と模擬授業	【事前】模擬授業づくり（120 分） 【事後】グループ B の模擬授業について、リフレクションシートの作成と提出（120 分）
第 12 回	模擬授業（3）―グループ C の授業研究と模擬授業	【事前】模擬授業づくり（120 分） 【事後】グループ C の模擬授業について、リフレクションシートの作成と提出（120 分）
第 13 回	模擬授業（4）―グループ D の授業研究と模擬授業	【事前】模擬授業づくり（120 分） 【事後】グループ D の模擬授業について、リフレクションシートの作成と提出（120 分）
第 14 回	模擬授業（5）―グループ E の授業研究と模擬授業	【事前】模擬授業づくり（120 分） 【事後】グループ E の模擬授業について、リフレクションシートの作成と提出（120 分）
第 15 回	授業のまとめと学修の到達目標の確認	【事前】全授業内容の振り返り（120 分） 【事後】定期試験にむけた準備（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	道徳教育の原理を理解し、意義・目標および内容について説明することができる。
到達目標 2	道徳教育における実践的な指導のあり方について自分なりに工夫することができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	道徳教育の原理・意義・目標および内容について課題を踏まえて説明することができる。
	優	道徳教育の原理・意義・目標および内容について分かりやすく説明することができる。
	良	道徳教育の原理・意義・目標および内容について説明することができる。
	可	道徳教育の原理・意義・目標および内容について最低限の説明をすることができる。
	不可	道徳教育の原理・意義・目標および内容について説明することができない。
到達目標 2	秀	道徳教育における実践的な指導を子どもや学校の状況に即して工夫することができる。
	優	道徳教育における実践的な指導を自分なりに工夫することができる。
	良	道徳教育における実践的な指導ができる。
	可	道徳教育における実践的な指導を最低限することができる。
	不可	道徳教育における実践的な指導の方法が分からない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	70	0	30	0	0	0	100
到達目標 1	70	0	0	0	0	0	70
到達目標 2	0	0	30	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	道徳教育に関する総合的な理解を筆記試験により評価する。
成果発表 （口頭・実技）	模擬授業ならびに指導案を評価する。なお、模擬授業はグループで行う。

履修に必要な知識・技能など
教員採用試験を受けない学生も履修可能ですが、模擬授業には積極的に取り組むようにしてください。

教科書・ISBN
9784908255359　『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』文部科学省　廣済堂あかつき

参考書
随時紹介します。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
総合的な学習の時間の指導法（E33480）	講義	2	30	3	前期	選択	小教免必修	牛頭哲宏
科目担当者	牛頭哲宏、山下敦子							

授業の概要	総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育成される見方・考え方を活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（レ）課題解決型学習(外部協定　有　・　(無)　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	公立小学校現場における教員経験

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	総合的な学習の時間って何を教えるの？学習指導要領と各学校の目標と内容　（担当者：牛頭、山下）	【事前】シラバスと学習指導要領（総合的な学習の時間）の熟読（120 分） 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 2 回	授業時間の 45 分をどう生かす？年間計画と指導案の作成　（担当者：牛頭）	【事前】manaba 上の講義レジメを読み、年間計画と指導案に関するキーワードのチェックを整理する。(120 分) 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 3 回	子どもが主体的になる探究課題の設定と学びのフィールド探究課題づくり実践　（担当者：山下）	【事前】子どもが主体的になる探究課題の設定とは何か？学びのフィールド探究課題とはどのような課題か？について自分の考えをもつ。(120 分) 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 4 回	TeamBasedLearning を通した学びの場の作り方（1）TeamBasedLearning の実践　（担当者：山下）	【事前】TeamBasedLearning に関する理解を深める。(120 分) 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 5 回	TeamBasedLearning を通した学びの場の作り方（2）自己評価と他者評価による振り返り　（担当者：牛頭）	【事前】自己評価と他者評価についての理解を深める。(120 分) 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 6 回	ものづくりを通して指導のプロセスを考察する。ものづくり活動の実践　（担当者：牛頭）	【事前】小学生が安全に楽しく作成することのできる「もの」のアイデアを練る。(120 分) 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 7 回	ものづくりを通して学んだことの意味を考察する実践内容の振り返りと考察　（担当者：山下）	【事前】前回の授業で未完成の課題を仕上げる。(120 分) 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 8 回	討論や発表を楽しむ授業（1）情報の収集と再構成　（担当者：牛頭）	【事前】ディベートやプレゼンテーションに関する理解を深める。(120 分) 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 9 回	討論や発表を楽しむ授業（2）プレゼンテーションとディベート実践　（担当者：牛頭）	【事前】ディベートやプレゼンテーションのリサーチ活動を行う。(120 分) 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）

第 10 回	小学校現場における実践事例の考察（1）国際理解 （担当者：山下）	【事前】学習指導要領の国際理解に関する項目の熟読（120 分） 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 11 回	小学校現場における実践事例の考察（2）環境 （担当者：山下）	【事前】学習指導要領の環境教育に関する項目の熟読（120 分） 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 12 回	小学校現場における実践事例の考察（3）福祉・健康 （担当者：山下）	【事前】学習指導要領の福祉・健康教育に関する項目の熟読（120 分） 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 13 回	「総合的な学習の時間」における指導技術。ICT 機器の利用 （担当者：牛頭）	【事前】電子黒板やデジタル教科書など ICT 教育に関する理解を深める。（120 分） 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 14 回	学んだ実感を味わわせるポートフォリオ評価ポートフォリオ評価学修活動の実践 （担当者：牛頭）	【事前】ポートフォリオ評価に関する理解を深める。（120 分） 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 15 回	まとめ：ふたたび「総合的な学習の時間って何を教えるの？」 （担当者：牛頭、山下）	【事前】全授業内容の振り返りを行う。（120 分） 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	総合的な学習の時間の指導法について関心を持ち、意欲的かつ主体的に学修することができる。
到達目標 2	総合的な学習の時間の指導法について理解し、その実現のために必要な基礎的な知識・技能を身に付けることができる。
到達目標 3	総合的な学習の時間の指導法について学んだことを生かして、自分の考えを他者に伝えることができる。
到達目標 4	総合的な学習の時間の指導法について学んだことを生かして、根拠に基づき、論理的に考えることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	主体的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。学ぶことによってさらなる知的欲求が芽生え、さらなる主体的な学修へとつなげられる。
	優	主体的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度、自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと悦びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができない。
到達目標 2	秀	総合的な学習の時間を指導する教員として、必要な知識・技能を高いレベルで習得することができている。
	優	総合的な学習の時間を指導する教員として、必要な知識・技能を十分なレベルで習得することができている。
	良	総合的な学習の時間を指導する教員として、必要な知識・技能を習得することができている。
	可	総合的な学習の時間を指導する教員として、必要な知識・技能のどちらか一方は習得することができている。
	不可	総合的な学習の時間を指導する教員として、必要な知識・技能を習得することができていない。
到達目標 3	秀	目的や意図に応じ、的確な言葉や表現方法を用いて自分の考えを積極的に他者に伝えることができる。
	優	目的や意図に応じ、的確な言葉や表現方法を用いて自分の考えを他者に伝えることができる。
	良	相手が理解しやすいように表現の工夫を行いながら自分の考えを他者に伝えることができる。
	可	自分の考えを他者に伝えることができる。
	不可	自分の考えを他者に伝えることができない。

到達目標４	秀	根拠に基づき、筋道を立てて論理的に考えることができる。さらに、様々な意見を再構成し、考えを深化させることができる。
	優	根拠に基づき、筋道を立てて論理的に考えることができる。
	良	根拠に基づき、論理的に考えることができる。
	可	根拠や論理性に未熟な点はあるが考えようと努力することができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	30	0	0	20	0	100
到達目標１	10	0	0	0	10	0	20
到達目標２	20	10	0	0	10	0	40
到達目標３	10	10	0	0	0	0	20
到達目標４	10	10	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験を行う。学習指導要領の理解、総合的な学習の時間の指導方法について知識面と技能面の定着度を測る
提出物	毎回の講義において、制作したり振り返りレポートを書いたりする。指導者の立場と児童の立場の両面から、講義の内容について考えを深めていくことが求められる。ポートフォリオ毎回の講義資料や提出物、あるいは予習・復習をしたもの等を吟味しポートフォリオを作成する。ポートフォリオを通して、学びの確認を行う。総合的な学習の時間の指導について常に意識し、学修に活かすことが求められる。
ポートフォリオ	毎回の講義資料や提出物、あるいは予習・復習をしたもの等を吟味しポートフォリオを作成する。ポートフォリオを通して、学びの確認を行う。総合的な学習の時間の指導について常に意識し、学修に活かすことが求められる。

履修に必要な知識・技能など
講義形式をとるが、毎時間テーマを決めて活動を行う。それを契機とした参加者同士の討論によって考えを深めることを目指す。

教科書・ISBN
適宜プリントや制作物等を用意する。

参考書
『小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』（文部科学省）　東洋館出版社 ISBN13：978-4491034683

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
子どもと音楽表現（E33540）	演習	1	30	3	後期	選択	保育士必修 幼教免選択	戸川晃子
科目担当者	戸川晃子							

授業の概要	領域「表現」の指導に関して音楽表現の視点から、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に 学び、幼児期の音楽表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身につける
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　） （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	領域「表現」のねらい及び内容の理解 ICT 活用の表現活動	【事前】シラバスを熟読し、予習しておく（30 分） 【事後】領域「表現」の確認（30 分）
第 2 回	器楽表現 (1) 鍵盤楽器の奏法	【事前】課題の練習（30 分） 【事後】学びの確認（30 分）
第 3 回	器楽表現 (2) 鍵盤楽器を用いた表現	【事前】課題の練習（30 分） 【事後】学びの確認（30 分）
第 4 回	器楽表現 (3) リズムで表現遊び	【事前】課題の練習（30 分） 【事後】学びの確認（30 分）
第 5 回	器楽表現 (4) リズム楽器の奏法	【事前】資料の熟読（30 分） 【事後】学びの確認（30 分）
第 6 回	器楽表現 (5) 合奏発表	【事前】グループで発表準備（30 分） 【事後】振り返りシートの作成、提出（30 分）
第 7 回	歌唱表現 (1) 言葉によるリズムあそび	【事前】言葉の収集（30 分） 【事後】振り返りシートの作成、提出（30 分）
第 8 回	歌唱表現 (2) 季節に応じた歌遊び	【事前】季節ごとの歌選び（30 分） 【事後】学びの確認（30 分）
第 9 回	歌唱表現 (3) 行事に応じた歌遊び	【事前】行事にまつわる歌選び（30 分） 【事後】学びの確認（30 分）
第 10 回	歌唱表現 (4) 歌遊びの指導計画	【事前】年齢に応じた歌選び（30 分） 【事後】グループで指導計画を考える（30 分）
第 11 回	歌唱表現 (5) 歌遊びの模擬保育	【事前】グループで指導計画を考える（30 分） 【事後】振り返りシートの作成、提出（30 分）
第 12 回	絵本と音楽 (1) 絵本選び	【事前】年齢に応じた絵本選び（30 分） 【事後】グループで絵本遊び発表準備（30 分）
第 13 回	絵本と音楽 (2) 絵本を音楽で表現しよう	【事前】グループで絵本遊び発表準備（30 分） 【事後】振り返りシートの作成、提出（30 分）
第 14 回	総合的な音楽表現 (1) 童謡を合奏に編曲する	【事前】グループで選曲､役割分担を話し合う（30 分） 【事後】グループで発表準備（30 分）
第 15 回	総合的な音楽表現 (2) 演奏発表と学びの振り返り	【事前】グループで発表準備（30 分） 【事後】振り返りシートの作成、提出（30 分）

学修の到達目標	
到達目標１	幼児の表現の姿や、その発達を理解する
到達目標２	音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする
到達目標３	グループ活動において自発的に役割を担い、周囲と協調・協働できる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	幼児の表現の姿や、その発達を非常によく理解している。
	優	幼児の表現の姿や、その発達をよく理解している。
	良	幼児の表現の姿や、その発達を理解している。
	可	幼児の表現の姿や、その発達をほとんど理解していない。
	不可	幼児の表現の姿や、その発達を理解していない。
到達目標２	秀	身近なものや楽曲を音楽で表現する楽しさを非常に豊かに感じることができ、他者によく伝えられる。
	優	身近なものや楽曲を音楽で表現する楽しさをより豊かに感じることができ、他者によく伝えられる。
	良	身近なものや楽曲を音楽で表現する楽しさを豊かに感じることができ、他者に伝えられる。
	可	身近なものや楽曲を音楽で表現する楽しさを感じることができ、他者に伝えられる。
	不可	身近なものや楽曲を音楽で表現する楽しさを感じることができず、他者に伝えられない。
到達目標３	秀	グループ活動において自発的に役割を担い、周囲と非常によく協調・協働できる。
	優	グループ活動において自発的に役割を担い、周囲と協調・協働できる。
	良	グループ活動において役割を担い、周囲と非常によく協調・協働できる。
	可	グループ活動において自発的に役割を担えるが、周囲と協調・協働する意志が薄い
	不可	グループ活動において自発的に役割を担い、周囲と協調・協働する意志がない

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	20	40	0	0	0	100
到達目標１	20	10	10	0	0	0	40
到達目標２	20	5	20	0	0	0	45
到達目標３	0	5	10	0	0	0	15

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を行う。授業の内容を踏まえ、対象にふさわしい指導立案、及び表現ができているかを評価する。
提出物	授業における学びの確認、振り返りシート、事前調べ等の提出により理解度、積極性を評価する。
成果発表（口頭・実技）	課題に応じた音楽表現を個人またはグループでの発表を評価する。発表までの参加態度等、求められる役割を積極的に取り組む姿勢を評価する。

履修に必要な知識・技能など
1）保育内容（表現）のねらいを理解すること 2）表現するための技能を身につける努力（練習）を行うこと

教科書・ISBN
使用しない

参考書
『こどもの歌 200』　チャイルド本社 『やさしい弾き歌い 75』　音楽之友社 『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 適宜教材を配布

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
小学校音楽（E33640）	演習	1	30	3	前期	選択	小教免選択必修	瀬川和子
科目担当者	瀬川和子、戸川晃子、水澤節子、清水かをり							

授業の概要	1. 小学校における音楽科の授業を担当するために必要な実践的な音表現力を身に付ける。 2. 幼児教育と小学校の接続、小学校・中学校の接続も踏まえながら小学校児童の音楽表現を理解する。また、音楽活動・音楽科の授業を担当するために必要な音楽表現技術と知識を身に付ける。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	音楽科教育の意義・目標　（担当者：瀬川）	【事前】シラバスを読んでおく。(30 分) 【事後】授業を振り返り学んだことを確認する。(30 分)
第 2 回	低学年歌唱共通教材　（担当者：水澤・清水）	【事前】歌唱共通教材を階名唱・音名唱する。(30 分) 【事後】授業を振り返り学んだことを確認する。(30 分)
第 3 回	器楽の学習と指導①打楽器・リコーダー　（担当者：瀬川）	【事前】各楽器の特性を調べておく。(30 分) 【事後】授業を振り返り学んだことを確認する。(30 分)
第 4 回	中学年歌唱共通教材（第 3 学年）　（担当者：水澤・清水）	【事前】歌唱共通教材を階名唱・音名唱する。(30 分) 【事後】授業を振り返り学んだことを確認する。(30 分)
第 5 回	器楽の学習と指導②鍵盤楽器　（担当者：瀬川）	【事前】各楽器の特性を調べておく。(30 分) 【事後】授業を振り返り学んだことを確認する。(30 分)
第 6 回	中学年歌唱共通教材（第 4 学年）　（担当者：水澤・清水）	【事前】歌唱共通教材を階名唱・音名唱する。(30 分) 【事後】授業を振り返り学んだことを確認する。(30 分)
第 7 回	音楽作りの学習と指導①　（担当者：瀬川）	【事前】楽典・音楽理論の復習をしておく。(30 分) 【事後】授業を振り返り学んだことを確認する。(30 分)
第 8 回	高学年歌唱共通教材（第 5 学年）　（担当者：水澤・清水）	【事前】歌唱共通教材を階名唱・音名唱する。(30 分) 【事後】授業を振り返り学んだことを確認する。(30 分)
第 9 回	幼小の連携を考える―幼児の音楽表現　（担当者：戸川）	【事前】幼児の音楽表現に関する資料・情報を集めておく。(30 分) 【事後】授業を振り返り学んだことを確認する。(30 分)
第 10 回	高学年歌唱共通教材（第 6 学年）　（担当者：水澤・清水）	【事前】歌唱共通教材を階名唱・音名唱する。(30 分) 【事後】授業を振り返り学んだことを確認する。(30 分)

第 11 回	小中の連携を考えるー中学の音楽表現　（担当者：瀬川）	【事前】中学の音楽表現に関する資料・情報を集めておく。（30 分） 【事後】授業を振り返り学んだことを確認する。（30 分）
第 12 回	歌唱共通教材のまとめ　（担当者：水澤・清水）	【事前】歌唱共通教材を階名唱・音名唱する。（30 分） 【事後】授業を振り返り学んだことを確認する。（30 分）
第 13 回	音楽作りの学習と指導②　（担当者：瀬川）	【事前】楽典・音楽理論の復習をしておく。（30 分） 【事後】授業を振り返り学んだことを確認する。（30 分）
第 14 回	鑑賞の学習と指導①音楽科指導と ICT 活用　（担当者：瀬川）	【事前】鑑賞曲に関する資料を集めておく（30 分） 【事後】授業を振り返り学んだことを確認する。（30 分）
第 15 回	鑑賞の学習と指導②まとめ　（担当者：瀬川）	【事前】鑑賞曲に関する資料を集めておく（30 分） 【事後】授業を振り返り学んだことを確認する。（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	小学校音楽科における各学年の目標および内容の基本を理解し、知識を身につける。
到達目標 2	教員として小学校の音楽活動・音楽表現に必要な技能の基本を身につけ、それを活用して指導する方法を見にるける。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	各学年の目標および内容の基本を充分理解し、必要な知識も身につけている。
	優	各学年の目標および内容の基本を理解し、必要な知識も身につけている。
	良	各学年の目標および内容の基本をある程度理解し、知識も身につけている。
	可	各学年の目標および内容の基本を最低限理解し、基本的な知識も身につけている。
	不可	各学年の目標および内容の基本を理解できず、基本的な知識も身につけていない。
到達目標 2	秀	教員として小学校の音楽活動・音楽表現に必要な技能の基本を充分身につけており、適切な指導ができる。
	優	教員として小学校の音楽活動・音楽表現に必要な技能の基本を充分身につけており、適切な指導方法を考えられる。
	良	教員として小学校の音楽活動・音楽表現に必要な技能の基本を身につけており、指導方法を考えられる。
	可	教員として小学校の音楽活動・音楽表現に必要な技能の基本を充身につけている。
	不可	教員として小学校の音楽活動・音楽表現に必要な技能の基本を充身につけていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	10	40	0	0	0	100
到達目標 1	25	5	20	0	0	0	50
到達目標 2	25	5	20	0	0	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を行います。小学校音楽科の意義と目標が理解できたか評価します。
提出物	授業の振り返り内容から授業に主体的に取り組めていたかを評価します。
成果発表（口頭・実技）	個人およびグループ形式での演奏実技を評価します。

履修に必要な知識・技能など
1）学習指導要領に示された小学校音楽科の目標や内容を理解すること。 2）基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけること。

教科書・ISBN
139784276821026 『最新　初等科音楽教育法［改訂版］小学校教員養成課程用』音楽之友社

参考書
随時紹介します。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
小学校図画工作（E33650）	演習	1	30	3	前期	選択	小教免選択必修	藤本由佳利
科目担当者	藤本由佳利							

授業の概要	小学生の創造活動の支援をするための総合的能力を高めるとともに、小学校図画工作の授業を行う上で必要な材料・用具に慣れる。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション　授業の目標と計画について	【事前】シラバスを熟読して次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】授業の課題を確認（30 分）
第 2 回	木を使った造形制作　構想の検討	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】授業での課題を解決する。個人評価記録の作成（30 分）
第 3 回	木を使った造形制作　構想をラフスケッチする	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】授業での課題を解決する。個人評価記録の作成（30 分）
第 4 回	木を使った造形制作　材料・用具を使う①（木材・トレーシングペーパーなど）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】授業での課題を解決する。個人評価記録の作成（30 分）
第 5 回	木を使った造形制作　材料･用具を使う②(電動糸鋸･錐など)	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】授業での課題を解決する。個人評価記録の作成（30 分）
第 6 回	木を使った造形制作　材料・用具を使う③（小刀、ドレッサー、サンドペーパーなど）	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】授業での課題を解決する。個人評価記録の作成（30 分）
第 7 回	木を使った造形制作　材料・用具を使う④（様々な塗料、ニスなど）作品鑑賞会	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】授業での課題を解決する。個人評価記録の作成（30 分）
第 8 回	陶芸作品の制作① 陶土に慣れ親しむ	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】授業での課題を解決する。個人評価記録の作成（30 分）
第 9 回	陶芸作品の制作② 陶土で成型する。釉薬を選ぶ。	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】授業での課題を解決する。個人評価記録の作成（30 分）

第 10 回	ICT の活用・ストップモーションアニメーション① 廃材を使った作品の制作	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】授業での課題を解決する。個人評価記録の作成（30 分）
第 11 回	ICT の活用・ストップモーションアニメーション② 身の周りの材料を使った動く立体の制作	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】授業での課題を解決する。個人評価記録の作成（30 分）
第 12 回	ICT の活用・ストップモーションアニメーション③ グループによる制作 第 10、11 回で制作した立体から、ICT を利用してストップモーションアニメーションを制作する。	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】授業での課題を解決する。個人評価記録の作成（30 分）
第 13 回	ICT の活用・ストップモーションアニメーション④ グループによる映像制作	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】授業での課題を解決する。個人評価記録の作成（30 分）
第 14 回	ICT の活用・ストップモーションアニメーション⑤ グループによる映像編集	【事前】次回の授業の予習と必要な材料・用具の確認（30 分） 【事後】授業での課題を解決する。個人評価記録の作成（30 分）
第 15 回	ICT の活用・ストップモーションアニメーション⑥ 映像作品の発表会・学修の到達目標の確認	【事前】発表会の準備（30 分） 【事後】全体の振り返り（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	基礎図画工作Ⅰ・Ⅱ及び教科指導法（図画工作）で習得した基礎技術を基盤とし、子供の様々な創造活動を援助できる技術を習得する。また、表現と鑑賞を通して豊かな感性を育み、生涯にわたって芸術に親しむ心を養う。（表現力）
到達目標 2	制作目標に向かって、自分なりに追求し取り組む姿勢を育む。（探求力）
到達目標 3	自らの制作を通して、児童への支援について考える。（専門力）

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	自発的に表現と鑑賞をに取り組み、楽しみながら豊かな感性を育み、生涯にわたって芸術に親しむ心を養っている。
	優	表現と鑑賞を通して楽しみながら豊かな感性を育み、生涯にわたって芸術に親しむ心を養っている。
	良	表現と鑑賞を通して豊かな感性を育み、生涯にわたって芸術に親しむ心を養っている。
	可	表現と鑑賞を通して、芸術に親しむ心を養おうとしている。
	不可	表現と鑑賞を通して芸術に親しむ心を養うことができない。
到達目標 2	秀	制作目標に向かって、自分なりに追求し徹底的に取り組む姿勢が見られ、発展させることができる。
	優	制作目標に向かって、自分なりに追求し取り組む姿勢が見られ、発展させることができる。
	良	制作目標に向かって、自分なりに追求し取り組む姿勢がみられる。
	可	制作目標に向かって、自分なりに取り組む努力をしようとしている。
	不可	制作目標に向かって、取り組む姿勢が見られない。
到達目標 3	秀	自らの制作を通して、試行錯誤を繰り返しすことから児童への支援方法を、意欲的に考えることができる。
	優	自らの制作を通して、児童への支援方法を意欲的にに考えることができる。
	良	自らの制作を通して、児童への支援方法を考えることができる。
	可	自らの制作を通して、児童への支援方法を考える努力が見られる。
	不可	自らの制作が難しく、児童への支援方法を考えることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	0	45	45	10	0	100
到達目標１	0	0	15	15	0	0	30
到達目標２	0	0	15	15	5	0	35
到達目標３	0	0	15	15	5	0	35

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
成果発表（口頭・実技）	制作への取り組みを重視する。
作品	制作過程を重視して評価する。
ポートフォリオ	個人評価記録への取り組みを評価する。

履修に必要な知識・技能など
1）身近にある材料や廃材などから、表現に結び付けるアイディアを生み出すことを心掛ける。 2）展覧会、映画、コンサート、演劇等を積極的に鑑賞する。

教科書・ISBN
使用しません

参考書
『小学校学習指導要領解説　図画工作』　文部科学省　日本文教出版

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
小学校体育（E33660）	演習	1	30	3	後期	選択	小教免選択必修	近藤みづき
科目担当者	近藤みづき、三木伸吾							

授業の概要	体育の授業では指導案に沿って、効率の良い授業を展開しても子どもに身体知を獲得させることは難しい。「身体知」とはあらゆる動きを覚えるための「身体の知恵」のことをいい、教師は一人ひとりの子どもの「身体知の獲得」を直接手助けできる能力が求められている。 本科目では、その能力を養成するために小学校体育で取り扱う運動を課題とし、実際に動きを身につけ、その過程を分析し、発表することを通して運動指導力の前提となる運動創発分析能力を養成することを目的とする。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（　）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	中学校体育教師としての指導経験を有しており、その経験を生かして指導方法を伝授する。（三木）

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション　（担当者：近藤・三木）	【事前】シラバスを読み、授業の概要を理解する。(30 分) 【事後】授業の進め方等をふりかえりシートに記入する。(30 分)
第 2 回	課題学習：運動指導における課題をみつける　（担当者：近藤・三木）	【事前】運動指導について概観を理解する。(30 分) 【事後】自分の取り組みをふりかえりシートに記入する。(30 分)
第 3 回	体育授業で行われるスポーツの体験①縄跳び(連鎖交互跳び)　（担当者：近藤・三木）	【事前】連鎖交互跳びについて調べる。(30 分) 【事後】自分の取り組みをふりかえりシートに記入する。(30 分)
第 4 回	実技実習①習得具合を把握する　（担当者：近藤・三木）	【事前】授業で扱う運動内容について調べる。(30 分) 【事後】授業での学びをふりかえりシートに記入する。(30 分)
第 5 回	実技実習②技を習得する　（担当者：近藤・三木）	【事前】授業で扱う運動の仕組み等を調べる。(30 分) 【事後】動きの習得についての学びをふりかえりシートに記入する。(30 分)
第 6 回	実技実習①動画を活用し技を習得する　（担当者：近藤・三木）	【事前】授業で扱う運動のコツ等を調べる。(30 分) 【事後】動きの習得についての学びをふりかえりシートに記入する。(30 分)
第 7 回	運動学実習①動きの分析　（担当者：近藤・三木）	【事前】第 4 回、第 5 回の動きの習得過程をまとめておく。(30 分) 【事後】動きの分析で明らかになった自分の課題をふりかえりシートに記入する。(30 分)
第 8 回	指導実習①技を伝える　（担当者：近藤・三木）	【事前】授業で扱う運動の指導ポイントや伝え方を調べる。(30 分) 【事後】授業での学びをふりかえりシートに記入する。(30 分)

第 9 回	指導実習②技を教え合う　（担当者：近藤・三木）	【事前】授業で扱う運動の指導ポイントや伝え方を調べる。(30 分) 【事後】授業での学びをふりかえりシートに記入する。(30 分)
第 10 回	運動学演習②動きの分析と資料作り　（担当者：近藤・三木）	【事前】第 4 回から第 8 回までのふりかえりシートに記入する。(30 分) 【事後】自分の発表についてふりかえりシートに記入する。(30 分)
第 11 回	運動学演習③学びの発表（前半）　（担当者：近藤・三木）	【事前】資料を基に、発表練習をしておく。(40 分) 【事後】自分の発表についてふりかえりシートに記入する。(20 分)
第 12 回	運動学演習④学びの発表（後半）　（担当者：近藤・三木）	【事前】資料を基に、発表練習をしておく。(40 分) 【事後】自分の取り組みをふりかえりシートに記入する。(20 分)
第 13 回	体育授業で行われるスポーツの体験②ゲーム （担当者：近藤・三木）	【事前】ゲームの特性について調べる。(30 分) 【事後】自分の取り組みをふりかえりシートに記入する。(30 分)
第 14 回	講義：運動形成位相と動感身体知について （担当者：近藤・三木）	【事前】第 2 回から第 13 回までの課題をまとめておく。(30 分) 【事後】講義で理解したことをふりかえりシートに記入する。(30 分)
第 15 回	グループディスカッションによる学修の到達目標の確認 （担当者：近藤・三木）	【事前】グループディスカッションの準備として、第 4 回から第 14 回までの学びをふりかえりまとめておく。(30 分) 【事後】指導者になるためにこれまでの授業で得られた知見を、どのようにいかすかを考える。(30 分)

学修の到達目標	
到達目標 1	授業で扱う運動に関する基本的な知識や内容を教師として理解し、習得することができる。
到達目標 2	自らの運動習得の過程におけるコツやカンの発生を分析することができる。
到達目標 3	自らの習得過程の分析内容をふまえて、運動指導に結びつけることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	授業で扱う運動に関する基本的な知識や内容が、満足できる水準まで到達していて、行動に移すことができ、さらに周囲に良い影響や結果をもたらすことができる。
	優	授業で扱う運動に関する基本的な知識や内容が、満足できる水準まで到達していて、さらに行動に移すことができる。
	良	授業で扱う運動に関する基本的な知識や内容が、満足できる水準まで到達していることが認められる。
	可	授業で扱う運動に関する基本的な知識や内容が、満足できる水準まで達していないが、努力の過程は認められる。
	不可	授業で扱う運動に関する基本的な知識や内容が、満足できる水準まで達しておらず、その努力の過程も認められない。

到達目標２	秀	授業で扱う運動における自身の習得過程を的確に捉えることができ、満足のいく水準を超えて言語等で表現できていることが認められ、他者に伝えることができる。
	優	授業で扱う運動における自身の習得過程を的確に捉えることができ、満足のいく水準まで言語等で表現できていることが認められる。
	良	授業で扱う運動における自身の習得過程を捉えることができ、言語等で表現できていることが認められる。
	可	授業で扱う運動における自身の習得過程を捉えることができるが、言語等で表現できていないが、その努力の過程は認められる。
	不可	授業で扱う運動における自身の習得過程を捉えることができず、その努力の過程も認められない。
到達目標３	秀	自らの習得過程の分析内容をふまえて、運動指導に結びつけることができ、他者の課題を的確に把握し、改善することができる。
	優	自らの習得過程の分析内容をふまえて、運動指導に結びつけることができ、他者の動きをある程度改善することができる。
	良	自らの習得過程の分析内容をふまえて、運動指導に結びつけることができる。
	可	自らの習得過程の分析内容をふまえて、運動指導に結びつけることができていないが、その努力の過程は認められる。
	不可	自らの習得過程の分析内容をふまえて、運動指導に結びつけることができず、その努力の過程も認められない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	20	40	0	0	0	100
到達目標１	20	0	10	0	0	0	30
到達目標２	10	20	20	0	0	0	50
到達目標３	10	0	10	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	定期試験
提出物	ふりかえりシートや練習日誌
成果発表（口頭・実技）	実技や発表

履修に必要な知識・技能など
教育実習等の経験を踏まえ、教師の立場で受講すること。

教科書・ISBN

参考書
適宜プリントを配布する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教科指導法（国語）（E33700）	講義	2	30	3	前期	選択	小教免必修	牛頭哲宏
科目担当者	牛頭哲宏							

授業の概要	小学校における国語の授業について、実際の教育現場で役立つ指導法について具体的に考える。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	当該科目は、教育現場等において小学校教諭の実務経験を有した教員より、授業を通して教育職員に必要な諸能力や知識・技術等について学ぶ。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	国語って何を教える教科？	【事前】シラバス内容の熟読 教科書 p10~p21 を読み理解する。(120 分) 【事後】学修内容の確認 講義において説明した p10~p21 についてまとめを行い、宿題を完成させる。(120 分)
第 2 回	授業時間の 45 分をどう生かす？	【事前】教科書 p22~p33 を読み理解する。(120 分) 【事後】講義において説明した p22~p33 についてまとめを行い、宿題を完成させる。(120 分)
第 3 回	子どもが食いつく発問のテクニックとトレーニング	【事前】教科書 p34~p49 を読み理解する。(120 分) 【事後】講義において説明した p34~p49 についてまとめを行い、宿題を完成させる。(120 分)
第 4 回	子どもの発言を目に見える形にする板書メモのテクニックとトレーニング	【事前】教科書 p50~p61 を読み理解する。(120 分) 【事後】講義において説明した p50~p61 についてまとめを行い、宿題を完成させる。(120 分)
第 5 回	場面の読み取りを大切にする物語の授業	【事前】教科書 p62~p73 を読み理解する。(120 分) 【事後】講義において説明した p62~p73 についてまとめを行い、宿題を完成させる。(120 分)
第 6 回	理科や社会科にならないための説明文の授業	【事前】教科書 p74~p83 を読み理解する。(120 分) 【事後】講義において説明した p74~p83 についてまとめを行い、宿題を完成させる。(120 分)
第 7 回	書けない子でも書けるようにする作文の授業	【事前】教科書 p84~p95 を読み理解する。(120 分) 【事後】講義において説明した p84~p95 についてまとめを行い、宿題を完成させる。(120 分)
第 8 回	声に出して味わう古典の授業（教職課程基礎知識確認テストの実施）	【事前】教科書 p96~p107 を読み理解する。(120 分) 【事後】講義において説明した p96~p107 についてまとめを行い、宿題を完成させる。(120 分)
第 9 回	討論や発表を楽しむ授業	【事前】教科書 p120~p121 を読み理解する。(120 分) 【事後】講義において説明した p120~p121 についてまとめを行い、宿題を完成させる。(120 分)
第 10 回	漢字指導は国語指導のイロハのい	【事前】教科書 p122~p133 を読み理解する。(120 分) 【事後】講義において説明した p122~p133 についてまとめを行い、宿題を完成させる。(120 分)

第 11 回	字形と書く速さを意識する書写の授業	【事前】教科書 p134~p145 を読み理解する。(120 分) 【事後】講義において説明した p134~p145 についてまとめを行い、宿題を完成させる。(120 分)
第 12 回	個人差への対応と机間巡視	【事前】教科書 p146~p161 を読み理解する。(120 分) 【事後】講義において説明した p146~p161 についてまとめを行い、宿題を完成させる。(120 分)
第 13 回	先生の話し方（教育話法）	【事前】教科書 p162~p173 を読み理解する。(120 分) 【事後】講義において説明した p162~p173 についてまとめを行い、宿題を完成させる。(120 分)
第 14 回	学んだ実感を味わわせるポートフォリオ評価	【事前】教科書 p174~p183 を読み理解する。(120 分) 【事後】講義において説明した p174~p183 についてまとめを行い、宿題を完成させる。(120 分)
第 15 回	まとめ：ふたたび「国語って何を教える教科？」	【事前】全回の振り返り 教科書 p184~p190 を読み理解する。(120 分) 【事後】自己の課題克服への実践 講義において説明した p184~p190 についてまとめを行い、宿題を完成させる。(120 分)

学修の到達目標	
到達目標 1	・教育実習での実践はもちろん、将来、教壇に立ったときに役立つ指導法を身につける。 (1) 自発的に学修することができる。
到達目標 2	国語科を指導する教員として、必要な知識・技能を習得することができる。
到達目標 3	表現の工夫を行いながら自分の考えを他者に伝えることができる。
到達目標 4	根拠に基づき、論理的に考えることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	主体的に学修することができ、そこに愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。学ぶことによってさらなる知的欲求が芽生え、さらなる主体的な学修へとつなげられる。
	優	主体的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度、自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと悦びを見出すことができる。
	可	他者から促されれば、学ぶこと・知ることができ、他者から指摘されて愉しさと悦びを見出すことができる。
	不可	学ぶこと・知ることに、愉しさと悦びを覚えることができない。
到達目標 2	秀	国語科を指導する教員として、必要な知識・技能を高いレベルで習得することができている。
	優	国語科を指導する教員として、必要な知識・技能を十分なレベルで習得することができている。
	良	国語科を指導する教員として、必要な知識・技能を習得することができている。
	可	国語科を指導する教員として、必要な知識・技能のどちらか一方は習得することができている。
	不可	国語科を指導する教員として、必要な知識・技能を習得することができていない。
到達目標 3	秀	目的や意図に応じ、的確な言葉や表現を用いて自分の考えを積極的に他者に伝えることができる。
	優	目的や意図に応じ、的確な言葉や表現を用いて自分の考えを他者に伝えることができる。
	良	相手が理解しやすいように表現の工夫を行いながら自分の考えを他者に伝えることができる。
	可	自分の考えを他者に伝えることができる。
	不可	自分の考えを他者に伝えることができない。

到達目標４	秀	根拠に基づき、筋道を立てて論理的に考えることができる。さらに、様々な意見を再構成し、考えを深化させることができる。
	優	根拠に基づき、筋道を立てて論理的に考えることができる。
	良	根拠に基づき、論理的に考えることができる。
	可	根拠や論理性に未熟な点はあるが考えようと努力することができる。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	30	0	0	20	0	100
到達目標１	0	0	0	0	10	0	10
到達目標２	30	10	0	0	10	0	50
到達目標３	10	10	0	0	0	0	20
到達目標４	10	10	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験を行う。学習指導要領の理解、国語科の指導方法について知識面と技能面の定着度を測る。
提出物	毎回の講義において、言語活動を行ったりレポートを書いたりする。指導者の立場と児童の立場の両面から、講義の内容について考えを深めていくことが求められる。ポートフォリオ毎回の講義資料や提出物、あるいは予習・復習をしたもの等を吟味しポートフォリオを作成する。ポートフォリオを通して、学びの確認を行う。国語科の指導（言葉を学ぶ事）について常に意識し、学修に活かすことが求められる。
ポートフォリオ	毎回の講義資料や提出物、あるいは予習・復習をしたもの等を吟味しポートフォリオを作成する。ポートフォリオを通して、学びの確認を行う。国語科の指導（言葉を学ぶ事）について常に意識し、学修に活かすことが求められる。

履修に必要な知識・技能など
講義形式をとるが、毎時間テーマを決めて活動を行う。それを契機とした参加者同士の討論によって考えを深めることを目指す。

教科書・ISBN
9784904595268　『現場で役立つ小学校国語科教育法』牛頭哲宏・森篤嗣　ココ出版

参考書
授業中に提示する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教科指導法（社会）（E33710）	講義	2	30	3	前期	選択	小教免必修	増田進司
科目担当者	増田進司							

授業の概要	小学校社会科の指導要領を理解する。 小学校社会科の学習指導の構想する。 指導案の意義や配慮事項や形式を深める。 具体的な単元について、指導要領をもとに教材研究を実践する。 具体的な単元につき、学習指導案・板書計画・資料作成・準備を行う。 社会的な見方・考え方を培う模擬授業に取り組み、相互評価の中で学ぶ。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	・教育委員会にて考古学の発掘担当として遺跡調査に従事するとともに、奈良国立文化財研究所の長期研修（約二ヶ月）に派遣され最新の発掘知識に習得をするとともに、現場を経験する中で社会事象（遺跡・遺物）の事実から学ぶ社会的なものの見方・考え方の基礎を培った。 ・若年ではあったが、発掘現場を指揮監督することが求められる中で、対人関係やグループワーク・人間関係経営のノウハウを習得していった。 ・教育委員会職員から公立小学校教員に転職し、発掘体験からえた現場主義の観点を推し進め、小学校社会科の単元開発や研究授業に積極的に取り組んできた。その成果は、その都度、教育委員会の研修講座や研究会で公開するとともに、教員への啓蒙に努めた。 ・公立小学校校長の時には、神戸市小学校社会科部長・兵庫県小学校教育研究会社会科部会長・近畿小学校社会科教育研究協議会代表・全国小学校社会科教育研究協議会理事として、小学校社会科の教育研究に邁進し、第57回近畿小学校社会科研究協議会を中心となり開催した。 ・授業を支える良好な学級経営のあり方について研鑽に努め、各種研究会にて発表ならびに講演を行い、積み重ねた実践をもとに小学校教員退職後は教育委員会主催の学級経営講座を七年間継続して行ってきた。 上記をもとに、教育現場で求められる授業力・教師力の育成に重点を置く学びを展開する

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	本講座の概要・グループ編成・指導案と社会科授業について 模擬授業と全員模擬授業について　研究協議について	【事前】シラバスを熟読する（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 2 回	社会科指導の実際・授業者割り振り決定・模擬授業計画	【事前】指導要領の見直し（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 3 回	指導案作成と模擬授業・相互評価　グループワーク （GW）　三年生単元①　教材研究（全員模擬授業に向けて）	【事前】模擬授業の教材研究（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 4 回	指導案作成と模擬授業・相互評価　グループワーク （GW）　三年生単元②　全員模擬授業実践①・批評会	【事前】模擬授業の教材研究・授業指導案を作成・授業準備（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 5 回	指導案作成と模擬授業・相互評価　グループワーク （GW）　三年生単元③　提案模擬授業①　2 グループ　批評会	【事前】模擬授業の教材研究（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 6 回	指導案作成と模擬授業・相互評価　グループワーク （GW）　四年生単元①　教材研究（全員模擬授業に向けて）	【事前】模擬授業の教材研究（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 7 回	指導案作成と模擬授業・相互評価　グループワーク （GW）　四年生単元②　全員模擬授業実践②・批評会	【事前】模擬授業の教材研究・授業指導案を作成・授業準備（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）

第 8 回	指導案作成と模擬授業・相互評価　グループワーク （GW）　四年生単元③　提案模擬授業②　2 グループ　批評会	【事前】模擬授業の教材研究（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 9 回	指導案作成と模擬授業・相互評価　グループワーク （GW）五年生単元①　教材研究（全員模擬授業に向けて）	【事前】模擬授業の教材研究（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 10 回	指導案作成と模擬授業・相互評価　グループワーク （GW）五年生単元②　全員模擬授業実践③・批評会	【事前】模擬授業の教材研究・授業指導案を作成・授業準備（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 11 回	指導案作成と模擬授業・相互評価　グループワーク （GW）五年生単元③　提案模擬授業③　2 グループ　批評会	【事前】模擬授業の教材研究（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 12 回	指導案作成と模擬授業・相互評価　グループワーク （GW）六年生単元①　教材研究（全員模擬授業に向けて）	【事前】模擬授業の教材研究（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 13 回	指導案作成と模擬授業・相互評価　グループワーク （GW）六年生単元②　全員模擬授業実践④・批評会	【事前】模擬授業の教材研究・授業指導案を作成・授業準備（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 14 回	指導案作成と模擬授業・相互評価　グループワーク （GW）六年生単元③　提案模擬授業④　2 グループ　批評会	【事前】模擬授業の教材研究（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）
第 15 回	まとめと補足	【事前】学びをふり返る（120 分） 【事後】ふり返りを行う（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	小学校社会科の目標や内容が理解できている。
到達目標 2	小学校社会科の教材研究を実践し、学習指導案・板書計画・資料準備等ができている。
到達目標 3	「社会的な見方・考え方」を働かさせ、課題を追究したり解決したりする活動を取り入れた社会科の模擬授業が行えている。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	指導要領の社会科について基本的な専門性をしっかりと身につけている。
	優	指導要領の社会科について基本的な専門性を十分身につけている。
	良	指導要領の社会科について基本的な専門性を身につけている。
	可	指導要領の社会科について基本的な専門性を概ね身につけている。
	不可	指導要領の社会科について基本的な専門性を身につけていない。
到達目標 2	秀	他者の発言・発表を傾聴し、自らの知識と比較しながら、模擬授業にしっかりと取り組んでいる。
	優	他者の発言・発表を傾聴し、自らの知識と比較しながら、模擬授業に十分に取り組んでいる。
	良	他者の発言・発表を傾聴し、自らの知識と比較しながら、模擬授業に取り組んでいる。
	可	他者の発言・発表を傾聴し、自らの知識と比較しながら、模擬授業に概ね取り組んでいる。
	不可	他者の発言・発表を傾聴できず、自らの知識と比較できず、模擬授業にも取り組めていない。
到達目標 3	秀	社会科授業の特性についてしっかりと理解し、その指導のあり方についてしっかりと理解し、実践できている。
	優	社会科授業の特性について十分理解し、その指導のあり方について十分理解し、しっかりと実践している。
	良	社会科授業の特性について理解し、その指導のあり方について理解し、実践している。
	可	社会科授業の特性について概ね理解し、その指導のあり方について概ね理解し、実践している
	不可	社会科授業の特性について理解できず、その指導のあり方について理解しておらず、実践もできていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	20	30	0	0	0	100
到達目標 1	30	10	10	0	0	0	50
到達目標 2	0	0	10	0	0	0	10
到達目標 3	20	10	10	0	0	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	15 回の講義後に筆記試験を課す。本講座での学びをもとに、自らの論理を展開・記述できることが求められる。
提出物	模擬授業の指導略案。板書計画・準備資料など瑣末な内容や未提出は減点される。
成果発表（口頭・実技）	模擬授業の展開・内容・児童の学習活動への配慮・参加態度を評価する。真摯な取り組み・積極的な内容・態度を高く評価する。グループワークへの不参加・怠惰・些末等の内容・態度は減点される。

履修に必要な知識・技能など
1）社会科としての授業力 2）教材研究への真摯な態度 3）模擬授業での、本時の目標の理解と授業設計力 4）社会動向への関心 5）社会科学の基礎知識

教科書・ISBN
9784536590099　『小学校学習指導要領解説　社会編』文部科学省 東洋館出版社 9784807165865　『小学生の地図帳』帝国書院 9784487105236　『小学校社会科教科書　3／4／5／6 年生用』日本文教出版 9784487105243　『小学校社会科教科書　3／4／5／6 年生用』日本文教出版 9784487105250　『小学校社会科教科書　3／4／5／6 年生用』日本文教出版 9784487105267　『小学校社会科教科書　3／4／5／6 年生用』日本文教出版

参考書
講義中に適宜配布する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教科指導法（算数）（E33720）	講義	2	30	3	前期	選択	小教免必修	平田秀己
科目担当者	平田秀己							

授業の概要	・現行の学習指導要領のポイントを理解し、こどもの心身の発達を支えるための専門知識と技能を身に付ける。 ・学習指導案の作成や模擬授業を通して、理論と実践を統合し、社会の要請に応えることのできる教育力を養う。 ・学校でのこどもの姿を学ぶことで、自らの課題を見出し教育の質を高める態度と共に豊かな人間性と高い倫理観を養う。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	学校や教育委員会での経験を活かし、学校でのこどもの姿を知らせ、教師としての必要な力の育成を図りたい。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション・算数科の目標 （新学習指導要領）	【事前】シラバスを読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した算数の目標を確認するとともに、問題解決学習とはどんな学習方法なのですか。具体的な算数の授業をイメージしてみよう。について一枚まとめを行う（120 分）
第 2 回	授業をつくる① （体験授業、授業の PDCA、授業の組みて・問題解決学習）	【事前】教科書 P50 ～ P61、P248 ～ P261 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した授業の PDCA、授業の組みて･問題解決学習を確認するとともに、「私はこんな算数の授業がしたい」（学年・内容・指導法の工夫等）について一枚まとめを行う（120 分）
第 3 回	授業をつくる② （体験授業、模擬授業に向けて授業テーマの決定）	【事前】教科書 P67 ～ P71、P306 ～ 321 を読み理解する（120 分） 【事後】模擬授業のテーマを確認するとともに、「主体的・対話的で深い学びとはどんな学びか」について一枚まとめを行う（120 分）
第 4 回	授業をつくる③ （体験授業、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善）	【事前】教科書 P42 ～ P49、P76 ～ 88 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につて確認するとともに、「教科書 P75 の数学的活動一覧を読み、それぞれの活動が具体的な授業の中で、どのような活動になるのか考えてきましょう。」について一枚まとめを行う（120 分）
第 5 回	授業をつくる④ （体験授業、数学的活動の指導に当たっての配慮事項）	【事前】教科書 P50 ～ 56、P291 ～ P300 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した数学的活動の指導に当たっての配慮事項を確認するとともに、5 年「小数のかけ算を考えよう」の展開を考えよう。について一枚まとめを行う（120 分）

第 6 回	指導案をデザインする① (学習指導案の書き方)	【事前】教科書 P42 ～ P49、P232 ～ 248 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した学習指導案の書き方を確認するとともに、指導案のグループワーク、全体ワーク向けまとめを行う（120 分）
第 7 回	指導案をデザインする② (学習指導案を書いてみよう)	【事前】教 科 書 P42 ～ P49、P134 ～ P158、P50 ～ P61、P201 ～ P213 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に作成した指導案を確認するとともに、授業作成上の留意点を考えよう。「さあ、指導案ができた。完璧な指導案なのにいざやってみると・・・」ということがあります。あと、どのようなことに留意して授業に臨むといいですか。についてまとめを行う (120 分)
第 8 回	指導案をデザインする③ (板書計画、その他留意点)	【事前】教科書 P88 ～ P90、P291 ～ P300 を読み理解する（120 分） 【事後】授業中に説明した板書計画、その他留意点を確認するとともに、自分なりに第 1 学年の授業の流れを考える（120 分）
第 9 回	模擬授業と批評会① (第 1 学年の教材から)	【事前】教科書 P76 ～ P101 を読み理解する（120 分） 【事後】第 1 学年の模擬授業のよかった点、反省点を確認し一枚まとめを行う（120 分）
第 10 回	模擬授業と批評会② (第 2 学年の教材から)	【事前】教科書 P102 ～ P133 を読み理解する(120 分) 【事後】第 2 学年の模擬授業のよかった点、反省点を確認し一枚まとめを行う（120 分）
第 11 回	模擬授業と批評会③ (第 3 学年の教材から)	【事前】教科書 P134 ～ P178 を読み理解する(120 分) 【事後】第 3 学年の模擬授業のよかった点、反省点を確認し一枚まとめを行う（120 分）
第 12 回	模擬授業と批評会④ (第 4 学年の教材から)	【事前】教科書 P179 ～ P231 を読み理解する(120 分) 【事後】第 4 学年の模擬授業のよかった点、反省点を確認し一枚まとめを行う（120 分）
第 13 回	模擬授業と批評会⑤ (第 5 学年の教材から)	【事前】教科書 P232 ～ P283 を読み理解する(120 分) 【事後】第 5 学年の模擬授業のよかった点、反省点を確認し一枚まとめを行う（120 分）
第 14 回	模擬授業と批評会⑥ (第 6 学年の教材から)	【事前】教科書 P284 ～ P321 を読み理解する(120 分) 【事後】第 6 学年の模擬授業のよかった点、反省点を確認し一枚まとめを行う（120 分）
第 15 回	学びの振り返りとまとめ	【事前】これまでの 14 回の講義を振り返り、聞いてみたいこと、考えてみたいことなど整理しまとめておく（120 分） 【事後】授業を振り返り学んだことを確認するとともに、定期考査の向けてまとめを行う（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	・算数科の目標や内容を理解できている。
到達目標 2	・学習指導案の作成や模擬授業を通して、理論と実践を統合し、授業をデザインすることができる。
到達目標 3	・他者の発言・発表を傾聴し、自らの知識と比較しながら、模擬授業に取り組んでいる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	算数科の目標及び内容について、学びをきっかけにして発展的に考えようとしている。
	優	算数科の目標及び内容について、十分に理解し活用できる。
	良	算数科の目標及び内容について、理解し活用できる。
	可	算数科の目標及び内容について、理解している。
	不可	算数科の目標及び内容についての、知識理解が不十分である。
到達目標２	秀	こどものつまずきを考え、教材の特徴を見極め、最適の指導する方法をデザインすることができる。
	優	こどものつまずきを考え、教材の特徴を考え、指導する方法をデザインすることができる。
	良	こどものつまずきを考え、指導する方法をデザインすることができる。
	可	指導する方法をデザインすることができる。
	不可	指導する方法をデザインすることができない。
到達目標３	秀	他者の発言・発表を傾聴し、自らの知識と比較しながら、模擬授業にしっかりと取り組んでいる。
	優	他者の発言・発表を傾聴し、自らの知識と比較しながら、模擬授業に十分に取り組んでいる。
	良	他者の発言・発表を傾聴し、自らの知識と比較しながら、模擬授業に取り組んでいる。
	可	他者の発言・発表を傾聴し、自らの知識と比較しながら、模擬授業に概ね取り組んでいる。
	不可	他者の発言・発表を傾聴できず、自らの知識と比較できず、模擬授業に取り組めていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	45	25	30	0	0	0	100
到達目標１	35	10	10	0	0	0	55
到達目標２	5	10	10	0	0	0	25
到達目標３	5	5	10	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	・筆記試験を最終に行う。
提出物	・次回までに取り組んでくるよう指示された課題を、指示されたとおりに取り組み、提出されたかどうかを評価する。 ・提出された内容を評価する。
成果発表（口頭・実技）	・授業実践とその論述と質問を評価する。 ・評価は、学生の相互評価と教員による評価を行う。

履修に必要な知識・技能など
受け身にならず積極的に学び取ろうとする姿勢を期待する。常に疑問を持ち、積極的に質問や論述をしようとする姿勢を期待する。授業の対象であるこどもの意識、興味、反応を常に意識する姿勢を期待する。

教科書・ISBN
9784536590105　『小学校学習指導要領解説　算数編』　文部科学省　日本文教出版

参考書
必要に応じて紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教科指導法（理科）（E33740）	講義	2	30	3	前期	選択	小教免必修	田村壽秀
科目担当者	田村壽秀							

授業の概要	理科における教育目標、科学的な見方や考え方の育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深める。 様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 本授業では、特に資料や教材、機器を活用し、できるだけ実験、製作などの体験活動も取り入れ、児童が関心や意欲をもって対象とかかわる指導技術の向上を図る。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（レ）課題解決型学習(外部協定　有　・　(無)　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	理科教育とは (理科教育の現実と重要性について理解する。)	【事前】シラバスを見ておくこと（120 分） 【事後】次回の授業プリントを配布する（120 分）
第 2 回	理科教育の目標と内容 (実感を伴った理解、三つの重点について理解する。)	【事前】理科教育目標と学年目標を読んでおくこと（120 分） 【事後】学習した内容のまとめ、次回提出する（120 分）
第 3 回	理科指導法と問題解決学習 (教科書の単元の中で、学習のすすめ方を身に付ける。)	【事前】当日の授業内容をよく読んでおくこと（120 分） 【事後】配布した用紙に学習内容を整理する（120 分）
第 4 回	安全で正しい実験器具の扱い方 (教科書で扱う実験器具を実際に正しく使う。)	【事前】当日の内容をよく見ておく（120 分） 【事後】ノートの整理をする（120 分）
第 5 回	単元構想について (3 年生教材での単元構想を具体的に描く。)	【事前】配布した内容に目を通しておく（120 分） 【事後】ノートの整理をする（120 分）
第 6 回	指導案作成 (4 年生教材での単元構想を作成する。)	【事前】配布している当日の教材に目を通しておく（120 分） 【事後】当日作成した指導案を提出する（120 分）
第 7 回	実験方法の工夫 (5 年生教材でのよく分かる実験方法を工夫する。)	【事前】どれとどれを比べたら何が証明できるか考える（120 分） 【事後】何と何を比較するかまとめて整理する（120 分）
第 8 回	教材教具の工夫 (6 年生教材で教材器具の工夫をする。)	【事前】教科書、指導案を渡し各自案を作成（120 分） 【事後】仕上げた指導案を提出する（120 分）
第 9 回	情報機器の効果的活用 (理科の授業ビデオによる指導技術を学ぶ。)	【事前】授業ビデオの授業内容に目を通しておく（120 分） 【事後】指導技術で見習いたい点を話し合う（120 分）
第 10 回	模擬授業① 3 年「こん虫のかんさつ」 (相互評価と自己評価（1))	【事前】全員が同じ単元の同次官の指導案を作成（120 分） 【事後】授業から学んだ点と指導案を作成する（120 分）

第 11 回	模擬授業②４年「月や星」 （相互評価と自己評価（2））	【事前】全員が同じ単元の同次官の指導案を作成（120 分） 【事後】授業から学んだ点と指導案を作成する（120 分）
第 12 回	模擬授業③５年「天気の変化」（相互評価と自己評価（3））	【事前】全員が同じ単元の同次官の指導案を作成（120 分） 【事後】授業から学んだ点と指導案を作成する（120 分）
第 13 回	生活科、理科、総合的学習との関連 （どこがちがい、どこが同じなのか、何がねらいか）	【事前】配布している内容をよく読んでおくこと（120 分） 【事後】ノートに整理する（120 分）
第 14 回	理科の学習の発展教材 （ものづくり教材「クリップモーター」の製作）	【事前】作り方をしっかりと予習しておくこと（120 分） 【事後】どこに問題があると回らないか整理する（120 分）
第 15 回	新しい理科学習の評価の在り方と評価基準 （加点主義・多様な方法・児童の自己評価など）	【事前】教育評価の将来についての内容を予習（120 分） 【事後】ノートに整理する（120 分）

学修の到達目標	
到達目標１	理科教育の目標と内容、教材研究及び授業の進め方の理解を深める。
到達目標２	基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
到達目標３	植物の栽培、観察、生き物の飼育の観察方法や実験器具の正しい使い方の基礎を学ぶ。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	理科教育の目標達成のための知識･技能を十分身に付けていて、自信をもって他の学生に説明できる。
	優	理科教育の目標達成のための知識・技能を概ね身に付けている。
	良	理科教育の目標達成のための知識・技能を一定のレベル身に付けている。
	可	理科教育の目標達成のための知識・技能を最低レベル身に付けている。
	不可	理科教育の目標達成のための知識・技能を身に付けていない。
到達目標２	秀	子ども役に対して、熱意と自信をもって分かりやすく工夫して論理的に伝えることができる。
	優	子ども役に対して、ていねいに論理的に伝えることができる。
	良	子ども役に対して、淡々とゆっくり伝えることができる。
	可	子ども役に対して、淡々と教科書の内容をそのまま伝える。
	不可	子ども役に対して、分かりやすく子どもの表情を見て内容を伝えることができない。
到達目標３	秀	グループの中で、イニシアチブをとり、いろいろな意見を調整しながらまとめることができる。
	優	自分の役割のアピールは弱いが、別の意見や批判的な意見にも耳を傾けながら活動できる。
	良	グループの中で、自分の役割を見い出し、自分の責任は果たすことができる。
	可	自分に与えられた役割を果たすことができる。
	不可	自分に与えられた役割を果たすことができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	35	10	5	0	0	100
到達目標 1	50	30	0	0	0	0	80
到達目標 2	0	5	10	0	0	0	15
到達目標 3	0	0	0	5	0	0	5

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	15 回の授業を受講した後に、授業の成果を確認として筆記試験を実施する。試験は記述を中心として、授業の過程に学んだ知識が定着しているかを評価する。
提出物	15 回の授業の後に配布したシートを次の時間に提出する。シートは後で返却する。
成果発表（口頭・実技）	全員模擬授業をする。指定単元は前授業の終わりに教科書・指導案用紙を配布する。子ども役側も指導案を書き、模擬授業の反省会に参加する。授業後、全員指導案を提出する。指導案も評価の対象となる。
作品	ものづくり教材（クリップモーターづくり）の作製を通して、当日、作品制作した作品を評価する

履修に必要な知識・技能など
ものづくり教材（クリップモーターづくり）の材料は、当日大学で準備し、当日評価をします。当日欠席した人は設計図を見て、自分で材料を購入して次の時間製作したものを提出すること。やむを得ず欠席する場合、友だちにプリントをもらうように連絡をとっておくこと。

教科書・ISBN
9784491034638　『小学校学習指導要領解説　理科編』文部科学省 東洋館出版社

参考書
『わくわく理科 3 年〜 6 年』啓林館

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教科指導法（家庭）（E33750）	講義	2	30	3	前期	選択	小教免必修	田中ヒサコ
科目担当者	田中ヒサコ							

授業の概要	小学校家庭科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された家庭科の学習内容についての理解を深める。さらに指導と評価の一体化を常に意識して、子どもたちの主体的な学習場面を想定した指導案を立案し、実践的演習を行う。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（レ）課題解決型学習(外部協定　有　・　(無)　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	学習指導要領（家庭）の目標と内容 ー内容構成の全体と各内容の関連の理解―	【事前】学習指導要領解説(家庭)に目を通す(120 分) 【事後】ワークシートの点検（120 分）
第 2 回	家庭科の学習指導と評価の一体化 ー PDCA（計画・実行・評価・改善）を見通した学習指導―	【事前】評価について調べておく（120 分） 【事後】配布した参考資料の熟読（120 分）
第 3 回	A「家族・家庭生活」の指導 ーガイダンスの実践例を基に教材の工夫と活用の仕方―	【事前】A「家族・家庭生活」の解説を読んでおく（120 分） 【事後】教材の工夫についてまとめる（120 分）
第 4 回	B「衣食住の生活」 ー快適な衣服と住まいの課題解決学習指導法―	【事前】B「衣食住の生活」の解説を読んでおく（120 分） 【事後】課題解決学習についてまとめる（120 分）
第 5 回	B「衣食住の生活」 ー基礎的・基本的な知識技能の習得と安全指導―	【事前】B「衣食住の生活」の解説を読んでおく（120 分） 【事後】安全指導のポイントをまとめる（120 分）
第 6 回	C「消費生活・環境」の指導 ー消費者教育の視点を取り入れた指導―	【事前】C「消費生活・環境」の指導の解説を読んでおく（120 分） 【事後】消費者問題のニュースや記事を集める（120 分）
第 7 回	家庭科の学習指導計画の立て方 ー題材・目標・全体指導計画・本時の指導の作成方法―	【事前】家庭科の教科書の内容を見ておく（120 分） 【事後】家庭科の指導案作成のポイントをまとめる（120 分）
第 8 回	指導案の作成と相互検討 ーグループ毎に題材を決定し、指導案作成―	【事前】模擬授業として行いたい題材を選んでおく（120 分） 【事後】各自の指導案を完成させる（120 分）
第 9 回	指導案の決定と資料作成 ーグループ毎に本時の指導案・板書と発問計画・教材作成―	【事前】模擬授業に役立つ手作り教材を考えておく（120 分） 【事後】グループでの準備物の完成（120 分）
第 10 回	模擬授業①と相互評価 45 分模擬授業⇒評価カードの記入・話し合い	【事前】模擬授業①の題材部分の教科書を読んでおく（120 分） 【事後】本時の学びのポイントをまとめる（120 分）
第 11 回	模擬授業②と相互評価 45 分模擬授業⇒評価カードの記入・話し合い	【事前】模擬授業②の題材部分の教科書を読んでおく（120 分） 【事後】本時の学びのポイントをまとめる（120 分）

第 12 回	模擬授業③と相互評価 45 分模擬授業⇒評価カードの記入・話し合い	【事前】模擬授業③の題材部分の教科書を読んでおく（120 分） 【事後】本時の学びのポイントをまとめる（120 分）
第 13 回	模擬授業④と相互評価 45 分模擬授業⇒評価カードの記入・話し合い	【事前】模擬授業④の題材部分の教科書を読んでおく（120 分） 【事後】本時の学びのポイントをまとめる（120 分）
第 14 回	模擬授業⑤と相互評価 45 分模擬授業⇒評価カードの記入・話し合い	【事前】模擬授業⑤の題材部分の教科書を読んでおく（120 分） 【事後】本時の学びのポイントをまとめる（120 分）
第 15 回	これからの家庭科教育 ー社会の変化に対応して指導要領で求められることー	【事前】ポートフォリオの整理（120 分） 【事後】全授業内容の確認（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	学習指導要領に示された小学校家庭科の目標や内容を理解する。
到達目標 2	基礎的な家庭科学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業計画を行う方法を身に付ける。
到達目標 3	小学校家庭科の教育的意義を理解し、児童の実態を踏まえた家庭科の授業計画を基に、実践的指導に必要な資質を養う。
到達目標 4	グループのメンバーそれぞれの意見に耳を傾け、メンバーの考えを活かして模擬授業の指導案を工夫して作成することができる。
到達目標 5	模擬授業に向けて、指導案作成等に意欲的に関わり、授業の役割分担でも協力的にできるように、常に心配りして、取り組むことができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	教育者としての視点を常に持ち、小学校家庭科の指導に必要な知識・技能を身に付けようとする姿勢が十分にあり、学んだことを発展的に生かそうとしている。
	優	教育者としての視点を常に持ち、小学校家庭科の指導に必要な知識・技能を身に付けようとする姿勢が十分にある。
	良	教育者としての視点を持ち、小学校家庭科の指導に必要な知識・技能を身に付けようとする姿勢がある。
	可	小学校家庭科の指導に必要な知識・技能を身に付けようとする姿勢がある。
	不可	小学校家庭科の指導に必要な知識・技能を身に付けようとする姿勢が不十分である。
到達目標 2	秀	授業で配布された以外の小学校家庭科の指導案作成に関する資料や情報を幅広く収集し、整理・分析してそれらを創造的に活用するよう様々な工夫ができる。
	優	授業で配布された以外の小学校家庭科の指導案作成に関する資料や情報を幅広く収集し、整理・分析して活用できるよう工夫することができる。
	良	授業で配布された以外の小学校家庭科の指導案作成に関する資料や情報を収集・整理・分析・活用できる。
	可	授業で配布された小学校家庭科の指導案作成に関する資料や情報を収集・整理・分析・活用できる。
	不可	授業で配布された小学校家庭科の指導案作成に関する資料や情報の収集・整理・分析・活用が不十分である。
到達目標 3	秀	教材の特徴を見極め、子どもたちが主体的に学ぶ指導の工夫を様々考えて、指導のねらいが達成できる指導案をデザインすることができる。
	優	教材の特徴を見極め、子どもたちが主体的に学ぶ指導の工夫し、指導のねらいが達成できる指導案をデザインすることができる。
	良	教材のねらいに沿って子どもたちが主体的に学ぶ指導の工夫し、指導案をデザインすることができる。
	可	教材のねらいに沿って子どもたちが主体的に学ぶ指導案をデザインできる。
	不可	子どもたちが主体的に学ぶ指導案をデザインすることができない。

到達目標４	秀	グループのメンバーそれぞれの意見に耳を傾け、みんなの考えを活かして模擬授業の指導案を工夫して作成することができる。また、他の班の模擬授業後の話し合いではみんなで学び合いができるような建設的な対話が積極的にできる。
	優	グループのメンバーそれぞれの意見に耳を傾け、みんなの考えを活かして模擬授業の指導案を作成することができる。また、他の班の模擬授業後の話し合いではみんなで学び合いができるような建設的な対話ができる。
	良	グループのメンバーの考えを活かして模擬授業の指導案を作成することができる。また、他の班の模擬授業後の話し合いでは建設的な対話ができる。
	可	グループの模擬授業の指導案を作成することができる。他の班の模擬授業後の話し合いでは対話ができる。
	不可	グループの模擬授業の指導案を作成することができない。また、他の班の模擬授業後の話し合いでも対話ができない。
到達目標５	秀	グループでの模擬授業実施に向けて、指導案作成・教材づくり・板書と発問計画等に積極的に関わり、授業の役割分担でもみんなで協力的に活動できるよう常に心配りをして取り組むことができる。
	優	グループでの模擬授業実施に向けて、指導案作成・教材づくり・板書と発問計画等に積極的に関わり、授業の役割分担でもみんなで協力的に活動できるよう心配りができる。
	良	グループでの模擬授業実施に向けて、指導案作成・教材づくり・板書と発問計画等に関わり、授業の役割分担でもみんなで協力的に活動できる。
	可	グループでの模擬授業実施に向けて、指導案作成・教材づくり・板書と発問計画等に関わり、模擬授業の役割分担を果たせるよう活動できる。
	不可	グループでの模擬授業実施に向けて、指導案作成・教材づくり・板書と発問計画等への関わりが不十分で人任せになり、授業の役割分担でもみんなで協力的に活動できない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	30	20	30	10	10	0	100
到達目標１	30	10	0	0	0	0	40
到達目標２	0	10	0	0	10	0	20
到達目標３	0	0	10	10	0	0	20
到達目標４	0	0	10	0	0	0	10
到達目標５	0	0	10	0	0	0	10

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験を行う
提出物	毎回授業で使用するワークシートの振り返りの記入毎回模擬授業に参加しての評価カード
成果発表（口頭・実技）	模擬授業の取り組み
作品	模擬授業用の指導案と作成教材評価は、自己評価と学生の相互評価と教員による評価を行う
ポートフォリオ	各自が授業で取り組むワークシートと、取り組みを自ら評価する振り返り票を、それぞれの学びの成果として蓄積していく。ポートフォリオ評価では、教員がその蓄積された学びの成果を公平な観点から評価する。正当な理由なく、ワークシートや振り返り票が欠落していたり、他者が記入したワークシートのコピーを代用したりしている場合は、減点の対象となる。

履修に必要な知識・技能など
最低限必要な知識は「小学校指導要領解説（家庭編）」にありますので、しっかり読みましょう。それ以外の知識・技能はあなた自身の毎日の生活の中にあります。常にあなた自身の家庭生活を見つめ、課題を意識して家庭で実践できることを増やして技能を身に付けるよう心がけましょう。

教科書・ISBN
9784487105908　『新しい家庭　5・6』東京書籍

参考書
『小学校学習指導要領解説（家庭編）』　文部科学省 東洋館出版社

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教科指導法（体育）（E33780）	講義	2	30	3	前期	選択	小教免必修	田中稔
科目担当者	田中稔							

授業の概要	小学校での体育指導で育成したい資質は「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力 等」、「学びに向かう力・人間性」の３つである。それらの育成のために、体育科の目標及び内容や各領域の運動特性を理解すること、指導案や指導計画を考え、模擬授業を行うこと、現在教育現場で実践されている具体的な指導法を知ることを授業の根幹としている。それらを理解し、模擬授業等の実践を通し、学生の授業指導力向上を図る一方、児童、保護者から信頼される教師としての人間形成も含む授業を構成している。
アクティブ・ラーニングの要素	（　）ICT（manaba）活用の双方向型授業 （レ）ディスカッション、ディベート （レ）実習、フィールドワーク （　）反転授業 （　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （レ）その他（インターネットや模擬授業での活動の様子の動画の活用）
教員の実務経験	昭和 50 年 4 月から神戸市立小学校に勤務。教諭、教頭、校長を経て平成 24 年退職。在職中は神戸市小学校教育研究会体育部に所属し、体育授業指導法等を研究。退職後は甲南女子大学人間科学部総合子ども学科に特任教授として勤務。体育Ⅰ・Ⅱ、初等教科教育法（体育）を指導。その後は神戸常盤大学、大阪樟蔭女子大学、親和女子大学で教科指導法（体育）、初等教科教育法（体育）、体育Ⅰを担当。また神戸市立小学校で初任研担当講師として初任教師の指導にあたる。 上記の経験を生かし、効果的な体育指導、特に体育嫌いをつくらない体育指導に力を入れ、従来の評価方法の見直しや効果的な声かけなどを研究、指導している。また、将来教育者として児童の前に立つことを前提に、確かな指導力や豊かな人間性など、児童、保護者から信頼される教師としての人間形成を含めた授業を目指している。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション （シラバスの内容、授業の進め方、学校体育とは？）	【事前】シラバスを熟読しておく（120 分） 【事後】授業内容をまとめ、ワークシート（次回授業時に提出）作成（120 分）
第 2 回	学習指導要領について （目標、運動領域、技能の内容等の理解）	【事前】学習指導要領解説体育編の関連事項を読む（120 分） 【事後】授業内容をまとめ、ワークシート（次回授業時に提出）作成（120 分）
第 3 回	体育授業が目指すものとは（1） （体育授業とは、教材教具、学習形態について）	【事前】体験を基に、体育授業について考えてくる（120 分） 【事後】授業内容をまとめ、ワークシート（次回授業時に提出）作成（120 分）
第 4 回	体育授業が目指すものとは（2） （体育授業の観点、学習評価と授業評価）	【事前】評価について考えてくる（120 分） 【事後】授業内容をまとめ、ワークシート（次回授業時に提出）作成（120 分）
第 5 回	授業の実際、現場での取り組みの工夫と課題（1） （体つくり運動、器械運動）	【事前】授業領域に関する学習指導要領を読む（120 分） 【事後】授業内容をまとめ、ワークシート（次回授業時に提出）作成（120 分）
第 6 回	授業の実際、現場での取り組みの工夫と課題（2） （陸上運動、表現運動）	【事前】授業領域に関する学習指導要領を読む（120 分） 【事後】授業内容をまとめ、ワークシート（次回授業時に提出）作成（120 分）

第 7 回	授業の実際、現場での取り組みの工夫と課題（3） （ボール運動系、ゲーム運動系、水泳運動系）	【事前】授業領域に関する学習指導要領を読む（120 分） 【事後】授業内容をまとめ、ワークシート（次回授業時に提出）作成（120 分）
第 8 回	体育科学習指導案と模擬授業について （指導案の書き方、グループ分け、領域、日程の決定）	【事前】体育科学習指導案について調べてくる（120 分） 【事後】授業内容をまとめ、ワークシート（次回授業時に提出）作成（120 分）
第 9 回	模擬授業に向けて （ICT の活用について、グループ内指導案検討）	【事前】実施領域の略案準備（各グループ）（120 分） 【事後】次回実施領域の指導略案作成（次回授業グループ） 次回実施領域の指導要領熟読（次回授業グループ以外）（120 分）
第 10 回	模擬授業（1）と指導助言 （ゲーム、ボール運動系と授業反省）	【事前】実施略案作成（授業グループ） 実施領域の指導要領熟読(授業グループ以外)（120 分） 【事後】授業の感想（反省）を記入 次回実施略案作成（授業グループ） 次回実施領域の指導要領熟読（授業グループ以外）（120 分）
第 11 回	模擬授業（2）と指導助言 （陸上運動系、表現系と授業反省）	【事前】実施略案作成（授業グループ） 実施領域の指導要領熟読(授業グループ以外)（120 分） 【事後】授業の感想（反省）を記入 次回実施略案作成（授業グループ） 次回実施領域の指導要領熟読（授業グループ以外）（120 分）
第 12 回	模擬授業（3）と指導助言 （器械運動系と授業反省）	【事前】実施略案作成（授業グループ） 実施領域の指導要領熟読(授業グループ以外)（120 分） 【事後】授業の感想（反省）を記入 次回実施略案作成（授業グループ） 次回実施領域の指導要領熟読（授業グループ以外）（120 分）
第 13 回	模擬授業（4）と指導助言 （体つくり運動系、保健と授業反省）	【事前】実施略案作成（授業グループ） 実施領域の指導要領熟読(授業グループ以外)（120 分） 【事後】授業の感想（反省）を記入 次回実施略案作成（授業グループ） 次回実施領域の指導要領熟読（授業グループ以外）（120 分）
第 14 回	模擬授業の総括と研究協議 （模擬授業に対する感想、意見、課題等）	【事前】全ての模擬授業に対する意見、課題を考える（120 分） 【事後】研究討議で出た意見をまとめる（120 分）
第 15 回	全体の振り返りと総括、今後の現場実践に向けて （授業全般に対する意見等、現在の教育現場について、児童・保護者から信頼される教師とは？）	【事前】全授業に対する意見、課題点、改善策を考える（120 分） 【事後】教育実習や教員採用試験に対する意欲を高める（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	小学校学習指導要領に示された体育科の目標及び内容を正確に理解すること。
到達目標 2	運動の特性や授業のめあてに応じた計画を設定し、指導案を書き、模擬授業を実施することができること。
到達目標 3	模擬授業の成果や課題を基に、ディスカッションを通じて現場で活用することのできる知見を獲得できること。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	小学校学習指導要領に示された体育科の目標及び内容を十分に理解できている
	優	小学校学習指導要領に示された体育科の目標及び内容を一定のレベルで理解できている
	良	小学校学習指導要領に示された体育科の目標及び内容を最低限のレベルで理解できている
	可	小学校学習指導要領に示された体育科の目標及び内容を知識としては身につけている
	不可	小学校学習指導要領に示された体育科の目標及び内容を理解していない
到達目標２	秀	運動の特性や授業のめあてに応じた計画を設定し、指導案を書き、模擬授業を十分なレベルで実施することができる
	優	運動の特性や授業のめあてに応じた計画を設定し、指導案を書き、模擬授業を一定レベルで実施することができる
	良	運動の特性や授業のめあてに応じた計画を設定し、指導案を書き、模擬授業を最低限のレベルで実施することができる
	可	運動の特性や授業のめあてに応じた計画を設定し、指導案を書き、模擬授業を最低限のレベルには達しないが実施しようと努力している
	不可	運動の特性や授業のめあてに応じた計画を設定し、指導案を書き、模擬授業を実施しようという努力が感じられない
到達目標３	秀	模擬授業の成果や課題を基に、ディスカッションを通じて現場で活用することのできる知見を十分に獲得している
	優	模擬授業の成果や課題を基に、ディスカッションを通じて現場で活用することのできる知見を一定のレベルで獲得している
	良	模擬授業の成果や課題を基に、ディスカッションを通じて現場で活用することのできる知見を最低限のレベルで獲得している
	可	模擬授業の成果や課題を基に、ディスカッションを通じて現場で活用することのできる知見を最低限のレベルには及ばないが獲得しようと努力している
	不可	模擬授業の成果や課題を基に、ディスカッションを通じて現場で活用することのできる知見を獲得しようという努力が感じられない

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	35	20	35	0	0	10	100
到達目標１	35	10	5	0	0	0	50
到達目標２	0	10	15	0	0	5	30
到達目標３	0	0	15	0	0	5	20
到達目標４	0	0	0	0	0	0	0
到達目標５	0	0	0	0	0	0	0

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	15 回の授業終了後、授業の成果確認として筆記試験を実施する。試験は記述式及び選択式とし、授業の課程で学んだ知識が定着しているかを評価する。
提出物	学生が毎授業の内容を記録したワークシートを持ち帰り、授業時間外の学習としてそれらをまとめることで復習とする。次時に提出、点検後学生に返却し、学生自身が保管、学習のまとめとする。それらワークシートの記載内容や提出状況もって評価とする。
成果発表（口頭・実技）	事前に領域別のグループをつくり、授業者が模擬授業の指導案を作成する。指導案を協力者グループで検討し、加除訂正を加え、指導案を完成させる。完成させた指導案をもとに授業者は模擬授業を実施し、協力者は授業サポートをする。模擬授業後、授業検討会を設け授業に対する意見を交換する。模擬授業の内容、授業サポートの様子、実施までの取り組みや協力の姿勢、検討会での発言等を評価の対象とする。
その他	授業に臨む姿勢や発言を通して、近い将来、教育に携わるものとしての自覚や振る舞い、課題に対する取り組み等を総合的に評価する。

履修に必要な知識・技能など
本授業では学生自らが近い将来、教育に携わる指導者となるという自覚をもって取り組んでくれることを期待しています。 昨今のマスコミ報道など教育に携わる指導者の言動が今ほど社会から注目されていることはありません。社会人として最低限必要とされる時間や期限を守る、自らの身辺を整理整頓する、他者への礼儀をわきまえるなどのルールを守り、授業に参加してほしいと思っています。 また、授業は知識の習得のみならず、現在教育現場で実践されている効果的な指導法や安全対策等の内容を多く取り入れ、教育実習を含め、実際の教育現場に出たときに少しでも役立つ授業にしていきたいと思っています。

教科書・ISBN
9784491034676　『小学校学習指導要領解説 体育編』　文部科学省　東洋館出版社

参考書
授業中に随時提示

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教科指導法（外国語）（E33790）	講義	2	30	3	前期	選択	小教免必修	脇本聡美
科目担当者	脇本聡美							

授業の概要	小学校における「外国語活動」・「外国語」の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身につける。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション / 学習指導要領「外国語活動」について	【事前】シラバスを読む（120 分） 【事後】学習指導要領「外国語活動」について復習（120 分）
第 2 回	学習指導要領（外国語）/ 子どもの第二言語習得について	【事前】Listening Unit 11（120 分） 【事後】学習指導要領「外国語」・子どもの第二言語習得について復習（120 分）
第 3 回	「外国語活動」DVD 映像による授業観察	【事前】Listening Unit 12（120 分） 【事後】授業観察レポート作成（120 分）
第 4 回	「外国語活動」年間指導計画・単元計画・指導案・評価 /「外国語活動」模擬授業について	【事前】Listening Unit 13（120 分） 【事後】「外国語活動」について学んだことを振り返り（120 分）
第 5 回	「外国語活動」模擬授業①グループ A・B	【事前】Listening Unit 14/ グループで模擬授業準備（120 分） 【事後】模擬授業振り返り（120 分）
第 6 回	「外国語活動」模擬授業②グループ C・D	【事前】Listening Unit 15/ グループで模擬授業準備（120 分） 【事後】模擬授業振り返り（120 分）
第 7 回	「外国語活動」模擬授業③グループ E・F/ 振り返り	【事前】Listening Unit 16/ グループで模擬授業準備（120 分） 【事後】模擬授業振り返り（120 分）
第 8 回	「外国語」年間指導計画・単元計画・指導案・評価 について /「外国語」模擬授業について	【事前】Listening Unit 17（120 分 【事後】「外国語活動」について学んだことを振り返り（120 分）
第 9 回	「外国語」模擬授業①グループ A	【事前】Listening Unit 18/ グループで模擬授業準備（120 分） 【事後】模擬授業振り返り（120 分）
第 10 回	「外国語」模擬授業②グループ B・C	【事前】Listening Unit 19/ グループで模擬授業準備（120 分） 【事後】模擬授業振り返り（120 分）
第 11 回	「外国語」模擬授業③グループ D・E	【事前】Listening Unit 20/ グループで模擬授業準備（120 分） 【事後】模擬授業振り返り（120 分）

第 12 回	「外国語」模擬授業④グループ F/ 振り返り	【事前】グループで模擬授業準備（120 分） 【事後】模擬授業振り返り（120 分）
第 13 回	英語音声について	【事前】英語音声について資料を読んでおく（120 分） 【事後】英語音声について振り返り（120 分）
第 14 回	読み書き指導について	【事前】読み書き指導についての資料を読んでおく（120 分） 【事後】読み書き指導について振り返り（120 分）
第 15 回	まとめ	【事前】授業を振り返り（120 分） 【事後】期末テスト準備（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	学習指導要領や教材などの授業実践に必要な事柄を理解する
到達目標 2	子どもの第二言語習得についての知識を活用できる
到達目標 3	授業実践に必要な指導技術を身につける
到達目標 4	授業づくりについて理解する

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	学習指導要領や教材などの授業実践に必要な事柄を十分理解している
	優	学習指導要領や教材などの授業実践に必要な事柄を理解している
	良	学習指導要領や教材などの授業実践に必要な事柄をある程度理解している
	可	学習指導要領や教材などの授業実践に必要な事柄を最低限理解している
	不可	学習指導要領や教材などの授業実践に必要な事柄をある程度理解していない
到達目標 2	秀	子どもの第二言語習得についての知識を十分活用できる
	優	子どもの第二言語習得についての知識を活用できる
	良	子どもの第二言語習得についての知識をある程度活用できる
	可	子どもの第二言語習得についての知識を最低限活用できる
	不可	子どもの第二言語習得についての知識を活用できない
到達目標 3	秀	授業実践に必要な指導技術を十分身につけている
	優	授業実践に必要な指導技術を身につけている
	良	授業実践に必要な指導技術をある程度身につけている
	可	授業実践に必要な指導技術を最低限身につけている
	不可	授業実践に必要な指導技術を身につけていない
到達目標 4	秀	授業づくりについて十分理解している
	優	授業づくりについて理解している
	良	授業づくりについてある程度理解している
	可	授業づくりについて最低限理解している
	不可	授業づくりについて理解していない

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	30	30	0	0	0	100
到達目標１	20	10	10	0	0	0	40
到達目標２	5	0	15	0	0	0	20
到達目標３	5	10	5	0	0	0	20
到達目標４	10	10	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験を実施する
提出物	レポート指導略案
成果発表（口頭・実技）	模擬授業発表

履修に必要な知識・技能など
「外国語活動」・「外国語」の授業を行うための知識と技能を身につけるために、主体的に学ぶ意欲と態度が求められる。

教科書・ISBN
9784304051685　『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』文部科学省 開隆堂出版

参考書
『実践的英語科教育法』酒井英樹他編著 大修館書店 『小学校英語教育ハンドブック ー理論と実践』JES 東京書籍 『小学校英語の文字指導―リタラシー指導の理論と実践』アレン玉井光江 東京書籍 『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ』酒井英樹 三省堂

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育実習指導Ⅰ（E33800）	演習	2	60	3	通年	選択	保育士必修	橋本好市
科目担当者	橋本好市、松尾寛子							

授業の概要	保育実習Ⅰでは、「保育所又は認定こども園」及び「社会福祉施設」の実習が必須とされている。 「保育実習基準（厚生労働省）」に規定された通り、期間（時間）以上を取り組まなければならない。 本学科保育士養成課程では、保育所又は認定こども園に加え、社会福祉施設における実習では障害福祉（児・者）施設にて行う。それら実習の成果を見出し、意義ある内容とするためには、実践に活用できる知識・技術の習得及び周到な準備が求められる。 本講座では、各実習種別の意義と目的を理解し、各々業務内容や社会的役割の理解を図り、当該実習計画、プライバシーの保護（守秘義務）等、実習の基本的心構えを習得していく。 また、実習で活用できる実践力養成のために、模擬保育・保育（支援）計画策定・実習記録の取り方・提出書類作成・グループディスカッション等の取り組みを通して、各自の実習課題を明確化し、子ども・利用者への関わり方を学ぶ。 それらのスキルを涵養し、保育を総合的に理解し、保育士・保育教諭・支援者としての専門性を確立する。 事後指導では、各実習で判明した各自の課題を克服し、次の保育実習Ⅱ・Ⅲへの有機的なつながりを目指す。
アクティブ・ラーニングの要素	（　）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（レ）その他（実習関係書類・課題作成）
教員の実務経験	社会福祉法人等における役員、保育園・施設でのアドヴァイザーや顧問、保育士キャリアアップ研修講師、保育行政審議会委員等を歴任している。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	保育実習の構成を理解するために～オリエンテーション（担当者：橋本・松尾）	【事前】シラバスの確認（30 分） 【事後】実習の内容の確認（30 分）
第 2 回	保育所実習の意義・目的の理解・実習の流れ・具体的内容（担当者：松尾）	【事前】保育実習の目的を考える（30 分） 【事後】保育実習の流れを振り返る（30 分）
第 3 回	実習課題の明確化（担当者：松尾）	【事前】実習課題を考えておく（30 分） 【事後】実習課題を明確にする（30 分）
第 4 回	保育の実際保育所保育のデイリープログラムと保育の計画（担当者：松尾）	【事前】保育現場の一日の流れを確認しておく（30 分） 【事後】デイリープログラムについて理解を深める（30 分）
第 5 回	実習の記録①実習記録の構成要素と留意点（担当者：松尾）	【事前】テキスト実習記録の書き方について事前学習する（30 分） 【事後】実習記録を 5 種類集める（30 分）
第 6 回	実習の記録② 所見及び振り返りと課題（テーマ）設定（担当者：松尾）	【事前】実習記録の書き方を調べる（30 分） 【事後】実習記録を書く（30 分）
第 7 回	実習の計画① 実習指導案の作成方法について（担当者：松尾）	【事前】テキスト指導案の書き方について事前学習する（30 分） 【事後】指導案を 5 種類集める（30 分）
第 8 回	実習の計画②計画と実践（担当者：松尾）	【事前】指導案の書き方を調べる（30 分） 【事後】指導案を完成させる（30 分）
第 9 回	実習の計画③観察・記録・評価（担当者：松尾）	【事前】指導案を確認する（30 分） 【事後】指導案の書き方を定着させる（30 分）

第 10 回	子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、日誌・提出書類等の配布と指導、事前オリエンテーションについて（担当者：松尾）	【事前】提出書類の確認をする（30 分） 【事後】提出書類を作成する（30 分）
第 11 回	実習の計画④指導案作成（担当者：松尾）	【事前】模擬保育内容を考える（30 分） 【事後】模擬保育の指導案を完成させる（30 分）
第 12 回	実習の計画⑤保育の展開（担当者：松尾）	【事前】模擬保育ができるように準備する（30 分） 【事後】模擬保育を振り返る（30 分）
第 13 回	実習の計画⑥実習生としての心構え（担当者：松尾）	【事前】実習に対する心構えを考える（30 分） 【事後】実習の心得等再確認する（30 分）
第 14 回	実習事後指導①実習の総括と自己評価（担当者：松尾）	【事前】実習を総括する（30 分） 【事後】実習における自己評価を行う（30 分）
第 15 回	実習事後指導②実習課題の明確化（担当者：松尾）	【事前】実習の振り返りを考える（30 分） 【事後】保育所での実習全体を振り返る（30 分）
第 16 回	オリエンテーション：保育実習指導Ⅰ～障害福祉施設実習について（担当者：橋本・松尾）	【事前】昨年以前のふり返りを見る（30 分） 【事後】実習の内容の確認（30 分）
第 17 回	障害福祉施設実習先配当について（担当者：橋本）	【事前】障害福祉施設の類型を整理しておく（30 分） 【事後】実習希望先について明確化しておく（30 分）
第 18 回	障害福祉施設配当先の調整及び必要書類の確認（担当者：橋本）	【事前】実習配当施設希望の目的を明確化しておく（30 分） 【事後】実習配当施設の詳細を確認しておく（30 分）
第 19 回	障害福祉施設の類型・役割と意義（担当者：橋本）	【事前】専門職のことについて調べる（30 分） 【事後】専門職として働くために必要事項を整理（30 分）
第 20 回	障害福祉施設の実際と業務（担当者：橋本）	【事前】施設現場の一日の流れを確認しておく（30 分） 【事後】施設現場の専門職について整理しておく（30 分）
第 21 回	利用者・児童の理解と人権擁護・守秘義務について（担当者：橋本）	【事前】施設の対象把握をしておく（30 分） 【事後】障害種別の支援方法を整理しておく（30 分）
第 22 回	障害福祉施設における支援のあり方（担当者：橋本）	【事前】ソーシャルワークについて復習しておく（30 分） 【事後】障害施設で提供されているサービスを整理しておく（30 分）
第 23 回	障害福祉施設実習配当先事前学習シート作成（担当者：橋本）	【事前】実習配当施設の関係資料を準備しておく（30 分） 【事後】実習配当施設について重要事項を整理する（30 分）
第 24 回	障害福祉施設実習で活用できる自己紹介書作成（担当者：橋本）	【事前】自己覚知し、実習に役立つ自己紹介を考えておく（30 分） 【事後】現場で使える自己紹介を文章化する（30 分）
第 25 回	障害福祉施設実習計画書について指導・作成（担当者：橋本）	【事前】実習の心得等を再確認しておく（30 分） 【事後】実習の目標を具体化する（30 分）
第 26 回	障害福祉施設における実習日誌の書き方（担当者：橋本）	【事前】実習日誌の内容を確認しておく（30 分） 【事後】実習日誌の書式練習としてテーマを決めて取り組む（30 分）
第 27 回	障害福祉施設実習の臨地に当たって最終確認及び指導～実習に臨んで～（担当者：橋本）	【事前】実習の目標･心得等を再確認しておく（30 分） 【事後】実習に臨むにあたり準備物の整理をしておく（30 分）
第 28 回	障害福祉施設実習事後指導～施設実習の振り返りと課題～（担当者：橋本）	【事前】実習を振り返り課題を整理しておく（30 分） 【事後】実習課題を次に活かすための方法を検討しておく（30 分）

第 29 回	保育実習Ⅰを終えるにあたり～保育実習Ⅱ・Ⅲへの繋がりを理解～　（担当者：橋本・松尾）	【事前】保育実習Ⅱ又はⅢ選択について決定する（30 分） 【事後】選択した実習についてⅠの課題との連携を考える（30 分）
第 30 回	保育実習Ⅰを終えるにあたり～保育実習Ⅱ・Ⅲの選択希望調査・配当実習先の調整について　（担当者：橋本・松尾）	【事前】課題を踏まえた選択決定の理由を整理しておく（30 分） 【事後】決定した配当実習種と就職の関連性を検討する（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	保育実習Ⅰの目的、内容、方法を理解し、実習への心構えを構築し、各自の実習課題を明確化する。
到達目標 2	各実習先の概要と社会的意義・役割を理解するとともに、実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
到達目標 3	実習の計画・観察・記録・評価の方法、指導計画の考え方・立て方を学び、実践の重要性について理解する。
到達目標 4	事後指導において、各実習及び全体を振り返り、自己評価･課題と進路との関係性を明確化し、保育実習Ⅱ･Ⅲにつなげることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	保育実習Ⅰの目的、内容、方法を理解し、実習への心構えを構築し、自身の実習課題を明確化できている。かつ、保育者としての視点を持ち、必要な知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	優	保育実習Ⅰの目的、内容、方法を理解し、実習への心構えを構築し、自身の実習課題を明確化できている。
	良	保育実習Ⅰの目的、内容、方法を理解し、実習への心構えを構築し、自身の実習課題の明確化は不十分であるが、実習生としての意識及び意欲は高い。
	可	保育実習Ⅰの目的、内容、方法を理解し、実習への心構えを構築し、自身の実習課題の明確化は不十分であるが、実習生としての努力が見られる。
	不可	保育実習Ⅰの目的、内容、方法を理解し、実習への心構えを構築し、自身の実習課題が不明確であり、実習に臨地する意識が低く、態度に課題が残る。
到達目標 2	秀	各実習先の概要と社会的意義・役割を理解するとともに、実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について十分理解し行動できる。
	優	各実習先の概要と社会的意義・役割を理解するとともに、実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解し行動できる。
	良	各実習先の概要と社会的意義・役割、実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解している。
	可	実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解している。
	不可	実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について課題が見られる。
到達目標 3	秀	実習の計画・観察・記録・評価の方法、指導計画の考え方・立て方を理解し、実践の重要性も十分理解している。
	優	実習の計画・観察・記録・評価の方法、指導計画の考え方・立て方を理解し、実践の重要性を理解している。
	良	実習の計画・観察・記録・評価の方法、指導計画の考え方・立て方を理解している。
	可	実習の計画・観察・記録等の基礎的理解はしている。
	不可	実習生として実習の基礎的事項を理解していない。

到達目標４	秀	各実習及び全体を振り返り、自己評価・課題と進路との関係性を明確化し、保育実習Ⅱ・Ⅲに繋ぐために、自ら高いモチベーションを維持し、課題に取り組むことができる。
	優	各実習及び全体を振り返り、自己評価・課題と進路との関係性を明確化し、保育実習Ⅱ・Ⅲに繋ぐために、自ら高いモチベーションを維持することができる。
	良	各実習及び全体を振り返り、自己評価・課題を明確化し、保育実習Ⅱ・Ⅲに繋ぐために努力することができる。
	可	各実習及び全体を振り返り、自己評価・課題を具体化し、保育実習Ⅱ・Ⅲに繋ぐ意識はある。
	不可	各実習及び全体を振り返り、自己評価・課題を具体化できず、保育実習Ⅱ・Ⅲに繋ぐ意識が低い。
到達目標５	秀	既に有している知識、状況から得られる情報を統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使し、的確かつ正確な課題の遂行ができる。その実行を踏まえた次の新たな創造的作業に移ることができる。
	優	既に有している知識、状況から得られる情報を統合する力、直観、決断力等をバランス良く駆使し、自力で充分適切な課題の遂行ができる。
	良	既に有している知識、状況から得られる情報を統合する力、直観、決断力等のうちの幾つかを機能させつつ、自力で適切な課題の遂行ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、与えられた課題を一定レベルにおいて実行することができる。
	不可	与えられた場面において何をしていいのかわからない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	40	40	20	0	0	100
到達目標１	0	0	20	0	0	0	20
到達目標２	0	0	20	0	0	0	20
到達目標３	0	20	0	0	0	0	20
到達目標４	0	0	0	20	0	0	20
到達目標５	0	20	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
提出物	保育実習Ⅰ必要書類等の作成及び提出（期限遵守）状況に基づく
成果発表（口頭・実技）	保育実習Ⅰに求められる課題等を表現する能力に基づく
作品	保育実習Ⅰに活用できる課題等を創作する能力に基づく

履修に必要な知識・技能など

1）外部機関との関連で取り組む作業が多いことから、指導事項と期限を守り、授業内で与えられた課題などに対して、誠実・積極的に取り組むこと。
2）保育実践力（手遊びや絵本の読み聞かせ等）を向上させるために模擬保育の要素を取り入れることが多いため、グループ活動の成果を発表する場を設ける。
3）正当な理由の無い遅刻・欠席は認めない（全回出席を旨とする）。
4）実習に向けての態度・意欲や社会的常識など、実社会で必要とされる言動を求める。それらが著しく欠けると判断される場合は、当該学科臨地実習委員会の審議において実習「不可」と判断される場合がある。
5）当該科目は定期試験を実施しないため、追・再試験も実施できない。したがって、本講座不合格者は再履修となる。
6）社会的なマナーについても習得しておく。

教科書・ISBN

9784623075874　『本当に知りたいことがわかる！保育所・施設実習ハンドブック』
9784907270353　『保育のマナーと言葉』
9784577814239　『保育所保育指針』（既に講義で使用しているもの）
9784577814246　『認定こども園教育保育要領』（既に講義で使用しているもの）

参考書
・『保育実践に求められる子ども家庭支援』橋本好市・直島正樹 編 ミネルヴァ書房 ・『障害者福祉論』橋本好市・相澤譲治・津田耕一 編 みらい出版 ・『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』橋本好市・直島正樹・堀智晴 編 ミネルヴァ書房 ・『図解で学ぶ保育　社会福祉』直島正樹・原田旬哉 編 萌文書林 ・『図解で学ぶ保育　子ども家庭福祉』直島正樹・原田旬哉 編 萌文書林 ・その都度、資料配布及び参考図書を指示する。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育実習Ⅰ（保育所）（E33810）	実習	2	80	3	前期	選択	保育士必修	松尾寛子
科目担当者	松尾寛子							

授業の概要	保育所・認定こども園での実習を通して、保育士の業務内容・職業倫理、保育所・児童福祉施設の役割・機能・社会的意義等を具体的に理解する。観察実習と子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深め、既習教科目の理論を踏まえた保育及び保護者への支援について専門性を高める。保育計画・観察・記録・自己評価等についても具体的に習得する。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習（外部協定　有　・　無　） （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	第 1 回～第 15 回 3 年次前期に 2 週間の実習を実施する。 実習内容は、観察実習、参加実習、部分実習を基本とする。 ＜保育所実習の内容＞ 1. 保育所の役割と機能 (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開 2. 子どもの理解 (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助や関わり 3. 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4. 保育の計画・観察・記録 (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携・協働 (3) 保育士の役割と職業倫理	【事前】第 1 回～第 10 回 事前オリエンテーションに必要な情報を集め、事前オリエンテーションに臨む。実習に必要な教材等を考え、事前に準備しておく。また、事前の学習として、既習の科目の内容を振り返っておく。(500 分) 【事後】第 11 回～第 15 回 実習の後、実習記録を実習準備室に提出したり面談を実施したりする。子どもたちや保育者からの学びを今後の学習に行かすことができるように実習での経験をまとめておく。(100 分)

学修の到達目標	
到達目標 1	保育所や幼保連携型認定こども園の概要を理解する。
到達目標 2	乳幼児との関わりを通して、乳幼児への理解を深める。
到達目標 3	保育内容を理解し、実践を通して保育技術を習得する。
到達目標 4	指導計画への考え方、立て方と、実践の必要性を学ぶ。
到達目標 5	保育所や幼保連携型認定こども園における保育全般における理解を深め、以後の学習への自己課題を明確にする。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	実習先の保育所や幼保連携型認定こども園の概要を理解し、保育者としての行動をすることができる。
	優	実習先の保育所や幼保連携型認定こども園の概要を理解し、実習生としての行動をすることができる。
	良	実習先の保育所や幼保連携型認定こども園の概要を知り、実習生としての行動をすることができる。
	可	一般的な保育所や幼保連携型認定こども園に対する知識に基づいて、実習生としての行動をすることができる。
	不可	実習先の保育所や幼保連携型認定こども園の概要を理解しようとせず、実習生としての行動をすることが難しい。
到達目標２	秀	すでに持っている知識や技術をバランスよく駆使して、短時間で正確な状況判断をし乳幼児への理解を深めている。
	優	他者の助言・指導をもとに、自ら持つ知識や技術を駆使して、短時間で適切な状況判断をし乳幼児への理解をしようとしている。
	良	他者の助言・指導をもとに、いくつかの知識や技術を使いその場に即した状況判断をし、乳幼児への理解が可能である。
	可	他者の助言・指導をもとに、その場に即した乳幼児理解に対する状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	乳幼児理解への適切な状況判断ができない。
到達目標３	秀	保育者としての視点を持ち、保育現場からも必要な知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	優	保育者としての視点には欠けるところはあるが、保育現場から学生として十分な知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	良	保育者としての視点にはほど遠いが、学生として保育現場から知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	可	学生として保育現場から最低限の知識や技術を身につけようとしている。
	不可	学生として保育現場から最低限の知識や技術を身につけようとしていない。
到達目標４	秀	学内で指導された指導計画への考え方に加えて、保育現場の考えを融合させ、子どもの実態に応じた指導計画立案ができ、保育者としての実践ができる。
	優	保育現場の考えに基づいて、子どもの実態を考えた指導計画立案ができ、実習生としての実践ができる。
	良	自らの考えに基づいた指導計画立案ができ、実習生としての実践ができる。
	可	指導計画立案をし、実習生としての実践ができる。
	不可	促されて指導計画立案ができ、実習生としての実践ができる。
到達目標５	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に保育現場の人と協調・協働し、課題をこなすことができる。協同して取り組んだ事柄も質の高いものが完成し、周囲にも良い影響を与えることができる。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。
	良	周囲の高いモチベーションに影響を受け、周囲と協調・協働しようとする姿勢がある。
	可	時々周囲と協同・協調することはできるが、ほぼ主体的な取り組みは見られない。
	不可	周囲と協同・協調することはできず、与えられた課題にも取り組もうとしない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	0	0	0	50	50	100
到達目標１	0	0	0	0	10	10	20
到達目標２	0	0	0	0	10	10	20
到達目標３	0	0	0	0	10	10	20
到達目標４	0	0	0	0	10	10	20
到達目標５	0	0	0	0	10	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
ポートフォリオ	実習の意図を理解し、保育者としての実力をつけることができているかについて、実習先からの評価と自己評価を併せて評価する。
その他	実習記録による実習の取り組み方を評価する。

履修に必要な知識・技能など
保育実習指導Ⅰ授業内にて指導した事項を遵守し、真摯な態度で実習に臨むこと。保育士倫理綱領に基づいた行動を求める

教科書・ISBN
保育実習指導Ⅰと同様のテキスト

参考書
随時紹介する

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育実習Ⅰ（社会福祉施設）（E33820）	実習	2	80	3	後期	選択	保育士必修	橋本好市
科目担当者	橋本好市							

授業の概要	保育実習Ⅰの一類型として、社会福祉施設（障害福祉施設）への実習に臨む。 本実習では、障害福祉施設（児・者のいづれか）における実際の業務に参加することにより、各々の意義・機能・役割や職員の専門性を学ぶ。 また、児童・利用者に対する基礎的な理解を踏まえ、専門的な関わり方、支援方法について、直接的体験を通じて学ぶ。 保育実習Ⅰは、障害福祉施設（児・者）でのボランティアやお手伝いとは異なり、保育士資格取得実習生としての姿勢で臨むこととなる。したがって、社会福祉に対する専門性や倫理等を習得した上で、社会人としての自覚や態度に基づく行動が求められる。 それらの点を踏まえて理論的学びを基に、実体験に基づく貴重な体験学習の場とする。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	社会福祉法人理事・評議員・顧問等、社会福祉施設の運営管理等を歴任。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	厚生労働省「保育実習基準」に基づく所定の要件（実習内容・規定日数及び時間等）を踏まえた実習に臨む。 ・社会福祉施設の役割・機能・利用者（児童）・生活環境・支援のあり方等について理解するために、保育実習Ⅰは、障害児・者施設（入・通所）のいずれかの施設における実習とする ・実習期間は、3 年後期 2 ～ 3 月期に、10 日間（80 時間）以上実施する ・実習期間中は実習施設の担当職員による指導のもと、実習に取り組む。 ・実習期間中は日々実習記録をつけて所定期日を遵守し提出する。 ・実習期間中には、大学教員が巡回に出向き、施設実習担当の職員・学生等との面会を行い、適宜相談指導を実施する。 ・実習先からの評価に基づく実習事後指導を行い専門職としての資質向上を図る。 ・本実習の課題を明確化し、保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲに繋げる。 ・社会福祉施設の役割・機能・利用者（児童）・生活環境・支援のあり方等について理解する。 ・専門職としての保育士の倫理・役割等を理解し、支援計画・記録・管理運営面等に関する適切な方法を学ぶ。	【事前】・実習当日の課題を整理し、実習日誌にて報告し、施設の実習担当職員からの指導を仰ぐ。 ・実習当日に明確化された課題について整理し、翌日の実習目標へと繋げる。 (500 分) 【事後】・前日実習の課題が当日の実習目標としてどの程度こなすことができたかを吟味し、自己評価に基づき、施設の実習担当職員・大学担当教員に指導を仰ぐ。 ・日々の実習における反省点を繰り返すことのないように、行動等に十分配慮しつつ実習に取り組む。 ・実習終了後は、実習における自身の課題を見出し、保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲへ繋いでいくことを念頭に方向性を整理していく。 (100 分)

学修の到達目標	
到達目標１	社会福祉施設（障害福祉施設＜児・者＞）の現状と社会的意義・役割・機能について理解し、利用者への支援に関する基礎的な能力を身につけ、保育士としての役割と専門性を具体的に習得する。
到達目標２	実習における職員や利用者・児童の観察や関わりを通して障害特性への理解を深める。
到達目標３	既習の教科目の内容と実践を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的観点から理解する。
到達目標４	支援計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
到達目標５	社会福祉施設における保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	障害福祉施設の現状と社会的意義・役割・機能について理解し、利用者への支援に関する基礎的な能力を身につけ、保育士としての役割と専門性を具体的に習得している。
	優	障害福祉施設の現状と社会的意義・役割・機能について理解し、利用者への支援に関する基礎的な能力を身につけ、保育士としての役割とを理解している。
	良	障害福祉施設の現状と社会的意義・役割・機能について理解し、利用者への支援に関する基礎的な能力を身につけている。
	可	障害福祉施設の現状と社会的意義・役割・機能について理解している。
	不可	障害福祉施設の現状と社会的意義・役割・機能について理解していない。
到達目標２	秀	施設職員の支援や利用者・児童の観察や関わりを通して障害特性を十分理解している。
	優	施設職員の支援や利用者・児童の観察や関わりを通して障害特性を理解している。
	良	施設職員の支援や利用者・児童の観察や関わりを通して障害特性を理解に努めている。
	可	施設職員の支援や利用者･児童の観察や関わりを通しても障害特性の理解に不十分さが認められる。
	不可	施設職員の支援や利用者・児童の観察や関わりを通しても障害特性の理解が全くできていない。
到達目標３	秀	既に有している知識、状況から得られる情報を統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。またそれゆえその判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行しやすい。
	優	既に有している知識、状況から得られる情報を統合する力、直観、決断力等をバランス良く駆使して、自力で十分適切に状況判断ができる。
	良	既に有している知識、状況から得られる情報を統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	適切な状況判断ができない。
到達目標４	秀	支援計画及び自己評価等について具体化し、行動へ移すことができる。
	優	支援計画及び自己評価等について具体化できている。
	良	支援計画及び自己評価等について具体化するための努力が見られる。
	可	支援計画及び自己評価等について具体化できていない。
	不可	支援計画及び自己評価等について具体化しようとさえしない。
到達目標５	秀	社会福祉施設における保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解でき、それに応じた行動を取ることができる。
	優	社会福祉施設における保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解でき、助言を得ながらそれに応じた行動を取ることができる。
	良	社会福祉施設における保育士の業務内容や職業倫理について理解できつつあり、助言を得ながらそれに応じた行動を取ることを目指している。
	可	社会福祉施設における保育士の業務内容や職業倫理について理解できていないが、助言を得ながらそれに応じた行動を取ることに努めている。
	不可	社会福祉施設における保育士の業務内容や職業倫理について理解できていない。また、助言を得ながらもそれに応じた行動を取ることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	0	0	0	0	100	100
到達目標１	0	0	0	0	0	20	20
到達目標２	0	0	0	0	0	20	20
到達目標３	0	0	0	0	0	20	20
到達目標４	0	0	0	0	0	20	20
到達目標５	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
その他	本実習の性質上、実習先からの評価に基づき学内評価を行う。 そのため、追・再試験を行うことができない。 本実習不合格者は、再履修となる。 実習に関しては様々な手続きが多いため、一つ一つを丁寧に正確に実行できるように準備しておく。

履修に必要な知識・技能など
①社会福祉施設（障害福祉施設＜児・者＞）の現状と役割について理解し、利用者への基礎的な支援知識を身につけておく。 ②社会的マナーについて習得しておく。

教科書・ISBN
使用しない

参考書
実習先からの指定図書・資料等その都度紹介

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教育実習指導（E33870）	演習	1	30	3	前期	選択	幼教免必修 小教免必修	多田琴子
科目担当者	多田琴子、牛頭哲宏、山下敦子							

授業の概要	教育実習の意義や目的を整理し、実習特有の学び方を理解し、教育実習への意欲を高め、自己課題を発見し設定する。設定した教育実習における「自己課題に対するアプローチ」と、「教員免許の重みの把握と実習者としての自覚」を図る。 また、実習先の教育理念や教育方法を様々な方法で調べ、教育対象者やその背景を具体的にイメージして教材研究を行い、実習に向けた万全の準備を行う。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（レ）課題解決型学習(外部協定 (有) ・ 無) （　）反転授業　（レ）その他（模擬授業）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション教育実習の内容、意義、心得、態度 （担当者：牛頭・山下－小学校・多田－幼稚園）	【事前】シラバス通読をし、概要をつかむ（30 分） 【事後】教科書の目通しをおこなう（30 分）
第 2 回	小学校の一日・職務内容 実習ハンドブック解説 （担当者：牛頭・山下－小学校・多田－幼稚園）	【事前】2 年生時の実習振り返りとまとめをおこなう（30 分） 【事後】学習内容の振り返りとまとめをおこなう（30 分）
第 3 回	子ども達の発達の姿とその指導（低学年） 幼稚園の一日・職務内容 （担当者：牛頭・山下－小学校・多田－幼稚園）	【事前】教科指導法・保育内容指導法等の教科書確認をおこなう（30 分） 【事後】学習内容の振り返りとまとめをおこなう（30 分）
第 4 回	子ども達の発達の姿とその指導（中学年） プロフィール作成 （担当者：牛頭・山下－小学校・多田－幼稚園）	【事前】教科指導法・保育指導法等教科書確認をおこなう（30 分） 【事後】学習内容の振り返りとまとめをおこなう（30 分）
第 5 回	子ども達の発達の姿とその指導（高学年） 実習園把握 （担当者：牛頭・山下－小学校・多田－幼稚園）	【事前】教科指導法・保育指導法等教科書確認をおこなう（30 分） 【事後】学習内容の振り返りとまとめをおこなう（30 分）
第 6 回	特別支援教育と発達障害 保育展開の技術 －教材研究（生活）－ （担当者：牛頭・山下－小学校・多田－幼稚園）	【事前】特別支援教育・保育指導法等教科書確認をおこなう（30 分） 【事後】学習内容の振り返りとまとめをおこなう（30 分）
第 7 回	授業展開の技術 －各教科の教材研究－ 保育展開の技術 －教材研究（遊び）－ （担当者：牛頭・山下－小学校・多田－幼稚園）	【事前】グループワーク担当箇所の教材研究をおこなう（30 分） 【事後】学習内容の振り返りとまとめをおこなう（30 分）
第 8 回	授業展開の技術 －各教科の学習指導案－ 保育展開の技術 －教材研究（ 毎日の活動 ）－ （担当者：牛頭・山下－小学校・多田－幼稚園）	【事前】グループワーク担当箇所の教材研究をおこなう（30 分） 【事後】学習内容の振り返りとまとめをおこなう（30 分）

第 9 回	授業展開の技術 －各教科の授業の実際－ 実習生に求めるもの －現場教員からの講話－ （担当者：牛頭・山下－小学校・多田－幼稚園）	【事前】グループワーク担当箇所の教材研究をおこなう（30 分） 【事後】学習内容の振り返りとまとめをおこなう（30 分）
第 10 回	模擬授業と授業記録の取り方 －板書－ 保育展開の技術 －保育指導案（部分）－ （担当者：牛頭・山下－小学校・多田－幼稚園）	【事前】グループワーク担当箇所の教材研究をおこなう（30 分） 【事後】学習内容の振り返りとまとめをおこなう（30 分）
第 11 回	模擬授業と授業記録の取り方 －発問と指示－ 保育展開の技術 －保育指導案（設定）－ （担当者：牛頭・山下－小学校・多田－幼稚園）	【事前】グループワーク担当箇所の教材研究をおこなう（30 分） 【事後】学習内容の振り返りとまとめをおこなう（30 分）
第 12 回	模擬授業と授業記録の取り方 －評価－ 保育展開の技術 －保育展開－ （担当者：牛頭・山下－小学校・多田－幼稚園）	【事前】グループワーク担当箇所の教材研究をおこなう（30 分） 【事後】学習内容の振り返りとまとめをおこなう（30 分）
第 13 回	実習日誌の記入例 （担当者：牛頭・山下－小学校・多田－幼稚園）	【事前】実習日誌フレームと内容確認をおこなう（30 分） 【事後】学習内容の振り返りとまとめをおこなう（30 分）
第 14 回	実習日誌の相互点検 （担当者：牛頭・山下－小学校・多田－幼稚園）	【事前】実習日誌記述をおこなう（30 分） 【事後】学習内容の振り返りとまとめをおこなう（30 分）
第 15 回	提出書類・提出期日確認、挨拶文・礼状の書き方 （担当者：牛頭・山下－小学校・多田－幼稚園）	【事前】ビジネス用挨拶文等常識確認をおこなう（30 分） 【事後】ビジネス用挨拶文等練習をおこなう（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	教育職としての知識・技術を身につけ、自己課題を自覚し、課題解決に努力する。
到達目標 2	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省して次につなげる。
到達目標 3	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断する。
到達目標 4	学修成果として持っている知識を発揮し、教育の対象にあわせて対応しようと努力する。さらに、授業展開でつまずいた事柄の原因を解明する。
到達目標 5	自発的に周囲と協調・協働する。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	教育職としての知識・技術を十分なレベルで身につけていると共に、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムを持ち合わせている。
	優	教育職としての知識・技術を十分なレベルで身につけ、プロフェッショナリズムを伴っている。
	良	教育職としての知識・技術を身につけ、自己課題を自覚し、課題解決に努力できる。
	可	教育職としての知識・技術を身につけようと努力できる。
	不可	教育職としての知識・技術を身につけていない。

到達目標２	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、教職員として求められる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省して教職員として求められる思考・感情・行動へとつなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し､反省して次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。
到達目標３	秀	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。また、その判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行する。
	優	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等をバランス良く駆使して、自力で十分適切に状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	適切な状況判断ができない。
到達目標４	秀	学修成果として持っている知識を発揮し、教育の対象にあわせて臨機応変に対応できる実践力が十分ある。さらに、変更した根拠となる事柄を正確に示し、解説することができる。
	優	学修成果として持っている知識を発揮し、教育の対象にあわせて臨機応変に対応できる実践力が十分ある。さらに、変更した根拠となる事柄を正確に把握している。
	良	学修成果として持っている知識を発揮し、教育の対象にあわせて対応しようと努力する。さらに、授業展開でつまずいた事柄の原因を解明できる。
	可	学修成果として持っている知識を発揮し、教育の対象にあわせて対応しようと努力する。
	不可	学修成果として持っている知識と技術を出せない。
到達目標５	秀	高い自己意識をも持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業へのやる気が上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、その実績を他者に還元する。
	優	自己意識を持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それが周囲のやる気を高め協調・協働作業の質が上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	協調・協働への興味は薄いが、他者に促されれば、周囲のやる気を下げることなく、協調・協働的に作業することはできる。
	不可	協調・協働する意志がなく、周囲のやる気を下げてしまう。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	40	40	0	0	20	100
到達目標１	0	20	20	0	0	0	40
到達目標２	0	10	0	0	0	0	10
到達目標３	0	10	0	0	0	0	10
到達目標４	0	0	10	0	0	10	20
到達目標５	0	0	10	0	0	10	20

※評価項目で示す評価割合は､授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
提出物	課題への取り組み姿勢とその内容で評価する。
成果発表（口頭・実技）	グループワークにおけるディスカッションやプレゼンテーションにおける完成度と実施後、見いだした課題を評価する。
その他	グループワークやプレゼンテーションにおける主体性や協働性を評価する。

履修に必要な知識・技能など
1）教職、学校教育の意義等について実習やインターシップ等からまとめ、実習に必要な知識や技術、自己課題を析出しておく。 2）多様な学習及び保育形態について情報収集した資料を、実習・実践に活かせるようにまとめておく。 3）学びを効果的に進めるための基礎となる集団作り（学級経営）のあり方を、これまでの実習やインターシップ等から纏めておく。 4）授業メモは丁寧に取り、実習に活用できるように常にまとめる。

教科書・ISBN
9784893473523　小学校実習－『小学校教育実習ガイド』石橋裕子・梅澤実・林幸範編著　萌文書林 幼稚園実習－教科書は使用しない。

参考書
適宜配布する。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教育実習（幼稚園）（E33880）	実習	4	120	3〜4	後期	選択	幼教免必修	多田琴子
科目担当者	多田琴子							

授業の概要	幼児期の教育の実際を体験学習する。教育理論と教育実践の統合を図り、実践力を養うことを目的とする。教育者としての使命感と自覚をもって資質向上を目指し、児童又は幼児の前に立つにふさわしい教師像を把握する。さらに教育の実際から、実践的技術と自己評価力及び教員としての職務全般を身につけることをねらいとする。特に今回の実習の場では、指導案を立案し、教育全般の流れを把握し、教育の内容と方法の総括的な把握と実践を行う。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	教育実習は、教育職員免許法第 6 条に規定されている必須科目である。一定の期間、幼稚園での実地体験を行い、教師として必要な知識、技能、態度、心構えなどを修得するために行う。 実習期間は 3 年後期 10 月の 4 週間を基本とする。 教育現場における教育の実際を観察・体験することにより、教育の意義についての体験的認識と理解を深め、教師としてのあり方を学ぶことを目標にしている。 実習ではあるが、一定期間教師としての職責を担うことから、実習者として主体性を発揮し、意欲的で計画的な学習活動が不可欠となる。単に保育に係る体験だけでなく、広く教師たるに必要なあらゆる分野にわたって経験・体験を積むことが期待される。そのためには、まず深く対象理解を行うことを基盤に環境構成に取り組む必要がある。 なお、教育実習の事前・事後指導については「教育実習指導」にて行う。	【事前】※実習期間中、毎日行う 次時の教材研究・教材製作・指導案作成など（120 分） 【事後】※実習期間中、毎日行う 教材研究や指導案の省察・実習日誌記録等の整理など（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	教育職としての知識・技術を身につけ、自己課題を自覚し、配属学級において課題解決に努力する。
到達目標 2	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省して次につなげる。
到達目標 3	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断する。
到達目標 4	自発的に配属園職員と協調・協働する。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	教育職としての知識・技術を十分なレベルで身につけていると共に、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムを持ち合わせている。
	優	教育職としての知識・技術を十分なレベルで身につけ、プロフェッショナリズムを伴っている。
	良	教育職としての知識・技術を身につけ、自己課題を自覚し、配属学級において課題解決に努力できる。
	可	教育職としての知識・技術を、配属学級に於いて身につけようと努力できる。
	不可	教育職としての知識・技術を身につけようとしない。
到達目標２	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、教職員として求められる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省して教職員として求められる思考・感情・行動へとつなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し､反省して次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。
到達目標３	秀	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。また、その判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行する。
	優	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等をバランス良く駆使して、自力で十分適切に状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	適切な状況判断ができない。
到達目標４	秀	高い自己意識を持って自発的に協調・協働することができる。それにより配属園職員の教育職業務へのモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、教育対象学級のやる気を高め協調・協働作業の質が上がる。
	優	自己意識を持って自発的に協調・協働することができる。それが教育対象学級のやる気を高め協調・協働作業の質が上がる。
	良	自発的に配属園職員と協調・協働することができる。
	可	協調・協働への興味は薄いが、配属園教職員に促されれば、周囲のやる気を下げることなく、協調・協働的に作業することはできる。
	不可	協調・協働する意志がなく、周囲のやる気を下げてしまう。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	50	0	0	0	50	100
到達目標１	0	20	0	0	0	10	30
到達目標２	0	20	0	0	0	10	30
到達目標３	0	10	0	0	0	10	20
到達目標４	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は､授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
提出物	実習日誌の記述内容で評価する。
その他	実習先評価から評価する。

履修に必要な知識・技能など
1）実習園の情報を収集し、教育理念や保育指導法の理解を深めておく。 2）事前に実習園から配布された指導計画や楽譜などを基に事前準備を行う。 3）配属学級が決まった時点で、研究保育についての事前準備を行う。 4）実習最終日に行うお別れ会のプログラムや作品作りについても計画に準備する。 5）実習期間は、実習園の教職員に準じ、綱紀粛正につとめ、職務規程や教職員としての倫理観をもつ。 6）実習園の教育方針に沿い、「実習させていただく」という謙虚で真摯な気持ちと態度で臨む。 7）教育業務に直接つながらない仕事や役割でも積極的に取り組む姿勢をもつ。 8）原則として遅刻・欠席は認めない。

教科書・ISBN
特になし。

参考書
必要に応じて紹介する。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教育実習（小学校）（E33890）	実習	4	120	3	後期	選択	小教免必修	牛頭哲宏
科目担当者	牛頭哲宏、山下敦子							

授業の概要	教育の実際を体験学習する。教育理論と教育実践の統合を図り、実践力を養うことを目的とする。 教育者としての使命感と自覚をもって資質向上を目指し、児童又は幼児の前に立つにふさわしい教師像を把握する。 さらに教育の実際から、実践的技術と自己評価力及び教員としての職務全般を身につけることをねらいとする。特に今回の実習の場では、指導案を立案し、教育全般の流れを把握し、教育の内容と方法の総括的な把握と実践を行う。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	公立小学校現場における教員経験

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	・教育実習は、教育職員免許法第 6 条に規定されている必須科目である。一定の期間、小学校での実地体験を行い、教師として必要な知識、技能、態度、心構えなどを修得するために行う。 ・実習期間は 3 年後期 10 月の 4 週間を基本とする。 ・教育現場における教育の実際を観察・体験することにより、教育の意義についての体験的認識と理解を深め、教師としてのあり方を学ぶことを目標にしている。 ・実習とはいえ、一定期間教師としての職責を果たすことになるので、実習者の主体的、意欲的な計画的学習活動が不可欠となる。単に教室における授業経験だけでなく、広く教師たるに必要なあらゆる分野にわたって経験・体験を積むことが期待される。 なお、教育実習の事前･事後指導については「教育実習指導」にて行う。	【事前】※実習期間中、毎日行う 次時の教材研究・教材製作・指導案作成など（120 分） 【事後】※実習期間中、毎日行う 教材研究や指導案の省察・実習日誌記録等の整理など（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	小学校教育の概要を理解し、教育者としての知識・技術を身につけ、自己課題を自覚し、配属学級において課題解決に努力することができる。
到達目標 2	児童や教職員との関わりを通して、自らの思考・感情・行動について客観視し、反省して教職員として求められる思考・感情・行動へとつなげることができる。
到達目標 3	教育者としての専門的知識と基本的な実践的指導技術を習得し、それらを統合する力、直観、決断力等をバランスよく駆使して、自力で十分適切に状況判断ができる。
到達目標 4	教育者という職業の任務や使命を理解し、自発的に協調・協働することができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	教育職としての知識・技術を十分なレベルで身につけていると共に、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムを持ち合わせている。
	優	教育職としての知識・技術を十分なレベルで身につけ、プロフェッショナリズムを伴っている。
	良	教育職としての知識・技術を身につけ、自己課題を自覚し、配属学級において課題解決に努力できる。
	可	教育職としての知識・技術を、配属学級に於いて身につけようと努力できる。
	不可	教育職としての知識・技術を身につけようとしない。
到達目標２	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、教職員として求められる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省して教職員として求められる思考・感情・行動へとつなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し､反省して次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。
到達目標３	秀	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。また、その判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行する。
	優	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等をバランス良く駆使して、自力で十分適切に状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	適切な状況判断ができない。
到達目標４	秀	高い自己意識を持って自発的に協調・協働することができる。それにより配属校職員の教育職業務へのモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、教育対象学級のやる気を高め協調・協働作業の質が上がる。
	優	自己意識を持って自発的に協調・協働することができる。それが教育対象学級のやる気を高め協調・協働作業の質が上がる。
	良	自発的に配属校の職員と協調・協働することができる。
	可	協調・協働への興味は薄いが、配属校の教職員に促されれば、周囲のやる気を下げることなく、協調・協働的に作業することはできる。
	不可	協調・協働する意志がなく、周囲のやる気を下げてしまう。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	50	0	0	0	50	100
到達目標１	0	20	0	0	0	10	30
到達目標２	0	20	0	0	0	10	30
到達目標３	0	10	0	0	0	10	20
到達目標４	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は､授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
提出物	実習日誌の記述内容で評価する。
その他	実習先評価から評価する。

履修に必要な知識・技能など
1）教科書を事前熟読し自分の考えや疑問点などを持てるようにしておく。 2）実習校の情報を収集し、教育理念や学習指導法の理解を深めておく。 3）配属学級が決まった時点で、研究授業についての事前準備を行うこと。 4）実習期間は、教育公務員に準じ、綱紀粛正につとめ、職務規程や教職員としての倫理観をもつ。 5）実習校の教育方針に沿い、「実習させていただく」という謙虚で真摯な気持ちと態度で臨む。 6）教育業務に直接つながらない仕事や役割でも積極的に取り組む姿勢をもつ。 7）原則として遅刻・欠席は認めない。

教科書・ISBN
9784893471604　小学校実習『小学校教育実習ガイド』石橋裕子・梅澤実・林幸範編著　萌文書林

参考書
適宜紹介する。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
玩具と文化（E34000）	講義	2	30	3	後期	選択必修	保育士選択	尾﨑 織女
科目担当者	尾﨑織女							

授業の概要	玩具は、人間の心身の成長において大切な「遊び」をより楽しく発展させる道具であり、また、私たちの生活文化を紐解く文化財でもある。 この授業では、古代、中世、近世、近代と日本の玩具の歴史を概観し、文献の記述や実物に触れたり、伝承玩具を製作したりすることを通して、玩具の色や形、素材、仕掛けを観察し、玩具に込められたこども観や自然観、美意識などを探究する。また世界の玩具のあり様にも目を向けることによって、保育や教育の一ツールとして、玩具を生かしていくための視点を獲得する。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習（外部協定　有　・　無　） （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	玩具専門の博物館の学芸員として三十余年に亘って勤務し、世界各地の玩具文化について、小・中学生、高校生、大学生向け単発講義を担当するほか、季節ごとの社会人向けの伝承玩具づくり講座や節句文化講座の指導を受け持っている。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	＜ガイダンス――玩具学事始め＞　本科目が扱う「玩具」の概念を理解し、玩具文化探求への課題のいくつかを確認する	【事前】シラバスをよく読み、本科目でどのようなことを学びたいかをまとめておく。また、自らのこども時代にどのような玩具で遊んだか、その思い出をノート（本講座のために用意する）に記しておく。（120 分） 【事後】授業中に配布する記録カードに、こども時代の思い出の玩具について、名称、誕生した年代や歴史、素材や遊び方などを記入する。（120 分）
第 2 回	＜玩具のはじまり＞　シベリア諸族が伝承する玩具文化を手掛かりに、原始の玩具のいくつかは宗教的な領域にあったことを理解する――文化人類学的考察	【事前】manaba にあげた 2 回目の授業資料に目を通し、ノートに疑問点をまとめておく。（120 分） 【事後】新たに発見した事項、今後、探究したい事項をノートにまとめる。（120 分）
第 3 回	＜文献にみる日本の玩具の姿＞　日本の古代・中世に登場した玩具や遊戯のあり様を文献の中からすくいあげる――歴史学的考察	【事前】manaba にあげた 3 回目の授業資料に目を通し、興味を覚えた玩具や遊戯具についてノートに記しておく。（120 分） 【事後】日本の古代、中世に登場した玩具や遊戯具を配布したシートに書き入れて復習する。歴史的歩みを探究したい玩具や遊戯具について書物やインターネットで調べてみる。（120 分）
第 4 回	＜近世庶民が愛した玩具＞　江戸時代に刊行された玩具絵本『江都二色』の絵や実物資料を通して、近世玩具の姿をたずね、その特徴を考察する	【事前】manaba にあげた 4 回目の授業資料に目を通し、興味をもった江戸時代の玩具について、またその理由をノートに記入しておく。（120 分） 【事後】日本の近世、特に江戸時代の玩具の特徴について、ノートに自らの言葉でまとめる。（120 分）

第 5 回	＜近世の玩具と子育ての習俗＞　疱瘡除けの玩具や健康を祈る玩具にまつわる伝承を紐解きながら、近世の自然観や病気に対するとらえ方、こども観について話し合う	【事前】manaba にあげた 5 回目の授業資料に目を通し、「病魔よけ」として作られていた江戸時代の玩具にはどのようなものがあるのかのかを予習しておく。(120 分) 【事後】近世、とくに江戸時代の人々が玩具に込めた願いについて、ノートに自らの言葉でまとめる。(120 分)
第 6 回	＜『江都二色』のおもちゃを作る・その 1（実技）＞　江戸時代の玩具「隠れ屏風」を製作し、仕掛けの工夫や知恵、楽しさを体験的に理解する	【事前】『江都二色』の絵のなか、製作する玩具「隠れ屏風」について、manaba にあげた 6 回目の資料を読み、その成り立ちについて予習しておく。(60 分) 【事後】授業中に製作した玩具の仕組を応用して、どのような展開ができるかを考察し、その考察に基づいてオリジナル玩具を製作してみる。(180 分)
第 7 回	＜『江都二色』のおもちゃを作る・その 2（実技）＞　江戸末期に廃絶した「御来迎」を復元的に製作し、素材の工夫、題材の面白さを体験的に理解する	【事前】『江都二色』の絵のなか、製作する玩具「御来迎」について、manaba にあげた 7 回目の資料を読み、その成り立ちについて予習しておく。(60 分) 【事後】授業中に製作した玩具の仕組を応用して、どのような展開ができるかを考察し、その考察に基づいてオリジナル玩具を製作してみる。(180 分)
第 8 回	＜桃の節句と日本の人形文化＞　桃の節句とひな祭りの歴史をたどり、日本の人形文化の特徴について考察する	【事前】manaba にあげた 8 回目の授業資料に目を通し、こども時代に遊んだ人形にはどのようなものがあったか、その思い出をノートに記しておく。またひな人形の歴史についてどこまで知っていたかを確認しておく。(120 分) 【事後】日本の人形の特徴について、またひな人形の歴史について、どのような発見があったかをノートにまとめる。(120 分)
第 9 回	＜節句と子ども文化＞　端午の節句や七夕行事の歴史をたどり、それにまつわる人形文化の豊かさを理解する	【事前】manaba にあげた 9 回目の授業資料に目を通し、端午の節句や七夕にどのような飾りつけを行い、どのように祝っていたか、その思い出をノートに記しておく。また端午の節句や七夕の歴史についてどこまで知っていたかを確認しておく。(120 分) 【事後】端午の節句や七夕の歴史や習俗について認識を新たにしたこと、また、保育や教育の現場でこどもたちにどのように節句の文化を伝えたいかをノートにまとめる。(120 分)
第 10 回	＜世界のクリスマスと玩具文化＞　世界の人形・玩具文化の源泉ともいわれるクリスマスの習俗をたずねる	【事前】manaba にあげた 10 回目の授業資料に目を通し、クリスマスにはどのような飾りつけを行い、どのように祝っていたか、その思い出をノートに記しておく。また世界のクリスマスの歴史や習俗についてどこまで知っていたかを確認しておく。(120 分) 【事後】世界のクリスマスの歴史や習俗について認識を新たにしたこと、今後、探究してみたいことをノートにまとめる。(120 分)

第 11 回	＜クリスマス・オーナメントを作る（実技）＞　ヨーロッパ伝承の切り紙細工のオーナメントをとりあげ、その意味を理解しながら製作し、飾り方を皆で考察する	【事前】「光」を表わすクリスマス・オーナメントの意味について、manaba にあげた 11 回目の資料をよく読んでおく。またオーナメントの作り方についても予習しておく。(60 分) 【事後】授業で製作したオーナメントを保育や教育の現場、また家庭や地域においてどのように飾りつけ、楽しめるかを考察する。また色や大きさを変えて、オリジナル作品を製作してみる。(180 分)
第 12 回	＜近代玩具の歴史をたどる～明治・大正・昭和初期～＞　近代玩具が登場した明治・大正時代の玩具年表をたどり、流行玩具のそれぞれが時代精神を表現した資料であることを理解する	【事前】manaba にあげた 12 回目の授業資料に目を通し、戦前（明治・大正・昭和初期）の流行玩具には、それぞれどのようなものがあったのかを､時代ごとにノートに書きあげておく。(120 分) 【事後】明治、大正、昭和初期の流行玩具には時代精神がどのように表れていたかをふり返り、時代と玩具との関係性についての考察をノートにまとめる。(120 分)
第 13 回	＜近代玩具の歴史をたどる～昭和中後期・平成～＞　激動の昭和時代、私たちが生きてきた平成時代の玩具史をたどる。時をこえて変わらない玩具のエッセンスについても考察する	【事前】manaba にあげた 13 回目の授業資料に目を通し、戦後（昭和 20 年代以降・平成）の流行玩具には、それぞれどのようなものがあったのかを、時代ごとにノートに書きあげておく。(120 分) 【事後】昭和時代（戦後の復興期、高度経済成長期、大量生産期）の流行玩具には時代精神がどのように表れていたかをふり返り、さらに、私たちが育った平成という時代と玩具の関係性についての考察をノートにまとめる。 (120 分)
第 14 回	＜教育玩具とヨーロッパの近代玩具＞　ヨーロッパ各地の玩具会社が作る木製玩具を取り上げ、こどもの成長に玩具が果たす役割についての視点を得る	【事前】manaba にあげた 14 回目の授業資料に目を通し、関心をもった木製玩具についてノートに記しておく。また、こども時代に触れた木製玩具について思い出を記しておく。 (120 分) 【事後】ヨーロッパの玩具会社それぞれの玩具づくりの理念についてまとめ、自身が保育や教育の現場で扱いたい玩具のいくつかを目的に応じて選定してみる。(120 分)
第 15 回	＜玩具の国際性―小説に描かれた玩具＞　世界的に何度も流行を繰り返してきたヨーヨーの歴史を振り返ったあと、ヨーヨーが登場する昭和初期の小説（短篇）を読む	【事前】manaba にあげた 15 回目の授業資料に目を通し、ヨーヨーの歴史について調べておく。(120 分) 【事後】授業で取り上げて短編小説を熟読し、商品玩具と手作り玩具との違いについて考察する。(120 分)

学修の到達目標	
到達目標 1	玩具の歴史や季節の行事に関わる玩具や人形についての基礎的な知識を身につける（玩具が保育や教育の一ツールであると同時に、文化伝達の役割をもった道具であることを理解する)。
到達目標 2	身の回りに存在する玩具の成り立ちや背景を探究する姿勢をもち、その探究方法を獲得する。
到達目標 3	商品玩具が氾濫する中で忘れられがちな“作って遊ぶ楽しさ”と、玩具にこめられた知恵と工夫を体験的に理解し、保育や教育の現場で、玩具をどのように生かしていくかについての視野を広げる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	玩具の歴史や季節の行事に関わる玩具や人形についての基礎的な知識を十分なレベルで身につけている。
	優	玩具の歴史や季節の行事に関わる玩具や人形についての基礎的な知識を一定のレベルで身につけている。
	良	玩具の歴史や季節の行事に関わる玩具や人形についての基礎的な知識をある程度のレベルで身につけている。
	可	玩具の歴史や季節の行事に関わる玩具や人形についての基礎的な知識を最低限のレベルで身につけている。
	不可	玩具の歴史や季節の行事に関わる玩具や人形についての基礎的な知識を身につけていない。
到達目標 2	秀	身の回りに存在する玩具の成り立ちや背景を探究する姿勢をもち、その探究方法を十分なレベルで身につけている。
	優	身の回りに存在する玩具の成り立ちや背景を探究する姿勢をもち、探究方法をある程度のレベルで身につけている。
	良	身の回りに存在する玩具の成り立ちや背景を探究する姿勢をもち、探究方法を最低限のレベルで身につけている。
	可	他者から促されれば、身の回りに存在する玩具の成り立ちや背景を探究する姿勢をもち、探究方法を最低限のレベルで身につけている。
	不可	身の回りに存在する玩具の成り立ちや背景を探究する姿勢をもてず、探究方法も身につけていない。
到達目標 3	秀	玩具にこめられた知恵と工夫を体験的に理解し、保育や教育の現場で、玩具をどのように生かしていくかについて、充分な考察ができる。
	優	玩具にこめられた知恵と工夫を体験的に理解し、保育や教育の現場で、玩具をどのように生かしていくかについて、考察できる。
	良	玩具にこめられた知恵と工夫に目を向けることがが出来、保育や教育の現場で、玩具をどのように生かしていくかについてもある程度、考察できる。
	可	他者から促されれば、玩具にこめられた知恵と工夫に目を向けることが出来、保育や教育の現場で、玩具をどのように生かしていくかについても最低限の考察ができる。
	不可	玩具にこめられた知恵と工夫を理解できず、保育や教育の現場で、玩具をどのように生かしていくかについても考察出来ない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	20	0	0	0	40	100
到達目標 1	20	0	0	0	0	20	40
到達目標 2	10	10	0	0	0	15	35
到達目標 3	10	10	0	0	0	5	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	15 回の授業を受講した後に、授業の成果の確認としてレポート試験を実施する。レポートは基礎的な知識の定着と自発的な探究の成果をみる。
提出物	第 6 回、7 回、11 回の授業で製作した玩具を提出する。それぞれの玩具における仕掛けや素材への理解と独創性をみる。
その他	各回の授業の終わりに小レポートを課し、それぞれのテーマについての理解度と自発的な学修への意欲をみる。

履修に必要な知識・技能など
学習ノートを作り、各回の予習（manaba に各回の授業資料を公開します）では、どこに興味を覚えたか、何を探究したいかなどを書きあげて下さい。また、授業後には、各回の課題について、自らの言葉でまとめ、知識を定着させて下さい。

教科書・ISBN
使用しない

参考書
『日本と世界おもしろ玩具図鑑』（日本玩具博物館編／井上重義・尾崎織女著／神戸新聞総合出版センター刊） 『世界の民芸玩具』（尾崎織女著／大福書林刊） この他、各回、授業テーマに合わせて参考図書を提示します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
子どもの歯と健康（E34050）	講義	2	30	3	後期	選択必修	保育士選択	吉田幸恵
科目担当者	吉田幸恵、浅枝麻夢可							

授業の概要	乳幼児期や学童期は咀嚼や嚥下・発音といった口腔機能の獲得・発達において重要な時期である。 正常な歯の萌出や口腔の発達は口腔機能の獲得・発達に大きな影響をおよぼす。 本講義では学校保健安全法により実施される「歯・口腔の健康診断」時に使用される記録票に基づいて、歯式と歯の状態、歯列と咬合状態、顎関節、歯垢・歯肉の状態について学び、口腔の状況と口腔機能の獲得・発達との関連を理解する。 さらに、学校・幼稚園・保育所等での歯科保健教育の立案や教材の作成について基本を学ぶ。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	担当教員は歯科衛生士として臨床経験を有し、学校や園で歯科保健教育に携わっている。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション　- 口腔の機能とは -　（担当者：吉田）	【事前】シラバスに目を通す。(120 分) 【事後】学習内容を講義ノートと配布資料で確認する。(120 分)
第 2 回	児童生徒健康診断票（歯・口腔）の読み方 - 歯式と歯の状態 -　（担当者：吉田）	【事前】児童生徒健康診断票（歯・口腔）の「歯式」と「歯の状態」に記載されている用語について調べる。(120 分) 【事後】自らの口腔を観察し記録する。(120 分)
第 3 回	口腔の発達と咀嚼・嚥下機能の獲得　（担当者：吉田）	【事前】咀嚼と嚥下の獲得時期について調べる。(120 分) 【事後】学習内容を講義ノートと配布資料で確認する。(120 分)
第 4 回	乳歯の特徴と歯の生え変わりについて 乳歯のう蝕とその予防について　（担当者：吉田）	【事前】乳歯う蝕の特徴を調べる。(120 分) 【事後】学習内容を講義ノートと配布資料で確認する。(120 分)
第 5 回	児童生徒健康診断票（歯・口腔）の読み方 -「歯列」と「咬合状態」-　（担当者：吉田）	【事前】児童生徒健康診断票（歯・口腔）の「歯列・咬合」の評価基準を調べる。(120 分) 【事後】自らの口腔を観察し記録する。(120 分)
第 6 回	児童生徒健康診断票（歯・口腔）の読み方 -「顎関節」「歯垢・歯肉の状態」-　（担当者：吉田）	【事前】児童生徒健康診断票（歯・口腔）の「顎関節」、「歯垢・歯肉の状態」の評価基準を調べる。(120 分) 【事後】自らの口腔を観察し記録する。(120 分)
第 7 回	妊娠期・青年期・成人期の口腔管理について （担当者：吉田）	【事前】妊娠期・青年期・成人期に起きやすい口腔の問題点を調べる。(120 分) 【事後】学習内容を講義ノートと配布資料で確認する。(120 分)
第 8 回	口腔の清掃方法について　（担当者：吉田）	【事前】口腔の清掃方法の種類を調べる。(120 分) 【事後】自身の口腔状況に合った口腔清掃方法を考える。(120 分)
第 9 回	歯と口の健康教育の指導案作り：説明　（担当者：浅枝）	【事前】前回の学習内容を復習する（120 分） 【事後】グループ間で指導案を確認する（120 分）

第 10 回	歯と口の健康教育の指導案作り：作成　（担当者：浅枝）	【事前】当日に必要な準備物を確認する（120 分） 【事後】グループ間で媒体作りの進捗状況を確認する（120 分）
第 11 回	歯と口の健康教育の指導案発表練習　（担当者：浅枝）	【事前】当日に必要な準備物を確認する（120 分） 【事後】グループ間で担当を確認する（120 分）
第 12 回	歯と口の健康教育の指導案発表①（発表者：A クラス前半）（担当者：浅枝）	【事前】当日に必要な準備物を確認する（120 分） 【事後】グループ間で担当を確認する（120 分）
第 13 回	歯と口の健康教育の指導案発表②（発表者：A クラス後半）（担当者：浅枝）	【事前】当日に必要な準備物を確認する（120 分） 【事後】グループ間で担当を確認する（120 分）
第 14 回	歯と口の健康教育の指導案発表③（発表者：B クラス前半）（担当者：浅枝）	【事前】当日に必要な準備物を確認する（120 分） 【事後】グループ間で担当を確認する（120 分）
第 15 回	歯と口の健康教育の指導案発表④（発表者：B クラス後半）（担当者：浅枝）	【事前】当日に必要な準備物を確認する（120 分） 【事後】学習内容を配布資料で確認する（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	児童生徒健康診断票（歯・口腔）に記載されている口腔の状況を理解できる。
到達目標 2	学校や幼稚園、保育所等で実施する基本的な歯科保健教育の立案と教材の作成ができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	児童生徒健康診断票（歯・口腔）に記載されている歯科疾患やその他の異常に関する基礎知識を非常に高いレベルで身につけ、その内容を正しく理解している。
	優	児童生徒健康診断票（歯・口腔）に記載されている歯科疾患やその他の異常に関する基礎知識を高いレベルで身につけ、その内容を一定水準以上理解している。
	良	児童生徒健康診断票（歯・口腔）に記載されている歯科疾患やその他の異常に関する基礎知識を身につけ、その内容をある程度理解している。
	可	児童生徒健康診断票（歯・口腔）に記載されている歯科疾患やその他の異常に関する基礎知識を部分的に身につけているが、その内容を十分には理解していない。
	不可	児童生徒健康診断票（歯・口腔）に記載されている歯科疾患やその他の異常に関する基礎知識を身につけようとする努力が見られない。
到達目標 2	秀	対象となる園児や児童、生徒の生活状況や口腔の状況を考慮した歯科保健教育の立案と効果的な教材の作成ができる。
	優	対象となる園児や児童、生徒の口腔の状況を考慮した歯科保健教育の立案と教材の作成ができる。
	良	園児や児童、生徒を対象とした基本的な歯科保健教育の立案と教材の作成ができる。
	可	園児や児童、生徒を対象とした歯科科保健教育の立案は不十分であるが、わかりやすい教材の作成ができる。
	不可	園児や児童、生徒を対象とした歯科保健教育の立案や教材の作成ができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	30	30	0	0	0	100
到達目標 1	40	20	0	0	0	0	60
到達目標 2	0	10	30	0	0	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験
提出物	口腔観察票 作成した教材
成果発表 （口頭・実技）	歯科保健教育の指導案の原稿、プレゼンテーション

履修に必要な知識・技能など
後半はクループワークにより指導案作成を行うので欠席しないようにして下さい。

教科書・ISBN
使用しません。

参考書
『乳幼児の口と歯の健診ガイド』日本小児歯科学会編 医歯薬出版株式会社 『こどものための歯と口の健康づくり』安井利一監修 医歯薬出版株式会社

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
子どもの障害と医療（E34060）	講義	2	30	3	後期	選択必修	保育士選択	辻井善弘
科目担当者	辻井善弘、垣下貞子							

授業の概要	近年、保育所や児童養護施設では、障害がある子どもの数は増加している。保育実践において、子どもの日常でみられる疾病及び障害について学ぶとともに、発達障害に関する生活上の困難への対処方法と取組みを知る。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション障害がある子どもの暮らし（担当者：辻井）	【事前】障害について自由に予習 【事後】レスポンスカードの作成
第 2 回	健康とは何かダウン症児の健康管理（担当者：垣下）	【事前】ダウン症とは何かを予習する 【事後】レポートの作成
第 3 回	てんかん（発作時の対応及び介助）服薬時に注意すること（担当者：垣下）	【事前】てんかんとは何かを予習する 【事後】レポートの作成
第 4 回	筋ジストロフィーについて救急処置について（担当者：垣下）	【事前】筋ジストロフィーについての予習 【事後】レポートの作成
第 5 回	やけど、誤飲誤食、応急処置（担当者：垣下）	【事前】応急処置について予習 【事後】レポートの作成
第 6 回	虐待とその背景、社会的な対応（担当者：垣下）	【事前】児童虐待について定義を調べる 【事後】レポートの作成
第 7 回	感染症、食中毒（担当者：垣下）	【事前】感染症の種類を調べる 【事後】レポートの作成
第 8 回	アレルギー疾患のある子への配慮（担当者：垣下）	【事前】アレルギー疾患について予習 【事後】レポートの作成
第 9 回	不登校等小児の心因性疾患（担当者：垣下）	【事前】心因性疾患を調べる 【事後】レポートの作成
第 10 回	新型コロナウイルス感染症（担当者：垣下）	【事前】新型コロナウイルス感染症を調べる 【事後】レポートの作成
第 11 回	障害の理解（種類と定義）（担当者：辻井）	【事前】日本の障害福祉政策を調べる 【事後】レスポンスカードの作成
第 12 回	障害児・者の暮らし（担当者：辻井）	【事前】障害福祉サービスについて予習 【事後】レスポンスカードの作成
第 13 回	精神障害について（担当者：辻井）	【事前】精神障害について予習 【事後】レスポンスカードの作成
第 14 回	発達障害①分類と種類（担当者：辻井）	【事前】発達障害の種類を調べておく 【事後】レスポンスカードの作成
第 15 回	発達障害②障害特性講義のまとめ（担当者：辻井）	【事前】自閉症の特性を調べる 【事後】レスポンスカードの作成

学修の到達目標	
到達目標 1	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身に着けている。
到達目標 2	自発的に周囲に貢献し、周りのモチベーションを高めることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身に着けている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも伴っている。
	優	自らの専門領域についての知識・技術を両方とも十分なレベルで身に着けていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識・技術を身に着けていて、少なくとも一方については充分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識・技術を身に着けている。
	不可	自らの専門領域についての知識・技術を身に着けていない。
到達目標 2	秀	かなり自発的に周囲に貢献できる。それにより周囲のモチベーションを高めることもできる。また、自分の貢献力を専門領域で発揮することもできる。
	優	かなり自発的に周囲に貢献できる。それにより周囲のモチベーションを上げることもできる。
	良	ある程度自発的に周囲に貢献できる。
	可	他者から指示されれば、周囲に対して何らかの貢献はできる。
	不可	貢献への積極性がなく、周囲のモチベーションを下げてしまう。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	40	0	0	0	0	100
到達目標 1	40	40	0	0	0	0	80
到達目標 2	20	0	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	・レポート試験を実施する。・注意点 授業で得た知識を踏まえた内容であること。
提出物	・提出物 事前課題「レスポンスカード」または「レポート」の作成＊「レスポンスカード」とは　講義内容と各自専門領域とのつながりや発想した質問を記入するカード。　担当講師より返答を行う。

履修に必要な知識・技能など
各自がこれまで罹患した疾病について調べておくことで、子どもの疾病について身近な意識にしておいてください。障害児・者については、保育実践のみならず皆さんの身近で生活しています。興味をもって受講してください。また、ノート学習をお勧めします。

教科書・ISBN
「随時紹介します」

参考書
「随時紹介します」

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
施設運営・防災と危機管理（E34090）	講義	2	30	3	前期	選択必修	—	辻井善弘
科目担当者	辻井善弘							

授業の概要	大きな震災を経験した神戸市に位置する神戸常盤大学の学生として、様々な災害に関する知識を学ぶ。また、施設運営における危機管理をリスクマネージメントの観点から学ぶことにより、実践現場に入ったときに危機に対する感受性を高めることを目的とする。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	施設運営・防災と危機管理の意義・目的	【事前】危機管理について調べる（120 分） 【事後】ノート学習の整理（120 分）
第 2 回	日本の災害事情（歴史編）	【事前】これまでの日本の災害を書き出す（120 分） 【事後】ノート学習の整理（120 分）
第 3 回	日本の災害事情（現代編）	【事前】近年発生した災害を書き出す（120 分） 【事後】ノート学習の整理（120 分）
第 4 回	防災研究	【事前】日頃から意識している防災を書き出す（120 分） 【事後】ノート学習の整理（120 分）
第 5 回	グループワーク①（コンセンサス初級）	【事前】事前課題あり。授業で使用。（120 分） 【事後】配布資料の整理（120 分）
第 6 回	日本の地震	【事前】阪神淡路大震災について調べる（120 分） 【事後】ノート学習の整理（120 分）
第 7 回	災害へのそなえ（個人編）	【事前】施設の備蓄食品について調べておく。（120 分） 【事後】レポート作成（120 分）
第 8 回	災害への備え（施設編）	【事前】事前課題あり。授業で使用。（120 分） 【事後】配布資料の整理（120 分）
第 9 回	グループワーク②（コンセンサス中級）	【事前】事前課題あり。授業で使用（120 分） 【事後】配布資料の整理。（120 分）
第 10 回	災害対策演習	【事前】事前課題あり。授業で使用。（120 分） 【事後】配布資料の整理。（120 分）
第 11 回	施設で起こる事故の調査研究	【事前】「ゼロ災兵庫」を調べる（120 分） 【事後】配布資料の整理（120 分）
第 12 回	ソーシャルアドミニストレーション	【事前】事前課題あり。授業で使用。（120 分） 【事後】配布資料の整理。（120 分）
第 13 回	リスクマネージメント	【事前】事前課題あり。授業で使用。（120 分） 【事後】配布資料の整理。（120 分）
第 14 回	安全衛生管理ハインリッヒ	【事前】事前課題あり。授業で使用。（120 分） 【事後】配布資料の整理。（120 分）

第 15 回	危険予知トレーニング（演習）	【事前】事前課題あり。授業で使用。（120 分） 【事後】配布資料の整理。（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	災害の知識及び配慮を習得する。
到達目標 2	対人援助従事者として対象者に安全な活動等を提供するため、リスクマネージメントを理解する。
到達目標 3	対人援助従事者として、危険に対する気づきの感性を高める。
到達目標 4	KYT（危険・予知・訓練）の技法を習得し、事業運営の活性化に寄与する。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	災害の知識及び配慮の内容に関して、十分なレベルで理解できている。
	優	災害の知識及び配慮の内容に関して、一定のレベルで理解できている。
	良	災害の知識及び配慮の内容に関して、最低限のレベルで理解できている。
	可	災害の知識及び配慮の内容に関して、知識としては持っている。
	不可	災害の知識及び配慮の内容に関して、知識を持っていない。
到達目標 2	秀	リスクマネジメントの知識及び技術に関して、十分なレベルで理解できている。
	優	リスクマネジメントの知識及び技術に関して、一定のレベルで理解できている。
	良	リスクマネジメントの知識及び技術に関して、最低限のレベルで理解できている。
	可	リスクマネジメントの知識及び技術に関して、知識としては持っている。
	不可	リスクマネジメントの知識及び技術に関して、知識を持っていない。
到達目標 3	秀	危険に対する気づきの感性について、直観、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。またそれゆえその判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行しやすい。
	優	危険に対する気づきの感性について、直観、決断力等をバランスよく駆使して、自分で十分適切に状況判断ができる。
	良	危険に対する気づきの感性について、直観、決断力等のうちいくつかを機能させつつ、自分で適切に状況判断ができる。
	可	危険に対する気づきの感性について、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	危険に対する気づきの感性がなく、適切な状況判断ができない。
到達目標 4	秀	KYT（危険・予知・訓練）に関する知識を十分に修得・理解するだけではなく、更なる理解を深め、且つその内容が秀逸である。
	優	KYT（危険・予知・訓練）に関する知識を十分に修得・理解するだけではなく、更なる理解を深めようとしている。
	良	KYT（危険・予知・訓練）に関する知識を十分に修得・理解している。
	可	KYT（危険・予知・訓練）に関する知識を修得し、理解しようと努力している。
	不可	KYT（危険・予知・訓練）に関する知識を修得しようという努力が見られない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	40	0	0	0	0	100
到達目標 1	10	10	0	0	0	0	20
到達目標 2	10	10	0	0	0	0	20
到達目標 3	20	10	0	0	0	0	30
到達目標 4	20	10	0	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	・レポート試験を実施する。・注意点 授業で得た知識を踏まえた内容であること。
提出物	・「レスポンスカード」の記入※「レスポンスカード」とは　各授業の最後に記入する。講義内容と各自専門領域とのつながりを発見する。　また、その際に発想した質問を記入し、担当講師より返答を行う。

履修に必要な知識・技能など
保育実践及び施設運営における危機管理は、自身の生活の中に潜在する危険への意識から始まる。そこで、各自が生活の中で感じる危険を意識し、ノート等に文字化しておく。また授業において発表の機会を設け、他者との共有を図る。

教科書・ISBN
「随時紹介します」

参考書
「随時紹介します」

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
リトミックⅠ（E34110）	演習	1	30	3	後期	選択必修	—	古木登紀子
科目担当者	古木登紀子							

授業の概要	・エミール・ジャック＝ダルクローズが創設した、音楽基礎教育の具体的な実践教育である『リトミック』の技術的習得と指導方法を行う。リトミックを指導する上で必要なリズム・ピアノ演奏法を習得する。 ・リトミック研究センターの「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格２級」が取得可能。 ・園児とのリトミック実習を予定しています。
アクティブ・ラーニングの要素	（　）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（　）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第１回	みんなでリトミック！	【事前】シラバスを読んでおく（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第２回	3歳児１学期の指導法・ピアノ奏法・実践① 主に即時反応、あそび歌	【事前】教科書を確認しておく（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第３回	3歳児１学期の指導法・ピアノ奏法・実践② 主に即時反応、動きの基礎練習	【事前】教科書を確認しておく（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第４回	3歳児１学期の指導法・ピアノ奏法・実践③ 主に即時反応、おと	【事前】教科書を確認しておく（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第５回	3歳児１学期の指導法・ピアノ奏法・実践④ 主に即時反応、拍と数	【事前】教科書を確認しておく（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第６回	3歳児２学期の指導法・ピアノ奏法・実践① 主に即時反応、あそび歌	【事前】教科書を確認しておく（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第７回	3歳児２学期の指導法・ピアノ奏法・実践② 主に即時反応、動きの基礎運動	【事前】教科書を確認しておく（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第８回	3歳児２学期の指導法・ピアノ奏法・実践③ 主に即時反応、おと、数と拍	【事前】教科書を確認しておく（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第９回	園児とリトミック実習　園児と一緒に活動 （日程の都合で変更の可能性有り）	【事前】実習の内容の確認（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第10回	3歳児２学期の指導法・ピアノ奏法・実践④ 主に即時反応拍子、ニュアンス発表について	【事前】発表の準備、教科書を確認しておく（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第11回	3歳児３学期の指導法・ピアノ奏法・実践① 主に即時反応、あそびうたについて発表について	【事前】発表の準備、教科書を確認しておく（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第12回	3歳児３学期の指導法・ピアノ奏法・実践② 主に即時反応、おと発表のリハーサル	【事前】発表の準備、教科書を確認しておく（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第13回	学生同士での指導案発表実習	【事前】発表の準備（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第14回	3歳児１学期の指導法・ピアノ奏法・実践③ 主に即時反応、拍子、基礎リズム	【事前】教科書を確認しておく（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第15回	まとめ ピアノ課題発表、リズム練習	【事前】リズム、ピアノ課題の確認（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）

学修の到達目標	
到達目標１	自発的に学習することができ、そこに愉しさと喜びを見出だし、達成感を得ることができる。
到達目標２	自分が何を学んだかという事実を述べることができ、その学びが意味することを自らが直面する課題に引き付けて考えることができる。
到達目標３	課題について考え抜き、授業で学んだ指導法、演奏法、知識などを工夫・活用して自らの思いや考えを表現することができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	自発的に学習することができ、そこに愉しさと喜びを見出だし、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学習へとつなげられる。
	優	自発的に学習することができ、そこに愉しさと喜びを見出だすことができる。
	良	ある程度自発的に学習することができ、そこに愉しさと喜びを見出だすことができる。
	可	他者から促されば、学ぶこと知ることができ、他者から指摘されて愉しさと喜びを見出だすことができる。
	不可	学ぶこと、知ることに愉しさと喜びを見出だすことができない。
到達目標２	秀	自分が何を学んだかという事実を述べることができ、その学びが意味することを自らが直面する課題に引き付けて考えるだけでなく、大局的観点からも考えることができる。
	優	自分が何を学んだかという事実を述べることができ、その学びが意味することを自らが直面する課題に引き付けて考えることができる。
	良	自分が何を学んだかという事実を述べることができ、その学びが意味することを自ら考えることができる。
	可	自分が何を学んだかという事実を述べることができる。
	不可	自分が何を学んだかという事実を述べることできない。
到達目標３	秀	課題について考え抜き、授業で学んだ指導法、演奏法、知識などを工夫・活用して自らの思いや考えを表現することができており、他者からも評価されており、それが秀逸である。
	優	課題について考え抜き、授業で学んだ指導法、演奏法、知識などを工夫・活用して自らの思いや考えを表現することができており、他者からも評価されている。
	良	課題について考え抜き、授業で学んだ指導法、演奏法、知識などを工夫・活用して自らの思いや考えを表現することができている。
	可	課題について考え抜き、授業で学んだ指導法、演奏法、知識などを工夫・活用して自らの思いや考えを表現しようと努力している。
	不可	課題について考え抜き、授業で学んだ指導法、演奏法、知識などを工夫・活用して自らの思いや考えを表現しようと努力の姿勢が見られない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	10	20	0	10	0	100
到達目標１	10	5	0	0	5	0	20
到達目標２	10	5	10	0	5	0	30
到達目標３	40	0	10	0	0	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	全て実技試験です。リズムとピアノ課題
提出物	授業後にその日にしたプリントなどを提出課題が出たときは後日提出のこともあります
成果発表（口頭・実技）	学生同士の指導案発表など
ポートフォリオ	各自が授業で取り組むワークシートや楽譜をそれぞれの学びの成果としてポートフォリオに蓄積していく。3歳児のリトミックで実践できるように書類を正しくファイリングをしていく。

履修に必要な知識・技能など
1）体を動かす授業です。座学、演習、ピアノ演奏などがあります。動きやすい服装できてください。 ・ 裸足または底の薄いバレエシューズや室内履きを用意して出席をしてください。資料を入れるための B5 サイズのファイルを準備しておいてください。 2）音楽を感じながら行う体験型の賑やかな授業です。自分のひらめき、お友だちのひらめきを発見していただきたいです。

教科書・ISBN
『幼稚園・保育園のためのリトミック 3 歳児』リトミック研究センター

参考書
カラーボード、スティック、練習用 CD プリント、楽譜は適宜配布します。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教科指導法特論Ⅰ（E34170）	講義	2	30	3	後期	選択必修	—	京極重智
科目担当者	京極重智、牛頭哲宏、山下敦子							

授業の概要	この授業では小学校教員として身につけておくべき最低限の知識と技能とともに、授業展開に必要な基礎力を養う。小学校教員を目指す者は積極的な姿勢でのぞむこと。なお、この授業は教職支援センターと連携して実施し、小学校教員を目指す者の資質・能力の向上を図る。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	イントロダクション　（担当者：京極重智）	【事前】シラバスを熟読し、教員採用試験に向けた目標をたてる（120 分） 【事後】教員採用試験に向けた目標を具体的な形にブラッシュアップする（120 分）
第 2 回	教職教養（教育原理）の理解①――基礎を知る（担当者：京極重智）	【事前】事前に配布する教職教養模擬試験①に取り組む（120 分） 【事後】教職教養模擬試験①について復習する（120 分）
第 3 回	教職教養（教育原理）の理解②――知識を応用する（担当者：京極重智）	【事前】事前に配布する教職教養模擬試験②に取り組む（120 分） 【事後】教職教養模擬試験②について復習する（120 分）
第 4 回	教職教養（教育原理）の理解③――発展的に考える（担当者：京極重智）	【事前】事前に配布する教職教養模擬試験③に取り組む（120 分） 【事後】教職教養模擬試験③について復習する（120 分）
第 5 回	教職教養（教育法規）の理解①――基礎を知る（担当者：京極重智）	【事前】事前に配布する教職教養模擬試験④に取り組む（120 分） 【事後】教職教養模擬試験④について復習する（120 分）
第 6 回	教職教養（教育法規）の理解②――知識を応用する（担当者：京極重智）	【事前】事前に配布する教職教養模擬試験⑤に取り組む（120 分） 【事後】教職教養模擬試験⑤について復習する（120 分）
第 7 回	教職教養（教育法規）の理解③――発展的に考える（担当者：京極重智）	【事前】事前に配布する教職教養模擬試験⑥に取り組む（120 分） 【事後】教職教養模擬試験⑥について復習する（120 分）
第 8 回	教職教養（教育時事）の理解①――基礎を知る（担当者：京極重智）	【事前】事前に配布する教職教養模擬試験⑦に取り組む（120 分） 【事後】教職教養模擬試験⑦について復習する（120 分）

第 9 回	教職教養（教育時事）の理解②――知識を応用する （担当者：京極重智）	【事前】事前に配布する教職教養模擬試験⑧に取り組む（120 分） 【事後】教職教養模擬試験⑧について復習する（120 分）
第 10 回	教職教養（教育時事）の理解③――発展的に考える （担当者：京極重智）	【事前】事前に配布する教職教養模擬試験⑨に取り組む（120 分） 【事後】教職教養模擬試験⑨について復習する（120 分）
第 11 回	教科指導法の理解と実践①――教科指導法を知る （担当者：牛頭哲宏・山下敦子）	【事前】授業づくり（120 分） 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 12 回	教科指導法の理解と実践②――教科指導法をつかむ （担当者：牛頭哲宏・山下敦子）	【事前】授業づくり（120 分） 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 13 回	教科指導法の理解と実践③――教科指導を実践する （担当者：牛頭哲宏・山下敦子）	【事前】授業づくり（120 分） 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 14 回	教科指導法の理解と実践④――教科指導を反省する （担当者：牛頭哲宏・山下敦子）	【事前】授業づくり（120 分） 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 15 回	学修の到達目標の確認　（担当者：京極重智）	【事前】全授業内容の振り返り（120 分） 【事後】教員採用試験に向けた今後の目標と学修計画を立てる（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	小学校教員に必要な教職教養の基礎について理解し、その知識を活用することができる。
到達目標 2	国語・社会・算数・理科それぞれの基本的な授業方法を理解し、実際に授業を展開することができる。
到達目標 3	自律的に学び、考え、行動する姿勢とその努力を継続することができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	教職教養について充分に理解し、その知識を充分に活用することができる。
	優	教職教養について充分に理解し、その知識を活用することができる。
	良	教職教養について理解しており、その知識を活用することができる。
	可	教職教養についてある程度理解しているが、その知識を活用することができない。
	不可	教職教養について理解していない。
到達目標 2	秀	国語・社会・算数・理科の基本的な授業方法を充分に理解し、状況に応じた授業展開ができる。
	優	国語・社会・算数・理科の基本的な授業方法を充分に理解し、授業展開ができる。
	良	国語・社会・算数・理科の基本的な授業方法を理解し、授業展開ができる。
	可	国語・社会・算数・理科の基本的な授業方法を理解し、最低限の授業展開ができる。
	不可	国語・社会・算数・理科の基本的な授業方法を理解していない。
到達目標 3	秀	学び、考え、行動する姿勢とその努力を継続することが自律的な形で充分にできる。
	優	学び、考え、行動する姿勢とその努力を継続することが自律的な形でできる。
	良	学び、考え、行動する姿勢とその努力を継続することができる。
	可	学び、考え、行動する姿勢とその努力を継続することが他律的な形でできる。
	不可	学び、考え、行動する姿勢とその努力を継続することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	20	30	0	0	0	100
到達目標１	50	0	0	0	0	0	50
到達目標２	0	0	30	0	0	0	30
到達目標３	0	20	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	教職教養に関する知的理解を筆記試験により評価する。
提出物	定期的に出す課題により評価する。
成果発表（口頭・実技）	模擬授業および指導案を評価する。

履修に必要な知識・技能など
特別な理由がない限り、この授業の欠席は小学校教員になる意志がないものとみなします。欠席の際は、事前に必ず授業担当の教員へ連絡すること。

教科書・ISBN
授業中にプリントを配布します。

参考書
随時紹介します。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育・教育課題研究Ⅱ（E34210）	演習	1	30	3	前期	選択	—	松尾寛子
科目担当者	松尾寛子、多田琴子、橋本好市、中田尚美、山下敦子、瀬川和子、脇本聡美、笹井隆邦、大城亜水、京極重智、髙松邦彦							

授業の概要	既習の知識・技術を応用しながら、保育・教育に携わる者として課題に立ち向かう力を培う。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション、教職に就くために必要な知識・技能（担当者：山下）	【事前】シラバス内容の確認（30 分） 【事後】学修計画の立案（30 分）
第 2 回	算数科「数と計算」領域の基礎知識と教材研究（担当者：髙松）	【事前】数学の基礎知識の復習（30 分） 【事後】課題の復習（30 分）
第 3 回	算数科「図形」領域の基礎知識と教材研究（担当者：髙松）	【事前】数学の基礎知識の復習（30 分） 【事後】課題の復習（30 分）
第 4 回	算数科「変化と関係」領域の基礎知識と教材研究（担当者：髙松）	【事前】数学の基礎知識の復習（30 分） 【事後】課題の復習（30 分）
第 5 回	算数科「変化と関係」領域の基礎知識と教材研究（担当者：髙松）	【事前】数学の基礎知識の復習（30 分） 【事後】課題の復習（30 分）
第 6 回	算数科「データの活用」領域の基礎知識と教材研究（担当者：髙松）	【事前】数学の基礎知識の復習（30 分） 【事後】課題の復習（30 分）
第 7 回	社会科「我が国の国土」領域の基礎知識と教材研究（担当者：京極）	【事前】地理の基礎知識の復習（30 分） 【事後】課題の復習（30 分）
第 8 回	社会科「我が国の産業・経済」領域の基礎知識と教材研究（担当者：京極）	【事前】経済の基礎知識の復習（30 分） 【事後】課題の復習（30 分）
第 9 回	社会科「我が国の歴史（古代～近代）」領域の基礎知識と教材研究（担当者：京極）	【事前】歴史の基礎知識の復習（30 分） 【事後】課題の復習（30 分）
第 10 回	外国語科「聞くこと・話すこと」領域の基礎知識と教材研究（担当者：脇本）	【事前】外国語の基礎知識の復習（30 分） 【事後】課題の復習（30 分）
第 11 回	外国語科「読むこと・書くこと」領域の基礎知識と教材研究（担当者：脇本）	【事前】外国語の基礎知識の復習（30 分） 【事後】課題の復習（30 分）
第 12 回	社会科「我が国の歴史（現代）」領域の基礎知識と教材研究（担当者：京極）	【事前】歴史の基礎知識の復習（30 分） 【事後】課題の復習（30 分）
第 13 回	社会科「我が国と国際社会の関わり」領域の基礎知識と教材研究（担当者：京極）	【事前】公民の基礎知識の復習（30 分） 【事後】課題の復習（30 分）
第 14 回	国語科「読むこと」領域の基礎知識と教材研究（担当者：山下）	【事前】国語の基礎知識の復習（30 分） 【事後】課題の復習（30 分）
第 15 回	教職に必要な法規・時事問題、学びの振り返り（担当者：山下）	【事前】教育時事問題の基礎知識の復習（30 分） 【事後】課題の復習（30 分）

学修の到達目標	
到達目標１	保育・教育現場で役立つ知識と技術について、細部にも目を向け習得する。
到達目標２	園外保育の行程表、指導案の作成、授業研究など、遊びや各教科における配慮等を考え身につける。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	教育現場における様々な課題を主体的に捉え、保育・教育現場で役立つ知識と技術について十分習得し、活用することができている。
	優	教育現場における様々な課題を主体的に捉え、保育・教育現場で役立つ知識と技術について十分習得している。
	良	教育現場における様々な課題を主体的に捉え、保育・教育現場で役立つ知識と技術についてある程度習得している。
	可	教育現場における様々な課題を主体的に捉え、保育・教育現場で役立つ知識と技術について最低限習得している。
	不可	教育現場における様々な課題を主体的に捉え、保育・教育現場で役立つ知識と技術について習得していない。
到達目標２	秀	園外保育の行程表、指導案の作成、授業研究など遊びや各教科における配慮等、テーマに応じて知識や経験等から思考し、自らの考えを相手意識、目的意識を持って伝えることが十分にできており、かつ、伝え合うことにより自己の意見を広げ深めることができている。
	優	園外保育の行程表、指導案の作成、授業研究など遊びや各教科における配慮等、テーマに応じて知識や経験等から思考し、自らの考えを相手意識、目的意識を持って伝えることが十分にできている。
	良	園外保育の行程表、指導案の作成、授業研究など遊びや各教科における配慮等、テーマに応じて知識や経験等から思考し、自らの考えを相手意識、目的意識を持って伝えることがある程度できている。
	可	園外保育の行程表、指導案の作成、授業研究など遊びや各教科における配慮等、テーマに応じて知識や経験等から思考し、自らの考えを相手意識、目的意識を持って伝えることが最低限できている。
	不可	園外保育の行程表、指導案の作成、授業研究など遊びや各教科における配慮等、テーマに応じて知識や経験等から思考し、自らの考えを相手意識、目的意識を持って伝えることができていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	50	40	0	10	0	100
到達目標１	0	25	20	0	5	0	50
到達目標２	0	25	20	0	5	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	実施しない
提出物	課題の提出、小テスト
成果発表（口頭・実技）	実技発表、プレゼンテーション等で知識・技能や表現力の到達度を測る
ポートフォリオ	保育、教育職に就くために必要な自己の資質について振り返り、今後の学習計画を主体的に立案する。

履修に必要な知識・技能など
1）保育者養成コースの履修者は、第２回～第５回は模擬試験によって知識レベルを確認するため、実務教育出版保育士就職模擬試験受験を必須とする（実費負担は各自）模擬試験日程：４月下旬～５月上旬（大学にて実施）、模擬試験受験料：3500 円程度（令和２年度実績） 2）教員養成コースの学生は、毎時間の振り返りのミニテスト等を行う。 3）授業の復習を必ず行い、知識・技能の定着に努めること。 4）保育者や教員をめざす者として、ワンランク上を目指す講座のため、真摯な態度で授業等に臨むこと。 5）無断欠席は認めない。 6）追・再試験の該当科目ではありません。

教科書・ISBN
使用しない

参考書
資料等は適宜配付または紹介する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育・教育課題研究Ⅲ（E34220）	演習	1	30	3	後期	選択	—	山下敦子
科目担当者	山下敦子、多田琴子、牛頭哲宏、橋本好市、中田尚美、中西利恵、松尾寛子、脇本聡美、笹井隆邦、大城亜水、京極重智、戸川晃子、水澤節子、髙松邦彦							

授業の概要	保育・教育に携わる者に必要な知識・技能を修得し、保育・教育現場における様々な課題を主体的に捉え、実践力の基礎を身につける。授業は保育者養成コース、教員養成コースに分かれて実施する。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション ～教職に求められる資質・技能について～（担当者：山下）	【事前】シラバス内容の確認（30 分） 【事後】授業の見通しと学修計画の立案（30 分）
第 2 回	算数科「変化と関係」領域の教材研究（担当者：高松）	【事前】数学の基礎知識の復習（30 分） 【事後】課題の復習と指導方法の立案（30 分）
第 3 回	算数科「変化と関係」領域の指導方法（担当者：高松）	【事前】数学の基礎知識の復習（30 分） 【事後】課題の復習（30 分）
第 4 回	算数科「データの活用」領域の教材研究（担当者：高松）	【事前】数学の基礎知識の復習（30 分） 【事後】課題の復習と指導方法の立案（30 分）
第 5 回	算数科「データの活用」領域の指導方法（担当者：高松）	【事前】数学の基礎知識の復習（30 分） 【事後】課題の復習（30 分）
第 6 回	社会科「我が国の政治の働き」領域の教材研究（担当者：京極）	【事前】社会科の基礎知識の復習（30 分） 【事後】課題の復習と指導方法の立案（30 分）
第 7 回	社会科「我が国の政治の働き」領域の指導方法（担当者：京極）	【事前】社会科の基礎知識の復習（30 分） 【事後】課題の復習（30 分）
第 8 回	社会科「国際社会と日本の役割」領域の教材研究（担当者：京極）	【事前】社会科の基礎知識の復習（30 分） 【事後】課題の復習と指導方法の立案（30 分）
第 9 回	社会科「国際社会と日本の役割」領域の指導方法（担当者：京極）	【事前】社会科の基礎知識の復習（30 分） 【事後】課題の復習（30 分）
第 10 回	外国語活動・外国語に関する指導方法（担当者：脇本）	【事前】英語の基礎知識の復習（30 分） 【事後】課題の復習と指導方法の立案（30 分）
第 11 回	教育論文の書き方基礎（担当者：山下）	【事前】教育時事の確認（30 分） 【事後】教育論文作成（30 分）
第 12 回	教育論文の書き方実践（担当者：牛頭）	【事前】教育時事の確認（30 分） 【事後】教育論文作成（30 分）
第 13 回	教育時事問題について集団討論する（担当者：山下）	【事前】教育時事問題について情報収集（30 分） 【事後】教育時事問題について分析（30 分）
第 14 回	教育時事問題についてプレゼンテーションする（担当者：牛頭）	【事前】教育時事問題のプレゼンを作成（30 分） 【事後】プレゼンの修正（30 分）
第 15 回	学びの振り返り（担当者：山下）	【事前】ポートフォリオの作成（30 分） 【事後】教員採用試験にむけて計画立案（30 分）

学修の到達目標	
到達目標１	保育者、教師に必要な知識の修得と実践力を身につけることができる。
到達目標２	保育、教育における今日的課題について考察し、論理的思考力、表現力を身につけることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	教育現場における様々な課題を主体的に捉え、実践するための基礎的な知識・技能を十分習得し、活用することができている。
	優	教育現場における様々な課題を主体的に捉え、実践するための基礎的な知識・技能を十分習得している。
	良	教育現場における様々な課題を主体的に捉え、実践するための基礎的な知識・技能をある程度習得している。
	可	教育現場における様々な課題を主体的に捉え、実践するための基礎的な知識・技能を最低限習得している。
	不可	教育現場における様々な課題を主体的に捉え、実践するための基礎的な知識・技能を習得していない。
到達目標２	秀	テーマに応じて知識や経験等から思考し、自らの考えを相手意識、目的意識を持って伝えることが十分にできており、かつ、伝え合うことにより自己の意見を広げ深めることができている。
	優	テーマに応じて知識や経験等から思考し、自らの考えを相手意識、目的意識を持って伝えることが十分にできている。
	良	テーマに応じて知識や経験等から思考し、自らの考えを相手意識、目的意識を持って伝えることがある程度できている。
	可	テーマに応じて知識や経験等から思考し、自らの考えを相手意識、目的意識を持って伝えることが最低限できている。
	不可	テーマに応じて知識や経験等から思考し、自らの考えを相手意識、目的意識を持って伝えることができていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	50	40	0	10	0	100
到達目標１	0	25	20	0	5	0	50
到達目標２	0	25	20	0	5	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	実施しない
提出物	課題の提出、小テスト等で学修内容の定着度を測る。教員養成コースは毎回、小テストを実施する。
成果発表（口頭・実技）	実技発表、プレゼンテーション等で知識・技能や表現力の到達度を測る。
ポートフォリオ	自己の資質を分析し、今後の学修計画を主体的に立案する。

履修に必要な知識・技能など
1）この授業は、保育・教育職に就くために必要な力を育成するものである。目的意識を持って主体的に授業に臨むこと。 2）無断の遅刻、欠席は認めない。保育者、教育者としての責任力をもって対応すること。

教科書・ISBN
授業で適時配布する。

参考書
必要に応じて紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
卒業研究Ⅰ（E34250）	演習	1	30	3	前期	必修	—	大森雅人
科目担当者	大森雅人、光成研一郎、多田琴子、牛頭哲宏、橋本好市、中田尚美、山下敦子、中西利恵、瀬川和子、藤本由佳利、松尾寛子、脇本聡美、近藤みづき、笹井隆邦、大城亜水、京極重智、柳原利佳子、戸川晃子							

授業の概要	卒業研究１～Ⅳは、研究的態度をもって二年間自身が関心をもつテーマに取り組み、主体的に自身の専門性と資質を高め、またさまざまな課題に対応する力を育成することをねらいとする。原則として、Ⅰ～Ⅳを通じて同じ指導教員の指導を受けることとする。 その中で、卒業研究Ⅱでは、指導教員の専門性に基づいて、ゼミ形式での学びを重ねながら、Ⅰで設定した研究課題とその研究方法により研究を行い、成果を論文にまとめて提出する。なお、この段階での研究は、4 年生で履修する卒業研究Ⅲ～Ⅳで取り組む研究の基礎となるものであり、提出する論文は 1600 字程度とする。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（　）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（レ）課題解決型学習（外部協定　有　・　(無)　） （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	・大森：保育・教育の方法を探究する ・中田：「保育メソッド」の研究 ・牛頭：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（1） ・橋本：社会福祉をさらに深く学びたい君へ！ ～社会福祉専門職としての知識・資質向上にむけて～ ・光成：保育・教育方法について考える ・中西：絵本の魅力～絵本の可能性・活用法など～ ・笹井：自然環境調査 ・山下：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（2） ・松尾：障がいのある子どもの保育について ・脇本：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（3） ・柳原：人間発達の理解と探究 ・近藤：運動指導・援助について考える ・戸川：音楽教育方法についての研究 ・大城：学びも遊びも「全力」でやる！ ・京極：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（4）	【事前】・各指導教員と相談し、各自必要な事前学習をゼミの前に行うこと。 ・参考文献などの資料について、ゼミ発表前に図書館やインターネット等で積極的に収集すること。 （600 分） 【事後】・ゼミ中で指摘された事項や各自が必要と感じた事項について、必要な事後学習をゼミの後に行うこと。 ・参考文献などの資料について、ゼミ後に図書館やインターネット等で積極的に収集すること。 （300 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	資料や他者の知見等を検討して、そこから見出される課題について考察した上で、自身の研究課題の設定と研究方法を定めることができる。
到達目標 2	卒業研究の目的を理解して、主体的に研究に取り組めるようになる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	資料や他者の知見等を極めて慎重に検討して、そこから見出される課題について極めて深く考察した上で、自身の研究課題の設定と研究方法を高いレベルで定めることができる。
	優	資料や他者の知見等を慎重に検討して、そこから見出される課題について深く考察した上で、自身の研究課題の設定と研究方法を定めることができる。
	良	資料や他者の知見等を検討して、そこから見出される課題について一定程度の考察をした上で、自身の研究課題の設定と研究方法を定めることができる。
	可	資料や他者の知見等について最低限の検討をして、そこから見出される課題について最低限の考察した上で、自身の研究課題の設定と研究方法を定めることができる。
	不可	自身の研究課題の設定と研究方法を定めることができない。
到達目標 2	秀	卒業研究の目的を深く理解して、極めて主体的に研究に取り組めるようになる。
	優	卒業研究の目的を理解して、主体的に研究に取り組めるようになる。
	良	卒業研究の目的をある程度理解して、一定程度の主体的をもって研究に取り組めるようになる。
	可	卒業研究の目的を最低限のレベルで理解して、研究に取り組めるようになる。
	不可	研究に取り組むことができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	60	0	0	0	40	100
到達目標 1	0	40	0	0	0	20	60
到達目標 2	0	20	0	0	0	20	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
提出物	設定した研究テーマや定めた研究方法の内容・提出資料等を総合的に評価する。
その他	研究への取り組み姿勢や、ゼミにおける発表や議論等への寄与状況などを総合的に評価する。

履修に必要な知識・技能など
本講座が設定されている目的から、ゼミに参加する際は受け身ではなく主体的であることが求められる。

教科書・ISBN
各ゼミにおいて適宜紹介する。

参考書
各ゼミにおいて適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
卒業研究Ⅱ（E34260）	演習	1	30	3	後期	必修	—	大森雅人
科目担当者	大森雅人、光成研一郎、多田琴子、牛頭哲宏、橋本好市、中田尚美、山下敦子、中西利恵、瀬川和子、藤本由佳利、松尾寛子、脇本聡美、近藤みづき、笹井隆邦、大城亜水、京極重智、柳原利佳子、戸川晃子							

授業の概要	卒業研究１～Ⅳは、研究的態度をもって二年間自身が関心をもつテーマに取り組み、主体的に自身の専門性と資質を高め、またさまざまな課題に対応する力を育成することをねらいとする。原則として、Ⅰ～Ⅳを通じて同じ指導教員の指導を受けることとする。 その中で、卒業研究Ⅱでは、指導教員の専門性に基づいて、ゼミ形式での学びを重ねながら、Ⅰで設定した研究課題とその研究方法により研究を行い、成果を論文にまとめて提出する。なお、この段階での研究は、4 年生で履修する卒業研究Ⅲ～Ⅳで取り組む研究の基礎となるものであり、提出する論文は 1600 字程度とする。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（レ）課題解決型学習（外部協定　有　・　(無)　） （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	・大森：保育・教育の方法を探究する ・中田：「保育メソッド」の研究 ・牛頭：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（1） ・橋本：社会福祉をさらに深く学びたい君へ！ ～社会福祉専門職としての知識・資質向上にむけて～ ・光成：保育・教育方法について考える ・中西：絵本の魅力～絵本の可能性・活用法など～ ・笹井：自然環境調査 ・山下：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（2） ・松尾：障がいのある子どもの保育について ・脇本：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（3） ・柳原：人間発達の理解と探究 ・近藤：運動指導・援助について考える ・戸川：音楽教育方法についての研究 ・大城：学びも遊びも「全力」でやる！ ・京極：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（4）	【事前】・各指導教員と相談し、各自必要な事前学習をゼミの前に行うこと。 ・参考文献などの資料について、ゼミ発表前に図書館やインターネット等で積極的に収集するこ と。 （600 分） 【事後】・ゼミ中で指摘された事項や各自が必要と感じた事項について、必要な事後学習をゼミの後に行うこと。 ・参考文献などの資料について、ゼミ後に図書館やインターネット等で積極的に収集すること。 （300 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	資料や他者の意見を参考にしながら、自身が定めた研究課題と研究方法で研究を進められるようになる。
到達目標 2	卒業研究の目的を深く理解して、主体的に研究に取り組めるようになる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	資料や他者の意見を極めて慎重に参考にしながら、自身が定めた研究課題と研究方法で研究を極めて高いレベルで進められるようになる。
	優	資料や他者の意見を慎重に参考にしながら、自身が定めた研究課題と研究方法で研究を高いレベルで進められるようになる。
	良	資料や他者の意見を参考にしながら、自身が定めた研究課題と研究方法で研究を進められるようになる。
	可	資料や他者の意見を最低限の範囲で参考にしながら、自身が定めた研究課題と研究方法で研究を何とか進められるようになる。
	不可	研究を進めることができない。
到達目標 2	秀	卒業研究の目的を深く理解して、極めて主体的に研究に取り組めるようになる。
	優	卒業研究の目的を理解して、主体的に研究に取り組めるようになる。
	良	卒業研究の目的をある程度理解して、一定程度の主体的をもって研究に取り組めるようになる。
	可	卒業研究の目的を最低限のレベルで理解して、研究に取り組めるようになる。
	不可	研究に取り組むことができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	60	0	0	0	40	100
到達目標 1	0	40	0	0	0	20	60
到達目標 2	0	20	0	0	0	20	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
提出物	設定した研究テーマに関する論文、資料等の研究成果を総合的に評価する。
その他	研究への取り組み姿勢や、ゼミにおける発表や議論等への寄与状況などを総合的に評価する。

履修に必要な知識・技能など
本講座が設定されている目的から、ゼミに参加する際は受け身ではなく主体的であることが求められる。

教科書・ISBN
各ゼミにおいて適宜紹介する。

参考書
各ゼミにおいて適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
子育て支援（E33220）	演習	1	30	4	前期	選択	ー	渡邊恵梨佳
科目担当者	渡邊恵梨佳							

授業の概要	子育て支援や保育相談の基本となる保育者と保護者が互いに関係を作るための技術、及び知識について学びを深める。理論的な援助技術をもとに、実践的なコミュニケーションのあり方等を身に付ける。また、子育て支援の近年の状況や課題も踏まえながら、専門家が行なう相談との共通点と相違点を知ると共に、専門機関との連携・協働について理解を深める。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習（外部協定　有　・　無　） （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーションと保育と保護者への支援	【事前】近年の保育と保護者が抱える悩みについて調べる（120 分） 【事後】子育て支援の意義についてまとめ、保育者の役割を知る（120 分）
第 2 回	保育の専門性と子育て支援	【事前】保育現場で行っている子育て支援の取り組みについて調べる（120 分） 【事後】保育者に求められる子育て支援について考える（120 分）
第 3 回	子育て支援における保育者の倫理と展開過程	【事前】子育て支援を行うにあたってどのような倫理を意識するべきか考える（120 分） 【事後】子育て支援の展開について様々なケースをイメージしてまとめる（120 分）
第 4 回	子どもの最善の利益と子育て支援	【事前】子どもの最善の利益を考慮した支援とはどのようなことか考える（120 分） 【事後】子ども目線で考える子育て支援についてまとめる（120 分）
第 5 回	保護者との信頼関係の構築	【事前】子育て支援に必要な信頼関係について考える（120 分） 【事後】子育て支援を行う上で保護者と共に子育てをする意義についてまとめる（120 分）
第 6 回	保護者の養育力向上	【事前】子育てに悩む保護者の背景をイメージして考える（120 分） 【事後】保護者が養育力を向上させるためにできる保育者の姿は何かまとめる（120 分）
第 7 回	地域資源の活用と関係機関との連携・協同	【事前】子育て支援に関する地域の期間や制度等を調べる（120 分） 【事後】地域資源の活用をするために必要なつながりや引継ぎについてまとめる（120 分）
第 8 回	子育て支援における計画や記録等について	【事前】子育て支援を行う上で必要な計画についてどのようなことがあげられるか調べる（120 分） 【事後】計画や記録の作成をする意義や、目的についてまとめる（120 分）

第 9 回	保育所や幼稚園等の特性を生かした子育て支援	【事前】実際に各園が取り組んでいる子育て支援について近年の状況や傾向を調べる（120 分） 【事後】園の特性を生かす子育て支援とはなにかまとめる（120 分）
第 10 回	特別な支援を必要とする子どもをもつ家庭への子育て支援	【事前】特別な配慮を必要とする子どもについて調べて理解を深める（120 分） 【事後】特別な配慮を必要とする子どもについて園側ができることについてまとめる（120 分）
第 11 回	課題のある保護者や家庭に対する子育て支援	【事前】様々な背景をイメージして保護者や家庭環境について調べる（120 分） 【事後】様々な家庭を支えるために必要な保育者の資質についてまとめる（120 分）
第 12 回	保育所や幼稚園等における子育て支援の現状	【事前】近年の子育て支援の傾向等を調べる（120 分） 【事後】授業内容についてまとめて確認する（120 分）
第 13 回	社会的養護施設における子育て支援	【事前】社会的養護施設で受ける子育て支援の相談が多い内容について調べる（120 分） 【事後】社会的養護施設において子育て支援をする際の留意点についてまとめる（120 分）
第 14 回	児童発達支援センター等における子育て支援	【事前】障害や発達に関する子育て支援の悩みについて調べる（120 分） 【事後】具体的にどのような子育て支援に関するアドバイスが必要かまとめる（120 分）
第 15 回	母子生活支援施設等における子育て支援	【事前】母子で施設入所している家庭にどのような子育て支援を行うことが考えられるか調べる（120 分） 【事後】地域に戻っていくことを考えた施設内での子育て支援の在り方について考えをまとめる（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	子育て支援の意義や基礎知識について学び理解できる。
到達目標 2	子育て支援を行う上で、保護者とコミュニケーションをとるための基礎能力を養うことができる。
到達目標 3	地域資源の活用や関係機関との連携や協働の意義を理解し、子どもと家庭を包括的にとらえる視点をもって子育て支援をすることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	子育て支援の意義や基礎知識について十分なレベルで知識を身につけている。なおかつ、得た知識は将来を見据えて柔軟に活用できる。
	優	子育て支援の意義や基礎知識について十分なレベルで知識を身につけている。なおかつ、得た知識を活用できる。
	良	子育て支援の意義や基礎知識について十分なレベルで知識を身につけている。
	可	子育て支援の意義や基礎知識について基本的な知識を身につけている。
	不可	子育て支援の意義や基礎知識について基本的な知識を知識を身につけていない。
到達目標 2	秀	保護者とコミュニケーションをとるための基礎能力を十分なレベルで身につけている。なおかつ、得た知識や技術は保護者や子どもたちに活用できる。
	優	保護者とコミュニケーションをとるための基礎能力を十分なレベルで知識を身につけている。なおかつ、得た知識や技術を自身の中で活用できる。
	良	保護者とコミュニケーションをとるための基礎能力を十分なレベルで知識や技術を身につけている。
	可	保護者とコミュニケーションをとるための基礎能力について基本的な知識や技術を身につけている。
	不可	保護者とコミュニケーションをとるための基礎能力について基本的な知識を知識を身につけていない。

到達目標３	秀	地域資源の活用や関係機関との連携や協働について十分多面的に理解、検討し、その内容を統合することができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	地域資源の活用や関係機関との連携や協働について十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	地域資源の活用や関係機関との連携や協働について一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合することができる。
	可	地域資源の活用や関係機関との連携や協働について基本的な知識を身につけている。また、ある一面について考えることができる。
	不可	地域資源の活用や関係機関との連携や協働について基本的な知識を知識を身につけていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	70	30	0	0	0	0	100
到達目標１	30	10	0	0	0	0	40
到達目標２	20	10	0	0	0	0	30
到達目標３	20	10	0	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	筆記試験において、授業で扱った内容に沿って出題し専門的な知識や思考力を習得できたかどうかを評価する。
提出物	授業内で課す小レポートの提出状況と、レポート内容を含め主体的に真摯に取り組んでいたかどうかを総合的に評価する。

履修に必要な知識・技能など
保育者を目指すものとして、実習や就職先で出会う子どもや保護者、それぞれの家庭を想定して意欲的に授業に参加してほしい。また、子育て支援の現状や課題、実習先などで取り組まれている子育て支援について関心をもち、日頃から様々な情報にアンテナを張って過ごし授業に臨むこと。 ※状況によっては、manaba を活用した授業を行う可能性もある。

教科書・ISBN
9784860154905　『演習・保育と子育て支援』学ぶ・わかる・みえる　シリーズ 保育と現代社会 小原 敏郎・橋本 好市・三浦 主博 編　　株式会社みらい

参考書
なし。適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
生徒・進路指導論（E33240）	講義	2	30	4	前期	選択	小教免必修	田中達也
科目担当者	田中達也							

授業の概要	生徒指導とは、児童生徒個々の人格を尊重し個性を伸ばしつつ、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全般を通して行われる教育活動である。また進路指導とは、生徒自ら将来の進路の選択や計画をし、その後の生活によりよく適応し進歩していく能力の伸長のための支援である。この授業においては、校内における教職員間の協働および外部関係機関との連携の中で組織的に生徒・進路指導を遂行していくために必要な知識や技法を身につけていくことになる。 本授業は、生徒・進路指導のための知識や技法の習得にとどまるものではない。そもそもこれは何のためなのか。その「意味」とは何なのか。教員を目指す者が、単なる知識や技法を超えて、それらに疑問を持ち続け、悩み続ける哲学的素養を身につけていく端緒を開くことを、この授業を通して試みていく。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	「はじめに」 授業に関するオリエンテーション	【事前】受講への意志を強く持つ（120 分） 【事後】内容と感想を 150 字程度にまとめる（120 分）
第 2 回	「生徒指導とは」 生徒指導の歴史と課題	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 3 回	「生徒指導の内容」 生徒指導の職務の内容と領域	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 4 回	「生徒指導の体制と組織」 学校内における生徒指導の位置付け	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 5 回	「学級経営・学年経営・危機管理」 担任の役割、保護者・地域との連携	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 6 回	「児童生徒 － 教師関係」 近年の児童生徒と教員との関係性	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 7 回	「集団活動の意味と意義」 集団活動の意義と集団への指導	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 8 回	「不登校・いじめ問題」不登校・いじめ問題への生徒指導的アプローチ、関係機関との連携	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 9 回	「非行・虐待問題」非行・虐待事例への生徒指導的アプローチ 、関係機関との連携	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）

第 10 回	「今日的問題 (1)」 インターネット /SNS 上のトラブル、性非行等について	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 11 回	「今日的問題 (2)」 LGBT/SOGI と生徒指導のあり方	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 12 回	「特別支援教育」特別支援教育における生徒指導の現状	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 13 回	「進路指導と生徒指導」児童生徒の人生そのものを考えた進路指導ないし生徒指導と教師の責任	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 14 回	「児童生徒の人生と関わる」 生徒指導ないし進路指導の哲学的背景と根源的意義	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）
第 15 回	「まとめ」 授業内容の総括および質疑応答等	【事前】配布物等の熟読（120 分） 【事後】内容と感想を 150 ～ 200 字程度にまとめる（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	自らの専門領域についての知識・技術論を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
到達目標 2	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
到達目標 3	他者の立場を理解し、その人の価値観を十分認識した上で、相手が感じているであろうことを様々に思い巡らせながら共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。相手から話題を奪ってしまうことはない。また、共感しているつもりになるリスクを常に意識している。
到達目標 4	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
到達目標 5	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、その実績が社会に還元される場合もある。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	自らの専門領域についての知識・技術論を両方とも十分なレベルで身につけている。なおかつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	自らの専門領域についての知識・技術論を両方とも十分なレベルで身につけていて、プロフェッショナリズムも伴っている。
	良	自らの専門領域についての知識・技術論を身につけていて、少なくとも一方については十分なレベルに達している。
	可	自らの専門領域についての知識・技術論を身につけている。
	不可	自らの専門領域についての知識・技術論を身につけていない。
到達目標 2	秀	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。なおかつ、部分の総和は決して全体ではないことも認識している。
	優	物事を十分多面的に検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	良	物事の一面のみならず、いくつかの側面から検討し、その内容を統合し結論づけることができる。
	可	物事のある一面について考えることができ、なおかつそれは一面に過ぎずいまだ検討すべき余地が残されていることはある程度わかっている。
	不可	物事のある一面について考えることはできるが、それで事足りたと思ってしまう。一面について考えたに過ぎないということに気づいていない。

到達目標３	秀	他者の立場に身を置いてその人の価値観を十分理解した上で、相手が感じているであろうことを様々に思い巡らせながら共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。相手から話題を奪ってしまうことはない。また、共感しているつもりになるリスクを常に意識している。
	優	他者の立場に身を置いてその人の価値観を理解した上で共感的に話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	良	他者の立場に身を置いて話を聴くことができる。そしてその相手にわかりやすい言葉で会話することができる。
	可	他者に大きな関心はないが、会話のキャッチボールはできる。
	不可	他者と会話のキャッチボールをすることができない。
到達目標４	秀	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。しかも老若男女問わずあらゆる人にとってとても理解しやすい。
	優	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれにおいても十分な能力を持っている。
	良	自分の内面を他者に伝えることができる。その際、書き言葉、話し言葉、非言語的表現等のいずれかにおいて十分な能力を持っている。
	可	自分の内面を他者に何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の内面を他者に伝えることができない。
到達目標５	秀	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、その実績が社会に還元される場合もある。
	優	自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。それにより周囲も協調・協働作業のモチベーションが上がる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	協調･協働への興味は薄いが、他者に促されれば、周囲のモチベーションを下げることなく、協調･協働的に作業することはできる。
	不可	協調・協働する意志がなく、周囲のモチベーションを下げてしまう。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	80	16	0	0	0	4	100
到達目標１	20	4	0	0	0	0	24
到達目標２	20	4	0	0	0	0	24
到達目標３	20	4	0	0	0	0	24
到達目標４	20	4	0	0	0	0	24
到達目標５	0	0	0	0	0	4	4

※評価項目で示す評価割合は､授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	論述筆記試験を期末に実施。ある具体的な事例等をこちらから設定する。それについて授業内容を踏まえた上で、心理学的な解釈や対人援助職として望ましい対応のあり方等を、小論文形式で回答する。試験についてのルーブリックは別途提示する。ノート・プリント持ち込み可。80 点。
提出物	毎回授業後に、その日理解したことや自ら感じたこと等を文章で記述し提出する。16 点。
その他	グループワーク等への参加度を受講者同士でピア評価する。4 点。

履修に必要な知識・技能など
1）社会情勢に興味を持ち続ける。 2）一般常識的な知識の量を増やそうとし続ける。

教科書・ISBN
使用しない。

参考書
参考書：随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
子どもと健康 （E33500）	講義	2	30	4	前期	選択	幼教免必修	中西利恵
科目担当者	中西利恵							

授業の概要	領域「健康」について、今までの学びと幼稚園教育要領のねらい及び内容を踏まえながら、より幅広く、より深く内容を理解する。 領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達など専門的事項についての知識を確実に身につける。 1～3年次に体験した各種実習、特に3年次の幼稚園教育実習での学び（記録等）から、保育現場や子どもの実態に基づいた視点、及び、子どもの姿や場面を想定した体験的な学びによる理解を深化させる。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（レ）その他（模擬保育）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	乳幼児期の健康課題 ～乳幼児期の健康の意義、乳幼児を取り巻く生活環境と健康～	【事前】シラバス内容の確認（120 分） 【事後】指示した課題の検討（120 分）
第 2 回	乳幼児期の心とからだの発達の特徴と保育環境（1） ～運動機能の発達～	【事前】指示した内容の情報収集（120 分） 【事後】復習と指示した課題の検討（120 分）
第 3 回	乳幼児期の心とからだの発達の特徴と保育環境（2） ～ことばの発達～	【事前】指示した内容の情報収集（120 分） 【事後】指示した課題の検討（120 分）
第 4 回	乳幼児期の心とからだの発達の特徴と保育環境（3） ～情緒の発達～	【事前】指示した内容の情報収集（120 分） 【事後】指示した課題の検討（120 分）
第 5 回	乳幼児期の心とからだの発達の特徴と保育環境（4） ～社会性の発達～	【事前】指示した内容の情報収集（120 分） 【事後】復習と指示した課題の検討（120 分）
第 6 回	乳幼児期の健康で基本的な生活習慣の理解（1）	【事前】指示した内容の確認（120 分） 【事後】指示した課題の検討（120 分）
第 7 回	乳幼児期の健康で基本的な生活習慣の理解（2） ～主体的形成とその指導～	【事前】指示した内容の確認（120 分） 【事後】指示した課題の検討（120 分）
第 8 回	安全教育・安全管理の理解（1） ～乳幼児の安全能力（安全管理意識）とその指導～	【事前】指定した内容の確認（120 分） 【事後】指定した課題の検討（120 分）
第 9 回	安全教育・安全管理の理解（2） ～乳幼児のけがや病気の予防の特徴とその予防～	【事前】指定した内容の確認（120 分） 【事後】指定した課題の検討（120 分）
第 10 回	安全教育・安全管理の理解（3） ～ハザードマップ作成～	【事前】指示した内容の確認（120 分） 【事後】指示した課題の検討（120 分）
第 11 回	日常生活における運動	【事前】指示した内容の確認（120 分） 【事後】指示した課題の検討（120 分）
第 12 回	遊びとしての運動（1） ～子どもにとって遊びとして行う運動のあり方～	【事前】指定した内容の確認（120 分） 【事後】指定した課題の検討（120 分）
第 13 回	遊びとしての運動（2） ～園における身体を使った遊び指導計画作成～	【事前】指定した内容の確認（120 分） 【事後】指定した課題の検討（120 分）
第 14 回	遊びとしての運動（3） ～園における身体を使った遊び指導計画作成・発表①～	【事前】指定した内容の確認（120 分） 【事後】指定した課題の検討（120 分）

第 15 回	遊びとしての運動（4） ～園における身体を使った遊び指導計画作成・発表②～	【事前】指定した内容の確認（120 分） 【事後】総合的な授業内容のふり返り（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	乳幼児の心と体、運動発達などの健康課題、及び乳幼児の発達的特徴を説明できる。
到達目標 2	乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。
到達目標 3	幼児の安全教育・健康管理に関する基本的考え方を理解し、幼児期の怪我の特徴や病気の予防について理解する。
到達目標 4	幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解し、幼児の動きの経験やその配慮など身体活動のあり方を説明できる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	乳幼児の心と体、運動発達などの健康課題、及び乳幼児の発達的特徴を十分説明できる。
	優	乳幼児の心と体、運動発達などの健康課題、及び乳幼児の発達的特徴をほぼ説明できる。
	良	乳幼児の心と体、運動発達などの健康課題、及び乳幼児の発達的特徴をある程度説明できる。
	可	乳幼児の心と体、運動発達などの健康課題、及び乳幼児の発達的特徴を最低限説明できる。
	不可	乳幼児の心と体、運動発達などの健康課題、及び乳幼児の発達的特徴を説明できない。
到達目標 2	秀	乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を十分説明できる。
	優	乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義をほぼ説明できる。
	良	乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義をある程度説明できる。
	可	乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を最低限説明できる。
	不可	乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できない。
到達目標 3	秀	幼児の安全教育・健康管理に関する基本的考え方を理解し、幼児期の怪我の特徴や病気の予防について十分理解している。
	優	幼児の安全教育・健康管理に関する基本的考え方を理解し、幼児期の怪我の特徴や病気の予防についてほぼ理解している。
	良	幼児の安全教育・健康管理に関する基本的考え方を理解し、幼児期の怪我の特徴や病気の予防についてある程度理解している。
	可	幼児の安全教育・健康管理に関する基本的考え方を理解し、幼児期の怪我の特徴や病気の予防について最低限理解している。
	不可	幼児の安全教育・健康管理に関する基本的考え方を理解し、幼児期の怪我の特徴や病気の予防について理解していない。
到達目標 4	秀	幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解し、幼児の動きの経験やその配慮など身体活動のあり方を十分説明できる。
	優	幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解し、幼児の動きの経験やその配慮など身体活動のあり方をほぼ説明できる。
	良	幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解し、幼児の動きの経験やその配慮など身体活動のあり方をある程度説明できる。
	可	幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解し、幼児の動きの経験やその配慮など身体活動のあり方を最低限説明できる。
	不可	幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解し、幼児の動きの経験やその配慮など身体活動のあり方を説明できない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	20	50	30	0	0	0	100
到達目標 1	20	10	10	0	0	0	40
到達目標 2	0	10	10	0	0	0	20
到達目標 3	0	10	10	0	0	0	20
到達目標 4	0	20	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	15 回の授業を受講した後に、授業の成果の確認としてレポート試験を実施する。
提出物	授業内で指示した提出物について評価する。
成果発表（口頭・実技）	実践やグループワークに臨み、課題に対する情報収集力（教材研究する力）、協調・協働して取り組む姿勢、及び発表・実践する力について評価する。

履修に必要な知識・技能など
1）子どもの心身の健康を担う自覚と学習により保育の専門性の向上につなげること。 2）指示した課題に対する情報収集に積極的に取り組むこと。 3）3 年間の学びをふり返り（他科目ポートフォリオ等）や実習日誌等、貴重な学びの記録を丁寧かつ有効に活用し、学びの自覚化を深化すること。

教科書・ISBN
9784577814475　『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館 9784577814482　『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館 9784577814499　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館

参考書
必要に応じ、資料の配布や参考文献の紹介を行う。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
子どもと人間関係（E33510）	講義	2	30	4	後期	選択	幼教免必修	中田尚美
科目担当者	中田尚美							

授業の概要	現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	現代社会と幼児の人間関係 1	【事前】テキストを読んでおく（120 分） 【事後】学修内容の確認（120 分）
第 2 回	現代社会と幼児の人間関係 2	【事前】家庭・地域での経験と幼児教育に期待されるものについて自分なりの考えをまとめる（120 分） 【事後】学修内容の確認（120 分）
第 3 回	3 歳未満児における人間関係の発達	【事前】保育指針の該当箇所に目を通しておく（120 分） 【事後】学修内容の確認（120 分）
第 4 回	3 歳未満児における人間関係の発達 2 身近な大人との関係を基盤として育つ子ども	【事前】保育指針解説書を読んでおく（120 分） 【事後】学修内容の確認（120 分）
第 5 回	幼児期の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ち	【事前】幼稚園教育要領の該当箇所を読んでおく（120 分） 【事後】学修内容の確認（120 分）
第 6 回	幼児期の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ち 2 ー集団の育ちを視点としてー	【事前】実習やボランティアで出会った子どもとのエピソードをまとめる（120 分） 【事後】学修内容の確認（120 分）
第 7 回	乳児期の自立心の育ち	【事前】イヤイヤ期について調べまとめる（120 分） 【事後】学修内容の確認（120 分）
第 8 回	幼児期の自立心の育ち	【事前】3 ～ 5 歳児の自立心の育ちについて調べる（120 分） 【事後】学修内容の確認（120 分）
第 9 回	幼児期の協同性の育ち 1	【事前】実習やボランティアでのエピソードをまとめる（120 分） 【事後】学修内容の確認（120 分）
第 10 回	幼児期の協同性の育ち 2	【事前】年長児における協同性の育ちについて調べる（120 分） 【事後】学修内容の確認（120 分）
第 11 回	幼児期の道徳性・規範意識の芽生え	【事前】幼児の道徳性・規範意識の芽生えについて調べる（120 分） 【事後】学修内容の確認（120 分）
第 12 回	幼児期の道徳性・規範意識の育ち	【事前】幼児期の道徳性・規範意識の育ちについて調べる（120 分） 【事後】学修内容の確認（120 分）

第 13 回	乳幼児期の人間関係の広がり	【事前】家庭と地域、園生活とのつながりについて調べる（120 分） 【事後】学修内容の確認（120 分）
第 14 回	幼児期に育みたい資質能力と人間関係	【事前】幼児期に育みたい資質能力についてまとめる（120 分） 【事後】学修内容の確認（120 分）
第 15 回	幼児期の人間関係と学童期以降の育ちのつながり	【事前】幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と幼小連携について調べる（120 分） 【事後】学修内容の確認（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する
到達目標 2	幼児期の人間関係の発達について、幼稚園や保育所における関係発達論的観点から理解する

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	幼児を取り巻く人間関係の特徴とその社会的背景を十分に理解し、人と関わる力の育ちがその後の人生を支える力となることを他者にわかりやすく説明することができる
	優	幼児を取り巻く人間関係の特徴とその社会的背景を十分に理解し、人と関わる力の育ちがその後の人生を支える力となることを他者に説明することができる
	良	幼児を取り巻く人間関係の特徴とその社会的背景を理解し、人と関わる力の育ちがその後の人生を支える力となることを説明することができる
	可	幼児を取り巻く人間関係の特徴とその社会的背景及び人と関わる力の育ちがその後の人生を支える力となることをある程度、理解している
	不可	幼児を取り巻く人間関係の特徴とその社会的背景及び人と関わる力の育ちがその後の人生を支える力となることを理解できていない
到達目標 2	秀	幼児期の人間関係の発達について、大人との関係から非常にわかりやすく説明することができる。かつ、自立心、協同性、道徳性、規範意識の芽生えについて発達の姿と合わせて他者に非常にわかりやすく説明することができる
	優	幼児期の人間関係の発達について、大人との関係から説明することができる。かつ、自立心、協同性、道徳性、規範意識の芽生えについて発達の姿と合わせて他者にわかりやすく説明することができる
	良	幼児期の人間関係の発達について、大人との関係から説明したり、自立心、協同性、道徳性、規範意識の芽生えについて発達の姿と合わせて他者に説明することができる
	可	幼児期の人間関係の発達について、大人との関係から説明したり、自立心、協同性、道徳性、規範意識の芽生えについて発達の姿と合わせて説明することがある程度できる
	不可	幼児期の人間関係の発達について、大人との関係から説明したり、自立心、協同性、道徳性、規範意識の芽生えについて発達の姿と合わせて説明することができない

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	40	0	0	0	0	100
到達目標 1	40	20	0	0	0	0	60
到達目標 2	20	20	0	0	0	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	授業終了後レポート試験を実施する
提出物	授業時に意見、質問票の提出を求める

履修に必要な知識・技能など
提出物の期日を厳守する

教科書・ISBN
9784577814475　幼稚園教育要領解説

参考書
適宜配布する

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
子どもと環境（E33520）	演習	2	30	4	前期	選択	保育士必修 幼教免選択必修	大森雅人
科目担当者	大森雅人							

授業の概要	本授業は、領域「環境」のねらいの達成に必要となる感性を養うとともに、領域「環境」の保育実践に求められる知識や技能を身に付けることを目的としている。特に領域「環境」の保育実践の基盤となる、現代の子どもを取り巻く環境の特性とその現代的課題、子どもと身近な環境との関わりの発達等について学ぶ。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	子どもを取り巻く環境の特性	【事前】シラバスを見て授業の概要を把握しておく、その上で、保育内容（環境）で学んだ子どもを取り巻く環境とは何かを見直しておく。(120 分) 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。(120 分)
第 2 回	子どもを取り巻く環境の現代的課題	【事前】子どもを取り巻く環境の現代的課題に関して、Web 等を活用して子どもを取り巻く最近の環境を調べておく。(120 分) 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。(120 分)
第 3 回	子どもが環境と関わる際に配慮すべきこと（1） 危険生物についての概論	【事前】日本に生息する危険生物について、Web 等を活用して予習しておく。(120 分) 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。(120 分)
第 4 回	子どもが環境と関わる際に配慮すべきこと（2） 危険生物についての各論	【事前】前回の授業で知った危険生物に関して、個別に Web 等を活用して予習しておく。(120 分) 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。(120 分)
第 5 回	子どもが環境と関わる過程（好奇心と探究心について）	【事前】保育内容（環境）で学んだ「好奇心と探究心」について復習しておく。(120 分) 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。(120 分)
第 6 回	子どもとものの関わりの理解（1） 実体験	【事前】保育内容（環境）で学んだ「子どもとものの関わり」の特性について復習しておく。(120 分) 【事後】授業内容を振り返り、体験した内容を manaba を通じて提出する。(120 分)
第 7 回	子どもとものの関わりの理解（2） 実体験の振り返り	【事前】前回の体験を振り返って、体験時に思ったことや考えたことを整理しておく。(120 分) 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。(120 分)

第 8 回	子どもと自然との関わりの理解（1） 実体験	【事前】保育内容（環境）で学んだ「子どもと自然の関わり」の特性について復習しておく。（120 分） 【事後】授業内容を振り返り、体験した内容を manaba を通じて提出する。（120 分）
第 9 回	子どもと自然との関わりの理解（2） 実体験の振り返り	【事前】前回の体験を振り返って、体験時に思ったことや考えたことを整理しておく。（120 分） 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。（120 分）
第 10 回	子どもが環境と関わる過程（プロセス）の理解	【事前】幼稚園教育要領解説書の「第 2 章ねらい及び内容 第 3 節環境の構成と保育の展開 2 保育の展開」の部分を熟読して理解しておくこと。（120 分） 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。（120 分）
第 11 回	子どもが「環境と関わり理解する活動」を理解する	【事前】幼稚園教育要領解説書の「第 2 章ねらい及び内容 第 2 節 各領域に示す事項 3 身近な環境との関わりに関する領域「環境」」の、ねらいに関しての解説された部分を熟読して理解しておくこと。（120 分） 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。（120 分）
第 12 回	子どもが環境と関わり理解する活動の創造	【事前】幼稚園教育要領解説書等を参照して、文中に見られる事例の中で、子どもと環境の関わりに関して記述された部分を見つけて確認しておくこと。（120 分） 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。（120 分）
第 13 回	子どもと数量・図形・標識・文字との関わりの理解	【事前】保育内容（環境）で学んだ「子どもと数量・図形・標識・文字との関わり」の特性について復習しておく。（120 分） 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。（120 分）
第 14 回	子どもと情報・施設との関わりの理解	【事前】保育内容（環境）で学んだ「子どもと情報・施設との関わり」の特性について復習しておく。（120 分） 【事後】授業内容を振り返り、その成果を manaba を通じて提出する。（120 分）
第 15 回	まとめと振り返り（学習した内容を可視化する）	【事前】これまでの学習内容について、配付資料や自分が提出した manaba 上の回答等を参照して、これまでの学びを概観しておくこと。（120 分） 【事後】これまでの配付資料等も参考にして、全授業の内容を振り返る。（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	子どもを取り巻く環境について、特性とその現代的課題、及び発達の視点から見た子どもとの関わりを理解している。
到達目標 2	子どもの思考・科学的概念の発達に関して、特に子どもと子どもを取り巻く環境との関わりの過程（プロセス）を中心に理解している。
到達目標 3	子どもと数量・図形・標識・文字、及び情報・施設について、発達の視点から見た子どもとの関わりを理解している。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	子どもを取り巻く環境について、特性とその現代的課題、及び発達の視点から見た子どもとの関わりを、極めて高いレベルで理解している。
	優	子どもを取り巻く環境について、特性とその現代的課題、及び発達の視点から見た子どもとの関わりを、高いレベルで理解している。
	良	子どもを取り巻く環境について、特性とその現代的課題、及び発達の視点から見た子どもとの関わりを、一定程度のレベルで理解している。
	可	子どもを取り巻く環境について、特性とその現代的課題、及び発達の視点から見た子どもとの関わりを、最低限のレベルで理解している。
	不可	子どもを取り巻く環境について、特性とその現代的課題、及び発達の視点から見た子どもとの関わりに関して、十分に理解できていない。
到達目標２	秀	子どもの思考・科学的概念の発達に関して、特に子どもと子どもを取り巻く環境との関わりの過程を中心に、極めて高いレベルで理解している。
	優	子どもの思考・科学的概念の発達に関して、特に子どもと子どもを取り巻く環境との関わりの過程を中心に、高いレベルで理解している。
	良	子どもの思考・科学的概念の発達に関して、特に子どもと子どもを取り巻く環境との関わりの過程を中心に、一定程度のレベルで理解している。
	可	子どもの思考・科学的概念の発達に関して、特に子どもと子どもを取り巻く環境との関わりの過程を中心に、最低限のレベルで理解している。
	不可	子どもの思考・科学的概念の発達に関して、特に子どもと子どもを取り巻く環境との関わりの過程などに対する理解が十分ではない。
到達目標３	秀	子どもと数量・図形・標識・文字、及び情報・施設について、発達の視点から見た子どもとの関わりを、極めて高いレベルで理解している。
	優	子どもと数量・図形・標識・文字、及び情報・施設について、発達の視点から見た子どもとの関わりを、高いレベルで理解している。
	良	子どもと数量・図形・標識・文字、及び情報・施設について、発達の視点から見た子どもとの関わりを、一定程度のレベルで理解している。
	可	子どもと数量・図形・標識・文字、及び情報・施設について、発達の視点から見た子どもとの関わりを、最低限のレベルで理解している。
	不可	子どもと数量・図形・標識・文字、及び情報・施設について、発達の視点から見た子どもとの関わりに関して、十分なレベルで理解できていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	45	30	0	0	0	25	100
到達目標１	15	10	0	0	0	5	30
到達目標２	15	10	0	0	0	20	45
到達目標３	15	10	0	0	0	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	15 回の授業後に、レポート課題を課す。 レポートの記述にあたっては、授業の内容を十分に理解した上で、課題に取り組むことが求められる。
提出物	ほぼ毎回、授業の最後に振り返りの小レポートを manaba を通じて提出する。時には、「相互閲覧」形式で提出して、相互にコメントを付ける形式で実施する。
その他	この授業では、「体験」を伴う授業がある。その際は、受講者が協働して取り組みながら、深く考えることで、授業の効果を向上させることが求められる。そうした視点から、「体験」後の振り返りの際の共同学習における貢献度や取組の状況を評価する。

履修に必要な知識・技能など

教科書・ISBN

参考書
『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説書』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育実習指導Ⅱ（E33830）	演習	1	30	4	前期	選択	保育士選択	松尾寛子
科目担当者	松尾寛子							

授業の概要	保育実習Ⅰや保育実習指導Ⅰを踏まえ、自らの体験を多面的に検討し、保育実習Ⅱに対する課題を明確にする。実践する保育内容について指導計画を立案し、実際に保育者に代わって実践できるように具体的な保育方法等を学ぶ。実習生の視点だけではなく保育者として身につけておくべき知識や技術などを習得し、それを実践の場で生かすことができるようにする。保育者の視点に立って考えることができるように、資質・能力・技術ともに身につけることができるようにする。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	保育実習Ⅱの意義と目的の理解、子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解	【事前】シラバスの内容を確認して、次回の授業の予習をしておく（60 分） 【事後】実習の内容の確認（60 分）
第 2 回	教務ガイダンス－手続き・日誌提出書類等の配布	【事前】実習先に提出する書類の確認（60 分） 【事後】実習先に提出する書類の記入（60 分）
第 3 回	実習目標の設定と実習事前レポート①目標設定	【事前】実習の目標を考える（60 分） 【事後】実習の目標を具体化するための方法を探る（60 分）
第 4 回	実習目標の設定と実習事前レポート作成②レポート作成	【事前】実習の目標を具体的に書く（60 分） 【事後】実習の目標を具体化するための方法を探る（60 分）
第 5 回	実習オリエンテーションについて	【事前】実習先の情報を得る（60 分） 【事後】実習先から聞いたことを振り返る（60 分）
第 6 回	実習オリエンテーション報告書作成	【事前】実習中の諸注意をまとめる（60 分） 【事後】実習中の諸注意を報告書に書く（60 分）
第 7 回	保育の実践力の育成①子どものあそびについて	【事前】保育現場での子どもの遊びを考える（60 分） 【事後】保育現場での子どもの遊びを振り返る（60 分）
第 8 回	保育の実践力の育成②知識・技術を生かした保育の展開	【事前】保育現場での保育の展開を考える（60 分） 【事後】保育現場での保育の展開を振り返る（60 分）
第 9 回	保育の全体的な計画に基づく具体的な計画と実践	【事前】保育現場で活用できる計画とは何かを考える（60 分） 【事後】保育現場で活用できる実践とは何かを考える（60 分）
第 10 回	保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善	【事前】保育現場での保育者の関わりを考える（60 分） 【事後】保育現場での保育者の関わりを振り返る（60 分）
第 11 回	実習直前指導①実習の心得の確認、実習課題の確認	【事前】実習の心得等を再確認しておく（60 分） 【事後】実習を遂行するために必要な心得を考える（60 分）

第 12 回	実習直前指導②保育士の専門性と職業倫理	【事前】実習時の課題を見つける（60 分） 【事後】実習時の課題を具体化するための方法を練る（60 分）
第 13 回	事後の振り返りと事後レポート作成	【事前】実習を振り返る（60 分） 【事後】実習を振り返りレポートを作成する（60 分）
第 14 回	実習の総括と自己評価	【事前】保育者の仕事を振り返る（60 分） 【事後】保育者の専門性とは何かを振り返る（60 分）
第 15 回	課題の明確化	【事前】実習を通して学んだことを振り返る（60 分） 【事後】実習を通して学んだことを振り返る（60 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。
到達目標 2	実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。
到達目標 3	保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
到達目標 4	保育士の専門性と職業倫理について理解する。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解を深め、保育者としての視点を持ち、必要な知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	優	保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解を深め、保育者としての視点には欠けるところはあるが、学生として十分な知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	良	保育者としての視点にはほど遠いが、保育実習の意義と目的を理解し、学生として知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	可	保育実習の意義と目的を理解し、学生として最低限の知識や技術を身につけようとしている。
	不可	保育実習の意義と目的を理解せず、保育者や学生として最低限の知識や技術を身につけようとしていない。
到達目標 2	秀	実習や既習の各科目の内容やその関連性を踏まえ、自らの思考や感情や行動を客観的に検証し、保育者として知識や技術を身につけようとする
	優	実習や既習の各科目の内容やその関連性を踏まえ、自らの思考や感情や行動を客観視し、さらなる知識や技術が必要であると感じ行動しようとする姿勢がある。
	良	実習や既習の各科目の内容やその関連性を踏まえ、実習で既習の各科目の内容やその関連性を踏まえ、自らの思考や感情や行動を客観視し、学生として求められるレベルで反省し行動しようとする姿勢がある。
	可	自らの思考や感情や行動について、他者からの指摘で客観視することができ、行動しようとする。
	不可	自らの思考や感情や行動について、他者からの指摘を受けても客観視できず、行動を改められない。
到達目標 3	秀	保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解し、自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働し、課題をこなすことができる。協同して取り組んだ作品も質の高いものが完成し、周囲にも良い影響を与えることができる。
	優	保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解し、自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。
	良	保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、周囲の高いモチベーションに影響を受け、周囲と協調・協働しようとする姿勢がある。
	可	保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、時々周囲と協同・協調することはできるが、ほぼ主体的な取り組みは見られない。
	不可	保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、周囲と協同・協調することはできず、与えられた課題にも取り組もうとしない。

到達目標４	秀	保育士の専門性と職業倫理について深く理解できている。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にできている。
	優	保育士の専門性と職業倫理について深く理解している。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を見つけることができる。
	良	保育士の専門性と職業倫理について深く理解しようとしている。実習の事後指導を通して、自己評価を行い、保育に対する課題を知ろうとする。
	可	他者の助言・指導をもとに、与えられた課題を一定レベルにおいて実行することができる。
	不可	与えられた場面において何をしていいのかわからない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	30	10	0	0	60	100
到達目標１	0	10	0	0	0	10	20
到達目標２	0	10	10	0	0	10	30
到達目標３	0	10	0	0	0	10	20
到達目標４	0	0	0	0	0	30	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
提出物	保育実習Ⅱ必携書類等の作成および提出（期限厳守）状況
成果発表（口頭・実技）	保育実習Ⅱに求められる課題等を表現する能力に基づく
その他	保育実習Ⅱに必要な課題遂行能力および自己管理能力に基づく

履修に必要な知識・技能など
欠席する場合は欠席連絡をすること。無断欠席・無断遅刻は認めない。欠席回のプリント等を自己責任のもと確保したうえで、授業の補充を行うこととする。修得済みの保育実習指導Ⅰでの内容や、保育実習指導Ⅱ内での指導事項を守り、授業内で与えられた課題などに対して、誠実・積極的に取り組むこと。初回授業にて授業の詳細を伝える。

教科書・ISBN
保育所実習指導Ⅰと同様

参考書
随時紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育実習Ⅱ （E33840）	実習	2	80	4	前期	選択	保育士選択	松尾寛子
科目担当者	松尾寛子							

授業の概要	保育実習Ⅰにおける保育所や認定こども園での実習をもとにして、保育所や認定こども園での保育についてさらに実際に体験し、保育者として必要な資質・能力・技術を習得することを目的とする。また家庭と地域の生活実態にふれて、子どもの家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力や保育者の専門性について実際に保育者から学ぶ。子どもとのかかわりだけではなく、保護者とのかかわり、障害のある子どもへの支援の方法とその学び職員間の連携、行事など、保育所や認定こども園で働く保育者の職務についてより具体的に学ぶ。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習（外部協定　有　・　無　） （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	第 1 回～第 15 回 実習内容は、以下の通りであり、かつ実習園の指示に従う。 1. 保育所の役割や機能の具体的展開 (1) 養護と教育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育の理解 (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の援助や関わり (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育 (2) 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保 護者等に対する子育て支援 (3) 関係機関や地域社会との連携・協働 4. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 (1) 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化	【事前】第 1 回～第 10 回 事前オリエンテーションに必要な情報を集め、事前オリエンテーションに臨む。保育実習Ⅰで学んだことに加え、保育者として 子どもの発達に応じた教材等を考え、事前に準備しておく。また、事前の学習として、既習の科目の内容を振り返っておく。(500 分) 【事後】第 11 回～第 15 回 実習の後、実習記録を実習準備室に提出したり面談や実習を振り返る機会を持つ。子どもたちや保育者からの学びを今後の学習 だけではなく、保育者になってから行かすことができるように実習での経験をまとめておく。(100 分)

学修の到達目標	
到達目標 1	保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解する。
到達目標 2	子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育を理解する。
到達目標 3	既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。
到達目標 4	保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解する。
到達目標 5	保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 保育者になるための自己の課題を明確化する。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	保育所の役割りや機能について十分な理解をし、その園が独自に持つ取り組みなども含めて理解し、保育の具体的な実践への理解も深い。
	優	保育所の役割りや機能について理解をし、その園が独自に持つ取り組みなども含めて理解し、保育の具体的な実践への理解を示す。
	良	一般的な保育所の役割りや機能について理解をし、保育の具体的な実践への理解を示す。
	可	一般的な保育所の役割りや機能について理解をし、保育の理解を示す。
	不可	一般的な保育所の役割りや機能について理解が浅く、保育への理解も示していない。
到達目標２	秀	保育者が見る子どもの観察や関わりの視点をもちながら、子どもへの保育が大人によって大きな影響を与えることを理解しながら行動することができる。
	優	保育者が見る子どもの観察や関わりの視点をもちながら、子どもへの保育が大人によって大きな影響を与えることを理解しながら行動することができる。
	良	実習生としての視点をもちながら、子どもへ関わり、保育が大人によって大きな影響を与えることを知りながら行動することができる。
	可	実習生としての視点をもちながら、子どもへ関わり、保育が大人によって大きな影響を与えることはあまり理解できていないが行動することができる。
	不可	子どもへの関わりをもつが、保育が大人によって大きな影響を与えることはあまり理解できずにいる。
到達目標３	秀	保育者としての視点を持ち、保育現場からも必要な知識や技術を得ようとする姿勢があり態度として身に付き、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解することができる。
	優	実習生として保育現場からも必要な知識や技術を得ようとする姿勢があり、子どもの保育及び子育て支援について理解することができる。
	良	実習生が必要とする知識や技術を得ようとし、子どもの保育及び子育て支援について理解する姿勢がある。
	可	実習生が必要とする知識や技術をもとに、子どもの保育及び子育て支援について知ろうとする。
	不可	実習生が必要とする知識や技術をもとに、子どもの保育について知ろうとする。
到達目標４	秀	保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、学内実習指導や保育者の指導を十分に理解した上で、子どもたちの実態に応じた保育として実際に取り組むことができる。
	優	保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、学内実習指導や保育者の指導をもとに保育に取り組むことができる。
	良	保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、指導に基づいていないが書くことができ、保育に取り組むことができる。
	可	保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、促されて書くことができ、保育に取り組むことができる。
	不可	保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、促されても指導通りに書くことができず、子どもの実態にそぐわない保育を行う。
到達目標５	秀	保育士の業務内容や職業倫理について、保育者の視点を持って具体的な実践に結びつけて理解することができる。 保育者となってからの自己の課題が明確になり自ら行動することができる。
	優	保育士の業務内容や職業倫理について、学生の視点で具体的な実践に結びつけて理解することができる。 実習生としての自己の課題が明確になり自ら行動することができる。
	良	保育士の業務内容や職業倫理について、学生の視点理解することができる。 実習生としての自己の課題が明確になっている。
	可	保育士の業務内容や職業倫理について、保育者等から指摘されて理解することができる。 実習生としての自己の課題がわかっている。
	不可	実習生としての自己の課題がわかっているが、保育士の業務内容や職業倫理についての理解が深まっていない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	0	0	0	50	50	100
到達目標１	0	0	0	0	10	10	20
到達目標２	0	0	0	0	10	10	20
到達目標３	0	0	0	0	10	10	20
到達目標４	0	0	0	0	10	10	20
到達目標５	0	0	0	0	10	10	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
ポートフォリオ	実習の意図を理解し、保育者としての実力をつけることができているかを、実習先からの評価と自己評価を併せて評価する。
その他	実習記録による実習の取り組み方を評価する。

履修に必要な知識・技能など
保育実習指導Ⅰ・保育実習指導Ⅱ授業内にて指導した事項を遵守し、真摯な態度で実習に臨むこと。保育士倫理綱領に基づいた行動を求める

教科書・ISBN
保育実習指導Ⅰ・保育実習指導Ⅱと同様

参考書
随時紹介する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育実習指導Ⅲ（E33850）	演習	1	30	4	前期	選択	保育士選択	橋本好市
科目担当者	橋本好市、大城亜水							

授業の概要	保育実習Ⅲでは、社会的養護施設での実習に取り組む。 社会福祉施設の対象・種別は多様であり、各種施設によって成立過程や背景、あるいは支援方法等も異なる。本講座では、社会的養護施設（児童養護施設・乳児院）での実習に臨むために、当該施設の理念・社会的存在意義・支援の基本を学び、実習生が希望する施設への準備に課する指導を行う。 まず、既習の保育実習指導Ⅰ・保育実習Ⅰを踏まえ、保育実習Ⅲとの異なりと課題を明確化し、社会的養護の支援特性について理解し、それに伴う自己評価等を行う。 保育実習Ⅰとは異なる施設で実習するため、新たな専門的知識を復習するとともに、実践事例を通した支援方法等を確認する。 実習事後指導では、これまでの実習総括を行い、将来の専門職者としての課題認識を行うとともに、施設保育士としての自身の姿を具現化していく。
アクティブ・ラーニングの要素	（　）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（レ）その他（実習関係書類・課題作成）
教員の実務経験	社会福祉法人等における役員、保育園・施設でのアドヴァイザーや顧問、保育士キャリアアップ研修講師、保育行政審議会委員等を歴任している。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	保育実習指導Ⅲ～社会的養護施設実習の意義について～（担当者：橋本・大城）	【事前】シラバス及び社会的養護施設の内容を確認・復習しておく（30 分） 【事後】実習の意義を整理しておく（30 分）
第 2 回	社会的養護施設実習先配当について （担当者：橋本・大城）	【事前】社会的養護施設の類型を整理しておく（30 分） 【事後】実習希望先について下調べし、希望先を明確化しておく（30 分）
第 3 回	社会的養護施設配当先調整及び実習先必要書類確認（担当者：橋本）	【事前】実習配当施設希望の目的を明確化しておく（30 分） 【事後】実習配当施設の詳細（事前学習）を確認しておく（30 分）
第 4 回	社会的養護施設の類型・役割と意義　（担当者：橋本）	【事前】実習先の専門職について調べる（30 分） 【事後】専門職として働くための必要事項を整理しておく（30 分）
第 5 回	社会的養護施設の実際と業務　（担当者：橋本）	【事前】施設現場の一日の流れを確認しておく（30 分） 【事後】施設現場の専門職の職務内容について整理しておく（30 分）
第 6 回	入所児童（乳児）の理解　（担当者：橋本）	【事前】施設の対象把握をしておく（30 分） 【事後】社会的養護施設の支援目的を整理しておく（30 分）
第 7 回	社会的養護施設における支援のあり方　（担当者：橋本）	【事前】ソーシャルワークについて復習しておく（30 分） 【事後】社会的養護施設での支援形態・方法・内容を整理しておく（30 分）

第 8 回	社会的養護施設実習配当先事前学習シート作成 （担当者：大城）	【事前】実習配当施設の関係資料・情報を準備しておく（30 分） 【事後】実習配当施設について重要事項を整理しておく（30 分）
第 9 回	社会的養護施設実習で活用できる個人票作成 （担当者：大城）	【事前】自己覚知し、実習に役立つ自己紹介を考えておく（30 分） 【事後】現場で使える自己紹介を文章化しておく（30 分）
第 10 回	社会的養護施設実習計画書について指導・作成 （担当者：橋本・大城）	【事前】実習の心得等を再確認しておく（30 分） 【事後】実習の目標を具体化しておく（30 分）
第 11 回	社会的養護施設における実習日誌の書き方 （担当者：橋本・大城）	【事前】実習日誌の項目･内容を確認しておく（30 分） 【事後】実習日誌の執筆練習としてテーマを決めて例を下書きする（30 分）
第 12 回	社会的養護施設への臨地実習にあたっての最終確認及び指導 ～実習に臨んで～ （担当者：大城）	【事前】自身の実習目標・意義・心得等を整理しておく（30 分） 【事後】実習に臨むにあたり必要準備物の整理をしておく（30 分）
第 13 回	社会的養護施設実習事後指導～振り返りと課題～ （担当者：大城）	【事前】実習を振り返り､課題を整理しておく（30 分） 【事後】実習課題を今後に活かすためにすべきことを検討・整理する（30 分）
第 14 回	保育実習Ⅲを終えるにあたり ㄱ～施設保育士としてのキャリアモデル～ （担当者：橋本・大城）	【事前】将来の就職先との関連性について整理しておく（30 分） 【事後】全ての実習について自己評価し、専門職としての課題を見出しておく（30 分）
第 15 回	保育実習Ⅲを終えるにあたり～関係書類の完成と提出について～ （担当者：大城）	【事前】課題を踏まえ、施設保育士としての自己像を構築しておく（30 分） 【事後】専門職としての自覚を確立し来るべき将来へ備えるための心得を書き出す（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	社会的養護施設（児童養護施設・乳児院）での実習を滞りなく終えることができるように、社会的養護施設の現状と役割等の詳細についての理解した上で、当該実習を通して入所児童への基礎的な支援能力を発揮できるように、学習と準備を滞りなく行い実習に臨む姿勢を確立できる。
到達目標 2	これまでの実習や既習の教科目の内容と関連性を踏まえ、保育の実践力を活用し、保育士としての意義・役割・専門性・倫理を総合的に理解できる。
到達目標 3	支援計画・記録及び自己評価等を踏まえた支援の改善について、実践を通して習得できる。
到達目標 4	実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、将来の施設保育士としての課題認識を行うとともに、自身の専門職像を具現化していく。
到達目標 5	有している知識、状況から得られる情報を統合する力を習得し、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使し、短時間で正確な課題の遂行能力を身につけ、次の新たな創造的作業に移ることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	実習を通して、社会的養護施設の現状と役割等の詳細についての理解し、入所児童への基礎的な支援能力を発揮できるめに専門職としての姿勢を確立できている。
	優	実習を通して、社会的養護施設の現状と役割等の詳細についての理解し、入所児童への基礎的な支援能力を確立できている。
	良	実習を通して、社会的養護施設の現状と役割等の詳細について理解できた。
	可	実習を通して、社会的養護施設の現状と役割等について理解できた。
	不可	実習を通して、社会的養護施設の現状と役割等について理解できていない。

到達目標２	秀	実習や既習の教科目の内容と関連性を踏まえ、保育士としての意義・役割・専門性・倫理を総合的に理解できている。
	優	実習や既習の教科目の内容と関連性を踏まえ、保育士としての意義・役割・専門性・倫理について、応用的理解ができている。
	良	実習や既習の教科目の内容と関連性を踏まえ、保育士としての意義・役割・専門性・倫理について、基礎的理解ができている。
	可	実習や既習の教科目の内容と関連性を踏まえ、保育士としての意義・役割・専門性・倫理について、不十分ながらも理解するよう努力している。
	不可	実習や既習の教科目の内容と関連性を踏まえ、保育士としての意義・役割・専門性・倫理について理解できていない、かつ、努力しようとしない。
到達目標３	秀	支援計画・記録及び自己評価等を踏まえた支援の重要性について、実践を通して習得できている。
	優	支援計画・記録及び自己評価等を踏まえた支援について、実践を通して把握できている。
	良	支援計画･記録及び自己評価等を踏まえた支援について、実践を通して充分に把握できていないが、努力する姿勢を維持している。
	可	支援計画・記録及び自己評価等を踏まえた支援について、実践を通して充分に把握できていない。
	不可	支援計画・記録及び自己評価等を踏まえた支援について、理解できていない。かつ、把握するための意識が低い。
到達目標４	秀	実習の総括と自己評価を行い、将来の施設保育士としての課題を認識し、自身の専門職像を具現化できている。
	優	実習の総括と自己評価を行い、将来の施設保育士としての課題を認識し、自身の専門職像を具現化するよう努めている。
	良	実習の総括と自己評価を行い、将来の施設保育士としての課題を認識している。
	可	実習の総括と自己評価を行い、将来の施設保育士としての課題を明確化するよう努めている。
	不可	実習の総括と自己評価を行い、将来の施設保育士としての課題を明確化しようとしない。
到達目標５	秀	既に有している知識、状況から得られる情報を統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使し、短時間で正確な課題の遂行ができる。その実行を踏まえた次の新たな創造的作業に移ることができる。
	優	既に有している知識、状況から得られる情報を統合する力、直観、決断力等をバランス良く駆使し、自力で充分適切な課題の遂行ができる。
	良	既に有している知識、状況から得られる情報を統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切な課題の遂行ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、与えられた課題を一定レベルにおいて実行することができる。
	不可	与えられた場面において何をしていいのかわからない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	40	40	20	0	0	100
到達目標１	0	0	20	0	0	0	20
到達目標２	0	0	20	0	0	0	20
到達目標３	0	20	0	0	0	0	20
到達目標４	0	0	0	20	0	0	20
到達目標５	0	20	0	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は､授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
提出物	保育実習Ⅲ必要書類等の作成及び提出（期限遵守）状況に基づく
成果発表（口頭・実技）	保育実習Ⅲに求められる課題等を表現する能力に基づく
作品	保育実習Ⅲに活用できる課題等を創作する能力に基づく

履修に必要な知識・技能など
①外部機関との関連で取り組む作業が多いことから、指導事項と期限を守り、授業内で与えられた課題などに対して、誠実・積極的に取り組むこと。 ②保育実習Ⅰを踏まえて、保育実践力を向上させるために、専門的知識及び修得済みの専門的スキルの成果を発表する場を設ける。 ③正当な理由の無い遅刻・欠席は認めない（全回出席を旨とする）。 ④当該科目は定期試験を実施しないため、追・再試験も実施できない。したがって、本講座不合格者は再履修となる。 ⑤実習に向けての態度・意欲や社会的常識など、実社会で必要とされる言動を求める。それらが著しく欠けると判断される場合は、当該学科臨地実習委員会の審議において実習「不可」と判断される場合がある。 ⑥社会的なマナーについても習得しておく。

教科書・ISBN
9784623075874　『本当に知りたいことがわかる！保育所・施設実習ハンドブック』（保育実習指導Ⅰにて購入済み書籍）

参考書
・『図解で学ぶ社会的養護Ⅰ』『図解で学ぶ社会的養護Ⅱ』原田旬哉・杉山宗尚 編 萌文書林 ・『図解で学ぶ保育　社会福祉』直島正樹・原田旬哉 編 萌文書林 ・『図解で学ぶ保育　子ども家庭福祉』直島正樹・原田旬哉 編 萌文書林 ・『保育実践に求められる子ども家庭支援』橋本好市・直島正樹 編 ミネルヴァ書房 ・『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』橋本好市・直島正樹・堀智晴 編 ミネルヴァ書房 ・その他、その都度、資料配布及び参考図書を指示する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育実習Ⅲ（E33860）	実習	2	80	4	前期	選択	保育士選択	橋本好市
科目担当者	橋本好市							

授業の概要	社会福祉施設の対象・種別は多様であり、各種施設によって成立過程や背景、あるいは支援方法等も多岐に渡る。 本講座では、保育実習Ⅰの学びを基礎に、社会的養護施設（児童養護施設･乳児院）に実習に臨地し、その役割と機能に対する理解を深め、保護者・家庭支援への知識と技術を習得し、保育実習Ⅲにふさわしい保育士として職種の汎用性と専門性について学ぶ。 さらに、保育士の職業倫理と固有性についても理解し、高度な実戦力の習得し、施設保育士としての理想型を目指す。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	社会福祉法人理事・評議員・顧問等、社会福祉施設の運営管理等を歴任。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	厚生労働省「保育実習基準」に基づく所定の要件（実習内容･規定日数及び時間等）を踏まえた実習に臨む。 保育実習Ⅲは、社会的養護施設の役割・機能・入所児童・生活環境・支援のあり方等について理解するために、乳児院・児童養護施設を中心とする児童福祉施設における実習とする。 ・実習期間は、4 年前期 5 月期に、実実習 10 日間（80 時間）以上に取り組む。 ・期間中は施設の実習担当職員の指導のもとで実習を行い、日々の反省と課題を明確化し、実習日誌等必要書類の作成及び提出を行う。 ・実習期間中には、大学教員が巡回に出向き、施設の実習担当職員及び実習生と面会し、必要に応じた指導を行う。 ・実習先からの評価に基づく実習事後指導を行い専門職としての資質向上を図る。 ・本実習の課題を明確化し、施設保育士としての資質向上に繋げる。 ・実習事後指導により、施設保育士としての専門性とキャリアモデルの構築を目指す。 ・専門職として保育士の倫理・役割等を理解し、支援計画、記録、管理運営面等に関する適切な方法を学ぶ。	【事前】・実習当日の課題を整理し、実習日誌にて報告する等をし、施設の実習担当職員からの指導を仰ぐ。 ・実習当日に明確化された課題について整理し、翌日の実習目標へと繋げる。 (500 分) 【事後】・前日実習の課題が、当日の実習目標としてどの程度こなすことができたかを吟味し、自己評価に基づき、施設の実習担当職員・大学教員に指導を仰ぐ。 ・日々の実習における反省点を振り返り、内容､行動等に十分配慮しつつ実習に取り組む。 ・実習終了後は、実習における自身の課題を見出し、施設保育士としての理想型へ繋いでいくことを念頭に方向性を整理していく。 (100 分)

学修の到達目標	
到達目標 1	既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、社会的養護施設、特に乳児院・児童養護施設の現状と役割・専門性・支援力等の習得ができる。
到達目標 2	乳児院・児童養護施設に入所する児童の多様な背景を踏まえた支援の応用的対応力を得る。
到達目標 3	家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉と社会的養護の関連性に基づき、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得できる。
到達目標 4	保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解できる。
到達目標 5	社会的養護施設における実践を通して、実習における自己の課題を理解し、施設保育士としての専門性を構築できる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、社会的養護施設の現状と役割・専門性・支援等について十分に理解できている。
	優	既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、社会的養護施設の現状と役割・専門性・支援等について理解できている。
	良	既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、社会的養護施設の現状と役割・専門性・支援等について理解に努めているる。
	可	既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、社会的養護施設の現状と役割・専門性・支援等についての理解が不十分である。
	不可	既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、社会的養護施設の現状と役割・専門性・支援等についての理解していない。
到達目標２	秀	社会的養護施設に入所する児童の多様な背景を踏まえた支援への応用的な対応力を習得している。
	優	社会的養護施設に入所する児童の多様な背景を踏まえた支援への基礎的な対応力が身についている。
	良	社会的養護施設に入所する児童の多様な背景を踏まえた支援への基礎的な理解をしている。
	可	社会的養護施設に入所する児童の多様な背景を踏まえた支援への理解に努めている。
	不可	社会的養護施設に入所する児童の多様な背景を踏まえた支援への理解をしようとしない。
到達目標３	秀	家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉と社会的養護の関連性に基づき、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得できている。
	優	家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉と社会的養護の関連性に基づき、保護者支援、家庭支援のための知識を習得できている。
	良	家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉と社会的養護の関連性に基づき、保護者支援、家庭支援が重要であることは認識できている。
	可	家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉と社会的養護の関連性に基づき、保護者支援、家庭支援が重要であることの認識が不十分である。
	不可	家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉と社会的養護の関連性に基づき、保護者支援、家庭支援が重要であることを認識していない。
到達目標４	秀	保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解でき、職責を果たすために、自ら高いモチベーションを持って自発的に周囲と協調・協働することができる。
	優	保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解でき、職責を果たすために、自ら高いモチベーションを維持できている。
	良	保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解できている。
	可	保育士の業務内容や職業倫理について基礎的な理解はできている。
	不可	保育士の業務内容や職業倫理について基礎的な理解もできていない。
到達目標５	秀	施設保育士として、社会的養護実践における自己の課題を理解し、その専門性を構築できている。
	優	施設保育士として、社会的養護実践における自己の課題を理解し、その専門性について理解できている。
	良	施設保育士として、社会的養護実践における自己の課題の理解に努め、その専門性について理解できつつある。
	可	施設保育士として、社会的養護実践における自己の課題の理解が困難であるものの、その専門性について理解するための努力をしている。
	不可	施設保育士として、社会的養護実践における自己の課題の理解ができず、保育士としての専門性についても理解しようとはしない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	0	0	0	0	100	100
到達目標１	0	0	0	0	0	20	20
到達目標２	0	0	0	0	0	20	20
到達目標３	0	0	0	0	0	20	20
到達目標４	0	0	0	0	0	20	20
到達目標５	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
その他	本実習の性質上、実習先からの評価に基づき学内評価を行う。 そのため、追・再試験を行うことができない。・本実習不合格者は、再履修となる。 実習に関しては様々な手続きがあるため、一つ一つを丁寧に正確に実行できるように準備しておく。

履修に必要な知識・技能など
1）社会的養護施設の現状と役割について理解し、利用者への援助の基礎的な能力を身につける。 2）社会的マナーについて習得をしておく。

教科書・ISBN
使用しない

参考書
実習先からの指定図書・資料等その都度紹介

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教育実習（幼稚園）（E33880）	実習	4	120	3〜4	後期	選択	幼教免必修	多田琴子
科目担当者	多田琴子							

授業の概要	幼児期の教育の実際を体験学習する。教育理論と教育実践の統合を図り、実践力を養うことを目的とする。教育者としての使命感と自覚をもって資質向上を目指し、児童又は幼児の前に立つにふさわしい教師像を把握する。さらに教育の実際から、実践的技術と自己評価力及び教員としての職務全般を身につけることをねらいとする。特に今回の実習の場では、指導案を立案し、教育全般の流れを把握し、教育の内容と方法の総括的な把握と実践を行う。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	教育実習は、教育職員免許法第 6 条に規定されている必須科目である。一定の期間、幼稚園での実地体験を行い、教師として必要な知識、技能、態度、心構えなどを修得するために行う。 実習期間は 3 年後期 10 月の 4 週間を基本とする。 教育現場における教育の実際を観察･体験することにより、教育の意義についての体験的認識と理解を深め、教師としてのあり方を学ぶことを目標にしている。 実習ではあるが、一定期間教師としての職責を担うことから、実習者として主体性を発揮し、意欲的で計画的な学習活動が不可欠となる。単に保育に係る体験だけでなく、広く教師たるに必要なあらゆる分野にわたって経験・体験を積むことが期待される。そのためには、まず深く対象理解を行うことを基盤に環境構成に取り組む必要がある。 なお、教育実習の事前･事後指導については「教育実習指導」にて行う。	【事前】※実習期間中、毎日行う 次時の教材研究・教材製作・指導案作成など（120 分） 【事後】※実習期間中、毎日行う 教材研究や指導案の省察・実習日誌記録等の整理など（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	教育職としての知識・技術を身につけ、自己課題を自覚し、配属学級において課題解決に努力する。
到達目標 2	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し、反省して次につなげる。
到達目標 3	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断する。
到達目標 4	自発的に配属園職員と協調・協働する。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	教育職としての知識・技術を十分なレベルで身につけていると共に、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムを持ち合わせている。
	優	教育職としての知識・技術を十分なレベルで身につけ、プロフェッショナリズムを伴っている。
	良	教育職としての知識・技術を身につけ、自己課題を自覚し、配属学級において課題解決に努力できる。
	可	教育職としての知識・技術を、配属学級に於いて身につけようと努力できる。
	不可	教育職としての知識・技術を身につけようとしない。
到達目標２	秀	常に自分の判断を過信することなく、適切に疑問を持ち、その思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、教職員として求められる望ましい思考・感情・行動へとつなげ続けることができる。
	優	自発的に自然な流れの中で自らの思考・感情・行動について客観視し、反省して教職員として求められる思考・感情・行動へとつなげることができる。
	良	ある程度自発的に自らの思考・感情・行動について客観視し､反省して次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について俯瞰することができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について俯瞰することができない。
到達目標３	秀	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。また、その判断を踏まえた次の新たな創造的作業を実行する。
	優	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等をバランス良く駆使して、自力で十分適切に状況判断ができる。
	良	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断ができる。
	可	他者の助言・指導をもとに、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能である。
	不可	適切な状況判断ができない。
到達目標４	秀	高い自己意識を持って自発的に協調・協働することができる。それにより配属園職員の教育職業務へのモチベーションが上がる。結果としてかなり有意義な実践が可能となり、教育対象学級のやる気を高め協調・協働作業の質が上がる。
	優	自己意識を持って自発的に協調・協働することができる。それが教育対象学級のやる気を高め協調・協働作業の質が上がる。
	良	自発的に配属園職員と協調・協働することができる。
	可	協調・協働への興味は薄いが、配属園教職員に促されれば、周囲のやる気を下げることなく、協調・協働的に作業することはできる。
	不可	協調・協働する意志がなく、周囲のやる気を下げてしまう。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	50	0	0	0	50	100
到達目標１	0	20	0	0	0	10	30
到達目標２	0	20	0	0	0	10	30
到達目標３	0	10	0	0	0	10	20
到達目標４	0	0	0	0	0	20	20

※評価項目で示す評価割合は､授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
提出物	実習日誌の記述内容で評価する。
その他	実習先評価から評価する。

履修に必要な知識・技能など
1）実習園の情報を収集し、教育理念や保育指導法の理解を深めておく。 2）事前に実習園から配布された指導計画や楽譜などを基に事前準備を行う。 3）配属学級が決まった時点で、研究保育についての事前準備を行う。 4）実習最終日に行うお別れ会のプログラムや作品作りについても計画に準備する。 5）実習期間は、実習園の教職員に準じ、綱紀粛正につとめ、職務規程や教職員としての倫理観をもつ。 6）実習園の教育方針に沿い、「実習させていただく」という謙虚で真摯な気持ちと態度で臨む。 7）教育業務に直接つながらない仕事や役割でも積極的に取り組む姿勢をもつ。 8）原則として遅刻・欠席は認めない。

教科書・ISBN
特になし。

参考書
必要に応じて紹介する。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
介護等体験（E33900）	実習	1	30	4	通年	選択	小教免必修	山下敦子
科目担当者	山下敦子							

授業の概要	障害者・児や高齢者等への介護・交流を通して、個人の尊厳および社会連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質･能力を高めることが目標である。特別支援学校（2 日間）と社会福祉施設（5 日間）で体験を行うとともに、多様な人たちとの関わり方などについて知識や技能を身につける。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（　）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	小学校教員、指導主事の経験をもつ科目担当者が、教育現場における必要な知識・技能、教育実践の振り返りの方法などを指導する。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	事前指導⑴ 介護等体験から身につける教員の資質・能力	【事前】シラバス内容の確認（30 分） 【事後】学修のまとめ（30 分）
第 2 回	事前指導⑵ 特別支援学校を巡る環境と支援・援助	【事前】特別支援学校について情報収集（30 分） 【事後】学修のまとめ（30 分）
第 3 回	事前指導⑶ 社会福祉施設をめぐる環境と支援・援助	【事前】社会福祉施設について情報収集（30 分） 【事後】学修のまとめ（30 分）
第 4 回	特別支援学校（2 日間）、社会福祉施設（5 日間）における実習（各受け入れ施設が実施するオリエンテーションを含む）	【事前】実習の準備と実習目標の設定（30 分） 【事後】実習日誌、報告書の作成と振り返り（30 分）
第 5 回	特別支援学校（2 日間）、社会福祉施設（5 日間）における実習（各受け入れ施設が実施するオリエンテーションを含む）	【事前】実習の準備と実習目標の設定（30 分） 【事後】実習日誌、報告書の作成と振り返り（30 分）
第 6 回	特別支援学校（2 日間）、社会福祉施設（5 日間）における実習（各受け入れ施設が実施するオリエンテーションを含む）	【事前】実習の準備と実習目標の設定（30 分） 【事後】実習日誌、報告書の作成と振り返り（30 分）
第 7 回	特別支援学校（2 日間）、社会福祉施設（5 日間）における実習（各受け入れ施設が実施するオリエンテーションを含む）	【事前】実習の準備と実習目標の設定（30 分） 【事後】実習日誌、報告書の作成と振り返り（30 分）
第 8 回	特別支援学校（2 日間）、社会福祉施設（5 日間）における実習（各受け入れ施設が実施するオリエンテーションを含む）	【事前】実習の準備と実習目標の設定（30 分） 【事後】実習日誌、報告書の作成と振り返り（30 分）
第 9 回	特別支援学校（2 日間）、社会福祉施設（5 日間）における実習（各受け入れ施設が実施するオリエンテーションを含む）	【事前】実習の準備と実習目標の設定（30 分） 【事後】実習日誌、報告書の作成と振り返り（30 分）
第 10 回	特別支援学校（2 日間）、社会福祉施設（5 日間）における実習（各受け入れ施設が実施するオリエンテーションを含む）	【事前】実習の準備と実習目標の設定（30 分） 【事後】実習日誌、報告書の作成と振り返り（30 分）
第 11 回	特別支援学校（2 日間）、社会福祉施設（5 日間）における実習（各受け入れ施設が実施するオリエンテーションを含む）	【事前】実習の準備と実習目標の設定（30 分） 【事後】実習日誌、報告書の作成と振り返り（30 分）
第 12 回	特別支援学校（2 日間）、社会福祉施設（5 日間）における実習（各受け入れ施設が実施するオリエンテーションを含む）	【事前】実習の準備と実習目標の設定（30 分） 【事後】実習日誌、報告書の作成と振り返り（30 分）
第 13 回	特別支援学校（2 日間）、社会福祉施設（5 日間）における実習（各受け入れ施設が実施するオリエンテーションを含む）	【事前】実習の準備と実習目標の設定（30 分） 【事後】実習日誌、報告書の作成と振り返り（30 分）
第 14 回	事後指導⑴ グループ別の振り返りとディスカッション	【事前】実習のまとめ（30 分） 【事後】実習に関するレポートの作成（30 分）
第 15 回	事後指導⑵ グループ発表とまとめ	【事前】発表の準備（30 分） 【事後】教員としての目標設定と実践（30 分）

学修の到達目標	
到達目標１	介護等体験の意義について理解し、体験目標を設定することができる。
到達目標２	体験先の教職員が担っている役割を理解することができる。
到達目標３	体験先で関わる多様な人たちに対して、その心理や行動を理解した関わりをすることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	教育者の資質について、自己の適性を的確に把握し、自らの思考・感情・行動を日頃から客観的に検証し、具体的な改善策を持ち、さらなる望ましい思考・感情・行動へ繋げることができる。
	優	教育者の資質について、自己の適性をある程度まで把握し、自己の課題について反省し改善することができる。
	良	教育者の資質について、自己の適性をある程度まで把握し、自己の課題について反省し、次に繋げることができる。
	可	教育者の資質について、他者からの助言を元に自己の適性を俯瞰することができる。
	不可	教育者の資質について、自らの適性を俯瞰することができない。
到達目標２	秀	既習の知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使し、教育実践を行うことができる。また、失敗に対して修正能力が高く、創意工夫ができる。
	優	既習の知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、決断力等を駆使し、教育実践を行うことができる。また、失敗に対して修正能力が高く、創意工夫ができる。
	良	既習の知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、決断力等のうちいくつかを機能させつつ、教育実践を行うことができる。
	可	他者の指導・助言を受けながらその場に応じた教育実践を行うことができる。
	不可	教育実践を行うことができない。
到達目標３	秀	他者の立場になってその人の価値観を十分理解し、共感的なコミュニケーションを自らとることができる。
	優	他者の立場になってその人の価値観を理解し、共感的なコミュニケーションをとることができる。
	良	他者の立場になって、コミュニケーションをとることができる。
	可	コミュニケーションをとることができる。
	不可	コミュニケーションを取ることが困難である。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	55	30	0	15	0	100
到達目標１	0	5	10	0	5	0	20
到達目標２	0	25	10	0	5	0	40
到達目標３	0	25	10	0	5	0	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	実施しない
提出物	実習終了後にレポートを課す。実習での学びや今後、教職に就く上で自己の課題や目標を整理すること。
成果発表（口頭・実技）	事前指導や事後指導において、テーマを設定しディスカッションや発表を行う。
ポートフォリオ	実習日誌や報告書をまとめ、学んだことや疑問点、自己の課題等を明らかにする。

履修に必要な知識・技能など
1）教職に就く者として責任感を十分に持って実習、講義に臨むこと。 2）遅刻、無断欠席のある者については、実習への参加を認めない。 3）実習においても社会人、教育者としての自覚をもち、真摯な態度で参加すること。

教科書・ISBN
9784469268768　『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック』現代教師養成研究会（編）五訂版 大修館書店

参考書
『介護等体験ガイドブック新フィリア』全国特別支援学校長会（編）ジアース教育新社、ISBN 978-4863715226

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
インターンシップB（E33910）	実習	2	60	4	通年	選択	幼教免必修 小教免必修	牛頭哲宏
科目担当者	牛頭哲宏、多田琴子、橋本好市、山下敦子、松尾寛子、大城亜水							

授業の概要	インターンシップBは、これまでの実習体験を生かし、教師や保育士として職務を把握し、さらなる実践力の向上を目指すものである。将来、幼稚園・小学校教諭や保育士、施設職員に携わるものとして、幼稚園、保育所、小学校、施設等において指導者として教育活動を体験する。そして、幼稚園・小学校教諭や保育士、施設職員としての資質や能力をさらに向上させ、自己研鑽に励む。さらに、今後、進むべき自分の進路を見据え、指導者としての指導技術はもとより、任務と使命のさらなる自覚を高める。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（　）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	インターンシップBのねらい・意義　（担当者：牛頭）	【事前】目標の確認（30分） 【事後】学修内容の復習（30分）
第 2 回	実習に向けての諸注意　（担当者：各領域の実習担当全員）	【事前】目標の確認（30分） 【事後】学修内容の復習（30分）
第 3 回	実習日誌、出席表について （担当者：各領域の実習担当全員）	【事前】目標の確認（30分） 【事後】学修内容の復習（30分）
第 4 回	第3回の事前学習の後に、インターンシップBとしての実習を行う。 方法：当該年度6月～12月の連続した2週間、または、週1回の実習を幼稚園、保育所、小学校、施設において行う。8時間×10回 内容：保育や学習の補助、配慮を要する園児・児童の補助など実習先学校園、施設の指示に従い活動する。 （担当者：各領域の実習担当全員）	【事前】※実習期間中、毎回行う 次回の実習活動に必要な事前準備（30分） 【事後】※実習期間中、毎回行う 活動の振り返りと改善点の整理（30分）
第 5 回	インターンシップB終了後の振り返り・実習校園への礼状 （担当者：各領域の実習担当全員）	【事前】活動の振り返り、レポート作成（30分） 【事後】活動の振り返りと、将来のキャリア改善に向けた目標設定（30分）

学修の到達目標	
到達目標 1	幼稚園・小学校教諭、保育士、施設職員にふさわしい資質と能力をより一層高める。
到達目標 2	保育技術や指導技術の実践的指導力を身につける。
到達目標 3	指導者の一員として、他の指導者との協調的、協力的指導を体得する。
到達目標 4	教師、保育士などの指導者としての任務や使命を体得する。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	教員・保育士・施設職員に必要となる基礎的な知識・技能を身につけており、実践の場で主体的に活用できている。
	優	教員・保育士・施設職員に必要となる基礎的な知識・技能を身につけており、実践の場で活用できている。
	良	教員・保育士・施設職員に必要となる基礎的な知識・技能を身につけている。
	可	教員・保育士・施設職員に必要となる基礎的な知識・技能をある程度身につけている
	不可	教員・保育士・施設職員に必要となる基礎的な知識・技能を身につけていない。
到達目標２	秀	教員・保育士・施設職員としての職責の遂行について、責任感を持ち、常に的確な判断に基づいて実践することができている。
	優	教員・保育士・施設職員としての職責の遂行について、責任感を持ち、的確な判断に基づいて実践することができている。
	良	教員・保育士・施設職員としての職責の遂行について、責任感を持ち、実践することができている。
	可	教員・保育士・施設職員員としての職責の遂行について、責任感を持ち、ある程度実践することができている。
	不可	教員・保育士・施設職員としての職責の遂行について、実践することができていない。
到達目標３	秀	既有知識、現場での情報、それらを統合する力、決断力等を高いレベルでバランスよく駆使し、教育実践を行うことができる。また、失敗に対して修正能力が高く、創意工夫ができる。
	優	既有知識、現場での情報、それらを統合する力、決断力等を駆使し、教育実践を行うことができる。失敗に対して自力で修正できる。
	良	既有知識、現場での情報、それらを統合する力、決断力等のうちいくつかを機能させつつ、教育実践を行うことができる。
	可	他者の助言・指導を得ながらその場に応じた教育実践を行うことができる。
	不可	教育実践を行うことができない
到達目標４	秀	自ら高い意欲と責任感を持って自発的に周囲と協調・協働することができる。その結果、新しい取り組みや質の高い取り組みを行うことができる。
	優	自ら高い意欲と責任感を持って自発的に周囲と協調・協働することができる。
	良	自発的に周囲と協調・協働することができる。
	可	他者に促されることによって協調・協働することができる。
	不可	協調・協働することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	40	0	0	40	20	100
到達目標１	0	10	0	0	10	0	20
到達目標２	0	10	0	0	10	10	30
到達目標３	0	10	0	0	10	10	30
到達目標４	0	10	0	0	10	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
提出物	事前指導の授業でミニレポートや書類を作成し、提出する。ポートフォリオ実習期間中は毎回「活動報告書」を記入し、それぞれの実習施設に提出する。実習施設の担当より適宜、コメントを記入したものが返却されるので、それをもとに自己の活動について振り返りと改善を行う。最終第 15 回目の授業で振り返り（レポート）を提出し、評価を行う。
ポートフォリオ	実習期間中は毎回「活動報告書」を記入し、それぞれの実習施設に提出する。実習施設の担当より適宜、コメントを記入したものが返却されるので、それをもとに自己の活動について振り返りと改善を行う。最終第 15 回目の授業で振り返り（レポート）を提出し、評価を行う。
その他	活動場所への大学教員の巡回指導、受け入れ機関からの聞き取りなどを行い、実際の活動の様子について評価する。

履修に必要な知識・技能など
1）履修者は、事前・事後指導を必ず受講すること。原則として遅刻・欠席は認めない 2）次年度には教育・保育・福祉現場に就くという最終の実習であることを自覚し、積極的に活動する。

教科書・ISBN
使用しない

参考書
資料などを配付する

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
生き物と自然の力（E34010）	演習	1	30	4	後期	選択必修	—	笹井隆邦
科目担当者	笹井隆邦							

授業の概要	ビオトープは、保育や生活、理科などの授業で活用されているだけでなく、国語、図工など様々な教科学習や環境教育などでも活用されている。そこで、ビオトープ作りやビオトープの維持・管理などの方法について、実際の池を使って理解を深めていく。また、ビオトープの教材化や指導方法などについても研究を進める。さらに、大学内の裏山でフィールド活動をおこない、里山管理や生息する多様な動植物とそれらを支える環境との相互関係の理解を深めていく。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	はじめに　ビオトープの意義（ビオトープとは）	【事前】ビオトープについて調べる（30 分） 【事後】近所のビオトープを見学する（30 分）
第 2 回	学内ビオトープ池の生物調査（メダカの観察・実験）	【事前】メダカについて調べる（30 分） 【事後】観察した生物について調べる（30 分）
第 3 回	学内の裏山の散策・生物観察（ドングリは何種類ある？）	【事前】ドングリについて調べる（30 分） 【事後】観察した生物について調べる（30 分）
第 4 回	学内の池の整備（外来生物等の駆除）	【事前】外来生物について調べる（30 分） 【事後】観察した生物について調べる（30 分）
第 5 回	里山・里海・ビオトープ（里山ってどんなイメージ？）	【事前】里山について調べる（30 分） 【事後】近くの里山を訪れてみよう（30 分）
第 6 回	里山管理Ⅰ　樹木伐採の体験（木を切って活用法を考えてみよう）	【事前】里山管理について調べる（30 分） 【事後】伐採の問題点について調べる（30 分）
第 7 回	里山管理Ⅱ　竹林伐採の体験（竹の活用法を考えてみよう）	【事前】竹について調べる（30 分） 【事後】竹の活用方法を考える（30 分）
第 8 回	ネイチャークラフト	【事前】公園で木の実を探してみよう（30 分） 【事後】振り返り（30 分）
第 9 回	外来生物（日本に昔からいる生きものが絶滅の危機に）	【事前】外来生物について調べる（30 分） 【事後】身の回りの外来生物について調べる（30 分）
第 10 回	種の絶滅と生物多様性（ 絶滅速度は増している）	【事前】絶滅危惧種について調べる（30 分） 【事後】身近に絶滅危惧種はいるだろうか？（30 分）
第 11 回	各自で里山管理やビオトープ管理を計画・テーマを発表	【事前】プレゼンテーションのテーマについて考える（30 分） 【事後】プレゼンテーションのテーマについて調べる（30 分）
第 12 回	各自で里山管理やビオトープ管理を実践Ⅰ	【事前】各自のテーマを実行するための準備（30 分） 【事後】次回の課題を考える（30 分）
第 13 回	各自で里山管理やビオトープ管理を実践Ⅱ	【事前】各自のテーマを実行するための準備（30 分） 【事後】プレゼンテーションの準備（30 分）
第 14 回	実践の結果を発表Ⅰ	【事前】プレゼンテーションの準備（30 分） 【事後】振り返り（30 分）

第 15 回	実践の結果を発表Ⅱ	【事前】プレゼンテーションの準備（30 分） 【事後】振り返り（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	自然環境に興味を持ち、何らかの形で学修を継続し、その成果を発信している。
到達目標 2	自然環境を改善するために何らかの形で継続して行動している。
到達目標 3	パワーポイントを利用して各自のテーマを多くの仲間にわかりやすく伝えることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	自然環境に興味を持ち、何らかの形で学修を継続し、その成果を発信している。
	優	自然環境に興味を持ち、何らかの形で学修を継続している。
	良	自然環境に興味を持ち、何らかの形で学修をしたことがある。
	可	自然環境についての知見のみにとどまっている。
	不可	自然環境についての知見が不十分である。
到達目標 2	秀	自然環境を改善するために何らかの形で継続して行動している。
	優	自然環境を改善するために何らかの形で行動している。
	良	自然環境を改善するために何らかの形で行動したことがある。
	可	自然環境を改善するための知見のみにとどまっている。
	不可	自然環境を改善するための知見、行動が不十分である。
到達目標 3	秀	パワーポイントを利用して各自のテーマを多くの仲間にわかりやすく伝えることができる。
	優	パワーポイントを利用して各自のテーマをわかりやすく伝えることができる。
	良	パワーポイントを利用して各自のテーマを伝えることができる。
	可	パワーポイントを利用して各自のテーマについて発表する。
	不可	パワーポイントを利用して各自のテーマについて発表することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 （口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	40	40	20	0	0	0	100
到達目標 1	30	20	0	0	0	0	50
到達目標 2	10	20	0	0	0	0	30
到達目標 3	0	0	20	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験
提出物	毎回の成果をレポートにまとめ提出
成果発表 （口頭・実技）	プレゼンテーション

履修に必要な知識・技能など
近くの里山やビオトープを散策し里山の現状を実感し、ビオトープづくりのヒントを得る。本やインターネットで知識を得、活用する。

教科書・ISBN
使用しません。

参考書
適宜紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名 （コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
子どもの表現文化 （E34030）	演習	1	30	4	前期	選択必修	保育士選択 幼教免選択	小林みどり
科目担当者	小林みどり							

授業の概要	言葉などの様々な表現を用いながら、子どもはコミュニケーション力を身に付けていく。子どもは、言葉遊びや音遊び、絵本や劇遊びなどを通して、保育者や友達とイメージを共有すること、様々な感情を味わうこと、自分の思いを表すこと、相手に伝えることなど、様々な体験をする。子どもが味わう楽しさや面白さはどこにあるのか、子どもが身に付けることはどのようなことか、実践を通して考え、知識と技術を学ぶ。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	様々な児童文化財にふれて① （ことばあそび、絵本、紙芝居）	【事前】実習で行った保育の振り返り（絵本等） 【事後】授業の振り返り、第 3 回授業で使用する絵本準備
第 2 回	様々な児童文化財にふれて② （わらべうた、手遊び、お話）	【事前】実習で行った保育の振り返り（手遊び等） 【事後】授業の振り返り
第 3 回	「ことば」を育てる遊びと実践① （絵本の読み合い）	【事前】選んだ絵本を読む練習 【事後】絵本の読み合いの振り返りと自己評価
第 4 回	「ことば」を育てる遊びと実践② （絵本、紙芝居：教材研究）	【事前】絵本、紙芝居の選択、準備 【事後】絵本制作と指導案作成
第 5 回	「ことば」を育てる遊びと実践③ （絵本、紙芝居：模擬保育）	【事前】模擬保育の準備とシミュレーション 【事後】模擬保育振り返りと自己評価
第 6 回	「ことば」を育てる遊びと実践④ （ミニ絵本作り）	【事前】絵本制作にストーリー構想と材料準備 【事後】ミニ絵本の完成
第 7 回	「ことば」を育てる遊びと実践⑤ （ストーリーテリング：教材研究）	【事前】ストーリーテリングに必要な資料等の準備 【事後】指導案完成
第 8 回	「ことば」を育てる遊びと実践⑥ （ストーリーテリング：模擬保育）	【事前】ストーリーテリングの練習 【事後】模擬保育振り返りと自己評価
第 9 回	「ことば」を育てる遊びと実践⑦ （詩、手話歌：教材研究）	【事前】詩や手話歌の選択と資料準備 【事後】指導案完成
第 10 回	「ことば」を育てる遊びと実践⑧ （詩、手話歌：模擬保育）	【事前】詩や手話歌の練習 【事後】模擬保育振り返りと自己評価
第 11 回	「ことば」を育てる遊びと実践⑨ （年間計画作成）	【事前】年間計画に必要な資料等の準備 【事後】年間計画の完成
第 12 回	表現遊び（劇遊び）①（構想）	【事前】劇遊びに必要な資料等の準備 【事後】劇遊びのシナリオ作成
第 13 回	表現遊び（劇遊び）②（準備）	【事前】大道具、小道具に必要な材料の準備 【事後】大道具、小道具の感性と劇の練習
第 14 回	表現遊び（劇遊び）③（発表）	【事前】劇の練習や必要な材料、機器の準備 【事後】劇遊びの振り返りと評価

第 15 回	子どものことばや表現をめぐる課題（事例発表）	【事前】レポート作成と発表準備 【事後】レポート完成、提出

学修の到達目標	
到達目標 1	自分の考えやイメージを、言葉や表情、身振り、絵や道具等を用いて、相手にわかるように伝えることができる。
到達目標 2	子どもの言葉や表現のあり方について関心をもち、考えたり調べたりしながら、自分の考えを深めていく。
到達目標 3	保育者として必要となる保育・教育に関する専門領域についての知識や技術を身に付ける。
到達目標 4	自発的に学修することに愉しさや喜びを見出し、新たな学びに結び付けていこうとする。
到達目標 5	自らの思考・感情・行動について客観的に振り返り、次につなげることができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	考えやイメージを、相手の受け止め方に合わせて変化させながら、十分に伝えることができる。
	優	考えやイメージを、話し言葉や表情、身振り、絵や道具等を用いて十分に伝えることができる。
	良	考えやイメージを、話し言葉や表情、身振り、絵や道具等を用いて伝えることができる。
	可	自分の考えやイメージを何らかの方法で伝えることができる。
	不可	自分の考えやイメージを相手に伝えることができない。
到達目標 2	秀	子どもの言葉や表現のあり方について学んだことから自分の視点をもち、考えを深めていく。
	優	子どもの言葉や表現のあり方について関心をもった事柄に関して、積極的に調べようとする。
	良	子どもの言葉や表現のあり方について関心をもつ事柄を明確にし、考えていこうとする。
	可	子どもの言葉や表現のあり方や育ちについて関心をもち、考えていこうとする。
	不可	子どもの言葉や表現のあり方について、考えることができない。
到達目標 3	秀	保育・教育に関する専門知識を基礎として、様々な課題に対応できる専門力が身についている。
	優	保育・教育に関する専門領域についての知識・技術が保育者として十分な力として備わっている。
	良	保育・教育に関する専門領域についての知識・技能が保育者として必要な力を満たしている。
	可	保育・教育に関する専門領域についての知識・技術を身に付けている。
	不可	保育・教育に関する専門領域についての知識・技能を身に付けていない。
到達目標 4	秀	自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと喜びを見出し、達成感やさらなる知的欲求を得て、新たな学習につなげることができる。
	優	自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと喜びを見出し、達成感を得ることができる。
	良	ある程度自発的に学修することができ、そこに自ら愉しさと喜びを見出している。
	可	与えられた課題への取り組みを認められることで、学ぶこと・知ることの愉しさや喜びを感じる。
	不可	学ぶこと・知ることに、愉しさと喜びを感じることがない。
到達目標 5	秀	常に自分の判断を過信することなく、自らの思考・感情・行動について検証し、さらに自らの思考・感情・行動を高めていくことができる。
	優	自発的に、自らの思考・感情・行動について客観的に振り返り次につなげることができる。
	良	ある程度自発的に、自らの思考・感情・行動について客観的に振り返り次につなげることができる。
	可	他者からの助言のもと、自らの思考・感情・行動について客観的に振り返ることができる。
	不可	自らの思考・感情・行動について振り返りができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	20	20	30	30	0	0	100
到達目標１	0	0	10	5	0	0	15
到達目標２	10	0	5	10	0	0	25
到達目標３	10	5	10	10	0	0	35
到達目標４	0	5	0	0	0	0	5
到達目標５	0	10	5	5	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	レポート試験を実施する。
提出物	模擬保育指導案、模擬保育後の振り返りレポート
成果発表（口頭・実技）	模擬保育、発表
作品	手作り絵本、模擬保育に関わる制作物

履修に必要な知識・技能など
1）模擬保育や発表には、十分に準備をして臨んでください。 2）日頃から、新聞やテレビ、インターネットなどで、子どものことばや表現に関する情報に触れてください。

教科書・ISBN
特になし。随時、プリント配付。

参考書
『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
多文化理解教育論（E34040）	講義	2	30	4	前期	選択必修	保育士選択	内橋一恵
科目担当者	内橋一恵							

授業の概要	多文化的な状況が身近になった現在社会において、教育にできることは何か。理論やすでに行われている実践などの紹介を通じ、多文化教育のあり方・可能性を示す。 なお、受講者数や新型コロナウイルス感染拡大の状況により、シラバスは多少の変更を加える可能性があります。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　） （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	公立小学校内での日本語教室参加、大学の多文化共生関連事業の企画と運営

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	ガイダンス：グローバリゼーションと日本の多文化化	【事前】シラバスを熟読しておく、グローバリズムについて調べる（120 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（120 分）
第 2 回	日本の「外国にルーツを持つ子どもたち」をめぐる状況（1）：外国人増加の社会背景	【事前】外国にルーツをもつ子どもたちについて調べる（120 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（120 分）
第 3 回	日本の「外国にルーツを持つ子どもたち」をめぐる状況（2）：外国にルーツを持つ子どもたちの教育環境	【事前】在留資格について調べる（120 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（120 分）
第 4 回	日本の「外国にルーツを持つ子どもたち」をめぐる状況（3）：外国にルーツを持つ子どもたちの進路	【事前】母語の発達について調べる（120 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（120 分）
第 5 回	異文化接触の歴史と考え方（1）：人の移動と多様性に関する課題の変遷	【事前】同化主義について調べる（120 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（120 分）
第 6 回	異文化接触の歴史と考え方（2）：多文化主義と同化主義	【事前】多文化共生について調べる（120 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（120 分）
第 7 回	異文化接触の歴史と考え方（3）：多文化社会実現のための教育と、いくつかのアプローチ	【事前】多文化教育の歴史について調べる（120 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（120 分）
第 8 回	多文化教育と人権	【事前】レイシャルハラスメントについて調べる（120 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（120 分）
第 9 回	神戸市の多文化共生について（1）：神戸市全体の状況と取り組み	【事前】神戸市内在住の外国人の人口について調べる（120 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（120 分）
第 10 回	神戸市の多文化共生について（2）：民間の多文化共生に関する取り組み～長田区における母語教育環境の確保の取り組みを例に（外部講師：神戸コリア教育文化センター）	【事前】長田区の多文化共生に関する計画について調べる（120 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（120 分）
第 11 回	子どもの認知・言語の発達	【事前】子どもの言語発達について調べる（120 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（120 分）
第 12 回	学習言語・生活言語	【事前】学習言語について調べる（120 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（120 分）
第 13 回	日本語の指導と母語を大切にする環境づくり	【事前】母語の意味を調べる（120 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（120 分）

第 14 回	コミュニケーションギャップとやさしい日本語	【事前】やさしい日本語の意味を調べる（120 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（120 分）
第 15 回	まとめ：多文化共生社会と教育の関係	【事前】これまでの流れを確認する（120 分） 【事後】manaba に今回の学びを書く（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	今日の多文化的状況とその渦中にある子どもたちの抱える困難さを理解し、対立や排除ではなく平和的な共生のために教育にできることは何か、考えるための想像力を養う。
到達目標 2	多文化や多様性への深い理解と、実現のための具体的な行動のひとつとしての教育の可能性に気づく。
到達目標 3	自分自身が社会に出た際に、外国にルーツを持つ子どもたちと出会った時、適切な対応ができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	今日の多文化的状況とその渦中にある子どもたちの抱える困難さを深く理解し、対立や排除ではなく平和的な共生のために教育にできることは何かを考えるための想像力が十分にある。
	優	今日の多文化的状況とその渦中にある子どもたちの抱える困難さを理解し、対立や排除ではなく平和的な共生のために教育にできることは何かを考えるための想像力が十分にある。
	良	今日の多文化的状況とその渦中にある子どもたちの抱える困難さを理解し、対立や排除ではなく平和的な共生のために教育にできることは何かを考えるための想像力がある。
	可	今日の多文化的状況とその渦中にある子どもたちの抱える困難さをある程度理解し、対立や排除ではなく平和的な共生のために教育にできることは何かを考えるための想像力がある程度ある。
	不可	今日の多文化的状況とその渦中にある子どもたちの抱える困難さを理解できておらず、対立や排除ではなく平和的な共生のために教育にできることは何かを考えるための想像力もない。
到達目標 2	秀	多文化や多様性への深い理解が十分にあり、実現のための具体的な行動のひとつとしての教育の可能性に非常に意識的である。
	優	多文化や多様性への理解が十分にあり、実現のための具体的な行動のひとつとしての教育の可能性に意識的である。
	良	多文化や多様性への理解があり、実現のための具体的な行動のひとつとしての教育の可能性を意識することができる。
	可	多文化や多様性への理解がある程度あり、実現のための具体的な行動のひとつとしての教育の可能性を意識することがある程度できる。
	不可	多文化や多様性への理解がなく、実現のための具体的な行動のひとつとしての教育の可能性を意識することもできない。
到達目標 3	秀	自分自身が社会に出た際に、外国にルーツを持つ子どもたちと出会った時、適切な対応ができるだけの知識と思考力を十分に有する。
	優	自分自身が社会に出た際に、外国にルーツを持つ子どもたちと出会った時、適切な対応ができるだけの知識と思考力を有する。
	良	自分自身が社会に出た際に、外国にルーツを持つ子どもたちと出会った時、適切な対応ができるだけの知識を有する。
	可	自分自身が社会に出た際に、外国にルーツを持つ子どもたちと出会った時、適切な対応ができるだけの知識をある程度有する。
	不可	自分自身が社会に出た際に、外国にルーツを持つ子どもたちと出会った時、適切な対応ができるだけの知識を有することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	40	0	0	0	0	100
到達目標 1	20	20	0	0	0	0	40
到達目標 2	20	10	0	0	0	0	30
到達目標 3	20	10	0	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	15 回目の授業の後にレポート試験を課す。授業で学んだ知識をもとに、自らの意見がどのくらい論理的に提示できるかが試される。
提出物	授業内容の理解を深めるため、毎回 manaba にその日の学びや質問等の記入を課す。

履修に必要な知識・技能など
授業で学んだ基本知識をもとに、多文化教育や多文化共生社会を自分の身近に迫った問題としてとらえられるように、日常生活においても情報収集を行うこと。

教科書・ISBN
使用しません

参考書
随時紹介します

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
子どものリスクとレジリエンス（E34080）	講義	2	30	4	前期	選択必修	保育士選択必修	松野敬子
科目担当者	松野敬子							

授業の概要	「安全」という概念について、そもそもどういう状態を指し、その「安全」を合理的に取り扱うために導入されたリスクマネジメントという理論を理解することからスタートする。そして、子育て、生活、保育及び教育現場で起こりうる多様な子どものリスクについて具体的に学び、それらは偶発的に起きる不幸な出来事ではなく予防可能な傷害であるという認識を持ち、その予防策や安全確保の留意点について理解する。また、傷害予防における大人の役割と、子どものレジリエンス（跳ね返す力）を引き出すための支援のあり方についても理解する。
アクティブ・ラーニングの要素	（　）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（　）グループワーク　（　）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（レ）その他（ワークショップ体験(対面事業の場合)）
教員の実務経験	研究者としては、子どもの事故防止を中心としたリスクマネジメントを行っているが、日々は保育園と保育園と子育て支援拠点を運営している。 保育の現場では、安全への要求が強く求められる時代となっている。しかし、子どもの成長に資するためにはリスクを敢えてとり、チャレンジさせてあげることも必要であるため、子どもの成長と事故防止のバランスを日々の保育現場で実践している。 また、転落防止や誤嚥事故防止などの実証実験などにも、リスクマネジメント研究者の立場と保育現場にいる立場から参加している。

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	安全の定義　安全・危険（アクシデント、リスク、ハザードなど）を説明できますか？	【事前】シラバスの熟読（120 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（120 分）
第 2 回	子どもの傷害予防の基礎　と　傷害リスク 1「誤飲・誤嚥」メカニズムを知り、具体的な予防策をとるために	【事前】Injury Alert で誤飲・誤嚥事故の発生状況を確認（120 分） 次を必ず見ておくこと。日本小児科学会「Injury Alert（傷害速報）https://www.jpeds.or.jp/modules/injuryalert/ 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（120 分）
第 3 回	傷害リスク 1「誤飲・誤嚥」ーこどもの成長とリスクの関係	【事前】前回の授業で学んだ誤嚥事故を踏まえて、子どもの食べるための必要なスキルの獲得とは何かを事前に考えてくる（120 分） 次を必ず見ておくこと。日本小児科学会「Injury Alert（傷害速報）https://www.jpeds.or.jp/modules/injuryalert/ 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（120 分）
第 4 回	傷害リスク 2 「溺水（川や海などの屋外)」メカニズムを知り、具体的な予防策をとるために	【事前】InjuryAlert で川などの溺水事故の発生状況を確認（120 分） 次を必ず見ておくこと。日本小児科学会「Injury Alert（傷害速報）https://www.jpeds.or.jp/modules/injuryalert/ 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（120 分）
第 5 回	傷害リスク 2 「溺水 （プールでの事故)」メカニズムを知り、具体的な予防策をとるために	【事前】InjuryAlert でプールなどで溺水の発生状況を確認（120 分） 次を必ず見ておくこと。日本小児科学会「Injury Alert（傷害速報）https://www.jpeds.or.jp/modules/injuryalert/ 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（120 分）

第 6 回	傷害リスク２「溺水　乳幼児期（施設と家庭内)」メカニズムを知り、具体的な予防策をとるために	【事前】InjuryAlert で乳幼児ので溺水事故の発生状況を確認（120 分） 次を必ず見ておくこと。日本小児科学会「Injury Alert（傷害速報）https://www.jpeds.or.jp/modules/injuryalert/ 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（120 分）
第 7 回	傷害リスク３「高所からの転落を中心に転落事故」メカニズムを知り、具体的な予防策をとるために	【事前】InjuryAlert で転落事故の発生状況を確認（120 分） 次を必ず見ておくこと。日本小児科学会「Injury Alert（傷害速報）https://www.jpeds.or.jp/modules/injuryalert/ 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（120 分）
第 8 回	傷害リスク４　小学生以上にリスクの高い事故「スポーツによる事故」メカニズムを知り、具体的な予防策をとるために	【事前】InjuryAlert でスポーツでの事故の発生状況を確認（120 分） 次を必ず見ておくこと。日本小児科学会「Injury Alert（傷害速報）https://www.jpeds.or.jp/modules/injuryalert/ 【事後】中間ミニレポート（120 分）
第 9 回	傷害リスク５　小学生以上にリスクの高い事故「交通事故」メカニズムを知り、具体的な予防策をとるために	【事前】Injury Alert などで交通事故の発生状況を確認（120 分） 次を必ず見ておくこと。日本小児科学会「Injury Alert（傷害速報）https://www.jpeds.or.jp/modules/injuryalert/ 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（120 分）
第 10 回	傷害リスク６「遊び場の事故防止」 メカニズムを知り、具体的な予防策をとるために	【事前】InjuryAlert で遊び場での事故の発生状況を確認（120 分） 次を必ず見ておくこと。日本小児科学会「Injury Alert（傷害速報）https://www.jpeds.or.jp/modules/injuryalert/ 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（120 分）
第 11 回	傷害リスク６「遊び場の事故防止」―リスクとレジリエンスの視点から	【事前】前回の授業を踏まえて、子どものリスクと成長のバランスについて考えておく（120 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（120 分）
第 12 回	傷害リスク７「子どもの虐待」―防止を目指した国の制度と現状	【事前】子どもの虐待事件など、過去の事例を学んでおく（120 分） 次を必ず見ておくこと。児童虐待防止関連サイト http://www.orangeribbon.jp/ 等 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（120 分）
第 13 回	子どものリスク７　虐待を例に　レジリエンスとエンパワメントについて　自尊感情と自己肯定感を育む	【事前】前回の授業を踏まえ、虐待からの回復・再発防止に必要なことは何かを考えておく（120 分） 次を必ず見ておくこと。児童虐待防止関連サイト http://www.orangeribbon.jp/ 等 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（120 分）
第 14 回	子どものリスク８「防災と火災」レジリエンスという視点から　自助にシフトしている防災と火災への対処	【事前】日米の防災教育の違いを調べておく（120 分） 次を必ず見ておくこと。（一社）risk watch https://www.risk-watch.net/ 等 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（120 分）
第 15 回	子ども・そして、自分自身のリスク「DV（Domestic Violence ）と性犯罪」ー自分事としてのリスクマネジメントを考えるために	【事前】DV と子どもの虐待、自分事としての DV についての事前に調べておく（120 分） 【事後】ポートフォリオに本日の学びを記述（120 分）

学修の到達目標	
到達目標１	安全、リスクなどの言葉の定義を理解し、リスクをマネジメントすることの意味を説明することができる。
到達目標２	具体的な子どもの傷害リスクを理解し、その予防対策を理解する。
到達目標３	特に、子どもに関わる仕事に就く学生は、それぞれの職域で子どもの傷害予防を主導できるだけの自信を獲得する。
到達目標４	自分自身のリスクについても、適切に管理できるような想像力と実践力を身につける

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	根本的な定義を十分に理解しており、リスクマネジメントの手法を用いて、様々なリスクへの対処を的確に発案できている。さらに、高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	根本的な定義を十分に理解しており、リスクマネジメントの手法を用いて、様々なリスクへの対処を的確に発案できている。なおかつ、プロフェッショナリズムも持とうという、学習意欲がある。
	良	根本的な定義を理解しており、リスクマネジメントの手法を用いて、様々なリスクへの対処を発案しようと努力する意思を持っている。
	可	根本的な定義を理解しており、リスクマネジメントの手法を用いて、様々なリスクへ対処をすることの重要性を理解している。
	不可	根本的な定義を理解できておらず、リスクマネジメントを行う基礎ができていない
到達目標２	秀	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。また、常に新しい情報を得るためのスキルも獲得している。さらに、根拠の限界もわかっていて、よって自らの思考内容のみでは決して十分ではないことを認識している。
	優	客観的な根拠に基づき十分論理的に考えることができる。また、常に新しい情報を得るためのスキルを獲得している。
	良	客観的な根拠に基づき論理的に考えることができる。常に新しい情報にアクセスする習慣が身についている。
	可	多少根拠は薄くてもある程度論理的に考えることができる。新しい情報の獲得する手法を理解し、情報を求める努力をしている。
	不可	根拠に基づき論理的に考えることができない。情報に対して積極的に求めようとしていない。
到達目標３	秀	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等を高いレベルでバランス良く駆使して、短時間で正確な状況判断ができる。また自信を基に、子どもたちに傷害予防を指導し、実践させることができる。
	優	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等をバランス良く駆使して、自力で十分適切に状況判断ができる。さらに、子どもたちへの自信をもって傷害予防を指導ができる。
	良	すでに持っている知識、その場から得られる情報、それらを統合する力、直観、決断力等のうちのいくつかを機能させつつ、自力で適切に状況判断ができる。さらに、子どもたちへの自信をもって傷害予防を指導しようとしている。
	可	他者の助言・指導をもとに、その場に即した状況判断が一定レベルにおいて可能であり、子どもたちへの自信をもって傷害予防を指導しようとしている。
	不可	適切な状況判断ができるだけの自信を持てていない。
到達目標４	秀	自らのリスクについても、的確に理解し、それをよりよくマネジメントできる知識と決断力をもっている。
	優	自らのリスクについても理解し、それをよりよくマネジメントできる知識と決断力を持とうとしている。
	良	自らのリスクについても理解し、それをよりよくマネジメントしようと、様々な努力をすることができる。
	可	自らのリスクについても理解し、それをよりよくマネジメントしたいという意志はある。
	不可	自らのリスクに対して危機感がなく、それをよりよくマネジメントしようという意識が低い。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	20	0	0	20	0	100
到達目標 1	20	5	0	0	5	0	30
到達目標 2	20	5	0	0	5	0	30
到達目標 3	10	5	0	0	5	0	20
到達目標 4	10	5	0	0	5	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	学期末にレポート試験を実施する
提出物	中間レポートポートフォリオ各回の感想と考察を提出し、内容の理解度や論理的思考力などで理解しているかを評価する。
ポートフォリオ	各回の感想と考察を提出し、内容の理解度や論理的思考力などで理解しているかを評価する。

履修に必要な知識・技能など
子どもに関わる職域で、子どもの事故防止への関心は高まっているが、現場の職員にもその知識は周知されていない。最新の科学的なデータや理解しやすい動画などを用いた本講義は、それぞれの職域で子どもの傷害予防を主導できるものになると思っている。しっかり学び、活かしていく心持で講義に臨んでください。

教科書・ISBN
使用しません。 以下の参考サイトを事前学習として見ておくこと ・＜第 2 回～第 10 回に事前学習に必要＞ 日本小児科学会「Injury Alert（傷害速報）https://www.jpeds.or.jp/modules/injuryalert/ ・その他 日本技術士会・子どもの安全研究グループ https://kodomonoanzen.jp/ ・＜第 12 回、13 回の事前学習の参考サイト＞ 児童虐待防止関連サイト http://www.orangeribbon.jp/ 等 ・＜第 14 回事前学習の参考サイト＞ （一社）risk watch https://www.risk-watch.net/ 等

参考書
『子どもの遊び場のリスクマネジメント』松野敬子著 ミネルヴァ書房 『セーフティプロモーション　安全・安心を創る科学と実践』日本セーフティプロモーション学会編 晃洋書房

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
リトミックⅡ（E34120）	演習	1	30	4	前期	選択必修	—	古木登紀子
科目担当者	古木登紀子							

授業の概要	エミール・ジャック＝ダルクローズが創設した、音楽基礎教育の具体的な実践教育である『リトミック』の技術的習得と指導方法を行う。リトミックⅠで学習した技術を基盤とし、リズム・ピアノ演奏法・4歳児と5歳児の指導法を習得する。また自身のリズムや感性のレベルアップを図る。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	リトミックの3要素（音の3要素）	【事前】シラバスを読んでおく（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第 2 回	4歳児 1 学期の指導法・ピアノ奏法・実践① 主に即時反応、動きの基礎練習、おと	【事前】教科書を確認しておく（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第 3 回	4歳児 1 学期の指導法・ピアノ奏法・実践②主に即時反応、拍子、ニュアンス、基礎リズム	【事前】教科書を確認しておく（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第 4 回	4歳児 2 学期の指導法・ピアノ奏法・実践① 主に即時反応、動きの基礎練習、おと	【事前】教科書を確認しておく（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第 5 回	4歳児 2 学期の指導法・ピアノ奏法・実践②主に即時反応、拍と数、拍子、ニュアンス、基礎リズム	【事前】教科書を確認しておく（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第 6 回	4歳児 3 学期の指導法・ピアノ奏法・実践① 主に即時反応、おと、拍と数、拍子発表について	【事前】教科書を確認しておく（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第 7 回	4歳児 3 学期の指導法・ピアノ奏法・実践② 主に即時反応、ニュアンス、基礎リズム、ダンス発表の内容確認	【事前】教科書を確認しておく（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第 8 回	5歳児 1 学期の指導法・ピアノ奏法・実践① 主に即時反応、動きの基礎練習、おと、数と拍発表の内容練習	【事前】教科書を確認しておく（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第 9 回	学生同士での指導案発表実習	【事前】発表の準備（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第 10 回	園児とリトミック実習　学生が実際にリトミックを指導（日程の都合で変更の可能性有り）	【事前】指導案内容を確認（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第 11 回	5歳児 1 学期の指導法・ピアノ奏法・実践②主に即時反応、拍子、ニュアンス、基礎リズム、ダンス	【事前】教科書を確認しておく（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第 12 回	5歳児 2 学期の指導法・ピアノ奏法・実践①主に即時反応、動きの基礎練習、おと、拍と数、拍子	【事前】教科書を確認しておく（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第 13 回	5歳児 2 学期の指導法・ピアノ奏法・実践② 主に即時反応、動きの基礎練習、ダンスリズムパターン、リズムカノン	【事前】発表の準備（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第 14 回	5歳児 3 学期の指導法・ピアノ奏法・実践① 主に即時反応、基礎リズム、ダンスリズムパターン、リズムカノン	【事前】教科書を確認しておく（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）
第 15 回	5歳児 3 学期の指導法・ピアノ奏法・実践② 主に即時反応、基礎リズム、ダンス、リズムカノンまとめ、ピアノ課題発表	【事前】教科書を読んでおく、ピアノ課題の確認（30分） 【事後】実践できたらしてみましょう（30分）

学修の到達目標	
到達目標１	自発的に学習することができ、そこに愉しさと喜びを見出だし、達成感を得ることができる。
到達目標２	自分が何を学んだかという事実を述べることができ、その学びが意味することを自らが直面する課題に引き付けて考えることができる。
到達目標３	課題について考え抜き、授業で学んだ指導法、演奏法、知識などを工夫・活用して自らの思いや考えを表現することができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	自発的に学習することができ、そこに愉しさと喜びを見出だし、達成感を得ることができる。そしてその経験を踏まえて、さらなる知的欲求が芽生え、新たな主体的学習へとつなげられる。
	優	自発的に学習することができ、そこに愉しさと喜びを見出だすことができる。
	良	ある程度自発的に学習することができ、そこに愉しさと喜びを見出だすことができる。
	可	他者から促されば、学ぶこと知ることができ、他者から指摘されて愉しさと喜びを見出だすことができる。
	不可	学ぶこと、知ることに愉しさと喜びを見出だすことができない。
到達目標２	秀	自分が何を学んだかという事実を述べることができ、その学びが意味することを自らが直面する課題に引き付けて考えるだけでなく、大局的観点からも考えることができる。
	優	自分が何を学んだかという事実を述べることができ、その学びが意味することを自らが直面する課題に引き付けて考えることができる。
	良	自分が何を学んだかという事実を述べることができ、その学びが意味することを自ら考えることができる。
	可	自分が何を学んだかという事実を述べることができる。
	不可	自分が何を学んだかという事実を述べることできない。
到達目標３	秀	課題について考え抜き、授業で学んだ指導法、演奏法、知識などを工夫・活用して自らの思いや考えを表現することができており、他者からも評価されており、それが秀逸である。
	優	課題について考え抜き、授業で学んだ指導法、演奏法、知識などを工夫・活用して自らの思いや考えを表現することができており、他者からも評価されている。
	良	課題について考え抜き、授業で学んだ指導法、演奏法、知識などを工夫・活用して自らの思いや考えを表現することができている。
	可	課題について考え抜き、授業で学んだ指導法、演奏法、知識などを工夫・活用して自らの思いや考えを表現しようと努力している。
	不可	課題について考え抜き、授業で学んだ指導法、演奏法、知識などを工夫・活用して自らの思いや考えを表現しようと努力の姿勢が見られない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	60	10	20	0	10	0	100
到達目標１	10	5	0	0	5	0	20
到達目標２	10	5	10	0	5	0	30
到達目標３	40	0	10	0	0	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	全て実技試験です。リズムとピアノ課題
提出物	授業後にその日にしたプリントなどを提出課題が出たときは後日提出のこともあります
成果発表（口頭・実技）	学生同士の指導案発表など
ポートフォリオ	各自が授業で取り組むワークシートや楽譜をそれぞれの学びの成果としてポートフォリオに蓄積していく。4 歳児、5 歳児のリトミックで実践できるように書類を正しくファイリングをしていく。

履修に必要な知識・技能など
1）体を動かす授業です。座学、演習、ピアノ演奏などがあります。動きやすい服装できてください。 ・裸足または底の薄いバレエシューズや室内履きを用意して出席をしてください。資料を入れるための B5 サイズのファイルを準備しておいてください。 2）音楽を感じながら行う体験型の賑やかな授業です。自分のひらめき、お友だちのひらめきを発見していただきたいです。

教科書・ISBN
『幼稚園・保育園のためのリトミック 3 歳児』リトミック研究センター

参考書
カラーボード、スティック、練習用 CD プリント、楽譜は適宜配布します。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育・教育メソッド（E34130）	演習	1	30	4	後期	選択必修	保育士選択必修	中田尚美
科目担当者	中田尚美、小林純子、村上郁子							

授業の概要	今日、世界では多様なメソッドが継承され、保育の実践に生かされている。その中でも日本の保育界に時代を経て受け入れられている代表的な保育メソッドを学び、それぞれのメソッドと保育・教育領域との具体的な関わりについて整理し、保育・教育課題を見出すことを通して、各自の保育・教育観の確立を目指す。
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （ ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　） （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション　（担当者：中田）	【事前】シラバスを見て、次回の授業の予習をしておく（10 分） 【事後】学修内容の確認（50 分）
第 2 回	「日本のフレーベル」倉橋惣三の保育理念　（担当者：中田）	【事前】倉橋の思想について調べる（30 分） 【事後】倉橋惣三の保育理念についてまとめる（30 分）
第 3 回	シュタイナー幼児教育①理念　（担当者：中田）	【事前】配布されたプリントに目を通し、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】シュタイナー幼児教育の理念についてまとめる（30 分）
第 4 回	シュタイナー幼児教育②具体的な展開と実践　（担当者：中田）	【事前】配布されたプリントに目を通し、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】シュタイナー幼児教育の具体的な展開と実践についてまとめる（30 分）
第 5 回	モンテッソーリ・メソッド①理念　（担当者：中田）	【事前】配布されたプリントに目を通し、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】モンテッソーリ・メソッドの理念についてまとめる（30 分）
第 6 回	モンテッソーリ・メソッド②展開　（担当者：中田）	【事前】配布されたプリントに目を通し、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】モンテッソーリ・メソッドの展開についてまとめる（30 分）
第 7 回	モンテッソーリ・メソッド③実践　（担当者：中田）	【事前】配布されたプリントに目を通し、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】モンテッソーリ・メソッドの実践 についてまとめる（30 分）
第 8 回	モンテッソーリ・メソッド④実践　（担当者：中田）	【事前】配布されたプリントに目を通し、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】学修内容の確認（30 分）
第 9 回	モンテッソーリ・メソッド⑤課題　（担当者：中田）	【事前】配布されたプリントに目を通し、次回の授業の予習をしておく（120 分） 【事後】モンテッソーリ・メソッドの課題 についてまとめる（120 分）

第 10 回	新教育運動とモンテッソーリ・メソッド　（担当者：中田）	【事前】配布されたプリントに目を通し、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】ダルクローズの教育理念と方法についてまとめる（30 分）
第 11 回	20 世紀の音楽教育 1. オルフ音感教育①理念 （担当者：村上）	【事前】配布されたプリントに目を通し、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】学修内容の確認（30 分）
第 12 回	20 世紀の音楽教育 1. オルフ音感教育②具体的な展開と実践 （担当者：村上）	【事前】配布されたプリントに目を通し、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】学修内容の確認（30 分）
第 13 回	20 世紀の音楽教育 2. コダーイ芸術教育とわらべうた①理念 （担当者：小林）	【事前】配布されたプリントに目を通し、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】学修内容の確認（30 分）
第 14 回	20 世紀の音楽教育 2. コダーイ芸術教育とわらべうた②具体的な展開と実践　（担当者：小林）	【事前】配布されたプリントに目を通し、次回の授業の予習をしておく（30 分） 【事後】学修内容の確認（30 分）
第 15 回	保育・教育メソッドの探究　（担当者：中田）	【事前】全授業内容の振り返り（30 分） 【事後】全授業内容の理解（30 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	代表的な保育メソッドについての基本的な理念およびそれらのメソッドの具体的な展開と実践の在り方について理解している。
到達目標 2	現代社会における保育・教育課題に興味・関心を持ち、自分なりの見解をもつことができるようになる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	代表的な保育メソッドについての基本的な理念・展開・実践の在り方について知識を十分なレベルで身につけている。かつ、幅広い教養に基づく高いプロフェッショナリズムも持ち合わせている。
	優	代表的な保育メソッドについての基本的な理念・展開・実践の在り方について知識を十分なレベルで身につけている。
	良	代表的な保育メソッドについての基本的な理念・展開・実践の在り方について知識を身につけている。
	可	代表的な保育メソッドについての基本的な理念・展開・実践の在り方についての知識・技術をある程度身につけている。
	不可	代表的な保育メソッドについての基本的な理念・展開・実践の在り方についての知識を身につけていない。
到達目標 2	秀	授業で学んだ基本的知識に基づき、現代社会における保育・教育課題について十分論理的に考えることができ、さらに新たな視点を示すことができる。
	優	授業で学んだ基本的知識に基づき、現代社会における保育・教育課題について十分論理的に考えることができる。
	良	授業で学んだ基本的知識に基づき、現代社会における保育・教育課題について論理的に考えることができる。
	可	授業で学んだ基本的知識に基づき、現代社会における保育・教育課題についてある程度論理的に考えることができる。
	不可	授業で学んだ基本的知識に基づき、現代社会における保育・教育課題について論理的に考えることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	70	30	0	0	0	0	100
到達目標 1	50	20	0	0	0	0	70
到達目標 2	20	10	0	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	授業終了後、レポート試験を実施
提出物	授業時に意見、質問票の提出を求める。

履修に必要な知識・技能など
保育実践園への見学を実施することもあり、そのため、時間割変更や交通費が発生することもある。見学の際は、実習に準じる態度で臨むこと。

教科書・ISBN
資料を配布する。

参考書
適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
ピアノ実践奏法（E34140）	講義	1	30	4	前期	選択必修	保育士選択必修	瀬川和子
科目担当者	瀬川和子、戸川晃子							

授業の概要	・各調性の復習と理解 ・各自の進度に応じた楽曲による表現力の追求 ・童謡・唱歌の弾き歌い
アクティブ・ラーニングの要素	（ ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（ ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （ ）ディスカッション、ディベート　（ ）グループワーク　（ ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（ ）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （ ）反転授業　（ ）その他（　　）
教員の実務経験	―

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	ハ長調・ト長調の楽曲　童謡（アイアイ）・唱歌（低学年）の弾き歌い　（担当者：瀬川、戸川）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】楽曲の練習、歌唱練習（30 分）
第 2 回	ト長調・ニ長調の楽曲　童謡(おんまはみんな)・唱歌(中学年)の弾き歌い　（担当者：瀬川、戸川）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】楽曲の練習、歌唱練習（30 分）
第 3 回	ニ長調・イ長調の楽曲　各自の進度に応じた課題：マーチ・駆け足・ワルツ　（担当者：瀬川、戸川）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】リズムと速度の理解（30 分）
第 4 回	イ長調・ホ長調の楽曲　童謡（とんでったバナナ）・唱歌（中学年）の弾き歌い　（担当者：瀬川、戸川）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】楽曲の練習、歌唱練習（30 分）
第 5 回	ホ長調・イ短調の楽曲　童謡（コンコンクシャンのうた）・唱歌（高学年）の弾き歌い　（担当者：瀬川、戸川）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】楽曲の練習、歌唱練習（30 分）
第 6 回	イ短調・ヘ長調の楽曲　各自の進度に応じた課題：スキップ・ギャロップ・ワルツ　（担当者：瀬川、戸川）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】リズムと速度の理解（30 分）
第 7 回	ヘ長調・半音階の楽曲　童謡(クラリネットこわしちゃった)・唱歌（高学年）の弾き歌い　（担当者：瀬川、戸川）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】楽曲の練習、歌唱練習（30 分）
第 8 回	ヘ長調・半音階の楽曲　童謡（ふしぎなポケット）・唱歌（高学年）の弾き歌い　（担当者：瀬川、戸川）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】楽曲の練習、歌唱練習（30 分）
第 9 回	各自の進度に応じた課題：スキップ・ギャロップ・ワルツ　（担当者：瀬川、戸川）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】リズムと速度の理解（30 分）
第 10 回	各自の進度に応じた課題　童謡（世界じゅうのこどもたちが）・唱歌（高学年）の弾き歌い　（担当者：瀬川、戸川）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】楽曲の練習、歌唱練習（30 分）
第 11 回	各自の進度に応じた課題　童謡（いちねんせいになったら）・唱歌（高学年）の弾き歌い　（担当者：瀬川、戸川）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】楽曲の練習、歌唱練習（30 分）
第 12 回	各自の進度に応じた課題：スキップ・ギャロップ・ワルツ　（担当者：瀬川、戸川）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】リズムと速度の理解（30 分）
第 13 回	各自の進度に応じた課題　童謡（たのしいね）・唱歌（中高学年）の弾き歌い　（担当者：瀬川、戸川）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】楽曲の練習、歌唱練習（30 分）
第 14 回	各自の進度に応じた課題　童謡（あわてんぼうのサンタクロース）・唱歌（中高学年）の弾き歌い　（担当者：瀬川、戸川）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】楽曲の練習、歌唱練習（30 分）
第 15 回	補足とまとめ：各自の進度に応じた課題のまとめ、童謡・唱歌の弾き歌いのまとめ　（担当者：瀬川、戸川）	【事前】各自の課題曲の予習（30 分） 【事後】楽曲の練習と理解（30 分）

学修の到達目標	
到達目標１	童謡・唱歌およびピアノ楽曲それぞれにふさわしい演奏表現を考え、多様な対象に合わせる技能を一層高める。
到達目標２	保育士・教員に求められるこどもの気持ちや動きにあわせて表現するピアノ演奏技術と音楽表現力を習得する。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	童謡　唱歌・楽曲について楽譜通り演奏するだけでなく、多様な対象の教育的効果を理解した上で豊かな表現ができる。
	優	童謡、唱歌・楽曲について楽典・楽語を理解し、対象に合わせた正確な読譜による演奏表現ができる。
	良	童謡、唱歌・楽曲について楽典・楽語を理解し、対象に合わせ他演奏ができる。
	可	童謡、唱歌・楽曲の理解ができており、対象に合わせる気持ちがある。
	不可	童謡、唱歌・楽曲の理解ができず、対象に合わせる態度が見られない。
到達目標２	秀	童謡　唱歌・楽曲について自発的に選曲して取り組み、レパートリーを増やし、感じ取った各曲の良さをこどもにも伝えようとする姿勢がみられる。そこに達成感を得ることができ、新たな学修へとつなげられる。
	優	童謡　唱歌・楽曲について自発的に選曲して取り組み、感じ取った各曲の良さをこどもにも伝えようとする姿勢がみられる。そこに達成感を得ることができる。
	良	童謡　唱歌・楽曲についてある程度選曲でき、各曲の良さ等を指導されることで理解しながらレパートリーを増やそうとする姿勢が見られる。
	可	童謡　唱歌・楽曲について指定された曲をまとめることができる。
	不可	童謡　唱歌・楽曲について指定された曲をまとめることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	30	0	50	0	20	0	100
到達目標１	15	0	25	0	10	0	50
到達目標２	15	0	25	0	10	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	実技試験を行う。授業を通して学んだ音楽理論・楽典、あるいは表現方法を活用して演奏発表することが求められる。成果発表演奏実技。演奏発表の機会に相互評価する。ポートフォリオ毎回の授業について振り返り、到達度の記録と「今回の授業で学んだこと」、「習得したことと課題」などについて記述する。
成果発表（口頭・実技）	演奏実技。演奏発表の機会に相互評価する。
ポートフォリオ	毎回の授業について振り返り、到達度の記録と「今回の授業で学んだこと」、「習得したことと課題」などについて記述する。

履修に必要な知識・技能など
これまで音楽関連授業で習得してきた多様な楽曲・童謡を繰り返し練習し、新たな童謡・楽曲に取り組み、レパートリーを増やす努力を続けること。保育・教育職に就くために必要な力を習得つけるという目的意識を持ち、主体的授業に臨むこと。

教科書・ISBN
9784111010103　『標準バイエル教則本』全音出版社 9784805481004　『こどものうた 200』小林美実編 チャイルド本社 9784276820692　『やさしい弾き歌い 75』植田光子編著 音楽之友社 9784276821026　『最新　初等科音楽教育法　[改訂版] 小学校教員養成課程用』

参考書
他随時紹介する

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教育と情報（E34150）	講義	2	30	4	前期	選択必修	—	大森雅人
科目担当者	大森雅人							

授業の概要	本授業は、より高い教育効果を得ることができるように、教育方法を開発することができる能力の育成を目指して行う。そのための方法として、教育工学の分野において蓄積されてきた知見を活用し、中でも特に ICT の活用を中心に学習する。 具体的な内容として、まず教育方法改善を考える上で基礎となる理論を学び、次に ICT を活用した授業実践の実際として、タブレットなどを活用した学習の体験や PowerPoint を用いた教材作成等を学ぶ。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	ガイダンス、ICT を活用した教育方法	【事前】シラバスを見て授業の概要を把握するとともに教育における ICT 活用の実態を調べておく。(120 分) 【事後】配付資料等も活用してこの回で学んだことを振り返り、成果を manaba で提出する。(120 分)
第 2 回	教育方法とは	【事前】自身の乳幼児教育から高等学校までの学びの軌跡を振り返っておく。(120 分) 【事後】配付資料等も活用してこの回で学んだことを振り返り、成果を manaba で提出する。(120 分)
第 3 回	日本の教育方法の検討	【事前】自分でも日本の教育システムを調べておく。(120 分) 【事後】配付資料等も活用してこの回で学んだことを振り返り、成果を manaba で提出する。(120 分)
第 4 回	教育方法開発の基礎となる考え方①－認知科学の知見－	【事前】認知科学とは何かを調べておく。(120 分) 【事後】配付資料等も活用してこの回で学んだことを振り返り、成果を manaba で提出する。(120 分)
第 5 回	教育方法開発の基礎となる考え方②－発達のとらえ方－	【事前】ピアジェの発達段階説を調べておく。(120 分) 【事後】配付資料等も活用してこの回で学んだことを振り返り、成果を manaba で提出する。(120 分)
第 6 回	教育方法開発の基礎となる考え方③－足場づくりの方法－	【事前】配付資料を予習しておく。(120 分) 【事後】配付資料等も活用してこの回で学んだことを振り返り、成果を manaba で提出する。(120 分)

第 7 回	ICT を活用した学習環境① －概論を理解する－	【事前】ICT の教育への活用について調べておく。（120 分） 【事後】配付資料等も活用してこの回で学んだことを振り返り、成果を manaba で提出する。（120 分）
第 8 回	ICT を活用した学習環境② －実際に体験する－	【事前】前回学んだ内容を整理して今回の授業に備えておく。（120 分） 【事後】この回で ICT 機器を体験した内容を振り返り、成果を manaba で提出する。（120 分）
第 9 回	ICT を活用した学習環境③ －実践してみる－	【事前】前回学んだ内容を整理しておく。（120 分） 【事後】この回で ICT 機器で実践した内容を振り返り、成果を manaba で提出する。（120 分）
第 10 回	PowerPoint を活用した教材開発① －教材の内容を構想する－	【事前】これまでの学びを振り返っておく。（120 分） 【事後】構想した内容をさらに考える。（120 分）
第 11 回	PowerPoint を活用した教材開発②－試作して確かめる－	【事前】PC 操作の方法等を予習しておく。（120 分） 【事後】試作した教材を良く吟味して、次回以降に備える。（120 分）
第 12 回	PowerPoint を活用した教材開発③－実際に作成する－	【事前】作成する教材の内容を確認しておく。（120 分） 【事後】授業時間外でも作成を進める。（120 分）
第 13 回	PowerPoint を活用した教材開発④－仕上げと発表練習を行う－	【事前】作成の進捗状況を把握し、必要に応じて準備を進めておく。（120 分） 【事後】発表の準備を十分にしておく。（120 分）
第 14 回	PowerPoint を活用した教材開発⑤－発表して成果を共有する－	【事前】発表の準備を十分にしておく。（120 分） 【事後】他の学習者の発表も踏まえて自己の発表を振り返る。（120 分）
第 15 回	開発した教材の振り返り（自己評価、相互評価）	【事前】これまでの授業の内容を概観しておく。（120 分） 【事後】これまでの配付資料等も参考にして、全授業の内容を振り返る。（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	教育方法の開発に必要となる基礎理論を修得していること。
到達目標 2	保育・教育分野における ICT の活用方法を理解していること。
到達目標 3	自身の保育・教育実践において ICT を活用して教育効果を向上させることができるようになること。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	教育方法の開発に必要となる基礎理論を、極めて高いレベルで理解している。
	優	教育方法の開発に必要となる基礎理論を、高いレベルで理解している。
	良	教育方法の開発に必要となる基礎理論を、一定程度のレベルで理解している。
	可	教育方法の開発に必要となる基礎理論を、最低限のレベルで理解している。
	不可	教育方法の開発に必要となる基礎理論が、十分に理解できていない。

到達目標２	秀	教育実践において ICT を効果的に活用できるために必要となる知識を極めて高いレベルで身に付けている。
	優	教育実践において ICT を効果的に活用できるために必要となる知識を高いレベルで身に付けている。
	良	教育実践において ICT を効果的に活用できるために必要となる知識を一定程度のレベルで身に付けている。
	可	教育実践において ICT を効果的に活用できるために必要となる知識を最低限のレベルで身に付けている。
	不可	教育実践において ICT を効果的に活用できるために必要となる知識の修得レベルが不十分である。
到達目標３	秀	ICT を効果的に活用できるために必要となる技能を極めて高いレベルで身に付けており、ICT を用いて教育効果を向上させることができる。
	優	ICT を効果的に活用できるために必要となる技能を高いレベルで身に付けており、ICT を用いて教育効果を向上させることができる。
	良	ICT を効果的に活用できるために必要となる技能を一定程度のレベルで身に付けており、ICT を用いて教育効果を向上させることができる。
	可	ICT を効果的に活用できるために必要となる技能を最低限のレベルで身に付けており、ICT を用いて教育効果を向上させることができる。
	不可	ICT を効果的に活用できるために必要となる技能が不十分であり、ICT を用いて教育効果を向上させることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	20	30	0	0	0	100
到達目標１	25	10	0	0	0	0	35
到達目標２	25	10	10	0	0	0	45
到達目標３	0	0	20	0	0	0	20

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	15 回の授業後に、レポート試験を課す。レポートの記述にあたっては、授業の内容を十分に理解した上で、課題に取り組むことが求められる。
提出物	ほぼ毎回、授業に振り返りの小レポートを manaba を通じて提出する。その際は、受講者がお互いのレポートを閲覧してコメントする「相互閲覧」も行う場合がある。
成果発表（口頭・実技）	得られた知識や技能を活用して、PowerPoint を用いた教材作成を行う。そして作成した教材を用いて発表する機会を設ける。発表は模擬授業や模擬保育の形式で行う。

履修に必要な知識・技能など
欠席の場合、授業資料等は manaba にアップしておくので、各自で対応すること。

教科書・ISBN
使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書
適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教科指導法特論Ⅱ（E34180）	講義	2	30	4	前期	選択必修	—	牛頭哲宏
科目担当者	牛頭哲宏、山下敦子、脇本聡美、京極重智、髙松邦彦							

授業の概要	本授業のねらいは、講義や模擬授業等を通して、小学校教員として身につけておくべき教科指導力を養成することにある。したがって、小学校教員を目指す者は目的意識を高く持ち授業に臨むことを期待する。 なお、本授業は教職支援センターと連携し、小学校教員を目指す者の総合的な資質・能力の向上を図る。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	イントロダクション教員に求められる資質・能力の自己分析（担当者：牛頭）	【事前】シラバスと教員の資質・能力について文部科学省の答申を熟読する。(120 分) 【事後】授業内容の復習と関連する問題演習への取り組み。(120 分)
第 2 回	教科内容（社会）の理解（担当者：京極）	【事前】自主的な問題演習への取り組み）(120 分) 【事後】授業内容の復習と関連する問題演習への取り組み（120 分）
第 3 回	教科内容（社会）の理解と実践（担当者：京極）	【事前】授業づくり（120 分） 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 4 回	教科内容（算数）の理解①－低学年・中学年（担当者：髙松）	【事前】自主的な問題演習への取り組み（120 分） 【事後】授業内容の復習と関連する問題演習への取り組み（120 分）
第 5 回	教科内容（算数）の理解②－高学年（担当者：髙松）	【事前】自主的な問題演習への取り組み（120 分） 【事後】授業内容の復習と関連する問題演習への取り組み（120 分）
第 6 回	教科内容（算数）の理解と実践（担当者：髙松）	【事前】授業づくり（120 分） 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 7 回	教科内容（国語）の理解①－低学年・中学年（担当者：山下）	【事前】自主的な問題演習への取り組み（120 分） 【事後】授業内容の復習と関連する問題演習への取り組み（120 分）
第 8 回	教科内容（国語）の理解②－高学年（担当者：山下）	【事前】自主的な問題演習への取り組み（120 分） 【事後】授業内容の復習と関連する問題演習への取り組み（120 分）
第 9 回	教科内容（国語）の理解と実践（担当者：山下）	【事前】授業づくり（120 分） 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 10 回	教科内容（理科）の理解（担当者：京極）	【事前】自主的な問題演習への取り組み（120 分） 【事後】授業内容の復習と関連する問題演習への取り組み（120 分）
第 11 回	教科内容（理科）の理解と実践（担当者：京極）	【事前】授業づくり（120 分） 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）

第 12 回	教科内容（外国語科）の理解　（担当者：脇本）	【事前】自主的な問題演習への取り組み（120 分） 【事後】授業内容の復習と関連する問題演習への取り組み（120 分）
第 13 回	教科内容（外国語科）の理解と実践　（担当者：脇本）	【事前】授業づくり（120 分） 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 14 回	教科内容の定着と評価　（担当者：牛頭）	【事前】自主的な問題演習への取り組み（120 分） 【事後】ポートフォリオの作成・提出（120 分）
第 15 回	まとめ－教科指導力に関する自己分析　（担当者：牛頭）	【事前】全授業内容の振り返り（120 分） 【事後】自主的な問題演習への取り組み（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	本授業の目標は、小学校教員に必要な指導力を身につけることにある。具体的には以下の通りである。 国語科・算数科・理科・社会科・外国語科の内容について十分に理解し、他者に説明することができる。
到達目標 2	国語科・算数科・理科・社会科・外国語科それぞれの基本的な授業方法を理解している。
到達目標 3	国語科・算数科・理科・社会科・外国語科それぞれの授業方法を工夫することができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	国語科、算数科、理科、社会科、外国語科の内容について十分に理解し、他者に分かりやすく説明することができる。
	優	国語科、算数科、理科、社会科、外国語科の内容について理解し、他者に分かりやすく説明することができる。
	良	国語科、算数科、理科、社会科、外国語科の内容について最低限理解し、他者に分かりやすく説明することができる。
	可	国語科、算数科、理科、社会科、外国語科の内容について最低限理解し、他者に説明することができる。
	不可	国語科、算数科、理科、社会科、外国語科の内容について理解しておらず、他者に説明することができない。
到達目標 2	秀	国語科、算数科、理科、社会科、外国語科それぞれの授業方法を十分に理解し、状況に応じた授業展開ができる。
	優	国語科、算数科、理科、社会科、外国語科それぞれの授業方法を十分に理解し、授業展開ができる。
	良	国語科、算数科、理科、社会科、外国語科それぞれの基本的な授業方法を理解し、授業展開ができる。
	可	国語科、算数科、理科、社会科、外国語科それぞれの基本的な授業方法を理解し、最低限の授業展開ができる。
	不可	国語科、算数科、理科、社会科、外国語科それぞれの基本的な授業方法を理解していない。
到達目標 3	秀	国語科、算数科、理科、社会科、外国語科それぞれの授業方法を臨機応変に工夫することができる。
	優	国語科、算数科、理科、社会科、外国語科それぞれの授業方法を自分なりに工夫することができる。
	良	国語科、算数科、理科、社会科、外国語科それぞれの授業方法を工夫することができる。
	可	国語科、算数科、理科、社会科、外国語科それぞれの授業方法を最低限工夫することができる。
	不可	国語科、算数科、理科、社会科、外国語科それぞれの授業方法を工夫することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	0	30	0	20	0	100
到達目標 1	50	0	0	0	0	0	50
到達目標 2	0	0	15	0	10	0	25
到達目標 3	0	0	15	0	10	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	各教科に関する知的・理解を筆記試験により評価する。成果発表模擬授業ならびに指導案を評価する。 ポートフォリオ該当の授業後、授業内容を振り返ったリフレクションシートを manaba で提出すること
成果発表 （口頭・実技）	模擬授業ならびに指導案を評価する。
ポートフォリオ	該当の授業後、授業内容を振り返ったリフレクションシートを manaba で提出すること

履修に必要な知識・技能など
正当な理由がない限り、本授業の欠席は小学校教員になる意志がないものとみなします。欠席の際は、事前に必ず授業担当の教員へ連絡すること。

教科書・ISBN
プリントを配布する。

参考書
適宜紹介する。

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教科指導法特論Ⅲ（E34190）	講義	2	30	4	後期	選択必修	—	牛頭哲宏
科目担当者	牛頭哲宏、山下敦子、脇本聡美、京極重智、髙松邦彦							

授業の概要	本授業のねらいは、実践的な講義や模擬授業等を通して、小学校教員としての教科指導力を高めることにある。小学校教員を目指す者は来年度から教壇に立つことを意識して授業に臨むことを期待する。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	イントロダクション - 教員に求められる資質・能力の自己分析（担当者：牛頭）	【事前】シラバスと教員の資質・能力に関する文部科学省の答申を熟読する。(120 分) 【事後】授業内容の復習と関連する演習への取り組み(120 分)
第 2 回	教科指導法（国語科）の理解と実践① －素材研究（担当者：牛頭・山下）	【事前】自主的な教材研究（120 分） 【事後】授業内容の復習と実践プランの構築(120 分)
第 3 回	教科指導法（国語科）の理解と実践② －授業の構成（担当者：牛頭・山下）	【事前】自主的な教材研究（120 分） 【事後】授業内容の復習と実践プランの構築(120 分)
第 4 回	教科指導法（国語科）の理解と実践③ －授業の効果的な導入と展開（担当者：牛頭・山下）	【事前】自主的な教材研究（120 分） 【事後】授業内容の復習と実践プランの構築(120 分)
第 5 回	教科指導法（国語科）の理解と実践④ －子どもを引きつける授業（担当者：牛頭・山下）	【事前】授業づくり（120 分） 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 6 回	教科指導法（算数科）の理解と実践① －素材研究（担当者：髙松）	【事前】自主的な教材研究（120 分） 【事後】授業内容の復習と実践プランの構築(120 分)
第 7 回	教科指導法（算数科）の理解と実践② －子どもを引きつける授業（担当者：髙松）	【事前】自主的な教材研究（120 分） 【事後】授業内容の復習と実践プランの構築(120 分)
第 8 回	教科指導法（算数科）の理解と実践③ －主体的・対話的で深い学び（担当者：髙松）	【事前】授業づくり（120 分） 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 9 回	教科指導法（外国語科）の理解と実践① －素材研究（担当者：脇本）	【事前】自主的な教材研究（120 分） 【事後】授業内容の復習と実践プランの構築(120 分)
第 10 回	教科指導法（外国語科）の理解と実践② －子どもを引きつける授業（担当者：脇本）	【事前】自主的な教材研究（120 分） 【事後】授業内容の復習と実践プランの構築(120 分)
第 11 回	教科指導法（外国語科）の理解と実践③ －主体的・対話的で深い学び（担当者：脇本）	【事前】授業づくり（120 分） 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）
第 12 回	教科指導法（社会科）の理解と実践① －素材研究（担当者：京極）	【事前】自主的な教材研究（120 分） 【事後】授業内容の復習と実践プランの構築(120 分)
第 13 回	教科指導法（社会科）の理解と実践② －子どもを引きつける授業（担当者：京極）	【事前】自主的な教材研究（120 分） 【事後】授業内容の復習と実践プランの構築(120 分)
第 14 回	教科指導法（社会科）の理解と実践③ －主体的・対話的で深い学び（担当者：京極）	【事前】授業づくり（120 分） 【事後】リフレクションシートの作成・提出（120 分）

第 15 回	まとめ－ポートフォリオ評価学修活動の理論と実践 （担当者：牛頭）	【事前】全授業内容の振り返り（120 分） 【事後】ポートフォリオの作成と提出（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	本授業の目標は、小学校教員に必要な指導力を身につけることにある。具体的には以下の通りである。 国語科・算数科・社会科・外国語科の内容について十分に理解している。
到達目標 2	国語科・算数科・社会科・外国語科の授業方法について工夫をすることができる。
到達目標 3	国語科・算数科・社会科・外国語科の評価活動について理解し実践することができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	国語科・算数科・社会科・外国語科のカリキュラムについて十分に理解し、他者に分かりやすく説明することができる。
	優	国語科・算数科・社会科・外国語科のカリキュラムについて理解し、他者に分かりやすく説明することができる。
	良	国語科・算数科・社会科・外国語科のカリキュラムについて最低限理解し、他者に分かりやすく説明することができる。
	可	国語科・算数科・社会科・外国語科のカリキュラムについて最低限理解し、他者に説明することができる。
	不可	国語科・算数科・社会科・外国語科のカリキュラムについて理解しておらず、他者に説明することができない。
到達目標 2	秀	国語科・算数科・社会科・外国語科の授業方法を十分に理解し、状況に応じた授業展開ができる。
	優	国語科・算数科・社会科・外国語科の授業方法を十分に理解し、授業展開ができる。
	良	国語科・算数科・社会科・外国語科の基本的な授業方法を理解し、授業展開ができる。
	可	国語科・算数科・社会科・外国語科の基本的な授業方法を理解し、最低限の授業展開ができる。
	不可	国語科・算数科・社会科・外国語科の基本的な授業方法を理解していない。
到達目標 3	秀	国語科・算数科・社会科・外国語科の授業方法を臨機応変に工夫することができる。
	優	国語科・算数科・社会科・外国語科の授業方法を自分なりに工夫することができる。
	良	国語科・算数科・社会科・外国語科の授業方法を工夫することができる。
	可	国語科・算数科・社会科・外国語科の授業方法を最低限工夫することができる。
	不可	国語科・算数科・社会科・外国語科の授業方法を工夫することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表 （口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	50	0	40	0	10	0	100
到達目標 1	50	0	0	0	0	0	50
到達目標 2	0	0	20	0	5	0	25
到達目標 3	0	0	20	0	5	0	25

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
定期試験	各教科のカリキュラムに関する知的・理解を筆記試験により評価する。成果発表模擬授業ならびに指導案を評価する。ポートフォリオ全ての授業修了後、授業内容を振り返ったポートフォリオを作成し提出すること。
成果発表 （口頭・実技）	模擬授業ならびに指導案を評価する。
ポートフォリオ	全ての授業修了後、授業内容を振り返ったポートフォリオを作成し提出すること。

履修に必要な知識・技能など
正当な理由がない限り、本授業の欠席は小学校教員になる意志がないものとみなします。欠席の際は、事前に必ず授業担当の教員へ連絡すること。

教科書・ISBN
プリントを配布する。

参考書
適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
保育実践演習（E34230）	演習	2	30	4	後期	選択	保育士必修	松尾寛子
科目担当者	松尾寛子、中西利恵、近藤みづき、大城亜美							

授業の概要	保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術を身につけ、幅広く深い教養と総合的な判断力を持ち、専門職としての倫理観を修得・形成されたかを振り返る。 保育に対する現代的課題についての現状を分析し、その課題に対して保育士・保育現場・地域や社会から求められるものは何かということを多様な視点で考察し自己の課題を把握する。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （　）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（　）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習(外部協定　有　・　無　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション 保育士の職務内容と知識・技術の展開①行事における保育の展開（担当者：松尾）	【事前】行事に関連する保育の企画を行う（120 分） 【事後】課題のふりかえり（120 分）
第 2 回	保育の職員間の連携と対人関係能力を培う①（運動会プログラム作成）（担当者：近藤）	【事前】運動会プログラムにはどのようなものがあるのかを探る（120 分） 【事後】課題のふりかえり（120 分）
第 3 回	保育や子育て家庭に対する支援の展開①（子どもや家庭を理解する）（担当者：大城）	【事前】一日パパママ体験を経験するにあたり必要な準備を行う（120 分） 【事後】課題のふりかえり（120 分）
第 4 回	保育の職員間の連携と対人関係能力を培う②運動会の内容の検討①（担当者：近藤）	【事前】作成した運動会プログラムの事前準備を行う（120 分） 【事後】課題のふりかえり（120 分）
第 5 回	保育の職員間の連携と対人関係能力を培う③運動会の内容の検討②（担当者：近藤）	【事前】運動会プログラムをグループで検討する（120 分） 【事後】課題のふりかえり（120 分）
第 6 回	保育の職員間の連携と対人関係能力を培う④運動会発表（担当者：近藤）	【事前】運動会プログラムについて予行演習を行う（120 分） 【事後】課題のふりかえり（120 分）
第 7 回	保育や子育て家庭に対する支援の展開②（保育士の意義や役割・職務内容を理解する）（担当者：大城）	【事前】一日パパママ体験で必要な関わりを考える（120 分） 【事後】課題のふりかえり（120 分）
第 8 回	保育や子育て家庭に対する支援の展開③（子どもに対する責任・関係機関との連携について理解する）（担当者：大城）	【事前】一日パパママ体験で必要な関わりを考える（120 分） 【事後】課題のふりかえり（120 分）
第 9 回	保育や子育て家庭に対する支援の展開④（保育に関わる今日の社会的状況や課題を分析する）（担当者：大城）	【事前】一日パパママ体験を通してわかった課題を振り返る（120 分） 【事後】課題のふりかえり（120 分）
第 10 回	保育士の職務内容と知識・技術の展開（行事の企画・運営を具体的に行う）（担当者：松尾）	【事前】行事に関連する保育をシュミレーションする（120 分） 【事後】課題のふりかえり（120 分）

第 11 回	保育士の職務内容と知識・技術の展開②（行事の企画・運営についてグループで検討する）（担当者：松尾）	【事前】行事の企画をし、運営方法について検討する（120 分） 【事後】課題のふりかえり（120 分）
第 12 回	子どもを理解するための方法としてのドキュメンテーション（担当者：中西）	【事前】準備学習用課題への取り組み（120 分） 【事後】課題のふりかえり（120 分）
第 13 回	保育ドキュメンテーションの作成・活用①（作成・活用を支援するツール）（担当者：中西）	【事前】準備学習用課題への取り組み（120 分） 【事後】課題のふりかえり（120 分）
第 14 回	保育ドキュメンテーションの作成・活用②（写真と文字を活用したドキュメンテーション作成）（担当者：中西）	【事前】準備学習用課題への取り組み（120 分） 【事後】課題のふりかえり（120 分）
第 15 回	作成したドキュメンテーションと子ども理解（担当者：中西）	【事前】準備学習用課題への取り組み（120 分） 【事後】ふり返りシートの作成（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	保育者としての視点を持って、保育現場から求められる知識や技術を得ようとする。
到達目標 2	様々な場面でリーダーシップを発揮し、保育者として求められる課題に対して取り組むことができる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	保育者としての視点を持ち、保育現場からも必要とされる知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	優	保育者としての視点には欠けるところはあるが、保育現場からも必要とされる知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	良	学生としての視点ではあるが、保育現場からも必要とされる知識や技術を得ようとする姿勢がある。
	可	学生としての視点ではあるが、最低限の知識や技術を身につけようとしている。
	不可	最低限の知識や技術を身につけようとしていない。
到達目標 2	秀	既に持っている知識や技術をバランスよく駆使し、リーダーシップを発揮しながら正確に判断をし行動をすることができる。
	優	既に持っている知識や技術を駆使し、リーダーとともに判断をし行動をすることができる。
	良	既に持っている知識や技術を駆使し、誰かの指示のもと判断をし行動をすることができる。
	可	誰かの指示のもと行動をすることができる。
	不可	指示されても行動することができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	50	50	0	0	0	100
到達目標 1	0	50	0	0	0	0	50
到達目標 2	0	0	50	0	0	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
提出物	保育現場から求められる成果物を期限内に作成できるかを評価する。
成果発表（口頭・実技）	保育者として求められる取り組みの姿勢と成果物を評価する

履修に必要な知識・技能など

教科書・ISBN
使用しない

参考書
必要に応じて指示する

※授業内容･評価方法･評価割合などについては､履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
教職実践演習（幼稚園・小学校）（E34240）	演習	2	30	4	後期	選択	幼教免必修 小教免必修	中西利恵
科目担当者	中西利恵、大森雅人、多田琴子、牛頭哲宏、山下敦子、京極重智、柳原利佳子							

授業の概要	教職課程を締めくくる最終段階として位置づく実践的授業科目である。 教員として求められる「教職員としての使命感と責任感」の自己覚知を行い、「対人関係力」を伸長し、「実践的指導力」の向上を目指すものである。さらには、教職に携わる者として「教育諸科学における知見」を深め、「教育の専門家としての確かな力量」と「総合的な人間力」を伸長し続ける自覚をもつ。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（レ）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （　）実習、フィールドワーク　（レ）課題解決型学習(外部協定　有　・　(無)　) （　）反転授業　（　）その他（　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第 1 回	オリエンテーション ～履修カルテ・実習を伝えるグループワークとグループ分けについて～　（担当者：中西・柳原）	【事前】シラバスの確認（120 分） 【事後】自らの課題解決のための具体的行動を開始（120 分）
第 2 回	教職の構造①教職の基礎　（担当者：京極）	【事前】授業の予習（120 分） 【事後】学習の振り返り（120 分）
第 3 回	教職の構造②授業実践・学級経営　（担当者：山下）	【事前】授業の予習（120 分） 【事後】学習の振り返り（120 分）
第 4 回	「実習」を伝える①幼小別体験のまとめ　以降⑦まで同一グループワーク　（担当者：中西）	【事前】プレゼンテーション用資料収集（120 分） 【事後】学習の振り返り（120 分）
第 5 回	「実習」を伝える②幼小別伝達資料作成（プレゼンテーション等）　（担当者：中西）	【事前】グループ内情報共有（120 分） 【事後】プレゼンテーション用資料作成（120 分）
第 6 回	「実習」を伝える③グループごとの発表 （担当者：中西・多田・大森・牛頭・山下・柳原・京極）	【事前】グループ内シミュレーション（120 分） 【事後】学習の振り返り（120 分）
第 7 回	「実習」を伝える④グループごとの発表発グループの選出　（担当者：中西）	【事前】授業の予習（120 分） 【事後】学習の振り返り（120 分）
第 8 回	「実習」を伝える⑤シンポジウム及びプレゼンテーション（二年生と合同授業） （担当者：中西・多田・大森・牛頭・山下・柳原・京極）	【事前】プレゼンテーション用資料再構成（120 分） 【事後】学習の振り返り（120 分）
第 9 回	「実習」を伝える⑥各グループブースで伝達（二年生と合同授業） （担当者：中西・多田・大森・牛頭・山下・柳原・京極）	【事前】授業の予習（120 分） 【事後】学習の振り返り（120 分）
第 10 回	「実習」を伝える⑦振り返りと学びの共有　（担当者：中西）	【事前】学びのまとめ（120 分） 【事後】学習の振り返り、レポート作成（120 分）
第 11 回	教育概念の拡大・共有①　（担当：学外講師・中西） ～多様な性（LGBT 等）について知り、社会の中でのマイノリティへの理解を深化～	【事前】LGBT について情報収集（120 分） 【事後】学びの確認（120 分）
第 12 回	教育概念の拡大・共有②　（担当：学外講師・中西） ～多様な性（LGBT 等）について知り、社会の中でのマイノリティへの理解を深化～	【事前】学びの確認（120 分） 【事後】コメントカードの作成（120 分）
第 13 回	職場での人間関係　話し合いとまとめ　（担当者：牛頭）	【事前】教職の今日的課題について情報収集（120 分） 【事後】学習の振り返り（120 分）

第 14 回	職場での人間関係　学びの共有　（担当者：牛頭）	【事前】教育を取り巻く状況の把握（120 分） 【事後】学習の振り返り（120 分）
第 15 回	振り返り（自己評価と学びの共有）・履修カルテ （担当者：中西・柳原）	【事前】履修状況、課題解決への進行状況振り返り（120 分） 【事後】学習の振り返り、レポート作成（120 分）

学修の到達目標	
到達目標 1	4 年間積み上げてきた履修カルテで教職課程の履修と修得状況を振り返り、自己の課題を自覚化している。
到達目標 2	教育の構造とその裏付けとなる法律や教育行政を把握している。
到達目標 3	教育対象者や協働者との対人関係力を形成している。
到達目標 4	保育・教育内容の焦点化と指導力を修得している。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	4 年間積み上げてきた履修カルテで教職課程の履修と修得状況を振り返り、自己の課十分十分自覚化している。
	優	4 年間積み上げてきた履修カルテで教職課程の履修と修得状況を振り返り、自己の課題をほぼ自覚化している。
	良	4 年間積み上げてきた履修カルテで教職課程の履修と修得状況を振り返り、自己の課題をある程度自覚化している。
	可	4 年間積み上げてきた履修カルテで教職課程の履修と修得状況を振り返り、自己の課題を最低限自覚化している。
	不可	4 年間積み上げてきた履修カルテで教職課程の履修と修得状況を振り返り、自己の課題を自覚化していない。
到達目標 2	秀	教育の構造とその裏付けとなる法律や教育行政を十分把握している。
	優	教育の構造とその裏付けとなる法律や教育行政をほぼ把握している。
	良	教育の構造とその裏付けとなる法律や教育行政をある程度把握している。
	可	教育の構造とその裏付けとなる法律や教育行政を最低限把握している。
	不可	教育の構造とその裏付けとなる法律や教育行政を把握していない。
到達目標 3	秀	教育対象者や協働者との対人関係力を十分形成している。
	優	教育対象者や協働者との対人関係力をほぼ形成している。
	良	教育対象者や協働者との対人関係力をある程度形成している。
	可	教育対象者や協働者との対人関係力を最低限形成している。
	不可	教育対象者や協働者との対人関係力を形成していない。
到達目標 4	秀	保育・教育内容の焦点化と指導力を十分修得している。
	優	保育・教育内容の焦点化と指導力をほぼ修得している。
	良	保育・教育内容の焦点化と指導力をある程度修得している。
	可	保育・教育内容の焦点化と指導力を最低限修得している。
	不可	保育・教育内容の焦点化と指導力を修得していない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	40	40	0	0	20	100
到達目標 1	0	10	10	0	0	0	20
到達目標 2	0	10	0	0	0	10	20
到達目標 3	0	10	10	0	0	10	30
到達目標 4	0	10	20	0	0	0	30

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
提出物	授業後の振り返りレポートを評価する。グループワークにおける協調性・協働性の自己評価を加味する。自己の学びの自覚と問題解決に向けての自己課題を捉える履修カルテの内容を評価する。
成果発表（口頭・実技）	授業における役割取得や、グループワーク・ディスカッション・ディベート等の態度を評価する。自己評価・相互評価を加味する。
その他	授業での専門力の発揮や、グループでの協調性や協働性を評価する。

履修に必要な知識・技能など
1）履修カルテで設定した課題の解決にむけ、計画的に取り組むこと。 2）「実習」を伝える講義内容の①～⑦の授業においては、効果的な情報提供のための工夫や準備を協働で進める。

教科書・ISBN
使用しない。

参考書
必要に応じ、資料を配付する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
卒業研究Ⅲ（E34270）	演習	1	30	4	前期	必修	—	大森雅人
科目担当者	大森雅人、光成研一郎、多田琴子、牛頭哲宏、橋本好市、中田尚美、山下敦子、中西利恵、瀬川和子、藤本由佳利、松尾寛子、脇本聡美、近藤みづき、笹井隆邦、大城亜水、京極重智、柳原利佳子、戸川晃子							

授業の概要	卒業研究１～Ⅳは、研究的態度をもって二年間自身が関心をもつテーマに取り組み、主体的に自身の専門性と資質を高め、またさまざまな課題に対応する力を育成することをねらいとする。原則として、Ⅰ～Ⅳを通じて同じ指導教員の指導を受けることとする。 その中で、卒業研究Ⅲでは、指導教員の専門性に基づいて、ゼミ形式での学びを重ねながら、Ⅰ～Ⅱで設定した研究課題とその研究方法により、Ⅳで提出する論文や作品の作成及びその成果の発表に向けて研究を進める。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（　）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（レ）課題解決型学習（外部協定　有　・　(無)　） （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第１回	・大森：保育・教育の方法を探究する ・多田：「実践の知と学問の知」の探究 ～子どもの前に立つにふさわしい保育者を目指す～ ・瀬川：子どもと音楽　～童謡・唱歌を通して～ ・藤本：造形表現の研究 ・中田：「保育メソッド」の研究 ・牛頭：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（1） ・橋本：社会福祉をさらに深く学びたい君へ！ ～社会福祉専門職としての知識・資質向上にむけて～ ・光成：保育・教育方法について考える ・中西：絵本の魅力　～絵本の可能性・活用法など～ ・笹井：自然環境調査 ・山下：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（2） ・松尾：子育て支援・障がいのある子どもの保育について ・脇本：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（3） ・柳原：人間発達の理解と探究 ・近藤：運動指導・援助について考える ・戸川：音楽教育方法についての研究	【事前】・各指導教員と相談し、各自必要な事前学習をゼミの前に行うこと。 ・参考文献などの資料について、ゼミ発表前に図書館やインターネット等で積極的に収集すること。 （600 分） 【事後】・ゼミ中で指摘された事項や各自が必要と感じた事項について、必要な事後学習をゼミの後に行うこと。 ・参考文献などの資料について、ゼミ後に図書館やインターネット等で積極的に収集すること。 （300 分）

学修の到達目標	
到達目標１	資料や他者の意見を参考にしながら、自身が定めた研究課題と研究方法で研究を進めるようになる。
到達目標２	卒業研究の目的を深く理解して、主体的に研究に取り組むようになる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標 1	秀	資料や他者の意見を極めて慎重に参考にしながら、自身が定めた研究課題と研究方法で極めて高い水準の研究を進めるようになる。
	優	資料や他者の意見を慎重に参考にしながら、自身が定めた研究課題と研究方法で高い水準の研究を進めるようになる。
	良	資料や他者の意見を参考にしながら、自身が定めた研究課題と研究方法で研究を進めるようになる。
	可	資料や他者の意見を最低限の程度で参考にしながら、自身が定めた研究課題と研究方法で何とか研究を進めるようになる。
	不可	研究を進めることができない。
到達目標 2	秀	卒業研究の目的を深く理解して、極めて主体的に研究に取り組めるようになる。
	優	卒業研究の目的を理解して、主体的に研究に取り組めるようになる。
	良	卒業研究の目的をある程度理解して、一定程度の主体的をもって研究に取り組めるようになる。
	可	卒業研究の目的を最低限のレベルで理解して、研究に取り組めるようになる。
	不可	研究に取り組むことができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	60	0	0	0	40	100
到達目標 1	0	40	0	0	0	20	60
到達目標 2	0	20	0	0	0	20	40

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
提出物	設定した研究テーマや定めた研究方法、提出資料等を総合的に評価する。
その他	研究への取り組み姿勢や、ゼミにおける発表や議論等への寄与状況などを総合的に評価する。

履修に必要な知識・技能など
1）学ぶ悦び、知る愉しさを実践できるよう自ら考え取り組む主体的な態度を求める。 2）指導教員が学外に研究の場を整えるときには、学生にふさわしい態度で赴くこと。 3）学生による卒業研究に関する倫理審査は本学「研究倫理委員会規程」に従い、学科内審査および当該委員会の判断・結果によるものとする。

教科書・ISBN
各ゼミにおいて適宜紹介する。

参考書
各ゼミにおいて適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

授業科目名（コード番号）	授業形態	単位数	総時間数	学年	開講時期	卒業要件	資格取得要件	科目責任者名
卒業研究Ⅳ（E34280）	演習	1	30	4	後期	必修	—	大森雅人
科目担当者	大森雅人、光成研一郎、多田琴子、牛頭哲宏、橋本好市、中田尚美、山下敦子、中西利恵、瀬川和子、藤本由佳利、松尾寛子、脇本聡美、近藤みづき、笹井隆邦、大城亜水、京極重智、柳原利佳子、戸川晃子							

授業の概要	卒業研究１～Ⅳは、研究的態度をもって二年間自身が関心をもつテーマに取り組み、主体的に自身の専門性と資質を高め、またさまざまな課題に対応する力を育成することをねらいとする。原則として、Ⅰ～Ⅳを通じて同じ指導教員の指導を受けることとする。 その中で、卒業研究Ⅳでは、指導教員の専門性に基づいて、ゼミ形式での学びを重ねながら、これまでの卒業研究の取り組みの集大成として、論文や作品にまとめ、各々の専門性に応じた形での発表を行う。
アクティブ・ラーニングの要素	（レ）ICT（manaba）活用の双方向型授業　（　）ICT（manaba）活用の自主学習支援 （レ）ディスカッション、ディベート　（レ）グループワーク　（レ）プレゼンテーション （レ）実習、フィールドワーク　（　）課題解決型学習（外部協定　有　・　無　） （　）反転授業　（　）その他（　　）
教員の実務経験	—

授業回	授業内容	授業時間外の学修
第１回	・大森：保育・教育の方法を探究する ・多田：「実践の知と学問の知」の探究 ～子どもの前に立つにふさわしい保育者を目指す～ ・瀬川：子どもと音楽　～童謡・唱歌を通して～ ・藤本：造形表現の研究 ・中田：「保育メソッド」の研究 ・牛頭：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（1） ・橋本：社会福祉をさらに深く学びたい君へ！ ～社会福祉専門職としての知識・資質向上にむけて～ ・光成：保育・教育方法について考える ・中西：絵本の魅力　～絵本の可能性・活用法など～ ・笹井：自然環境調査 ・山下：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（2） ・松尾：子育て支援・障がいのある子どもの保育について ・脇本：小学校教員として教壇に立ちたい君へ！（3） ・柳原：人間発達の理解と探究 ・近藤：運動指導・援助について考える ・戸川：音楽教育方法についての研究	【事前】・各指導教員と相談し、各自必要な事前学習をゼミの前に行うこと。 ・参考文献などの資料について、ゼミ発表前に図書館やインターネット等で積極的に収集すること。 （600分） 【事後】・ゼミ中で指摘された事項や各自が必要と感じた事項について、必要な事後学習をゼミの後に行うこと。 ・参考文献などの資料について、ゼミ後に図書館やインターネット等で積極的に収集すること。 （300分）

学修の到達目標	
到達目標１	資料や他者の意見を参考にしながら、自身が定めた研究課題と研究方法で研究を進めるようになる。
到達目標２	卒業研究の目的を深く理解して、主体的に研究に取り組むようになる。
到達目標３	自身の研究成果を論文や作品にまとめるとともに、その成果を他者に伝わるように発表できるようになる。

ルーブリック		
	評価基準	
到達目標１	秀	資料や他者の意見を極めて慎重に参考にしながら、自身が定めた研究課題と研究方法で研究を極めて高いレベルで進めるようになる。
	優	資料や他者の意見を慎重に参考にしながら、自身が定めた研究課題と研究方法で研究を高いレベルで進めるようになる。
	良	資料や他者の意見を参考にしながら、自身が定めた研究課題と研究方法で研究を進めるようになる。
	可	資料や他者の意見を最低限の範囲で参考にしながら、自身が定めた研究課題と研究方法で研究を何とか進めるようになる。
	不可	研究を進めることができない。
到達目標２	秀	卒業研究の目的を深く理解して、極めて主体的に研究に取り組むようになる。
	優	卒業研究の目的を理解して、主体的に研究に取り組むようになる。
	良	卒業研究の目的をある程度理解して、一定程度の主体的をもって研究に取り組むようになる。
	可	卒業研究の目的を最低限のレベルで理解して、研究に取り組むようになる。
	不可	研究に取り組むことができない。
到達目標３	秀	自身の研究成果を論文や作品に極めて高い水準でまとめるともに、その成果を他者に伝わるように極めて効果的に発表できるようになる。
	優	自身の研究成果を論文や作品に高い水準でまとめるともに、その成果を他者に伝わるように効果的に発表できるようになる。
	良	自身の研究成果を論文や作品に一定の水準でまとめるともに、その成果を他者に伝わるように発表できるようになる。
	可	自身の研究成果を論文や作品に最低限の水準でまとめるともに、その成果を他者に発表できるようになる。
	不可	自身の研究成果を論文や作品にまとめることができない。

評価方法と評価項目の関係							
評価方法	定期試験	提出物	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計
評価割合	0	70	30	0	0	0	100
到達目標１	0	20	10	0	0	0	30
到達目標２	0	10	10	0	0	0	20
到達目標３	0	40	10	0	0	0	50

※評価項目で示す評価割合は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。

評価方法	評価の実施方法と注意点
提出物	研究への取り組み姿勢を反映するものであるゼミにて提出した各種資料、最終的に提出される卒業論文及び卒業論文発表会の内容等を総合的に評価する。
成果発表（口頭・実技）	卒業研究発表会における発表の内容、質問に対する回答の内容などを総合的に評価する。

履修に必要な知識・技能など
1）学ぶ悦び、知る愉しさを実践できるよう自ら考え取り組む主体的な態度を求める。 2）指導教員が学外に研究の場を整えるときには、学生にふさわしい態度で赴くこと。 3）学生による卒業研究に関する倫理審査は本学「研究倫理委員会規程」に従い、学科内審査および当該委員会の判断・結果によるものとする。

教科書・ISBN
各ゼミにおいて適宜紹介する。

参考書
各ゼミにおいて適宜紹介する。

※授業内容・評価方法・評価割合などについては、履修者人数や学修進度等の要因により変更することがあります。

MEMO